

仙台市文化財調査報告書第281集

洞ノ口遺跡

—第1次・2次・4次・5次・7次・10次発掘調査報告書—

第2分冊 本文編(2)

2005年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第281集

どう の くち
洞ノ口遺跡

—第1次・2次・4次・5次・7次・10次発掘調査報告書—

第2分冊 本文編(2)

2005年3月

仙台市教育委員会

目 次

第1編 第1次発掘調査

第5章	II区の調査	1
第1節	IVa層の遺構(1) — IVa3・4期	1
第2節	IVa層の遺構(2) — IVa1・2期	85
第3節	IVb層の遺構(1) — IVb2期	118
第4節	IVb層の遺構(2) — IVb1期	140
第5節	Va層の遺構	151
第6節	Vb層・Vc層の遺構	166
第7節	VII層水田跡	176
第8節	II区全体の出土遺物と基本層からの出土遺物	178

第2編 第2次発掘調査

第1章	はじめに	213
第1節	調査方法	213
第2節	基本層序	214
第2章	1・2区の調査	215
第1節	IV層の遺構(1) — IVa3・4期	215
第2節	IV層の遺構(2) — IVa1・2期	249
第3節	IV層の遺構(3) — IVb2期	258
第4節	IV層の遺構(4) — IVb1期	262
第5節	Vb層・Vc層の遺構と遺物	270
第6節	全体の出土遺物と基本層からの出土遺物	271

第3編 第4次発掘調査

第1章	はじめに	283
第1節	調査方法	283
第2節	基本層序	283
第2章	1区の調査	289
第3章	2～4区の調査	292
第1節	IVa層上面の遺構	292
第2節	4a層水田跡	312
第3節	5a層水田跡	313
第4節	6a層・Va層上面の遺構	315
第5節	Vb層上面の遺構	329
第6節	VI層上面の遺構	332
第7節	VII層上面の遺構と下層の調査	337
第8節	全体の出土遺物と基本層からの出土遺物	342

第4編 第5次発掘調査

第1章	はじめに	349
第1節	調査方法	349
第2節	基本層序	350
第2章	1・2区の調査	352
第3章	3～7区の調査	354
第1節	3層上面の遺構	354
第2節	4層下部～5層上面の遺構	355
第3節	5層水田跡	356
第4節	6層水田跡	357
第5節	8層水田跡	359
第6節	全体の出土遺物と基本層からの出土遺物	359

第5編 第7次発掘調査

第1章	はじめに	361
第1節	調査方法	361
第2節	基本層序	362
第2章	調査結果	363
第1節	II層上面の遺構	363
第2節	IV層上面の遺構	369
第3節	V層上面の遺構	373
第4節	VI層上面の遺構(1)	379
第5節	VI層上面の遺構(2)と下層の調査	380
第6節	全体の出土遺物と基本層からの出土遺物	386

第6編 第10次発掘調査

第1章	はじめに	391
第1節	調査方法	391
第2節	基本層序	392
第2章	調査結果	394
第1節	4層水田跡	394
第2節	5a層水田跡	395
第3節	5b層水田跡	396
第4節	5c層水田跡	398
第5節	6a層水田跡	398
第6節	7a層水田跡	399
第7節	全体の出土遺物	400

第7編 総括

第1章	出土遺物	401
第2章	遺構	413
第1節	遺構の時期区分	413
第2節	遺構の変遷と年代	419

挿 図 目 次

第1編 第1次発掘調査

第5章

第355図	11A～11B・11F区 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図……………2	第384図	11F-SK1・2・4・5・7・8・10・12・ 13・17平面・断面図……………27
第356図	11B～11C・11F区 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図……………3	第385図	11F-SK15・16・18・21・22・ 24～31平面・断面図……………28
第357図	11C～11D区 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図……………4	第386図	11F-SK11・32～34、S12平面・断面図……………29
第358図	11D～11E区 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図……………5	第387図	11F-SK40・47・48・50～54、SX1 平面・断面図……………30
第359図	11A区西部 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図……………6	第388図	11F-SK4・10・15・18・35・47 出土遺物……………31
第360図	SD1001断面図……………6	第389図	11F-SK34出土遺物(1)……………32
第361図	11A-SK13平面・断面図、 SD14・15断面図……………6	第390図	11F-SK34出土遺物(2)……………33
第362図	11A区東部 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図……………7	第391図	11F-SK34出土遺物(3)……………34
第363図	SD1002・1009断面図……………7	第392図	11B区東部 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図、 SD1004断面図……………36
第364図	SD1001・1002・1009出土遺物……………8	第393図	11F区北部～11C区西部 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図、 SD1004・11B-SD2～4断面図……………37
第365図	11A-SD1～3断面図……………9	第394図	SD1003、11B-SD2断面図……………38
第366図	11B区西部 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図、 11A-SD13、11B-SD1断面図……………10	第395図	SD1003出土遺物……………39
第367図	11A-SB7、SD3、SK6・8・13・18、 ビット出土遺物……………10	第396図	SD1004、11B-SB14、SD2、SK1・2、ビット 出土遺物……………40
第368図	11A-SF1～4平面・断面図……………11	第397図	11C-SE1・3・4・7平面・断面図……………42
第369図	11A-SE2出土遺物……………12	第398図	11B-SE3出土遺物……………43
第370図	11A-SE2・3出土遺物……………13	第399図	11C-SE4・12出土遺物……………44
第371図	11A-SK1・3～6・14・18平面・断面図……………14	第400図	11F-SF1・2出土遺物……………45
第372図	11A-SK8～12、11B-SK1・2 平面・断面図……………15	第401図	11B-SK8・9・12・13・15・19・21～23、11C-SK3・13 平面・断面図、11B区北壁断面図……………47
第373図	11F区西部 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図、 SD1009・11F-SD5・7・8断面図……………16	第402図	SD1007・1009出土遺物……………49
第374図	11F区東部 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図、 SD1013・11F-SD2～4・11・14断面図……………17	第403図	11C区中央部 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図 11C-SX1平面・断面図、 11C-SD2・3・8断面図……………50
第375図	SD1009出土遺物……………18	第404図	11C区東部～11D区西部 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図 11C-SE12平面・断面図、 11D-SD7断面図……………51
第376図	SD1013出土遺物……………19	第405図	SD1007・1009断面図……………51
第377図	11F-SD4・14、S12出土遺物……………19	第406図	11C-SK1・7～12・14～16・18・ 20・24平面・断面図……………54
第378図	11F-SB7・16、ビット出土遺物……………21	第407図	11C-SK25・27～32・34～36・38・ 41・42・51平面・断面図……………55
第379図	11F-SE1～5・8・10平面・断面図……………22	第408図	11D-SK6平面・断面図……………56
第380図	11F-SF3出土遺物……………23	第409図	11C-SD2、SB5・23、SK14・16・28、 ビット出土遺物……………58
第381図	11F-SE11・12・15～18平面・断面図……………24	第410図	11D-SK6出土遺物……………59
第382図	11F-SE19・20平面・断面図……………25	第411図	SD1010・1011断面図……………61
第383図	11F-SE4・5・10～12・16・20 出土遺物……………25		

第412图	11D区中央部 IVa層・6a層上面 (IVa3・4期) 平面図。 11D-SD4・6断面図……………62	第448图	11A-SK15~17・21・24・25 平面・断面図……………90
第413图	11D区東部~11E区 6a層上面 (IVa3・4期) 平面図。 11E-SD6・7・9~13断面図……………63	第449图	11A区東部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………91
第414图	SD1012 (11D区)・11D-SD5断面図……………64	第450图	11A-SE7・9平面・断面図……………91
第415图	SD1012 (11E区)・1014。 11E-SD7・11・16・17断面図……………64	第451图	11A-SE5・6出土遺物……………92
第416图	SD1010出土遺物(1)……………65	第452图	11A-SF7出土遺物(1)……………92
第417图	SD1010出土遺物(2)……………66	第453图	11A-SE7出土遺物(2)……………93
第418图	SD1011出土遺物……………67	第454图	11A-SE8・9出土遺物……………94
第419图	SD1012・1014出土遺物……………67	第455图	11B-SD3出土遺物……………95
第420图	SD1014出土遺物(2)……………68	第456图	11B-SD4・5・9B-SD15出土遺物……………95
第421图	SD1014出土遺物(3)……………69	第457图	11B区西部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………96
第422图	11E区北部 6a層上面 (IVa3・4期) 平面図。 11E-SD1・21断面図……………70	第458图	11B区東部IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図。 11B-SD3-6断面図……………97
第423图	11E-SD1出土遺物……………71	第459图	11B-SE2・3・SK11・16平面・断面図……………99
第424图	11E-SD6・7出土遺物……………72	第460图	11B-SE2出土遺物(1)……………100
第425图	11E-SD21出土遺物(1)……………73	第461图	11B-SE2出土遺物(2)……………101
第426图	11E-SD21出土遺物(2)……………74	第462图	11B-SB11・12・SK11・16出土遺物……………102
第427图	11D-SF1・2・4・5・SK19 平面・断面図……………75	第463图	11F区西部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………102
第428图	11E SE2・4・5平面・断面図……………76	第464图	11F区東部IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図 11F-SD9断面図、SE9・SK14・43 平面・断面図……………103
第429图	11F-SE3・SK14・15・18 平面・断面図……………76	第465图	11F-SD11出土遺物……………104
第430图	11D-SD5出土遺物……………77	第466图	11F-SB37出土遺物……………106
第431图	11D-SE1・2出土遺物……………77	第467图	11C-SB9・36出土遺物……………107
第432图	11D-SE5出土遺物……………78	第468图	11C区西部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………108
第433图	11E-SF2出土遺物……………78	第469图	11C区中央部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………109
第434图	11E-SE4・5出土遺物……………79	第470图	11C-SE2・5・14・15平面・断面図……………109
第435图	11E-SE3出土遺物……………80	第471图	11C-SE5出土遺物……………110
第436图	11D-SK4・5・8・9・14平面・断面図……………81	第472图	11C SE2出土遺物……………111
第437图	11D-SK5出土遺物……………81	第473图	11C-SK22・23・26・37平面・断面図……………111
第438图	11D-SK8出土遺物……………82	第474图	11C-SD1出土遺物……………113
第439图	11E-SK1~7・10・12・13・17・19 平面・断面図……………83	第475图	11C区東部~11D区西部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………114
第440图	11E-SK2・14・17出土遺物……………84	第476图	11C-SF15出土遺物……………114
第441图	11A~11B区西部・11F区西部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………86	第477图	11C-SD1断面図……………115
第442图	11A-SB1・9・SK15出土遺物……………86	第478图	11D区中央部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………115
第443图	11B区東部~11C区西部・11E区東部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………87	第479图	11D-SK16・18・11C-SK21平面・断面図……………116
第444图	11A-SE5・6・8平面・断面図……………88	第480图	11D-SB1・SK17・18出土遺物……………116
第445图	11C区東部~11D区西部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………88	第481图	11D区東部~11E区 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………117
第446图	11D区東部~11F区 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………89	第482图	11B区~11F区 IVb層上面 (IVb2期) 平面図……………118
第447图	11A区西部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図……………90	第483图	11C区~11D区 IVb層上面 (IVb2期) 平面図……………119

第484図	11D区～11E区 IVb層上面 (IVb2期) 平面図	119	第521図	11A区中央部 IVb層上面 (IVb1期) 平面図	143
第485図	11F区西部 IVb層上面 (IVb2期) 平面図	120	第522図	11F-SE14・21出土遺物	143
第486図	11F-SF13、SK38平面・断面図	121	第523図	11F-SD10出土遺物	143
第487図	11F区東部 IVb層上面 (IVb2期) 平面図	121	第524図	11F-SF14・21、SK45・66 平面・断面図	144
第488図	11F-SE13出土遺物	122	第525図	11F区西部 IVb層上面 (IVb1期) 平面図	144
第489図	11F-SK38出土遺物	122	第526図	11F-SD10・15断面図、SK36・49・63 平面・断面図	145
第490図	11F-SK39・46・64平面・断面図	123	第527図	11F区東部 IVb層上面 (IVb1期) 平面図	145
第491図	11F-SB10・12・23、SK21・22・ 32・68、ピット出土遺物	123	第528図	11F-SK49出土遺物	146
第492図	11B1区東部～11F1区東部～11C1区西部 IVb層上面 (IVb2期) 平面図	124	第529図	11C-SK43・50平面・断面図	147
第493図	11C区西部 IVb層上面 (IVb2期) 平面図	125	第530図	11C-SK43出土遺物	147
第494図	11B-SE1・4～6平面・断面図	125	第531図	11B区東部～11C区西部 IVb層上面 (IVb1期) 平面図	148
第495図	11B-SE4～6出土遺物	126	第532図	11C区東部 IVb層上面 (IVb1期) 平面図	148
第496図	11C-SE6・22平面・断面図	126	第533図	11C区西部 IVb層上面 (IVb1期) 平面図	149
第497図	11C-SE6出土遺物	127	第534図	11C-SD4出土遺物	149
第498図	11C-SE6井戸枠(1)	128	第535図	11C区東部～11D区西部 IVb層上面 (IVb1期) 平面図	149
第499図	11C-SE6井戸枠(2)	129	第536図	11C-SF11平面・断面図	150
第500図	11C-SF8～10・21平面・断面図	130	第537図	11C-SD4、SK17・39・40 平面・断面図	150
第501図	11C-SE16・17・24・25平面・断面図	131	第538図	11A-S11平面・断面図	151
第502図	11C-SE8出土遺物	132	第539図	11A1区～11B1区西部・11F1区西部 Va層上面平面図	152
第503図	11C-SE16・18・21・25出土遺物	133	第540図	11F-SD23断面図	152
第504図	11C-SE10出土遺物	134	第541図	11C区東部～11D区西部 Va層上面平面図	152
第505図	11B-SK10・17・18、11F-SK19 平面・断面図	134	第542図	11B1区東部～11C1区西部・11F1区東部 Va層上面平面図	153
第506図	11B-SK18出土遺物	135	第543図	11D1区東部～11E1区 Va層上面平面図	153
第507図	11F-SK23・69平面・断面図	135	第544図	11A1区西部 Va層上面平面図	154
第508図	11F-SK5出土遺物	135	第545図	11A-P46出土遺物	154
第509図	11C区中央部 IVb層上面 (IVb2期) 平面図	136	第546図	11A-S11出土遺物	154
第510図	11C区東部～11D区西部 IVb層上面 (IVb2期) 平面図	137	第547図	11A1区中央部 Va層上面平面図	155
第511図	11C-SB15、SK45出土遺物	137	第548図	11A-SK23出土遺物	155
第512図	11C-SF13・18・20、SK33・45 平面・断面図	138	第549図	11A-SD6断面図、 SE10、SK23平面・断面図	156
第513図	11D-SK13・15平面・断面図	138	第550図	11A-SK19・20・29平面・断面図	156
第514図	11D-SK15出土遺物	139	第551図	11A-SD6出土遺物	157
第515図	11D1区南部～11E1区西部 IVb層上面 (IVb2期) 平面図、 11E-SD2断面図	139	第552図	11A-SK29出土遺物	157
第516図	11E-SD2・14出土遺物	139	第553図	11B1区東部 Va層上面平面図	158
第517図	11A1区～11B1区西部・11F1区西部 IVb層上面 (IVb1期) 平面図	140	第554図	11B-SK4・7・13・14平面・断面図	158
第518図	11B1区～11D1区西部・11F1区 IVb層上面 (IVb1期) 平面図	141	第555図	11C-SD5・7、SK44・46・47、 11F-SK3平面・断面図	158
第519図	11A-SB2出土遺物	142			
第520図	11A1区西部 IVb層上面 (IVb1期) 平面図	142			

第556図	11F区北部～11C区西部 Va層上面平面図	159	第588図	11D区東部 Vb・Vc層上面平面図、 11D-SD9・10断面図	176
第557図	11B-SK4出土遺物	159	第589図	11E区 VII層出土遺物	176
第558図	11B-SK14出土遺物	159	第590図	VII層水田跡平面図	177
第559図	11C-SK44出土遺物	160	第591図	11A区基本層出土遺物(1)	186
第560図	11C-SD5、SK46出土遺物	161	第592図	11A区基本層出土遺物(2)	187
第561図	11F-SK65出土遺物	161	第593図	11A区基本層出土遺物(3)	188
第562図	11F-SK45出土遺物	161	第594図	11A区基本層出土遺物(4)	189
第563図	11C区東部～11D区西部 Va層上面平面図	162	第595図	11A区基本層出土遺物(5)	190
第564図	11C-SK19平面・断面図	162	第596図	11A区基本層出土遺物(6)	191
第565図	11E-SD15出土遺物	163	第597図	11A区基本層出土遺物(7)	192
第566図	11D区西部 Va層上面平面図 11D-SD1～3・8断面図	164	第598図	11A区基本層出土遺物(8)	193
第567図	11D区東部～11E区 Va層上面平面図、 11E-SD15・17～20断面図	165	第599図	11B区基本層出土遺物(1)	194
第568図	11A区～11B区西部・11F区西部 Vb・Vc層上面平面図	166	第600図	11B区基本層出土遺物(2)	195
第569図	11A-SD1・9断面図	166	第601図	11B区基本層出土遺物(3)	196
第570図	11B区東部～11C区西部・11F区東部 Vb・Vc層上面平面図	167	第602図	11B区基本層出土遺物(4)	197
第571図	11C区東部～11D区 Vb・Vc層上面平面図	167	第603図	11B区基本層出土遺物(5)	198
第572図	11A区東部 Vb・Vc層上面平面図	168	第604図	11C区基本層出土遺物(1)	198
第573図	11A区西部 Vb・Vc層上面平面図	168	第605図	11C区基本層出土遺物(2)	199
第574図	11A-S12平面・断面図	168	第606図	11C区基本層出土遺物(3)	200
第575図	11A区東部～11C区西部・11F区北部 Vb・Vc層上面平面図	169	第607図	11C区基本層出土遺物(4)	201
第576図	11A-SD11出土遺物	170	第608図	11C区基本層出土遺物(5)	202
第577図	11A-SD11、11B-SD7～10・16 断面図	170	第609図	11C区基本層出土遺物(6)	203
第578図	11F区西部 Vb・Vc層上面平面図	171	第610図	11C区基本層出土遺物(7)	204
第579図	11F-SD12・13断面図	171	第611図	11D区基本層出土遺物(1)	205
第580図	11F区東部 Vb・Vc層上面平面図	171	第612図	11D区基本層出土遺物(2)	206
第581図	11F-S11平面・断面図、 11F-SD24断面図	172	第613図	11E区基本層出土遺物	207
第582図	11F-SD24出土遺物	172	第614図	11F区基本層出土遺物(1)	208
第583図	11F-S11出土遺物	173	第615図	11F区基本層出土遺物(2)	209
第584図	11D-SD16出土遺物	173	第616図	11F区基本層出土遺物(3)	210
第585図	11C区東部 Vb・Vc層上面平面図	174	第617図	11F区基本層出土遺物(4)	211
第586図	11C-SD23断面図、 11C-SK48平面・断面図	174	第618図	11F区基本層出土遺物(5)	212
第587図	11C区東部～11D区西部 Vb・Vc層上面平面図 11C-SD9、11D-SD16、 11C区M2グリッド小溝群断面図	175	第2編 第2次発掘調査		
			第619図	調査区・グリッド設定図	213
			第620図	IVa4期以降の遺構平面図、 SD1～3・5・17断面図	216
			第621図	SK60平面・断面図	217
			第622図	SK60、SD17、SM1出土遺物	217
			第623図	IVa4期遺構平面図	218
			第624図	SD4A・B、SD18A～C断面図	219
			第625図	SD4・18出土遺物	220
			第626図	SD18出土遺物	221
			第627図	SD8・10出土遺物	221
			第628図	SD6～8・10～16・20・22・24 断面図	222
			第629図	SE1～6・8、SK4平面・断面図	225
			第630図	SE7・9・10平面・断面図	226
			第631図	SE3・4出土遺物	226
			第632図	SE7出土遺物	227

第633図	SK1・2・5~7・9~12 平面・断面図	228	第676図	IVb層出土遺物(5)	282
第634図	SK1・4・7・13・16・24・29 出土遺物	229	第677図	V層出土遺物	282
第635図	SK13~19・21~23平面・断面図	230	第3編 第4次発掘調査		
第636図	SK24~26・29・30・32~36 平面・断面図	231	第678図	調査区設定図	284
第637図	SK39・40・42~44平面・断面図	232	第679図	1区北壁・西壁・南壁断面図	285
第638図	SK45・47~49・51~54・57 平面・断面図	233	第680図	2区西壁・東壁断面図	286
第639図	SK58・59・62~66・68・69・71・72 平面・断面図	234	第681図	3区西壁断面図	287
第640図	SK70・73~75・79~81 平面・断面図	235	第682図	4区北壁・東壁断面図	288
第641図	SK45・47・48・54・58・61・62 70・74・SI1・SX1出土遺物	236	第683図	1区出土遺物	290
第642図	SK69出土遺物	237	第684図	1区2層上面・5a層水田跡・ 5b層水田跡・7a層水田跡平面図	291
第643図	SD19州土遺物(1)	239	第685図	2~4区IVa層上面平面図	292
第644図	IVa3期遺構平面図、 SD19・21断面図	240	第686図	SE5出土遺物	293
第645図	2区東壁・南壁断面図	241	第687図	SK3出土遺物	293
第646図	SD19出土遺物(2)	241	第688図	SE8出土遺物	294
第647図	SD21・23出土遺物	242	第689図	2区IVa層上面平面図	295
第648図	SE6井戸枠(1)	245	第690図	SD2断面図	296
第649図	SE6井戸枠(2)	246	第691図	SD1・2出土遺物	297
第650図	SE6出土遺物	247	第692図	SD2出土遺物	298
第651図	SE1出土遺物	248	第693図	SD2杭列平面・断面図	299
第652図	IVa2期遺構平面図	249	第694図	SD1・3・4断面図	299
第653図	SD18B出土遺物	250	第695図	3区IVa層上面平面図、SD3断面図	300
第654図	掘立柱建物跡、ビット出土遺物(1)	253	第696図	SD3出土遺物(1)	301
第655図	掘立柱建物跡、ビット出土遺物(2)	254	第697図	SD3出土遺物(2)	302
第656図	IVa1期遺構平面図	255	第698図	SD3出土遺物(3)	303
第657図	IVb2期遺構平面図	258	第699図	4区IV層上面平面図、SD8断面図	304
第658図	SE5出土遺物	260	第700図	SD3出土遺物(4)	304
第659図	SK21出土遺物	261	第701図	SD5、SE1、SK3平面・断面図	305
第660図	IVb1期遺構平面図	262	第702図	SE1~4出土遺物	306
第661図	SI1、SX1平面・断面図	264	第703図	SE2~8、SK7平面・断面図	307
第662図	SK46平面・断面図	265	第704図	SE6出土遺物	308
第663図	SK46出土遺物	266	第705図	SK9・11・12平面・断面図	309
第664図	SK75出土遺物(1)	267	第706図	SK11出土遺物(1)	310
第665図	SK75出土遺物(2)	268	第707図	SK11出土遺物(2)	311
第666図	1区Vc層上面平面図	270	第708図	SK11出土遺物(3)	312
第667図	VI層上面平面図	271	第709図	2区4a層水田跡平面図、 SK2・4・5平面・断面図	313
第668図	I~II層出土遺物	273	第710図	2・3区5a層水田跡平面図	314
第669図	IVa層出土遺物(1)	274	第711図	2区6a層・Va層上面平面図	315
第670図	IVa層出土遺物(2)	275	第712図	3区6a層・Va層上面平面図、 SD6・7断面図	316
第671図	IVa層出土遺物(3)	276	第713図	4区Va層上面平面図	317
第672図	IVb層出土遺物(1)	276	第714図	SE10平面・断面図	318
第673図	IVb層出土遺物(2)	277	第715図	SE10出土遺物	319
第674図	IVb層出土遺物(3)	278	第716図	SE10井戸枠(1)	320
第675図	IVb層出土遺物(4)	279	第717図	SE10井戸枠(2)	321
			第718図	SE10井戸枠(3)	322
			第719図	SE10井戸枠(4)	323
			第720図	SE10井戸枠(5)	324
			第721図	SE10井戸枠(6)	325

第722図	SE9、SK13～17平面・断面図 SD7断面図	327	第761図	SE1・3、SB2出土遺物	366
第723図	SK20～22・25～29平面・断面図	328	第762図	SE1～4平面・断面図	367
第724図	4区Vb層上面平面図 SK30・31平面・断面図 SD12・小溝群断面図	329	第763図	SE2・4・6出土遺物	368
第725図	SD4・7・8・12・14出土遺物	330	第764図	IV層上面平面図	369
第726図	SK6・17・19・31出土遺物	331	第765図	SD7・12断面図、 SF5・SK3平面・断面図	370
第727図	2区VI層上面平面図、 SK6平面・断面図、小溝群断面図	333	第766図	SD7・9・12出土遺物	371
第728図	3区VI層上面平面図、 SK18、SK2平面・断面図、小溝群断面図	334	第767図	SK3出土遺物	372
第729図	SK2出土遺物	334	第768図	V層上面平面図、SD13・14断面図	373
第730図	4区VI層上面平面図、小溝群断面図	335	第769図	SI1平面・断面図	374
第731図	SB11・2平面・断面図	336	第770図	SI1出土遺物	375
第732図	SK19平面・断面図	337	第771図	SI2、SK5・16出土遺物	375
第733図	3区VII層上面平面図、SR1・2断面図	338	第772図	SB3・4、SA1平面図	376
第734図	4区VII層上面平面図、 SD14・15断面図	339	第773図	SD13・14出土遺物	377
第735図	SR1出土遺物	340	第774図	SK17～20平面・断面図	377
第736図	SR2出土遺物(1)	340	第775図	SK1・5～16平面・断面図	378
第737図	SR2出土遺物(2)	341	第776図	VI層上面平面図(1)、 SK21～23平面・断面図	379
第738図	2～4区I～III、1～3層出土遺物(1)	344	第777図	VI層上面平面図(2)、 SD5・6・16・17断面図	381
第739図	2～4区I～III、1～3層出土遺物(2)	345	第778図	SR1・2断面図	382
第740図	IV・4a・5a層出土遺物	346	第779図	SD5出土遺物	383
第741図	IV・4a層出土遺物	347	第780図	SR1出土遺物	384
第742図	6a・Va・Vb・VI層出土遺物	348	第781図	SR2出土遺物	385
第4編 第5次発掘調査			第782図	I・II層、その他の出土遺物	387
第743図	調査区設定図	349	第783図	IV層出土遺物(1)	388
第744図	3区東壁、6区北壁断面図	350	第784図	IV層出土遺物(2)	389
第745図	SD1平面・断面図	352	第785図	V・VI・VII層出土遺物	390
第746図	SD1出土遺物	353	第6編 第10次発掘調査		
第747図	3区3層上面平面図、P4～8平面・断面図	354	第786図	調査区・グリッド設定図	391
第748図	4区3層上面平面図	355	第787図	A区南壁、西壁、東壁断面図	393
第749図	7区3層上面平面図、SD3断面図	355	第788図	4層水田跡平面図、 5a層水田跡平面図	395
第750図	3区4層下部平面図	355	第789図	5b層水田跡平面図、 5c層水田跡平面図	397
第751図	3区5層水田跡平面図	356	第790図	6a層水田跡平面図、 7a層水田跡平面図	399
第752図	5区・6区5層水田跡平面図	356	第791図	4層水田跡、5a層水田跡出土遺物	400
第753図	P1～3平面・断面図	356	第7編 総括		
第754図	5～7区6層水田跡平面図 SD2断面図	358	第792図	第1次調査区の掘立柱建物跡・柱列跡の角度	414
第755図	6区8層水田跡平面図	359	第793図	第2次調査区の掘立柱建物跡・柱列跡の角度	416
第756図	1～6層出土遺物	360	第794図	第1次・2次調査区の掘立柱建物跡・ 柱列跡の時期区分	418
第5編 第7次発掘調査			第795図	IVb1期全体図	421・422
第757図	調査区設定図	361	第796図	IVb2期全体図	423・424
第758図	SD1・2・11、SK2・4出土遺物	363	第797図	IVa1期全体図	435・436
第759図	II層上面平面図、SD1～4・11断面図、 SK2・4平面・断面図	364	第798図	IVa2期全体図	437・438
第760図	SB1・2平面図	365	第799図	IVa3期全体図	439・440
			第800図	IVa4期全体図	441・442

挿 表 目 次

第1編 第1次発掘調査

第5章

表112	11A区 土坑一覽表	1
表113	11A区 井戸跡一覽表	11
表114	11F区 井戸跡一覽表	26
表115	11F区 土坑一覽表	35
表116	11B区 井戸跡一覽表	46
表117	11B区 土坑一覽表	46
表118	11C区 井戸跡一覽表	48
表119	11C区 土坑一覽表	57
表120	SX1周辺の鍛造剥片分布(1)	60
表121	SX1周辺の鍛造剥片分布(2)	60
表122	SX1堆積土の鍛造剥片分布(1)	60
表123	SX1堆積土の鍛造剥片分布(2)	60
表124	SX1周辺の粒状滓分布	60
表125	SX1堆積土の粒状滓分布	60
表126	SX1周辺の鉄滓分布	60
表127	SX1堆積土の鉄滓分布	60
表128	11D区 井戸跡一覽表	75
表129	11E区 井戸跡一覽表	75
表130	11D区 土坑一覽表	80
表131	11E区 土坑一覽表	80
表132	11A区 遺物集計表	178
表133	11B区 遺物集計表	179
表134	11C区 遺物集計表(1)	180
表135	11C区 遺物集計表(2)	181
表136	11D区 遺物集計表	181
表137	11E区 遺物集計表	182
表138	11F区 遺物集計表(1)	183
表139	11F区 遺物集計表(2)	184
表140	第1・2・4・5・7・10次調査 遺物集計表	185

第2編 第2次発掘調査

表141	井戸跡一覽表	224
表142	1区土坑一覽表	238
表143	2区土坑一覽表	238
表144	第2次調査遺物集計表(1)	280
表145	第2次調査遺物集計表(2)	281

第3編 第4次発掘調査

表146	1区遺物集計表	342
表147	2区遺物集計表	342
表148	3区遺物集計表	343
表149	4区遺物集計表	343

第4編 第5次発掘調査

表150	1~7区遺物集計表	360
------	-----------	-----

第5編 第7次発掘調査

表151	遺物集計表	386
------	-------	-----

第6編 第10次発掘調査

表152	4層水田跡畦畔計測表	394
表153	4層水田跡水田区画計測表	394
表154	5a層水田跡畦畔計測表	396
表155	5a層水田跡水田区画計測表	396
表156	5b層水田跡畦畔計測表	397
表157	5b層水田跡水田区画計測表	397
表158	遺物集計表	400

第7編 総括

表159	無種陶器の産地別点数と重量	404
表160	図化できた瀬戸美濃製品の時期別一覽	404
表161	中国産輸入陶磁器の内訳	405
表162	図化できた中国産輸入陶磁器一覽	405
表163	図化できた金属製品一覽	407
表164	図化できた銭貨一覽	407
表165	図化できた石製品一覽	407
表166	図化できた木製品一覽	408
表167	血盆経復元例(1)	411
表168	血盆経復元例(2)	411
表169	第1次調査の竪立柱建物跡・柱列跡の分類	414

第1編 第1次発掘調査

第5章 11区の調査

第1節 IVa層の遺構(1)～IVa3・4期

1. 遺構の概要

11区は10区の南側に設定した調査区である。西端の11A区から東端の11E区まで東西に長く延びる調査区は、中心の曲輪の中央やや南寄りを通り、南北方向の堀を横断しながら東西300m、南北90mに及ぶ。調査区の大部分が幅6mで、しかも11C～11E区の南北方向の部分は幅4mであるので調査上の制約が多く、遺構の広がりなどについては明らかになかった箇所もある。なお、11区の遺構は10区の遺構に比べて平面プランの確認が困難で、このため実跡の掘り込み面よりも1～2面下層で確認できた遺構が多い。

11A区では城跡の外堀SD1001が南北方向に走り、その東側には堀で区画された曲輪が11E区まで連続している。南北方向のSD1001(外堀)・1002・1007、東西方向のSD1009は改修されながらもIVa3・4期を通して同位置に存在していたと推定されるが、その他の堀は、中心の曲輪西辺の堀が11B-SD2→SD1003、南部では11F-SD1→SD1013、東方に離れた曲輪でもSD1011→SD1010、11E-SD1→11E-SD21、11E-SD7→SD1014など、IVa3期からIVa4期にかけて位置をずらして掘り直されていると考えられる。

曲輪内部では掘立柱建物跡、柱列跡、溝跡、井戸跡、土坑、ピットなどが検出されている。

掘立柱建物跡はIVa4期が23棟、IVa3期が20棟あるが、建物に組み合わなかったピットが1100基以上残る(註1)こ

№	グリッド・確認階位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11A-SK 1	P7・IVa層	円形?	480×?	87	IVa4期
11A-SK 2					欠番
11A-SK 3	M5・IVa層	楕円形?	194×?	63	IVa4期
11A-SK 4	M6・IVb層	円形	78×70	11	IVa2～4期
11A-SK 5	M5・IVb層	長方形	194×60	4	IVa2～4期
11A-SK 6	M5・IVb層	楕円形	225×?	51	IVa2～4期
11A-SK 7					欠番
11A-SK 8	M8・Va層	不整形円形	162×56	83	IVb～IVa期、中世陶器
11A-SK 9	M8・Va層	円形	97	48	Va～IVa期
11A-SK 10	M8・Va層	楕円形	782×172	53	IVb～IVa期、中世陶器
11A-SK 11	M8・Va層	方形?	120×?	10	Va～IVa期
11A-SK 12	M8・Va層	楕円形	166×128	40	Va～IVa期
11A-SK 13	M5・IVb層	楕円形	105×67	40	IVa2～4期、土師質土器
11A-SK 14	M7・Va層	楕円形	56×44	17	Va～IVa期
11A-SK 15	M4・Va層	楕円形	160×130	35	IVa～IVa1期、中世陶器
11A-SK 16	M4・Va層	不整形円形	280×208	33	IVb～IVa1期、古磁
11A-SK 17	M4・Va層	楕円形	110×95	24	IVb～IVa1期、青磁・土師質土器
11A-SK 18	O6・Va層	楕円形	78×?	25	IVa期、洪武通宝
11A-SK 19	M4・Va層	方形?	114×?	6+	Va期
11A-SK 20	M4・Va層	楕円形?	150×?	30	Va期、11A-SB5に切られる
11A-SK 21	M4・Va層	円形?	160×?	61	IVb～IVa1期、中世陶器
11A-SK 22	M5・Va層	楕円形	200×80	30	Va～IVa1期
11A-SK 23	M2・Va層	楕円形?	284×?	35	Va期、土師器多量
11A-SK 24	M2・Va層	楕円形	114×96	4	Va～IVa1期
11A-SK 25	M2・Va層	楕円形	94×70	24	Va～IVa1期
11A-SK25～28					欠番
11A-SK 29	M5・Va層	長楕円形	510×145		Va期、土師器多量

表112 11A区 土坑一覧表

とから、実際の建物数はさらに多かったと考えられる。建物の方向はIVa3期では城館の主軸（真北から約30°東傾）からやや東に振れた34~41°を示しているが、IVa4期では城館の主軸からは大きく傾いた方向（44°西傾~44°東傾）を示している。

この時期に伴う可能性がある井戸跡は34基、土坑は114基ある（註2）。なお、11区の井戸跡と土坑については数が多いため、特殊な遺構を除いては個別の記載は省略し、一覧表で示している。



2. 11A区~11B区西部の遺構と遺物

11A区から11B区西部にかけては城館の外堀SD1001とそれに並行するSD1002・SD1003・11B-SD2、直交するSD1009があり、これらの堀に囲まれて曲輪が形成されている。

SD1001とSD1002に挟まれた曲輪はIVa3~4期を通して変化がなかったと推定される。東西長は約20mでここから掘立柱建物跡7棟、小規模な溝跡1条、井戸跡4基、土坑4基、ビット約20基を検出している（第362図）。

SD1002とSD1003に挟まれた曲輪はIVa4期のもので東西長は約37m、IVa3期は11B-SD2が曲輪の東辺と考えられるので東西長は50mあるが、ここから検出された遺構は少なく、掘立柱建物跡1棟、小規模な溝跡2条、土坑11基の他、ビット55基ほどである（第366図）。

SD1009の南側の曲輪は、11F区では建物跡が確認されているが11A区については溝跡4条と土坑2基、ビット5基が検出されたのみである。なお、城館の外側に相当するSD1001の西側では土坑1基とビット17基が検出されている（第359図）。

(1) 溝跡

SD1001（第359・360図） 外堀が埋没した跡の溝状の窪みが10A区から11A区西部にかけて認められていたが、プランは10A区と同様に窪みの直下のIVa層上面で確認した。IVa3・4期を通して機能していたと推定される。幅8.5~9.5m、深さは1.6~1.7mで、溝の底面には10A区と同じく幅0.8mで周囲よりも15cmほど低い溝状の部分がある。堆積土上部は、10A区同様に埋没後は水田として利用されているが（註3）、その際に西側が1mほど拡張されている可能性

第356図 11A~11B・11F区
IVa層上面（IVa3・4期）平面図



第356図 11B～11C・11F区 IVa層上面(IVa3・4期)平面図

がある。また、東側の肩も掘りなおされた際に壊されており、本来の幅は7～8m程度であった可能性がある。堆積土の大部分は自然堆積層で、3回程度は改修されていると考えられる。なお、上層は人為的に埋め戻されており、水田として利用する際に整地されたと考えられる。

遺物は約470点出土したが、土師器・須恵器が2/3以上を占め、中世陶器や土師質土器などが残りの1/3である(表132)。図化できたの

は常滑産や在地産の無軸陶器や瀬戸産の施釉陶器、土師質土器、石製品など8点である(第364図1～8)。SD1002(第362・363図)11A区中央部のIVa層上面で確認した堀跡で、位置関係から10B区で検出したSD1002の続きと推定される。IVa3・4期を通して機能していたと推定されるが、10B区同様にIVa2期まで遡る可能性がある。幅5.0m、深さ1.6mである。断面形は上部が浅い「U」字形であるが、下部は逆

台形のため途中で段が形成されており、堆積土も段の1:下で層相が異なるため、上半部は掘りなおされている可能性がある。

遺物は約230点出土したが、土師器・須恵器が3/4、中世陶器や土師質土器などが残りの1/4である(表132)。図化できたのは在地産の無軸陶器、砥石や粉挽臼などの石製品など4点である(第364図9～11・13)。

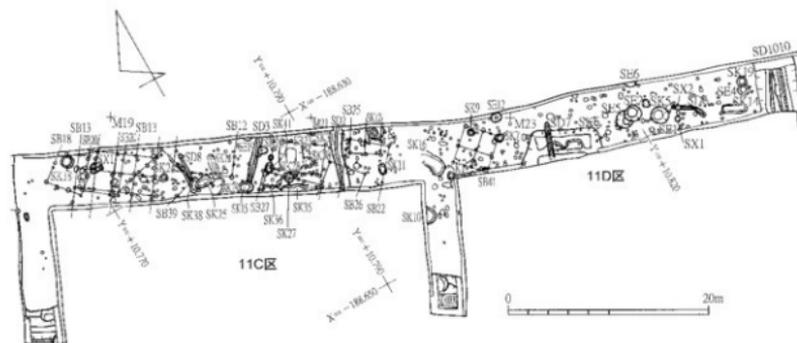
SD1009(第362・363図)11A区南部のIVa層上面で確認した堀跡で、IVa3・4期を通して機能していたと推定される。SD1002と直交する方向にあるが、SD1002と接続するのかが通路状に開くのかは不明である。調査区西壁側の幅は6.5mであるが、東壁側では12mほどに広がって11A-SD3と接続している。ただし、調査区の制約から調査範囲が部分的であり、不明な点が多い。深さは1.2～1.4mであるが北～東側は1.8mと深い。堆積土の状況から少なくとも1回の改修が認められる。このSD1009は東側の11F区、11C区、11D区、11E区の各区における南北の調査区(N～O)グリッ

ド)でも断片的ながら確認されており、中心の曲輪及びその東西両側に並ぶ曲輪の南辺を囲っていると推定される。

遺物は約90点出土したが、土師器・須恵器が2/3以上で残りが中世陶器や土師質土器などである(表132)。図化できたのは在地産の無軸陶器1点である(第364図12)。

11A-SD1~3(第362・365図) 11A区南部のIVa層上面で確認した溝跡で、SD1009の南側に位置する。11A-SD1は幅2.5~3.5m、深さ35cmで、11A-SK1に接続している。11A-SD2は幅50cm、深さ20cmで、西壁から延びているが途中で途切れる。11A-SD3は幅1.8m、深さ45cmで東端から斜めに延びる深い部分でSD1009と接続している。

遺物は11A-SD1から30点、11A-SD3から約60点出土したが、両者とも土師器・須恵器が多く、中世陶器や土師質土器は1/5~1/3である(表132)。図化できたのは11A-SD3から出土した常滑産裏、瀬戸産銅皿、永楽通宝など3点である(第367図2・3・11)。



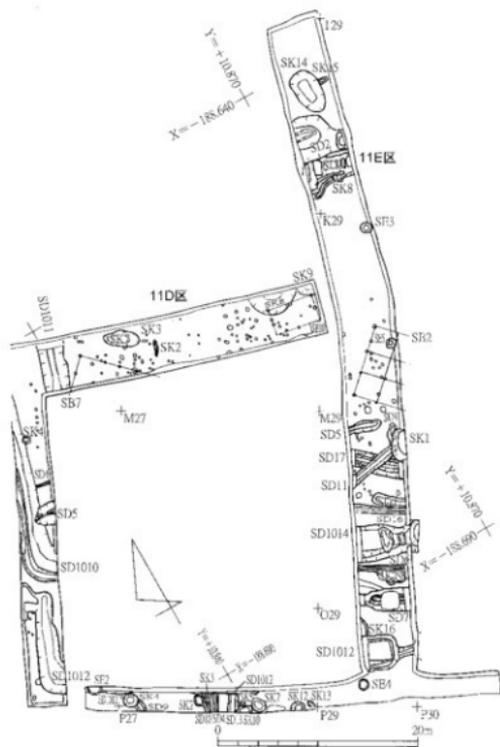
第367図 11C~11D区 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図

11A-SD13~15, 11B-SD1(第361・362・366図) Va層上面で確認した小規模な溝跡で、IVa~Va層のどの段階に伴うか断定できない。幅は40~70cm、深さ5~20cmである。SD1001とSD1002の間には11A-SD15、SD1002とSD1003の間には、11A-SD13と11B-SD1、SD1009の南側には11A-SD14が位置している。

遺物は11B-SD1から土師器片が数点出土したのみで、図化できたものはない。

(2) 掘立柱建物跡(第362・366図)

SD1001とSD1002の間の曲輪で7棟確認されたが、城館の主軸方向から大きく傾く(20~25°西傾)11A-SB6・12がIVa4期と考えられる。このうち11A-SB12は11A-SE2を覆う位置にあることから、SE2の上屋である可能性がある。IVa3期の建物は、城館の主軸方向からやや東に振れる(34~38°東傾)11A-SB4・7・8・10・14の5棟である。このうち11A-SB4は東西6間、南北3間以上の大規模な建物跡で、西側に張り出しを持っている。11A-SB7とSB10は総柱の建物跡であるが、11A-SB8についても南辺の側柱しか確認していないので総柱の可能性もある。なお、これら5棟の建物跡は重複あるいは極めて近接する位置関係にあることから、全てが同時に存在したのではなく、時間差を持っていて考えられる。



第358図 11D～11E区 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図

廃棄されていた板磚4点 (第369図、第370図1・2) と瓦質の櫛鉢や石鉢 (第370図3～5) である。SE2から出土した板磚のうちK-164 (第369図1) は種字 (パン)・蓮座・紀年銘 (応長二年=1312年・註5)・願文を持ち、蓮座と紀年銘・願文との間に横方向の界線が引かれている。K-165 (第369図2) は種字 (キリーク・サ・サク)・紀年銘 (延慶3年=1310年)・願文を持つものである。SE3出土の板磚は2点共に種字のみのもので、K-163 (第370図1) は種字の上下に2本ずつ横方向の界線が引かれている。

(4)土坑 (第361・371図)

IVa層上面で確認できた遺構もあるが、井戸跡の項で触れたように、11A区ではIVb層上面で確認した遺構がIVa2～4期と推定され、11B区西部でも同様の可能性が考えられる。

SD1001とSD1002の間の11A-SK4～6・13がIVa2～4期と考えられ、これらより上層のIVa層上面で確認できた11A-SK1・3については最も新しいIVa4期頃と推定される。なお、11A-SK1は部分的な調査であるので、さらに東に延びる溝跡である可能性も考えられる。

なお、SD1002とSD1003の間の11B-SK1・2もIVb層上面で確認しているため、これらもIVa期と考えられる。なお、

SD1002とSD1003の間では、北壁際で小規模な建物11B-SB3を確認している。方向は、城館の主軸方向からやや東に振れており (34° 東傾)、IVa3期と推定される。これらの建物跡の柱穴からは土師器・須恵器などがそれぞれ20～130点ほど出土しているが、図化できたのはSB7の鉄製品のみである (表132、第367図9)。

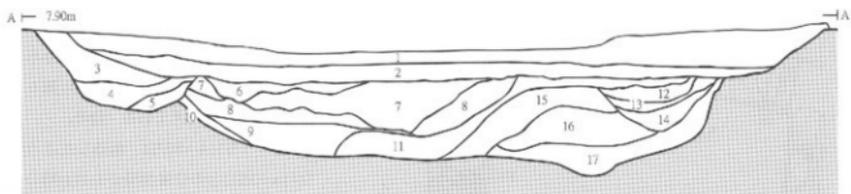
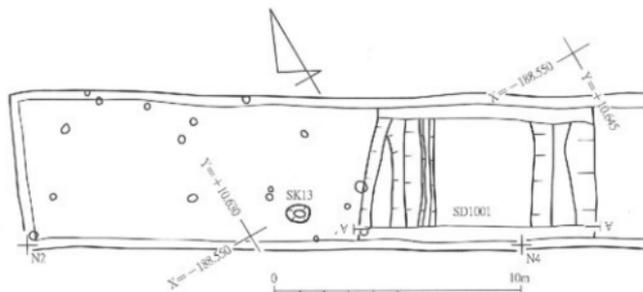
(3)井戸跡 (第368図)

SD1002の西側に4基 (11A-SE1～4) が集中している。これらの確認面はIVb層上面であるが、他の遺構との重複関係から、11A-SE1～4は本来IVa層上面から掘り込まれていたと捉えている (註4)。

4基のうち11A-SE2は、前述したような11A-SB12との位置関係からIVa4期の可能性がある。また、11A-SE1・3・4は南壁際に集中していて、独立柱建物跡が集中する北側とは離れて位置している。時期はIVa2～4期頃と推定される。規模などの詳細は表113 (11頁) のとおりで、SE1のみが壁際に位置していたため底面まで掘りきることができなかった。

遺物はSE1が25点、SE2～4がそれぞれ50点前後であるが大部分は土師器・須恵器で、わずかに中世陶器や石製品が認められる (表132)。図化できたのはSE2・3に

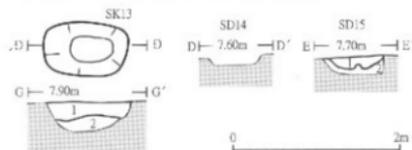
第359図
11A区西部 IVa層上面
(IVa3・4期) 平面図



第360図 SD1001 断面図

SD1001

層位	色層	土質	副人物・その他
1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化植物多量 (田水田耕作上)
2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	炭化植物多量、砂ブロックの解状に多量、(田水田耕作上)
3	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物の破片
4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物の破片
5	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	暗灰黄色砂質シルトを層状に少量
6	5Y4/1 灰色	粘土質シルト	暗灰黄色シルトブロックを部分的に多量、炭化植物多量、人為的埋土
7	10Y4/1 灰色 7.5Y5/2 灰オリーブ色 5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト 砂質シルト 砂質シルト	ブロックの融合 人為的埋土
8	5Y4/1 灰色 5GY5/1 オリーブ灰色	砂質シルト 砂質シルト	ブロックの融合 人為的埋土
9	10Y3/1 黒褐色 7.5GY4/1 暗緑灰色	粘土質シルト 砂質シルト	互層
10	7.5Y2/1 黒色	シルト	植物遺体多量
11	2.5Y6/2 灰黄色 7.5Y5/2 灰オリーブ色 2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト シルト 粘土質シルト	互層
12	2.5Y5/3 に近い黄色 2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト 粘土質シルト	互層
13	5Y4/1 灰色 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト 粘土質シルト	互層
14	5GY4/1 暗オリーブ灰色 7.5Y4/2 灰オリーブ色	砂質シルト 粘土質シルト	互層
15	7.5Y4/1 灰色	シルト 砂質シルト	互層
16	2.5Y4/2 暗灰黄色 5GY4/1 暗オリーブ灰色 2.5Y2/1 黒褐色	粘土質シルト 砂質シルト 粘土質シルト	互層
17	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	小礫多量



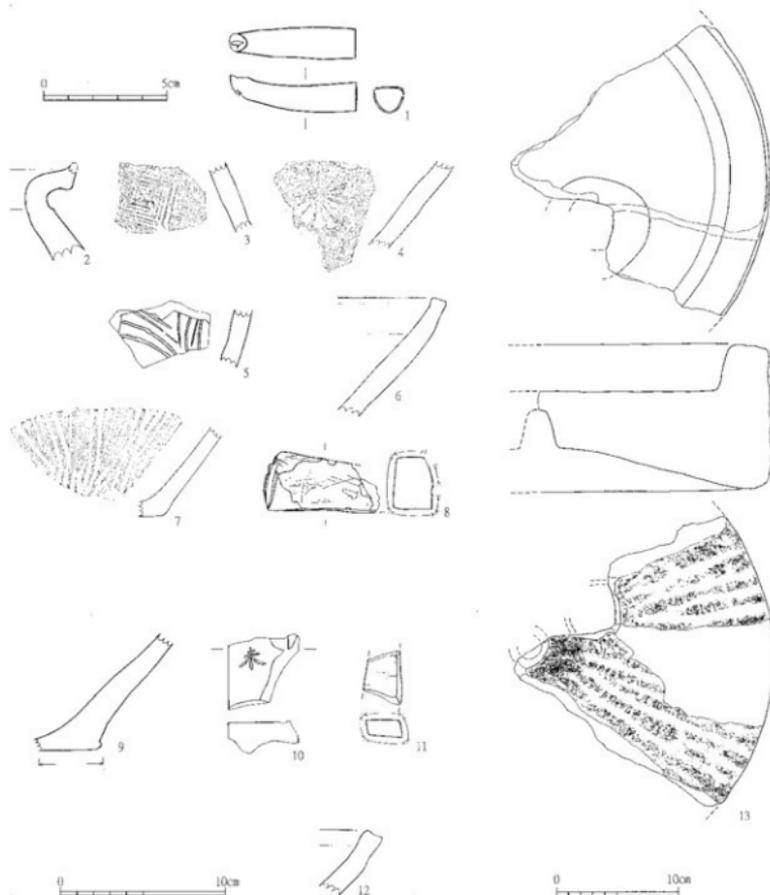
第361図 11A-SK13 平面・断面図、SD14・15 断面図

SK13

層位	色層	土質	副人物・その他
1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	に近い暗褐色砂質シルトブロック多量
2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物の少量

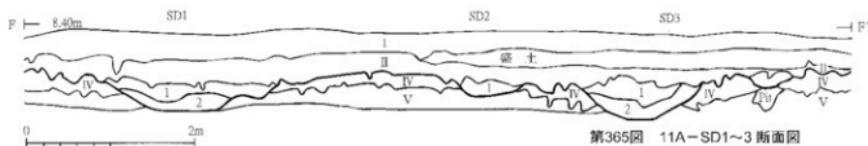
SD15

層位	色層	土質	副人物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物の少量
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物の少量、粘土質少量



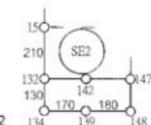
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法費(cm)			調整・特徴	写真 図版
						11径	底径	器高		
1	Ss-182	11A-SD1001・下層	銅製品・棒状厚板	鎌首～胴部	残5.0+		小口径12	8径一		162-8
2	lc-444	11A-SD1001・下層	陶器(常滑) 甕	口縁～体部片				口縁部3:2の子+1段内径滑化の3段付、底径ナシ、内底ナシ、変形押印		162-1
3	lc-446	11A-SD1001・下層	陶器(常滑) 甕	体部小片				ナシ、変形押印		162-2
4	lc-447	11A-SD1001・下層	陶器(常滑) 甕	体部小片				ナシ、菊花文押印		162-3
5	lc-558	11A-SD1001・上層	陶器(古瀬戸) 甕	体部小片				灰釉、劃花文、中皿～皿間		162-4
6	lc-445	11A-SD1001・下層	陶器(在地) 片口鉢	口縁～体部片				口クロ(凹断台)調整		162-5
7	lc-452	11A-SD1001・下層	土師質土器・権鉢	底部～体部片				外面ナシ、内面磨目		162-6
8	K-149	11A-SD1001・下層	石製品・砥石	ほぼ完形	径7.0	幅3.2	厚2.4	8径、テイスライト質砥石		162-7
9	lc-443	11A-SD1002	陶器(伊達台石) 片口鉢	底部1/6				口クロ(凹断台)調整、内面磨目、底部外縁に砥石に彫削		162-9
10	lc-38	11A-SD1002	土師質・器種不明	?				板状、短弁1本		162-10
11	K-121	11A-SD1002	石製品・砥石	中央部のみ	長3.4+	幅2.4	厚1.5	14径土、テイスライト質砥石		162-11
12	lc-442	11A-SD1009	陶器(在地) 片口鉢	口縁部小片				口クロ(凹断台)調整		162-13
13	K-117	11A-SD1002	石製品・和鏡口土臼	1/4	(45.0)		72.0	11A-SF1出土鏡片と接合、変山形		162-12

第364図 SD1001・1002・1009出土遺物



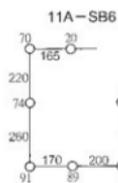
層位	色調	土質	肥人物・その他
1 10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒散在
2 10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒散在
SD2			
1 10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒散在、V層小ブロック散在
SD3			
1 10YR4/2	黄褐色	シルト	炭化物粒散在
2 10YR3/2	黄褐色	シルト	炭化物粒散在

第365図 11A-SD1～3断面図
(平面図は第362図)



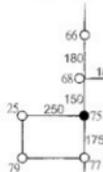
11A-SB12

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
15	IVb	39	47	?
142	Va	46×38	35	?
147	Va	28	30	?
132	Va	31	26	?
134	Va	30	25	?
139	Va	21	19	?
148	Va	40	33	?
規模		東西3.5m	南北3.4m+	
柱間		梁行間	身倉桁行間上	
柱間		1.7～1.8m	身長1m, 脚1.3m	
面積		11.6㎡	積さ 25°E	
備考 SE2の上段?				

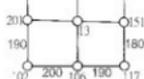


11A-SB4

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
199	Va	26	26	?
100	Va	58×50	15	?
89	Va	24	17	?
91	Va	36×28	35	?
74	Va	66×56	19	?
70	Va	61	16	?
20	IVb	39×35	32	?
規模		東西3.7m	南北4.8m	
柱間		1.65～2.0m	2.2m・2.6m	
面積		17.2㎡	積さ 20°W	

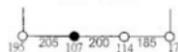


11A-SB7



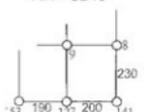
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
201	Va	30	31	?
13	IVb	54×50	52	?
151	Va	54	26	?
117	Va	60×50	27	?
107	Va	60×50	41	?
102	Va	70×62	39	?
規模		東西3.9m, 2間	南北3.9m, 1間	
柱間		1.9～2.0m	1.8～2.0m	
面積			積さ 34°E	
備考 総柱・倉庫?				

11A-SB8



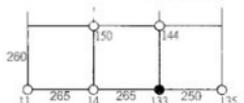
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
195	Va	30×24	15	?
107	Va	40×36	27	14
114	Va	30	9	?
17	IVb	34	34	?
規模		東西5.9m, 3間		
柱間		1.85～2.05m	積さ (37)°E	

11A-SB10



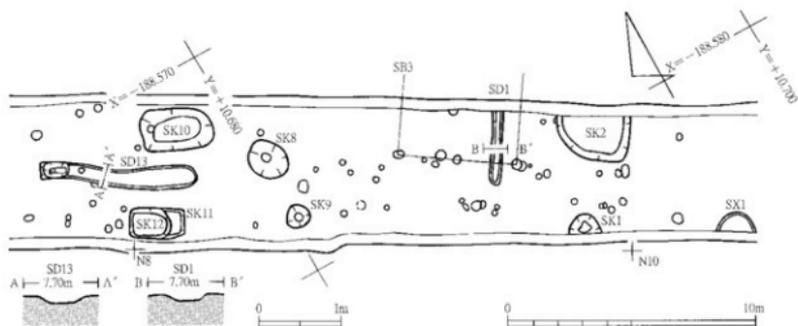
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
9	IVb	48×9	47	?
8	IVb	39	53	?
141	Va	25	21	?
127	Va	29	19	?
153	Va	34×26	15	?
規模		東西3.9m, 2間	南北2.3m+, 1間+	
柱間		1.9～2.0m	2.3m	
面積			積さ 38°E	
備考 総柱・倉庫?				

11A-SB14

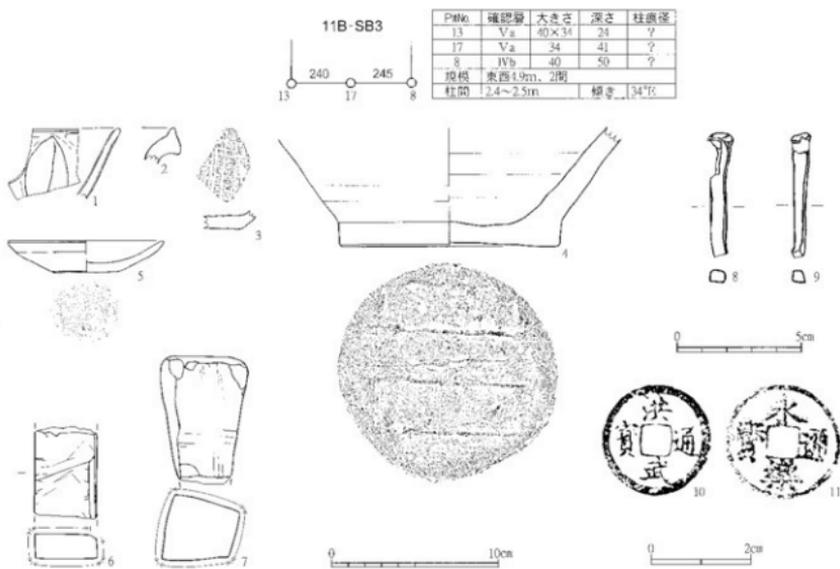


PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
79	Va	30×24	31	?
25	IVb	44×40	45	?
77	Va	50×45	40	?
75	Va	56×50	25	10
68	Va	22	46	?
66	Va	60×7	27	?
62	Va	49	47	12
95	Va	40×9	25	?
90	Va	42×38	21	10
87	Va	58×50	36	14
83	Va	54×50	29	?
99	Va	36	19	12
104	Va	46×42	10	?
111	Va	34×30	32	?
156	Va	29	19	14
16	IVb	42	30	?
規模		東西3.7m	南北5.2m+	
柱間		6間・西に渠出し1間	3間+	
柱間		身長.55～2.1m	1.50～1.82m	
面積		渠出し2.5m		
備考		西がり屋ノ庫	積さ 34°E	

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
150	Va	29	20	?
144	Va	43	27	?
138	Va	40×32	68	?
133	Va	25	32	12
14	IVb	28×24	32	?
11	IVb	34	53	?
規模		東西3.8m, 3間	南北2.6m+, 1間+	
柱間		2.5～2.65m	2.6m	
面積			積さ 34°E	
備考 総柱?				



第366図 11B西部IVa層上面(IVa3・4期)平面図、11A-SD13・11B-SD1断面図

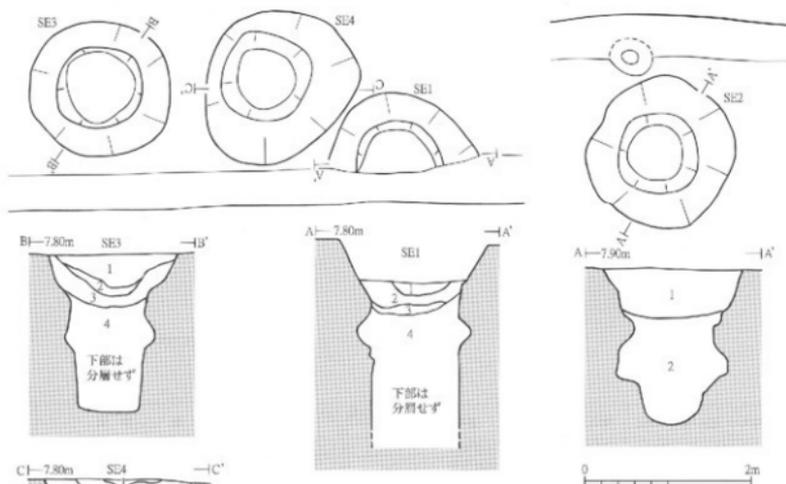


No.	登録No.	地区・遺構・単位	種別(産地) 群種	進捗度	法量 (cm)			調査・特徴	参考図版
					11径	底径	器高		
1	E-137	11A-P5	曹研(龍泉窯系)陶	口縁部小片				結蓮弁文	164-6
2	E-441	11A-SD3	陶器(常滑) 甕	11縁部小片				ヨコナデ、5型式	162-13
3	E-440	11A-SD3	陶器(常滑戸) 煎皿	底部小片				灰輪、中期	162-14
4	E-586	11A-SK8	陶器・鉢	底部		13.2		ロクロ調整、内面磨減、底部に板状法痕	164-2
5	E-84	11A-SK13	土師質土器・小皿	2/3	9.4	4.0	2.0	ロクロ調整→ナデ、回転蒸切	164-4
				長さ	幅	厚さ			
6	K-154	11A-P32	石製品・砥石	中央部のみ	5.5+	3.7	1.6	73g+、サイズサイト質灰岩	164-7
7	K-153	11A-SK6	石製品・砥石	ほぼ完整	7.7	5.2	4.0	225g、砂質凝灰岩	164-1
8	Na-224	11A-SK8	鉄製品・釘	頭~中央部	5.1-	0.6	0.5	9g+	164-3
9	Na-220	11A-F101(1A-SB7)	鉄製品・釘	頭~中央部	5.7-	0.5	0.5	5g+	164-8
10	NS-181	11A-SK18	銅製品・残片	完整	162.3			重2.5g 洪武通寶(明・初洪1368年)	164-5
11	NS-183	11A-SD3	銅製品・残片	完整	162.2			重1.8g 永樂通寶(明・初永1408年)	162-16

第367図 11A-SB7, SD3, SK6・8・13・18、ビット出土遺物

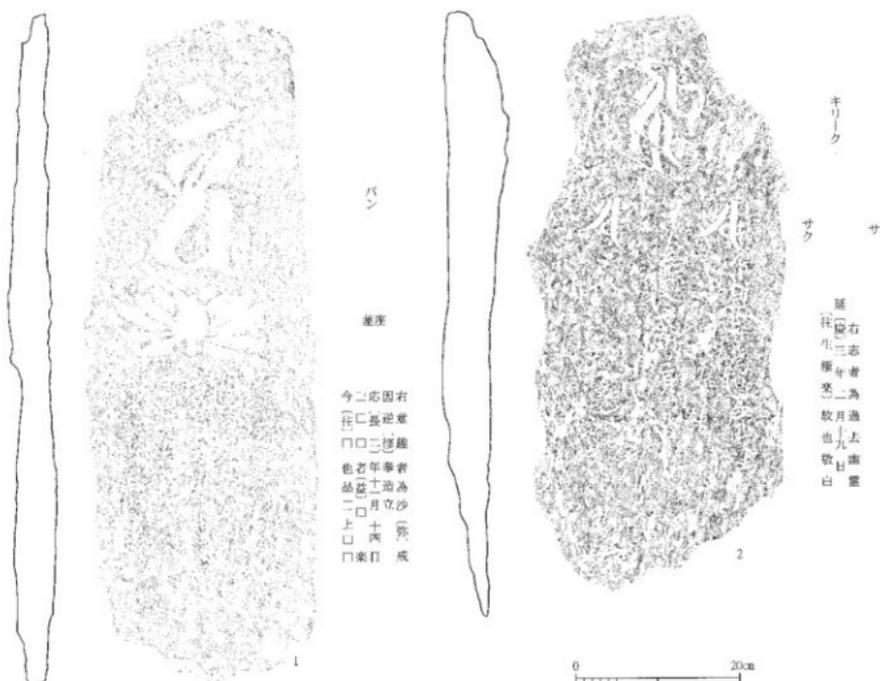
No.	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11A-SE1	M6・IVb層	円形?	188×?	263+	IVa2～4期
11A-SE2	M6・IVb層	円形	188×180	188	IVa4期、板硝皮産、11A-SE12の内部
11A-SE3	M5・IVb層	円形	170×166	195	IVa2～4期、板硝皮産、SE7を切る
11A-SE4	M6・IVb層	楕円形	195×170	204	IVa2～4期
11A-SE5	Q7・Va層	円形	254×236	202	IVb～IVa2期、中世陶器
11A-SE6	M4・Va層	円形	175×164	261	IVb～IVa2期、中世陶器
11A-SE7	M5・Va層	隅丸方形	168×?	235	IVa2期、常滑(10形式)、SE3に切られる
11A-SE8	M2・Va層	楕円形	230×?	244	IVa1～2期、土師質土器、古瀬戸(後1～2期)
11A-SE9	P6・11A-SD1底面	円形	122×118		IVa1～2期、古瀬戸(後1～2期)
11A-SE10	M2 11A-SK23底面	楕円形	100×85	(160)	Va4期

表113 11A区 井戸跡一覧表



層位	色面	土質	遺人物・その他
11A-SE1	1 2.5Y2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物多量
2 2.5Y1/2 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量、植物遺体産	
3 30YR3/1 暗褐色	粘土質シルト	植物遺体多量	
4 2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰オリブ灰色粘質シルトブロック多量	
11A-SE3	1 30YR3/2 暗褐色	シルト	褐色粘土質シルトブロック少量、炭化物・焼土粒産
2 30YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト		
3 30YR4/1 黄灰色	粘土質シルト	黒色粘土質シルトブロック多量、炭化物粒産	
4 2.5Y3/1 暗褐色	粘土質シルト	黄灰色砂質シルトを基状に少量	
11A-SE4	1 30YR2/2 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄多量
2 30YR4/2 黄褐色	シルト	にぶい黄色砂質シルトブロック多量、炭化物粒少量	
3 30YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、粘土粒産	
4 30YR1/2 暗褐色	シルト	にぶい黄色砂質シルトブロック多量	
5 5Y4/1 灰色	粘土質シルト	橙オリブ灰色砂質シルトブロック・炭化物粒少量	
11A-SE2	1 30YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土粒産、V層小ブロック産
2 30YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	V層ブロック多量	

第368図 11A-SE1～4平面・断面図



バン
蓮座
今二応因右
在口長逆意
口口二修趣
也名年奉者
益益工治為
二口月立沙
上口十内
口葉口成

キリーク
サク
サク
延(三)石志
行(三)年者為
生(一)月二為
願(一)去月九
交(一)去月九
也(一)去月九
白(一)去月九

No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	K-164	11A-SF2・2層	石製品・板碑	ほぼ完形	81.8	28.4	5.7	種字「バン」、真岩	163-5
2	K-165	11A-SF2・2層	石製品・板碑	ほぼ完形	74.3	30.3	7.5	種字「キリーク」、真岩	163-4

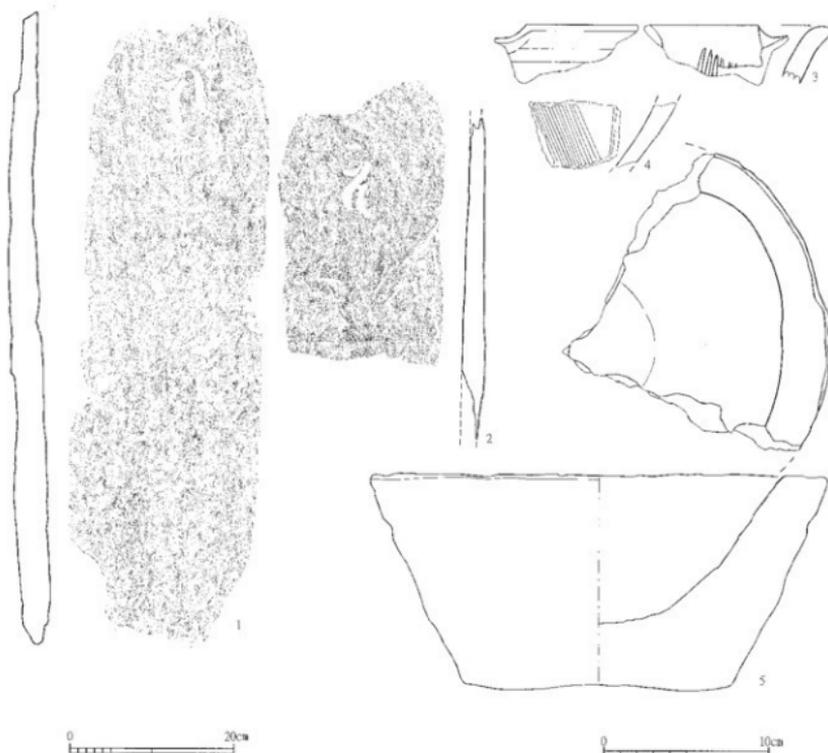
第369図 11A-SF2出土遺物

SD1003の西に隣接する11B-SK21~23(第401図)はIVa層上面での確認であるのでIVa期と確定できる。また、11A-SK8~12・14とSD1009の南側の11A-SK18はVa層上面で確認しているが、これらのうちSK8・10が出土遺物からIVb~IVa期、SK18がIVa期と推定される。SK9・11・12・14については時期が確定できない(表112)。

遺物は土師器・須恵器・土師質土器・中世陶器などであるが、11A-SK6から土師器・須恵器が100点以上出土したのと11A-SK3から土師器・須恵器が20点出土した他は数点ずつ出土したのみである(表132)。図化できたのは11A-SK6の砥石K-153(第367図7)と11A-SK13の土師質土器1a-84小皿(第367図5)、11A-SK18の銭貨Nb-181(第367図10)、11B-SK1・2の鉄製品と在地の中世陶器片(第396図5・8・9)である。

(5)ピット

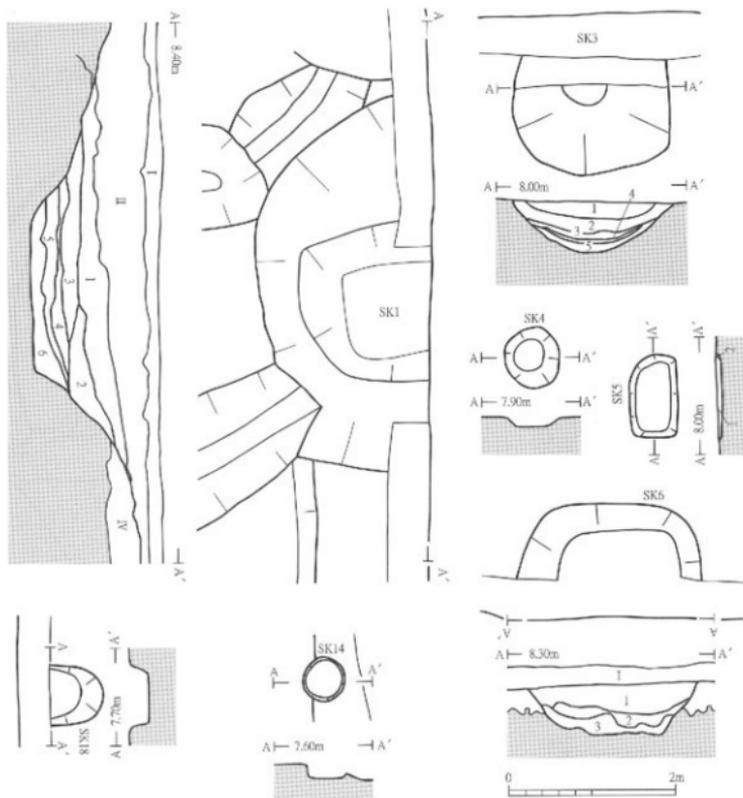
SD1003の西側では掘立柱建物跡としての組み合わせが不明で、性格不明として残ったピットが約100基ある。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	K-163	11A-SE2・2層	石製品	板碑	ほぼ完整	77.1	22.5	4.0	真岩	163-3
2	K-161	11A-SE3・4層	石製品	板碑		39.0+	20.6	2.6	雑字「パン」、頁岩	162-18
3	Ib-38	11A-SE2	瓦質土器	片口揃鉢	口縁部小片				口縁口縁盤、内面に刷目、白針微量	163-1
4	Ib-37	11A-SE3	瓦質土器	揃鉢	鉢部小片				口縁口縁盤、内面に刷目、白針微量	162-17
5	K-159	11A-SE2・2層	石製品	石鉢	1/4	(28.1)	(16.1)	13.4	1380g、安山岩	163-2

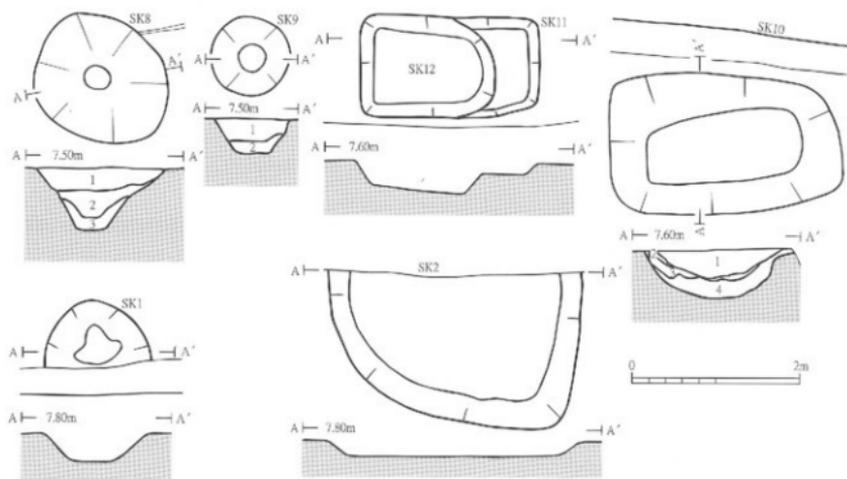
第370図 11A-SE2・3出土遺物

これらのピットからの出土遺物の大部分は土師器片や須恵器片などであるが(表132)、青磁碗、石製品、土師器、鉄製品など4点が図化できた(第367図1・6、第396図6・7)。Nb-185(第396図7)はSD1003のすぐ西側にあるP53(第392図)から出土した甲冑の脇板と推定される破片である。上下方向に折れ曲がっていて遺存状況は良くない。脇板の孔は2孔で、上の孔には小桜鉾、下の孔には鶏口をはめている。また下縁のみをはめた小孔が方形に偏る4箇所と下方に1箇所設けられている。なお、小桜鉾・鶏口・玉縁などや覆輪は金剛製と推定される。



層位	色調	土質	層入物・その他	
11A-SK1	1	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物粒少量
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒微量
	3	2.5Y/1 黄灰色	粘土質シルト	炭化物粒微量
	4	2.5Y3/2 黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量
	5	2.5Y3/1 黄褐色	粘土質シルト	
	6	2.5Y3/2 黄褐色	粘土質シルト	暗灰黄色砂質シルトを混在に少量
11A-SK3	1	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物粒微量
	2	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	炭化物粒微量
	3	10YR5/2 黄褐色	砂質シルト	マンガン灰多量
	4	10YR7/1 黒色	炭化物層	
	5	10YR5/2 黄褐色	砂質シルト	
11A-SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物少量、粘土微量
11A-SK5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭生物・粘土ブロック少量
	2	5YR3/1 黒褐色	シルト	(焼け面)
11A-SK6	1	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭生物・粘土粒少量
	2	10YR5/6 にぶい黄褐色	砂質シルト	深層 灰褐色ブロック少量
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
11A-SK14	1	10YR2/1 黒色	シルト	黄褐色砂質シルトブロック・炭化物少量

第371図 11A-SK1・3～6・14・18 平面・断面図



調査	層位	色調	土質	要人物・その他
11A-SK8	1	10YR3/2 黒褐色	粘土	掘入物・その他 にぶい黄褐色砂質シルト・ブロック少量、炭化物微量 暗褐色土層砂を層状に積重 黒褐色粘土ブロック少量
	2	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	
	3	2.5Y4/1 灰色	細砂	
11A-SK9	1	10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色細砂ブロック少量、炭化物微量 にぶい黄褐色細砂ブロック少量
	2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
11A-SK11	1	10YR3/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土 砂質シルト	ブロックの混入 入浴的埋土
11A-SK12	1	10YR3/2 黒褐色	粘土	
11A-SK10	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量 炭化物微量 炭化物微量 互潤
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	
	4	2.5Y4/1 黄灰色 10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト 砂質シルト	
11B-SK1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	褐色砂質シルトブロック少量
11B-SK2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	褐色砂質シルトブロック・炭化物微量

第372図 11A-SK8～12、11B-SK1・2平面・断面図

3. 11F区（北部以外）の遺構と遺物

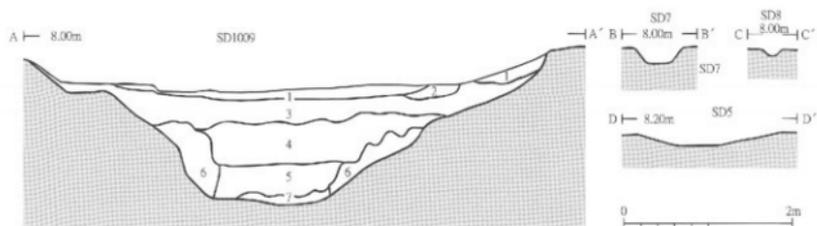
11F区東部を城館の中心の曲輪南辺であるSD1009が横断し、それに直交するSD1013が南部を横断している。なお、SD1013の東側に並行する11F-SD4もSD1013よりも規模は小さいがIVa3期の区画溝と推定される。SD1009の南側は地表面で堀跡が確認できなかった地区であるが、SD1013と11F-SD4を確認できたことでSD1009の南側にも曲輪が存在することが判明した。

SD1013の西側は東西長が40m以上あり、ここから掘立柱建物跡8棟、小規模な溝跡3条、井戸跡6基、土坑8基、ピット90基を検出している（第373・374図）。

SD1013の東側は東西長22m以上、SD1009以南の南北長は28m以上あるが、ここからは掘立柱建物跡3棟、堅穴遺構1基、小規模な溝跡2条、井戸跡6基、土坑28基、ピット170基を検出している（第374図）。

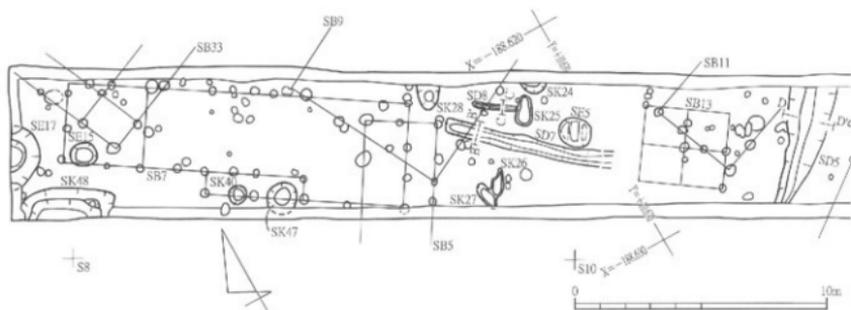
(1) 溝跡

SD1009（第373・374図） 11F区東部に位置する堀跡である。確認面はIVb層上面であるが、調査区壁面でIVa層上面から掘り込まれていることを確認した。幅は6.5～7.0m、深さは約1.8mで、堆積土の状況から少なくとも1回は改修されていると考えられる。IVa3・4期を通して、このSD1009の北側と南側における南北方向の堀が連続せず、SD1009によって分断されている状況からすると、SD1009はIVa3・4期を通して機能していたと推定される。このSD1009は位置関係から西側の11A区で確認された部分の続きで、東側の11C区につながっていくと考えられる。

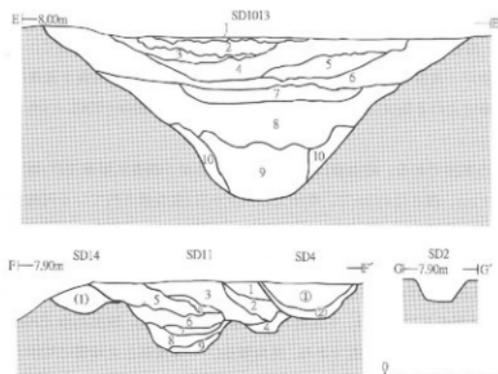


SD1009

層位	色調	土質	混入物・その他
1	0YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄を斑状に多量
2	0YR4/2 褐色	粘土質シルト	酸化鉄を斑状に少量
3	7.5Y3/1 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄を斑状に少量
4	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	腐植質を斑状に少量
5	3.5Y2/1 黒色	粘土	腐植質を斑状に少量
6	7.5Y2/1 黒色	粘土	緑灰色砂ブロック少量
7	7.5Y2/1 黒色	粘土	緑灰色砂ブロック多量



第374図 11F区西部IVa層上面（IVa3・4期）平面図、SD1009、11F-SD5・7・8断面図



SD1013

層位	色調	土質	遺入物・その他
1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV期の遺入物?
2	10YR3/3 暗褐色 10YR2/2 黒褐色 10YR4/4 褐色	シルト 粘土 砂質シルト	ブロックの融合 炭化物微量
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒褐色粘土ブロック少量
4	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロック多量
5	2.5Y1/1 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック・黒褐色粘土ブロック微量
6	10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土	
7	10YR2/1 黒色 2.5Y3/1 黒褐色	粘土 粘土質シルト	珪層
8	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック少量
9	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	黒色粘土ブロック微量
10	10Y3/3 オリーブ黒色	珪砂	珪砂灰色珪砂ブロック・黒色粘土ブロック少量

SD4

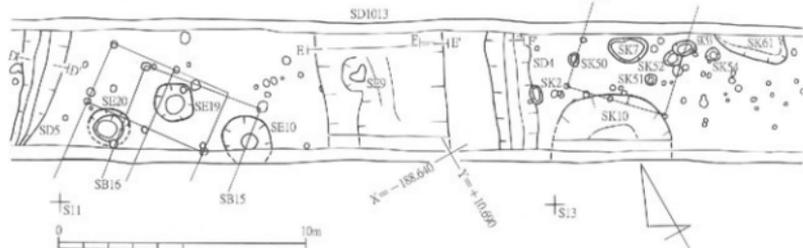
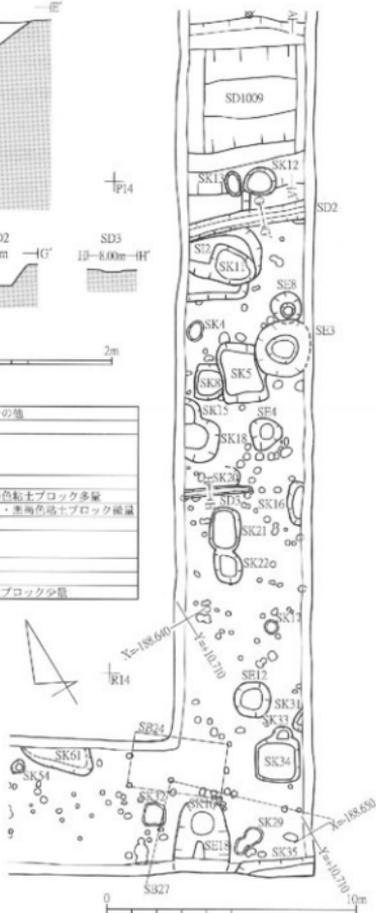
層位	色調	土質	遺入物・その他
①	10YR3/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト シルト	炭化物微量、人為的な埋め土
②	10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物微量

SD11

1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物微量
2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物微量
3	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック微量
4	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量
5	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物少量
6	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	オリーブ褐色砂質シルトブロック少量、炭化物微量
7	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	暗褐色砂質シルトブロック多量
8	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質粘土	黄灰色粘土ブロック少量
9	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	

SD14

①	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック微量、炭化物少量
---	-------------	-----	-------------------------



第374図 11F区東部 IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図、SD1013・11F～SD2～4・11・14 断面図

遺物は約150点出土した。1/3は土師器・須恵器など古代の遺物であるが、残り2/3以上が中世の遺物で、その中でも国産の無釉陶器が最も多い(表138)。瀬戸・常滑・在地産などの国産陶器や瓦質の播鉢、土師質土器皿などの他、中国産の白磁1-120四耳壺、三彩の壺と推定される陶器ic-371、甲冑(銅丸)の杏葉覆輪Nb-228など9点が図化できた(第375図)。

SD1013 (第374図) 11F区南部に位置する堀跡である。確認面はIVb層上面であるが、調査区壁面でIVa層上面から掘り込まれていることを確認した。幅は5.2m、深さは約2mで、堆積上の状況から1度改修されている可能性がある。このSD1013のすぐ東側に並行して、先行する時期のK面溝である11F-SD4・11・14があることから、この場所に比較的長期間にわたって地割線が存在した可能性がある。SD1013はこの最終段階のIVa4期段階のものと考えられる。

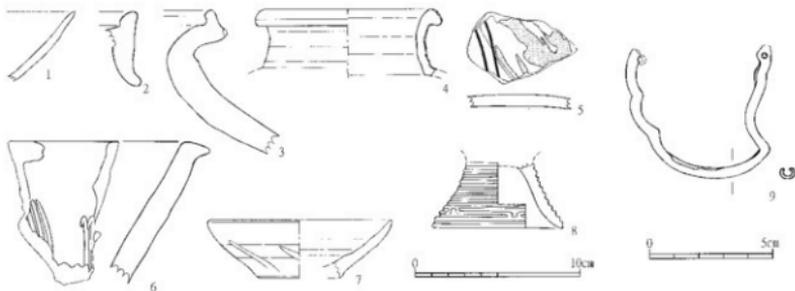
遺物は約130点出土した。1/3は土師器・須恵器など古代の遺物であるが、残り2/3が中世の遺物で、その中でも国産の無釉陶器が最も多い(表138)。常滑産の陶器や瓦質の播鉢、中国産の青磁皿や碗、石製品、鉄製品など10点が図化できた(第376図)。紡錘貝L-478は紡軸が鉄製、紡錘車が木製である。鹿角製品Q-11は基部と先端部に切断された痕跡が残る。

11F-SD2 (第374図) IVb層上面で確認した溝跡で、SD1009の南側に並行している。幅60~70cm、深さ30cm。堆積上は直上のIVa層が入り込んだ単層である。時期はIVb~IVa期と考えられるが限定はできない。遺物は土師器・須恵器・中世陶器など約20点であるが図化できたものはない。

11F-SD4 (第374図) 南部のIVa層上面で確認した溝跡である。幅は約1.5m、深さ45cm、堆積上層は人為的に埋め戻されている。

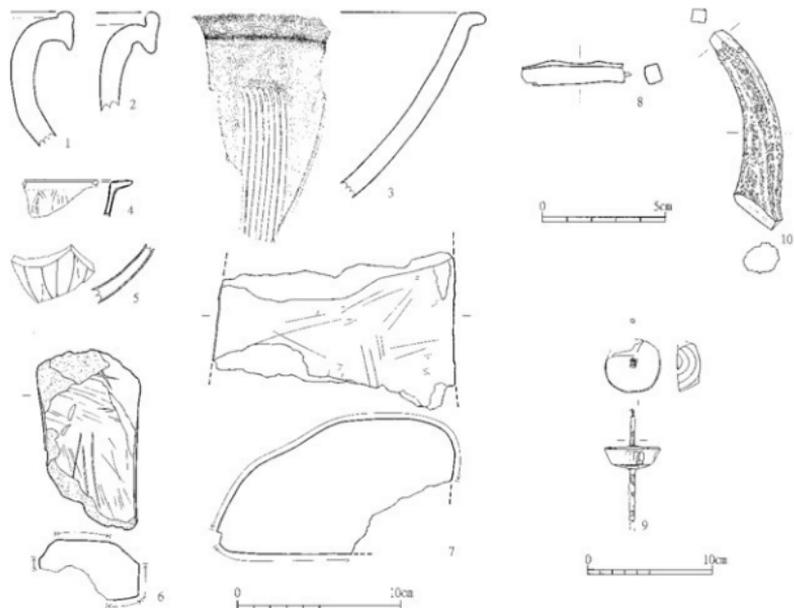
SD1013の東側には11F-SD14→SD11(古)→SD11(新)→SD4の4本の溝跡が重複しているが、SD11とSD4はそれぞれが古い溝の埋没後に東側に幅半分ほどずらして掘りなおされたものである。SD1013を含めると5条の溝がほぼ同じ場所掘りなおされており、SD1013がIVa4期と推定されるので、SD14・SD11(古)・SD11(新)・SD4はそれ以前のIVa1~3期までの時期に該当すると考えられる(SD14とSD11については第2節に記載した)。

遺物は土師器・須恵器・中世陶器など約30点で、瀬戸産の仏花瓶の蓋1点が図化できた(第377図)。



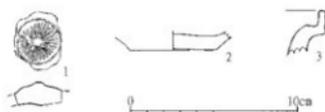
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真図録
					口径	底径	器高		
1	ic-370	11F-SD1009・下層	陶器(古瀬戸)平筒	口縁~体部上				灰輪、輪上型	174-1
2	ic-368	11F-SD1009・上層	陶器(常滑)壺	11縁部小片				ヨコナデ、S型式	174-2
3	ic-369	11F-SD1009・下層	陶器(在地・門内)壺	口縁~体部片				口縁部ヨコナデ、体部ナデ	174-3
4	J-120	11F-SD1009・下層	白磁(中国)四耳壺	口縁部1/4	(10.0)				174-4
5	ic-371	11F-SD1009・下層	陶器(中国)壺	小破片				三彩?、別島白土彩色の灰、黒褐色の二色の刷目	174-5
6	ts-33	11F-SD1009・上層	瓦質土器・播鉢	口縁部小片				ロクハ型器、内面黒色	174-6
7	ic-69	11F-SD1009・下層	土師質土器・皿	1/4	(11.2)	(5.0)	3.6	ロクハ型器、体部外面一部ナデ	174-8
8	A-1	11F-SD1009・下層	漆文土器・台付浅鉢	脚部のみ				沈隆で文整、体部外面一部ナデ	174-7
9	Nb-228	11F-SD1009・下層	陶製品・甲冑台鉢	覆輪1/2	長5.8	幅5.8	厚0.6	右田、上下2段分割式の卜例	144-0

第375図 SD1009出土遺物



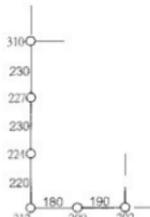
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図取
					長さ	幅	高さ		
1	Ic-363	11F-SD1013・下層	陶器(常滑)甕	口縁～体部片				口縁ヨコナデ、体部ナデ、口縁内面～内面に灰白色の産地肌 6a型式	174-10
2	Ic-576	11F-SD1013・下層	陶器(常滑)甕	口縁～体部片				口・腹部ヨコナデ、体部ナデ、6a型式	174-11
3	Ia-68	11F-SD1013・下層	土師質土器・磁鉢	口縁～体部片				口・腹部内面ヨコナデ・横片、口縁内面	174-14
4	J-119	11F-SD1013	青磁(備前京系)磁器反皿	口縁部小片				遺片文	174-12
5	J-175	11F-SD1013	白磁(歌麩窯系)陶	体部片				遺片文	174-13
6	K-125	11F-SD1013・下層	石製石・砥石	端部のみ	10.5+	6.0	3.6	245g±、デイスイト	174-16
7	K-126	11F-SD1013・下層	石製石・砥石	中央部のみ	9.8+	15.0	8.4	1320g±、デイスイト	174-15
8	Na-418	11F-SD1013・上層	鉄製品・釘	中央部	4.5+	0.7	0.6	7g±	174-17
9	L-478	11F-SD1013・下層	木製複合品・紡錘具	一部欠損	9.1+	径4.5	軸径0.3	紡錘具鉄製、紡錘具木製	174-18
10	Q-1	11F-SD1013・下層	糸紡製品		8.5	径1.1		両端に切断痕	174-19

第376図 SD1013出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図取
					口縁	底径	高さ		
1	Ic-376	11F-SD4	陶器(古瀬戸)仏花瓶	小破片				つまみに菊花文、中1期	174-20
2	Ia-71	11F-SD4	土師質土器・甕?	底部		5.2		口・腹部内面ヨコナデ～ヨコナデ、体部ナデ、6a型式	174-21
3	Ic-405	11F-SI 2	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ、3型式	174-22

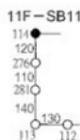
第377図 11F-SD4・14、SI2出土遺物



11F-SB9

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
310	Va			
227	Va	44×40	32	?
224	Va	29	19	?
212	Va	30×28	29	?
209	Va	40×30	23	?
202	Va	38×18	18	?

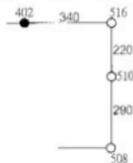
規模 東西(3.7m)、南北(6.8m)
 規様 単行2間
 柱間 1.8~1.9m
 面積 (25.2㎡) 横さ 28"W



11F-SB11

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
111	Vb	34×30	70	14
276	Va	36×30	28	?
281	Va	27	11	?
113	Vb	40	33	?
112	Vb	42×36	35	?

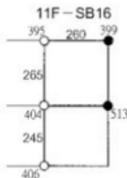
規模 東西3.1m+、南北3.7m、3間
 柱間 1.1~1.4m
 面積 横さ 22"W



11F-SB15

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
402	Va	40×36	28	11
516	Va	35×30	14	?
510	Vb	37	49	?
508	Vb	38	48	?

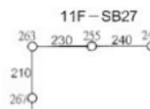
規模 東西3.1m+、南北5.1m、2間
 柱間 3.4m
 面積 横さ 40"W



11F-SB16

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
406	Va	34×?	18	?
404	Va	26	35	?
395	Va	27	44	?
399	Va	28	29	14
513	Vb	25×22	5	6

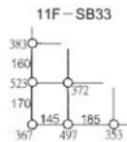
規模 東西2.6m+、南北3.1m、2間
 柱間 2.6m
 面積 横さ 38"W
 備考 廊下?



11F-SB27

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
267	Va	21	26	?
263	Va	21	18	?
255	Va	26	29	?
244	Va	22	25	?

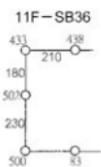
規模 東西4.7m+、南北2.1m+、2間
 柱間 2.3~2.4m
 面積 横さ 143"E
 備考 SF16・18の上層?



11F-SB33

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
383	Va	58×?	19	?
523	Vb	36	40	?
367	Va	60×48	15	?
372	Va	32×36	17	?
467	Va	40×34	11	?
353	Va	43×42	41	?

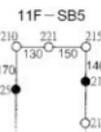
規模 東西3.3m+、南北3.5m+、2間+
 柱間 1.45~1.85m
 面積 横さ 22"W
 備考 廊下?



11F-SB36

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
438	Va	24	26	?
433	Va	26×22	41	?
502	Vb	20	25	?
500	Vb	16	31	?
83	Va	41	32	?

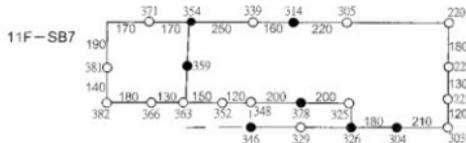
規模 東西2.1m+、南北4.1m、2間
 柱間 2.1m
 面積 横さ 144"E
 備考 SX1の上層?



11F-SB5

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
225	Va	68×50	27	20
210	Va	60×46	18	?
221	Va	28	19	?
215	Va	30	36	?
213	Va	40×30	15	12
211	Va	28×24	28	?

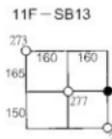
規模 東西2.8m 南北3.1m+
 規様 単行2間
 柱間 1.3~1.5m
 面積 横さ 34"E



11F-SB7

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
371	Va	31	45	?
354	Va	52×48	50	13
339	Va	30×30	40	?
314	Va	30×24	52	12
305	Va	48×42	9	?
220	Va	25	19	?
222	Va	32×28	30	?
223	Va	80×26	23	?
303	Va	34×?	23	?
304	Va	31	21	11
326	Va	38	40	12
329	Va	39	31	?
346	Va	36×30	41	8
325	Va	22	13	?
328	Va	30×22	22	8
348	Va	28×?	10	?
352	Va	30	34	?
363	Va	30	12	?
366	Va	26	20	?
382	Va	32×26	24	?
381	Va	28	29	?
359	Va	38	20	12

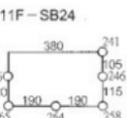
規模 東西13.7m 南北4.3m
 規様 単行8間
 柱間 1.2~2.2m
 面積 53.6㎡ 横さ 31"E



11F-SB13

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
273	Va	26×22	17	?
277	Va	40×36	34	?
285	Va	32	12	10
284	Va	36×28	20	?

規模 東西3.2m、南北3.15m+、2間+
 柱間 1.6m
 面積 10.2m+
 備考 廊下?・倉庫?



11F-SB24

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
241	Va	20	5	?
246	Va	30×22	24	?
253	Va	24×?	34	?
264	Va	23	25	?
265	Va	28×22	16	?
266	Va	24	9	?

規模 東西3.8m 南北2.2m
 規様 単行2間
 柱間 1.9m
 面積 8.5㎡ 横さ 37"E

11F-SD3・5 (第373・374図) IVa層上面で確認した溝跡で、SD3はQ14グリッド、SD5はR10グリッドに位置する。幅はSD3が30cm、SD5が0.5～2mあるが、深さは両者とも5～10cm程度で、堆積土は直上のIII層が入り込んだ層である。時期はIVa期以降と考えられるが、出土遺物がないため詳細は不明である。

11F-SD7・8 (第373図) 南部のVa層上面で確認した溝跡である。SD7は幅50～60cm、深さ20cm、SD8は規模が小さく幅20cm、深さ5～10cmである。堆積土は直上のIV層が入り込んだ層である。SD7の時期は中世陶器が出土しているのIVb～IVa期と考えられるが、SD8については限定できない。

遺物はSD7から土師器・須恵器・中世陶器など15点が出土したが図化できたものはない。

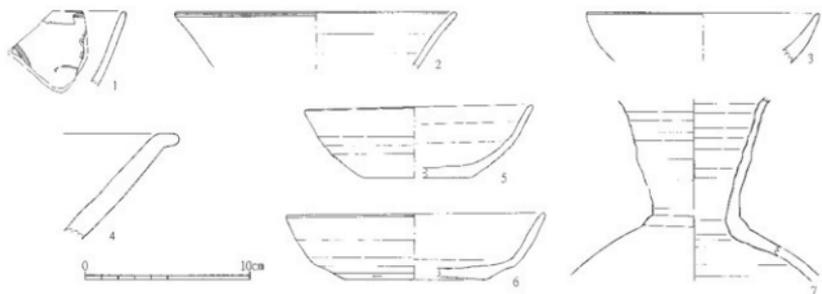
(2) 掘立柱建物跡

SD1013や11F-SD4の西側の曲輪で8棟、東側の曲輪で3棟確認された。城館の主軸方向から大きく傾く(22～43°西傾)11F-SB9・11・15・16・27・33・36の7棟がIVa4期と考えられる。SB15とSB16は南北が全く同じ長さであるので、ほぼ同じ場所で建て替えられた建物跡である可能性が高い。それぞれ11F-SE19とSE20が建物内の位置にあるので関連する可能性が考えられる。なお、調査区に制限が多いためはつきりしないが、比較的小さな建物跡が多い。IVa3期の建物跡は、城館の主軸方向からやや東に振れる(34～37°東傾)11F-SB5・7・13・24の4棟である。11F-SB7は身舎の桁行8間、梁行2間で南側に廊がつく東西に細長い建物跡で、平面形や面積などは10C区で検出した10C-SB4に類似している。なお、このSB7は11F-SB5と重複しているが新旧関係は不明である。また、これらの東側にある2間×2間の11F-SB13は南北に長い建物である可能性がある。

建物跡からの出土遺物はほとんどが土師器や須恵器で、SB7が30点以上ある以外は非常に少ない。図化できたのはSB7の土師質土器Ia-76とSB16の須恵器E-87である(表139、第378図3・6)。

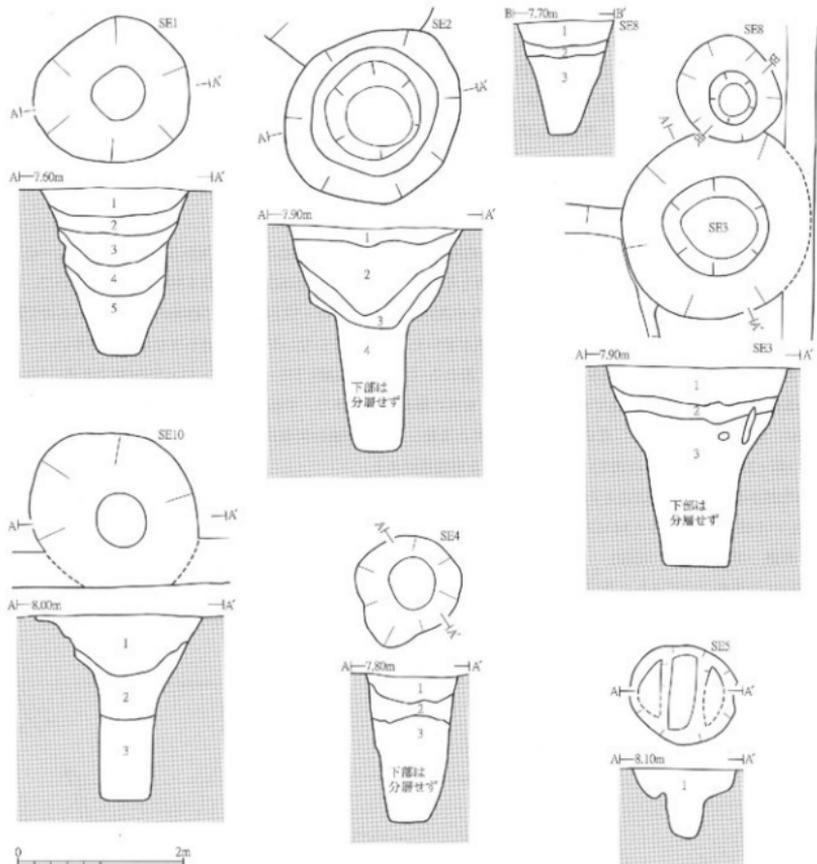
(3) 井戸跡 (第379・381・382図)

SD1009の南側で検出された井戸跡は19基であるが、重複関係などから他の時期と考えられるものを除くと、この時期に該当する可能性があるものは15基ある。規模などの詳細は表114(26頁)のとおりである。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(所在地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 掲載
						口径	底径	器高		
1	J-126	11F-P319	古銭(鎌倉皇室)	銅	口縁部小片				銅花文	181-5
2	J-127	11F-P323	白磁(中国)	碗念仏	口縁部小片				口秀	181-6
3	Ia-76	11F-P330(1F-SB7)	土師質土器	皿	口縁部1/8	(14.2)			口縁部調整	181-10
4	Ib-51	11F-P330	瓦質土器	鉢	口縁部小片				口縁部調整、口縁部調整、口縁部調整、口縁部調整	181-9
5	E-85	11F-P465	須恵器	杯	2/3	(13.9)	(6.3)	4.3	口縁部調整、口縁部調整、口縁部調整、口縁部調整	181-8
6	E-87	11F-P395(11F-SB16)	須恵器	杯	1/6	(15.8)	(8.6)	(4.0)	口縁部調整、口縁部調整、口縁部調整、口縁部調整	181-7
7	E-86	11F-P484	須恵器(大戸)	長頸瓶	胴部～体部				口縁部調整	181-11

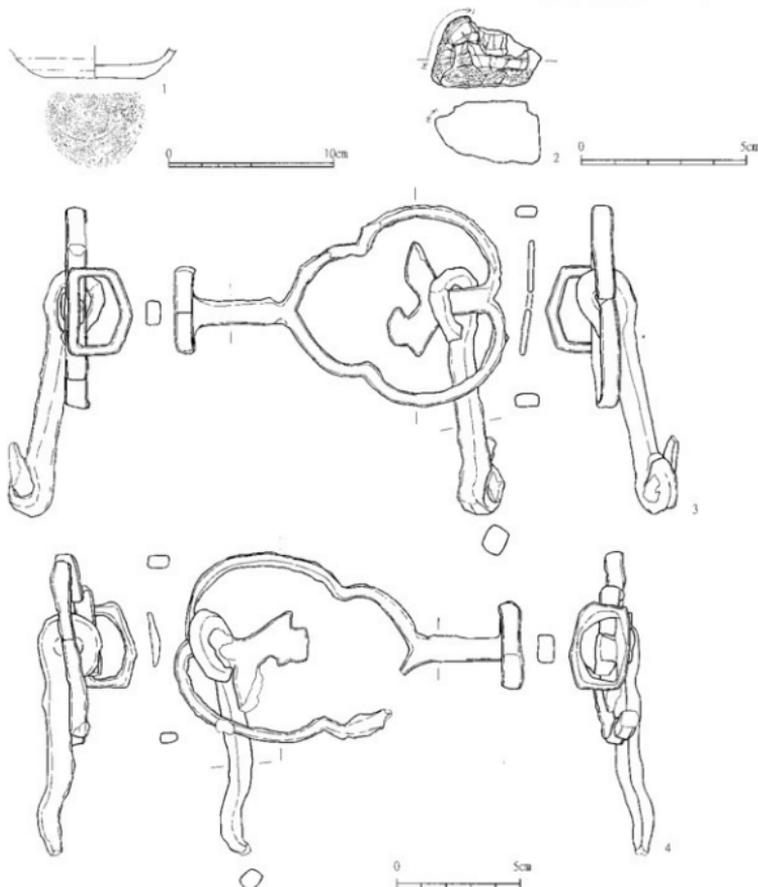
第378図 11F-SB7・16、ヒット出土遺物



層位	色調	土質	埋入物・その他
11F-SE1	1 10YR2/1 黒色	シルト	炭化物・粘土粒少量
	2 2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック多量、炭化物・焼土粒少量
	3 2.5Y2/1 黒色	シルト	炭化物・粘土粒少量、礫物遺体多量
	4 2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	互層
	5 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	
11F-SE2	1 10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・礫物遺体多量
	2 10YR1.7/1 黒色	粘土質シルト	互層
	3 10YR3/1 黒褐色	シルト	
	4 10YR3/3 黒褐色	シルト	
11F-SE3	1 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	互層
	2 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	
	3 5Y2/1 オリーブ黒色	砂質シルト	
	4 5Y2/1 黒色	粘土	
11F-SE8	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土ブロック少量、炭化物粒少量
	2 10YR4/2 灰褐色	粘土	炭状炭化粒、炭化物粒少量
	3 10Y2/1 黒色	粘土	炭状炭化粒少量

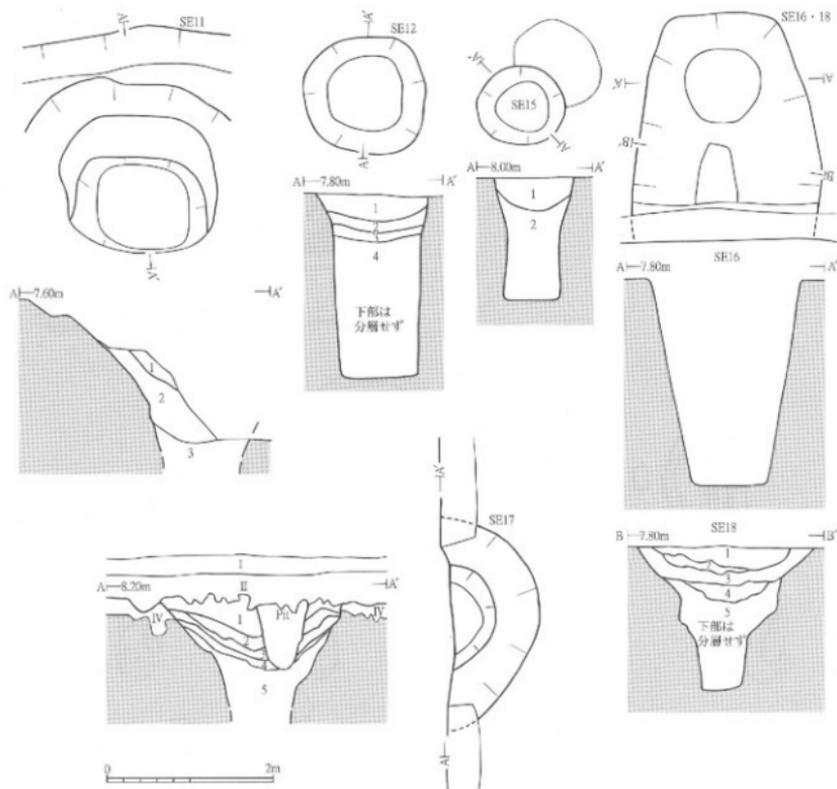
第379図 11F-SE1~5・8・10平面・断面図

層位	色面	土質	混入物・その他
11F-SE3	1 10YR1/3 暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土ブロック多量、炭化物粒微量
	2 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土ブロック・炭化物ブロック少量、酸化鉄を斑状に少量
	3 2.5Y2/1 黒色	粘土	炭化物少量、植物遺体多量
11F-SR10	1 10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック微量、炭化物少量
	2 10YR1/1 黒色	シルト	灰(ワラサ)多量
	3 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
11F-SR4	1 10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量
	2 10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	にぶい黄褐色砂ブロック多量、管状酸化鉄少量、炭化物粒微量
	3 2.5Y2/1 黒色	粘土	オリーブ灰色砂ブロック・炭化物粒少量、植物遺体ブロック多量
11F-SE5	1 10YR4/4 灰色	砂質シルト	ブロックの混在
	2 10YR2/2 黒褐色	粘土	



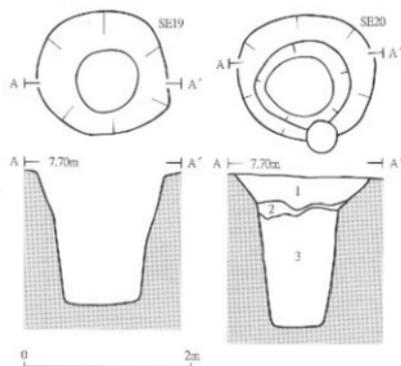
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法長 (cm)		調査・特 徴	写真 図版	
						長さ	幅			
1	lc-392	11F-SE3	陶器(古瀬戸)線香小皿	3/4		底径6.0		板敷、後立型	175-13	
2	K-168	11F-SE3	石製馬・火打石	完形	5.1	2.3	1.8	17g、石灰(結晶)	175-14	
3	Na-432	11F-SE3	鉄製品・馬具(轡) 轡	ほぼ完形	2.3	2.4	0.9	137g	(122g)	175-15
				ほぼ完形	3.5	8.3	0.9			
4	Na-433	11F-SE3	鉄製品・馬具(轡) 轡	端部欠損	(9.9)	2.6	0.6			175-16
				端部欠損	4.1	(7.8)	0.9			
5	Na-431	11F-SE3	鉄製品・新羅車軸	下部	10.9	160.6		9g+	175-17	

第380図 11F-SE3 出土遺物



層位	色調	土質	侵入物・その他
11F-SE11	1 10YR2/1 黒色	粘土質シルト	植物遺体多量
	2 10YR1.7/1 黒色	粘土質シルト	
	3 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	
11F-SE12	1 2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	黄灰色粘土ブロック多量
	2 2.5Y2/1 黒色	粘土	酸化鉄を網状に少量、炭化物多量
	3 5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	灰色粘土ブロック・炭化物少量、酸化鉄を点状に少量
	4 5Y2/1 黒色	粘土	灰色粘土ブロック少量、炭化物多量
11F-SE15	1 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、焼土粘り
	2 10YR4/2 黒褐色	シルト	炭化物少量
11F-SE18	1 5Y2/1 赤褐色	粘土	灰色粘土ブロック多量、炭化物少量
	2 5Y2/2 オリーブ褐色	粘土	酸化鉄・炭化物多量
	3 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色土ブロック・粘土ブロック・管状腐食・炭化物少量
	4 5Y2/1 赤褐色	粘土	灰オリーブ色粘土ブロック多量、炭化物多量
	5 5GY2/1 オリーブ黒色	粘土	暗緑灰色粘土ブロック・炭化物少量
11F-SE17	1 10Y4/2 灰黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック少量、炭化物多量
	2 10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	ブロックの混入
	3 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
	4 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック少量
	5 10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物多量
6 10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量	

第381図 11F-SE11・12・15～18 平面・断面図

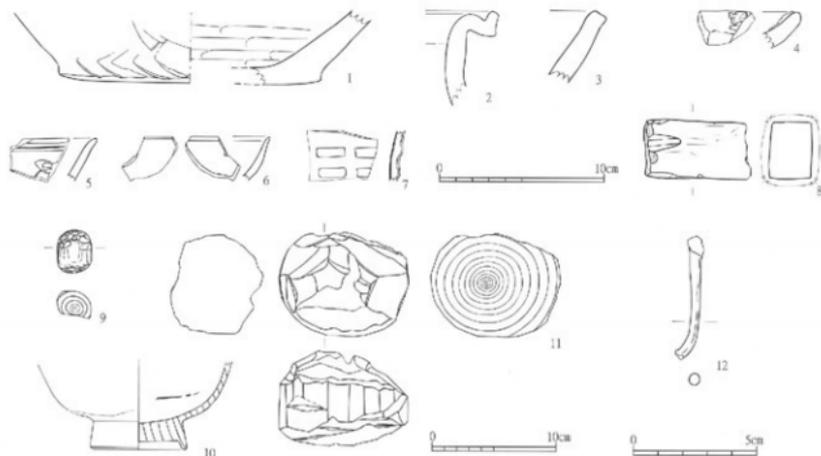


SD1013や11F-SD4の西側の曲輪には11F-SE5・10・15・17・19・20の6基があり、SE17のみが壁際に位置していたため底面まで掘りきることができなかった。また、SD1013の底面では11F-SE9を確認している。なお、SE5とした遺構については他と比べて浅く、底面の形態も異なっているため井戸とは異なった機能を持つ可能性もある。なお、掘立柱建物跡の項で述べたようにSE19・20はIVa4期の11F-SB15とSB16の内部に位置しているが、

11F-SE19		土質		掘入物・その他	
層位	色調				
1	10YR2/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい暗褐色 2.5Y3/4 黒褐色	黒土 砂	粘土 ブロックの破片	人為的埋土	

11F-SE20		土質		掘入物・その他	
層位	色調				
1	10YR3/2 黒褐色	粘土		黄褐色砂質シルトブロック多量、炭化物少量	
2	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト		暗灰色粘土ブロック多量、炭化物少量	
3	2.5Y3/1 黒褐色	シルト		黄褐色砂質シルトブロック多量	

第382図 11F-SE19・20 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	機能(産地)	器種	遺存度	寸法(cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径 (15.0)	高さ		
1	Ic-390	11F-SE4	陶器(常滑)	甕	底部1/5				ナデ	176-1
2	Ic-391	11F-SE20	陶器(常滑)	甕	口縁～体部片				口・頸部ヨコナデ、体部ナデ、5層式	176-11
3	Ic-395	11F-SE10	陶器(吉野・白土)	片口鉢	口縁部小片				口クワ(凹形・台)調整	176-4
4	Ia-89	11F-SE12	土師質土器	とりべ	口縁部小片				ナデ	176-8
5	I-122	11F-SE16	曹磁(富永系)	甕	口縁部小片				割注文	176-10
6	I-121	11F-SE16	白磁(中国)	甕か皿	口縁部小片				口炎	176-9
7	I-182	11F-SE11	曹磁(富永系)	甕か皿	体部片				割注文、被熱痕跡	176-6
8	K-110	11F-SE11	石製品	砥石	端部のみ	長さ	幅	高さ		
9	L-480	11F-SE20	木製品	杖	2/3	6.2	4.0	2.5	125g±、デイスイト貫通痕跡	176-7
10	L-479	11F-SE4・下層	木製品	漆器類	1/2	3.2	2.8			176-12
11	L-484	11F-SE10	木製品	杖	ほぼ完了形	10.5	7.8		内面赤土(人形)調整、外面黒土(土器)調整(大器部調整)、ナデ	176-2
12	Na-434	11F-SE5	鉄製品	鉄釘	中央部	5.1	4.0	0.5	4g±	176-5

第383図 11F-SE4・5・10～12・16・20出土土物

№	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11F-SE 1	O14・IVb層	楕円形	190×175	198	IVa期
11F-SE 2	N14・Va層	楕円形	234×220	271	IVa期、11F-SK1を切る
11F-SE 3	P14・IVb層	円形	236	241	IVa期、馬島、占瀬戸(後Ⅰ期)、11F-SK3を切る
11F-SE 4	IQ14・IVa層	楕円形	342×130	179	IVa3・4期、漆器坑、中世陶器
11F-SE 5	R9,10・IVa層	円形	130×126	91	IVa期
11F-SE 6・7					欠番
11F-SF 8	P14・Va層	楕円形	130×118	136	IVb～IVa期、11F-SE3に切られる
11F-SF 9	R12・SD1013底面	円形?	110+	約200	IVb～IVa3期、SD1013に切られる
11F-SF 10	R11・IVb層	楕円形	220×190	223	IVa期、11F-SB14に切られる、中世陶器
11F-SF 11	O14・SD1009壁面	楕円形	90×170	140+	IVb2～IVa3期、古銅
11F-SF 12	R14・Va層	円形	150×144	225	IVb～IVa期、土師質土器
11F-SF 13	R9,10・Va層	楕円形	230×200	188	IVb期、中世陶器、11F-SE5に切られる
11F-SF 14	Q14・Va層	円形	150	185	IVb1期、常滑(6型式)、11F-SB23に切られる
11F-SF 15	R8・Va層	楕円形	110・96	147	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SF 16	R14・Va層	円形?	184×?	249	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SF 17	R7・Va層	円形?	250	140	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SF 18	R14・Va層	円形?	230・?	197	IVb～IVa期、11F-SE16と関連
11F-SF 19	R11・Va層	円形	158×150	156	Va～IVa期
11F-SF 20	R11・Va層	円形?	170×?	190	IVb2～IVa期、中世陶器、11F-SD10に切られる
11F-SF 21	R13,14・VI層				Va～IVb1期、常滑(5型式)、11F-SB26に切られる

表114 11F区 井戸跡一覧表

IVb2期の11F-SB14とSB34の内部でもあり、遺物からも時期を限定することはできなかった。

一方、SD1013の東側の曲輪には11F-SE3・4・8・11・12・16・18の7基がある。SE16とSE18については、当初単独の遺構として取り扱っていたが、底面に段差が認められたため2基に分けた。このため新旧関係は不明である。

遺物は土師器・須恵器・中世陶器・木製品などがそれぞれ数点～30点ほど出土しているが(表138)、図化できたのは17点である(第380・383図)。Na-432・433(第380図・4)はSF3から出土した鉄製の櫛で、櫛の輪造で2つに破損しているがほぼ正形に近いと考えられる。Na-433(4)は鏡板の一部と櫛の端部が欠損しているが、Na-432(3)は片側の鏡板と櫛が完全に残っており、櫛の輪造にはNa-433の櫛のちぎれた端部がそのまま残存している。第383図は陶器・磁器や木製品などであるが、中国産の磁器の中には白磁J-1211(6)や青磁J-122(5)などの食器の他に青磁J-182(7)などもある。木製品L-480・484(9・11)は棗打用の棗の可能性が考えられる。

(4)土坑(第384～387図)

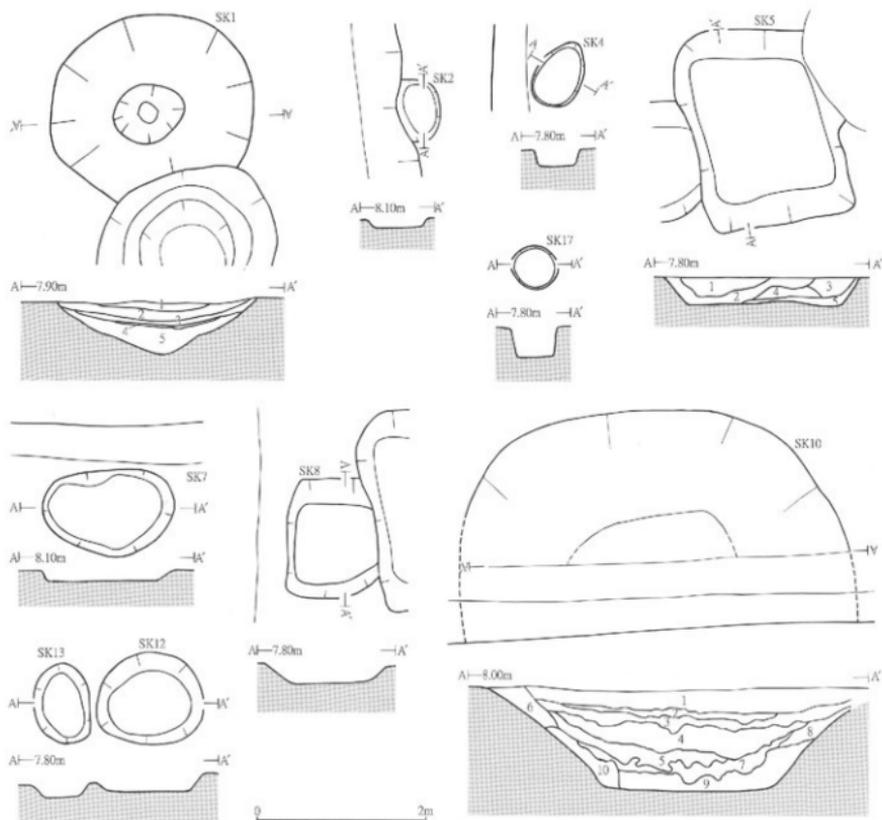
SD1009の南側に検出された土坑は55基ある。大部分がVa層上面の確認であるが、時期が確定できるものは少ないため、IVa3・4期に該当する可能性があるものが35基ある。規模などの詳細は表115(35頁)のとおりで、断面図に土層注記を記していないものは直上の基本層が入り込んでいるものである。

大きさや平面形は様々であるが、50cm前後から1～2mの円形や楕円形のものも最も多く、11F-SK2・4・7・8・11～13・15～18・21・22・24～31・33・40・47・50～54・61の29基があるが、大部分の土坑の性格は不明である。

遺物は少なく、土師器片・須恵器片・中世陶器片などが数点ずつ出土した程度で、図化できたのは5点のみである(表138・139、第388図1・6～9)。Ic-407(第388図7)はSK15から出土した常滑産の甕の破片であるが、内外面に漆で布が貼り付けられている。割れ口を布で補強したものと考えられる。

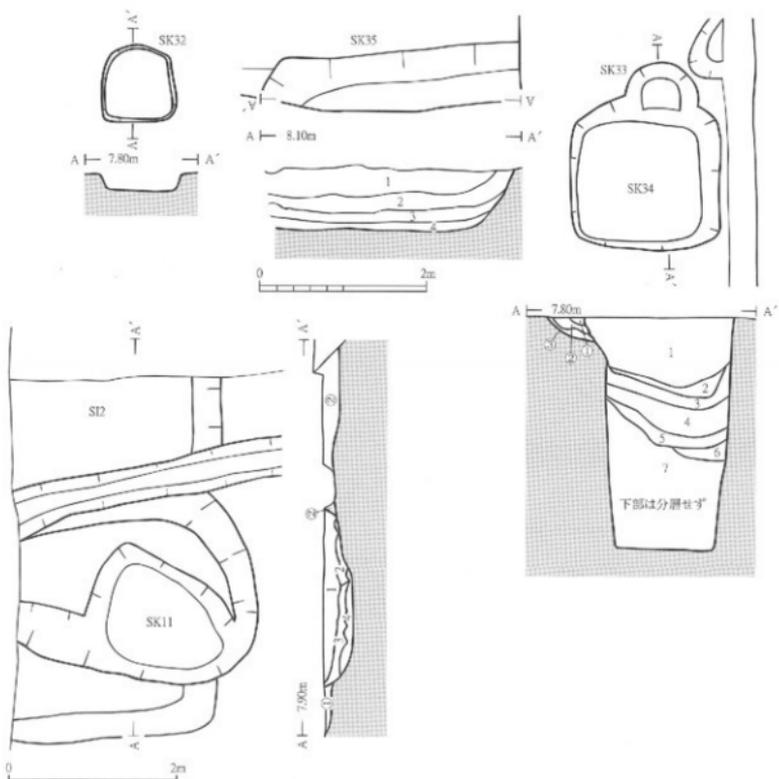
なお、大きさが3.5～5mで深さも1m前後ある大型の土坑も少数認められる。西端のR7～8グリッドに位置する11F-SK48、南東部R13グリッドのSK10の2基があり、南東コーナーのSK35も大型の土坑である可能性がある。

遺物は他の土坑と同様であるが、やや中世陶器が多い。SK10・35から出土した4点が図化できた(第388図2～5)。



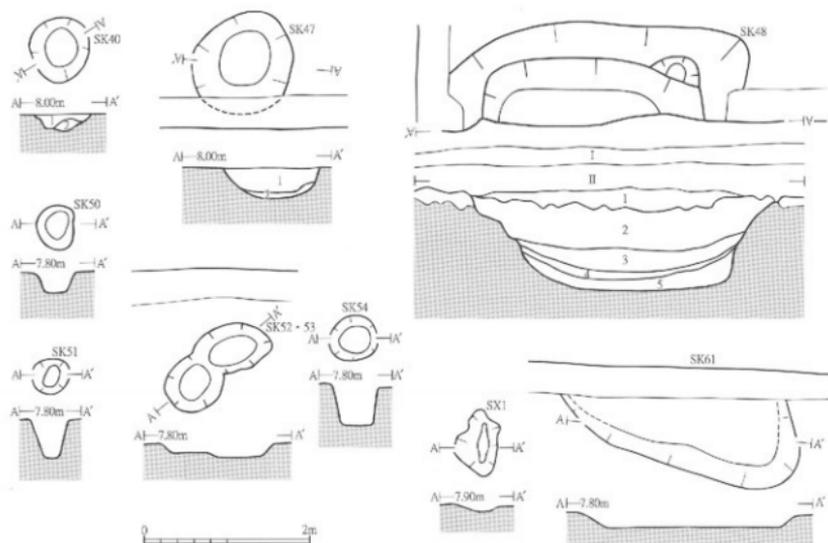
標記	層位	色相	土質	混入物・その他
11F-SK1	1	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック多量 (人高的な埋め?)
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物を散在に混入
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂質シルトを層状に少量
11F-SK5	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色砂ブロック・炭化物少量
	2	10YR3/1 黒紫色	粘土	オリブ褐色砂ブロック・炭化物少量
	3	10YR3/1 黒紫色	粘土質シルト	炭化物散在
	4	10YR3/1 黒紫色	粘土	暗オリブ褐色砂ブロック多量・炭化物少量
	5	10YR2/1 黒色	粘土	炭化物少量
11F-SK10	1	10YR3/2 黒褐色	粘土	炭化物少量
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	にぶい褐色粘土ブロック多量・炭化物少量
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・にぶい黄褐色粘土ブロック・炭化物多量
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック・黒褐色粘土ブロック多量
	5	5Y3/1 オリブ黒色	粘土	黒色粘土ブロック・オリブ褐色粘土ブロック散在
	6	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック散在
	7	2.5Y2/1 褐色	泥炭質粘土	
	8	2.5Y3/2 暗褐色	粘土	
	9	5Y3/1 オリブ黒色	粘土	暗オリブ褐色粗砂ブロック散在
	10	2.5Y3/1 暗オリブ灰色	粗砂	オリブ褐色粘土ブロック・暗オリブ色粘土ブロック少量

第384図 11F-SK1・2・4・5・7・8・10・12・13・17 平面・断面図



単位	色相	土質	侵入物・その他
11F-SK35	① 10YR3/1 黒色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック多量、炭化物多量
	② 10YR2/1 黒色	粘土	炭化物多量
	③ 10YR2/2 黒褐色	粘土	灰褐色粘土ブロック多量、酸化鉄を帯状に多量、炭化物少量
	④ 5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	緑灰色粘土ブロック多量、炭化物少量
11F-SK33	① 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	緑灰色砂ブロック多量、灰オリーブ色粘土ブロック、炭化物少量
	② 10YR2/1 黒色	粘土	オリーブ灰色粘土ブロック、炭化物少量
	③ 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	灰色粘土ブロック多量、炭化物少量
11F-SK34	① 10YR2/1 黒色	粘土質シルト	酸化鉄を帯状に少量、炭化物多量
	② 10B6/4/1 暗青灰色	砂	
	③ 2.5Y3/1 黒色	粘土	オリーブ灰色粘土ブロック少量
	④ 2.5Y3/1 暗オリーブ灰色	粘土	暗オリーブ灰色粘土ブロック少量、炭化物多量
	⑤ 7.5Y2/1 黒色	粘土	暗オリーブ灰色粘土ブロック少量、緑灰色砂ブロック多量、炭化物少量
	⑥ 7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	緑灰色砂ブロック、炭化物少量
	⑦ 10YR3/1 黒褐色	粘土	炭化物、粘粉多量
11F-SK11	① 10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土ブロック、炭化物少量
	② 10YR4/2 灰褐色	粘土	にぶい黄色粘土ブロック少量、酸化鉄を帯状に少量、炭化物少量
	③ 10YR2/3 黒褐色	粘土	酸化鉄を帯状に少量
	④ 10YR2/2 黒褐色	シルト	管状酸化鉄多量
11F-SI2	① 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物少量
	② 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	細粒粘土ブロック少量、炭化物少量

第386図 11F-SK11・32～34、SI2 平面・断面図



遺物は30点ほどの土器片と鉄製品の他に箸を中心とした40点以上の木製品が出土したが、同時に大量の木屑と端材約150点を伴っていた。図化できたのは陶器、鉄釘、ヘラや箸などの木製品46点、端材14点で、その他

の端材と木屑は写真のみ掲載した(第389～391図、写真180)。L-528(第389図3・4)は漆が付着した布片、L-531・533・530・529(9～13)のヘラには漆が付着したものも認められる。L-532(14)はヘラ状の木製品に漆が滲み込んだ布が巻き付いている。第390図は箸と棒状の木製品で箸は全て破損している。第391図2～14は端材で、全出土点数150点のうち加工痕が明瞭な約10%を掲載した。縦割りしたままの面や、鋸による切断面と手斧のような加工痕が明瞭に認められる。

なお、SK7・10・31・34・54など南東部に位置する土坑では鉄滓がやや多く認められるが、R13～14グリッドでは基本層中からも他のグリッドと比べて多量の鉄滓が出土しているため、これらは遺構に伴うものではなく、周辺から混入した結果と考えられる。遺構は確認できなかったが周辺に鍛冶関連遺構が存在している可能性が高い。

(5) 竅穴遺構 (第386図)

P14グリッドのV層上面で確認した11F-SI2がある。IVa4期のSD1009に切られているのでIVa3期以前と推定される。残存する南北長4.5m、深さ11cmで堆積土は単層である。

遺物は常滑産の甕の破片が出土している(第377図3)。

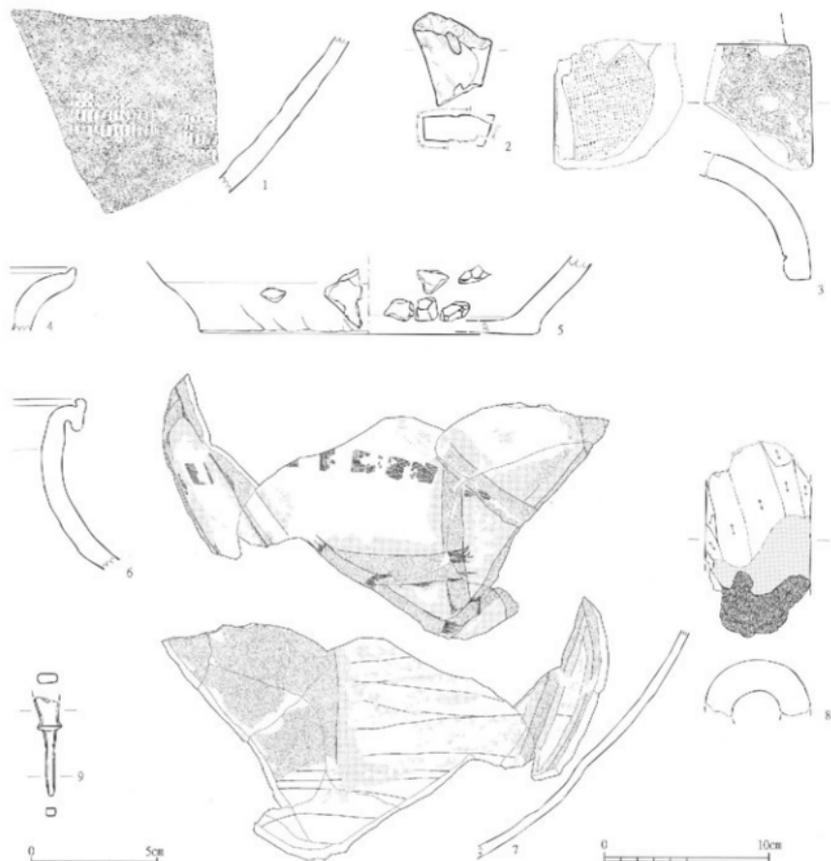
(6) ビット

掘立柱建物跡としての組み合わせが不明で、性格不明として残ったビットがある。SD1013の西側では約90基、SD1013の東側～SD1009の南側までは170基である。

層位	色調	土質	埋入物・その他
11F-SK40	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量
	2 10YR3/3 におい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック多量、炭化物少量
11F-SK47	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、粘土粒微量
	2 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒少量
11F-SK48	1 10YR5/3 におい黄褐色	砂質シルト	(E?層に埋没)
	2 10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・粘土粒微量
	3 2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・粘土粒微量
	4 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物粒微量
	5 5Y6/1 灰色	粘土質シルト	

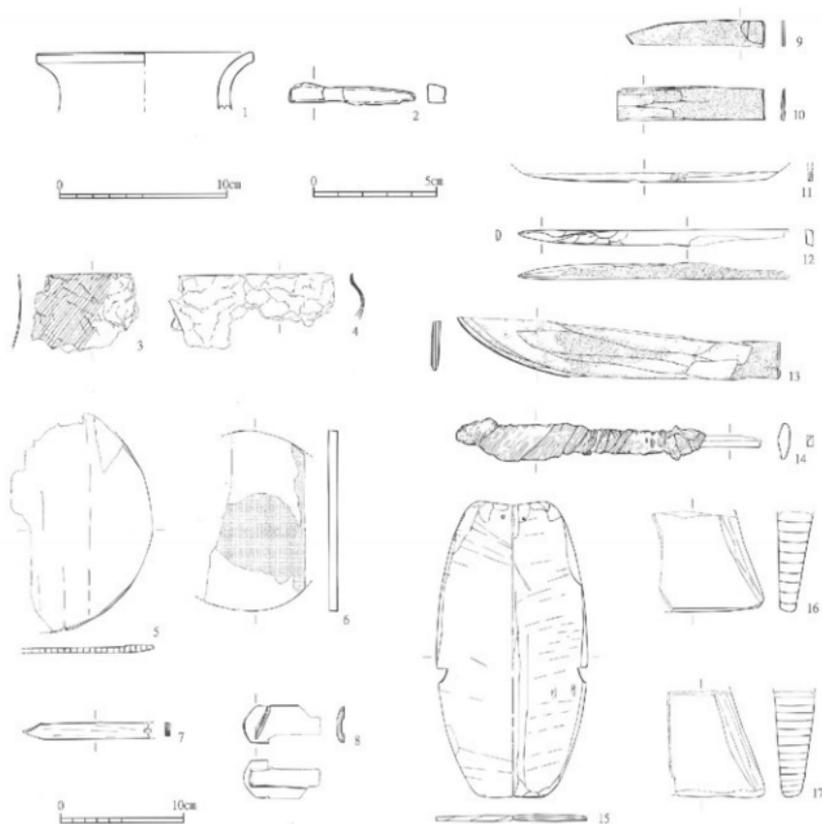
第387図 11F-SK40・47・48・50～54、SK1 平面・断面図

これらのピットからの出土遺物の大部分は土師器や須恵器などであるが、中国産の磁器2点、瓦質土器1点、須恵器2点が図化できた(表139、第378図1・2・4・5・7)。



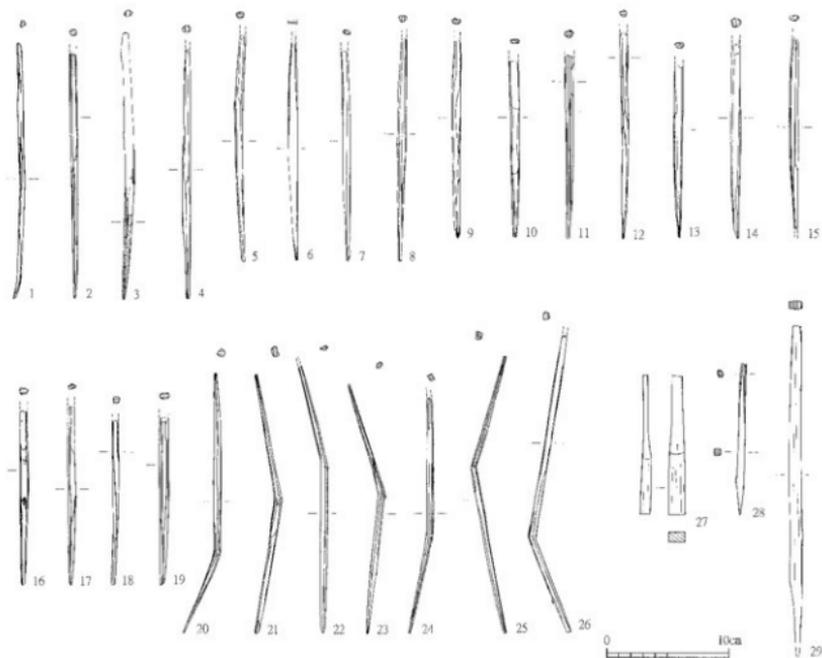
No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Ic-575	11F-SK4	陶器(常滑)甕	体部小片				輪状押印	176-13
2	K-136	11F-SK10	右製品・磁石	中央部のみ	5.9+	4.8	1.7	20g+, デイサイト質凝灰岩	176-14
3	F-7	11F-SK10	瓦・丸瓦	部分	7.5+	6.5+	厚1.7	凸面ナデ, 凹面当目焼・深い線圧痕, 凸面ナデ	176-15
4	Ic-403	11F-SK35	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ, 4押式	181-2
5	Ic-401	11F-SK35	陶器(常滑)甕	口縁部		(20.6)		内外面にオリーブ灰色の自然釉・陶土付着	181-1
6	Ic-400	11F-SK47	陶器(常滑)甕	口縁～体部片				口・肩部ヨコナデ, 体部ナデ, 6x押式	181-4
7	Ic-407	11F-SK45	陶器(常滑)甕	体部片				割れ口を漆で接合, 内外面に漆布で補強	177-17
8	P-25	11F-SK31	土器器・羽口	部分	長さ	幅	厚さ		
9	Na-119	11F-SK18	須恵器・瓶	頸～身基部	12.0+	径(5.4)		170g+, 先端部溶解, 赤変	176-17
					6.0+	1.0	0.4	3g+	176-16

第388図 11F-SK4・10・15・18・35・47 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	ic-402	11F-SK34	陶器(常滑) 甕	口・胴部1/4	口径12.0			口縁部コナチ・内径面に縦溝彫刻の口縁種、赤漆子	177-3
2	Na-473	11F-SK34	鉄製品・釘	中央部	5.14	0.5	0.7		177-4
3	L-578	11F-SK34	石	部分				漆付着	178-29
4	L-528	11F-SK34	石	部分				漆付着	178-28
5	L-522	11F-SK34	木製品・曲物	底板1/2	径18.0		0.5		179-1
6	L-523	11F-SK34	木製品・曲物	底板1/2	径15.0		0.8		179-2
7	L-537	11F-SK34	木製品・板材	端部欠損	10.24	1.1	0.4	片方端部を三角形に削り出し、釘穴? 1	179-15
8	L-525	11F-SK34	木製品・短刀柄	部分	6.34	3.2	0.6		177-11
9	L-531①	11F-SK34	木製品・板材	端部欠損	11.5	2.4+	0.2	漆付着、曲物の破片を転用	177-5
10	L-531②	11F-SK34	木製品・板材	完形	12.2	2.8	0.3	漆付着、曲物の破片を転用	177-6
11	L-533	11F-SK34	木製品・ヘラ?	部分	21.1+	0.5+	0.4		177-7
12	L-530	11F-SK34	木製品・ヘラ?	端部欠損	22.4+	1.4	0.6	片面~前面に漆付着、漆に付着した板材から制作	177-8
13	L-529	11F-SK34	木製品・ヘラ?	ほぼ完形	26.5	4.0	0.7	漆付着	177-9
14	L-532	11F-SK34	木製品・ヘラ	ほぼ完形	25.0+	3.0	1.0	漆布が巻きつく	177-10
15	L-540	11F-SK34	木製品・板草履	完形	24.7	12.3	0.6	無面に三角形の切り込み、先端部に小孔?	179-10
16	L-526	11F-SK34	木製品・差歯下駄	差歯1/3	8.1+	8.4+	2.9		179-8
17	L-527	11F-SK34	木製品・差歯下駄	差歯1/2	9.0+	8.0+	3.3		179-9

第389図 11F-SK34 出土遺物(1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存皮	法属 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-509	11F-SK34	木製品・箸	端部欠損	21.5+	0.6	0.5	端部で折れ	178-1	
2	L-513	11F-SK34	木製品・箸	端部欠損	20.4+	0.6	0.6		178-2	
3	L-530	11F-SK34	木製品・箸	端部欠損	22.1+	0.8	0.6	漆付着	178-3	
4	L-514	11F-SK34	木製品・箸	端部欠損	20.2+	0.7	0.5		178-4	
5	L-495	11F-SK34	木製品・箸	端部欠損	18.8+	0.7	0.5	中央で折れ	178-5	
6	L-517	11F-SK34	木製品・箸	4/5	18.3+	0.9	0.4		178-6	
7	L-503	11F-SK34	木製品・箸	4/5	17.5+	0.7	0.5		178-7	
8	L-572	11F-SK34	木製品・箸	4/5	18.5+	0.8	0.5		178-8	
9	L-505	11F-SK34	木製品・箸	4/5	16.5+	0.7	0.5	端部付け集げ	178-9	
10	L-501	11F-SK34	木製品・箸	2/3	14.7+	0.8	0.3		178-10	
11	L-500	11F-SK34	木製品・箸	2/3	15.2+	0.8	0.6		178-11	
12	L-510	11F-SK34	木製品・箸	4/5	17.2+	0.7	0.5		178-12	
13	L-502	11F-SK34	木製品・箸	2/3	14.4+	0.8	0.5		178-13	
14	L-507	11F-SK34	木製品・箸	2/3	16.5+	0.5	0.7		178-14	
15	L-511	11F-SK34	木製品・箸	2/3	16.0+	0.7	0.5		178-15	
16	L-499	11F-SK34	木製品・箸	2/3	14.5+	0.4	0.6	端部集げ	178-16	
17	L-504	11F-SK34	木製品・箸	2/3	14.5+	0.7	0.5		178-17	
18	L-508	11F-SK34	木製品・箸	2/3	13.6+	0.6	0.6		178-18	
19	L-519	11F-SK34	木製品・箸	2/3	14.0+	0.8	0.5		178-19	
20	L-515	11F-SK34	木製品・箸	完全形	22.2	0.7	0.7	中央で折れ	178-20	
21	L-496	11F-SK34	木製品・箸	ほぼ完全形	22.0	0.8	0.7	中央で折れ。漆状の付着物	178-21	
22	L-506	11F-SK34	木製品・箸	端部欠損	22.7+	0.6	0.5	中央で折れ	178-22	
23	L-516	11F-SK34	木製品・箸	完全形	2.4	0.5	0.5	中央で折れ	178-23	
24	L-508	11F-SK34	木製品・箸	端部欠損	19.9+	0.6	0.6	中央で折れ	178-24	
25	L-497	11F-SK34	木製品・箸	ほぼ完全形	23.5	0.7	0.5	中央で折れ	178-25	
26	L-518	11F-SK34	木製品・箸	端部欠損	25.4+	0.7	0.6	中央で折れ	178-26	
27	L-536	11F-SK34	木製品・? (棒状)	端部欠損	1.6+	1.3	0.8	片方端部を薄く削り出し	181-1	
28	L-535	11F-SK34	木製品・? (棒状)	端部欠損	12.6+	0.6	0.5	片方端部を一角形に削り出し	181-1	
29	L-534	11F-SK34	木製品・? (棒状)	ほぼ完全形	27.2+	1.1	0.7	先細り	181-1	

第390図 11F-SK34 出土遺物(2)

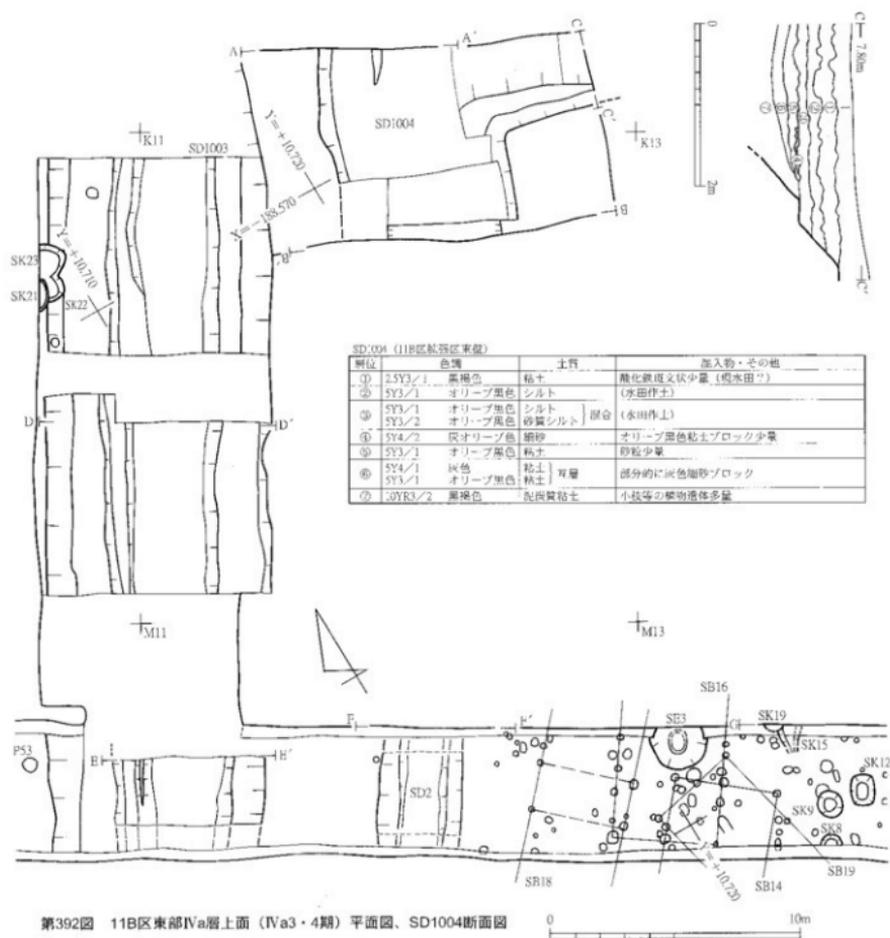


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-559	11F-SK34	加工木材片		15.6	3.5		丸木材	179-17
2	L-543	11F-SK34	加工木材片		12.7	5.2	3.3+	縦切断面4、加工面1、割り面1	179-18
3	L-544	11F-SK34	加工木材片		10.2	7.8	4.4	縦切断面2、加工面4、割り面1	179-22
4	L-545	11F-SK34	加工木材片		7.5	7.7	6.2	縦切断面2、加工面3、割り面1	179-23
5	L-546	11F-SK34	加工木材片		7.9	12.7	9.2	縦切断面2、加工面5、集付底	179-19
6	L-547	11F-SK34	加工木材片		10.0	7.8	6.3	縦切断面2、加工面3、割り面2	179-24
7	L-553	11F-SK34	加工木材片		11.6	6.2	1.8	縦切断面2、加工面2、割り面2	179-21
8	L-551	11F-SK34	加工木材片		10.9	14.0	2.9	縦切断面2、加工面3、割り面1	179-20
9	L-552	11F-SK34	加工木材片		13.1	8.2	3.5	縦切断面1、加工面4、割り面1	179-26
10	L-554	11F-SK34	加工木材片		8.3	6.0	3.5	縦切断面2、加工面5、割り面1	179-27
11	L-555	11F-SK34	加工木材片		8.3	6.0	3.5	縦切断面2、加工面2、割り面2	179-28
12	L-556	11F-SK34	加工木材片		5.0	4.6	2.5	縦切断面2、加工面4	179-25
13	L-557	11F-SK34	加工木材片		23.6	6.1	6.0		179-29
14	L-558	11F-SK34	加工木材片		22.6	6.5	4.0	分割材	179-30

第391図 11F-SK34 出土遺物 (3)

No.	グリッド・礎石層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11F-SK 1	N14・Va層	円形	236	63	IVa期
11F-SK 2	R12・IVa層	楕円形	76×55	10	IVa4期
11F-SK 3	N14・Va層	楕円形	200×144	38	Va期、11F-SK6に切られる
11F-SK 4	P14・Va層	楕円形	86×60	19	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SK 5	P14・Va層	方形	244×182	29	IVb2～IVa期、中世陶器、土師質土器
11F-SK 7	R13・IVb層	楕円形	150×130	13	IVa層
11F-SK 8	P14・Va層	方形?	148×?	22	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SK 10	R13・IVb層	円形?	464×?	139→	IVa層
11F-SK 11	P14・Va層	楕円形	250×?	29	IVb～IVa期、11F-S12を切る
11F-SK 12	O14・SD1009段面	楕円形	130×110	25	Va～IVa3期
11F-SK 13	O14・SD1009段面	楕円形	106×66	12	Va～IVa3期
11F-SK 14	P14・Va層	楕円形	62×?	35	Va～IVa2期、11F-S6に切られる
11F-SK 15	P14・Va層	円形?	140	69	IVb～IVa期、中世陶器、土師質土器
11F-SK 16	Q14・Va層	方形?	174×?	23	Va～IVa期
11F-SK 17	Q14・Va層	円形	58×54	35	Va～IVa期
11F-SK 18	Q14・Va層	円形?	130×?	43	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SK 19	Q14・Va層	方形	168×138	46	IVb期、中世陶器、11F-SD3に切られる
11F-SK 20	Q14・Va層	円形?	100	?	Va～IVb1期
11F-SK 21	Q14・Va層	方形	182×122	55	IVb2～IVa期、中世陶器
11F-SK 22	Q14・Va層	楕円形	134×114	58	IVb2～IVa期、中世陶器
11F-SK 23	Q14・Va層	楕円形?	168×?	39	IVb期、11F-SF14を切る、SB23に切られる
11F-SK 24	R9・Va層	円形?	110×?	21	Va～IVa期
11F-SK 25	R9・Va層	不整形円	126×70	13	Va～IVa期
11F-SK 26	R9・Va層	不整形	120×48	9	Va～IVa期
11F-SK 27	R9・Va層	楕円形	116×62	12	Va～IVa期
11F-SK 28	R9・Va層	楕円形	94×?	10	Va～IVa期
11F-SK 29	R14・Va層	円形?	70	10	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SK 30	R14・Va層	楕円形?	70×58	13	IVb～IVa期
11F-SK 31	R14・Va層	楕円形?	80×?	23	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SK 32	R14・Va層	不整形方形	96×88	20	IVb2～IVa期、11F-SB26を切る
11F-SK 33	R14・Va層	円形	90	25	IVb～IVa期
11F-SK 34	R14・Va層	方形	190×154	299	IVb～IVa期、中世陶器、多量の木炭・炭材
11F-SK 35	R14・Va層	方形?	314+	70	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SK 36	R10・Va層	楕円形?	180×?	27	Va～IVb1期、11F-SB12に切られる
11F-SK 37	R10・Va層	不整形	76×?	25	IVb1期、11F-SB12に切られる、中世陶器
11F-SK 38	R10・Va層	楕円形?	312×?	164	IVb2期、11F-SK49を切る、中世陶器
11F-SK 39	R8・Va層	不整形	190×80	17	IVb期、11F-SB8に切られる、土師質土器
11F-SK 40	R8・Va層	円形	80×76	23	Va～IVa期
11F-SK 43	R8・Va層	円形	88×85	48	IVb2～IVa1期、11F-SD15を切る、11F-SB2に切られる
11F-SK 45	Q14・Va層	楕円形	200×78	12	Va～IV1期
11F-SK 46	R9・Va層	楕円形?	100×?	35	IVb期、11F-S13に切られる、中世陶器
11F-SK 47	R5・Va層	楕円形?	124×?	38	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SK 48	R7,8・Va層	?	360×?	114	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SK 49	R9,10・Va層	方形?	754×?	130	IVb1期、常滑(4型式)、11F-SK38に切られる
11F-SK 50	R13・Va層	楕円形	56×46	25	Va～IVa期
11F-SK 51	R13・Va層	円形	48×46	47	Va～IVa期
11F-SK 52	R13・Va層	円形	70	12	Va～IVa期
11F-SK 53	R13・Va層	楕円形	96×60	16	Va～IVa期
11F-SK 54	R13・Va層	円形	60×58	51	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SK 61	R13・Va層	楕円形?	300××?	7	IVb～IVa期、中世陶器
11F-SK 63	R8・Va層	楕円形?	132×?	31	Va～IVb1期、11F-SD15に切られる
11F-SK 64	R8・Va層	楕円形	140×108	38	Va～IVb期、11F-SD6に切られる
11F-SK 65	QR14・VI層				Va層
11F-SK 66	R14・VI層				Va層
11F-SK 67	VI層				Va層
11F-SK 68	VI層				Va層
11F-SK 69	N14・IVb層	長楕円形	500+?150		IVb期

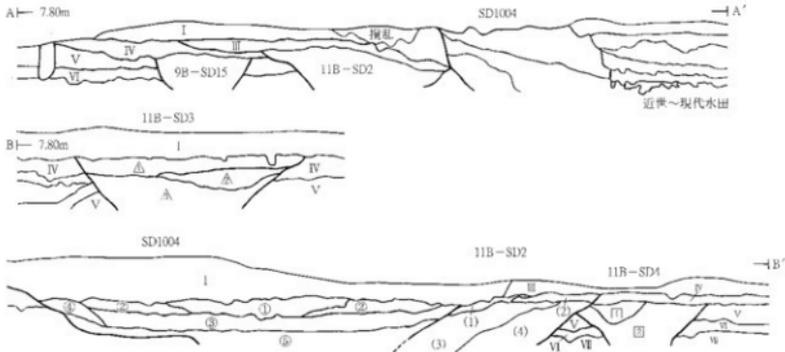
表115 11F区 土坑一覧表 (SK6・9・41・42・44・55～60・62は欠番)



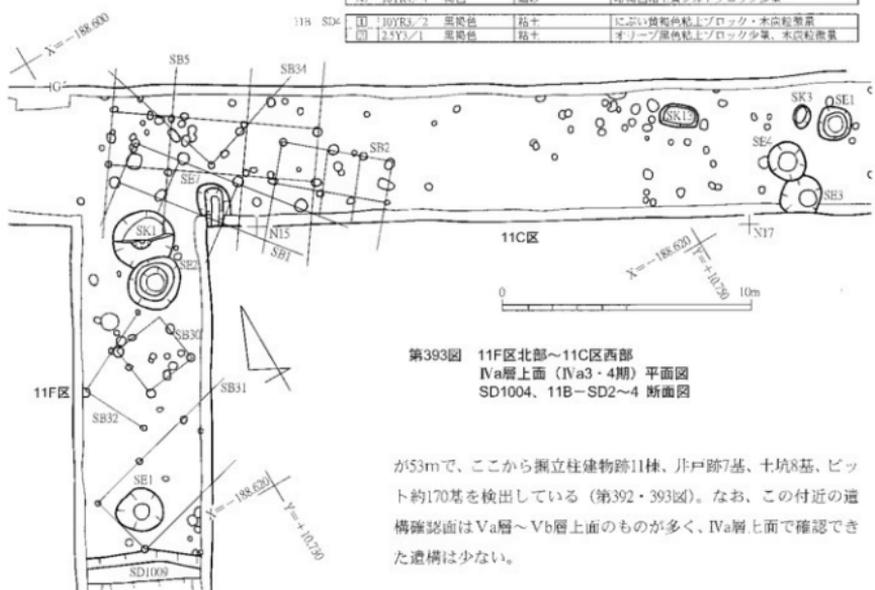
4. 11B区～11F区北部～11C区西部の遺構と遺物

11B区中央の南北方向の調査区から11C区中央にかけては南北方向のSD1003・11B-SD2・SD1007があり、11F区北部には東西方向のSD1009が位置している。また、北側にはSD1004が位置し、これらに囲まれた区域は城館中心の曲輪の内部に相当する。なお、SD1003はIVa4期の堀跡で、IVa3期の堀跡である11B-SD2の埋没後に掘削されたと考えられる。SD1007とSD1009については改修されながらIVa3～4期を通じて概ね同位置にあったと推定される。

中心の曲輪の東西長はIVa4期 (SD1003とSD1007の間の距離) が約62m、IVa3期 (11B-SD2とSD1007の距離)



層位	色調	土質	遺人物・その他
11B-SD3 △ 10YR2/2	黒褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・木炭粒少量
△ 2.5Y3/2	黒褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック少量、キリブ褐色粘土ブロック少量、木炭粒少量
△ 10YR3/2	黒褐色	粘土シルト	イリブ褐色粗砂ブロック少量、木炭粒少量
△ 2.5Y3/2	黒褐色	互層	
SD1004 ① 10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	混合 黒褐色粘土ブロック、黄褐色粘土ブロック少量
② 2.5Y4/2	黄褐色	砂質シルト	
③ 2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黒褐色粘土ブロック少量
④ 10YR4/2	灰黄褐色	シルト質粘土	
⑤ 10YR4/2	灰黄褐色	粘土	混合
⑥ 2.5Y4/2	暗灰褐色	粘土	
⑦ 2.5Y3/2	黒褐色	粘土	
11B-SD2 ① 10YR1/2	黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト/ブロック少量
② 10YR3/2	黒褐色	粘土	木炭粒少量
③ 10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	褐色砂質シルト/ブロック・砂粒少量、木炭粒少量
④ 10YR1/4	黒色	細砂	暗褐色粘土質シルト/ブロック少量
11B-SD4 ① 10YR3/2	黒褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック・木炭粒少量
② 2.5Y3/1	黒褐色	粘土	オリーブ褐色粘土ブロック少量、木炭粒少量



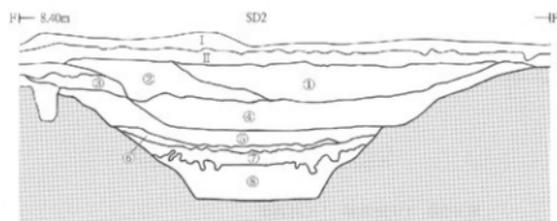
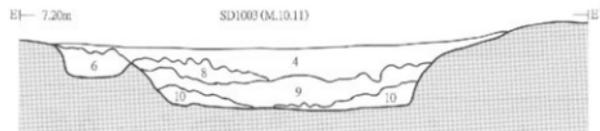
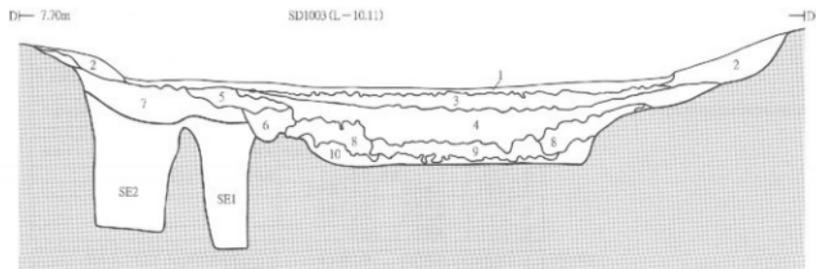
第393図 11F区北部～11C区西部
IVa層上面(IVa3・4期)平面図
SD1004、11B-SD2～4 断面図

が53mで、ここから掘立建物跡11棟、井戸跡7基、土坑8基、ピット約170基を検出している(第392・393図)。なお、この付近の遺構確認面はVa層～Vb層上面のものが多く、IVa層上面で確認できた遺構は少ない。

(1) 溝跡

SD1003 (第392・394図) 調査時は湿地となっていた部分で、11B区中央部の南北方向の調査区と重なる位置にあり、表土を除去した段階で堀跡を確認している。10C区南部のSD1003とSD1006の結合部付近に接続すると考えられるが、11B区の部分はIVa1期に掘削されたと推定される(註6)。幅9.3m、深さ1.6mで、堆積土は自然堆積層であるが上部では3a層水田耕作土が認められ、近世には10区と同じく水田として利用されていたと考えられる。断面形は上部の傾斜が緩やかで、下半部が急傾斜となっている。西壁際に幅60~80cmの浅い溝状の部分があり、この部分は掘りなおされている可能性があるが、大規模な改修の痕跡は認められない。

遺物は約800点出土したが、土師器・須恵器が約4/5、中世陶器や土師質土器などが残りの1/5である。図化できたのは在産や常産の無釉陶器、中国産の青磁・白磁、瓦質土器、土師器、須恵器、金属製品、木製品など20点である(表133、第395図)。



0 2m

11B-SD2

層位	色調	土質	埋入物・その他
①	0Y8.5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	結晶性粘土ブロック・砂粒・炭化物少許
②	0Y8.5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物微量
③	0Y8.5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量
④	2.5Y4/2 暗灰褐色	粘土質シルト	酸化鉄多量、マンガン粒微量
⑤	0Y8.5/2 黒褐色	粘土	炭素質粘土ブロック・雲状薄皮鉄結核
⑥	7.5Y4/1 灰色 2.5Y4/1 黄灰色	粘土 粘土	瓦類
⑦	2.5Y4/7 黒褐色	瓦質粘土	
⑧	2.5Y4/1 黒褐色	粘土	

SD1003

層位	色調	土質	埋入物・その他 (近世水田と推定) (田畠の流入?)
1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト質粘土	
2	8Y9.4/3 にぶい黄褐色	シルト	
3	2.5Y4/2 暗灰褐色 2.5Y3/2 黒褐色	シルト質粘土 シルト	瓦類
4	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	オリブ黒色粘土 ブロック微量、木炭粒微量
5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	砂粒少量
6	5Y3/1 オリーブ黒色 2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト 粘土	瓦類
7	8Y9.5/2 黒褐色	粘土	瓦質粘土粘土 ブロック微量、木炭粒少量
8	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒褐色細砂ブロック 多量、黒色粘土 ブロック微量
9	3Y2/2 オリーブ黒色	粘土	部分的にオリブ 黒色粘土と瓦類に なる
10	2.5Y3/1 黒褐色 5Y4/1 暗オリーブ灰色	粘土 粘土	ブロックの 混合

第394図 SD1003、11B-SD2 断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	Ic-476	11B-SD1003・上層	陶器(在産・白石) 玉縁口縁垂	口縁へ顔部	(9.2)			口・顔部ココナデ	164-9
2	Ic-475	11B-SD1003・下層	陶器(在産) 葉	口縁へ体部片				口・顔部ココナデ、唇部ナデ、内面には黒色の点状、線状	164-10
3	Ic-477	11B-SD1003・下層	陶器(在産・白石) 片口縁	口縁部小片				口・顔部ココナデ	164-11
4	Ic-478	11B-SD1003・下層	陶器(在産・白石) 片口縁	底部1/4				外周ナデ、内周歯状	164-12
5	J-142	11B-SD1003	青花(中国) 碗	口縁部小片					164-13
6	J-144	11B-SD1003・上層	青花(産地不明) 碗	口縁部小片				扇花文	164-14
7	J-143	11B-SD1003・上層	白磁(中国) 碗外沿	口縁部小片				口・顔部	164-15
8	Ib-40	11B-SD1003・下層	灰青土器・磁器	上部1/4	(20.0)			ロク口器類、内面にS本位の明日	164-16
9	C-28	S D 1003・下層	土師器・杯	1/3	(16.2)	—	4.2	外周平直、内面ヘラミズリ、口縁部ヘラミズリ、内面ヘラミズリ	164-22
10	C-27	S D 1003・下層	土師器・杯	1/5	(15.0)	—	4.5	外周平直、内面ヘラミズリ、口縁部ヘラミズリ、口縁部ヘラミズリ、口縁部ヘラミズリ	164-21
11	C-29	S D 1003・下層	土師器・鉢?	下部			7.8	外周子持ヘラミズリ、内面ヘラミズリ	164-24
12	D-67	11B-SD1003・下層	土師器・杯	1/4	(16.4)	(8.6)	3.6	ロク口器類、唇部ナデ、内面ヘラミズリ	164-23
13	E-128	11B-SD1003	須恵器・杯	1/4	(14.1)	(7.2)	4.0	内面ヘラミズリ、口縁部、口縁部	164-18
14	E-125	11B-SD1003・下層	須恵器・杯	1/2	(15.4)	(10.2)	4.0	ロク口器類、唇部ナデ、内面ヘラミズリ	164-19
15	E-126	11B-SD1003・下層	須恵器・杯	1/2	(11.9)	(6.4)	3.3	ロク口器類、唇部ナデ、内面ヘラミズリ	164-20
16	E-127	11B-SD1003・下層	須恵器・杯	1/5	(14.0)	(8.0)	4.0	ロク口器類、唇部ナデ、内面ヘラミズリ	164-17
17	Nb-261	11B-SD1003・下層	銅貨品・銭	部分	径6.5+	厚2.1	0.6±		164-26
18	Nb-184	11A-SD1003	銅貨品・銭	元形	径2.4	厚2.0	0.2	元形、厚2.0	164-25
19	L-563	11B-SD1003・下層	木炭品・漆器類	1/4			7.2		164-27
20	L-392	11B-SD1003・上層	木炭品・桶?	底板1/4	(28.4)		2.1	内面平直、外周平直、底面ロク口器類、フナ	164-28

第395図 SD1003 出土遺物

SD1004 (第392・393図) 道路予定地ではないので本来の調査対象地ではないが、中心の曲輪の北西部は地表で崩壊した痕跡が認められた場所であるので、遺構確認のためにJK11・12グリッドに拡張区を設定した。SD1004はIVa層上面で確認したが、拡張区北縁沿いを東から西に延び、南に屈曲して南壁に達しており、ほぼ地表で確認できたことであることを確認した。堆積土を一部掘り下げて確実に塼であることを確認するに留めたので、深さなどは不明である。

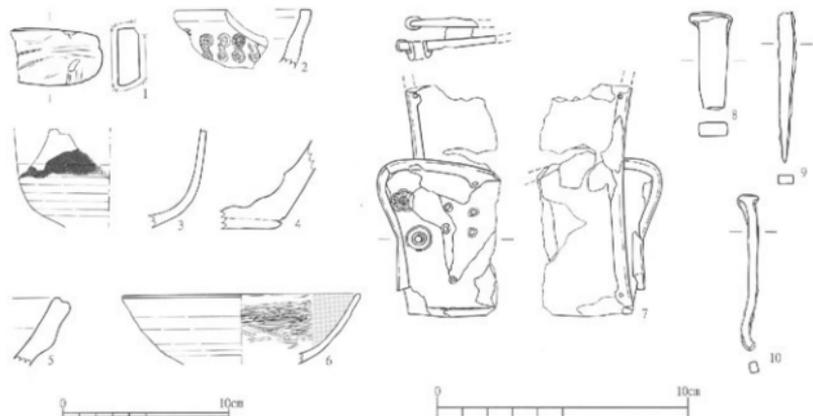
遺物も上層から出土した70点ほどで、図化できたのも紙石や瓦質土器の2点である(表133、第396図1・2)。

11B-SD2 (第392～394図) SD1003から約5m東に並行して位置し、IVa層上面から掘り込まれていることを調査区の壁面で確認している。幅約6m、深さ1.6m、断面形は逆台形であり底面は平坦である。第394図では東壁に段があるが、この段が改修された痕跡であることが確認できた。堆積土は自然堆積層である。このSD2は北側に20m離れた11B区拡張区ではSD1004C(註7)に切られながらも北に延びていることが南北両側の壁面で確認されており(第393図の断面図)、IVa3期の埋跡であると推定される。

遺物は70点出土したが、約2/3は土師器・須恵器で、残りが中世陶器などである。図化できたのは大塚相馬産(近世)と瀬美産の陶器である(表133、第396図3・4)。

(2) 擬立柱建物跡

確認された11棟のうち、城館の主軸方向から大きく傾く(11～41° 西傾) 11B-SB19、11C-SB1・2・34、11F-SB30～32の7棟がIVa4期と考えられる。11C-SB1・2・34、11F-SB30・32の5棟は重複するかあるいは極めて近接した位置関係にあるので、これらは同時に存在したのではなく時間差があると考えられる。なお、11F-SB31の内部



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(産地)	器種	遺存度	法長 (cm)			調整・特徴	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	K-169	11B-SD1004・上層	石製品・紙石	産部のみ		5.2+	3.5	1.8	右片+、デイスイト質凝灰岩	164-30
2	B-39	11B-SD1004・上層	瓦質土器・香炉	口縁部小片					口縁口調整、外面に銀土文スタンプ	164-29
3	Ic-473	11B-SD2・上層	陶器(大塚相馬) 筒	体部小片					灰輪・縁輪なし、内面に被熱の痕跡。	164-21
4	Ic-474	11B-SD2・上層	陶器(瀬美) 壺	底部片					ナデ、外面にヘラ痕	164-32
5	Ic-485	11B-SK2	陶器(在来・白石)片口鉢	口縁部小片					口縁口調整	164-33
6	D-76	11B-P36	土師器・杯	口縁部小片					口縁口調整、内面ヘラミダキ・裏底調整、裏底調整、白土塗	165-3
7	Nb-185	11B-P53	鉄製品(金・甲冑) 板	部分		9.4+	5.5+	0.4		165-4
8	Na-253	11B-SK1	鉄製品・釘	頭～中央部		4.0+	1.1	0.5	頭部幅3cm、12g+	165-1
9	Na-254	11B-SK1	鉄製品・釘	中央～先端部		6.1+	0.6	0.3	4g+	165-2
10	Nb-262	11B-P51(11B-SB4)	鉄製品・釘	9/10		6.3+	0.8	0.3	頭部幅0.9cm、4g+	165-5

第396図 SD1004、11B-SB14、SD2、SK1・2、ビット出土遺物

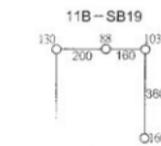
に11F-SE1が位置するので、SB31は井戸(11F-SE1)の上層である可能性がある。

IVa3期の建物跡は、城館の主軸方向からやや東に振れる(35°~41° 東傾) 11B-SB14・16・18、11C-SB5の4棟である。11B-SB14・16・18は小規模な南北棟と考えられるが、重複関係からSB14とSB18は同時に存在するがSB16とは時間差がある。なお、このSB16は内部に11B-SE3が位置するのでこれの上層である可能性がある。また、M14~15に位置する11C-SB5はさらに南北に長い建物跡である可能性があり、曲輪の中央やや南よりに位置することから、主屋の一部かあるいは副屋的な建物である可能性が考えられる。

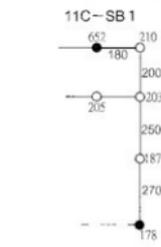
建物跡からの出土遺物は土師器・須恵器・中世陶器・金属製品などであるが非常に少ない。凶化できたのは11B-SB14の鉄釘Na-262、11C-SB5の鉄製の釣り針Na-297と銭貨Nb-199である(第396図10、第409図15・17)。

(3)井戸跡(第379・397・459図)

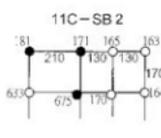
この付近のIVa層やIVb層の上面で確認できた遺構はわずかで、プラン確認面は大部分がVa層上面とVb層上面である。前述したように遺構の確認面と実際の掘り込み面と想定される面は一致せず、掘り込み面よりも下層で確認している場合が多い。土壌化が原因と考えられるが、この付近はこのズレが1面に限らず2面に渡っていると考えられる。そこで、基本的にはVa層上面確認の遺構はIVa期、それより下層のVb層上面確認の遺構はIVb期と想定し、さらに重複関係を検討して遺構の時期を推定した。その結果、この中心の曲輪で検出された井戸跡は21基あるが、Vb層上面で確認したものとVa層上面で確認したもののうちIVb期の可能性があるものを除くと、IVa期の可能性がある井戸跡は7基である。ただし、大部分はIVa期の中での細かな時期の限定はできない。規模などの詳細は表114(26頁)・116(46頁)・118(48頁)のとおりである。



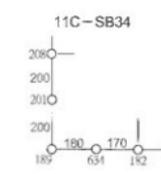
Ptho	確認層	大きさ	深さ	柱直径
130	Vb	29	20	?
88	Va	28×2	23	?
103	Va	28×2	18	?
166	Va	25	38	?
規模	東西3.6m、2期	南北3.6m+		
柱間	1.6~2.0m	3.6m		
面積		傾き	13°W	



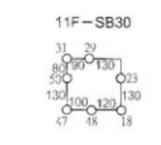
Ptho	確認層	大きさ	深さ	柱直径
210	Va	28	26	?
667	Va	42	25	16
203	Va	46	11	?
205	Va	54×30	10	?
187	Va	46×38	24	?
178	Va	50×46	23	8
規模	東西1.8m+	南北2.7m+		
	2期+	身舎2期-、北路		
柱間	1.8m	身舎2.5~2.7m		
面積		傾き	1.9m	38°W



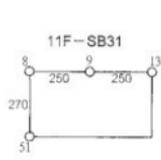
Ptho	確認層	大きさ	深さ	柱直径
181	Va	30	24	10
171	Va	40×36	30	10
165	Va	29	20	?
163	Va	48×40	25	?
164	Va	23	29	?
170	Va	32	18	?
675	Vb	30×26	20	3
653	Va	42×26	31	?
規模	東西4.7m、2期	南北2.7m+、1期		
柱間	1.3m・2.1m	1.7m		
面積		傾き	41°E	
備考	礎柱?			



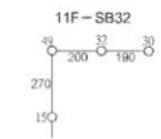
Ptho	確認層	大きさ	深さ	柱直径
208	Va	30×24	34	?
200	Va	56×32	20	?
189	Va	28	23	?
634	Va	28	12	?
182	Va	40×32	44	?
規模	東西3.5m+、2期+	南北4.0m+、2期+		
柱間	1.7~1.8m	2.0m		
面積		傾き	17°W	



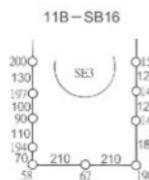
Ptho	確認層	大きさ	深さ	柱直径
23	Va	44×36	47	?
18	Va	32	24	?
48	Va	38×30	23	?
47	Va	40×32	31	?
50	Va	27	21	?
31	Va	39	20	?
29	Va	34×24	16	?
規模	東西2.7m、2期	南北2.1m、2期		
柱間	0.9~1.2m	0.9~1.3m		
面積	4.4m ²	傾き	11°W	
備考	礎?			



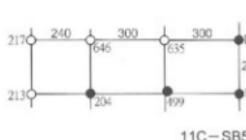
Ptho	確認層	大きさ	深さ	柱直径
51	Va	28×2	20	?
8	IVb	23×20	42	?
9	IVb	26	14	?
13	IVb	30×25	28	?
規模	東西(5.0m)	南北2.7m		
	掘り2期	掘り1期		
柱間	2.5m	2.7m		
面積	(13.5m ²)	傾き	14°W	
備考	SE1の上層?			



Ptho	確認層	大きさ	深さ	柱直径
15	IVb	24×20	27	?
49	Va	36×2	40	?
32	Va	24×9	18	?
30	Va	21	44	?
規模	東西(1.3m)、1期	南北2.7m、2期+		
柱間	1.9~2.0m	2.7m		
面積		傾き	24°W	



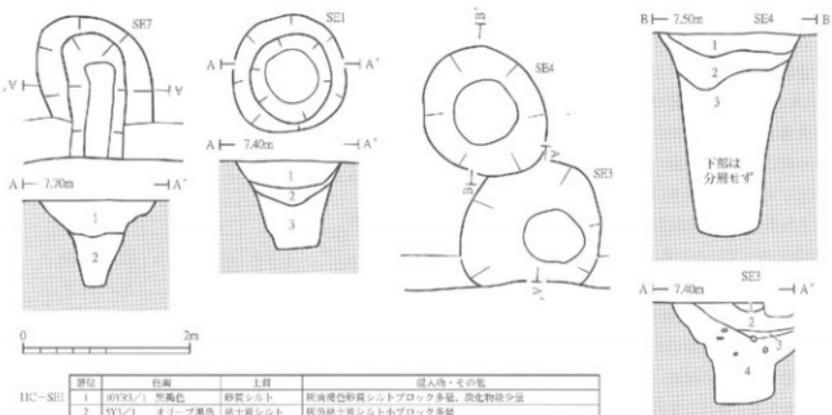
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
200	Vb	35×24	32	?
197	Vb	32×28	17	?
90	Va	30	15	?
194	Vb	23×20	13	?
58	Va	49	38	?
57	Va	41	15	?
190	Vb	24×18	12	?
144	Vb	36×30	10	?
147	Vb	38×34	28	?
150	Vb	26	37	?
規模	東西2.2m	南北4.2m+		
	奥行2階	奥行3~4階+		
柱間	2.1m	0.7~1.8m		
面積			傾き	35°E
備考	SE3の上層?			



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
211	Va	30	16	?
217	Va	36×26	24	?
646	Vb	28×22	16	?
635	Va	29	11	?
174	Va	37	17	10
173	Va	35×27	27	10
499	Va	32	23	14
301	Va	33	30	12
規模	東西4.4m、3階	南北2.2m+、1階+		
柱間	2.4m・3.0m	2.0~2.2m		
面積			傾き	36°E
備考	施柱?			

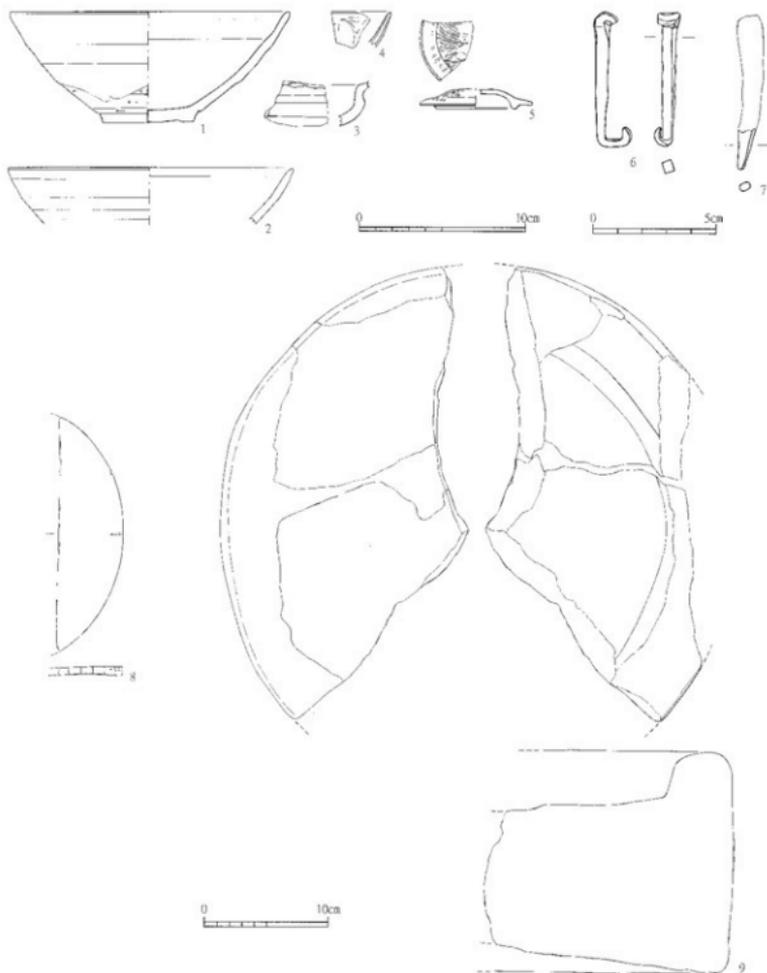
11C-SE4、11F-SE1・2は深さ2.1~2.7mあるが、11C-SE1・3・7は深さが1.1~1.2mと浅い。特にSE7は底面の形態も異なっているので井戸とは異なった機能を持つ可能性もある。また、11B-SE3は深さ2.7mまで掘り下げたが調査区壁際に位置していたため底面まで掘りきることはできなかった(第459図)。

なお、掘立柱建物跡の項で述べたように11B-SE3はこの時期の11B-SB16の内部に位置している。断定はできないがSB16が上層である可能性がある。



層位	色相	土質	遺失物・その他
11C-SE1	1	40YR3/1 黒褐色	砂質シルト 灰褐色砂質シルトブロック多量、炭化物粒少量
	2	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト 粘土質シルト本ブロック多量
	3	7.5Y4/1 灰色	砂質シルト 砂質シルトに炭塵
11C-SE3	1	40YR3/2 黒褐色	砂質シルト 炭化物粒少量
	2	40YR4/2 灰褐色	粘土質シルト 濃い灰色粘土質シルトブロック多量、炭化物を懸架した数量
	3	40YR4/1 濃い黄褐色	粘土質シルト 挙動性状多量
	4	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト 褐色・灰褐色ブロック多量
11C-SE4	1	40YR3/2 黒褐色	砂質シルト 炭化物粒少量、セブロック少量、人為的な埋土の土?
	2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト 濃い灰色粘土質シルトブロック多量、人為的な埋土の土?
	3	40YR2/1 黒色	砂質シルト
11C-SB7	1	40YR3/3 濃い黄褐色	粘土質シルト 炭化物粒少量、マンガン塵多量
	2	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト 黄褐色粘土質シルトブロック多量

第397図 11C-SE1・3・4・7平面・断面図

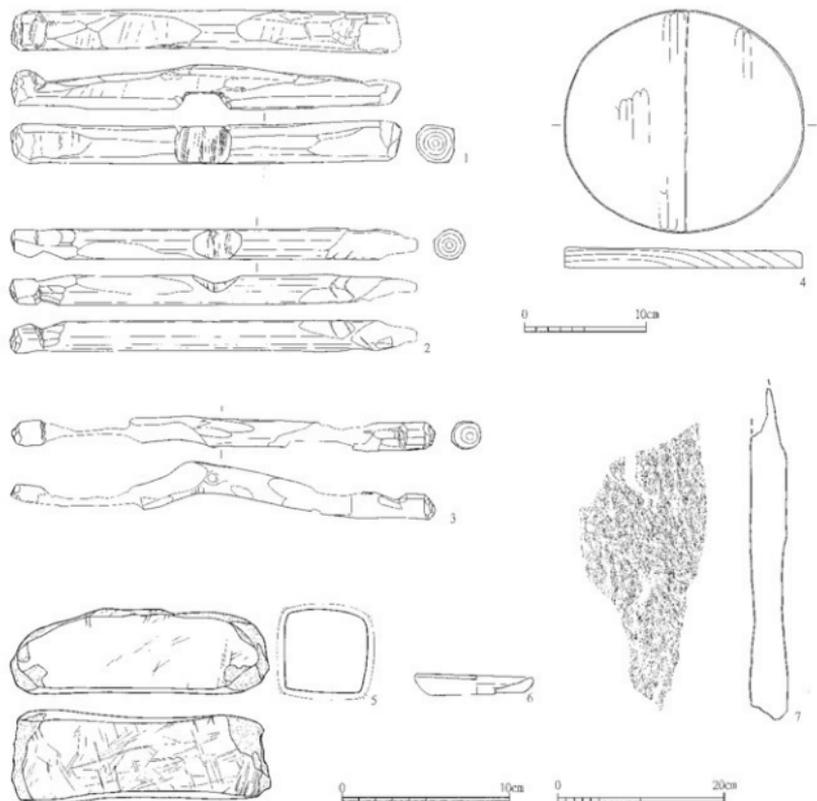


No.	発見No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	発見 層位
					口径	底径	器高		
1	ic-483	11B-SE3	陶器(古瀬戸) 平鉢	1/3	(16.8)	5.5	6.8	灰釉、後I期	185-2
2	ic-484	11B-SE3	陶器(古瀬戸) 平鉢	上部1/6	(17.2)			灰釉、後I期	185-1
3	ic-559	11B-SE3	陶器(古瀬戸) 杯縁片	杯縁小片				灰釉、後I期	185-3
4	J-153	11B-SE3・3層	青磁(備前産系) 碗	口縁座小片				薄片文	185-4
5	J-145	11B-SE3	白磁(中回) 蓋	1/5	(5.8)				185-5
6	Na-251	11B-SE3	鉄製品・釘	ほぼ完形	長5.6	幅0.5	厚0.4	加曲、頭部幅0.9cm、7g±	185-7
7	Na-250	11B-SE3	鉄製品・釘	中央~先端部	長6.3+	幅0.4	厚0.3	人部分錆、7g±	185-8
8	L-303	11B-SE3・9層	木製品・曲物	底版1/5	(23.6)		0.8	結合釘孔	185-6
9	K-116	11B-SE3	石製品・粉瓶口上口	1/3	径(41.0)		高18.4	11B-SD4-1層出土破片と接合、灰山岩	185-9

第398図 11B-SE3 出土遺物

遺物は土師器・須恵器・中世陶器・木製品などが出土している。点数はそれぞれ数点～30点ほどであるが、11B-SE3はやや多く90点近くある(表133)。このうち27点が図化できた(表133・134・138、第398～400図)。

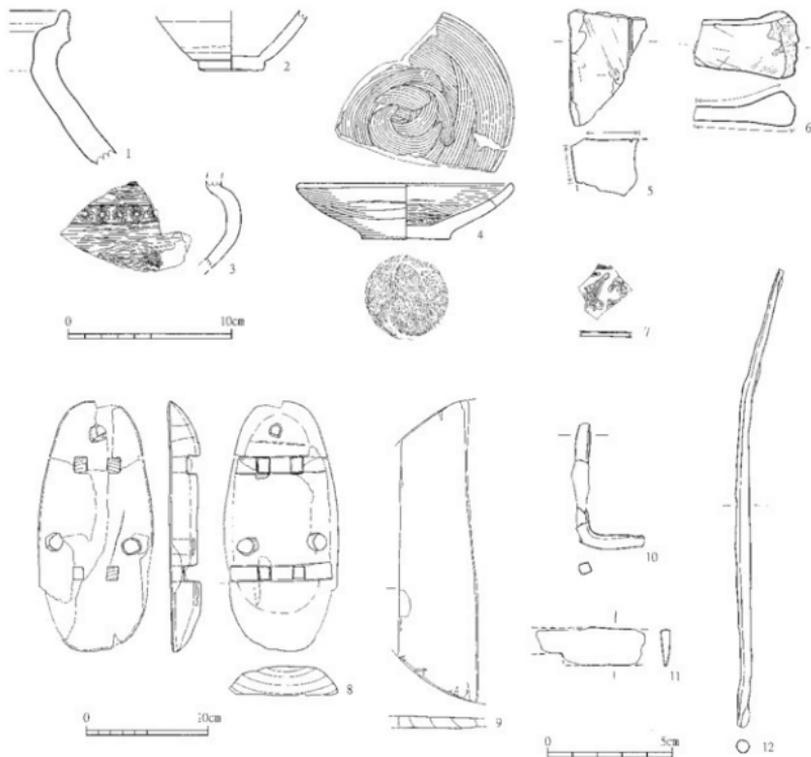
第398図は11B-SE3から出土した遺物で、瀬戸産の平碗や香が、中国産の青磁碗や白磁の壺の蓋、山物底板、鉄釘、粉挽臼などがある。第399図1～6は11C-SE4から出土した木製品と石製品で、L-410・412手桶の柄(1・2)は中央部の袂



No	登録No	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-10	11C-SE4・3層	木製品・手桶	柄のみ	31.7	径3.6		丸木材、両端部を削り出し・中央部に球り	166-3
2	L-412	11C-SE4・3層	木製品・手桶	柄のみ	33.1	径2.2		丸木材、両端部近くと中央部に球り	166-4
3	L-411	11C-SE4・3層	木製品・手桶	柄のみ	34.5	径2.8		丸木材、両端部近くと球り	166-5
4	L-409	11C-SE4・3層	木製品・桶?	底板のみ	径19.5		1.7		166-6
5	K-94	11C-SE4・3層	石製品・破石	ほぼ完形	14.8	5.2	5.0	795g、テイスサイト	166-2
6	la-87	11C-SE4	土師器・破石	2/3	口径(7.2)	底径(5.4)	高さ1.4	口クロ溝状、1辺斜切	166-1
7	K-95	11C-SR12	石製品・板碑	2/3	39.5+	16.5+	4.5	3260g+、頁岩、種子下部欠損	166-7

第399図 11C-SE4・12 出土遺物

りを入れた部分で「十字」に組み合うと考えられる。第400図1~6は11F-SE1の遺物で、十師質土器Ia-73皿(4)はロクロ調整後、見込み部分を中心に再調整(ナデ)が施されている。第400図7~12は11F-SE2の遺物で、差曲下駄や曲物底板などの木製品や釘・刀子・紡錘車の軸などの鉄製品がある。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口徑	底径	器高		
1	Kc-389	11F-SE1	陶器(産地:白(石)叢)	口縁~体部片				11・頭部ヨコナデ, 体部ナデ	175-1
2	Kc-388	11F-SE1	陶器(中国)瓦片類	下部		4.0			175-2
3	Bs-34	11F-SE1	瓦質土器・香炉	体部小片				片断ハタシ片・軸孔2・軸孔スラブ, 軸孔2で組立, 片断ナデ	175-4
4	Ia-73	11F-SE1	土師質土器・皿	1/3	(13.3)	5.5	3.5	口縁調整~口縁部ナデナデ, 口縁部, 口縁部, 口縁部	175-3
5	K-111	11F-SE1	石製品・砥石	中央部のみ	7.5+	4.7+	3.5-	142g+, デイサイト質凝灰岩	175-5
6	K-115	11F-SE1・4層	石製品・砥石	端部のみ	6.4+	4.2	2.3	67g, デイサイト質凝灰岩	175-6
7	J-176	11F-SE2	曹白磁(中国)高脚不明	体部片					175-7
8	L-477	11F-SE2	木製品・差曲下駄	管部のみ	20.8	9.3	19.2	差曲の差込穴2x2, 差曲 一部残存	175-11
9	L-482	11F-SE2・3層	木製品・曲物	底板片	(26.5)		1.0	粘合釘孔2	175-12
10	Ni-428	11F-SE2	鉄製品・釘	中央部	7.1	0.1	0.1	屈曲, 7g-	175-9
11	No-429	11F-SE2	鉄製品・刀子	刀身基部	4.4+	1.5	0.4	7g+	175-8
12	No-190	11F-SE2	鉄製品・紡錘車軸	両端部欠損	18.6+	種0.5		15g+	175-10

第400図 11F-SE1・2出土遺物

No.	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11B-SE 1	L10・SD1003壁面	楕円形	30×58	175+	IVa期、土師質土器
11B-SE 2	L10・SD1003壁面	楕円形	166×124	172-	IVa期、常滑 (10型式)、短刀、刀子
11B-SE 3	M13・IVa層	楕円形?	230×?	226	IVa3期?、古瀬戸 (後I~III期)、11B-SB16がト盛?
11B-SE 4	M11・IVb層	円形?	90×85	135	IVb2期、古瀬戸 (中I~II期)
11B-SE 5	M13・Va層	円形?	200×?	183	IVb期、中世陶器
11B-SE 6	M13・Va層	円形?	130×?	150+	IVb期、土師質土器

表116 11B区 井戸跡一覧表

No.	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11B-SK 1	M9・IVb層	楕円形?	128×?	36	IVa期、土師質土器
11B-SK 2	M9・IVb層	不整形	270×?	20-	IVa期、中世陶器
11B-SK 3	M9・Va層	楕円形	92×60	21	Va~IVb期
11B-SK 4	M9・Va層	長楕円形	200×68	22	Va期、土師器多量
11B-SK 5	M9・Va層	不整形	88×48	10	Va~IVb期
11B-SK 6	M9・Va層	楕円形?	128×?	33	IVb期、中世陶器
11B-SK 7	M9・Vb層	不整形	100×99	Va期	
11B-SK 8	M13・Va層	円形?	94×?	21	Va~IVa期
11B-SK 9	M13・Va層	円形	110×106	73	IVa2~4期、11B-SB11を切る
11B-SK 10	M17・Va層	円形?	100×?	48	Va~IVb期
11B-SK 11	M12・Va層	楕円形	82×70	20	IV~IVa1期、11B-SB8に切られる、中世陶器
11B-SK 12	M13・Va層	隅丸長方形	132×98	32	Va~IVa1期
11B-SK 13	M13・Va層	楕円形?	120×?	25	Va期
11B-SK 14	M10・Va層	円形	95×90	Va期、土師器多量	
11B-SK 15	M13・IVa層				IVa期、
11B-SK 16	M13・Va層	不整形円形	158×150	72	IVb~IVa1期、11B-SB8に切られる、中世陶器
11B-SK 17	M13・Va層	楕円形	96×86	17	Va~IVb期、11B-SK16に切られる
11B-SK 18	M13・Va層	不整形円形	106×?	47	IVb期、漆灰
11B-SK 19	M13・IVa層				IVa期
11B-SK 20	M13・Va層				Va期
11B-SK 21	K10・IVa層	円形?	125×?	26	IVa期
11B-SK 22	K10・IVa層	楕円形	126×?	30	IVa期
11B-SK 23	K10・IVa層	楕円形	170×?	29	IVa期

表117 11B区 土坑一覧表

(4)土坑 (第401図)

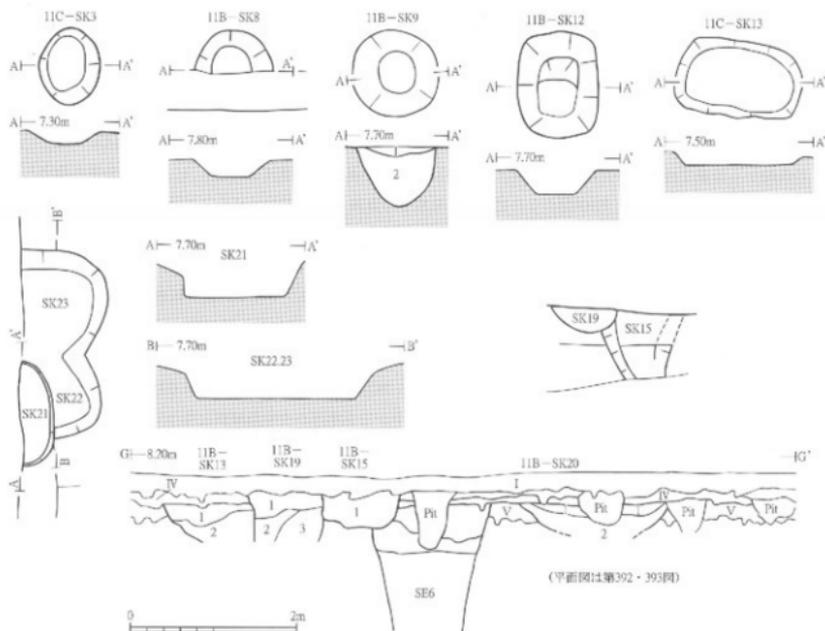
曲輪内では15基検出したが、IVa3・4期に該当する可能性があるものは8基である。大きさや平面形は様々で、11B-SK8・9や11C-SK3が径50cm~1mほどの円形や楕円形、11D-SK1が径2.5mの円形で播鉢状の断面形態を持ち、11B-SK12と11C-SK13が1~1.5mほどの隅丸長方形である。11B-SK15・19は他の遺構に切られているのと壁際で木掘部分が多いなど不明点が多い。規模などの詳細は表117・119のとおりであるが性格は不明である。

遺物は少なく、土師器・須恵器・中世陶器などが数点ずつ出土した程度で、同化できたものはない (表133・134)。

(5)ピット

孤立柱礎物跡としての組み合わせが不明で、性格不明として残ったピットは17基である。

これらのピットからの出土遺物の大部分は土師器や須恵器などの小片で、同化できたものは土鍾1点である (表133・135、第409図5)。



(平面図は第392・393図)

層位	色澤	土質	炭化物・植物遺残	器入物・その他
11C-SK3	1 2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物・植物遺残	器入物・その他
11B-SK8	1 10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・粘土粒微量	
11B-SK9	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物・粘土粒微量	
	2 10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色・灰黄褐色シルトブロック多量、炭化物多量	
11B-SK12	1 10YR1.7/1 黒色	シルト	炭黄褐色シルトブロック・炭化物多量	
11C-SK13	1 7.5YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物・粘土粒少量	
11B-SK13	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、部分的にV層ブロック多量	
	2 10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、粘土ブロック微量、V層ブロック少量	
11B-SK15	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒少量、V層ブロック微量	
11B-SK19	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、V層ブロック多量	
	2 10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、V層ブロック多量	
	3 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物・粘土粒少量、V層ブロック微量	
11B-SK20	1 10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、粘土粒微量	
	2 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、粘土粒微量	

第401図 11B-SK8・9・12・13・15・19・21~23, 11C-SK3・13 平面・断面図、11B区北壁断面図

5. 11C区東部～11D区西部の遺構と遺物

11C区中央には南北方向の堀跡SD1007があり、南部の調査区南端部には東西方向の堀跡SD1009の一部を検出して
いる。この付近は城館中央の東隣の曲輪の南部に相当するが、SD1007とSD1009はIVa3～4期を通して概ね同位置に
あったと推定されるので、曲輪の状況もIVa3～4期の間はあまり変化がなかったと考えられる。曲輪の東辺が不明瞭
であるが、11D区で検出しているSD1010 (IVa4期) やSD1011 (IVa3期) との間の距離は75～80mである。

この曲輪からは掘立柱建物跡11棟、溝跡5条、井戸跡7基、土坑30基、鍛冶関連遺構1基、ビット約450基を検出して
いる(第403・404図)。なお、第404図のさらに東側に位置する遺構(第412図分)については次の項目に記載した。

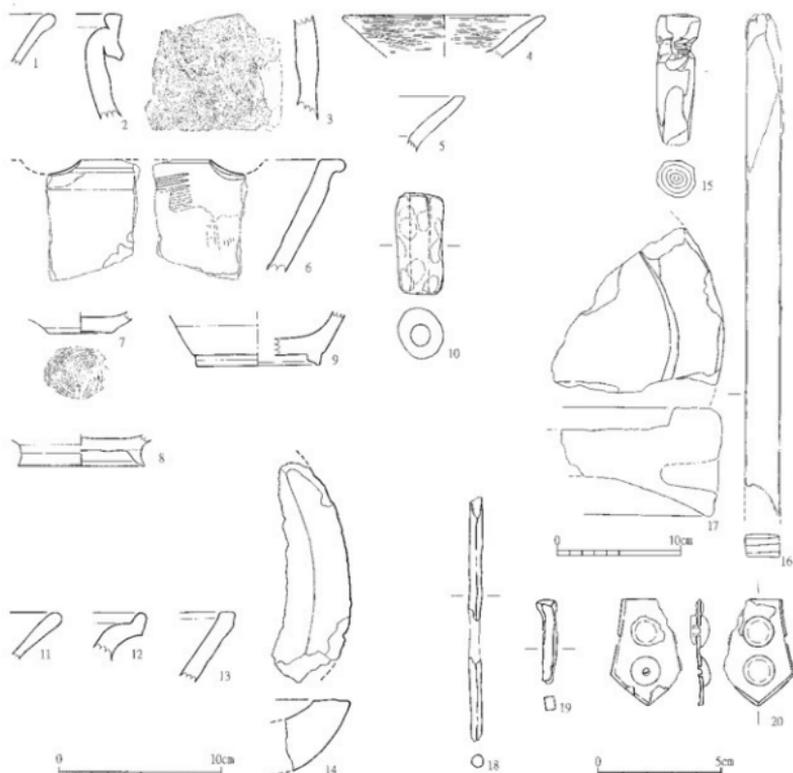
(1) 溝跡

SD1007(第403・405図) 試掘調査時に第28トレンチで確認していた遺構で、11C区中央のM17・18グリッドに位置
する。城館中央の曲輪の東辺の堀跡である。M18グリッドから南隣のN18グリッドの調査区西壁沿いを南に延びて
SD1009と接続しているが、接続部の大部分は調査区外となっている。埋没後に最上部が幅8mほどの水田として利用
されていたため、表土を除去した段階でこの水田部分を確認し、さらにこの水田耕作土を40～50cm 掘り下げた面で
堀跡のプランを確認している。幅3.6m、深さ1.2mであるが、水田として掘削された分がさらに深かった可能性がある。
堆積土は自然堆積層である。断面形は上部の傾斜が緩やかで下半部がやや急傾斜となっているため段が形成さ
れているが、堆積土も段に合わせて分層できることから上半部は掘りなおされていると考えられる。なお、城館中
央の曲輪はIVa2期に整備されたと考えられるので、それを区画するSD1007もその頃掘削され、その後IVa4期まで長
期間機能したと推定される。

遺物は約170点出土したが、土師器・須恵器が半数近くを占め、残りが在地産や常滑産などの陶器、土師質土器、
瓦質土器、石製品、金属製品、木製品などである(表134)。図化できたのは16点で(第402図1～10、15～20)、内外
面がヘラミガキされた瓦器Ib-31皿(4)などがある。

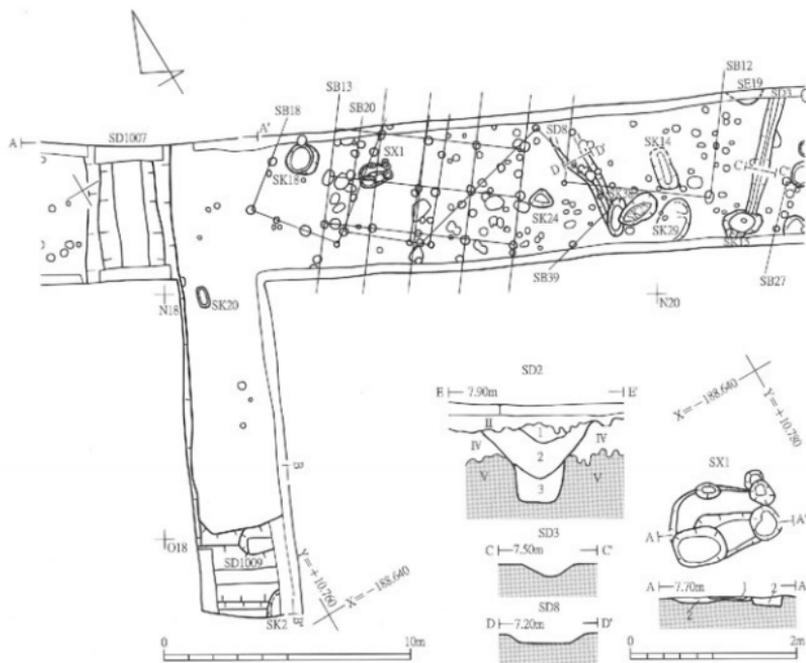
No.	グリッド・確認単位	平面形	大きさ (ca)	深さ (cm)	時期・その他
11C-SE 1	M17・Va層	円形	150×140	116	IVa期
11C-SE 2	M17・Va層	円形	190	115	IVa1・2期、中世陶器・漆器類
11C-SE 3	M17・Va層	楕円形	270×?	117	IVa期、中世陶器
11C-SE 4	M17・Va層	楕円形	170×146	240	IVa期、土師質土器
11C-SE 5	M16・Va層	円形	130×120	220	IVa1・2期、朝鮮陶器・漆器類
11C-SE 6	M16・Va層	円形	92×90	122	IVb2期、常滑(8型)、曲物の井戸枠、SE5に切られる
11C-SE 7	M14・Va層	楕円形?	140×?	107	IVa期、11C-SE25を切る
11C-SE 8	M15-16・Va層	楕円形?	178×?	237	IVb2期、古瀬戸(中Ⅱ～Ⅲ期)、常滑(7型)
11C-SE 9	M15-16・Va層	楕円形?	200×?	188	IVb2期、中世陶器
11C-SE 10	M15-16・Va層	円形?	180×?	223	IVb2期
11C-SE 11	M22・Va層	楕円形	240×210	210	IVb1期、11C-SE31に切られる
11C-SE 12	L～M22・Va層	楕円形	112×92	119	IVa期、板御座等?
11C-SE 13	N22・Va層	円形	138×130	130	IVb期、11C-SD1に切られる
11C-SE 14	M18・Va層	楕円形	170×138	151	IVa1期、11C-SE21に伴う
11C-SE 15	M21・Va層	楕円形	104×88	176	IVc～IVa1・2期、11C-SE16に切られる
11C-SE 16	M15・Vb層	楕円形	240×215	262	IVb2期、土師質土器、11C-SE17を切る
11C-SE 17	M15・Vb層	楕円形	238×216	197	IVb期、中世陶器
11C-SE 18	M19・Va層	楕円形	132×94	179	IVb期、中世陶器・漆器類
11C-SE 19	M20・Va層	?	160×?	?	壁跡のため未掘
11C-SE 20	M20・Va層	楕円形	182×148	238	IVb期、11C-SE35に切られる
11C-SE 21	M15・Vb層	円形	285×278	130	IVb期、11C-SE31に切られる
11C-SE 22	M16・Vb層	円形	56	139	IVb期
11C-SE 23					欠番
11C-SE 24	M14・Va層	楕円形	142×130	163	IVb期
11C-SE 25	M14・Vb層	楕円形	380×330	280	IVb期

表118 11C区 井戸跡一覧表



No.	発見No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版	
						口径	底径	器高			
1	1c-325	11C-SD1007・上層	陶器(東海)	鉢	口縁部小片				ロクハ調製, 山系陶器系	165-6	
2	1c-337	11C-SD1007・上層	陶器(常滑)	甕	口縁~体部片				口・胴部コナテ, 体部ナゲ, 7型式	165-7	
3	1c-550	11C-SD1007・上層	陶器(常滑)	甕	体部小片				ナゲ, 青花文押印	165-8	
4	1b-31	11C-SD1007・下層	瓦器	皿	1/7	(12.4)			ロクハ調製・内外面ヘラミガキ本	165-9	
5	1b-29	11C-SD1007・下層	瓦器	土器・鉢	口縁部小片				ロクハ調製	165-10	
6	1b-30	11C-SD1007・上層	瓦質土器	片口短鉢	口縁~体部片				ワコ殿~川崎ヨコナテ・湾部デ, 内面磨目・磨製(丸)	165-11	
7	1a-54	11C-SD1007・上層	土師瓦土器	皿	底部		4.0		ロクハ調製, 圓縁糸切, 見込みナゲ	165-13	
8	1a-55	11C-SD1007・下層	土師瓦土器	鉢	底部1/6	(7.3)			ロクハ調製, 付高古	165-14	
9	1a-64	11C-SD1007	赤赤土器	欠口	瓶	(7.4)			ロクハ調製, 体部下端圓縁ヘラケズシ	165-15	
10	P-16	11C-SD1007・上層	土師瓦土器	土師	欠形	長6.3	径3.0		56g, 円筒形	165-16	
11	1c-347	11C-SD1009・1層	陶器(東海)	鉢	口縁部小片				ロクハ調製, 山系陶器系	165-22	
12	1c-348	11C-SD1009・6層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				コナテ, 5型式	165-23	
13	1c-346	11C-SD1009・下層	陶器(東海)	白土	口縁部小片				ロクハ(圓縁台) 調製	165-24	
14	K-122	11C-SD1009・下層	石製器	茶臼下臼	部分	13.6+	4.9+	高さ4.4+	(220g+), 安山岩	165-25	
15	E-405	11C-SD1007・下層	木製品	編貝	45	10.7+	径3.0~3.5		丸木材, 節部近くに編掛け用の狭り	165-20	
16	E-405	11C-SD1007・下層	木製品	角材	9	肉端欠損	40.9	2.8	1.9	片方端部削け削ぎ	165-21
17	K-97	11C-SD1009・下層	石製器	輪軸(上)	1/6	径(29.6)			1320g+, 安山岩	165-2	
18	Na-295	11C-SD1007	鉄製品	釘	中央部	9.9	0.5	0.5	10g+	165-18	
19	Na-294	11C-SD1007	鉄製品	釘	頭~中央部	3.4	0.4	0.5	3g+	165-19	
20	Na-436	11C-SD1007	鉄製器具	巻り金具?	1/4(完成形)	4.3	2.8+	0.1	鋼径1.2cm・厚0.7cm. 5g+	165-17	

第402図 SD1007・1009 出土遺物

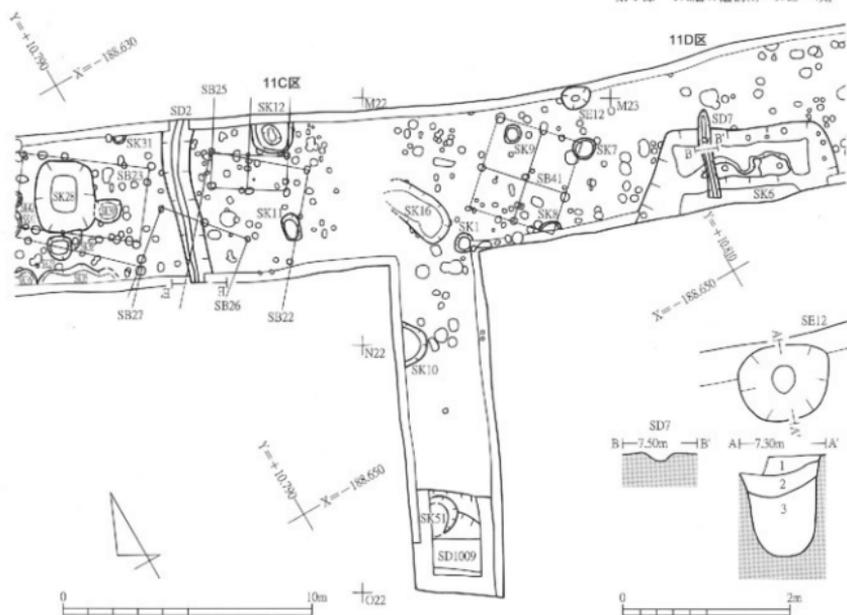


層位	色調	土質	混入物・その他	
11C-SD2	1 10YR1/2	黒褐色	シルト	炭化物微量
	2 10YR4/1	黒灰色	粘土質シルト	V層ブロック多量
	3 10YR1/1	黒褐色	粘土質シルト	粗砂を層状に少量
11C-SX1	1 10YR2/2	黒褐色	シルト	粘土・炭化物少量、人為的な埋め土?
	2 10YR1/2	黄褐色	シルト	黄褐色小ブロック少量、人為的な埋め土?

第403図 11C区中央部IVa層上面 (IVa3・4期) 平面図、
11C-SX1平面・断面図、11D-SD2・3・8断面図

層位	色調	土質	混入物・その他	
SD1009	1 10YR4/3	に近い黄褐色	砂質シルト	互層 マンガン微少量
	2 2.5Y3/2	黄褐色	砂質シルト	
	3 10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒少量
	4 5Y4/1	灰色	粘土質シルト	炭化鉄粒少量
	5 10Y5/1	灰色	砂質シルト	互層 暗オリーブ色シルトを層状に微量
	6 5Y2/2	オリーブ黒色	砂質シルト	
SD1007	1 2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	砂質シルト多量
	2 10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	灰色砂質シルトブロック少量、植物遺体多量
	3 5Y4/1	灰色	シルト	灰オリーブ色シルトブロック多量
	4 2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒少量
	5 10YR2/1	黒色	粘土質シルト	植物遺体少量、炭化物微量
	6 5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	植物遺体少量、炭化物微量
SD1007	1 5Y4/1	灰色	粘土質シルト	暗褐色・灰オリーブ色シルト小ブロック少量
	2 5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	暗褐色・灰オリーブ色シルト小ブロック少量
	3 5Y4/1	灰色	粘土質シルト	暗褐色・灰オリーブ色シルト小ブロック少量

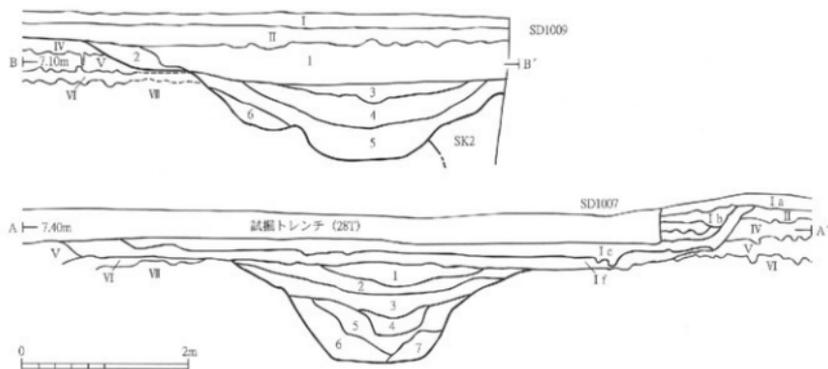
(第405図の註記表)



第404図 11C区東部～11D区西部IVa層上面(IVa3・4期)平面図、
11C～SE12平面・断面図、11D～SD7断面図

11C～SE12

層位	色調	土質	遺人物・その他
1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	
2	2.5Y3/1 2.5Y3/2 黒褐色 黒褐色	砂質シルト 灰軟質粘土	瓦H
3	5Y3/1 オリーブ褐色	砂質シルト	黒色粘土ブロック・灰色焼酎ブロック多量



第405図 SD1007・1009 断面図

SD1009 (第403～405図) 調査区南端部のO18グリッドとN22グリッドのIV層上面で確認しているが、南側の層は調査区外のため幅などは不明である。断片的ではあるが11F区東部で確認した部分と連続すると推定され、11F区同様にIVa3～4期にかけて機能していたと推定される。幅は4m以上、深さは約1.5mで、堆積土は自然堆積層である。北

側に段が付くが、段のところで分層できることから少なくとも1回は改修されていると考えられる。

遺物は約60点出土し、東海・常滑・在地産などの陶器や茶臼が図化できた(表134、第402図11~14)。

11C-SD2 (第404図) M21グリッドに位置する南北方向の溝跡で、IVa層上面で確認した。幅約1m、深さ約70cmで堆積土は自然堆積層である。遺物は約20点出土し、鉄釘が1点図化できた(表134、第409図13)。

11C-SD3 (第403図) M20グリッドに位置する南北方向の溝跡で、IVb層上面で確認した。幅約60cm、深さ10~15cm、堆積土は基本層IVa層が入り込んでいた。遺物は約50点出土したが図化できたものはない。

11C-SD8 (第403図) M19グリッドに位置する部分的な溝跡で、Va層上面で確認した。幅50cm~1m、深さ10~15cm、堆積土は基本層IV層が入り込んでいた。遺物は土師器片4点のみで、図化できたものはない。

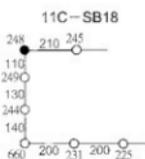
11D-SD7 (第404図) M23グリッドに位置する部分的な溝跡で、IVa層上面で確認した。11D-SK6を切っている。幅30~50cm、深さ10cmで、堆積土は基本層IV層が入り込んでいた。遺物は出土しなかった。

(2) 掘立柱建物跡

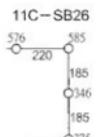
確認された11棟のうち、城館の主軸方向から大きく傾く(15~42°西傾、41°東傾)11C-SB18・26・27・39・41の5棟がIVa4期と考えられる。なお、SB26とSB27は重複しているのでこれらの建物跡には時間差があると考えられる。SB41は小規模な倉庫と考えられ、そのほかすべて梁行2~3間の小さな建物跡である。

IVa3期の建物は、城館の主軸方向からやや東に振れる(36~39°東傾)11C-SB12・13・20・22・23・25の6棟である。11C-SB13は東西長7.7mの総柱の建物跡であるが、さらに南北に長い建物跡である可能性があり、規模は中心の曲輪における主要な建物の可能性がある11C-SB5に近い。11C-SB23は内部に11C-SK28が位置するのでこの上層である可能性がある。なお、SB13とSB20、SB22とSB25がそれぞれ重複していることからこれらの建物群には時間差がある。

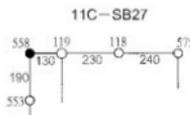
建物跡からの遺物は非常に少なく、土師器・中世陶器・鉄滓などが1~2点出土したのみである。図化できたのは11C-SB23の石製の硯K-98である(表135、136、第409図7)。



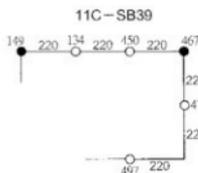
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱遺存
245	Va	30	33	?
248	Va	34×30	26	10
249	Va	26×22	35	?
244	Va	40	24	?
660	Va	22	28	?
231	Va	31	31	?
225	Va	35	20	?
規模	東西4.0m+		南北3.8m	
柱間	2.0~2.1m		梁行2間	
面積	15.2㎡+		傾き 139°W	



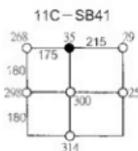
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱遺存
576	Va	31	25	?
585	Va	34×20	26	?
346	Va	25	14	?
375	Va	19	17	?
規模	東西2.2m+		南北3.7m	
柱間	2.2m		梁行2間	
面積	15.2㎡+		傾き 41°W	



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱遺存
553	Va	30×24	26	?
558	Va	33	22	10
119	IVb	29	44	?
115	IVb	26	14	?
575	Va	40×36	23	?
規模	東西6.0m		南北3.9m	
柱間	2.2m		梁行2間	
面積	22.0㎡		傾き 44°E	



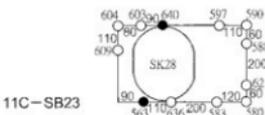
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱遺存
149	IVb	30	21	12
134	IVb	30	24	?
450	Va	38×34	12	?
467	Va	30	21	?
472	Va	19	23	12
497	Va	23	18	?
規模	東西(6.6m)		南北4.4m	
柱間	2.2m		梁行2間	
面積	(29.0㎡)		傾き 15°W	



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱遺存
29	IVb	39	49	?
15	IVb	32	25	10
268	Va	24×18	36	?
25	IVb	50×34	48	?
300	Va	33×22	28	?
298	Va	30	42	?
314	Va	30	40	?
規模	東西3.9m		南北3.6m	
柱間	1.75~2.15m		梁行2間	
面積	14.0㎡		傾き 42°W	
備考	総柱、倉庫			

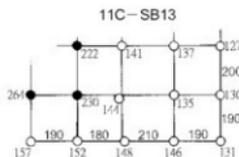


PNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
476	Vc	22	23	?
471	Vc	18	16	6
501	Vc	34	26	12
503	Vc	30	26	12
520	Vc	49×30	15	?
520	Vc	30×22	20	?
規模	東西5.9m、(4期)	南北2.1m+	掘り2間+	
柱間	1.35～1.5m	2.1m		
面積		積さ	36㎡	



11C-SB23

PNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
609	Va	50×40	18	?
604	Va	26×22	14	?
603	Va	40×30	32	?
640	Va	30×26	27	12
597	Va	23	33	?
590	Va	36×32	31	?
588	Va	30	33	?
62	IVb	30×26	18	?
580	Va	34	11	?
583	Va	26	26	?
636	Va	18	13	?
563	Va	36×30	35	10
規模	東西5.2m	南北3.2m		
柱間	掘り4間+	掘り3間		
柱間	0.8～1.2m、2～2.4m	0.6～1.1m、2.0m		
面積	16.6㎡	積さ	37㎡	
備考	SK28の上層			



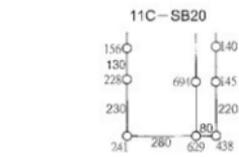
11C-SB13

PNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
266	Va	60×38	20	15
157	IVb	35	25	?
222	Va	36×28	32	10
230	Va	40	20	12
152	IVb	27	37	?
141	IVb	34	46	?
144	IVb	29	22	?
148	IVb	28×25	27	?
137	IVb	22×28	4	?
135	IVb	40×32	30	?
146	IVb	35	38	?
127	IVb	37	38	?
130	IVb	38	35	?
131	IVb	34×30	40	?
規模	東西7.7m、4期	南北3.9m+、7期+		
柱間	1.8～2.1m	1.9～2.0m		
面積		積さ	36㎡	
備考	掘り			



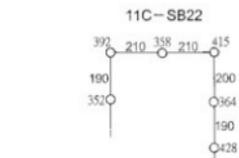
11C-SB25

PNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
381	Va	30×26	21	?
397	Va	18	32	?
354	Va	32×28	34	?
407	Va	26	19	14
401	Va	30×24	41	?
規模	東西3.1m、2期	南北1.5m、1期+		
柱間	1.5～1.6m	1.5m		
面積		積さ	34㎡	
備考	掘り・倉庫?			



11C-SB20

PNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
156	IVc	49	37	?
228	Va	40	11	?
241	Va	30	28	?
629	Va	26×22	11	?
438	Va	28×24	21	?
694	Va	30×20	19	?
145	IVb	52	39	?
140	IVb	34×28	15	?
規模	東西3.6m	南北3.5m+		
柱間	有倉庫行1間+倉庫	掘り2間+		
面積	長さ2.6m、幅0.8m	1.5m×2.2m		
面積		積さ	19㎡	



11C-SB22

PNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
352	Va	20×16	6	?
392	Va	30×26	18	?
358	Va	26×22	25	?
415	Va	34×30	34	?
364	Va	22	24	?
428	Va	26	24	?
規模	東西4.2m	南北3.9m+		
柱間	掘り2間+	掘り2間+		
面積	2.1m	1.9～2.0m		
面積		積さ	19㎡	

(3)井戸跡

11C区M20グリッドに11C-SB19を確認しているが、喫煙のため掘り下げは断念している。LM22グリッドのVa層上面では11C-SB12を確認した。規模などの詳細は表118(48頁)のとおりで

ある。遺物は中世陶器や石製品などが6点出土し、板碑の破片1点が図化できた(表134、第399図7)。

(4)土坑(第406～408図)

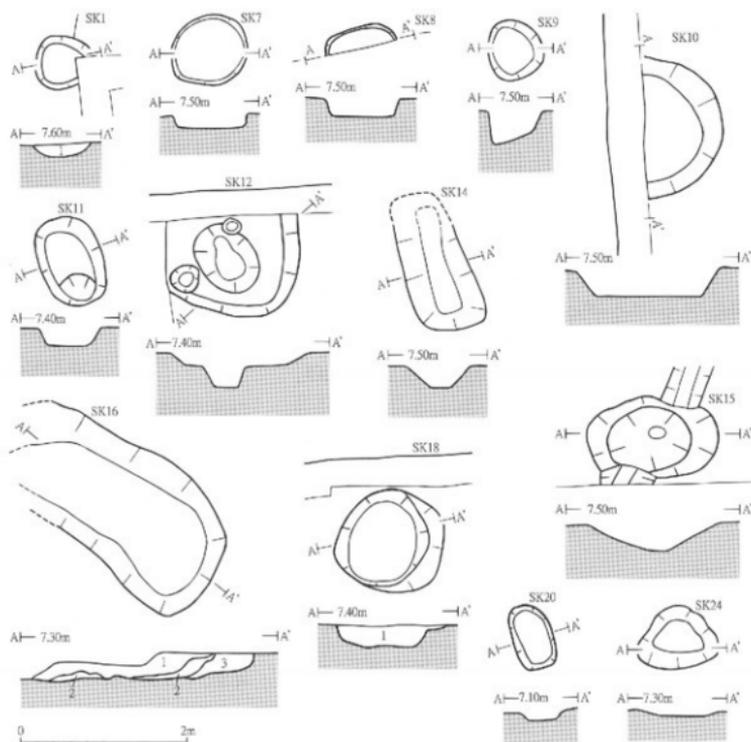
この時期に該当する可能性のあるものが30基ある。規模などの詳細は表119(57頁)・130(80頁)のとおりで、断面図に土層注記が記していないものは直上の基本層が入り込んだものである。

大きさや平面形は様々であるが、円形や楕円形で径50cm～1m程度の浅いものが多い。11C-SK1・7～9・11・18・20・24・27・30～32・41・42の14基があるが、大部分の上坑の性格は不明である。遺物は少なく、土師器片などがわずかに出土した程度で、図化できたのはSK8の鉄釘Na-275のみである(表134、第409図14)。

長さが2m前後の長方形や長楕円形のものには11C-SK14・15・25・29・38の5基でこのうちSK14だけが長方形である。深さは10～20cm程度で浅い。遺物は少なく、土師器片などがわずかに出土した程度で、図化できたのはSK14の羽目P-18のみである(表134、第409図6)。

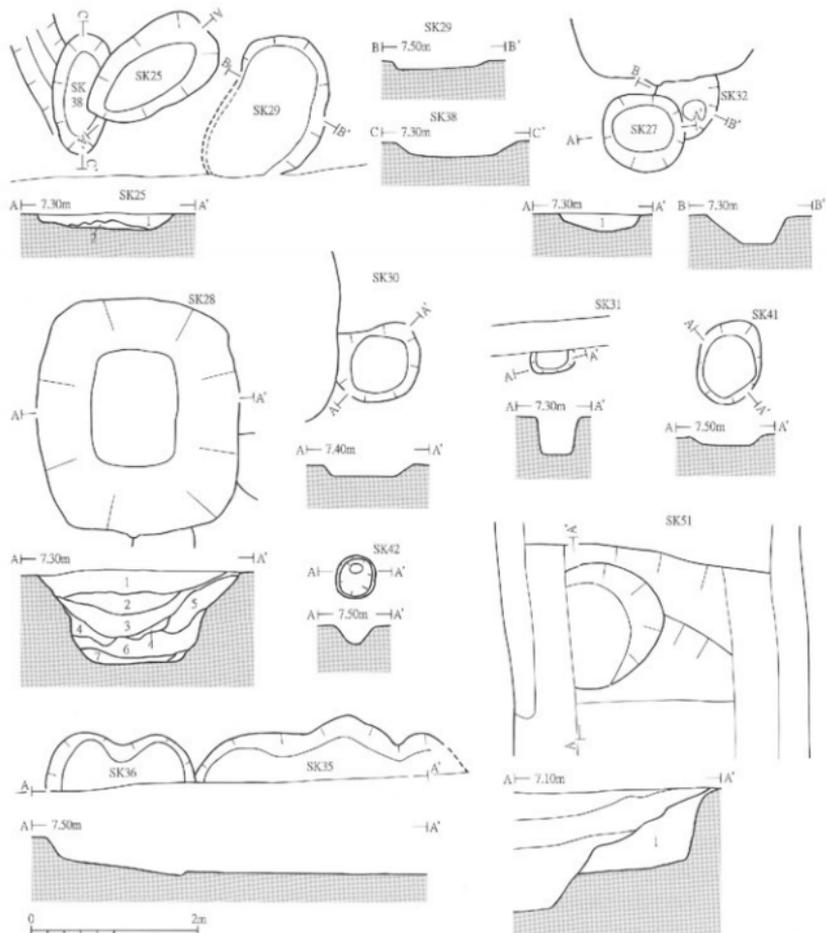
径2m近い円形のものには11C-SK10の1基である。深さは30cmで浅い。遺物はごくわずか図化できたものもない。

長さが3m以上の大型で不整形のものは11C-SK16の1基である。深さ30cmで堆積土は自然堆積層である。遺物は土器類や木製品などが30点以上出土し、常滑産の甕、漆器碗類、小札など5点が図化できた(表134、第409図3・8~10・16)。



層位	色調	土質	混入物・その他
11C-SK1	1 10YR4/3	にぶい黄褐色 砂質シルト	(基本層E層か?)
11C-SK7	1 10YR4/2	灰黄褐色	シルト 炭化物・焼土粒少量
11C-SK10	1 10YR3/2	黒褐色	シルト 炭黄褐色ブロック多量、炭化物を塊状に混入
11C-SK11	1 10YR3/1	黒褐色	シルト 炭化物・焼土粒少量
11C-SK14	1 10YR2/2	黒褐色	シルト 炭化物・焼土粒少量、V層ブロック少量
11C-SK15	1 10YR2/2	黒褐色	シルト 炭化物・焼土粒少量
11C-SK16	1 10YR2/1	褐色	焼土
	2 10YR4/2	炭黄褐色	シルト質粘土 炭黄褐色シルトブロック少量、炭化物多量
	3 10YR4/2	炭黄褐色	シルト質粘土 炭黄褐色シルトブロック少量、炭化物少量
	3 10YR4/2	炭黄褐色	シルト質粘土 にぶい黄褐色シルトブロック少量、炭化物少量
11C-SK18	1 10YR3/2	黒褐色	シルト にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物粒少量
11C-SK20	1 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト 炭化物粒少量
11C-SK24	1 10YR3/2	黒褐色	砂質シルト V層ブロック多量

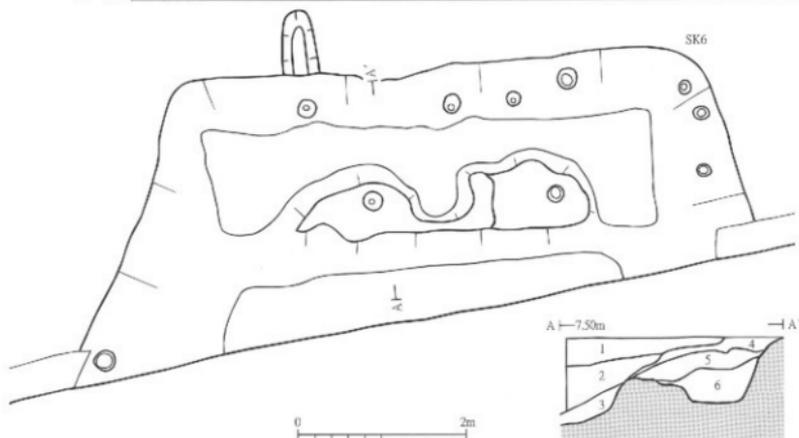
第406図 11C-SK1・7~12・14~16・18・20・24 平面・断面図



遺位	色調	土質	埋入物・その他
11C-SK25	1 10YR2/1 黒色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物少量
	2 10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	
11C-SK29	1 10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土	褐色砂質シルトブロック少量、炭化物少量
11C-SK38	1 2.5Y3/2 黒褐色	シルト質粘土	炭化物少量
11C-SK27	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量
11C-SK32	1 10YR2/1 黒色	シルト質粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物少量
11C-SK28	1 2.5Y3/1 黒褐色	シルト質粘土	炭化物・焼土痕少量
	2 2.5Y2/1 黒色	粘土	炭化物少量
	3 5Y2/1 黒色	粘土	黒色炭質粘土多量層状に露出
	4 2.5Y2/1 黒色	粘土質砂土	黒色粘土ブロック・灰色細砂ブロック少量
	5 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	オリーブ黒色シルトブロック・褐色炭質粘土ブロック多量
	6 10YR2/2 黒褐色	砂質質粘土	オリーブ黒色シルト質粘土ブロックを層状に微量
	7 5Y3/1 オリーブ黒色	粗砂	

第407図 11C-SK25・27~32・34~36・38・41・42・51 平面・断面図

11C-SK30	層位 1	色澤 HVR2/3 黒褐色	土質 粘土	埋入物・その他 炭化物散見
11C-SK31	1	HVR3/2 黒褐色	シルト質粘土	炭化物少量
11C-SK41	1	HVR2/1 黒色	シルト質粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物少量
11C-SK35	1	HVR2/1 黒色	シルト質粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物少量
11C-SK36	1	HVR2/2 黒褐色	粘土	炭化物散見
11C-SK51	1	SV3/1 オリーブ黒色シルト		暗オリーブ灰色砂質シルトブロック多量、人為的な埋め土 (第407図の註記表)



層位	色澤	土質	埋入物・その他
1	HVR3/2 黒褐色	シルト	管状酸化鉄を塊状に少量、炭化物散見
2	SV2/1 赤色	粘土	オリーブ灰色粘土ブロック少量、酸化鉄を層状に少量、炭化物散見
3	7.5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	植物遺体多量
4	HVR3/2 黒褐色	粘土	黄褐色粘土ブロック少量、酸化鉄を塊状に少量、炭化物散見
5	HVR2/2 黒褐色	粘土	黄褐色粘土ブロック少量、管状酸化鉄を塊状に少量、炭化物散見
6	7.5Y2/1 赤色	粘土	緑灰色粘土ブロック少量、酸化鉄を層状に少量、炭化物散見

第408図 11D-SK6平面・断面図

長さが3m以上、時には10m近い大型で整った形態のものが2基認められる。

11C-SK28 (第407図) M20グリッドのVa層上面で確認した。11C-SK30・32と重複しているが新田関係は不明である。2.9×2.2mの隅丸長方形で、深さは1.2m、底面は平坦である。断面形は上半部が緩やかであるが下半部が急傾斜となっている。堆積土は自然堆積層であるが壁の傾斜が変わる箇所ので分層できるため、上半部は掘りなおされていると推定される。11C-SB23の項で述べたが、SB23の内部に位置していて方向も大体一致することからSB23が上屋であった可能性が高い。半地下式の倉庫のような施設であったと考えられる。

遺物は土師器や中世陶器などの土器類や木製品が少数出土したのみで、図化できたのは曲物の蓋と推定されるL-401である(表134、第409図11)。

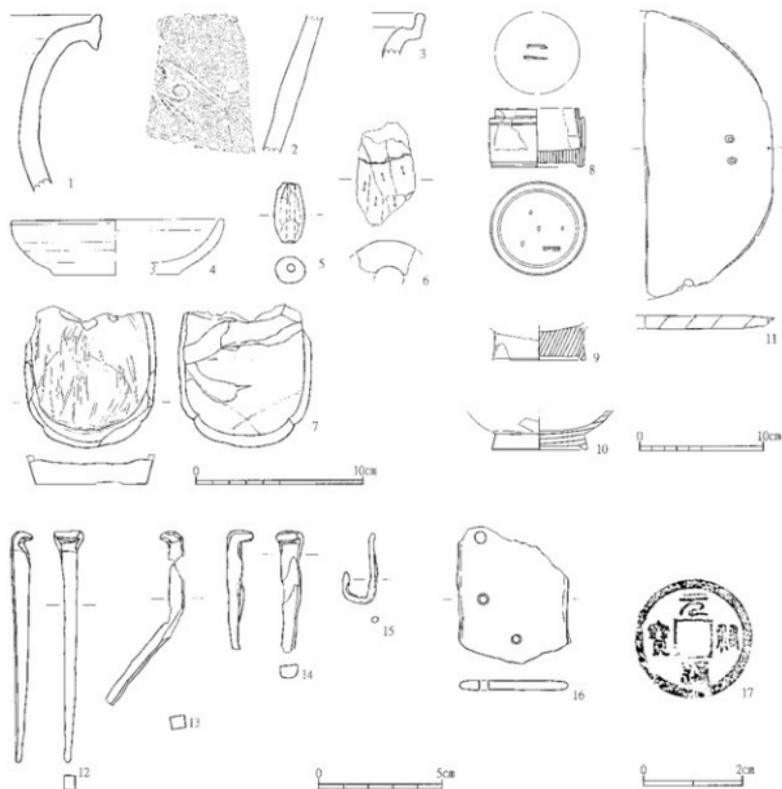
11D-SK6 (第408図) M23グリッドのIVa層上面で確認した。11D-SD7に切られている。南部が調査区外のため全体形が不明であるが、東西長が約7.8mの方形で、深さは約1mである。南壁際で平坦面が認められるので、一応ここを底面として捉えている。北壁側には幅約1mのテラス状の部分があり、底面との間には仕切りのようにやや高く掘り残した箇所がある。堆積土は自然堆積層である。なお、壁面には複数のビットが認められたが遺構に伴うものかどうか断定できず、周辺のビットも含めても上屋を明らかにすることはできなかった。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、在地や常滑産の中世陶器、金属製品や木製品など80点以上出土し、このうち12点が同化できた(表136、第410図)。中洞窟の白磁Ⅰ-91四耳壺(7)や青磁Ⅰ-92盤(8)、古瀬戸Ⅰc-297梅瓶(6)など、日常品とは異なる意味合いを持つ遺物が含まれている。

その他調査区の制約から部分的にしか調査できなかったものや、遺存状況が悪く、形態がよく分からない土坑が

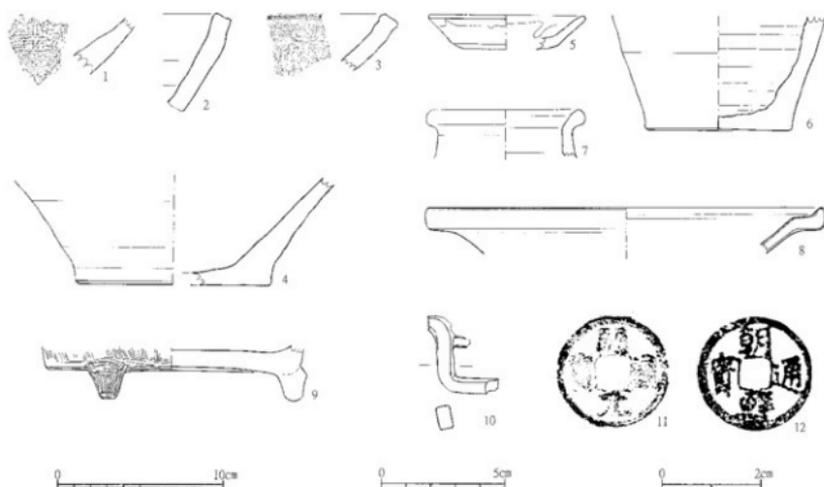
No.	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11C-SK 1	M22・IVa層	楕円形	70×60	18	IVa1期
11C-SK 2	O18・SD1009中	?	95+	50+	IVa4期
11C-SK 3	M17・Va層	楕円形	96×78	18	Va～IVa期
11C-SK 4	M17・Va層	?	80+	21+	Va～IVb期、11C-SB3に切られる
11C-SK 5	M17・Va層	?	160+	19+	Va～IVb期、SD1009に切られる
11C-SK 6					欠番
11C-SK 7	M22・IVb層	楕円形	90	17	IVa1期
11C-SK 8	M13・IVb層	楕円形	88	23	IVa4期
11C-SK 9	M13・IVb層		76/68	41	IVb2～IVa期、11C-SB11を切る
11C-SK 10	MN22・IVb層	?	176×7	32	IVa層、11C SD1を切る
11C-SK 11	M21・IVb層	楕円形	308×78	20	IVa3・4期、11C-SB29を切る
11C-SK 12	M21・IVb層	?	185×?	40	IVa3・4期、11C-SB31を切る
11C-SK 13	M16・Va層	楕円形	154×96	15	IVa3・4期、11C-SB33を切る
11C-SK 14	M20・IVb層	長楕円形	170×86	27	IVa層、中世陶器
11C-SK 15	M20・IVb層	楕円形	160×110	43	IVa2～4期
11C-SK 16	M22・Va層	楕円形	146×?	28	IVa3・4期、漆器類、中世陶器、小札
11C-SK 17	M18・Va層	楕円形	142/110	31	IVb1期、11C-SB15に切られる
11C-SK 18	M18・Va層	円形	126	25	Va～IVa期
11C-SK 19	N22・Va層	方形			Va期
11C-SK 20	N18・Va層	楕円形	90×50	15	Va～IVa期
11C-SK 21	M21・Va層	方形?	228×?	21	IVb～IVa1期、11C-SB29に切られる
11C-SK 22	M19・Va層	方形	100×36	29	IVa3～IVa2期、11C-SB20に切られる
11C-SK 23	M19・Va層	楕円形	100・60	33	Va～IVa2期、11C-SB31に切られる
11C-SK 24	M19・Va層	不整形	94×80	8	Va～IVa期
11C-SK 25	M19・Va層	楕円形	176×104	20	Va～IVa期
11C-SK 26	M20・Va層	楕円形	94×74	21	Va～IVa1期、11C SD29に切られる
11C-SK 27	M20・Va層	円形	100×96	21	Va～IVa期
11C-SK 28	M20・Va層	楕円形	294×222	19	IVa1期、11C-SB23に接す
11C-SK 29	M20・Va層	楕円形	219×114	20	IVb～IVa期、中世陶器
11C-SK 30	M20・Va層	楕円形	110×100	36	Va～IVa期
11C-SK 31	M20,21・Va層	円形?	54×?	45	Va～IVa期
11C-SK 32	M20・Va層	楕円形	100×78	34	Va～IVa期
11C-SK 33	M20・Va層	楕円形	94×80	23	Va～IVb期、11C-SK14に切られる
11C-SK 34					欠番
11C-SK 35	M20・Va層	不整形	340×?	28+	Va～IVa期
11C-SK 36	M20・Va層	不整形	180×?	30+	Va～IVa期
11C-SK 37	M19・Va層	円形	70×66	25	Va～IVa1期、11C-SB10に切られる
11C-SK 38	M19・Va層	楕円形	150×76	20	Va～IVa期
11C-SK 39	M20・Va層	不整形	190×86	17	Va～IVb1期、11C-SB40に切られる
11C-SK 40	M20・Va層	方形?	106×?	10	Va～IVc期、11C-SB40に切られる
11C-SK 41	M20・Va層	楕円形	110×80	10	Va～IVa期
11C-SK 42	M20・Vb層	方形	54×50	5	Va～IVa期
11C-SK 43	M16・Vb層	楕円形	204×?	103	IVc1期、11C-SB9に切られる
11C-SK 44	M18,19・Vb層	楕円形	84×68	?	Va層、土師器・須恵器
11C-SK 45	M16・Vb層	円形?	110×?	9.1	Va～IVb期、11C-SB33に切られる
11C-SK 46	M16・Vb層	長楕円形	256×108	17	Va層、土師器・須恵器
11C-SK 47	M16・Vb層	長楕円形	200×84	18	Va層
11C-SK 48	M17・Vb層				Vc層
11C-SK 49	M17・Vb層				Vc層
11C-SK 50	M16・Va層	楕円形	140×?	110	IVb1期、11C-SB9に切られる、SK43を切る
11C-SK 51	N22・SD1009裏面	円形?			Va～IVa1期

表119 11C区 土坑一覧表



No.	登録No.	地区・遺構・単位	種別(産地) 図種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					刃長	底径	柄高		
1	lc-536	11C-P119	陶器(常滑) 甕	口縁-体部片				11・胴部身コナデ、体部ナデ、6b形式	166-21
2	lc-538	11C-P207	陶器(常滑) 甕	体部小片				唐草文押印	166-20
3	lc-541	11C-SK16	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				口コナデ、内面軟白色の自然釉、5型式	166-10
4	lc-53	11C-P260	土製品・土器・皿	1/3	(12.4)	(7.6)	3.4	口クロ襷敷、回転糸切、見込みナデ、白針敷	166-18
					長さ	幅	厚さ		
5	P-17	11C-PI	土製品・土罐	ほぼ完形	3.9	径1.8		10g	166-16
6	P-18	11C-SK14	土製品・羽口	部分	6.4+	径5.2		37g+	166-9
7	K-98	11C-F971(K-S30)	石製品・磯	2/3	8.8+	8.0	1.7	180g、頁岩	166-22
					口径	底径	高さ		
8	L-398	11C-SK16	木製品・漆器筒	3/5	6.6	7.6	4.8	内面以粉下地、外面炭粉下地-透明漆 底面内面黒文字「ニ」丸澤「一」口クロ襷敷、フシ	166-11
9	L-400	11C-SK16	木製品・漆器輪	高台のみ		7.4		内外面漆塗	166-12
10	L-399	11C-SK16	木製品・漆器輪	下部		7.4		内面赤漆、外面黒漆、フシ質	166-13
11	L-401	11C-SK28	木製品・曲物	蓋1/2	(23.3)		厚1.1	結合孔3	166-15
					長さ	幅	厚さ		
12	Nc-283	11C-P53	鉄製品・釘	完形	9.4	0.5	0.6	頭部幅1.2cm、13g	166-23
13	Nc-292	11C-SD2	鉄製品・釘	4/5	7.8+	0.6	0.5	加曲、6g+	165-26
14	Nc-275	11C-SK8	鉄製品・釘	2/3	4.9+	0.6	0.5	頭部幅1.1cm、6g-	166-8
15	Nc-297	11C-2174(11C-SB5)	鉄製品・釣針	上端部欠損	2.9+	1.2	0.3	1g	166-17
16	Nc-285	11C-SK16	鉄製品・甲冑小札	1/2?	5.6+	3.9	0.4	孔4、20g+	166-14
17	Nb-199	11C-F846(11C-SB5)	銅製品・銭貨	定形	径2.4			重3.1g 元徳通寶(北条・初鑄1665年)	166-19

第409図 11C-SD2、SB5・23、SK14・16・28、ビット出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	寸法 (cm)			調査・特徴	写真 図版	
					口徑	底径	器高			
1	lc-293	11D-SK6・下層	陶器(常滑)壺	体部小片				菊花文・豪伏押印	169-8	
2	lc-294	11D-SK6・下層	陶器(在地・白石)片口鉢	口縁部小片				ロクロ(回転台)調整、内面磨減	169-9	
3	lc-295	11D-SK6・下層	陶器(在地・白石)片口鉢	口縁部小片				コケコ(回転台)調整、口縁部手〜内面に黒褐色の白黒磨	169-10	
4	lc-296	11D-SK6・下層	陶器(在地)片口鉢	底部1/5			(11.8)	ロクロ(回転台)調整、内面磨減	169-11	
5	lc-299	11D-SK6・下層	陶器(赤瀬戸)鉢輪小皿	1/5	(9.4)	(5.0)	21	灰釉、後Ⅲ期	169-13	
6	lc-297	11D-SK6・下層	陶器(赤瀬戸)梅瓶	底部1/3			(8.9)	灰釉、糸切底、後Ⅲ期	169-12	
7	J-91	11D-SK6・下層	白磁(中国)壺	口縁部1/5	(8.5)				169-14	
8	J-92	11D-SK6・下層	青磁(薩摩窯系)壺	口縁部1/10	(23.6)				169-15	
9	Is-27	11D-SK6・下層	瓦葺土器・火鉢	底部1/3		(15.2)		側面・断面等に重畳状のヘラ目・底面中心ナデ、角ナデ	169-16	
10	Na-359	11D-SK6	鉄製品・用途不明	部分	径3.1	幅2.8	厚0.9	5g+	169-17	
11	Nb-224	11D-SK6・下層	銅製品・銭貨	完全形	径2.3			重3.2g	開元通寶(唐・初鑄 621年)	169-18
12	Nb-221	11D-SK6・下層	銅製品・銭貨	完全形	径2.3			重2.8g	朝野通寶(李・初鑄1423年)	169-19

第410図 11D-SK6 出土遺物

11C-SK2・12・35・36・51の5基である。SK2とSK51はSD1009底面、SK12はM21グリッドの北壁際、SK35・36はM20・21グリッドの南壁際に位置する。遺物はSK35から土師器片が17点出土した他はほとんどなく、図化できたものもない。

(5) 鍛冶関連遺構

11C-SX1 (第403図) SD1007東側のM18グリッドに位置する。Ⅲ層の最下部で鉄滓が集中する箇所(径3m程度)を確認し、鉄滓を除去しながら精査したところIVa層上面で歪んだ楕円形の窪みを確認した。大きさは1.3×0.9m、深さは10cmほどである。堆積土は人為的な埋め土と考えられるが特に熱を受けた箇所はなく、炉の構築粘土なども認められなかった。

鉄滓を確認した時点で3×3mの範囲に1mメッシュを組み、各地点でほぼ同量の土壌サンプルを採取している。なお、SX1の堆積土についても北と南に分けて土壌サンプルを採取したが、この量は周辺の土壌サンプルよりも多い。土壌を水洗した結果、鉄滓の他に大小の粒状滓、鍛造剥片などを確認した。

なお、これらは形状によって以下のように分類し、分布を示したのが表120～127である。(単位はg、各マス目は1mグリッドを示し、SX1は中央のグリッドと北側のグリッドにまたがって位置している)

1.0	4.4	2.7
1.3	10.9	4.3
0.6	17.9	1.6
0.2	24.2	3.3
0.4	0.2	0.9
0.4	0.1	2.2

表120 SX1周辺の
鍛造剥片分布 (1)
上段-光沢があり平滑
下段-光沢があり湾曲

1.0	44.1	33.9
3.6	20.4	32.5
4.0	32.6	12.9
5.0	49.2	15.5
0.3	1.3	0.5
0.1	1.8	4.3

表121 SX1周辺の
鍛造剥片分布 (2)
上段-光沢がなくやや厚い
下段-光沢がなく厚い

77.0	北半部
91.9	
12.1	南半部
8.5	

表122 SX1堆積土の
鍛造剥片分布 (1)
上段-光沢があり平滑
下段-光沢があり湾曲

240.1	北半部
213.3	
44.9	南半部
55.3	

表123 SX1堆積土の
鍛造剥片分布 (2)
上段-光沢がなくやや厚い
下段-光沢がなく厚い

1.6	25.6	8.8
1.4	22.4	25.1
0.7	19.2	6.4
0.5	22.6	12.4
0.6	0.6	1.8
3.0	0.3	1.9

表124 SX1周辺の
粒状滓分布
上段-球形
下段-歪んだ不整形

70.6	北半部
138.9	
17.9	南半部
19.1	

表125 SX1堆積土の
粒状滓分布
上段-球形
下段-歪んだ不整形

109.9	1012.0	699.0
11.0	20.0	52.0
151.2	1727.5	727.8
19.5	77.6	29.8
123.6	21.1	232.8
20.8	10.0	26.8

表126 SX1周辺の鉄滓分布
上段-ガサガサして重量がある
下段-ガラス質

6730.2	北半部
204.3	
1418.0	南半部
78.2	

表127 SX1堆積土の
鉄滓分布
上段-ガサガサして重量がある
下段-ガラス質

鉄滓 総量13.5kgである。①ガサガサして重量のあるものと②ガラス質のものに分類した。

粒状滓 総量401gである。①球形のもの②歪んだ不整形のものに分類した。

鍛造剥片 総量1083gである。①光沢があり平らなもの、②光沢があり湾曲したもの、③光沢がなくやや厚いもの、④光沢がなく厚いものに分類した。

鉄滓・粒状滓・鍛造剥片の分布を見るとやや北側と東側に多い傾向が認められる。北側に多いのはSX1が設定したメッシュの中央ではなく、北側に寄っているためと考えられるが、東側に多い理由は不明である。なお、SX1堆積土の北半部と南半部でも北半部のほうが各種遺物の量が多い。

なお、分析結果は自然化学分析編に記載したが、鍛造剥片については4種類共に生成過程にはあまり差がなく、粒状滓も2種類の違いは認められなかった。鉄滓は砂鉄を原料とした精錬段階の鍛冶際で、ガラス質の鉄滓は炉壁と鉄滓が溶融したものとの分析結果を得ている。遺構は確認できなかったが、SX1の上部に精錬炉が構築されていた可能性が高い。

(6) ビット

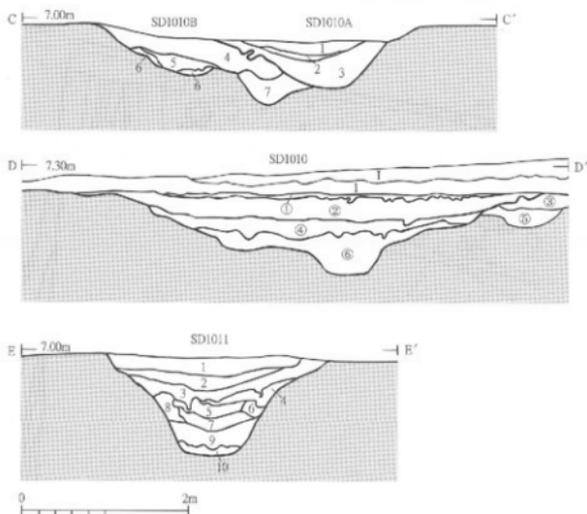
掘立柱建物跡としての組み合わせが不明で、性格不明として残ったビットは450基である。これらのビットからは土師器・須恵器・中世陶器などの小片が約200点出土しており、常滑産の甕や土師質土器、鉄釘などが図化できた(表135、第409図1・2・4・12)。

6. 11D区～11E区の遺構と遺物

調査以前の現況は、11D区のL25グリッド付近から西側が畑、東側が水田として利用されていたが、畑と水田部分の境は約80cmの段差がついていた。表土を除去した結果、段差の上の畑の部分ではIVa層が残っていたが、段差の下の水田部分ではⅢ層～Ⅳ層の中世・近世の層が削平されていることが判明した。L25グリッド付近から東側の現代の水田耕作土の直下は平安時代の6c層水田耕作土となっており、この面で古代～中・近世の遺構が混在して検出されている。

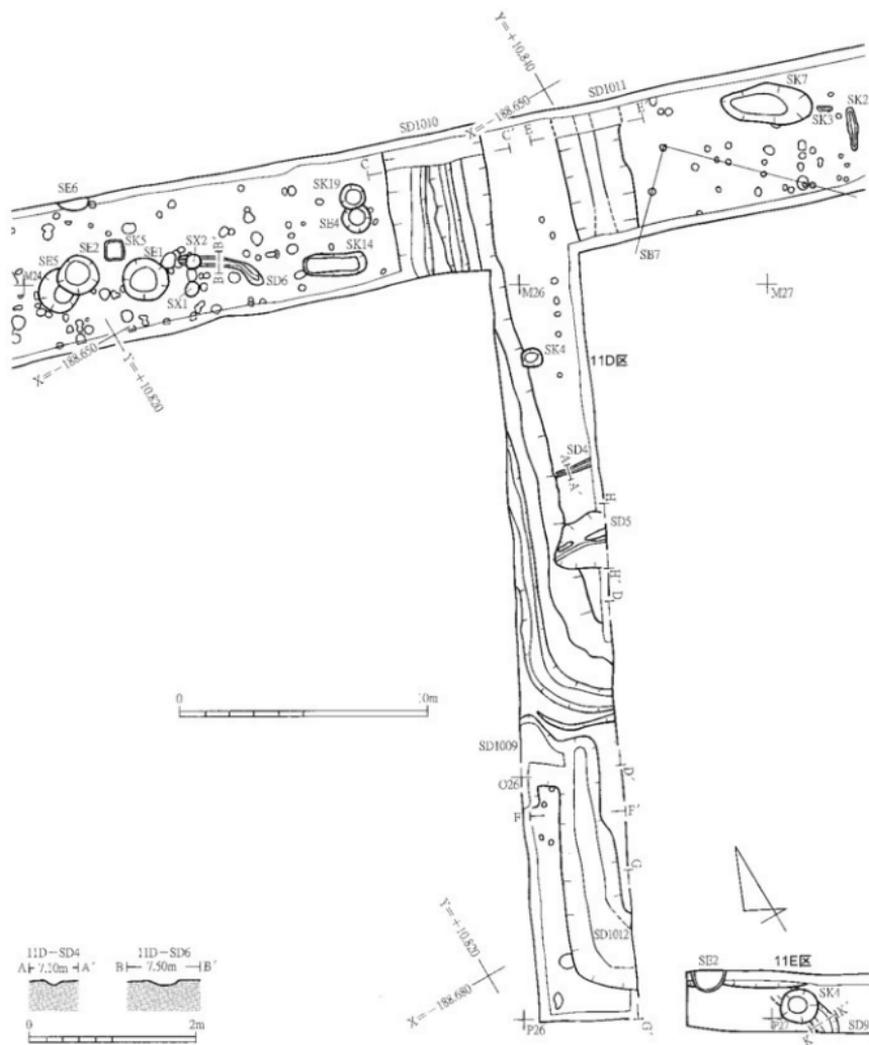
11D区南部では西側から延びてくるSD1009と推定される堀跡と南北方向のSD1012が接続し、SD1012は東に屈曲して11E区にまで続く曲輪の南辺となっている。また、11D区東部にある南北方向の堀跡2条と11E区にある東西方向の堀跡4条は2時期に分かれると考えられ、IVa3期は11E～SD1～SD1011～11E～SD7、IVa4期は11E～SD21～SD1010～SD1014が「コ」字状に連続して南北40m程度の曲輪を形成していると推定される。

曲輪の西側には前述したような井戸跡などが集中するが、曲輪内部の遺構は少なく、独立柱建物跡2棟、溝跡8条、井戸跡4基、土坑22基、ピット約170基を検出しているのみである(第412・413図)。

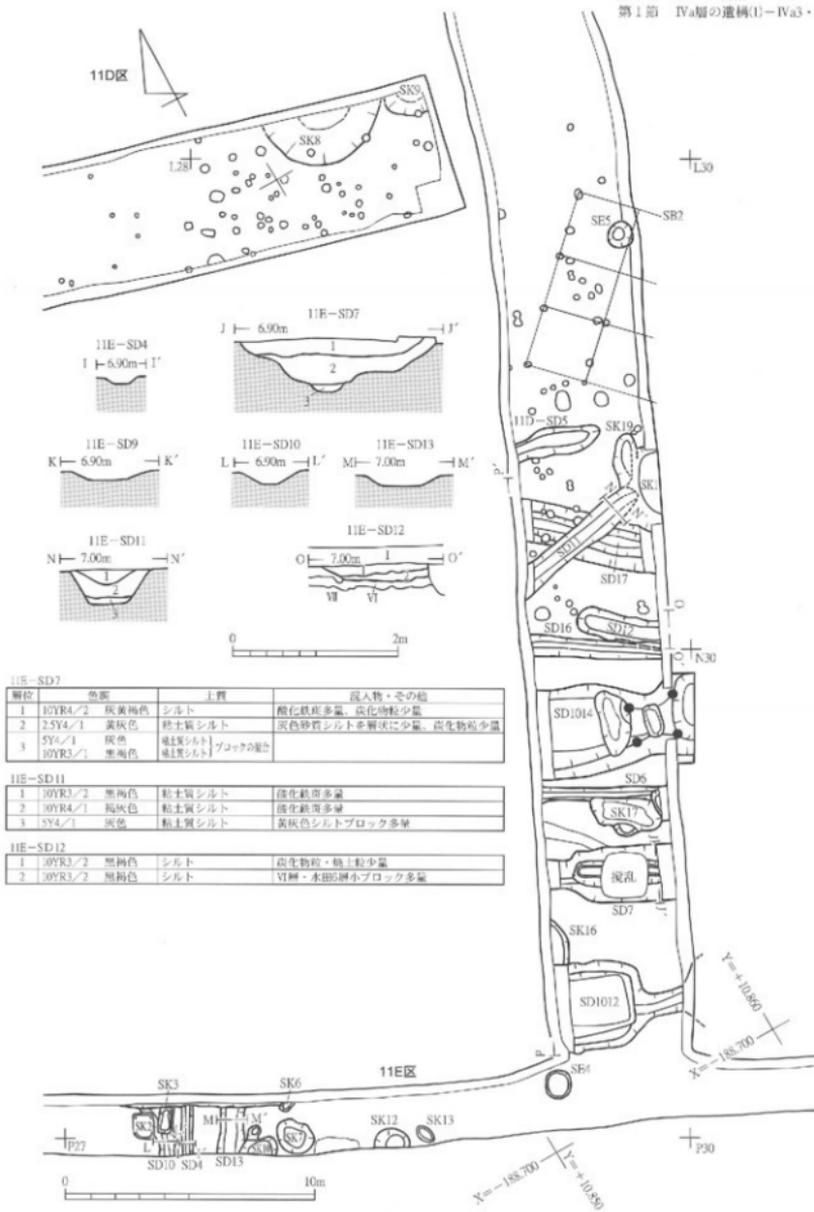


層位	色層	土質	埋入物・その他
SD1010	1 10YR2/2 黒褐色	粘土	黒色肥後質粘土を混状に微量
	2 10YR1/1 黒色	灰褐色粘土	
	3 2.5Y3/1 黒褐色 2.5Y4/1 黄褐色 2.5Y2/1 黒色	粘土 粘土 粘土	炭生物炭層
	4 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	5 5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土/ブロックを部分的に少量、灰色細砂少量
	6 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	緑灰色細砂ブロック少量
	7 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	緑灰色細砂ブロック微量
SD1010	① 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄を混状に少量、炭化物を炭状に微量
	② 2.5Y3/2 黒褐色	粘土	黄褐色粘土・炭化物を混状に微量
	③ 10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック少量、酸化鉄を混状に微量、炭化物微量
	④ 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	炭化物を炭状に微量、植物遺体微量
	⑤ 10YR2/2 黒褐色	粘土	オリーブ黒色粘土ブロック少量、酸化鉄・炭化物を炭状に微量
	⑥ 10YR3/1 黒褐色	粘土	オリーブ灰色粘土ブロック微量、炭化物・植物遺体少量
SD1011	1 10YR3/2 黒褐色	粘土	砂礫少量、酸化鉄を混状に多量、炭化物微量
	2 10YR2/2 黒褐色	硬質質粘土	
	3 2.5Y3/2 黒褐色 10YR2/2 黒褐色	粘土 硬質質粘土	瓦溝
	4 2.5Y3/2 黒褐色	粘土	
	5 5Y4/1 灰色	粘土	オリーブ黒色粘土小ブロック微量
	6 5Y4/1 灰色	粘土	粗砂粒多量
	7 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	オリーブ灰色シルト小ブロック・黒色粘土小ブロック多量
	8 10Y4/1 灰色 5Y3/1 オリーブ黒色	凝砂 粘土	凝合
	9 7.5Y4/1 灰色 7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土 シルト	互層
	10 7.5Y3/1 緑灰色 7.5Y2/1 黒色	凝砂 粘土 粘土	

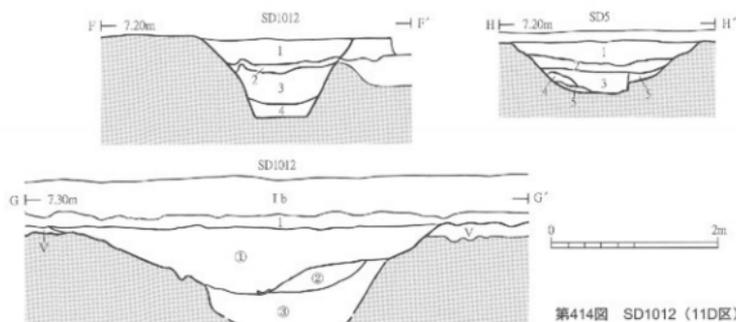
第411図 SD1010・1011 断面図



第412図 11D区中央部 IVa層・6a層上面 (IVa3・4期) 平面図
11D-SD4・6 断面図

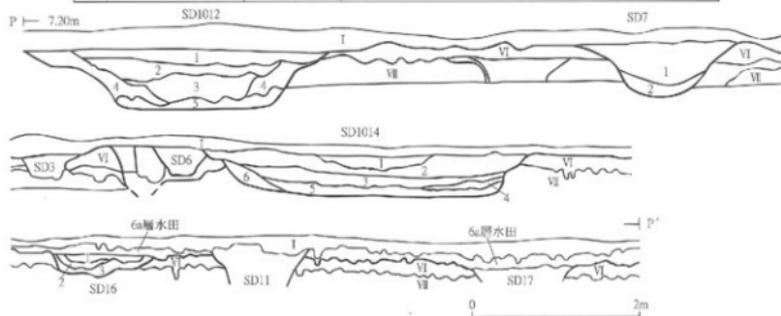


第413図 11D区東部～11E区 6a層上面(11a3・4期)平面図
11E-SD6・7・9～13断面図



第414図 SD1012 (11D区)、11D-SD5 断面図

層位	色調	土質	埋入物・その他
SD1012	① 10YR2/2 黒褐色	粘上	酸化鉄屑・酸化鉄ブロック・炭化物粒少量
	② 10YR3/1 黒褐色	粘上	
	③ 10Y3/1 オリーブ黒色	粘上	
	④ 10Y3/1 オリーブ黒色	粘上	
11D-SD5	1 10YR3/2 黒褐色	粘上質シルト	砂屑少量、酸化鉄や炭状に多量 に赤い黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物粒量、酸化鉄含量共に少量 黒褐色粘上ブロック・炭化物粒量 黒褐色粘上ブロック少量
	2 10YR4/2 黒黄褐色	粘上	
	3 10Y4/1 灰色	砂質シルト	
	4 5Y4/1 灰色	粘上	
	5 2.5Y3/2 黒褐色	粘上	
	5Y4/1 灰色	粘上	融合
	10Y4/1 灰色	砂質シルト	



層位	色調	土質	埋入物・その他
SD1012	1 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物粒少量、マンガノ類多量 植物遺体少量 炭化物粒少量、互層ブロック少量
	2 10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	
	3 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	
	4 5Y4/1 灰色	砂質シルト	
	5 10YR1/1 黒色	粘土質シルト	
	5GV4/1 緑オリーブ灰色	粘土質シルト	ブロックの嵌合
11E-SD7	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄塊多量、炭化物粒少量 灰色砂質シルトを層状に少量、炭化物粒少量
	2 2.5Y4/1 黄褐色	粘土質シルト	
SD1014	1 灰黄褐色砂質シルト	融合	灰黄褐色砂質シルトブロック多量 炭化物粒少量 植物遺体少量 灰黄褐色砂質シルトを層状に少量、炭化物粒少量 炭化物粒・植物遺体少量 互層ブロック少量
	2 10YR3/2 黒褐色		
	3 2.5Y3/1 黒褐色		
	4 2.5Y3/1 黒褐色		
	5 5Y3/1 オリーブ黒色		
	6 10YR3/1 黒褐色		
11E-SD16	1 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	マンガノ類多量 マンガノ類多量 互層ブロック少量
	2 10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	3 10YR3/2 黒褐色	シルト	

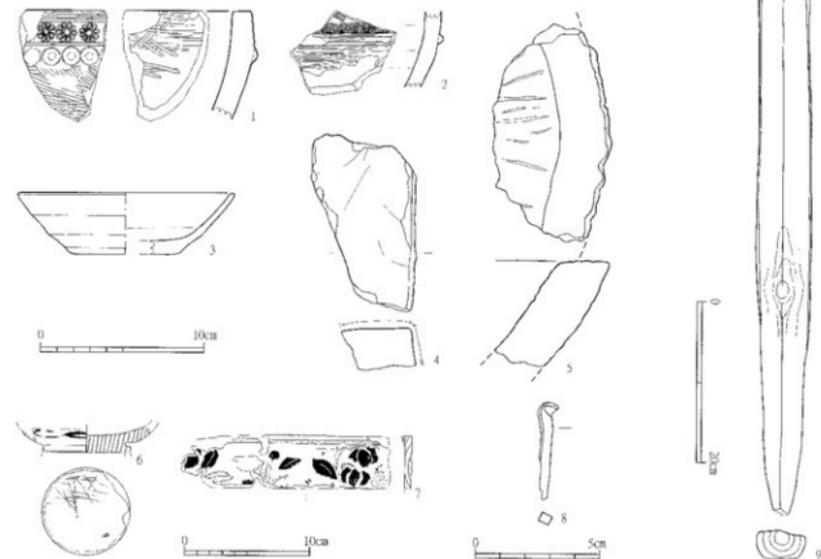
第415図 SD1012 (11E区)・1014、11E-SD7・11-16-17 断面図

(1)溝跡

SD1009 (第412図) 11D区南部で部分的に確認したのみである。西壁では幅が4mあるが、SD1012との接続部では約2mに狭まっている。遺物は土器片が25点出土したのみで、図化できたものはない。

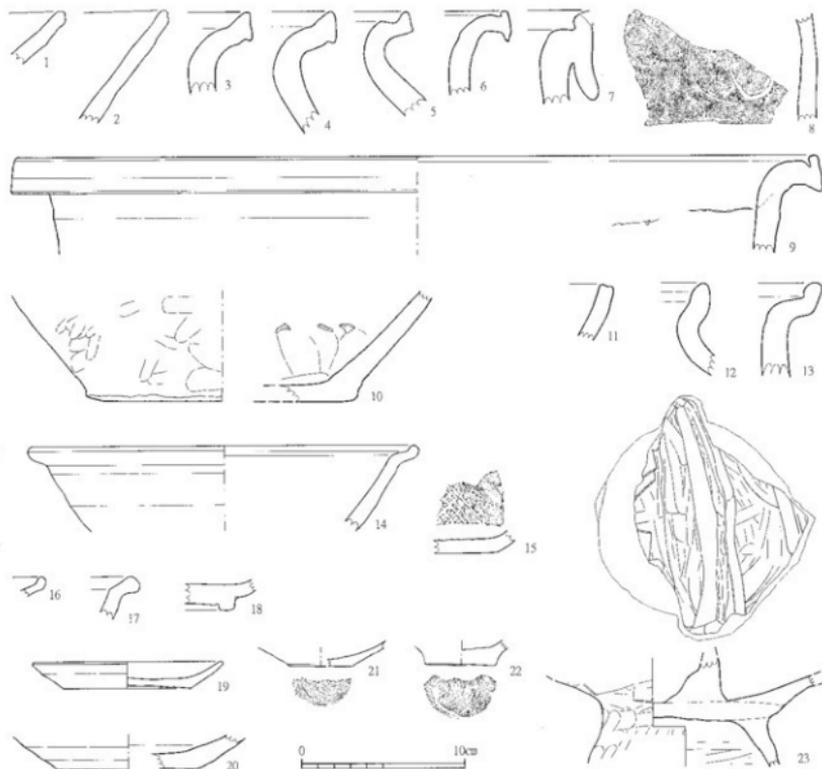
SD1010 (第411・412図) IVa4期と推定される場跡である。11D区L25グリッドから南下してN26グリッドで東に屈曲しているが、位置関係からすると東に30m離れた11E区のSD1014につながると推定される。北部のL25グリッドでは2時期に大別できる明瞭な切り合いが認められたので(第411図C-C'), 新期をSD1010A、古期をSD1010Bとして区別したが、南部では両者の判別が困難であった。北部ではSD1010Aが幅約2.5m、深さ約70cm、断面形は浅い「U」字型をしている。SD1010Bは幅3~3.5m、深さ1.0mで、断面形は浅い「U」字型であるが段があり、この段のところで分層できることから1度改修されている可能性がある。堆積土は兩者共に自然堆積層である。

遺物は約390点出土したが中世の土器類が2/3近くを占め、1/3が土師器・須恵器で



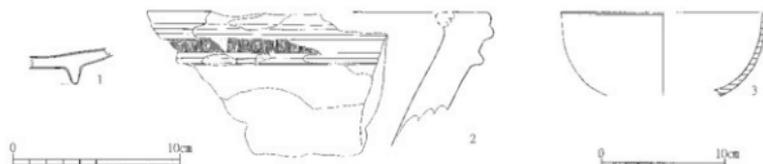
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	寸法(cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	Ib-26	11D-SD1010・下層	瓦質土器・火鉢	11線部小片				外面と口縁部はヘラミガキ、底部は網子で、口縁部外面に 底取溝、斜文スタンプ・円形印文	167-24
2	Ib-24	11D-SD1010A・上層	瓦質土器・火鉢	片部小片				コクロ調整→外面ヘラミガキ・南文スタンプ	167-25
3	E-42	11D-SD1010A	須恵器・坏	1/5	(13.4)	(6.8)	3.8	口縁調整、調整取直下層→ナギ、白土質、変形ノコ型	167-26
4	K-107	11D-SD1010・上層	石製品・砥石	端部のみ	長11.0	幅6.4+	厚2.7	265g+、安山岩	168-3
5	K-124	11D-SD1010・上層	石製品・石鉢	部分	13.2	7.0+	高6.5+	485g+、安山岩	168-2
6	L-42	11D-SD1010A・上層	木製品・漆器類	下部		6.8		内面赤漆、外面黒色・赤漆文様	268-1
7	L-44	11D-SD1010A・下層	木製品・漆器類	部分	長さ	径	厚さ	内面黒色、外面黒漆・漆器類・漆器類→赤・黒漆色出土 (草木)	168-4 カラー12
8	Ns-361	11D-SD1010・上層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.9+	0.5	0.4	頭部幅0.8cm、3g+	188-5
9	L-45	11D-SD1010・下層	木製品・板碑形塔婆	頸部欠損	100.4+	6.5	3.7	丸木材、曲取	167-27

第416図 SD1010 出土遺物(1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	寸法 (cm)			調査・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	lc-283	11D-57-010A・上層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				口縁口調整、内外面にぶらひ赤褐色の自然施	167-1
2	lc-237	11D-52-010A・下層	陶器(常滑)	片口鉢	11縁部小片				口縁口調整、内面にぶらひ赤褐色の自然施	167-2
3	lc-285	11D-SD1010A・上層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				口・縁部ヨコナデ、体部ナデ、5型式	167-3
4	lc-287	11D-SD-010・下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				口・縁部ヨコナデ、体部ナデ・外面に自然施、5型式	167-4
5	lc-524	11D-SD-010・上層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				11・縁部ヨコナデ、体部ナデ・外面に自然施、5型式	167-5
6	lc-286	11D-SD-010・上層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				口・縁部ヨコナデ・外面に自然施、体部ナデ、6b型式	167-6
7	lc-288	11D-SD-010・上層	陶器(常滑)	甕	11縁部小片				ヨコナデ、内外面に褐色の自然施、7型式	167-7
8	lc-541	11D-SD1010A・上層	陶器(常滑)	甕	体部小片				ナデ、外面にヘラ指(曲線)	167-9
9	lc-291	11D-SD1010・上層	陶器(常滑)	甕	11縁部小片	(49.1)			口縁ヨコナデ、体部ナデ・外面にヘラ指(曲線)	167-8
10	lc-284	11D-SD1010・上層	陶器(常滑)	甕	11縁部小片		(16.6)		ナデ	167-10
11	lc-290	11D-SD1010・下層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				口・縁部ヨコナデ、体部ナデ	167-11
12	lc-292	11D-SD1010A・下層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				11・縁部ヨコナデ、体部ナデ	167-13
13	lc-289	11D-SD1010A・下層	陶器(在地・白石)	甕	口縁部小片				口・縁部ヨコナデ、体部ナデ	167-12
14	lc-187	11D-SD1010・下層	陶器(在地・白石)	甕	口縁部小片	(23.8)			灰輪、中前期	167-14
15	lc-552	11D-SD1010A・下層	陶器(在地)	甕	口縁部小片				灰輪、前中期	167-15
16	lc-553	11D-SD1010A・下層	陶器(在地)	甕	口縁部小片				灰輪、前中期	167-16
17	lc-551	11D-SD1010・上層	陶器(在地)	甕	口縁部小片				灰輪、中前期	167-17
18	lc-89	11D-SD1010・下層	甕(陶器)	甕	体部小片					167-18
19	lc-31	11D-SD1010・上層	土師質土器・皿	皿	下部1/3	11.6	7.8	1.6	口縁口調整、底部へラケズリ、白粉敷	167-19
20	lc-53	11D-SD1010A・上層	土師質土器・皿	皿	下部1/3	(8.6)			口縁口調整、底部へラケ	167-20
21	lc-32	11D-SD1010・下層	土師質土器・皿?	皿	下部1/3	(4.0)			口縁口調整、底部へラケ、足込み一部ナデ	167-21
22	lc-34	11D-SD1010A・上層	土師質土器・皿?	皿	下部1/3				口縁口調整、底部へラケ、白粉敷	167-22
23	lc-35	11D-SD1010A・下層	土師質土器・皿?	皿	下部1/3				口縁口調整、底部へラケ、白粉敷	167-23

第417図 SD1010 出土遺物(2)



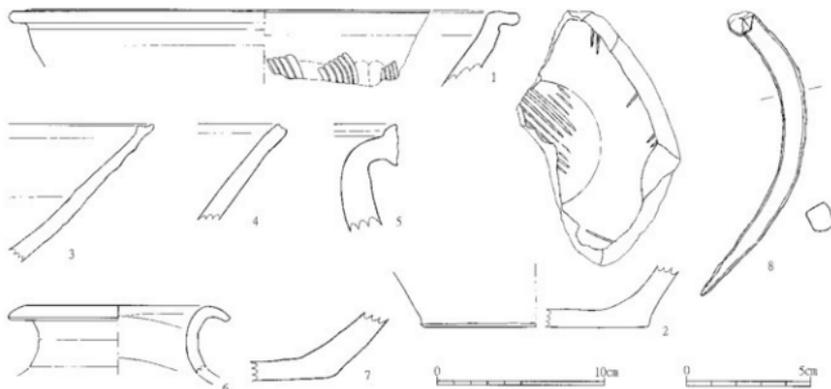
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	透存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	J-90	11D-SD1011・上層	青磁(奈良系)皿?	底部小片				養付痕跡	168-6
2	Ib-25	11D-SD1011・上層	瓦質土器・火鉢	11線部小片				黒色の漆、内面赤子、口縁部外面に凸筋、内面に 墨文スタンプ	168-7
3	L-443	11D-SD1011・下層	木製品・漆器桶	1/3	16.4			内外面赤塗、ブナ属	168-8

第418図 SD1011 出土遺物

ある。常滑や在地産の鉢や甕、古瀬戸の甕や御皿、中国産の青磁碗、上師質や瓦質の土器類、須志器、磁石や石鉢などの石製品、漆器桶や箸、鉄釘、板硝子形塔婆など32点が同化できた(表136、第416・417図)。Ic-541常滑産甕(第417図)には曲線がヘラ描きされているが、11A-SE7(IVa1・2期)から出土したIc-458常滑産甕にも似たような墨書記号が認められる(93頁)。Ia-35は用途不明の上師質土器で、内部に壁のような仕切りがある特異な形態をしている。

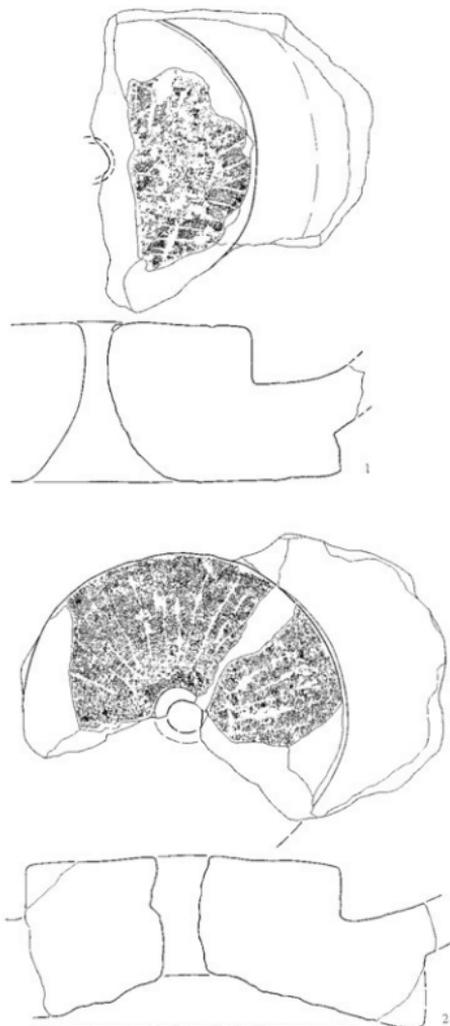
SD1011(第411・412図) IVa3期と推定される城跡である。11D区L26グリッドに位置し、幅2.7m、深さ1.2m、断面形は上部が広がる「U」字形で堆積上は自然堆積層である。部分的な確認であるので断定はできないがSD1010とSD1014の関係と同じように、SD1010も南に延びた後に東に屈曲して11E区南部にある11E-SD7につながっている可能性がある。

遺物は16点出土したのみであるが、中国産の青磁、瓦質の火鉢、漆器桶の3点が同化できた(表136、第418図)。なお、瓦質土器Ib-25火鉢(2)は湾曲せず直線的な体部であるので箱状の器形であると考えられる。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	透存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	Ib-12	11E-SD1014・上層	瓦質土器・磁鉢	口縁部1/7	(30.6)			口縁に凸筋、内面に磨目、口縁少量	170-1
2	Ib-41	11E-SD1014・上層	瓦質土器・磁鉢	底部1/3		(13.6)		体部外面にナデ、底部へラケズリ、内面磨目	170-2
3	Ic-494	11E-SD1014	陶器(赤瀬戸)細片付木皿	口縁～体部片				灰黒、後刀彫	170-3
4	Ic-496	11E-SD1014・上層	陶器(常滑)細片付木皿	口縁～体部片				口縁に凸筋、体部ナデ	170-4
5	Ic-500	11E-SD1014・上層	陶器(常滑)甕	口縁～体部片				口・頸部豆コナデ、体部ナデ、6a型式	170-5
6	Ic-501	11E-SD1014・上層	陶器(常滑)灰口甕	口・頸部1/4	(7.34)			口・頸部豆コナデ、体部ナデ、内外面緑灰色の点彩	170-6
7	Ic-495	11E-SD1012	陶器(常滑)甕	底部2/3				ナデ	169-20
8	Ns-364	11E-SD1014・下層	鉄製品・釘	中央～先端部	長13.2	幅1.1	厚1.0	湾曲、44g+	170-10

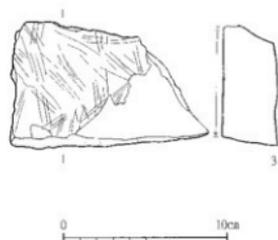
第419図 SD1012・1014 出土遺物



SD1012 (第414・415図) 11E区南部のO29グリッドで確認した堀跡で、その西側の調査区北壁沿いを西に延び、11D区南部で北に屈曲してSD1009に接続している。SD1010や11E-SD7などのIVa3・4期と考えられる堀跡と重複していないのでIVa3・4期を通して機能していた可能性がある。O29グリッドでは幅が4mあるが、急に幅が狭まって1m程になっている箇所があり、曲輪の出入り口と推定される。深さは約70cm、断面形は箱型で、堆積土は自然堆積層である。

遺物は土師器、須恵器、中世陶器などが約30点出土し、常滑産の甕1点が固化できた(表137、第419図7)。

SD1014 (第415図) IVa4期と推定される堀跡で、11E区N29グリッドに位置している。11D区のSD1010とつながると推定される。幅は4.0mで、深さ50~60cm、断面形は箱型で堆積土は自然堆積層である。東側では幅が約2.5mに狭まっている箇所があり、ここを底面~壁面にかけて柄脚と推定される径10cm前後の杭が4本打ち込まれている(第413図のドット)ことから、この箇所は曲輪の南側の出入り口と推定される。南に10mの地点にはSD1012に設けられた出入り口がある。なお、幅の狭い箇所とその東西両側の底面には底面からの深さ10~20cmの土坑状の窪みがある。



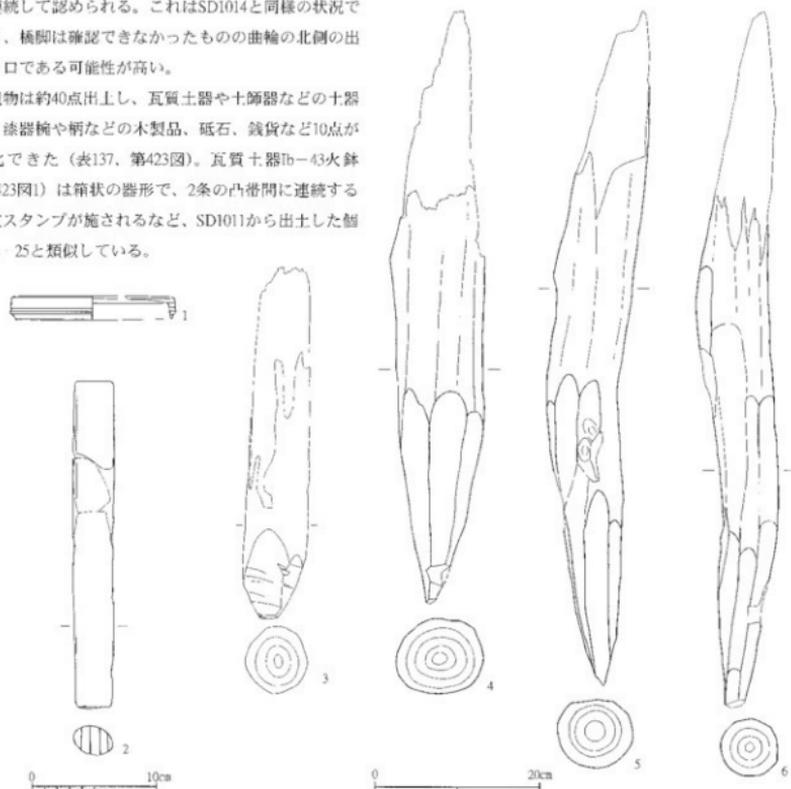
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量(cm)			調査・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	K-119	11E-SD1014・上層	石製品	茶臼下臼	1/4	径35.0+	高9.7	安山岩	170-7	
2	K-118	11E-SD1014・上層	石製品	茶臼下臼	1/4	径33.0+	高9.4	安山岩	170-8	
3	K-12	11E-SD1014	石製品	瓶石	端部のみ	12.0+	7.5	3.4	470g+, 澁灰質頁岩	170-9

第420図 SD1014 出土遺物(2)

遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、中世陶器、金属製品、石製品など約80点が出土し、瓦質榼鉢や瀬戸・常滑産の陶器、鉄釘、茶臼や砥石などの石製品、漆器蓋、棒状の木製品と横脚など16点が図化できた(表137、第419図1～6・8、第420・421図)。

11E-SD1(第422図) 11E区J28・29グリッドに位置する堀跡で、11E-SD21に切られている。IVa3期と推定される。部分的な確認なので断定はできないが11D区のSD1011とつながる可能性がある。幅は約5mと推定され、深さ1.0m、断面形は上部が広がる浅い箱形である。堆積土は自然堆積層で、堆積状況から少なくとも1度は改修されていると考えられる。東側は急に幅が狭まって2.5m程になっており、底面には深さ25～35cmの土坑状の窪みや障壁状の高まりが連続して認められる。これはSD1014と同様の状況であり、横脚は確認できなかったものの曲輪の北側の出入り口である可能性が高い。

遺物は約40点出上し、瓦質土器や土師器などの土器類、漆器椀や柄などの木製品、砥石、銭貨など10点が図化できた(表137、第423図)。瓦質土器Ib-43火鉢(第423図1)は箱状の器形で、2条の凸帯間に連続する帯文スタンプが施されるなど、SD1011から出土した個体Ib-25と類似している。

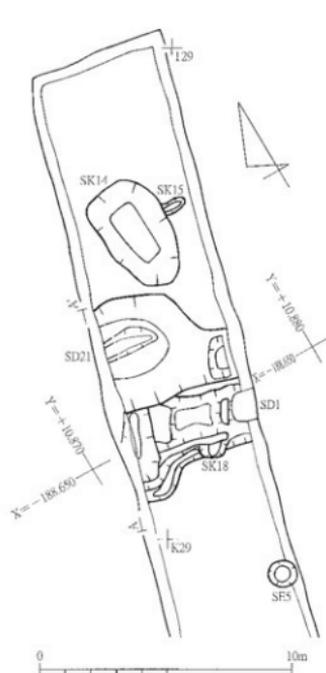


No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(高地) 器種	遺存度	法量(cm)			調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅	高さ		
1	L-454	11E-SD1014・下層	木製品・漆器蓋	中心部欠損	13.1	口部	器高2.0	内外面灰粉下地、ゾラ面	170-11
2	L-567	11E-SD1014・上層	木製品・? (棒状)	ほぼ完全形	26.7		2.3～3.3	断面積凹部	170-12
3	L-462	11E-SD1014	木製品・横脚	下部	41.3+	径	7.9		170-13
4	L-468	11E-SD1014	木製品・横脚	下部	73.6+	径	10.6	丸木材	170-14
5	L-470	11E-SD1014	木製品・横脚	下部	83.6+	径	8.6	丸木材	170-15
6	L-469	11E-SD1014	木製品・横脚	下部	86.51	径	8.8	丸木材	170-16

第421図 SD1014 出土遺物(3)

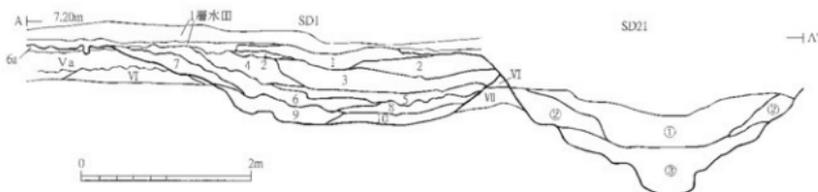
11E—SD7 (第413・415図) 11E区N・O29グリッドに位置する。部分的な確認なので断定はできないが11D区のSD1011とつながる可能性があり、IVa3期と推定される。幅は2.5m、深さ70cm、断面形は浅い「U」字形であるが底面に一段深い部分がある。堆積土は自然堆積層である。西側では急に幅が狭まって1m程になっている箇所があり、橋脚は確認できなかったが、ここが曲輪の南側の出入り口である可能性がある。

遺物は約50点出土した。大部分が土師器と須恵器であるが、Ic—498常滑産土と木製のL—455地藏菩薩像が回収できた(表137、第424図2・3)。L—455地藏菩薩像は、出入り口と推定される幅が狭くなった地点から出土しているが、スコップで排水用の側溝を掘削中に振り上げてしまったもので、その際に後頭部～左肩～背面の一部を欠損している。一木からの簡単な造りで、背面に釘孔が認められることから、光背があったか壁にかけてあったと推定される(註8)。



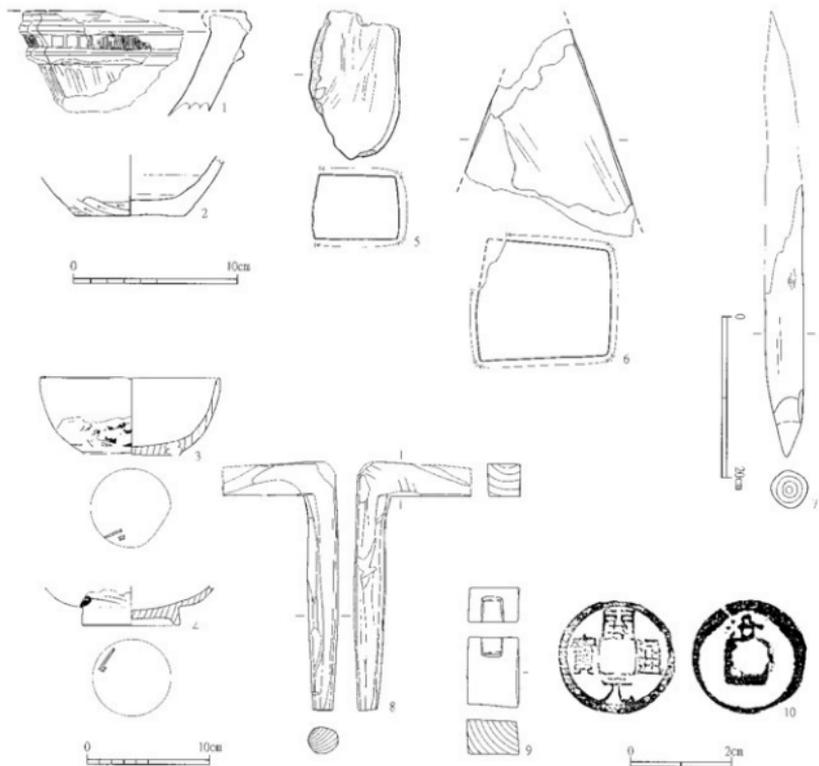
11E SD1			
層位	色調	土質	侵入物・その他
1	10YR3/7 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック・酸化鉄粒少量
2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	高褐色粘土ブロック・炭化物微量
3	2.5Y2/1 黒色 2.5Y3/2 黒褐色 10YR3/2 黒褐色	灰 粘土 硬底質粘土	互層
4	10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量
5	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	
6	5Y3/1 オリーブ黒色 2.5Y3/2 黒褐色	粘土 砂質シルト	混合
7	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	側溝
8	2.5Y4/1 黄灰色	粗砂	
9	5Y3/1 オリーブ黒色 7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土 粗砂	互層
10	7.5Y3/1 オリーブ黒色 5Y2/1 黒色	粘土 粘土	互層

11E SD21			
①	2.5Y2/1 黒色	シルト質粘土	黒褐色シルトブロック少量
②	10YR3/1 黒褐色	粘土	
③	10YR2/1 黒色 2.5Y3/1 黒褐色 2.5Y3/2 黒褐色	粘土 粘土 粘土	互層



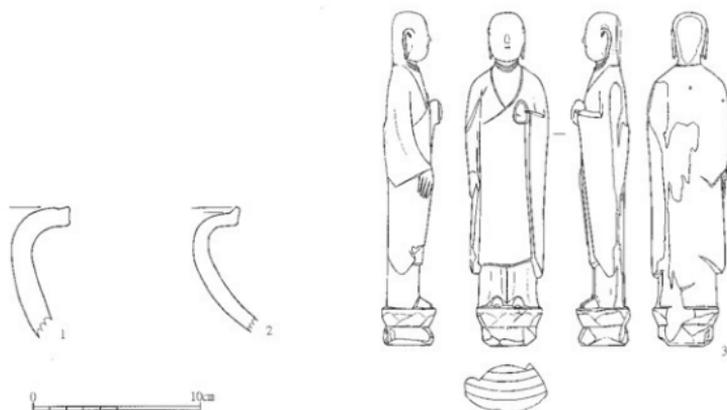
第422図 11E区北部6a層上面(IVa3・4期)平面図、11E—SD1・21断面図

11E-SD21 (第422図) 11E区J28・29グリッドで確認できた堀跡で、11E-SD1を切っている。IVa4期と推定され、11D区のSD1010とつながる可能性がある。幅は4.5m、深さ1.7m、断面形は「U」字形であるが底面に一段深い部分がある。堆積土は自然堆積層で、堆積状況から少なくとも1度は改修されている可能性がある。東側では急に幅が狭まって2m程になっている箇所があり、橋脚は確認できなかったが曲輪北側の出入り口である可能性がある。なお、この出入り口と推定される箇所の底面には深さ約70cmの土坑状の窪みがあるが、前述したように、曲輪の反対側



No.	発見No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)		調査・特徴	写真 図版	
					口径	底径			器高
1	Ib-43	11E-SD1・下層	瓦質土器・火鉢	口縁部小片			箱状の器形、内面ナデ、外面ヘツミガキ口縁部外面に凸線2条、凸線間に雷文スタンプ印が認められ、底面ヘツミガキ・凸線下部半円ヘツミガキ	171-1	
2	D-77	11E-SD1	土師器・甕	下部	6.6			171-2	
3	L-464	11E-SD1	木製品・漆器柄	2/3	(14.7)	(7.8)	内面赤漆、外面黒色・赤漆文様、ブナ調	171-3	
4	L-465	11E-SD1・上層	木製品・漆器柄	下部	8.0		内面赤漆(漆器柄)、外面黒色・赤漆文様、ブナ調	171-4	
5	k-113	11E-SD1・下層	石製品・砥石	端部欠損	長さ 9.0+	幅 5.4	厚さ 4.0	365番+、頁片(ホリツフェリス化したもの?)	171-5
6	k-171	11E-SD1	石製品・砥石	中央部のみ	12.9+	10.5+	7.8	1190番+、安山岩	171-6
7	L-467	11E-SD1	木製品・柄	端部欠損	55.4+	4.5		丸木材	171-9
8	L-56	11E-SD1・上層	木製品・柄	ほぼ完全	20.3	2.5	2.5	L、字形	171-8
9	L-58	11E-SD1	木製品・角材	完全?	5.9	4.2	2.9	端に方形の窪み	171-7
10	Nb-225	11E-SD1・上層	銅製・鏡背	完全	径2.4		厚2.7g	開元通寶(背・初編621年)、背文字「唐」?	171-10

第423図 11E-SD1 出土遺物



No.	発掘No.	地区・遺構・階位	種別(産地)	器種	埋存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Ic-499	11E-SD6・上層	陶器(常滑)	甕	口縁～体部片				11・胴部ヨコナデ、体部ナデ、内外面灰オリーブ色の自然釉 4型式	172-2
2	Ic-498	11E-SD7	陶器(常滑)	甕	口縁～体部片				11・胴部ヨコナデ、体部ナデ、内外面オリーブ色の自然釉 4型式	172-1
3	L-455	11E-SD7	木製品	地蔵菩薩像	ほぼ完形	20.4	5.0	2.9	背面に釘孔2	171-11 カケ-11

第424図 11E-SD6・7出土遺物

(南側)で確認したSD1014の出入り口部分にも同じような土坑状の窪みがある。

遺物は25点出土し、瀬戸産の陶器や中国産の青磁、漆器椀やト駄などの木製品、銅鏡、茶臼や砥石などの石製品10点が図化できた(表137、第425・426図)。

11D-SD4・6(第412図) 11D区L24とM26グリッドに位置する部分的な溝跡で、SD4は6m層、SD6はIVa層上面で確認している。幅20～30cm、深さ5cmで、堆積土は直上層が入り込んだものである。遺物はごくわずかで、図化できたものはない。

11D-SD5(第412～414図) 11D区M・N26グリッドに位置し、11E区まで延びていると推定される。11D区では幅2.3m、深さ65cmであるが11E区では狭く、浅くなっている。断面形は上部が広がる浅い「U」字形で、堆積土は自然堆積層である。遺物は10点で、土師質土器、須恵器、土製品の3点が図化できた(表136、第430図)。

11E-SD4・9・10・13(第412・413図) 11E区南部に位置し、SD4・10・13は並行している。幅40～90cm、深さ10～15cmで、断面形は上部が広がる浅い「U」字形である。遺物はSD13から土師器片が2点出土したが、図化はできなかった。

11E-SD11(第413図) 11E区東部に位置する小規模な溝跡である。幅95cm、深さ40cmで、断面形は逆台形である。遺物は土師質土器、中世陶器片2点で図化できたものはない。

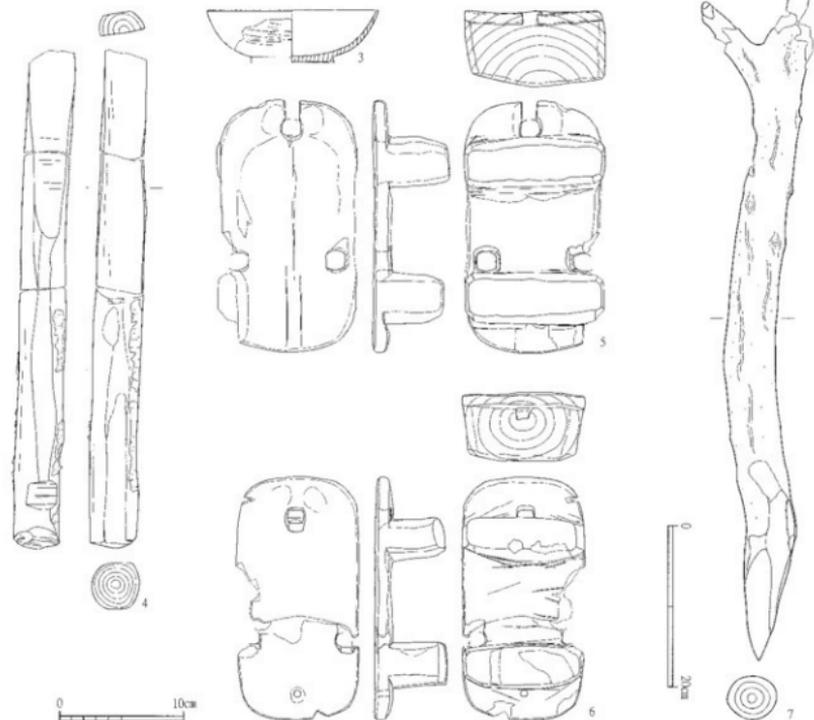
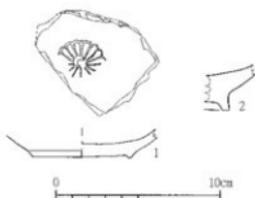
11E-SD6・12・16(第413図) 11E区東部に並行して位置する小規模な溝跡である。幅50～90cm、深さ20～25cm、断面形は上部が広がる浅い「U」字形である。遺物はSD6から須恵器、中世陶器片などが7点出土し、常滑産の甕が1点図化できた(第424図1)。

(2) 掘立柱建物跡

東部の小規模な曲輪内部に11D-SB7、11E-SB2の2棟がある。共にIVa4期の建物跡で、城館の主軸方向からは大きく傾いている。11D-SB7の大きさは不明であるが、11E-SB2は東西7.2mの総柱の建物跡である。出土遺物はない。

(3)井戸跡 (第427~429図)

11D区のSD1010の西側に5基が集中しているが、SD1010の東側には少なく山輪内部に2基、山輪の南側に(1基は堀を切って)2基が散在している。規模などの詳細は表128・129(75頁)のとおりであるが、11D-SE1・2・5が径1.6m以上で、深さも2m以上と大きい。このうちSE2には一抱え以上もある人型の礎が投げ込まれていた。他の5基は径1.1m前後で小さいが、11E-SE3とSE5は深さが2m前後ある。なお、時期がIVa3・4期に限定できるのはIVa層上面で確認できた11D-SE1・SE2・SE5と11E区でSD1012を切る11E-SE2の4基のみで、11D-SE4、11E-SE3~5については詳細な時期が確定できない。なお、11D-SE6は壁際に位置するため未調査で時期も不明である。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量(cm)			調整・特徴	写真 掲載
					口径	底径	器高		
1	I-504	11E-SD21・3層	陶器(瀬戸・美濃) 甕反皿か丸皿	底部/6			(6.0)	深縁、見込みに甲花文、断面に溝縁帯、大空1~2層	172-3
2	J-1c7	11E-SD21・3層	青磁(美濃系)碗?	底部小片			(4.0)	裏付縁肋 内面赤縁、外面黒色・赤褐色文、ブナ属	172-4 172-5
3	L-451	11E-SD21	木製品・漆器桶	3/4	長さ	幅	厚さ		
4	L-452	11E-SD21・3層	木製品・丸木材	端部欠損	41.0	18.7		片方端部近くに狭り	172-7
5	L-449	11E-SD21・3層	木製品・漕曲下駄	側面一部欠損	20.7	11.5	6.1	左用	172-8
6	L-450	11E-SD21・2層	木製品・漕曲下駄	側面一部欠損	20.1	10.0	5.8	右用、かかと部分に小円孔1	172-9
7	L-466	11E-SD21・3層	木製品・杭	端部欠損	85.0+	径6.0		丸木材	172-6

第425図 11E-SD21 出土遺物(1)

遺物は、各遺構でそれぞれ10点前後の破片が出土したのみであるが、同化できた点数は比較的多く木製品を中心として25点ある(表136・137、第431～435図)。第431図は11D-SE1とSE2から出土したNa-362火打金とL-444柱材で、柱材には引き戸を受ける溝が刻んである。11D-SF5からは、食器具のごく小さな曲物2種類まとまって出土した。L-433～435・437～439(第432図3～8)は一辺6.0～6.8cmの方形の底板の上に底板よりも一回り小さな円形の側板がつく曲物で、底板4点と側板が2点ある。L-440・436(2・9)は2.5×3.8cmの小さい楕円形の底板を巻いて側板がつく曲物である。第433～435図は11E-SF2～SE5の出土遺物で、木製品には箸や曲物などの他にL-494大足(第434図4)のような農具も含まれている。

瓦質土器1b-45火鉢(第434図5)はSD1011や11E-SD1から出土したものと同様に箱状の器形を呈するもので、隅の部分も遺存していた。

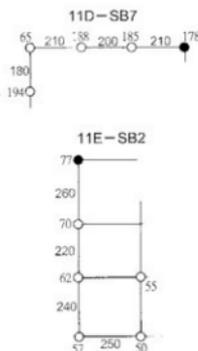
(4)土坑(第427・429・436・439図)

この時期に該当する可能性があるものが25基あるが、細かな時期まで確定はできたものはない。規模などの詳細は表130・131(80頁)のとおりで、断面図に土層注記が記していないものは直上の基本層が入り込んだものである。

円形や楕円形で径50cm～1m程度のもが多く、これらは11D-SK4・19、11E-SK5・6・10・13・18の7基がある。深さは11D-SK19が75cmある他は10～20cmと浅い。大部分の土坑の性格は不明である。遺物はごくわずかで同化できたものもない。

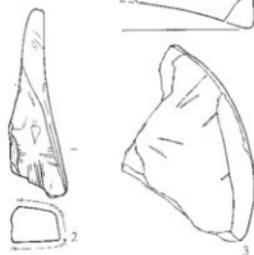
円形で、径1.5～2m近いものは11E-SK4・7・12の3基がある。深さはSK4とSK7が25～40cm、SK12がやや深く60cmである。遺物はごくわずかで同化できたものもない。

小型の長方形の土坑は11E-SK3がある。大きさは0.5×1.1m、深さは15cmと浅い。出土遺物はな



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
194	Va	25	5	?
65	Vg	23	14	?
188	Vz	20×16	20	?
185	Va	22	10	?
178	Va	26	34	12
規模	東西(6.2m)、3間	南北(8m)1、1間+		
柱間	2.0～2.1m	1.8m		
面積		積算	141坪	

PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
77	6a層	45×25	45	11
70	6a層	28	21	?
62	6a層	28	10	?
57	6a層	28×21	35	?
50	6a層	18	13	?
55	6a層	24	20	?
規模	東西7.2m、3間	南北2.5m1、1間+		
柱間	2.2～2.6m	2.5m		
面積		積算	143坪	
備考	総柱?			



0 5cm

0 10cm

No	登録No	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	径長(cm)		厚さ	調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅			
1	N5-226	11E-SD21・2層	陶製品・楕	部分		6.1+	7.3+	0.2～0.6	103g	172-13
2	K-139	11E-SD21・2層	石製品・砥石	完形		17.0	3.2	2.1	91g	172-11
3	K-170	11E-SD21・3層	石製品・茶臼上臼	1/4		径(18.8)		厚12.4	905g+	172-10

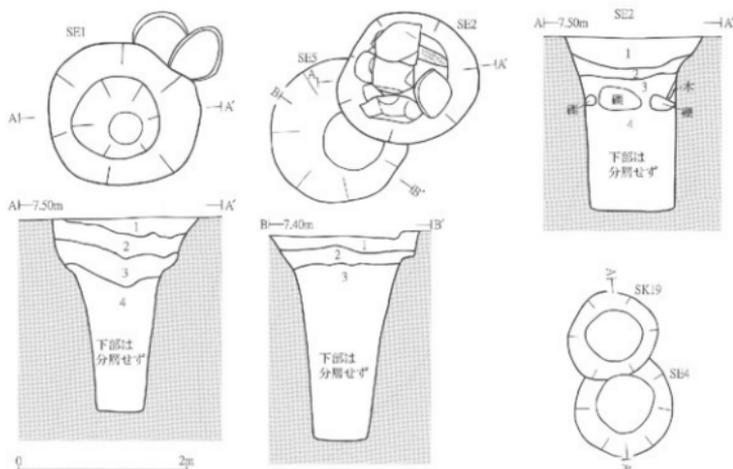
第426図 11E-SD21 出土遺物(2)

No.	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11D-SE1	LM24・IVa層	円形	182×174	238	IVa3・4期
11D-SE2	LM24・IVa層	円形	170×160	212	IVa3・4期
11D-SE3					欠番
11D-SE4	L25・Va期	円形	124×122	151	IVb~IVa期、中世陶器
11D-SE5	LM24・IVa層	円形	170	255	IVa3・4期、曲物
11D-SE6	L24・Va層	円形?	120+	?	壁跡のため未調査

表128 11D区 井戸跡一覧表

No.	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11E-SE1					欠番
11E-SE2	O06・VI層~SD1012	円形?	135	146	IVa4期以降、SD1012を切る
11E-SE3	K29・5層水田跡	楕円形	120×105	235	IVb~IVa期、瓦質土器
11E-SE4	O29・VI層	楕円形	116×102	160	IVb~IVa期、中世陶器
11E-SE5	L29・6a層水田跡	楕円形	110×100	197	IVa期、板状瓦葺、瓦質土器

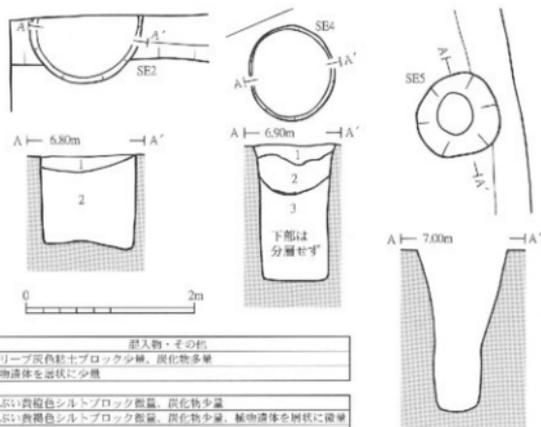
表129 11E区 井戸跡一覧表



11D-SE1				
層位	色相	土質	財入物・その他	
1	30YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物粒少量	
2	30YR4/2 赤黄褐色 2.5Y4/2 暗灰褐色	粘土 シルト	にぶい黄褐色粘土ブロック少量、炭化鉄を帯状に少量 酸化鉄を帯状に多量、炭化物粒少量	
3	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土ブロック・炭化物粒少量	
4	2.5Y2/1 黒色	粘土	灰色粘土ブロック少量、炭化物粒少量	
11D-SE2				
1	30YR3/2 黒褐色	シルト	無炭化鉄・炭化物粒少量	
2	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	黄褐色粘土ブロック・炭化物少量、炭化鉄を帯状に少量	
3	2.5Y2/1 黒色	粘土	緑灰色砂・オリーブ黒色粘土ブロック少量、炭化物粒少量	
4	7.5Y2/1 黒色	粘土	緑灰色粘土ブロック少量、植物遺体多量	
11D-SE3				
1	30YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色ブロック・炭化物粒少量	
2	30YR3/1 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック少量、炭化鉄を帯状に少量、炭化物粒少量	
3	5Y2/1 黒色	粘土	暗紅灰色粘土ブロック少量、炭化物粒少量	
11D-SE4				
1	10YR2/2 黒褐色	粘土	炭化物少量	
2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量	
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック少量	
4	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	オリーブ灰色細砂ブロック少量	
11D-SK19				
1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	オリーブ灰色シルトブロック・オリーブ灰色粘土ブロック・黄褐色粘土ブロック多量	

第427図 11D-SE1・2・4・5、SK19 平面・断面図

第428図
11E-SE2・4・5 平面・断面図

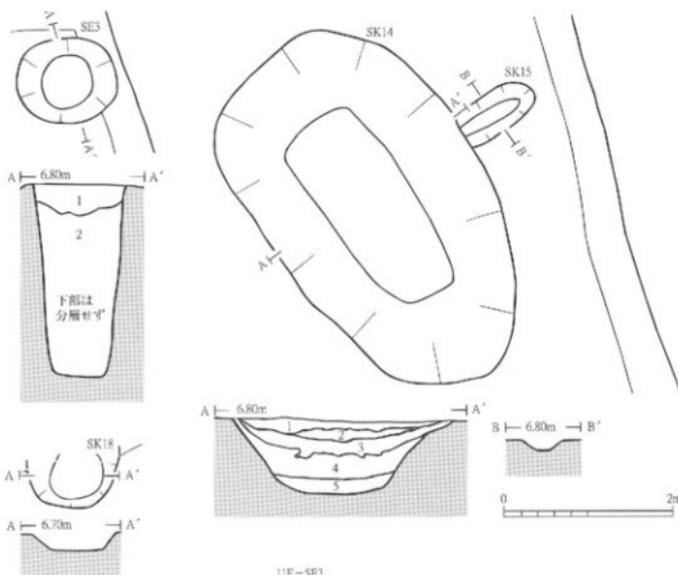


11E-SE2

層位	色調	土質	埋入物・その他
1	10YR2/1 黒色	粘土	オリーブ灰色粘土ブロック少量、炭化物多量
2	2.5Y2/1 黒色	粘土	植物遺体を層状に少量

11E-SE4

1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック少量、炭化物少量
2	5Y2/1 黒色	粘土	にぶい黄褐色シルトブロック少量、炭化物少量、植物遺体を層状に少量
3	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	



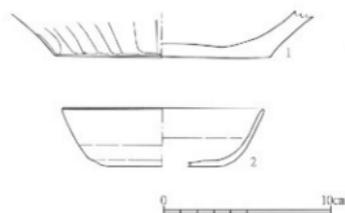
第429図
11E-SE3、SK14・15・18
平面・断面図

11E-SE3

層位	色調	土質	埋入物・その他
1	10YR2/2 黒褐色	粘土	オリーブ黒色シルトブロック少量
2	2.5Y2/1 黒褐色	灰炭質粘土	炭質多量
3	2.5Y3/1 黒色	灰炭質粘土	炭質多量
4	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	暗オリーブ灰色砂質シルトブロック少量

11E-SK14

1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	黄褐色粘土ブロック・黒褐色粘土ブロック少量
2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
4	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	
5	5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	黒色泥炭質粘土を層状に少量



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(原地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	Is-30	11D-SD5・下層	土師質土器・鉢	底形1/2		(13.0)		内外面ナガ、内面やや荒れる、白針微塵	168-9
2	E-51	11D-SD5	須恵器・杯	1/3	(12.2)	(7.6)	3.6	口は調整、回転へう等→一部ナシ、底径/口径0.58	168-10
3	Pv-19	11D-SD5・層	土製品・土埴	完形	長3.8	幅1.7		10g	168-11

第430図 11D-SD5 出土遺物

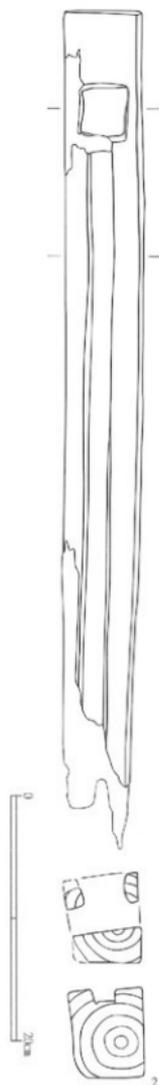
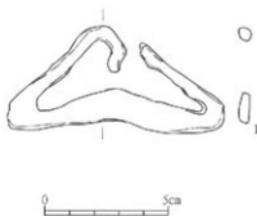
やや大型の長方形のものでは11D-SK14がある。大きさは2～2.5m前後で、深さ約20cmと浅い。遺物はごくわずかで図化できたものもない。

方形のものは11D-SK5、11E-SK2の2基がある。大きさは75～105cmで、深さは10～25cmと浅い。遺物は11D-SK5から土師器・須恵器などが約20点、11E-SK2から中世陶器片2点が出土し、3点が図化できた(表136・137、第437・440図)。11D-SK5からはNb-220「洪徳通寶」(ヴェトナム王朝の後黎)が出土している(第437図2)。

長さが3m以上の楕円形のもの11D-SK7、11E-SK17の2基がある。深さは20～30cmと浅い。遺物はほとんどないが、11E-SK17からQ-3鹿角が出土している(第440図5)。

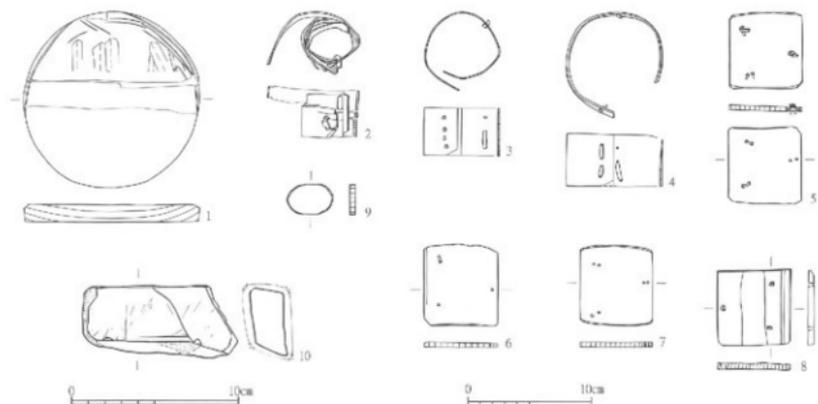
長さが3m以上あるが調査区の制約から平面形が不明確なものは11D-SK8、11E-SK1の2基である。深さは11D-SK8が1.4m、11E-SK1が50cmである。遺物は11D-SK8から土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器片などが約30点、11E-SK1から土師器、須恵器、中世陶器片が4点出土したが、11D-SK8の在地産の陶器、鉄釘、杭など5点が図化できた(第438図)。

長さ5m近い大型で楕円形のもの11E-SK14である。4.7×2.7mの楕円形で、深さ90cmである。茶臼、曲物、挽き物が出土している(表137、第440図2～4)。



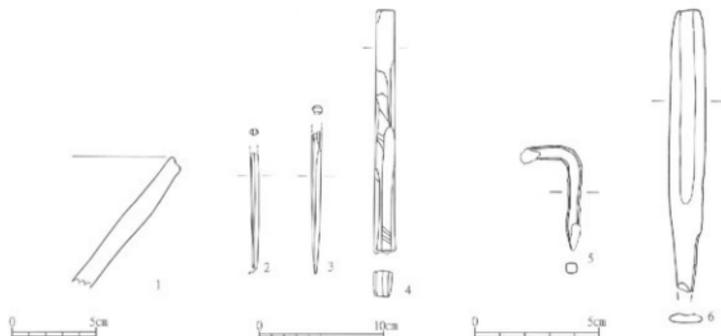
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(原地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Nb-382	11D-SE1	鉄製品・火打金	ほぼ完形	8.8	3.9	0.5	26g	168-12
2	L-444	11D-SE2・1層	木製品・柱材	1/3程度?	68.2+	5.8	7.2	片面に溝(幅2.1cm)、小ノ孔	168-13

第431図 11D-SE1・2 出土遺物



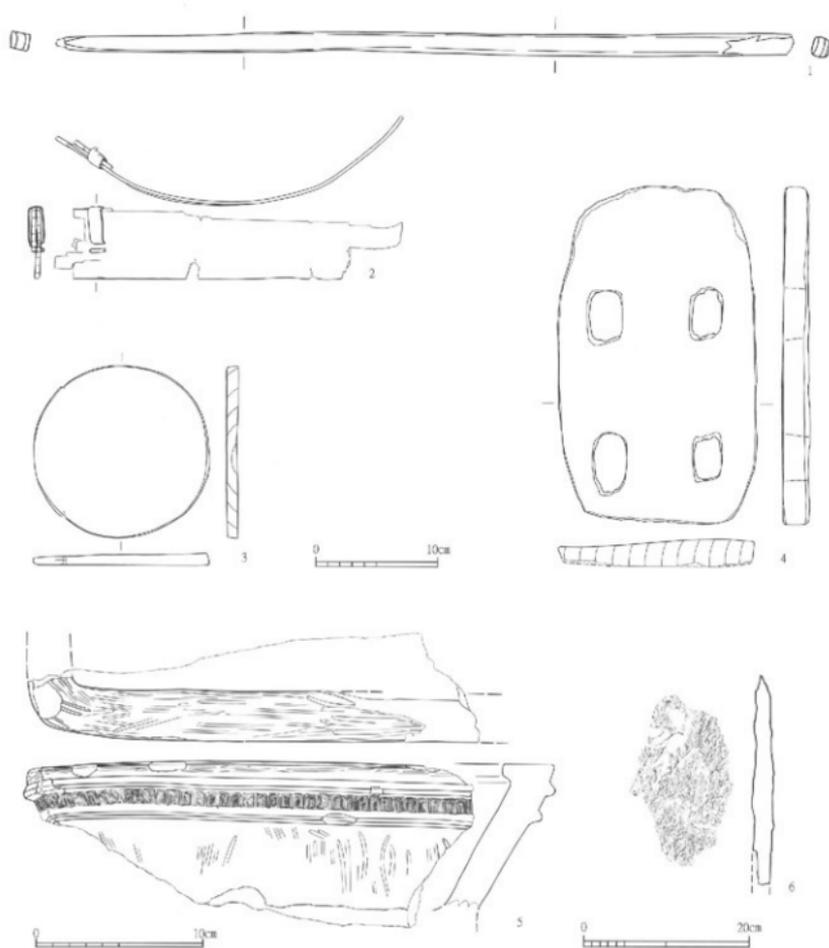
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図版
						口径	底径		
1	L-432	11D-SE5	木製品・桶?	底板のみ	14.5	厚1.5		168-14	
2	L-440	11D-SE5	木製品・曲物	側板のみ	(4.6)	3.8	樽底継ぎ、桶門部底板とセット	168-15	
3	L-439	11D-SE5	木製品・曲物	側板のみ	(5.2)	4.0	樽底継ぎ、方形底板とセット	168-16	
4	L-438	11D-SE5	木製品・曲物	側板のみ	(5.0)	4.4	樽底継ぎ、方形底板とセット	168-17	
5	L-437	11D-SE5	木製品・曲物	底板のみ	6.3×6.0	厚0.4	方形、樽底継ぎ (結合孔2×3)	168-20	
6	L-434	11D-SE5	木製品・曲物	底板のみ	6.8×6.0	厚0.4	方形、樽底継ぎ (結合孔1×3)	168-21	
7	L-433	11D-SE5	木製品・曲物	底板のみ	6.6×6.0	厚0.4	方形、樽底継ぎ (結合孔2×3)	168-22	
8	L-435	11D-SE5	木製品・曲物	底板のみ	6.6×6.1	厚0.6	方形、樽底継ぎ (結合孔1×3)	168-23	
9	L-436	11D-SE5	木製品・曲物	底板のみ	2.5×3.8	厚0.5	桶門形	168-18	
10	K-96	11D-SE5-3階	石製品・砥石	端部欠損	長(+5.7)	幅(2)	淵2.0 (135g+), デイサイト質黒炭岩	168-19	

第432図 11D-SE5 出土遺物



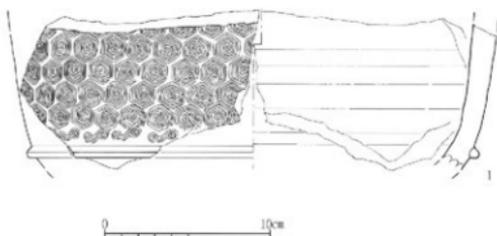
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-502	11E-SE2	陶器(菅沼)	片口鉢	口縁～体部片				口口口調整、内面磨減、外面ナデ	173-1
2	L-564	11E-SE2-1階	木製品・箸		2S	9.9+	0.7	0.5		173-4
3	L-565	11E-SE2-1階	木製品・箸		1Z	11.7+	0.8	0.7		173-5
4	L-566	11E-SE2-1階	木製品・?	(棒状)	端部欠損	19.9+	1.5	1.7		173-3
5	Na-399	11E-SE2	鉄製品・釘		中央部	6.0+	0.4	0.4	屈曲, 4g+	173-2
6	Q-2	11E-SE2	骨製品			11.5+	1.4	0.4		173-6

第433図 11E-SE2 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 図種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	L-463	11E-SE4	木製品・? (棒状)	端部欠損	59.2±	1.5	1.4	面取り(部分的に不明瞭)	173-9
2	L-571	11E-SE4	木製品・曲物	側板の一部	28.4±	6.0±	0.3	棒状	173-8
3	L-572	11E-SE4	木製品・曲物	底板のみ	径14.3		1.0		173-7
4	L-694	11E-SE5	木製品・大足	縁部欠損	28.0	16.5	2.3	方形の穿孔	173-11
5	Ib-45	11E-SE5	瓦質土器・火鉢	口縁～体部片				筒状の器形、内面ナデ、外面ナデ・ハハツミガキ 口縁部外側に片取縁、各側面に面文スタンプ、口縁部	173-10
6	K-109	11E-SE5	石製品・板押	部分	26.7±	13.6±	2.5	930g±、黄碧	173-12

第434図 11E-SE4-5 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(産地)	器種	遺存度	法長 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						口徑	底径	器高		
1	Tb-44	11E-SE3	瓦質土函・火鉢	休部片					口縁部裏面、休部片面に黒甲文スタンプ下部に凸帯内面に残存着	173-13

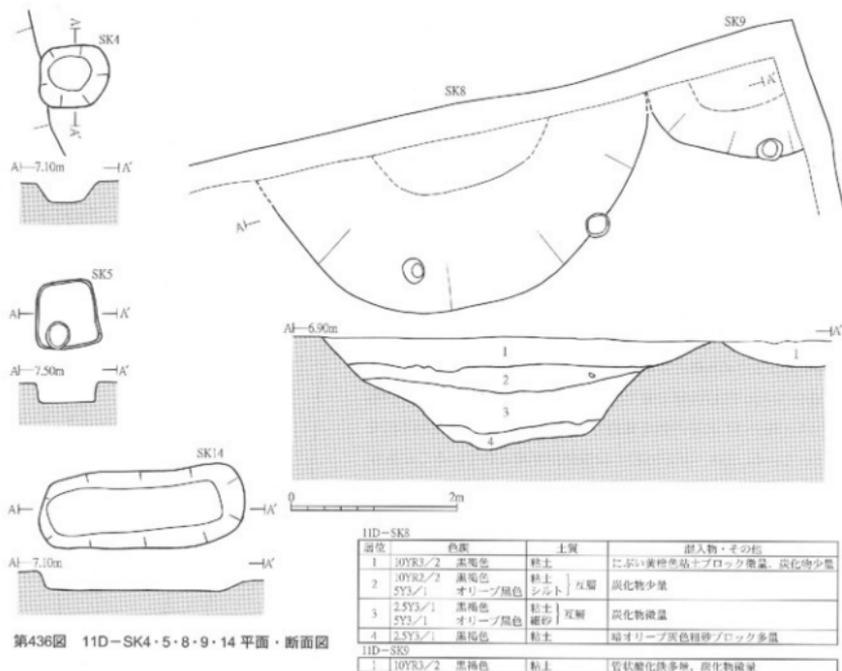
第435図 11E-SE3 出土遺物

No.	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11D-SK 1	L27・Va層	長楕円形	572×142	15	Va期
11D-SK 2	L27・Va層	長楕円形	172×36	15	Va～IVa期
11D-SK 3	L27・Va層	長楕円形	68×20	?	Va～IVa期
11D-SK 4	M26・Va層	不整形	88×78	25	IVb～IVa期、中世陶器、SD10.0に切られる
11D-SK 5	M24・IVa層	方形	85×75	25	IVa2～4期
11D-SK 6	M23・IVa層	方形	780×?	103	IVa3・4期、古瀬戸(後3期)、中世陶器
11D-SK 7	M22・Va層	長楕円形	370×168	18	Va～IVa期
11D-SK 8	K28・Va層	楕円形?	474×?	139	IVb～IVa期、中世陶器
11D-SK 9	K28・Va層	?	?	37	Va～IVa期
11D-SK 10	L24・Va層	長楕円形	180×46	13	Va～IVb期
11D-SK 11	L24・Va層	楕円形	100×54	14	Va～IVa期
11D-SK 12	L24・Va層	長楕円形	278×76	15	Va～IVb期
11D-SK 13	L24.25・Va層	不整形	500×294	136	IVb期、中世陶器、11D-S34に切られる
11D-SK 14	L25・Va層	長楕円形	254×98	26	IVb～IVa期、中世陶器
11D-SK 15	L25・Va層	?	326×?	14	IVb期、中世陶器、11D-SK13に切られる
11D-SK 16	L23・Va層	円形	120	36	IVb～IVa1期、中世陶器
11D-SK 17	M23・Va層	?	96×?	35	IVb～IVa1・2期、中世陶器、10D-SK6に切られる
11D-SK 18	LM23・Va層	不整形	350×200	56	IVb～IVa1期、中世陶器
11D-SK 19	L25・Va層	円形	110×105	80	IVb～IVa期、中世陶器

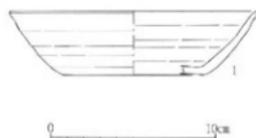
表130 11D区 土坑一覽表

No.	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
11E-SK 1	N28・6a層水田跡	楕円形?	350×?	157	IVb～IVa期、中世陶器
11E-SK 2	O27・VI層～11E-SD10上面	方形	105×85	17	IVb～IVa期、中世陶器
11E-SK 3	O27・VI層～11E-SD10上面	長方形	52×?	30	Va～IVa期
11E-SK 4	O27・VI層～11E-SD9上面	楕円形	150×130	33	Va～IVa期
11E-SK 5	O28・VI層	楕円形	58×?	20	Va～IVa期
11E-SK 6	O28・VI層	方形	46×?	9	Va～IVa期
11E-SK 7	O28・VI層	楕円形	155×120	44	Va～IVa期
11E-SK 10	O28・VI層	楕円形?	155×?	110	Va～IVa期
11E-SK 12	O28・VI層	楕円形?	145×?	58	Va～IVa期
11E-SK 13	O28・VI層	楕円形	90×50	11	Va～IVa期
11E-SK 14	I28・5層水田跡	楕円形	470×270	90	Va～IVa期、茶臼
11E-SK 15	I29・5層水田跡	楕円形	50×?	11	Va～IVa期
11E-SK 16	O29・VI層	円形?	180+	12	Va～IVa期
11E-SK 17	N29・VI層	不整形	295×155	27	Va～IVa期
11E-SK 18	I29・6a層水田跡	楕円形?	110×?	20	Va～IVa期
11E-SK 19	N29・6a層水田跡	長楕円形?	80×?	17	IVb～IVa期、中世陶器

表131 11E区 土坑一覽表 (SK8・9・11は欠番)



第436図 11D-SK4・5・8・9・14 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図取
						口徑	底径	高さ		
1	E-52	11D-SK5	須恵器・埴	1/4	1/4	(15.0)	(8.5)	3.9	ヒタコ調製、産地不明(1期)→1期後半より、黒厚/口部周	159-1
2	Nb-220	11D-SK5	磁製品・鉄貨	2/3	2/3	162.5		重1.6g	洪橋産貨(後室・明室(70年))、ヴェトナム	159-2

第437図 11D-SK5出土遺物

その他には小規模な長楕円形の土坑が11D-SK2・3、11E-SK15の3基、調査区の制約から部分的にしか調査できなかったものや、遺存状況が悪く、形態がよく分からない土坑が11D-SK9、11E-SK16・19の3基がある。遺物もほとんどなく図化できたものもない。

(5) 焼土遺構

11D-SX1-2 11D区東部のL24グリッドに2基並んで位置する焼土遺構である。IVa層上面で確認しており、SX2は11D-SD6を切っている。径60～70cmの円形で、底面が熱によって赤褐色の焼土となっている。遺物は出土しなかった。

(6) ビット

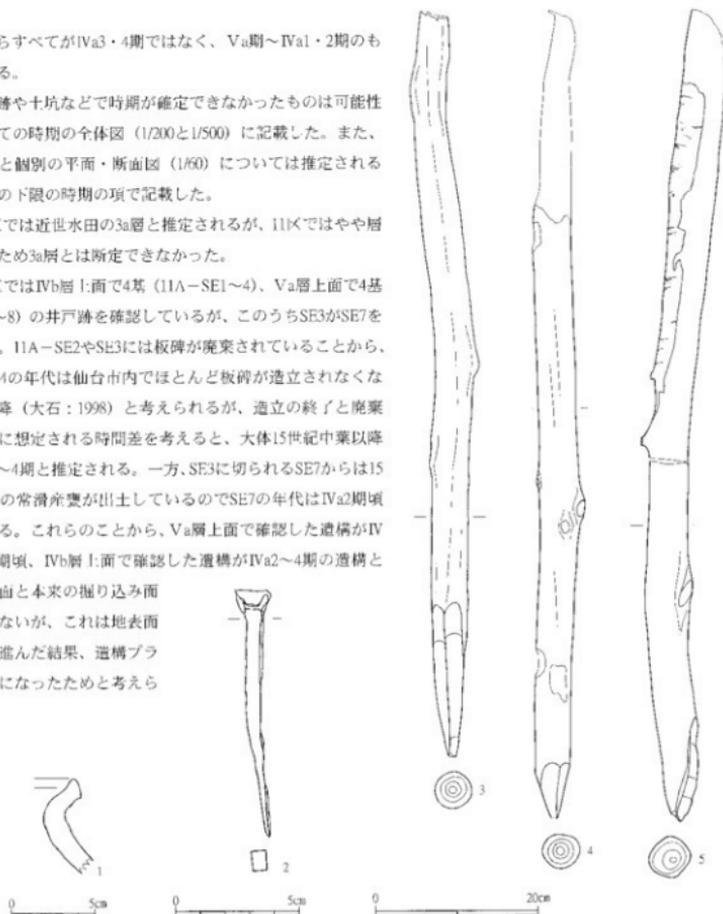
掘立柱建物跡としての組み合わせが不明で、性格不明として残ったビットは140基である。これらのビットからは土師器・須恵器などの小片が約100点出土しているが図化できたものもない。

(註1) これらすべてがIVa3・4期ではなく、Va期～IVa1・2期のものも含まれる。

(註2) 井戸跡や十坑などで時期が確定できなかったものは可能性のあるすべての時期の全体図(1/200と1/500)に記載した。また、遺構の説明と個別の平面・断面図(1/60)については推定される時期のうちの下限の時期の項で記載した。

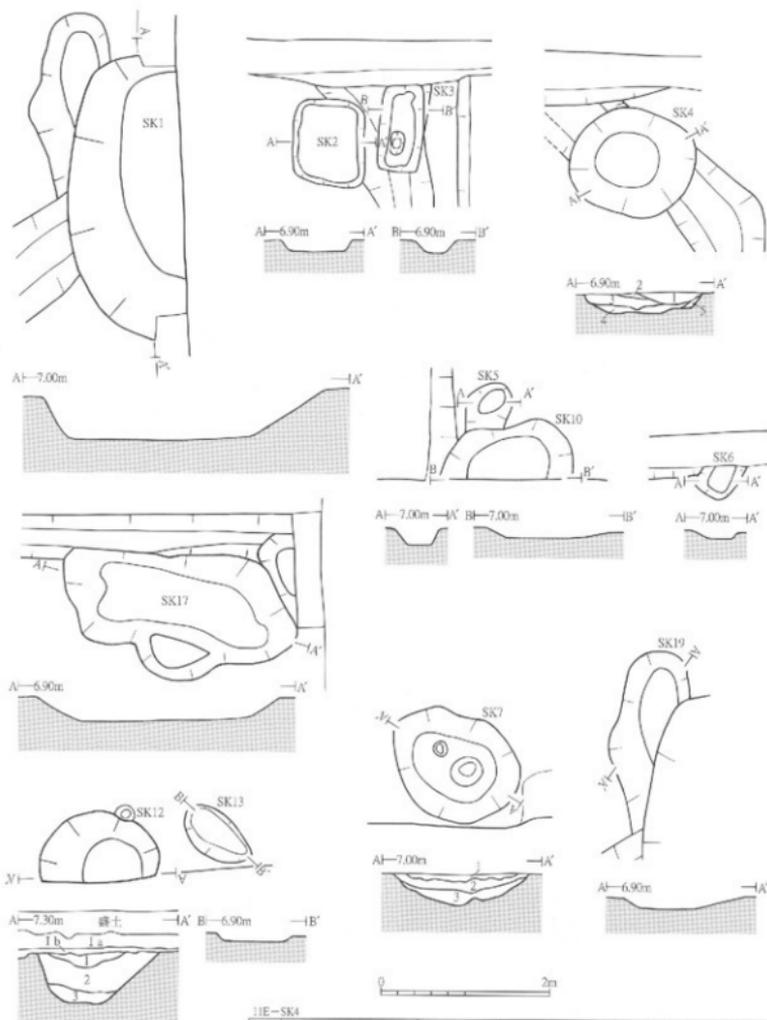
(註3) 10A区では近世水田の3a層と推定されるが、11Bではやや層相が異なるため3a層とは所定できなかった。

(註4) 11A区ではIVb層上面で4基(11A-SE1～4)、Va層上面で4基(11A-SE5～8)の井戸跡を確認しているが、このうちSE3がSE7を切っている。11A-SE2やSE3には板碑が廃棄されていることから、11A-SE1～4の年代は仙台市内でほとんど板碑が造立されなくなる15世紀以降(大石:1998)と考えられるが、造立の終了と廃棄行為との間に想定される時間差を考えると、大体15世紀中葉以降であるIVa2～4期と推定される。一方、SE3に切られるSE7からは15世紀後半頃の常滑産甕が出土しているのでSE7の年代はIVa2期頃と考えられる。これらのことから、Va層上面で確認した遺構がIVb～IVa1・2期頃、IVb層上面で確認した遺構がIVa2～4期の遺構となる。確認面と本来の掘り込み面とが一致しないが、これは地表面の土壌化が進んだ結果、遺構プランが不明瞭になったためと考えられる。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法準 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	IC-298	11D-SK8・1層	陶片(八郎字) 壺	口縁～体部片				ヨコナダ	169-3
2	NB-360	11D-SK8・3層	鉄製品・釘	完形	10.1	0.6	0.8	頭部幅1.4cm, 13g	169-4
3	L-445	11D-SK8	木製品・杭	頭部欠損	92.3+	径4.5		丸木材	169-5
4	L-448	11D-SK8	木製品・杭	頭部欠損	100.1+	径4.6		丸木材	169-6
5	L-447	11D-SK8	木製品・杭	頭部欠損	100.8+	径5.0		丸木材	169-7

第438図 11D-SK8 出土遺物



第439図 11E-SK1~7・10・12・13・17・19平面・断面図

11E-SK4

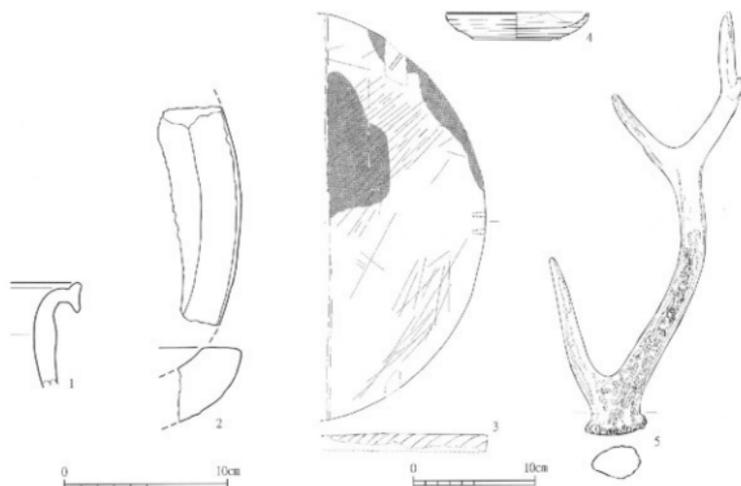
層位	色相	土質	遺入物・その他
1	SY2/1 黒褐色	粘土	炭化物多量
2	SY3/1 オリーブ黒色	粘土	炭化物・焼土ブロック少量
3	ZSY4/1 灰色	粘土	オリーブ灰色粘土ブロック少量
4	SY5/1 オリーブ灰色	粘土	細粒灰色粘土ブロック少量
5	ZSY3/1 黒褐色	粘土	腐化鉄少量

11E-SK7

1	09YK3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、酸化鉄質、マンガン粒少量
2	09YK5/2 灰黄色	粘土	灰白粘土を層状に侵蝕、炭化物少量
3	ZSY3/2 黒褐色	粘土	腐化炭色粘土ブロック少量、炭化物少量

11E-SK12

1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・酸化鉄少量
2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	細かい灰色シルトブロック多量、炭化物・管状酸化鉄少量
3	5Y3/1 オリーブ灰色	粘土	腐化鉄多量状・管状に少量



No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(産地)器種	遺存状態	量目 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	1E-S03	11E-SK2・1層	銅器(貨幣)貨	口縁一体部片				口・原部コナデ、体部ナデ、6h型式	173-14
2	K-114	11E-SK14	石炭星・茶臼下臼	部分		4.7-		295g+, 安山岩	173-17
3	L-659	11E-SK14	木炭星・曲物	炭痕片	(35.2)		厚1.5	結合釘孔3、一部炭集げ	173-15
4	L-460	11E-SK14	木炭星・検物皿	ほぼ完形	12.0	7.3	2.3	フナ属	173-16
5	Q-3	11E-SK17・5層	鹿角	ほぼ完形					173-18

第440図 11E-SK2・14・17出土遺物

(註5) 応長二年は3月20日から正和と改元されたので、原文にある11月は厳密に言えば応長ではない。

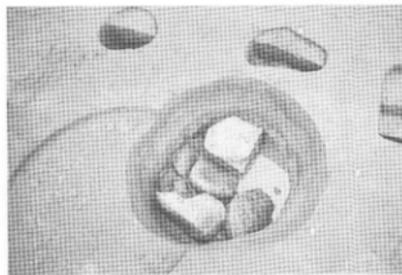
(註6) 11B区ではSD1003の西側にIVa層段階の堀跡や区画溝と考えられる11B-SD2~SD4が並行している。これらの4条の堀跡・溝跡はSD4→SD3→SD2→SD1003の順に変遷し、それぞれがIVa1~4期に対応すると考えられる。

(註7) 拡張区で確認した堀がSD1004Bであるのか1004Cであるのか所定はできないが、確認した4条の堀・溝のうち最も新しいものをIVa4期と推定した。

(註8) 仙台市博物館の酒井昌一郎氏の御教示による。なお、同氏によると一木からの簡単なつくりのものは戦国時代~江戸時代初めにかけて認められるとのことである。



11E-SD1



11D-SE2

第2節 IVa層の遺構(2) -IVa1・2期

1. 遺構の概要

IVa2期は外堀SD1001が掘削される以前の段階であるが、城館の区画を形成する南北方向の溝跡・堀跡がSD1002、11B-S-D3~11F-S-D11、SD1007、11C-S-D1の順に11A区から11D区まで40~60m前後の間隔で並んでいる。これらのうち11B-S-D3と11F-S-D11はIVa2期に限定される溝跡であり、SD1007についてはIVa3・4期の堀跡であるが北側の10区の状態からするとそれ以前のIVa2期から機能していたと推定される。なおSD1002はこの時期まで遡ると断定はできないが、10B区ではSD1002を意識したような建物配置が見られるので11区でもこの時期に掘削された可能性はある。

曲輪内部には掘立柱建物跡25棟、柱列跡1条があり、建物方向は城館の主軸(真北から約30°東傾)を中心とした28~33°を示している。この他に井戸跡、土坑、ピットなどが多数検出されているが、これらは時期の限定が困難で、IVa2期の可能性のあるのは井戸跡32基、土坑103基である。

IVa1期は小規模な区画溝が認められるのみで、防壁機能を持つ堀が造られる以前の段階である。なお、断定はできないが、やや規模が大きな溝跡11C-S-D1はこの時期にまで遡る可能性はある。

この時期の主な遺構は、掘立柱建物跡30棟、区画溝4条で、建物方向は真北から22~27°東に振れたものが大部分である。この他に小規模な溝跡、井戸跡、土坑、ピットなどが多数検出されているが、これらについては時期の限定が困難で、IVa1期の可能性のあるのは井戸跡37基、土坑114基である。

なお、IVa1・2期と考えられる建物跡は計55棟であるが、組み合わせが不明なピットが1100基以上残るので、IVa3・4期の項で述べたように建物数はさらに多かったと考えられる。

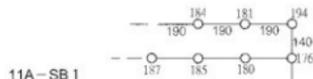
2. 11A区の遺構と遺物

城館の堀跡はIVa2期のSD1002があるが、前述したようにこの時期から機能していたかどうかは不明である。IVa1期は南北方向の区画溝11B-S-D4が東に50m以上離れた地点にあるが、11A区では確認できなかった。

IVa2期の建物跡は確認できなかったが、IVa1期では掘立柱建物跡2棟がある。その他の遺構は、IVa3・4期に含まれる可能性がある遺構も含め、小規模な溝跡5条、井戸跡9基、土坑18基、ピット約90基を検出している(第447・449図)。

(1) 溝跡

小規模な溝跡5条のうち、11A-S-D7・8はVa層上面で確認した溝跡である。幅30~40cm、深さ10~25cmで、堆積土は直上の基本層IVb層が入り込んでいた。遺物はSD8から中世陶器を含めて土師器片など約20点、SD9から土師器・須恵器の小破片50点が出土したが図化はできなかった。なお、11A-S-D13~15はIVa3・4期の項で既に記載した。



11A-SB1



11A-SB9

PlanNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
184	Va	39	23	?
181	Va	34×22	41	?
194	Va	34×50	16	?
176	Va	34×30	24	?
180	Va	35	35	?
185	Va	42×?	26	?
187	Va	36×?	23	?
規模	東西5.7m+、3階	南北1.4m、1階		
柱間	1.9m	1.4m		
面積		積否	26坪	

PlanNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
196	Vc	26	31	?
84	Va	37	32	?
86	Va	40×36	51	?
103	Va	36	21	14
110	Va	40×34	26	?
109	Va	34×30	15	?
108	Va	30×9	?	?
根拠	東04.3m、2階	南北1.5m+、3階+		
柱間	2.5m・2.5m	0.75m		
面積		積否	26坪	

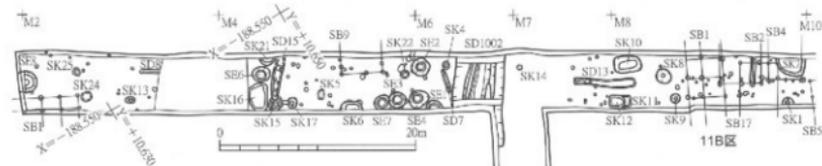
(2) 掘立柱建物跡

IVa1期と推定される11A-SB1・SB9の2棟を確認している。両者共に大部分が調査区外のため大きさなどは不明であるが、主軸方向は真北から26° 東傾している。

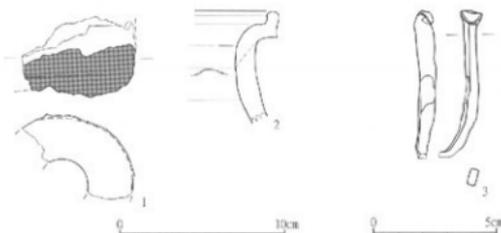
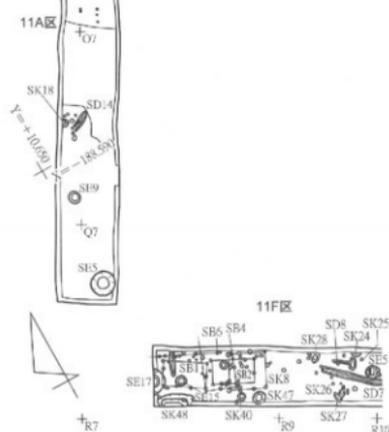
遺物は土師器片を中心としてそれぞれ30点前後出土したが、図化できたのは常滑産の甕と鉄釘の2点である(表132、第442図2・3)。

(3) 井戸跡(第444・450図)

9基のうち4基はIVa3・4期の項で既に記載したため、ここでは11A-SE5~9について触れる。

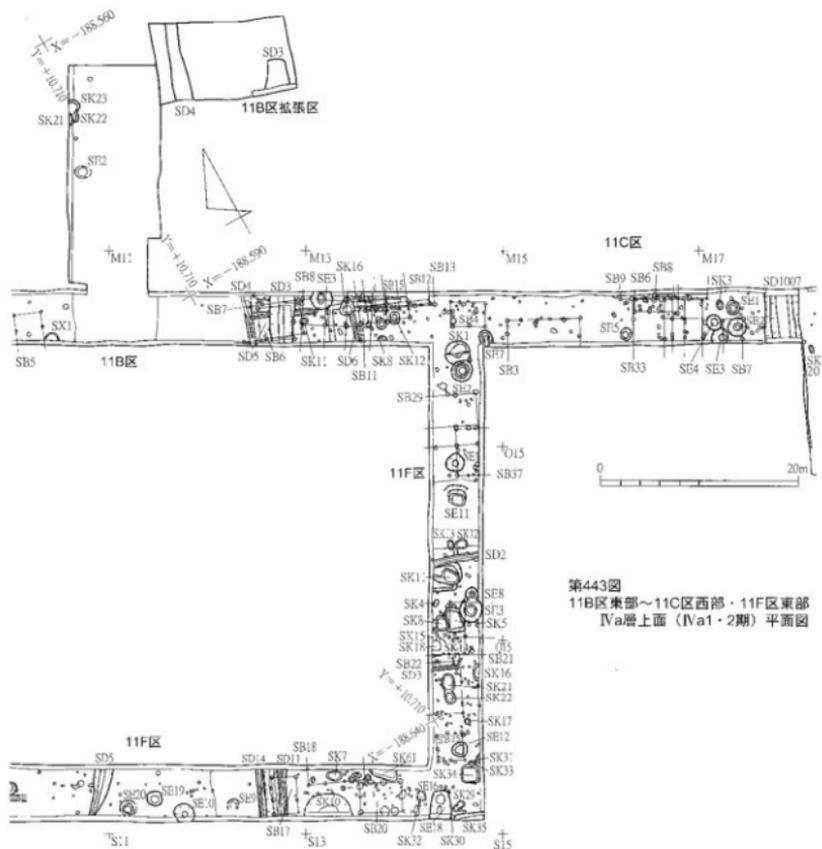


第441図 11A~11B区西部・11F区西部
IVa層上面(IVa1・2期)平面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(産地)	器種	遺存度	法量(cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	P-13	11A-SK15・1層	土師器・甕口	部分	7.0+	無	8.4		120前+, 先端部内凹	153・14
2	Tc-459	11A-P.03(11A-S39)	陶器(常滑)甕	口縁~体部片					口・胴部コゴ子, 体部に灰赤色の土師器片埋め	183・15
3	Na-228	11A-P.07(11A-S31)	鉄製品・釘	9/0	6.5+	0.7	0.3		短釘, 頭部約3.5cm, 6g+	183・16

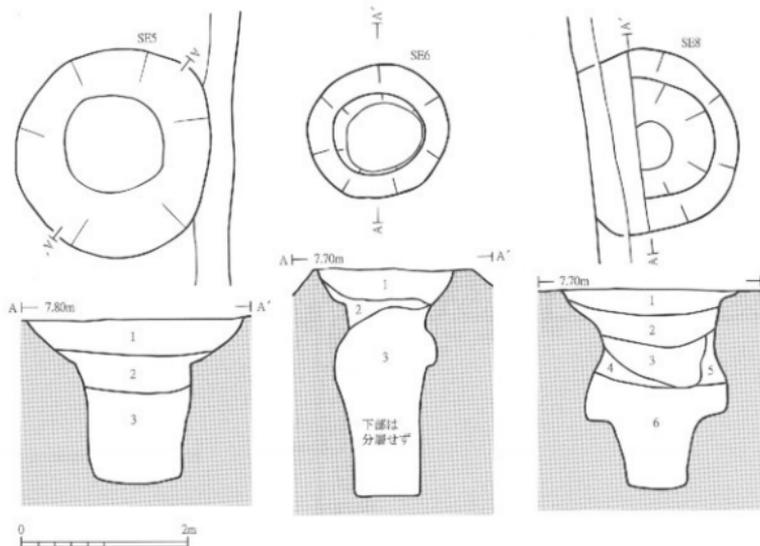
第442図 11A-SB1・9、SK15 出土遺物



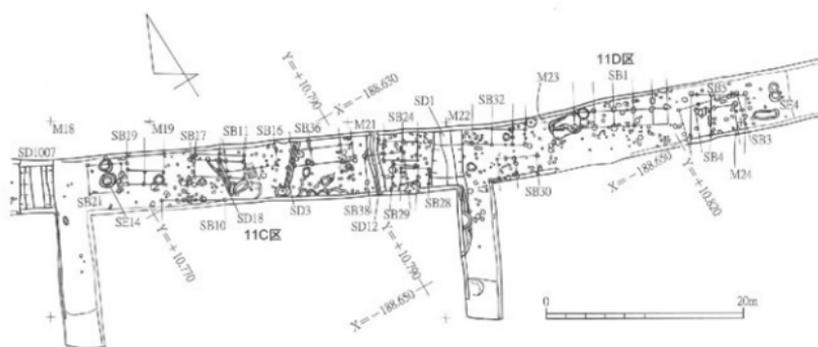
第443図
11B区東部～11C区西部・11F区東部
11a層上面 (11a・2期) 平面図

11A-SE5～8は11a層上面、11A-SF9は11A-SD1の底面で確認している。SE7はSE3に切られている。規模などは表113 (11頁) のとおりであるが、SE5とSF8が径2.5m前後で大きく、SE6とSE7は径が2m以下でやや小さい。SE9については上部が失われているので本来の大きさは不明である。深さはSE9が不明であるがそれ以外は2m以上ある。

遺物はSE5・6・8から土師器・須恵器・中世陶器などを中心として30～50点、SE7からは約240点が出土しているが、SE9からは少ない。在地や常滑産の陶器、土師質土器、漆器・曲物などの木製品、硯や砥石などの石製品、鉄釘など20点以上が図化できた (表132、第451～454図)。第452～453図はSE7の出土遺物であるが、在地産の1c-457片口鉢 (第453図2) は完形品で、内面にへら記号が刻まれている。1c-458は常滑産の大甕で、破片となっていたが接合して上半部が復元できた。外面肩部に墨描きの記号が認められる。K-156硯 (第454図5) は完形品で、自然面を多く残した造りである。SE9から出土したL-390曲物底板 (第454図7) は組板に転用されたと考えられるものである。

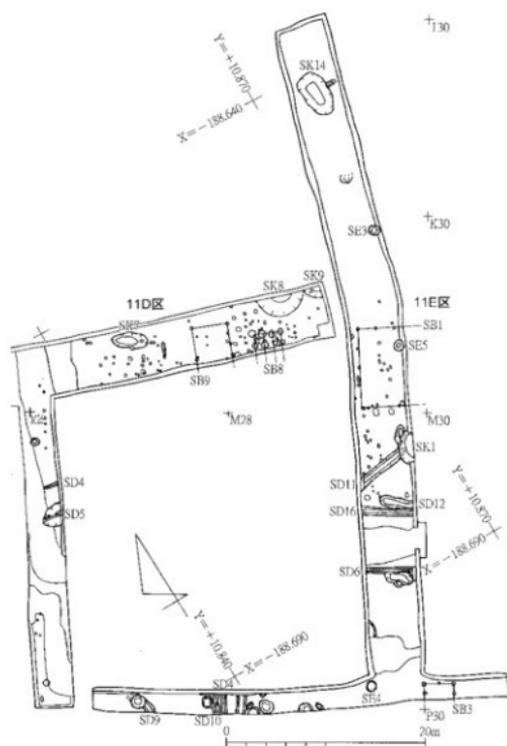


第444図 11A-SE5・6・8平面・断面図

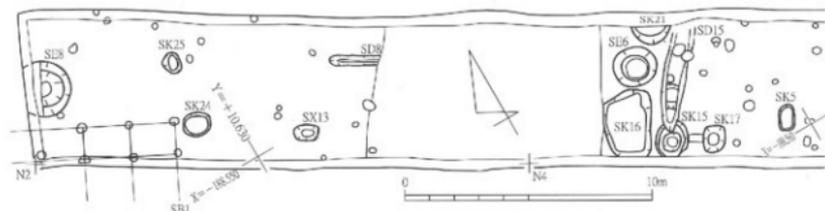


第445図 11C区東部～11D区西部Ia層上面 (Ia1・2期) 平面図

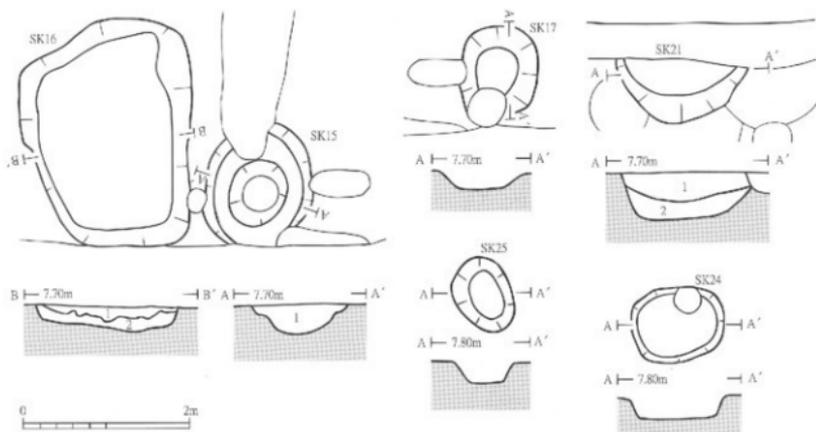
層位	色調	土質	混入物・その他
11A-Sb5	1 10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	炭化物・マンガノ粒少量
	2 10YR2/2 黒褐色	粘土	炭化物・マンガノ粒・植物遺体少量
	3 5Y2/1 オリーブ黒色	粘土	オリーブ灰色粘土ブロック・炭化物・植物遺体少量
11A-Sb6	1 10YR1/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック・炭化物粒少量
	2 2.5Y3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック・炭化物粒少量
	3 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック・炭化物粒少量、円礫少量
11A-Sb8	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、粘土粒微量
	2 7.5Y4/1 灰色	シルト	灰黄色砂質シルトブロック多量、炭化物粒少量
	3 2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト(植物遺体多量)を層状に貯留
	4 5Y3/2 オリーブ黒色	粘土質シルト	
	5 50Y4/1 暗オリーブ灰色	砂質シルト	混合
	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	
6 2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・植物遺体多量	



第446図 11D区東部～11E区IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図



第447図 11A区西部IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図

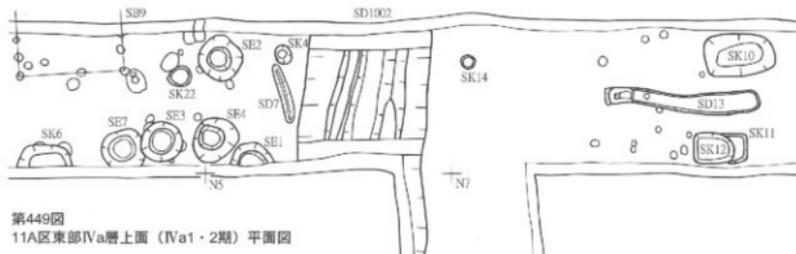


測位	色産	土質	遺入物・その他
11A-SK15	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄褐色ブロック多量、炭化物粒少量
	2 10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色粒少量、炭化物・焼土粒少量
11A-SK16	1 10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒少量
	2 7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	黒色粘土質シルトを割断に少量、炭化物・焼土粒少量

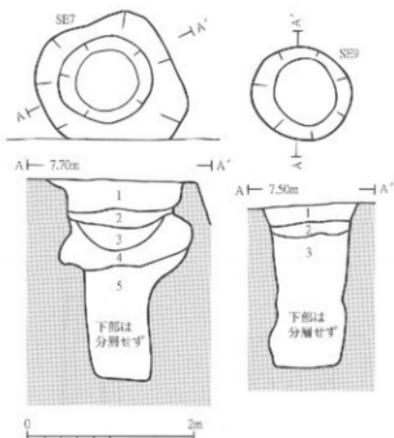
第448図 11A-SK15~17・21・24・25 平面・断面図

(4) 土坑 (第448図)

この時期に該当する可能性があるものが20基あるが、13基についてはIVa3・4期の項で既に記載した。ここでは11A-SK15~17・21・22・24・25について触れるが、細かな時期まで確定はできたものはない。規模は表112 (1頁)のとおりで、SK16が長辺3m近い不整な方形であるが、その他は1~1.5m前後の円形か楕円形である。遺物は土師器片などがあるが、図化できたのはSK15から出土したP-13羽口1点(第442図1)である。なおSK15からは鉄滓も数点出土しているが、出土量が少ないことから、周辺からの混入と考えられる。これらの土坑の性格は不明である。



第449図
11A区東部IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図



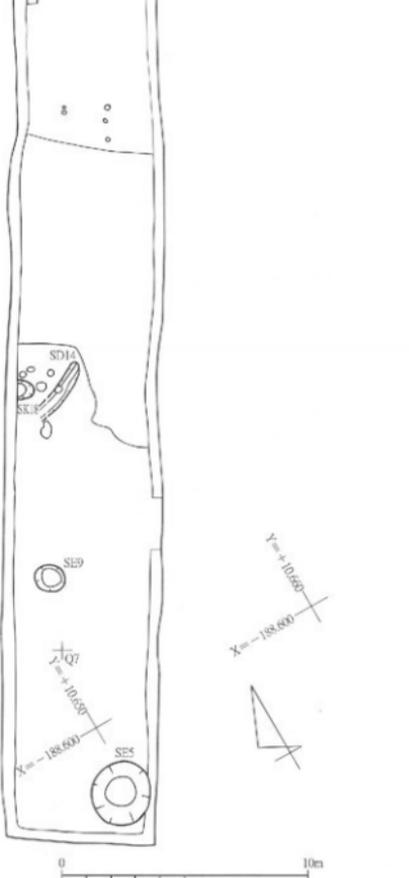
11A-SE7

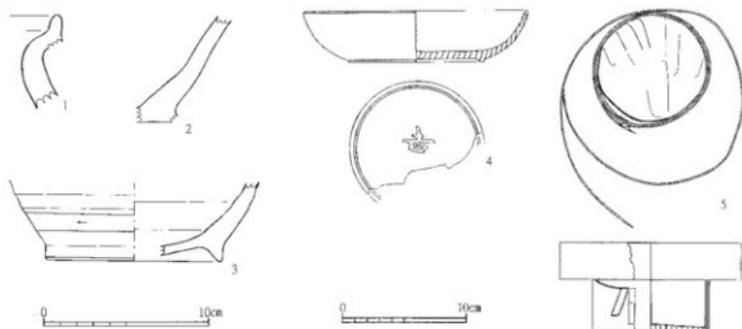
層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物極少量、粘土粒微量
2	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	炭化物極少量、粘土粒微量
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	黒色粘土質シルトを層次に少量
4	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	暗オリーブ灰色砂質シルトを層次に微量
5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物少量、植物遺体多量

11A-SE9

層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	粘土	炭化物・酸化鉄微粉
2	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	炭化物微量
3	7.5Y4/1 灰色	粘土質シルト	オリーブ黒色シルトブロック・暗灰褐色粘土ブロック少量

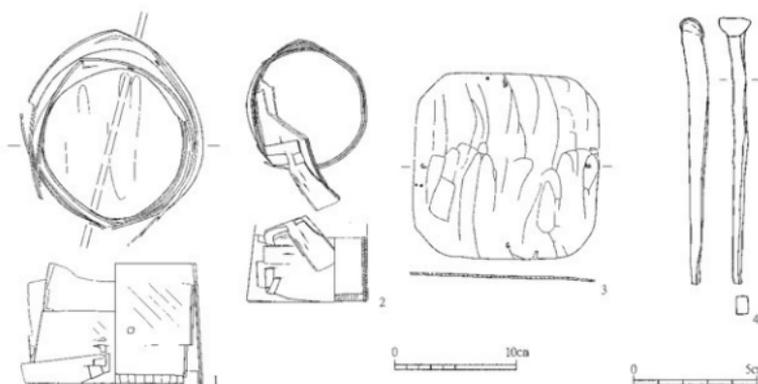
第450図 11A-SE7・9 平面・断面図





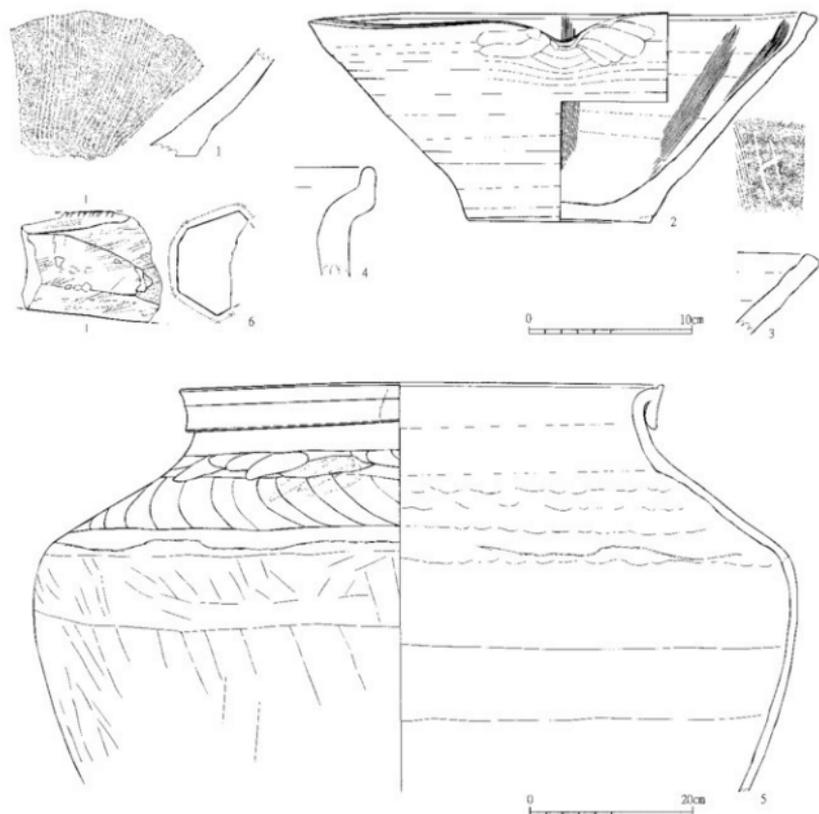
No	登録No	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	Jc-454	11A-SE5	陶器(在地・白石) 甕	口縁一体破片				D・無底ヨコナテ、体部ナテ、外底に赤灰色の自然釉 丹道線画・褐色に転色、内面にナリ・ブ灰色の自然釉	183-1
2	Jc-455	11A-SE5	陶器(常滑) 甕	底部1/8				Dの内面・底面に土曜河転へツカズリ、内面黄緑、山形線画	183-2
3	Jc-448	11A-SE6	陶器(東海) 鉢	底部1/5				Dの内面・底面に土曜河転へツカズリ、内面黄緑、山形線画	183-5
4	L-397	11E-SE5	木製品・漆器用	1/3	(8.2)	11.0	4.2	内外面に下漆十漆明漆+赤漆(大部分剥離)、内面半ズ多 底部外面線刻文字「吉」、ケヤキ	183-4
5	L-391	11A-SE5	木製品・漆物	ほぼ完形?	(9.4)			樟皮板じ	183-3

第451図 11A-SE5・6 出土遺物



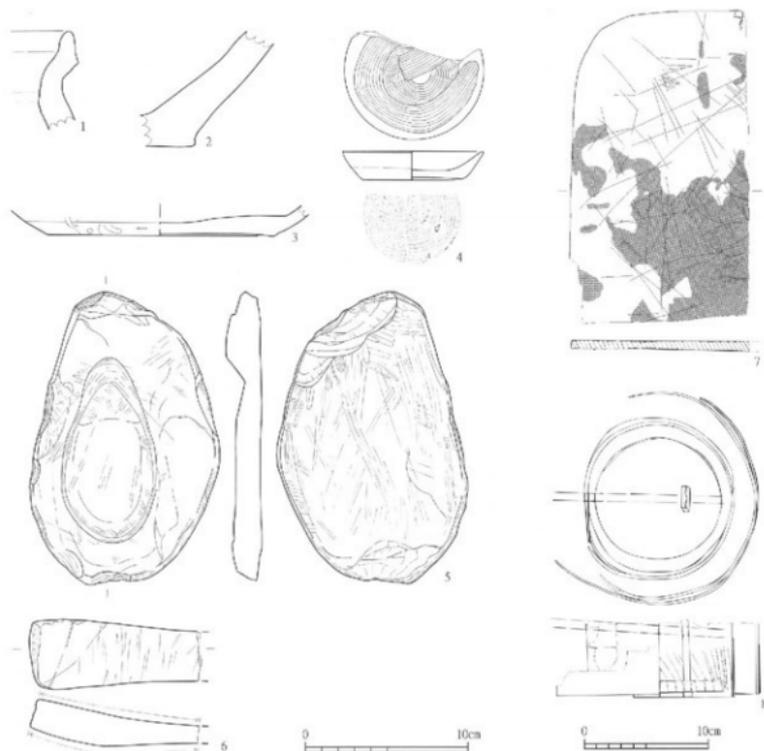
No	登録No	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	L-388	11A-SE7・5層	木製品・曲物柄杓	柄を欠損	(14.0)		(10.0)	柄部込穴、樟皮板じ	182-8
2	L-387	11A-SE7・5層	木製品・曲物	ほぼ完形	10.0		(5.4+)	樟皮板じ	182-9
3	L-562	11A-SE7・5層	木製品・折敷	蓋?	辺15.3	辺15.5	厚0.2	結合孔2×3、3×1(木束×4の孔が縦横して繋がる?)	182-10
4	Na-227	11A-SE7	鉄製品・釘	完形	長10.8	幅0.7	厚0.5	頭部幅1.3cm、18g	182-7

第452図 11A-SE7 出土遺物(1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	胴径	器高		
1	Ic-450	11A-SE7	陶器(在地・白石)	片口鉢	底部～体部片				口・口(回転台)調整、内面磨練・8本単位の様目	182-4
2	Ic-457	11A-SE7・5層	陶器(在地)	片口鉢	完形	31.2	11.4	12.9	口・口(動物)調整、内面磨練・8本単位の様目・ハナ型目	182-1
3	Ic-451	11A-SE7	陶器(在地・白石)	片口鉢	11線部小片				口・口(回転台)調整	182-2
4	Ic-449	11A-SR7・5層	陶器(在地・白石)	壺	口縁～体部片				口・頸部ヨコナデ、体部ナデ	182-3
5	Ic-458	11A-SE7・5層	陶器(常滑)	壺	上部	(59.2)		体部径93.6	口・頸部ヨコナデ、体部外面ヘラナデ・ナデ・肩部に雲雲きの段目、内面ナデ・オサエ、出型式	182-5
6	K-155	11A-SE7・5層	石製品	硯石	端部のみ	長7.8+	幅6.5	厚3.5+	330g±、デイスイト質凝灰岩	182-6

第453図 11A-SE7出土遺物(2)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 実尺
						口径	底径	器高		
1	lg-452	11A-SE8	陶器(布地・白石)	片	口縁～体部片				口・胴部コナテ、体部ナテ	183-6
2	lg-456	11A-SE8	陶器(布地・白石)	片	底部1/10				ナテ	183-7
3	lg-453	11A-SE9	陶器(古瀬戸)	段積	底部1/4		(14.0)		灰釉、後1～2期	183-11
4	lg-83	11A-SE8・1層	土師質土師	小皿	2/3	8.7	6.1	1.8	口径内面一外周一部ナテ・見込みナテ、同系系物	183-8
5	K-156	11A-SE8-2層	石質基・硬	碗形	完形	18.2	11.2	2.1	600g、頁岩	183-10
6	K-157	11A-SE8	石質基・硬石	碗形	底部欠損	10.5+1	3.8	2.0	163g、デイスイト質凝灰岩	183-9
7	L-300	11A-SE9	木質基・漆物	底板片	(24.6)	(14.3)	0.8		両面に漆物付、漆皮結合、須板に転写?	183-12
8	L-389	11A-SE9	木質基・漆物	柄杓	下部	柄(6.7)		高さ6.0+	底板に柄杓用の板取り付け、漆皮継ぎ	183-13

第454図 11A-SE8・9 出土遺物

3. 11B区～11F区北端部～11C区西端部の遺構と遺物

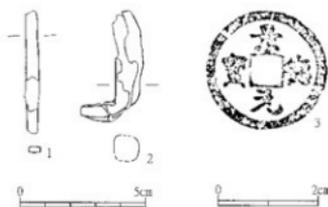
城館の堀跡はIVa2期の11B-SD3である。IVa1期の区画溝は南北方向の11B-SD4・6とそれに直交する東西方向の11B-SB5がある。

IVa2期の建物跡は11B-SD3から西に離れた場所に掘立柱建物跡が4棟、東側に2棟がある。IVa1期では掘立柱建物跡7棟がある。その他の遺構としては、IVa3・4期に含まれる可能性がある遺構も含め、小規模な溝跡1条、井戸跡3基、土坑10基、ピット約120基を検出している（第457・458図）。

(1) 溝跡

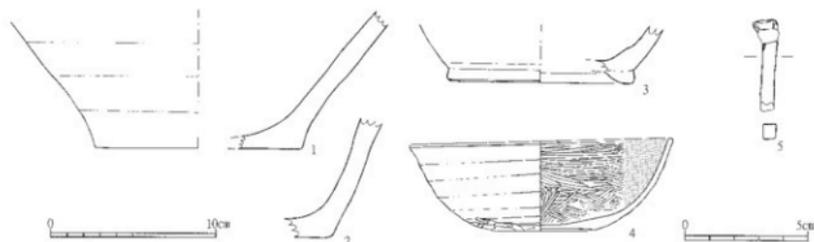
11B-SD3（第458図） IVa2期と推定される堀跡で、11B区M12グリッドに位置している。北に20m離れた拡張区でこの延長部分を確認しているが、ちょうど拡張区内で途切れているので、ここが出入り口と推定される。M12グリッドでは幅2.8m、深さ1.3m、断面形は上部が開く「U」字形で、堆積土は自然堆積層である。断面の形状と堆積土の状況からすると少なくとも1回は改修されていると考えられる。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、金属製品などが約100点出土したが、図化できたのは鉄釘や銭貨など3点である（表133、第455図）。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-257	11B-SD3・上層	鉄製品・釘	中央部	5.0+	0.5	0.2	3g+	184-1	
2	Ns-258	11B-SD3・下層	須恵器・釘	中央部	5.6+	1.0	1.0	扁盤、9g+	184-2	
3	Nb-188	11B-SD3	銅製品・銭貨	方形	径2.4			2.3g、景徳元寶(北宋・初建1004年)	184-3	

第455図 11B-SD3 出土遺物



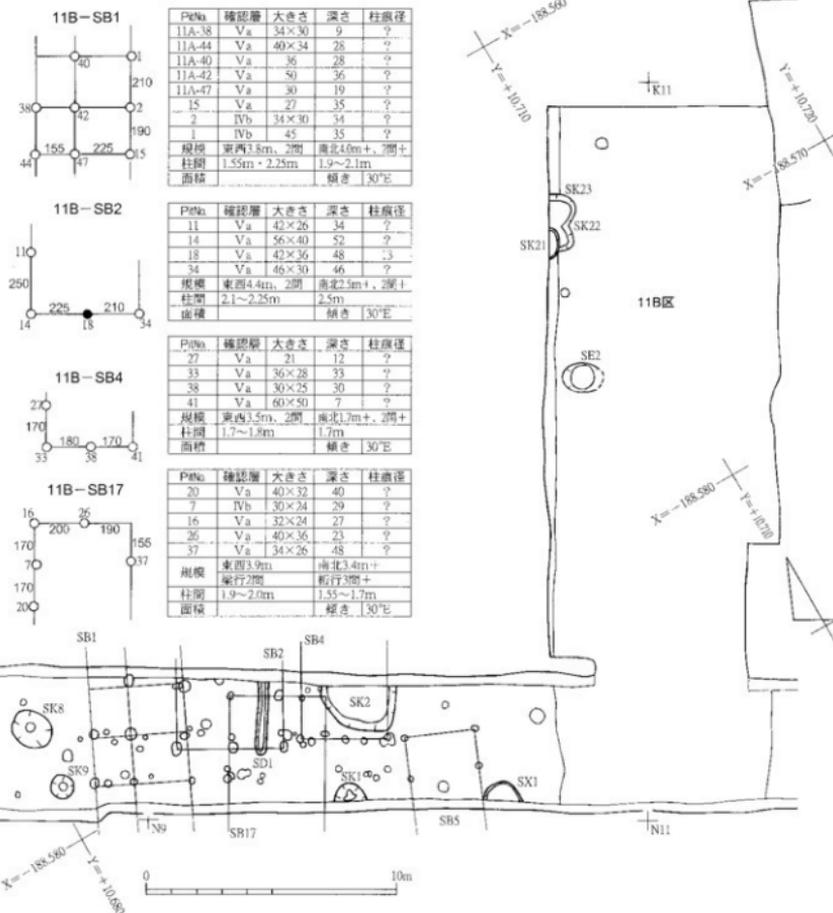
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						11径	底径	器高		
1	Ic-471	11B-(9B-SD15)	陶器(台意・白石)	片1片	底～体部1/5		(12.4)		口クロ(回転台)調整、内面磨滅し、荒れる	184-8
2	Ic-472	11B-SD4・1層	陶器(台意・白石)	片1片	底部～体部片				ナデ、断面に漆喰残痕	184-6
3	E-124	11B-SD4	須恵器(大戸)	瓶	小破片		(11.2)		口クロ調整	184-7
4	D-66	11B-SD5	土師器・杯	2/3	15.8	6.0	5.5		口クロ調整、面輪高切、体部下葉半持ヘラケズリ 内面へラミガキ・茶色色澤、白粉少量、底径11.1cm	184-4
5	Ns-260	11B-SD5・上層	須恵器・釘	端～中央部	長3.8+	幅0.6	幅0.5	断面幅10cm、4g+		184-5

第456図 11B-SD4・5、9B-SD15 出土遺物

11B-SD4 (第458図) IVa1期の区画溝と推定される。M12グリッドのVa層上面で確認した溝跡で、11B-SD5に「T」字状に接している。北側の拡張区で9B-SD15の延長部分を確認しているが、この溝につながる可能性が高い。幅はM12グリッドでは80cmほどであるが、北部の拡張区では1.5m前後ある。深さは約70cmで堆積上は自然堆積層である。

遺物は9B-SD15を含めて土師器・須恵器の小破片約30点と中世陶器数点が出土し、図化できたのは陶器2点と須恵器1点である(表133、第456図)。

11B-SD5・6 (第458図) IVa1期の区画溝と推定される。M12~13グリッドのVa層上面で確認した溝で、SD5はSD4と「T」字状に接し、SD6はSD4と並行している。幅は40~60cm、深さは10~15cmで、堆積土は直上の基本層IVb層が入り込んでいた。

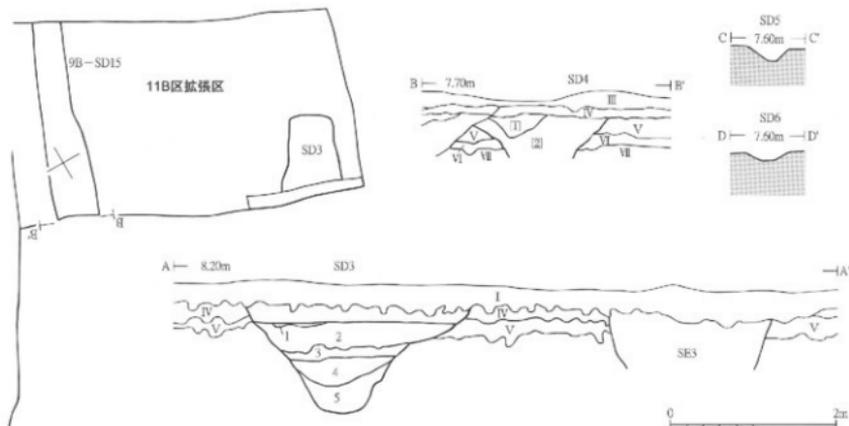


第457図 11B区西部IVa層上面 (Na1・2期) 平面図

遺物はSD5から中世陶器を含めて土師器片など約40点出土したが、SD6は少ない。図化できたのはSD5の土師器と鉄釘である(表133、第456図)。

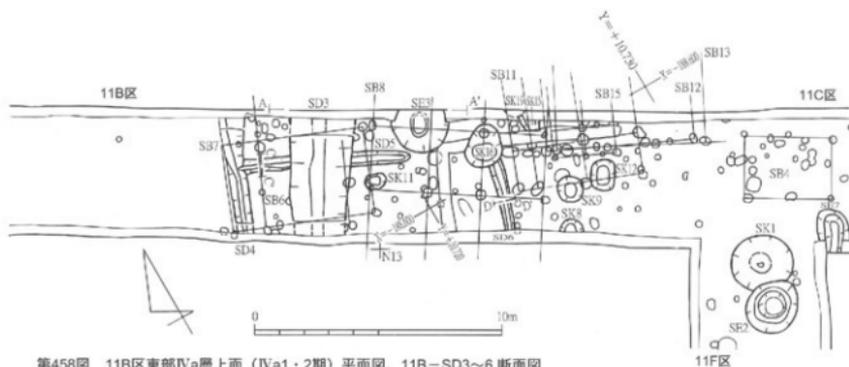
(2)掘立柱建物跡

IVa2期と考えられるのは城館の主軸方向とおなじく真北から30~33°東傾する建物跡6棟で、11B-SD3から西に離れた場所にSB1・2・4・17、SD3の東側にSB8と11C-SB4がある。SB1・2・4・17は重複しているが、直接重複関係にあるSB1-P1はIVb層上面、SB2-P11はV層上面の確認であるので、SB2→SB1と変遷していることが判る。なお、他の2棟については位置関係からSB4はSB2と同時期で、SB17はSB1と同時期と推定される。一方11B-SD3の東にある

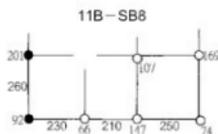


11B-SD4

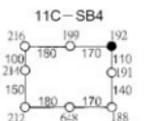
層位	色調	土質	埋入物・その他
II	10YR3/2 暗褐色	粘土	に赤い黄褐色粘土ブロック・炭化物微量
III	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	オリブ藍色粘土ブロック少量、炭化物微量



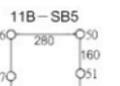
第458図 11B区東部IVa層上面(IVa1・2期)平面図、11B-SD3~6断面図



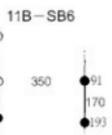
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
201	Vb	38×?	29	?
169	Va	40×32	55	?
74	Vb	24×20	21	?
147	Va	40×34	27	?
66	Vb	40×36	24	?
92	Va	38×34	32	?
92	Vb	28×23	23	16
規模	東西6.9m, 3間	南北2.6m-, 1間		
柱間	2.1~2.5m	2.6m	柱さ	33±
面積				
備考	礎柱?			



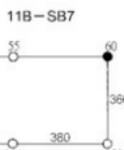
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
212	Va	38×32	20	?
214	Va	56×32	12	?
216	Va	26	18	?
199	Va	26	31	?
192	Va	26	25	8
191	Va	30×24	18	?
188	Va	23	18	?
648	Vb	50×30	31	?
規模	東西3.5m	南北2.5m		
桁行2間	梁行2段			
柱間	1.7~1.8m	1.6~1.5m		
面積	8.8㎡	柱さ	30±	



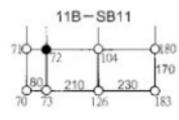
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
47	Va	28×24	24	?
46	Va	30	28	?
50	Va	30×36	34	?
51	Va	27	9	?
規模	東西2.8m, 1間	南北1.6m+, 1間+		
面積		柱さ	23±	



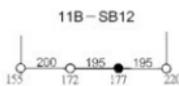
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
216	Vb	36×30	25	10
210	Vb	27	30	?
54	Va	41	29	?
91	Va	50×40	35	21
193	Vs	31	24	12
規模	東西3.5m, 1~2間	南北3.3m+, 2間+		
柱間		1.5~1.8m		
面積		柱さ	25±	



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
55	Va	36×30	41	?
60	Va	36	31	14
191	Vb	35×??	21	?
214	Vb	32×28	15	?
217	Vb	36×26	27	?
規模	東西5.7m	南北3.5m		
桁行1段	梁行1段			
柱間	(1.9~2.0m)	3.5m		
面積	20.9㎡	柱さ	22±	



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
71	Va	68×40	42	?
72	Va	36×??	41	10
104	Va	42	57	?
180	Vb	52×36	35	?
183	Vb	38×32	20	?
126	Va	46	29	?
73	Va	88×66	25	?
70	Va	52×40	49	?
規模	東西5.2m	南北1.7m+		
身倉兼桁行・西面	桁行1間-			
柱間	身倉2.1~2.3m	1.7m		
面積	0.8㎡			
備考			柱さ	25±
備考	礎柱?			



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
155	Vs	39	14	?
172	Vs	30	28	?
177	Vs	30	11	14
220	Vs	28×22	23	?
規模	東西5.0m, 3間			
柱間	1.95~2.0m	柱さ	25±	

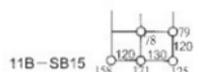
11B-SB8と11C-SB4の新旧関係は明らかではない。

IVa1期と推定される建物跡は真北から22~26°東傾するもので、11B-SB5・7・11~13・15の7棟である。11B-SB6・SB7は区画溝11B-SD4とSD5が「T」字に接する地点に位置し、区画溝をまたいでいる建物跡であるが、区画溝との新旧関係は明らかではない。また、SB11~13・15は重複しているが、このうちのSB12とSB13は、ほとんど同規模の建物かわずかに柱位置をずらして建て替えられたと考えられる。なお、SB11は西廂を持つ南北棟、SB15は小規模な礎柱の倉庫と考えられるが、これらを含めた4棟の新旧関係は不明である。

建物跡からの遺物は非常に少なく、大部分は土師器片などが数点出土したのみであるが、11B-SB11からは鉄製品が比較的多く出土している。腐化できたのは鉄釘や銭貨など5点である(表133、第462図3~7)。



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
156	Vb	40×36	33	?
173	Vb	30	33	?
89	Va	30	47	?
218	Vb	38×32	26	?
規模	東西6.0m, 3間			
柱間	2.0m	柱さ	26±	



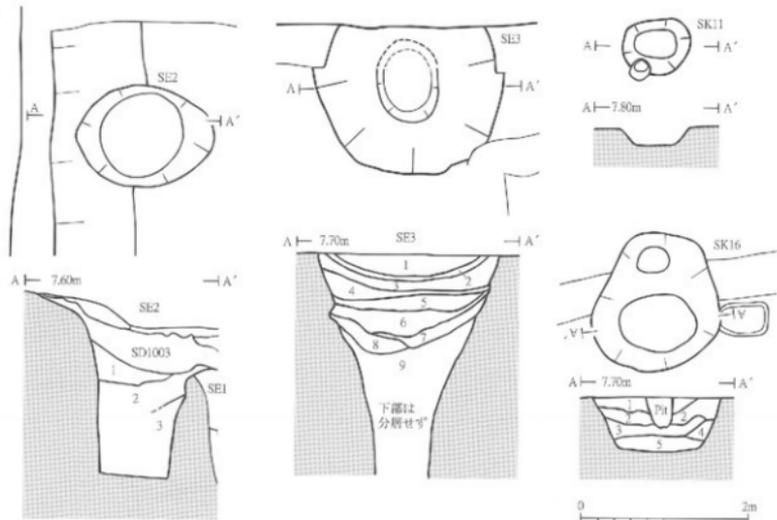
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
78	Va	29	69	?
79	Va	30×?	22	?
125	Va	38×28	37	?
171	Vb	24	33	?
158	Vb	20	29	?
規模	東西2.5m, 2間	南北1.2m+, 1間+		
柱間	1.2~1.3m	1.2m		
面積			柱さ	25±
備考	礎柱?			

(3)井戸跡

この時期の可能性のある井戸跡は4基あるが、11B-SE3・11C-SE7・11F-SE2についてはIVa3・4期の項で既に記載した。

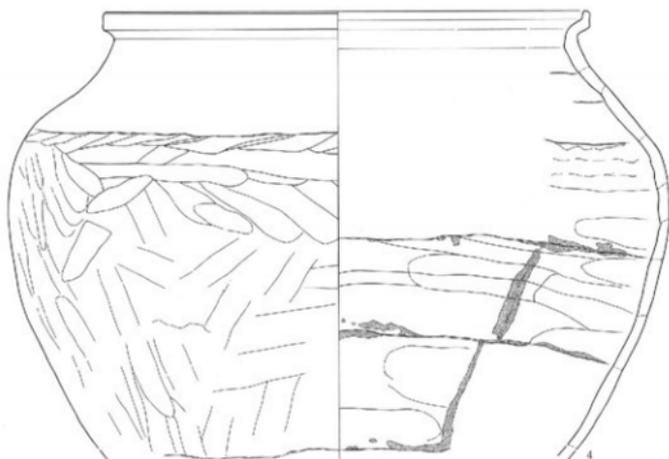
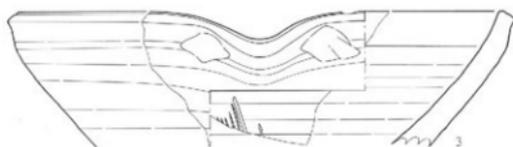
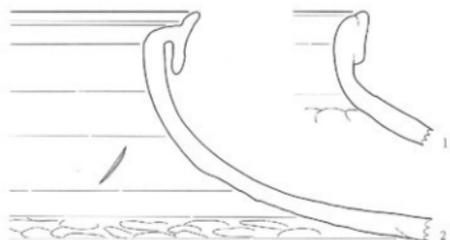
11B-SE2 (第459図) L10グリッドに位置し、上部をIVa4期のSD1003に切られているが、11B-SE1を切っている。平面形は楕円形で、規模は表116 (46頁) のとおりである。

遺物は中世陶器を中心に90点出土し、在地や常滑産の片口鉢や甕、短刀や刀子などの鉄製品が図化できた (表133、第460・461図)。年代が最も新しい遺物はIc-479常滑産甕 (第460図) で10型式 (15世紀後半) と考えられる。Ic-505在地産の甕 (第460図) には割れ口を漆で補修した痕跡が残っている。また、体部外面には焼成前のヘラ記号が刻まれている。Na-266短刀 (第461図1~2) は、目釘は残っていなかったが木製の柄が遺存していた。Na-252刀子 (3) は茎から身部の1/3くらいにかけて布状のものが巻きつけられていた痕跡が残っている。



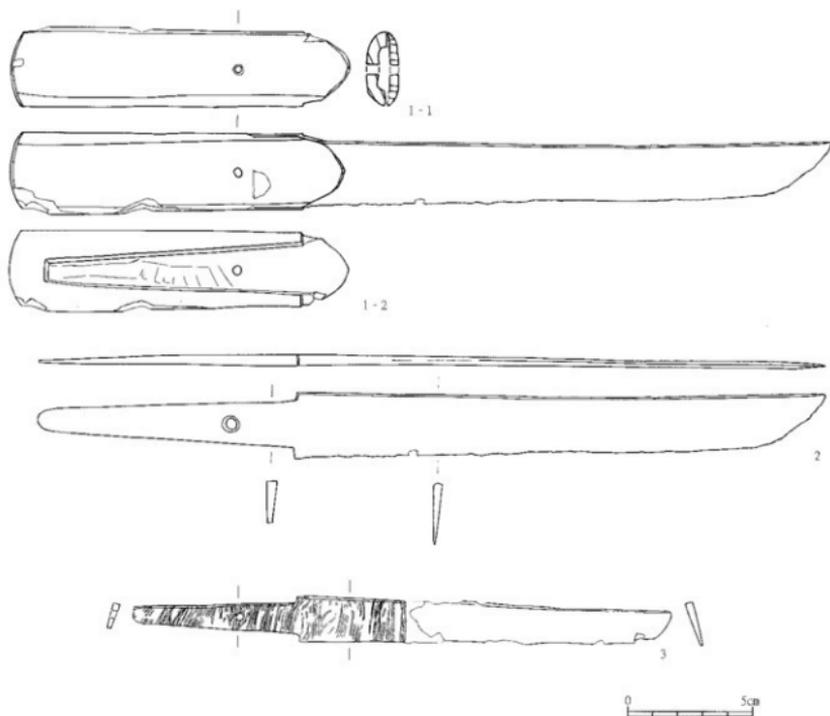
層位	色産	土質	混入物・その他	
11B-SE2	1 2.5Y3-/1 黒褐色	粘土		
	5Y4-/1 灰色	砂質シルト		
	2 2.5Y3-/1 黒褐色	粘土		
11B-SE3	1 10YR3-/2 黒褐色	シルト	炭化物・焼土ブロック多量 炭化物多量、焼土粒少量 炭化物少量、焼土粒少量 酸化鉄多量に多量、炭化物粒少量 暗褐色シルトブロック多量、炭化物・焼土粒少量 腐植体 (腐り) 多量 黒褐色粘土質シルトを懸架に傾斜、砂物遺体多量 人為的な埋め土? 暗オリーブ灰色粘土質シルトブロック多量	
	2 10YR3-/2 黒褐色	シルト		
	3 10YR3-/2 黒褐色	シルト		
	4 10YR4-/2 灰青褐色	砂質シルト		
	5 5Y3-/1 オリーブ褐色	粘土質シルト		
	6 10YR4-/4 褐色	シルト		
	7 2.5Y2-/1 黒色	シルト		
	8 10YR4-/1 黒灰色	粘土質シルト		ブロックの混入
	1 2.5Y4-/1 灰色	粘土質シルト		
9 10YR6-/1 黒褐色	粘土質シルト			
11B-SK15	1 10YR4-/3 灰青褐色	シルト	炭化物粒少量 に灰青褐色ブロック多量、炭化物粒少量、焼土粒少量、マンガン粒多量 炭化物粒多量、焼土粒少量 炭化物粒少量 炭化物粒少量 炭化物粒少量	
	2 10YR4-/2 灰青褐色	シルト		
	3 10YR3-/1 黒褐色	シルト		
	4 10YR3-/1 黒褐色	砂質シルト		
	5 2.5Y3-/1 オリーブ褐色	シルト		

第459図 11B-SE2・3、SK11・16 平面・断面図



No	登録No	地区・遺構・部位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	ic-479	11B-SE2	陶器(常滑) 甕	口縁~体部片				口・頸部ヨコナデ、体部ナデ、10型式	184-10
2	ic-480	11B-SE2	陶器(常滑) 甕	口縁~体部片				口・頸部ヨコナデ、体部ナデ、8型式	184-12
3	ic-481	11B-SE2	陶器・片口鉢	上部1/10	(30.9)			口口の罫物、内外面に黒灰の付着物、表面被熱により荒れる 須置器系	184-9
4	ic-505	11B-SE2	陶器(在地・白石) 甕	上部1/2	(59.6)	最大径81.8		口・頸部ヨコナデ、体部ナデ、外面にへら掻き 割れ口を縁で補修	184-11

第460図 11B-SE2 出土遺物(1)



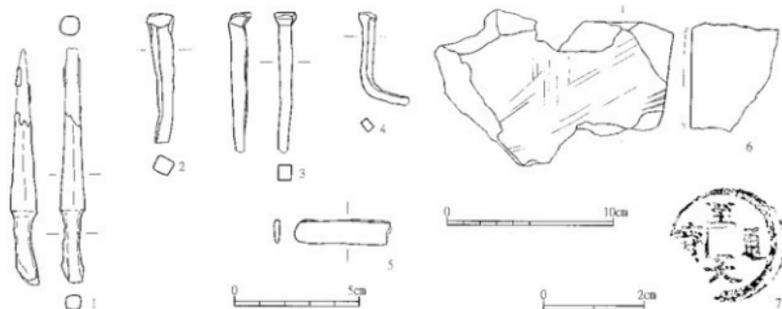
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存状況	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	I-396	11B-SE2・下層	木製品・短刀柄	ほぼ完形	13.6	3.4	1.2	目釘穴1、刀身も遺存	184-13
2	Na-266	11B-SE2	鉄製品・短刀	ほぼ完形	31.7	2.7	0.4	刀身長21.4cm、茎幅1.9cm、目釘穴1.113g	184-14
3	Na-252	11B-SE2	鉄製品・刀子	ほぼ完形	21.8	1.8	0.3	茎幅1.1cm、目釘穴1、茎～身部に有状の痕跡.28g	184-15

第461図 11B-SE2 出土遺物(2)

(4)土坑

この時期に該当する可能性があるものが13基あるが、11基についてはIVa3・4期の項で既に記載した。残る2基は11B-SK11とSK16で、2基ともにIVa2期と推定される11B-SB8に切られているのでIVa1期以前と推定される。規模などの詳細は表117(46頁)のとおりである。

遺物は土師器片などが中心であるが、図化できたのは鉄釘2点である(表133、第462図1・2)。なお、これらの土坑の性格は不明である。



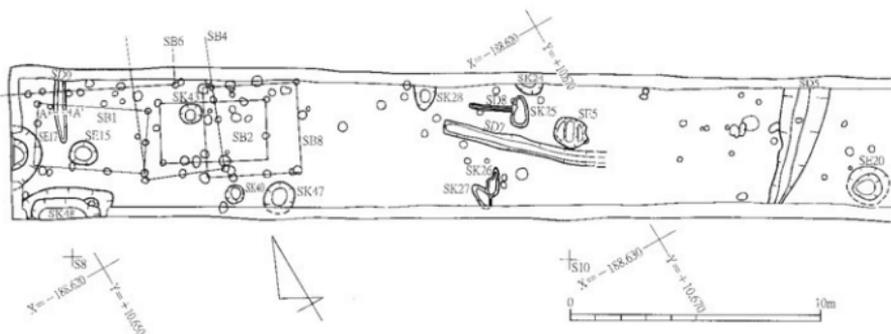
No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(産地)器種	遺存状況	寸法(cm)			調整・特徴	写真図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Na-255	11B-SK11・1層	鉄製品・鏃	中央部	9.6+	1.0	1.0	21g+	185-10
2	Na-256	11B-SK16	鉄製品・釘	頭～中央部	5.3+	0.7	0.6	溝深約1.1cm, 6g+	185-11
3	Na-263	11B-P7 (11B-SB11)	鉄製品・釘		3.4	5.7+	0.6	頭部幅0.9cm, 7g+	185-12
4	Na-264	11B-P7 (11B-SB11)	鉄製品・釘		4.5	4.8+	0.5	彎曲, 頭部幅0.7cm, 3g+	185-13
5	Na-265	11B-P7 (11B-SB11)	鉄製品・刀子	半頭部	3.9+	1.0	0.2	2g-	185-15
6	K-137	11B-P7 (11B-SB11)	石製品・砥石	中央部のみ	14.2+	9.2+	5.2	420g+, テイサイト質凝灰岩	185-14
7	Na-186	11B-P7 (11B-SB-2)	銅製品・鏡背		径2.4		厚0.9	平入通寶(元・初鑄1310年)	185-16

第462図 11B-SB11・12, SK11・16 出土遺物

4. 11F区(北部以外)の遺構と遺物

11F区南部にはIVa2期と推定される城館の溝跡11F-SD11があり、このSD11の西側に並行してIVa1期の区画溝11F-SD14がある。なお、前述したように、IVa3・4期も近接した位置に城館の堀跡11F-SD4とSD1013が造られており、区画が継続して形成されていることが分かる。

IVa2期の建物は少なく、11F-SD11の西の区画で掘立柱建物跡2棟、東の区画で1棟である。IVa1期では区画溝11F-SD14の西側で掘立柱建物跡3棟、東側で7棟がある。その他の遺構は、IVa3・4期に含まれる可能性がある遺構も含め、小規模な溝跡6条、井戸跡14基、上坑3基、ピット約260基を検出している(第463・464図)。



第463図 11F区西部 IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図

(1)溝跡

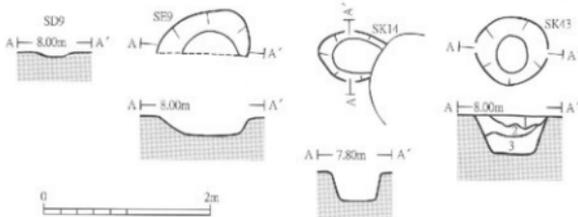
この時期に該当する可能性がある溝跡6条のうち、11F-SD2・3・7・8についてはIVa3・4期の項で述べた。

11F-SD11 (第374・464図) IVa2期と推定される溝跡で、R12グリッドのVa層上面で確認している。2時期の溝が切りあっているが特に名称の区別はしなかった。新しい溝は11F-SD4に切られ、古い溝は11F-SD14を切っている。幅は新旧の溝とも約2mで、深さは古い溝が約90cm、新しい方が約60cmである。断面形は上部が開く「U」字形で、堆積土は自然堆積層である。断面形や深さからすると古期の溝が北に約40m離れた11B区にある11B-SD3とつながる可能性がある。

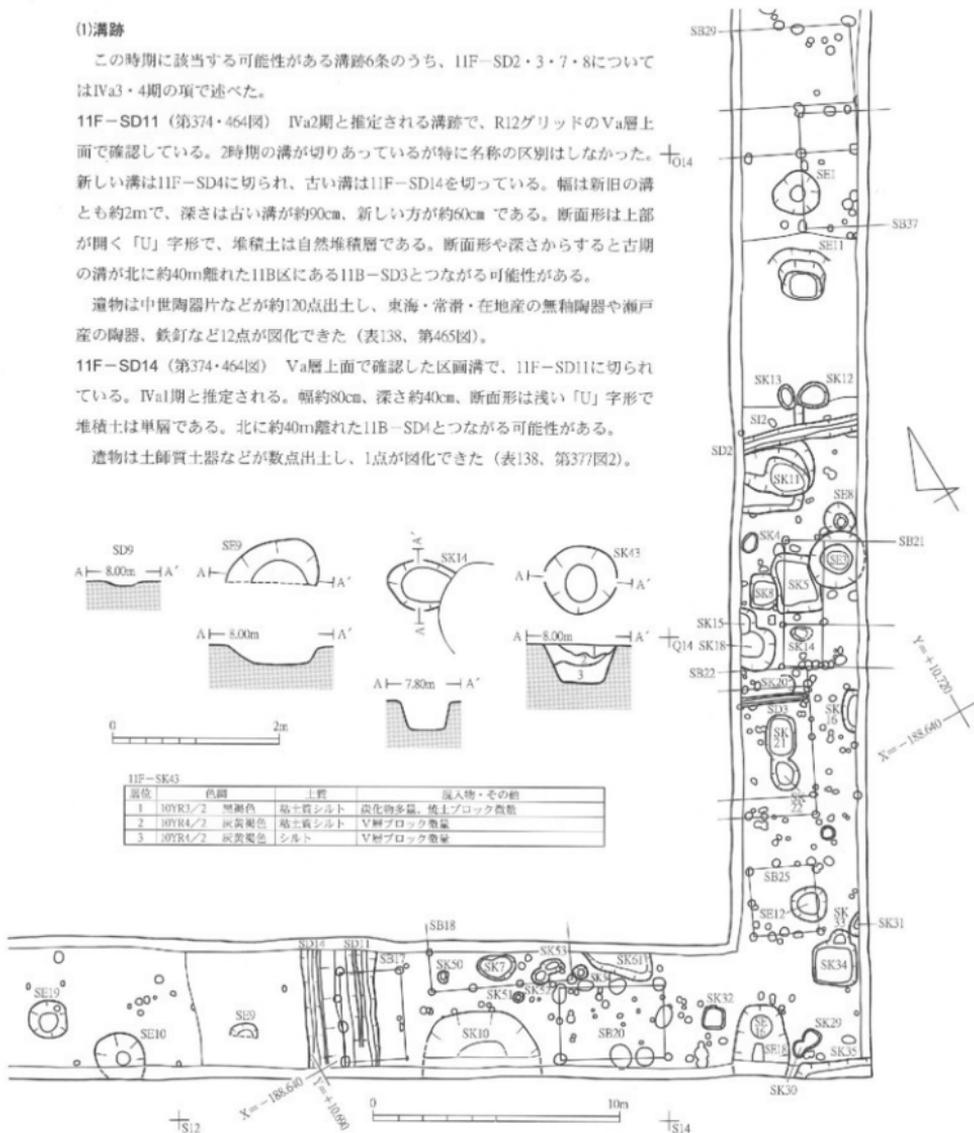
遺物は中世陶器片などが約120点出土し、東海・常滑・在地産の無釉陶器や瀬戸産の陶器、鉄釘など12点が図化できた(表138、第465図)。

11F-SD14 (第374・464図) Va層上面で確認した区画溝で、11F-SD11に切られている。IVa1期と推定される。幅約80cm、深さ約40cm、断面形は浅い「U」字形で堆積土は単層である。北に約40m離れた11B-SD4とつながる可能性がある。

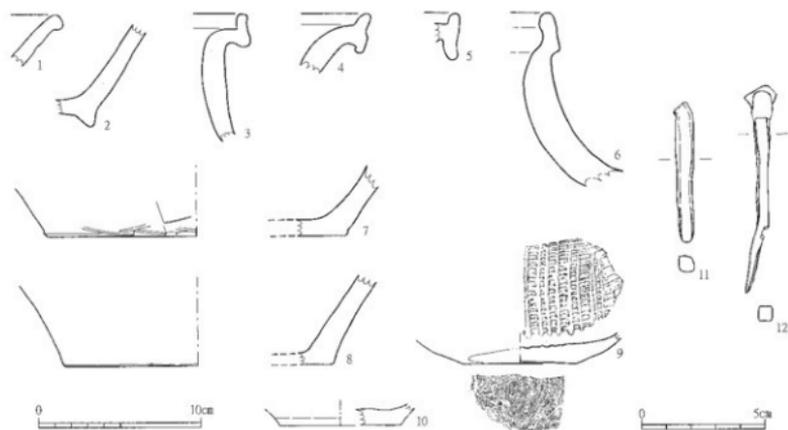
遺物は土師質土器などが数点出土し、1点が図化できた(表138、第377図2)。



層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、焼土ブロック少量
2	10YR4/7 灰黄褐色	粘土質シルト	V層ブロック少量
3	10YR4/7 灰黄褐色	シルト	V層ブロック少量



第464図 11F区東部IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図、11F-SD9断面図、SE9、SK14・43平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(産地) 図様	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	1c-377	11F-SD11	陶器(東海)鉢	11縁部小片				ロク口縁部、山岳陶器系	187-11
2	1c-381	11F-SD11	陶器(東海)鉢	底～体部小片				ロク口縁部、赤澤・高田系ヘラタシ、内面黒灰、山岳陶器系	187-12
3	1c-385	11F-SD11	陶器(常滑)壺	口縁～体部片				口・頸部ヨコナデ、体部ナデ、5型式	187-13
4	1c-384	11F-SD11	陶器(常滑)壺	口縁部小片				小・頸部ヨコナデ・口縁内に灰オリーブ色の角形黒漆ナデ 6b型式	187-14
5	1c-383	11F-SD11	陶器(常滑)壺	11縁部小片				ヨコナデ、6b型式	187-15
6	1c-382	11F-SD11	陶器(在来・白石)壺	口縁～体部片				口・頸部ヨコナデ、体部ナデ	187-16
7	1c-386	11F-SD11	陶器(常滑)壺	底部1/6		(18.2)		ナデ	187-17
8	1c-380	11F-SD11	陶器(常滑)壺	底部1/8		(16.4)		ナデ	187-18
9	1c-379	11F-SD11	陶器(古瀬戸)脚皿	底部1/3		(7.0)		灰釉、後1～11期	187-19
10	1a-72	11F-SD11	土師質土器・皿	底部1/3		(7.4)		ロク口縁部、回転糸切、目針彫	187-20
					長さ	幅	厚さ		
11	Na-416	11F-SD11	鉄製品・釘	中央～先端部	5.7+	0.7	0.7	6g+	187-22
12	Na-417	11F-SD11	鉄製品・釘	ほぼ全形	8.5	0.5	0.6	頭部幅1.3cm、9g	187-21

第465図 11F-SD11 出土遺物

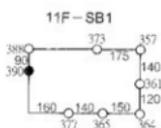
11F-SD9 (第463・464図) R7グリッドに位置する小規模な溝跡で、11F-SB7 (IVa3期) に切られている。幅約50cm、深さ約5cm、断面形は浅い「U」字形で堆積土は1層である。遺物は出土しなかった。

(2) 据立柱建物跡

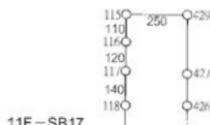
IVa2期と考えられるのは城館の主軸方向とおなじく真北から29～33°東傾する建物跡3棟で、11F-SD11から西に離れた地点に11F-SB1・2、東側に11F-SB21がある。SB1とSB2は重複してはいないが傾めて近接して位置することから時間差があり、さらに規模や構造が似ていることから、新旧関係は不明であるが隣接して建て替えられた建物同士であると考えられる。また、11F-SB21は11F-SE3とSK5と重複しているために柱穴の一部を確認できなかったが、総柱の建物跡である可能性がある。

IVa1期と考えられるのは23～27°東傾する建物跡で、区画溝11F-SD14から西に離れて11F-SB4・6・8があり、東側に11F-SB17・18・20・22・25・29・37が位置している。西側の11F-SB4・6・8は重複しているのでそれぞれ時間差があると考えられる。東側の7棟のうち南部に集中する建物跡はSB22とSB25が東側の梁行を合わせて建てられており、またSB17とSB20も南側の柱筋が大体一致しているなど、比較的規則的な配置となっている。なお、北部にある11F-SB29とSB37は重複しているので、2棟は時間差のある建物跡である。

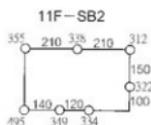
建物跡からの遺物は非常に少なく、大部分は土師器片などが数点出土したのみである。図化できたのは11F-SB37から出土した鉄貨1点である(表139、第466図)。



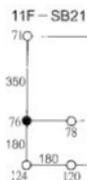
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
390	Va	27	33	8
388	Va	27	33	?
373	Vc	28×24	19	?
357	Va	20	15	?
361	Va	26×22	8	?
364	Va	26	27	?
365	Va	36×26	45	?
377	Va	30×26	10	?
規模	東西5.1m	南北2.6m		
柱間	1.4~1.75m	1.2~1.4m		
面積	11.7㎡	傾き	13°E	



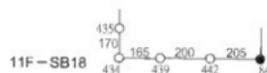
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
118	IVb	46×40	34	?
117	IVc	42×38	36	?
116	IVb	32	15	?
115	IVb	32×28	28	?
429	Va	31	19	?
427	Va	34×9	13	?
426	Va	16×12	29	?
規模	東西2.5m、1間	南北3.0m+	1階+	
柱間	(2.5m)	1.1~1.4m		
面積		傾き	27°E	



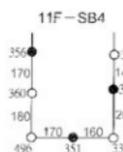
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
495	Va	23	17	?
355	Va	24	19	?
538	Vc	26×22	38	?
312	Va	24	36	?
322	Va	26	39	?
334	Va	42	54	?
349	Va	46×34	19	?
規模	東西4.3m	南北2.5m		
柱間	北側2.1~2.2m	1.0m、1.5m		
面積	10.8㎡	傾き	29°E	



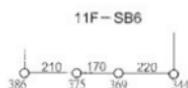
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
71	Va	31	40	?
76	Va	21	29	8
124	Va	23	25	?
78	Va	23×16	10	?
78	Va	36×26	24	?
規模	東西3.8m、1間+	南北3.3m、1間		
柱間	1.5m	(1.7~1.8m)		
面積		傾き	32°E	
備考		北柱?		



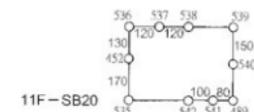
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
435	Vc	24×?	24	?
434	Va	32×22	35	?
439	Va	32	53	?
442	Va	25	54	?
84	IVb	36	22	10
規模	東西5.2m、1間	南北1.7m+	1階+	
柱間	1.65~2.05m	1.7m		
面積		傾き	25°E	



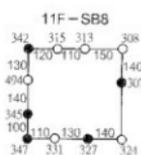
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
356	Va	40	26	11
360	Va	22	20	?
496	Va	20	19	?
351	Va	29	13	12
333	Va	30×26	20	?
336	Va	26	26	8
340	Va	21	42	?
規模	東西3.3m	南北3.4m+		
柱間	1.5~1.7m	1.4~2.0m		
面積		傾き	23°E	



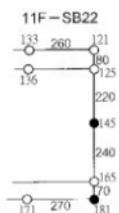
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
386	Va	27	34	?
375	Vc	32×28	18	?
369	Va	24	28	?
344	Va	20	29	?
規模	東西6.0m、3間			
柱間	1.7~2.2m	傾き	27°E	



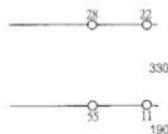
PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
535	Va	56×48	27	?
452	Va	26	37	?
536	Va	82×60	71	?
537	Va	64×50	?	?
538	Va	70×66	17	?
539	Va	52×48	44	?
520	Va	95×58	15	?
489	Va	36×28	7	?
541	Va	80×74	37	?
542	Va	100×90	30	?
規模	東西4.2m	南北3.0m		
柱間	1.1~1.2m	1.3~1.7m		
面積	12.6㎡	傾き	27°E	



PNNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
347	Va	46×40	32	14
545	Va	30	31	12
494	Vc	40×36	35	
342	Va	48×38	48	18
315	Va	46×28	47	
313	Va	40×?	41	
308	Va	36	29	
307	Va	34×30	16	12
324	Va	32×28	34	
327	Va	30	15	10
331	Va	32	26	
規模	東西3.8m、3間	南北3.7m、3間		
柱間	1.1~1.3m	1.3~1.4m		
面積	14.1㎡	傾き	27°E	

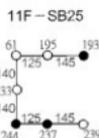


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱状径
133	Va	30×24	34	?
121	Va	40×30	33	?
136	Va	30	31	?
125	Va	36×?	2	?
145	Va	24	32	1.0
165	Va	24×20	19	?
181	Va	30	35	1.4
171	Va	29	29	?
規模	東西2.7m+	南北0.1m		
柱間	2.6~2.7m	身舎柱間、南・北通		
面積		幅0.7~0.8m		
		幅さ 25E		



11F-SB29

PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱状径
28	Va	52×40	26	?
22	Vg	60×40	37	?
55	Va	48×30	23	?
11	IVb	38×?	25	?
45	Va	40×30	38	?
59	Va	39	36	?
5	IVb	40×?	25	?
柱根	東西4.5m 1、2間+	南北5.2m、2間		
柱間	2.2~2.3m	1.9m+3.5m		
面積		幅さ 25E		



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱状径
249	Va	34×22	29	?
237	Va	35	25	1.8
244	Va	32×26	14	1.2
233	Va	28×?	17	?
61	IVb	38×28	27	?
195	Va	31	38	?
193	Va	36	21	1.0
規模	東西2.7m 1、2間+	南北2.8m、2間		
柱間	1.25~1.45m	1.4m		
面積	7.6m+	幅さ 25E		



11F-SB37

PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱状径
12	IVb	30	27	?
14	IVb	48×38	37	?
54	Va	36	20	?
7	IVb	40	32	?
3	IVb	44×33	36	?
2	IVb	28×18	21	?
柱根	東西2.0m+	南北4.7m、2間		
柱間	0.7~1.3m	2.2~2.5m		
面積		幅さ 27E		



0 2cm

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	商種	遺存度	法量 (cm)		調査・特徴	発見 図版
						径	重量		
1	Nb-239	11F-P14(11F-SB37)	銅製品・銭貨	定形	2.3	3.0g		嘉祐元寶(北宋・初鑄1056年)	187-10

(3)井戸跡

この時期の可能性のある井戸跡は14基あるが、IVa3・4期の項で既に記載した。

(4)土坑

この時期に該当する可能性のあるものが38基あるが、大部分はIVa3・4期の項で既に記載した。残る2基は11F-SK14とSK43で、重複関係からIVa3・4期よりも古いと考えられる。2基ともに円形または楕円形の小規模な土坑で、規模などは表115(35頁)のとおりである。遺物はSK43から須恵器片が1点出土している。

5. 11C区西部の遺構と遺物

11C区中央部にはIVa2~4期まで機能していたと推定される南北方向の堀SD1007がある。SD1007の西側の区画は11B-SD3までの間で東西長48m、東側の区画は11D-SD1までの間で東西長38mである。なお、この付近ではIVa1期の区画溝は検出されていない。

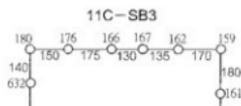
IVa2期の建物跡はSD1007の両側をあわせて9棟、IVa1期の建物跡は4棟である。その他の遺構は小規模な溝跡3条、井戸跡7基、土坑20基、ピット約360基を検出している(第468・469図)。

(1)溝跡

この時期に該当する可能性のある溝跡4条はIVa3・4期の項で既に述べた。

(2)掘立柱建物跡

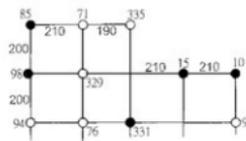
IVa2期と考えられる建物跡は、城館の主軸方向とおなじく真北から29～32°東傾している。SD1007の西側では区画の中央部に11C-SB3、SD1007の近くに11C-SB6・7・8・33の計5棟があるが、SB6～8・33は重複あるいは極めて



11C-SB6



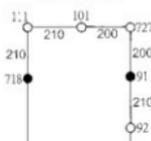
11C-SB7



11C-SB8



11C-SB33



PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
652	Va	35	25	?
180	Va	36	1	?
176	Va	26	28	?
166	Va	?	?	?
167	Va	32×28	37	?
162	Va	40×36	16	?
159	Va	27	35	?
161	Va	29	28	?
規模	東西2.6m	南北1.8m		
柱間	2間	1(縦行)2間+		
柱間	1.3~1.7m	1.4m・1.8m		
面積		積さ	29°E	

PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
721	Vb	28×24	20	?
112	Va	29	30	15
105	Ve	38	4	13
88	Vg	22	35	?
79	Vg	36×30	26	?
82	Vg	30×26	17	?
規模	東西4.4m, 3間	南北4m+, 2間+		
柱間	1.3~1.6m	1.4m		
面積		積さ	30°E	

PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
85	Va	34×30	38	8
98	Va	34	20	12
94	Va	30	56	?
71	Va	42×26	38	?
329	Va	26×22	23	?
76	Va	30×26	44	?
335	Va	21	29	?
331	Va	32×30	19	6
15	Va	30	23	14
10	Va	40×35	12	16
9	Va	40×34	13	?
規模	東西8.2m, 4間	南北4.0m+, 2間+		
柱間	1.9~2.1m	2.0m		
面積		積さ	30°E	
備考	竪柱			

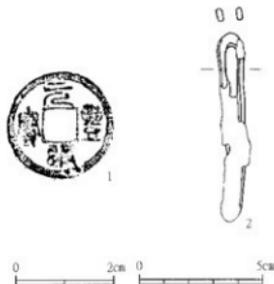
PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
100	Va	44×40	19	13
84	Va	46×47	32	10
68	Va	40×30	27	?
336	Va	27	14	?
規模	東西5.5m, 3間			
柱間	1.7~1.9m	積さ	31°E	

PtNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
718	Vb	36	21	8
111	Va	46×42	41	?
101	Va	40×35	9	?
727	Vb	40×32	29	?
91	Va	30	40	19
92	Va	34×30	38	?
規模	東西4.1m	南北4.1m+		
柱間	2間	1(縦行)2間+		
柱間	2.0~2.1m	2.0~2.1m		
面積		積さ	130°E	

近接して建てられているので、これらは同時ではなく時間差がある建物跡である。このうち11C-SB7は東西長8.2mの比較的大きな総柱の建物跡である。SD1007の東側には11C-SB10・11・17・19の4棟があるが、このうちSB11とSB17が重複している。

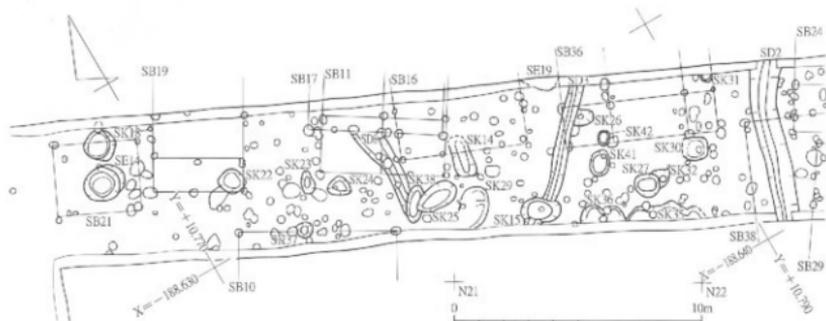
IVa1期と考えられる建物跡は真北から23～27°東傾するもので、11C-SB9・16・21・36の4棟がある。SB16・36の南辺とSB38の北辺の柱筋がほぼ通っているので、これらの3棟は同時に建っていたと考えられる。また、SB21は井戸跡11C-SE14の上屋と推定される。

建物跡からの遺物は非常に少なく、大部分は土師器片などが数点出土したのみで、図化できたのは11C-SB9とSB36から出土した銭貨と鉄製品の2点のみである(表135、第467図)。



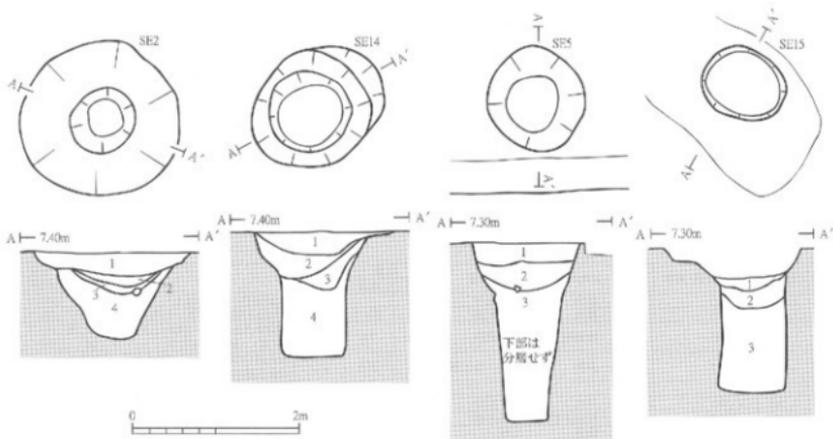
No.	登録No.	地区・地構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			銅型・特徴	発行年代
						長さ	幅	厚さ		
1	Nb-198	11C-P85(11C-SB9)	銅製品・銭貨	完全形		62.2			1.7H, 元豊通寶(北宋・初建1078年)	187-5
2	Na-282	11C-P5.0(11C-SB36)	鉄製品・毛枝?	断部欠損		7.7+	1.0	0.5	積造しい, 8g+	187-6

第467図 11C-SB9・36 出土遺物



第469図 11C区中央部IVa層上面 (Na1・2期) 平面図

溝位	色層	土質	埋入物・その他
11C-SE2	1 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	棕色磁石・マンガン質少量、炭化物粒微量
	2 10YR3/1 黒褐色	シルト	
	3 5YR3/4 暗赤褐色		植物茎体 (埋) 多量
	4 10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色砂質シルト (粗砂) 含腐炭に少量
11C-SE14	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、粘土粒微量
	2 10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量
	3 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物粒微量、V層ブロック多量
	4 2.5Y3/1 暗褐色	粘土質シルト	砂粒を層状に配量
11C-SE5	1 10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒量
	2 10YR4/1 赤褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト (雑質) ブロック少量
	3 5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	植物茎体多量
11C-SE15	1 5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	灰オリーブ色粘土ブロック微量、炭化物少量
	2 5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	炭合 灰色粘土ブロック少量
	3 5Y2/1 無色	粘土	
	4 5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	灰色磁石ブロック・黒色粘土ブロック少量



第470図 11C-SE2・5・14・15 平面・断面図

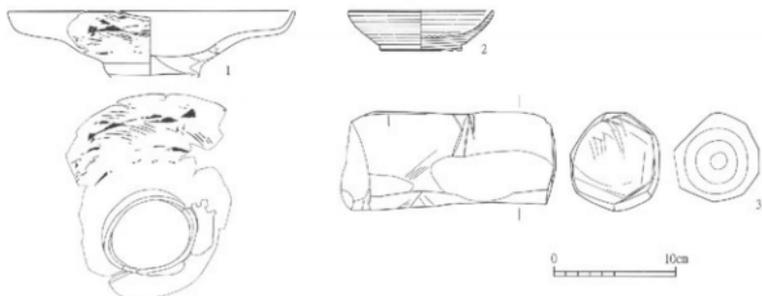
(3)井戸跡

この時期の可能性のある井戸跡は7基あるが、4基はⅣa3・4期の項で既に記載した。

11C-SE2 (第470図) SD1007西側のⅣa層上面で確認した。この付近は井戸跡が集中する箇所、11C-SB7と重複しているが新旧関係は不明である。径1.9mの円形で、深さは1.1mと浅い。堆積土は自然堆積層で、中位に粉殻を多く含む層が認められた。出土遺物は土器片や木製品で、漆器鉢や挽物皿など3点が図化できた(表134、第472図)。

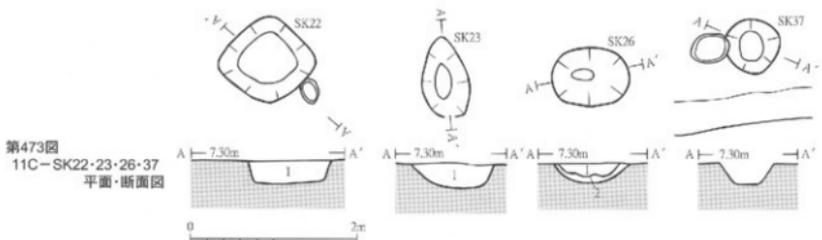
11C-SE5 (第470図) M16グリッドのⅣa層上面で確認した。11C-SB33のすぐ西側に位置し、11C-SE6を切っている。径1.2~1.3m、深さ2.2mで、堆積土は自然堆積層である。出土遺物は土器片や木製品約20点で、曲物や漆器などの木製品や銭貨など8点が図化できた(表134、第471図)。L-415漆器桶(3)は濃淡がある赤漆で紅葉が描かれ、底面には赤漆で「一」の文字が書かれている。L-568(5)は付札状の竹製品であるが、墨痕は認められなかった。

11C-SE14 (第470図) M16グリッドのⅣa層上面で確認した井戸跡で、前述したように11C-SB21の内部に位置している。径1.4~1.7m、深さ1.5mで、堆積土は自然堆積層である。遺物は中世陶器片などが約10点出土したが図化できたものはない。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図取
						口径	底径	高さ		
1	L-406	11C-SE2・3層	木製品・漆器鉢	1/3		21.7	7.5	5.3	内面赤漆。外面黒色・赤漆文様。ブナ属	186-1
2	L-407	11C-SE2	木製品・挽物皿	3/4		11.8	6.8	3.3		186-2
3	L-404	11C-SE2	木製品・丸木杖	?		長17.8	径7.1~8.2		内面赤漆。外面黒色・赤漆文様。写真のみ	186-4
4	L-405	11C-SE2	木製品・漆器桶	体部片						186-3

第472図 11C-SE2 出土遺物



第473図
11C-SK22・23・26・37
平面・断面図

層位	色澤	土質	部入物・その他
11C-SK22	1 30YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック多量、酸化鉄・焼土塊少量
11C-SK23	1 20YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物多量
11C-SK26	1 30YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック多量、炭化物微量
	2 30YR2/2 黒褐色	粘土	炭化物多量

(4)土坑 (第473図)

この時期に該当する可能性のある土坑は20基あるが、大部分はIVa3・4期の項で既に記載した。重複関係などからIVa3・4期よりも古いと考えられるのは11C-SK22・23・26・37の4基であるが、いずれも60~100cm程度の小規模で浅い土坑である。規模などは表119 (57頁)のとおりである。遺物はSK22・37から須恵器、土師質土器、中世陶器片が若干出土したのみである。

6. 11C区東部~11D区西部の遺構と遺物

11C区東部にはIVa1・2期の区画溝である11C-SD1がある。SD1から東側ではこの時期の区画溝は検出されていないが、建物跡などの遺構はSD1の東側にも広がっている。

IVa2期の建物跡は7棟、IVa1期の建物跡も7棟である。その他の遺構は小規模な溝跡、井戸跡4基、土坑13基、ピット約310基を検出している (第475・478図)。

(1)溝跡

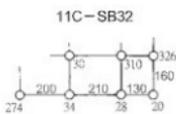
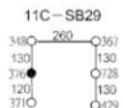
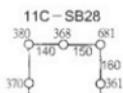
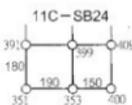
11C-SD1 (第475・477図) 11C区東部のIVb層上面で確認した南北方向の溝跡であるが、N22グリッドで途切れていると考えられる。幅3~3.5m、深さ70cm、断面形は浅い「U」字形で、堆積土は自然堆積層である。SD1を北に延長すると10E区のSD8の西辺にあたるが、接続するかどうか不明である。遺物は土師器や中世陶器の破片など50点が出土し、青磁碗や瀬戸・常滑産の陶器、鉄釘などが図化できた (表134、第474図)。

(2)掘立柱建物跡

IVa2期と考えられる建物跡は城館の主軸方向を中心とし、真北から28~31°東傾している。11C-SD1のすぐ西側に11C-SB24・28・29があり、一方SD1の東側には11C-SB32、11D-SB1・SB5が並ぶ。西側のSB28とSB29は、構造は異なるがほぼ同じ大きさの建物跡であるので建て替えられた2棟と考えられる。なお、北側のSB24との間隔からするとSB24とSB28が同時に存在していた可能性が高い。東側の11D-SB1は東に南に廊が付き、総柱と考えられる建物跡で、東西長が9.5mある。南辺には11D-SA1が取り付いている。総柱の大きな建物跡は10B区で10B-SB9が検出されているが、この11D-SB1の規模は10B-SB9の東西長10.0mに近い。

IVa1期と考えられる建物跡は真北から23~26°東傾するものが多い。11C-SD1の両側に11C-SB30とSB38があり、東側に離れて11D-SB3・4が重複している。

建物跡からの遺物は非常に少なく、大部分は土師器片などが敷点出土したのみである。図化できたのは11D-SB1から出土した鉄貨1点のみである (表135・136、第480図1)。



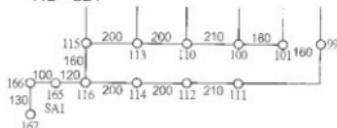
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
391	Va	40×30	19	?
351	Va	34×26	10	?
399	Va	40×34	36	?
353	Va	32	43	?
409	Va	30	25	?
400	Va	20	21	?
総柱	東西3.4m、2間	南北3.5m、1間		
柱間	1.5m・1.9m	1.9m		
備考	総柱?	傾き	30°E	

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
370	Va	26×22	17	?
380	Va	21	32	?
398	Va	24×20	31	?
681	Vb	30×26	16	?
361	Va	23	24	?
規模	東西2.9m、2間	南北1.6m、2間		
柱間	1.1~1.5m	1.6m		
面積		傾き	3°E	

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
371	Va	34×28	28	?
376	Va	26×22	29	10
348	Va	26×20	21	?
367	Va	38×22	36	?
728	S3(埋戻)	40×40	?	?
429	Va	30×20	16	?
規模	東西2.6	南北2.5m 1、2間		
柱間	2.6m	1.2~1.3m		
面積		傾き	31°E	

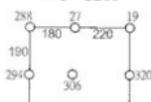
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
274	Va	50	17	?
30	IVb	25×20	16	?
34	IVb	30×26	38	?
310	Va	40×28	43	?
28	Va	30	28	?
326	Vb	30×22	37	?
20	IVb	45	24	?
規模	東西4.4m	南北6m		
	2間・東側	1間+		
柱間	身長2.6~2.1m 1.6m			
面積		傾き	30°E	

11D-SB1



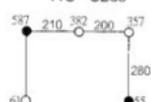
PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
115	IVa	50×44	48	?
113	IVa	46×42	33	?
110	IVa	49	33	?
100	IVa	62×45	45	?
101	IVa	62×54	52	?
116	IVa	60×52	46	?
114	IVa	65×50	29	?
112	IVa	70×58	39	?
111	IVa	38×34	41	?
99	IVa	78×50	42	?
規模	東西2.5m 身舎4間・東廊 身舎1.8~2.1m	南北1.6m+ 身舎・南廊 幅1.6m		
柱間				
面積				
備考	SA1が採跡			

11C-SB30



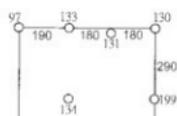
PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
288	Va	28×20	26	?
294	Va	30×22	23	?
27	IVb	36	34	?
306	Va	42×30	25	?
19	IVb	30×22	24	?
320	Va	30×18	9	?
規模	東西4.0m、2間	南北1.9m+		
柱間	1.9m・2.2m	1.9m		
面積				
備考	遺構?			

11C-SB38



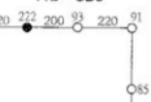
PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
61	IVb	56×40	24	?
587	Va	44×34	28	14
382	Va	38×26	18	?
357	Va	32×24	15	?
55	IVb	26×22	32	12
規模	東西4.1m	南北2.9m+		
	奥行2間	奥行2間+		
柱間	2.0~2.1m	2.8m		
面積				
備考	遺構?			

11D-SB5



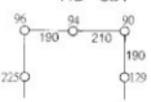
PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
97	IVa	58×54	60	?
133	IVb	60×43	52	?
134	IVb	38×34	21	?
131	IVb	49	54	?
130	IVa	48×36	50	?
199	Va	24×20	23	?
規模	東西2.5m	南北2.9m+		
	奥行2間	奥行2間+		
柱間	1.8~1.9m	2.9m		
面積				
備考	間仕切りあり			

11D-SB3

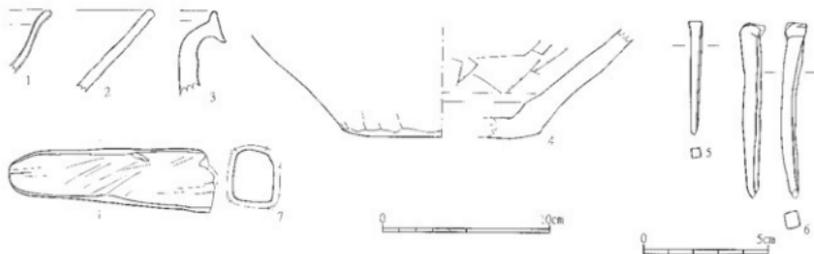


PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
102	IVa	48×44	63	?
98	IVa	32×28	47	?
222	Va	38×32	31	8
93	IVa	58	69	?
91	IVa	60×52	62	?
85	Va	110×90	47	?
規模	東西6.4m、3間	南北2.5m+		
柱間	2.0~2.2m	2.5m		
面積				
備考	遺構?			

11D-SB4

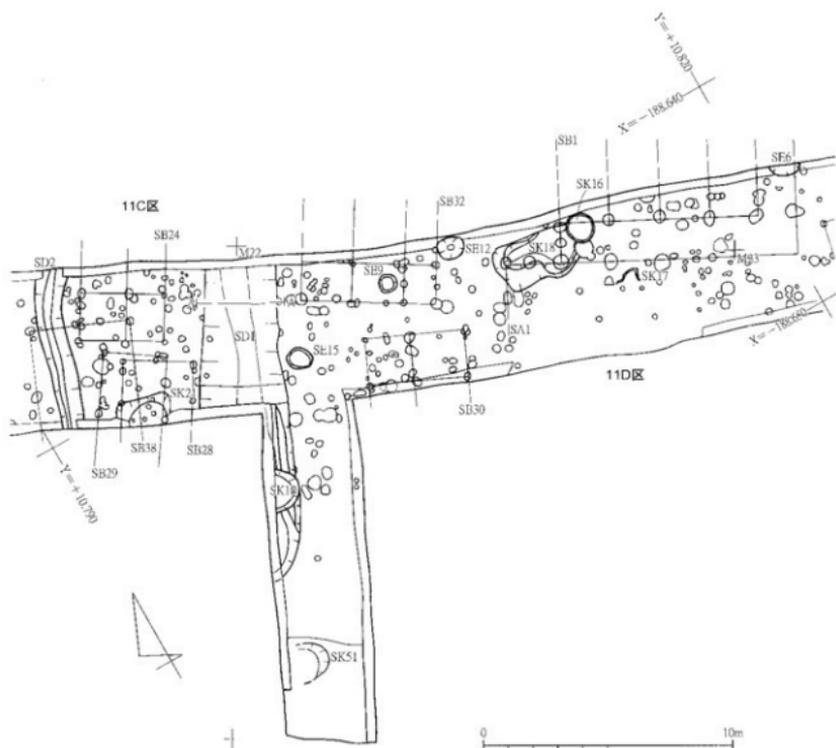


PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
225	Va	38×30	19	?
96	IVa	70×66	61	?
94	IVa	47×42	61	?
90	IVa	48×42	59	?
129	IVb	48×44	62	?
規模	東西4.0m	南北1.9m+		
	奥行2間	奥行2間+		
柱間	1.9~2.1m	1.9m		
面積				
備考	遺構?			

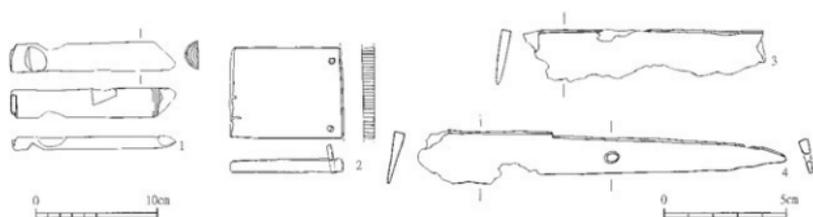


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量(cm)			調整・特徴	測定図版
						口径	口径	器高		
1	J-108	11C-SD1	青磁(楽懸系)碗	口縁部小片						185-19
2	Ic-339	11C-SD1・上層	陶器(占部川)青磁大皿	11縁+体部片					反輪、後手明	185-17
3	Ic-340	11C-SD1・上層	陶器(常滑)甕	口縁+体部片					11・底部ヨココ字、体部ナデ、6b型式	185-18
4	Ic-343	11C-SD1	陶器(常滑)甕	底部・底		(11.9)			外周ナデ、内面ナデ・ヘタナデ	185-20
5	Na-290	11C-SD1	鉄製品・釘	完形		長さ	幅	厚さ		185-21
6	Na-292	11C-SD1	鉄製品・釘	45		4.6	0.4	0.4	頭部幅0.6cm、3g	185-22
7	K-123	11C-SD1・上層	石製品・砥石	頭部欠損		7.2+	0.7	0.5	12g+	185-22
						12.5+	3.5	2.5	196g-、砂目藏肌層	185-23

第474図 11C-SD1 出土遺物



第475図 11C区東部～11D区西部IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	T-424	11C-SE15	木製品	用途不明	端部欠損	13.2+	2.4	1.0	分割材、端部近くに抉刃	187-2
2	L-425	11C-SE15	木製品	板材	端部欠損	8.0+	7.5	1.1	釘孔2 (木釘1残存)	187-1
3	Na-299	11C-SE15	鉄製品	短刀?	部分	9.5+	2.1+	0.4	18g-	187-4
4	Na-300	11C-SE15	鉄製品	短刀	茎～刀身基部	14.8+	2.1	0.4	目釘穴1. (31g→)	187-3

第476図 11C-SE15出土遺物



(3)井戸跡

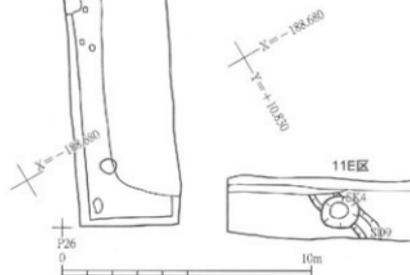
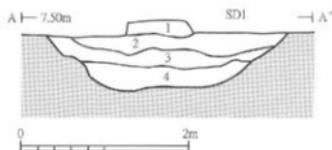
この時期に属する可能性がある井戸跡は4基あるが、3基はIVa3・4期の項で既に記載した。

11C-SE15 (第470図) M22グリッドのVa層上面で確認した井戸跡である。11C-SD1の東側に位置し、11C-SK16に切られている。大きさが104×88cmの楕円形で、深さは1.8mである。遺物は鉄製品と木製品で、短刀など4点が図化できた (表134、第476図)。

(4)土坑

この時期に該当する可能性がある土坑は13基あるが、大部分はIVa3・4期の項で既に記載した。

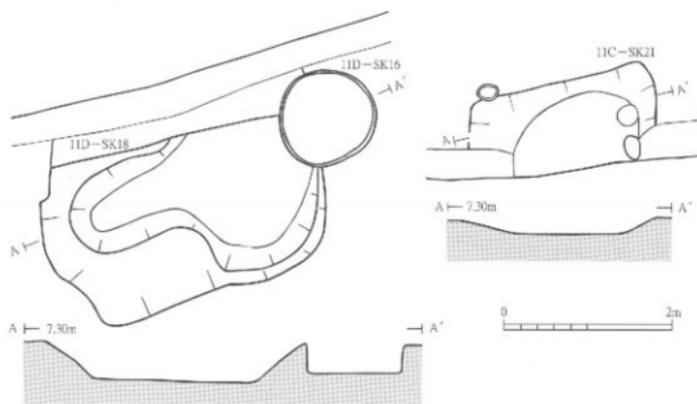
11C-SK21 (第479図) M21グリッドのVa層上面で確認した。11C-SD1の西側に位置し、11C-SB29に切られている。壁際のため詳細は不明であるが、一辺2m以上の方形と推定される。遺物は土師器片1点である。



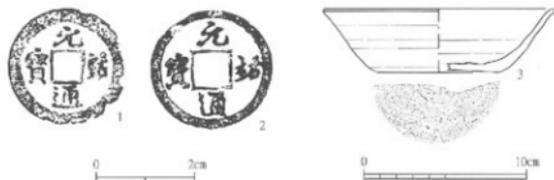
第478図 11D区中央部IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図

層位	色調	土質	採入物・その他
1	09R4/2 灰青褐色	シルト	炭化物・焼土粒少量
2	09R3/2 黒褐色	シルト	炭化物・焼土粒少量、V層ブロック少量
3	09R3/1 黒褐色	シルト	炭化物・焼土粒少量、V層ブロック少量
4	09R2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒少量

第477図 11C-SD1 断面図



第479図 11D-SK16・18、11C-SK21 平面・断面図



No	登録No.	地区・遺構・部位	種別(産地)	器種	保存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						径	重量	高さ		
1	NS-218	11D-P110(11D-SB1)	銅貨品・銭貨	ほぼ完形	2.4	3.0g		元祐通寶(北宋・初期1086年)	187-9	
2	NS-219	11D-SK17・1層	銅貨品・銭貨	完形	2.5	3.1g		元祐通寶(北宋・初期1086年)	187-8	
3	E-43	11D-SK18	須恵器・坏	1/2	口径 (14.0)	底径 (7.4)	高さ 3.9	口内の周壁、底部の周壁はともに内へ向かって若干白粉散量。底径/口径0.53	187-7	

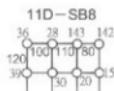
第480図 11D-SB1、SK17・18 出土遺物

11D-SK16~18 (第479図) Va層上面で確認している。SK17は11D-SK6に大部分を切られているので形態は不明であるが、SK16は径1.2mの円形、SK18は長辺3.5mの不整形である。SK17の遺物はほとんどないが、SK16とSK18からは上師器、須恵器、中世陶器、中国産磁器などが出土し、銭貨と須恵器が固着できた(表136、第480図2・3)。

7. 11D区東部~11E区の遺構と遺物



P110	確認層	大きさ	深さ	柱直径
39	VI	44×32	21	8
38	VII	34	20	10
40	VII	25	18	8
41	VII	36×32	41	12
42	VII	35	18	?
規模	東西3.1m、2型	南北1.6m±、2型		
柱間	1.5~1.6m	1.0m		
面積		傾き	29°E	



P110	確認層	大きさ	深さ	柱直径
36	Va	82×68	47	?
39	Va	54	22	?
28	Va	78	24	?
30	Va	69	28	?
143	Va	65	36	?
20	Va	46	34	?
142	Va	58	26	?
15	Va	58×52	22	?
規模	東西2.9m、3型	南北1.7m±		
柱間	0.8~1.1m	1.2m		
面積		傾き	24°E	
備考	総柱			



第481図 11D区東部～11E区IVa層上面 (IVa1・2期) 平面図

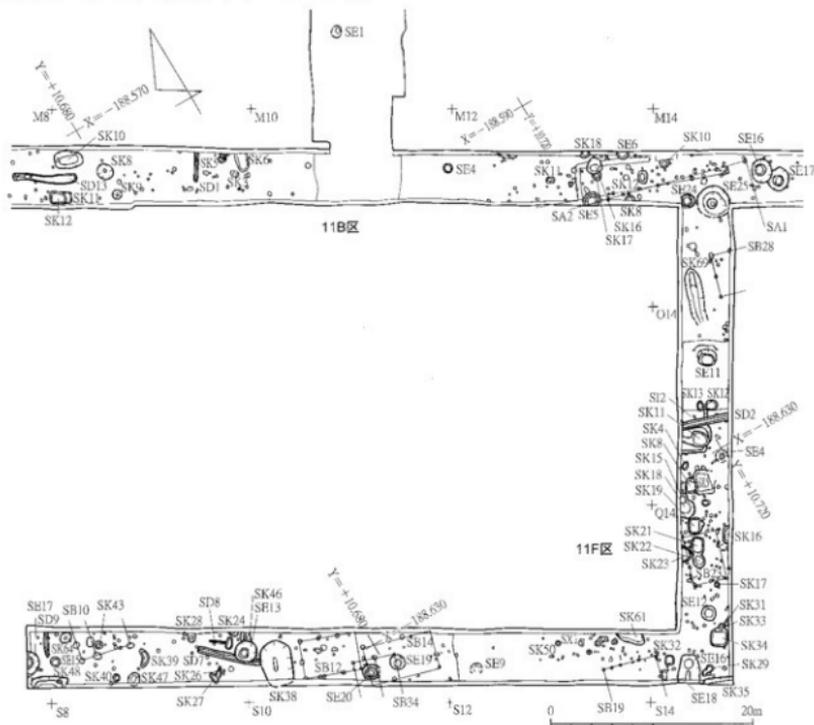
前節で述べたように、11D区のL25グリッド付近から東側ではⅢ層～Ⅳ層の中世・近世の層が削平されており、古代～中・近世の遺構が同一面で検出されている。この中からIVa1・2期に属する可能性のある溝跡や上坑を抽出するのは困難で、掘立柱建物跡数を区別できたのみである。

(1)掘立柱建物跡

IVa2期と考えられる建物跡は11E-SB3のみである。11E区南部で確認された小規模な建物跡で、方向は城館の主軸方向に近く、真北から29°東傾している。

IVa1期と考えられる建物跡は11D-SB8・9と11E-SB1の3棟である。建物跡の方向は真北から23～27°東傾する。建物跡からの遺物は非常に少なく、11D-SB8から中世陶器片が2点出土したのみである。

第3節 IVb層の遺構 (1) -IVb2期



第482図 11B区～11F区IVb層上面 (IVb2期) 平面図

1. 遺構の概要

IVb期は城館以前の屋敷の段階であり、IVa期の城館のような大規模な堀は伴わない。確認された遺構は小規模な区画溝と掘立柱建物跡、井戸跡や上坑などである。掘立柱建物跡については、10区の項で述べたように、建物跡の方向が2種類に大別されることとIVa期の建物の変遷の流れから考えると、大別して新II2時期があると推定される。

新しいIVb2期の建物は真北から13～20°東傾し、11F区～11C区にかけて12棟確認されている。その他の遺構は柱列跡4条、井戸跡33基、上坑127基、ピット約1100基などがある。なお、組み合わせが不明なピットが約1100基残るので、IVa期の項で述べたように本来の建物数はさらに多かったと考えられる。

2. 11F区南部の遺構と遺物

11F区南部では掘立柱建物跡5棟、小規模な溝跡3、井戸跡9基、土坑27基、ピット約140基を检出している(第485・487図)。

(1) 掘立柱建物跡

西から11F-SB10・12・34・14・19が並び、このうちSB12・14・34が重複している。建物跡の主軸方向は真北から13°~20° 東傾している。SB10が耐付きの建物で、SB19とSB34の大きさが不明であるが、概ね同じような規模であると考えられる。

遺物は土師器片や金属製品などが少量出土しているのみであるが、SB10・12の鉄釘や銭貨などが図化できた(表139、第491図6・8・9)。

(2) 井戸跡

この時期に属する可能性がある井戸跡は9基あるが、8基はIVa期の項で既に記載した。

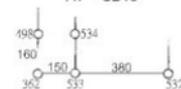
11F-SE13(第486図) R9・10グリッドのVa層上面で確認した井戸跡で、ほぼ同じ場所のIVa層上面からは11F-SE5が掘り込まれていた。大きさが2.3×2.0mの槽円形で、深さは1.9m、堆積土は自然堆積層である。

遺物は土師器や中世陶器の破片など約30点で、瀧美・常滑産の中世陶器や青磁碗が図化できた(表138、第488図)。

(3) 土坑

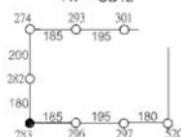
この時期に該当する可能性がある土坑は27基あるが、大部分はIVa期の項で既に記載した。

11F-SB10



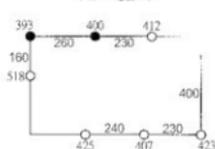
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
498	Va	66×60	15	?
362	Va	62×48	58	?
534	Va	96×80	15	?
533	Va	92×72	22	?
532	Va	76×48	8	?
規模	東西5.3m	南北1.6m+		
柱間	柱高3.8m、間1.5m	2間		
面積		幅さ	15E	

11F-SB12



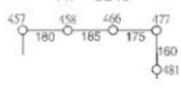
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
520	Vb	26	25	?
297	Va	40×36	33	?
296	Va	32×28	14	?
283	Va	60×30	29	10
282	Va	60×36	16	?
274	Va	38×32	9	?
203	Va	32	23	?
301	Va	40×36	34	?
規模	東西5.6m	南北3.0m		
柱間	柱高3.2m	梁1.2間		
柱間		1.5~2.0m		
面積	21.3m	幅さ	20E	

11F-SB14



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
423	Va	26	63	?
407	Va	25	44	?
425	Va	36×30	58	?
518	Vb	24×20	30	?
393	Va	38	23	8
400	Va	30	29	12
412	Va	22	23	?
規模	東西6.9m	南北4.0m		
柱間		2.3~2.6m		
柱間		1.6m + 2.4m		
面積	27.6m	幅さ	15E	

11F-SB19

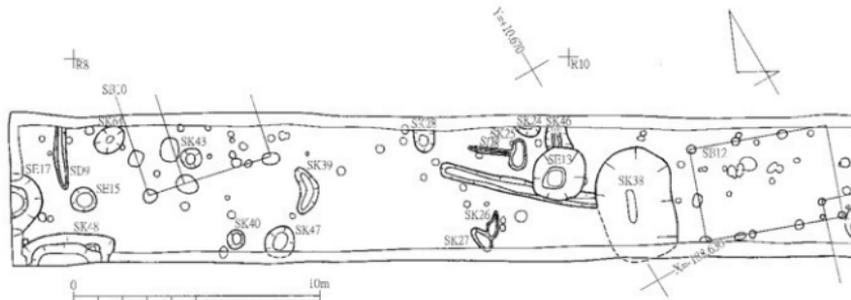


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
457	Va	24	30	?
458	Va	18	13	?
466	Va	31	46	?
477	Va	22	28	?
481	Va	18	15	?
規模	東西5.4m、3間	南北1.5m+、2間		
柱間		1.6m		
面積		幅さ	15E	

11F-SB34

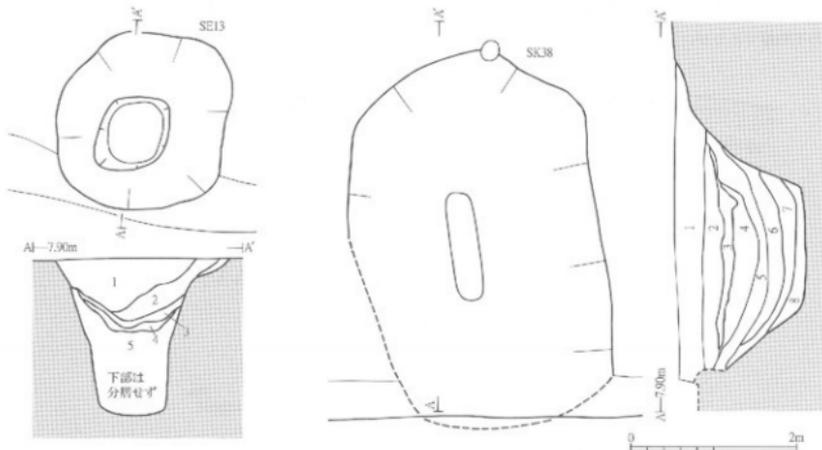


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
394	Va	26	32	?
398	Va	40×?	33	?
514	Vb	24	?	?
403	Va	28×24	57	?
規模	東西4.2m、2間	南北1.9m+、1間		
柱間		1.9~2.3m		
柱間		1.9m		
面積		幅さ	19E	



第485図 11F区西部IVb層上面(IVb2期)平面図

11F-SK38 (第486図) R10グリッドのVa層上面で確認した土坑で、同じくVa層上面で確認した11F-SK49 (IVb1期) を切っている。11F-SB12のすぐ西側に位置しており、方向も類似している。南端部が調査区外のため大きさ



11F-SE13

層位	色調	土質	副人物・その他
1	10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土	炭化物多量
2	10YR2/2 黒褐色	粘土	炭化物粘土ブロック・炭化物少量
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
4	10YR2/1 黒色	泥炭	
5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	初炭褐色粘土ブロック少量

11F-SK38

層位	色調	土質	副人物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・マンガン析出層
2	10YR3/1 黒褐色	シルト質粘土	炭化物微量
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	炭色粘土ブロック多量
4	5Y3/1 オリーブ黒色 10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土 互層 泥炭質粘土	植物遺体 (小枝等) 少量
5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	植物遺体 (小枝等) 少量
6	2.5Y3/1 黒褐色 10YR2/2 黒褐色	泥炭質粘土 互層 腐植層	炭化物微量、植物遺体 (小枝等) 少量
7	5Y3/1 オリーブ黒色	泥炭質粘土	炭色粘土多量状に微量、炭色砂質シルトブロック微量
8	5Y2/1 黒色 5Y3/1 オリーブ黒色	腐植質粘土 互層 シルト質粘土	炭化物少量



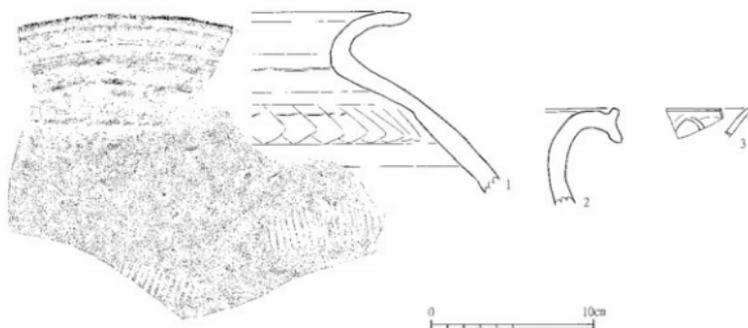
第486図 11F-SE13、SK38 平面・断面図



第487図 11F区東部IVb層上面 (IVb2期) 平面図

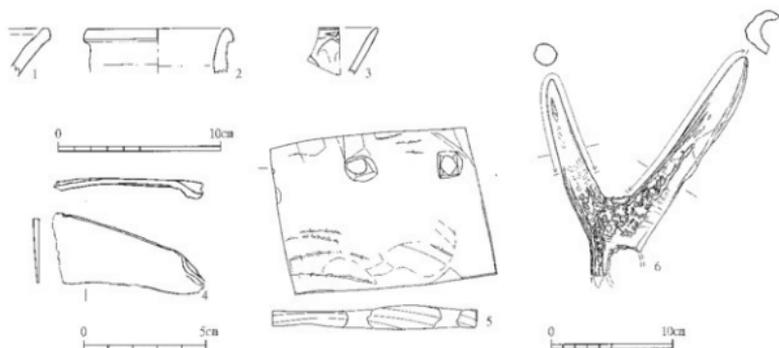
が不明瞭であるが、3.0×4.5m以上の楕円形と推定され、深さは1.6m、堆積土は自然堆積層である。

遺物は土師器・須恵器・中世陶器など約140点が出土しているが小片が多く、図化できたのは常滑や東海所の陶器や青磁碗、鉄鉢、板材、鹿角製品など6点のみである(表139、第489図)。Q-4鹿角製品(6)は基部が破損しているため不明瞭であるが、径2cmの孔の痕跡が認められ、先端部は磨耗していた。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	Ic-398	11F-SE13	陶器(備前) 壺	上部1/8					川原田子ナデ, 備前田子ナデ, 備前田子ナデ, 備前田子ナデ	190-11
2	Ic-395	11F-SE13	陶器(常滑) 甕	口縁~体部片					0-直径2.0ナデ, 備前田子ナデ, 備前田子ナデ, 備前田子ナデ	190-12
3	J-123	11F-SE13	青磁(龍泉窯系) 碗	口縁部小片					瀬谷文	190-13

第488図 11F-SE13 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	Ic-577	11F-SK38	陶器(東海) 鉢	口縁部小片					口縁調整, 山系陶器系	190-16
2	Ic-404	11F-SK38	陶器(常滑) 土鉢(1枚)	口縁部小片	(K6)				ヨコナデ, 内外面曜亦褐色の自然釉	190-17
3	J-176	11F-SK38	青磁(龍泉窯系) 碗	口縁部小片					瀬谷文	190-18
4	Nc-42c	11F-SK38・1層	鉄製品・鎌	基部	長さ	幅	厚さ	11g+		190-19
5	L-485	11F-SK38	木製品・板材	球状完形	16.8	12.8	1.0	穿孔2(内面から縦く抜る)		190-20
6	O-	11F-SK38	鹿角製品		22.2+			基部に穿孔, 先端部磨耗		190-21

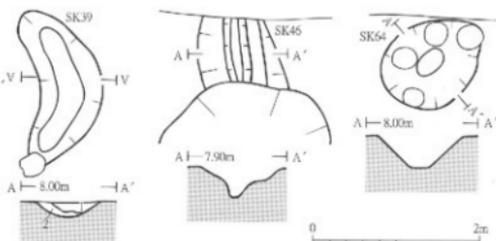
第489図 11F-SK38 出土遺物

11F-SK39・46・64 (第490図) R8・9
グリッドのVa層上面で確認した土坑である。SK46はSE13に切られているので不明瞭であるが、SK39は不整形、SK64は楕円形である。大きさは表115 (35頁)のとおりである。遺物はごく少数で図化できたものもない。

(4)性格不明遺構

11F-SX1 (第487図) R13グリッド

のVa層上面で確認した。80×50cmの範囲に焼土面が広がっている。遺物は出土しなかった。



11F-SK39	層位	色産	土質	遺人物・その他
1	10YR4/2	灰赤褐色	粘土質シルト	V層ブロック少量
2	10YR4/7	に赤い濃褐色	シルト	

第490図 11F-SK39・46・64 平面・断面図

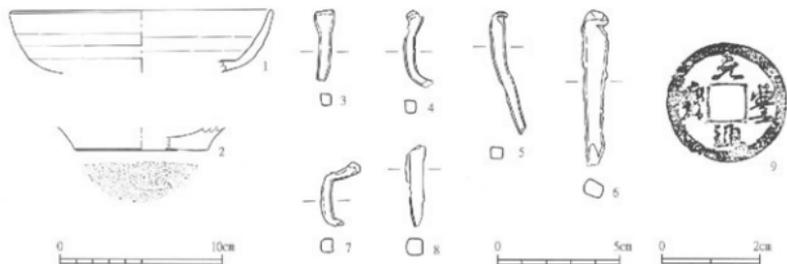
3. 11B区~11F区東部~11C区西部の遺構と遺物

掘立柱建物跡2棟、柱列跡2条、井戸跡16基、土坑30基、ビット約240基を確認した。井戸跡は11B区~11C区にかけて集中している (第492・493図)。

(1)掘立柱建物跡・柱列跡

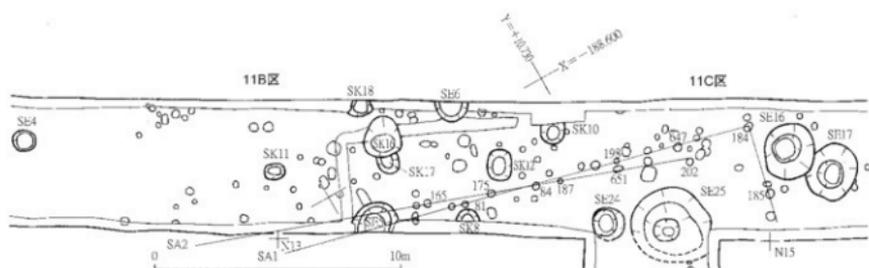
掘立柱建物跡は11F-SB23・SB28の2棟を確認した。いずれも小規模な建物跡で、主軸方向は真北から16~18°東傾している。遺物は土師器片などが少量出土しているのみであるが、SB23の鉄釘が図化できた (表139、第491図7)。

柱列跡は11B~11C区にかけて、11B-SA1・SA2を確認している。SA1は11F-SB28の北側から8.5m離れて東西方向に走り、SB28の東側を通るように南に屈曲する。ただし、SB28の東半部は調査区外となっているので両者の直接の関係は不明である。SA2はSA1と交差しながら東西方向に伸びるが、SA1との新旧関係は不明である。遺物は土師器片などが少量出土しているのみで、図化できたものはない。



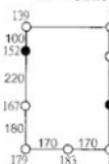
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別 (産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図取
					口径	底径	器高		
1	E-84	11F-SK68	須恵布・坪	1/8	(16.0)			口径調整	190-25
2	Ia-75	11F-P262	十師貫土器・皿	底部1/4		(8.0)		口径調整、凹版糸切、白粉微量	191-5
3	Na-420	11F-SK21	鉄製品・釘	頭~中央部	2.9+	0.5	0.5	頭部径0.8cm、3g+	190-22
4	Na-421	11F-SK22	鉄製品・釘	頭~中央部	3.1+	0.5	0.5	2g+	190-23
5	Na-422	11F-SK32	鉄製品・釘	頭~中央部	5.1+	0.5	0.5	4g+	190-24
6	Na-425	11F-SB30(11F-SB30)	鉄製品・釘	頭~中央部	6.3+	0.8	0.6	11g+	191-7
7	Na-426	11F-SB30(11F-SB30)	鉄製品・釘	頭~中央部	3.6+	0.6	0.5	割傷、2g+	191-4
8	Na-427	11F-SB30(11F-SB30)	鉄製品・釘	中央部	3.3+	0.6	0.5	3g+	191-6
9	Nb-238	11F-SB34(11F-SB30)	銅貨(金・銀貨)	完形	径2.5			重3.3g 元嘉通寶(北宋・初建1078年)	191-8

第491図 11F-SB10・12・23、SK21・22・32・68、ビット出土遺物



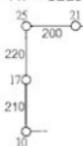
第492図 11B区東部～11F区東部～11C区西部
IVb層上面 (IVb 2期) 平面図

11F-SB23



PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
129	Va	41×24	21	?
146	Va	20×?	32	?
159	Va	25	20	10
187	Va	28	24	?
183	Va	22×18	31	?
179	Va	26×22	40	?
167	Va	30×26	40	?
152	Va	17	24	8
139	Va	30×?	26	?
規模	東西3.4m	南北5.0m		
柱間	東行2間		身舎行2間、北廊	
	1.7m	身舎1.8～2.2m		
		幅1.1m		
面積	17.0㎡			
	傾斜 18°E			

11F-SB28



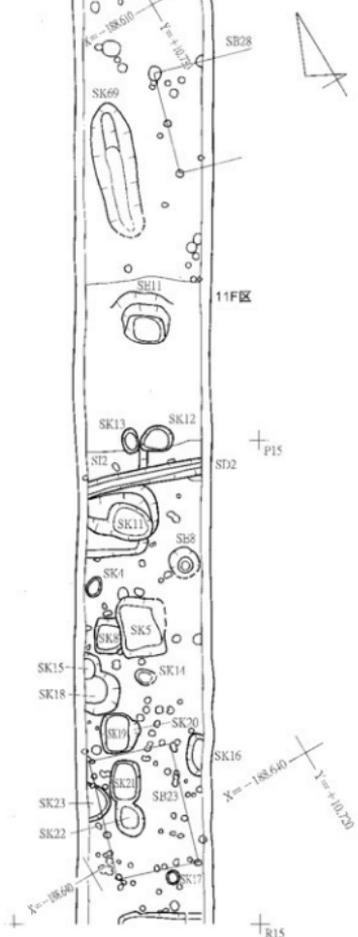
PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
10	IVb	26	27	?
17	IVb	25	28	?
25	Va	66×46	44	?
21	Va	50×?	29	?
規模	東西2.0m	1間+	南北4.3m	2間
柱間	2.0m		2.1～2.2m	
面積	16% ¹			

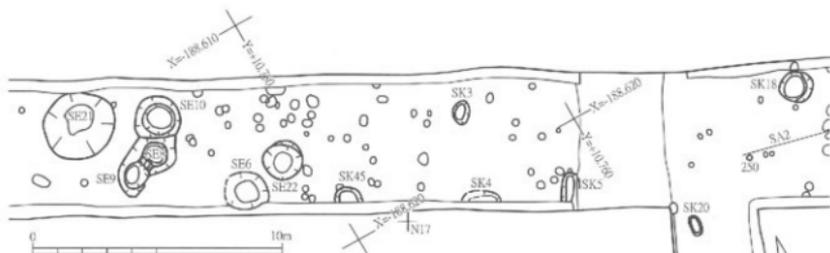
11B-SA1

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
81	Va	27	29	?
84	Va	28	33	?
11C-198	Va	34×30	20	?
11C-647	Vb	34	28	12
11C-184	Va	40×32	32	12
11C-185	Va	46×40	37	?
規模	東西12m、(1室1)	南北3.0m、(2間)		
柱間	2.5～3.5m		3.0m	
傾斜	76°W			

11B-SA2

PiNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
165	Va	31	15	?
175	Va	28	27	10
187	Vb	26	30	?
11C-651	Vb	38×26	30	?
11C-202	Va	28×24	20	10
規模	東西11.0m+		(4間)	
柱間	2.5～5.0m		傾斜 70°W	





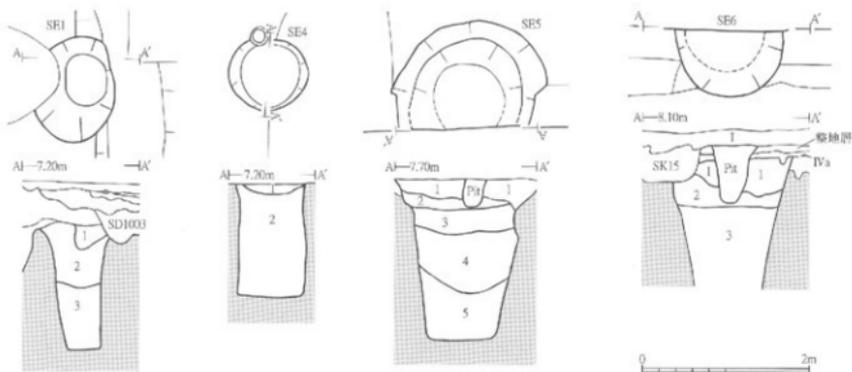
第493図 11C区西部IVb層上面 (IVb 2期) 平面図

②井戸跡

この時期に属する可能性がある井戸跡は16基あるが、2基はIVa期の項で既に記載した。

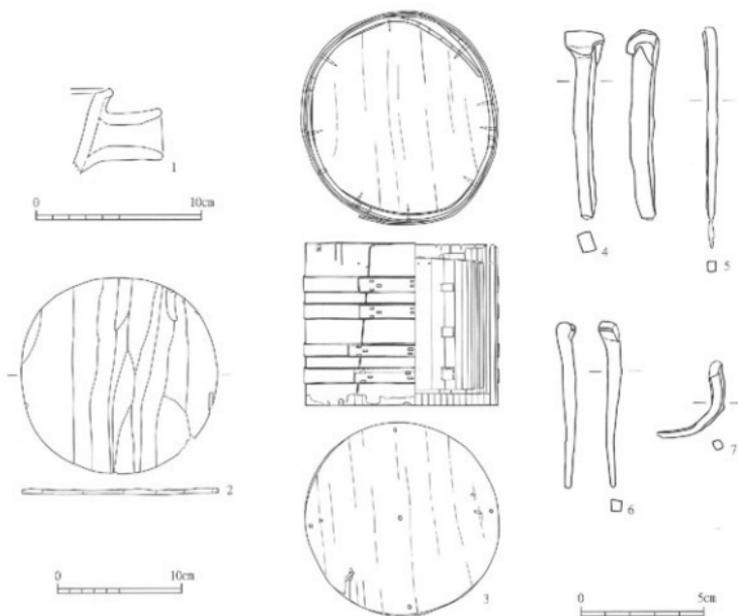
11B-SE1 (第494図) L10グリッドのSD1003壁面で確認した。SD1003と11B-SE2に切られている。規模などは表116 (46頁) のとおりである。遺物は土師器、須恵器、土師質土器片など約20点が出土したが図化できたものはない。

11B-SE4 (第494図) M11グリッドのIVb層上面で確認した小型の井戸跡で、規模などは表116 (46頁) のとおりである。遺物は中世陶器など数点で、古瀬戸の柄付片口が図化できた (表133、第495図1)。



調査	層位	色相	土質	遺入物・その他	
11B-SE1	1	2.5Y3/1	黒褐色	粘土	焼成灰色砂質シルトブロック少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	粘土	炭化物・粘土ブロック少量
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	瓦片
11B-SE4	1	2.5Y3/1	黒褐色	粘土	焼成灰色粗砂ブロック少量
	2	10YR2/1	黄褐色	シルト質粘土	炭化物少量
	3	5Y2/1	黄褐色	粘土	炭化物少量
11B-SE5	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	炭化物・粘土ブロック少量
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・粘土ブロック少量
	3	5Y3/1	オリーブ褐色	粘土質シルト	オリーブ灰色砂質シルトブロック・炭化物少量
	4	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	オリーブ灰色砂質シルトブロック少量、炭化物少量
	5	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	可解
11B-SE6	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物少量、粘土粒・V層粘層
	2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、粘土粒少量
	3	5Y3/1	オリーブ褐色	粘土質シルト	暗オリーブ灰色砂質シルトブロック少量、炭化物多量

第494図 11B-SE1・4~6 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	Is-482	11B-SE4・2層	銅器(古瀬戸)柄付片口	口縁部と柄					灰緑、中1~初期	188-1
2	L-394	11B-SE5・最下層	木製品・曲物	底板	16.0		0.5			187-23
3	L-395	11B-SE5	木製品・曲物	ほぼ定形	16.0~17.5		13.6		木釘結合(底孔部、榫状埋じ、舟(本)上下縁の折返し)	187-24
4	Ns-249	11B-SE6	鉄製品・釘	頭~中央部	7.6+		0.8	0.6	頭部幅1.6cm、2L部-	188-5
5	Ns-246	11B-SE6	鉄製品・釘	中央部	9.0+		0.4	0.4	4g+	188-2
6	Ns-208	11B-SE6	鉄製品・釘	ほぼ定形	5.7		0.4	0.4	頭部幅0.8cm、6g+	188-4
7	Ns-207	11B-SE6	鉄製品・釘	中央部	4.6+		0.4	0.3	断面、2g+	188-5

第495図 11B-SE4~6 出土遺物

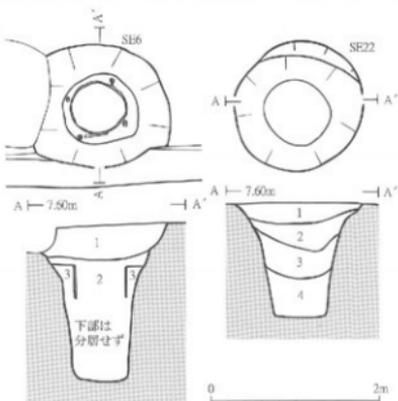
11B-SE5・6 (第494図) M13グリッドのV層上面で確認した井戸跡で、SE5は11B-SA1・2と重複している。規模などは表116 (46頁) のとおりである。遺物は両者共に15点前後であるが、SE5からはほぼ定形のL-395曲物を含む木製品2点、SE6からは鉄釘4点が図化できた(表133、第495図2~7)。

11C-SE6

層位	色調	土質	浮入物・その他	
1	10YR4/2	灰褐色	シルト	炭化物粒少量
2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	炭化物粒少量
3	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	人為的な埋め土質

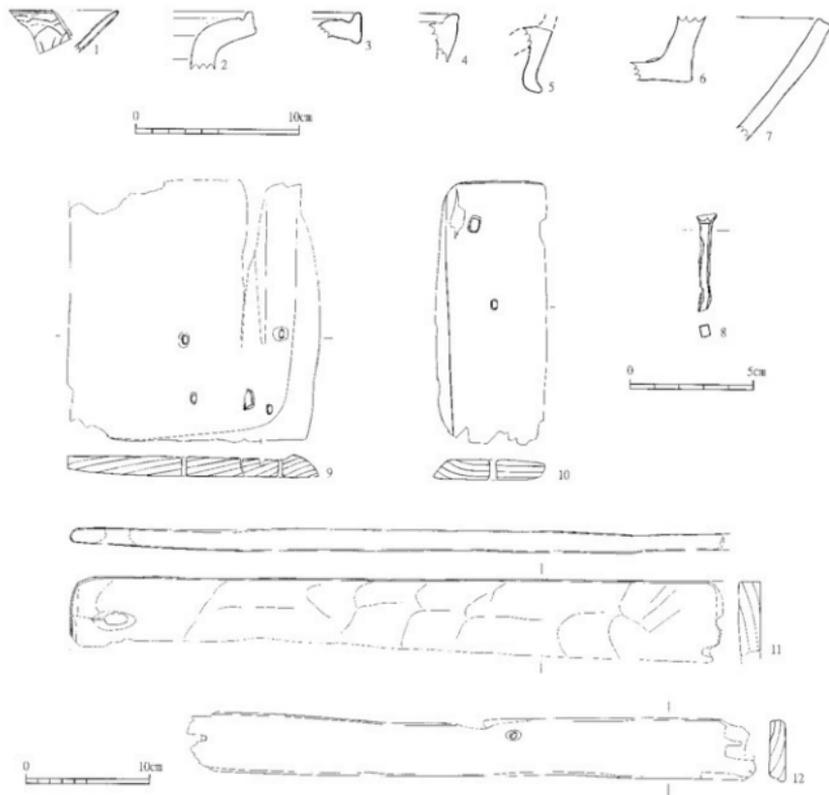
11C-SE22

層位	色調	土質	浮入物・その他	
1	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト	炭化物粒少量
2	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	灰色砂質シルトを浴状に少量
3	10YR4/2	黒褐色	粘土質シルト	粘土質シルトを浴状に微量
4	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	



第496図 11C-SE6・22 平面・断面図

11C-SE6 (第496図) M16グリッドのVa層上面で確認した井戸跡で、西側を11C-SE5に切られている。規模などは表118 (48頁) のとおりである。確認面から約50cm 掘り下げた地点で、径65cm 内外の曲物が二重に重なっているのを確認している。井戸の底面には4本の杭が確認されたので、本来は杭によって井戸底に固定されていたものが杭

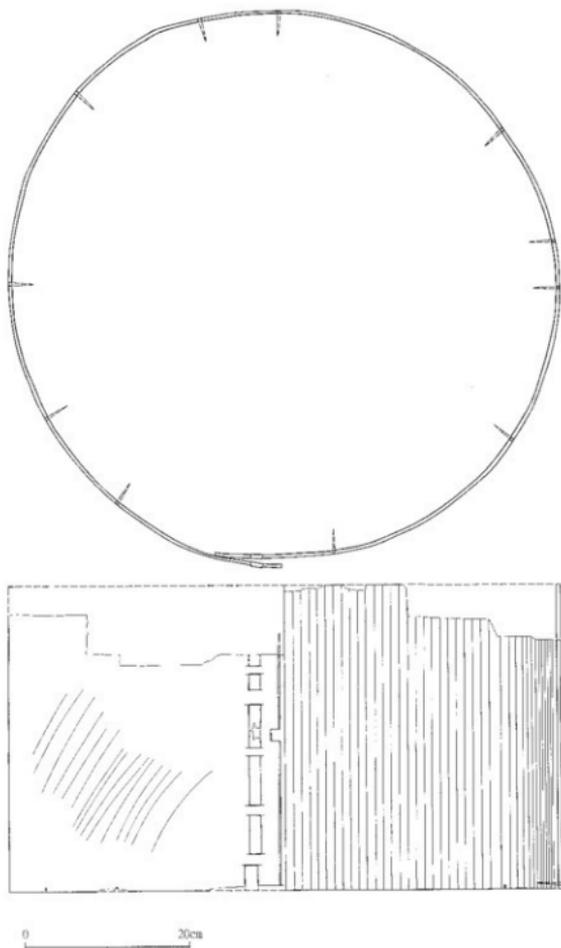


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(母地) 器種	埋蔵深度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	I-107	11C-SE6	灰皿(樽裏蓋系) 陶	口縁部小片				薄身文	188-7
2	Ic-330	11C-SE6	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、外面に灰赤色の自然釉、5型式	188-9
3	Ic-549	11C-SE6	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、5型式	188-11
4	Ic-547	11C-SE6	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、8型式?	188-10
5	Ic-331	11C-SE6	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、8型式	188-8
6	Ic-333	11C-SE6・2期	陶器(在来・白石) 甕	底部1/10				内外面ナデ、内面に環状の付着物	188-12
7	Ic-335	11C-SE6	陶器(在来・白石) 片口鉢	口縁+底部片				ロクロ(18型位) 遺物、1層埋蔵に灰白雫の自然釉	188-13
8	Nc-301	11C-SE6	鉄製品・釘	?	4.0+	0.4	0.5	頭部幅0.8cm、(1.3g)	188-14
9	I-417	11C-SE6	木製品・板材	端部欠損	2.6+	20.2	1.8	穿孔4	188-17
10	L-418	11C-SE6	木製品・板材	?	21.8+	8.1+	1.7	方形の穿孔2	188-18
11	L-419	11C-SE6	木製品・板材	?	52.9+	6.8+	1.8		188-15
12	L-420	11C-SE6	木製品・板材	端部欠損	46.0+	5.1	1.8	釘孔2	188-16

第497図 11C-SE6 出土遺物

から外れて浮き上がったまま埋没したと推定される。なお、堆積土下層は人為的な埋め上である可能性がある。

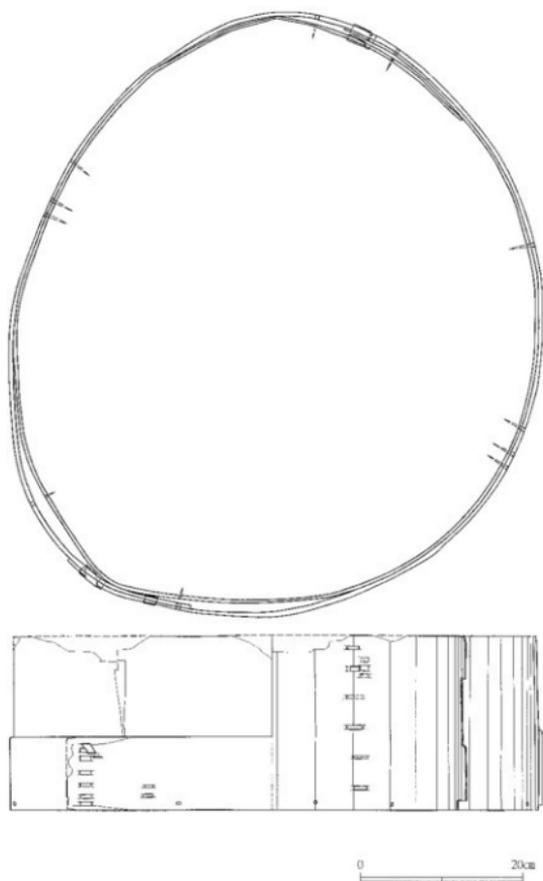
遺物は上記の曲物L-431①・②の2点（第499・498図）の他に中世陶器や木製品などが約50点出土した。図化できたのは青磁碗や常滑・在地産の陶器、鉄製品、板材など12点である（表134、第497図）。なお、Ic-331常滑甕は8型式でIVb2期よりも新しい遺物である。遺構の時期がIVa1期まで下る可能性と、Ic-331が混入品である両方の可能性が考えられるが、断定できなかった。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	L-431②	11C-SE6	木製品・曲物	断面のみ	07.0		38.0	木釘結合(釘孔1)、榫度縦じ、井戸枠に転用	188-20	

第498図 11C-SE6 井戸枠(1)

11C-SE8・9・10 (第500図) M15・16グリッドのVa層上面で確認し、北からSE10・SE8・SE9の順に3基が切り合っている。中央のSE8と南側のSE9は溝状の部分で連結されたような平面形をしているので、この2基は同時期の遺構である可能性がある。しかし、北側のSE10との新旧関係を明らかにすることはできなかった。規模などは表118 (48頁) のとおりである。遺物はSE8から約80点出土したが、SE9とSE10からは少ない。図化できたのはSE8から出土した瀬戸・常滑・在地产の陶器、短刀などの鉄製品、木製品9点とSE10から出土した木製品2点である (表134、第502・504図)。Na-346短刀 (第502図7) は11B-SE2から出土したのと同じに柄～刀身の基部に布が巻きつけられている。



No. 登録No.	地区・遺構・層位	種別 (産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
11C-431(1)	11C-SE6	木製品・曲物	銅板のみ		63.0		21.6	木釘結合(釘孔1)、裏1木、糊皮糊し、井戸内に利用	188-19

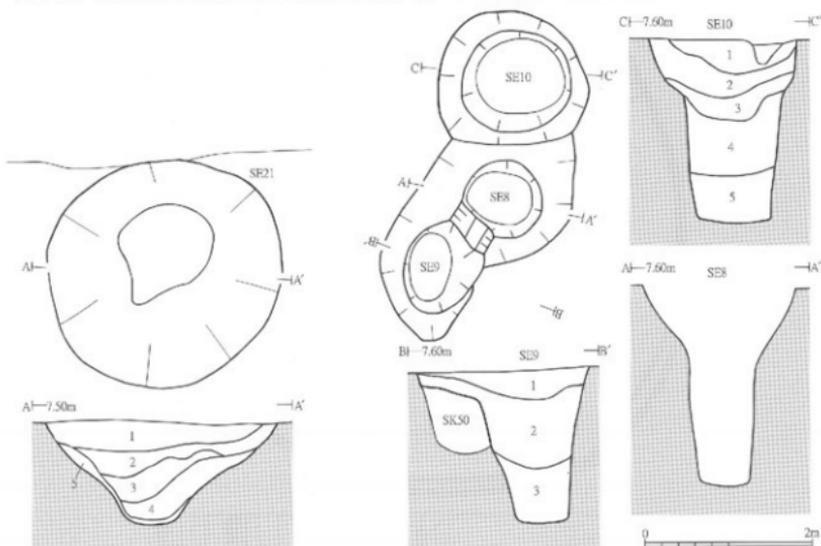
第499図 11C-SE6 井戸枠 (2)

SE10から出土したL-422曲物蓋(第504図)は、両面に刃物によると思われる多数の傷が認められることから、俵板として転用された可能性がある。

11C-SE16・17(第501図) M15グリッドのVb層上面で確認した井戸跡で、11B-SA1が「L」字状に屈曲した東側に位置しており、SE16がSE17を切っている。規模などは表118(48頁)のとおりである。SE16の堆積土は大部分が人為的な埋め土である。遺物はSE16から約90点出土したが、SE17からは少ない。図化できたのはSE16の上師質土器や木製品などである(表134、第503図1~4・8~10)。

11C-SE21(第500図) M15グリッドのVb層上面で確認した井戸跡で、11C-SE17の東側に位置している。規模などは表118(48頁)のとおりである。断面形は上部が大きく開き、深さも1.3mと浅いので井戸以外の機能も考えられる。遺物は土師器片など約50点が出土したが、図化できたのはL-430板草履1点である(表134、第503図11)。

11C-SE22(第496図) M16グリッドのVb層上面で確認した井戸跡で、11C-SE6に隣接している。深さが1.4mでやや浅く、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片1点のみで、図化はできなかった。



11C-SE21

層位	色調	土質	遺物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	砂礫多量、炭化物粒少量
2	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	オリーブ灰色砂質シルトブロック少量
3	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	オリーブ黒色粘土質シルトを層状に微量
4	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	オリーブ灰色砂質シルトブロック多量
5	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	黒褐色植物遺体多量、炭化物少量

11C-SE8

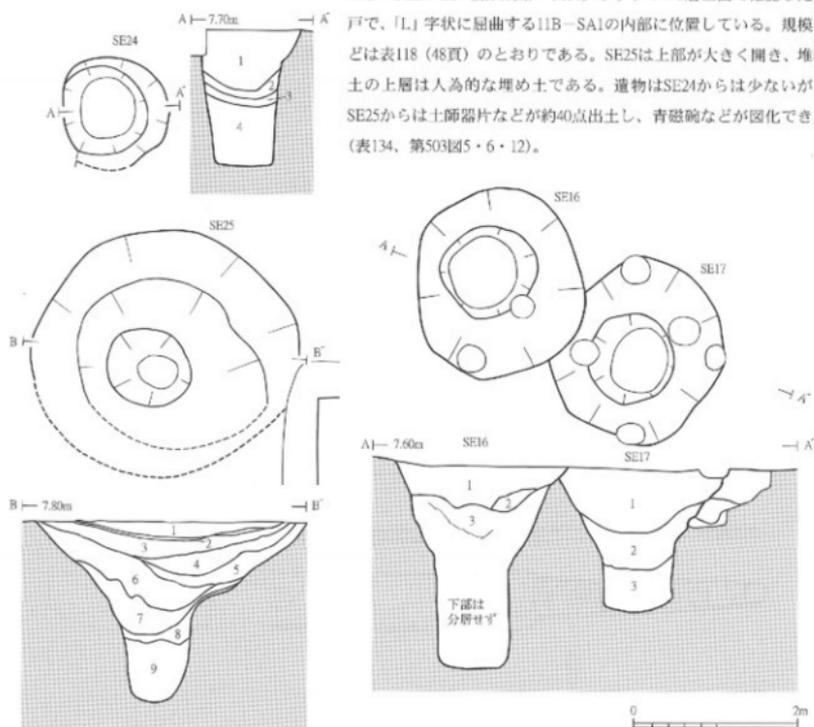
1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック・炭化物少量
2	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	暗褐色粘土質シルトブロック多量、炭化物少量、人為的な埋め土
3	5GY4/1 暗オリーブ灰色	砂質シルト	オリーブ黒色砂質シルトブロック少量

11C-SE9

1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック多量、炭化物粒少量、人為的な埋め土?
2	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	灰色砂質シルトブロック・にぶい黄褐色粘土質シルトブロック多量、炭化物少量、人為的な埋め土?
3	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	炭化物粒微量
4	7.5Y4/1 灰色	砂質シルト	互層 硬面層粘土
5	7.5GY4/1 暗緑灰色	砂質シルト	
5	5GY3/1 暗オリーブ灰色	砂質シルト	植物遺体少量

第500図 11C-SE8~10・21 平面・断面図

11C-SE24・25 (第501図) M14グリッドのVb層上面で確認した井戸で、「L」字状に屈曲する11B-SA1の内部に位置している。規模などは表118 (48頁) のとおりである。SE25は上部が大きく開き、堆積土の上層は人為的な埋め土である。遺物はSE24からは少ないが、SE25からは土師器片などが約40点出土し、青磁碗などが図化できた(表134、第503図5・6・12)。



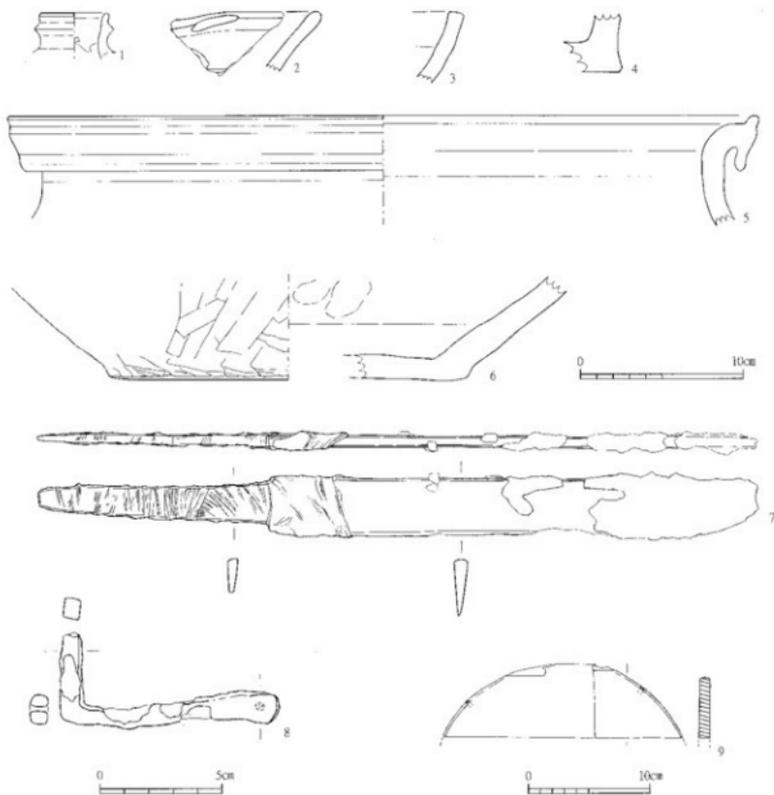
	層位	色層	土質	見入物・その他
11C-SE24	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰褐色シルトブロック・炭化物少量
	2	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	
	3	7.5Y4/1 灰色	砂質シルト	
	4	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	
11C-SE25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトブロック少量
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	
	3	10YR4/1 黄灰色	粘土質シルト	炭化物少量
	4	10YR4/1 黄灰色 N2/0 黒色 10YR2/1 黒色	砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト	ブロックの露出 炭化物・粘土ブロック多量
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰オリーブシルトブロック少量
	6	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	暗オリーブ灰色砂質シルトブロック・黒褐色粘土質シルトブロック多量
	7	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	オリーブ黒色粘土質シルトブロック多量
	8	5Y3/1 暗オリーブ灰色	砂質シルト	
	9	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	
11C-SE16	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物・小礫多量
	2	2.5Y3/1 暗オリーブ灰色	粘土質シルト	炭化物少量
	3	2.5Y3/1 暗オリーブ灰色	粘土質シルト	黄灰色シルトブロック多量、炭化物少量
11C-SE17	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	に濃い黄褐色小礫・炭化物少量、粘土塊少量
	2	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	暗オリーブ灰色砂質シルトを層状に少量、炭化物少量
	3	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	

第501図 11C-SE16・17・24・25 平面・断面図

(3)土坑

この時期に該当する可能性のある上坑は30基あるが、18基はIVa期の項で既に記載した。

11B-SK3・5・6 MI0グリッドのVa層上面で確認した土坑である。平面形は楕円形や不整形で、深さは10~30cm。

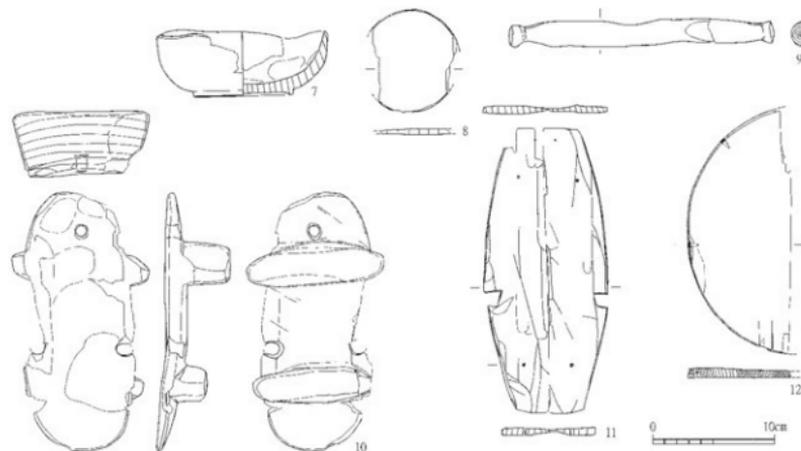
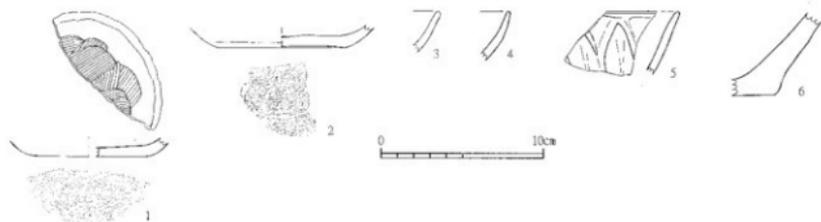


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(所在地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						11号	底径	高さ		
1	1c-568	11C-SE8	陶器(古瀬戸)	甗	11縁部/6	(3.8)			灰釉、中皿~前期	189-1
2	1c-519	11C-SE8・2層	陶器(東南)	鉢	口縁~体部片				ロクロ調製、山岳陶器系	189-2
3	1c-345	11C-SE8	陶器(在地・白石)	片口鉢	11縁部小片				ロクロ(回転台)調製	189-5
4	1c-344	11C-SE8	陶器(在地・白石)	甗	底部1/10				ナデ	189-6
5	1c-332	11C-SE8・2層	陶器(京焼)	甗	口縁部1/7	(45.6)			ロ・頸部ヨコナデ、体部ナデ、7型式	189-3
6	1c-534	11C-SE8	陶器(在地)	甗	底部1/5	(21.7)			底部ナデ、体部外蓋ヘラナデ、内面ナデ・オサエ 11C-SE6の破片と接合	189-4
7	Nu-346	11C-SE8	鉄製品	短刀	刃部	長さ	幅	厚さ	刀身刃口は、葉へ刀身基部に布紋の付着物(1.20g)	189-8
8	Nu-298	11C-SE8	鉄製品	片断不明	端部欠損	8.9+	1.3	0.7	「J」字形、21x1	189-7
9	L-421	11C-SE8・2層	木製品	曲物	底板1/2	(21.4)		0.9	釘痕孔2	189-9

第502図 11C-SE8 出土遺物

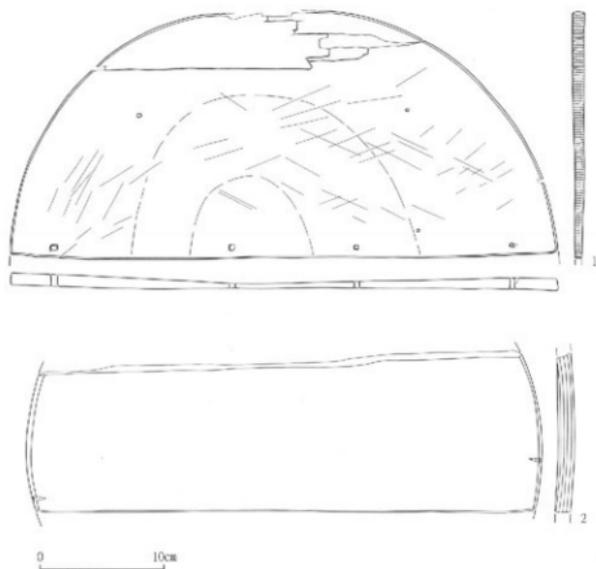
堆積土は直上のIVb層が入り込んだものである。遺物はSK6から土師器片など約20点が出土しているが図化できたものはない。

11B-SK10・17・18 (第505図) M13・14グリッドのVa層上面で確認した土坑で、SK17が11B-SK16に切られている。大きさは1m前後、深さは20~50cm程度、堆積土は直上のIVb層が入り込んだ単層である。遺物はSK17・18から土師器片や陶器片が少数出土し、このうち温泉産の壺1点が図化できた (第506図)。



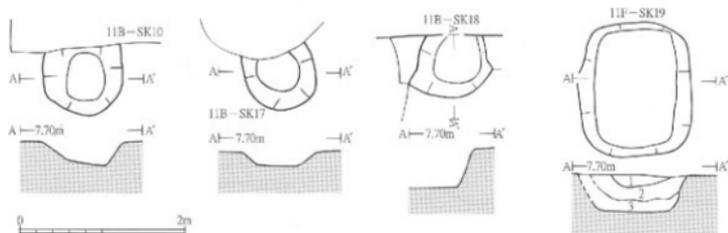
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	胴高		
1	a-49	11C-SE16・2層	土師質土器・皿	底部1/3				ロク口調整、回転糸切、息込みナデ	189-14
2	a-52	11C-SE16・2層	土師質土器・皿	底部1/3			(7.6)	ロク口調整、回転糸切、息込みナデ、臼削堆積	189-15
3	a-50	11C-SE16・2層	土師質土器・皿	口縁部小片				ロク口調整	189-16
4	a-51	11C-SE16・1層	土師質土器・皿	口縁部小片				ロク口調整、臼削堆積	189-17
5	J-124	11C-SE25	曹磁(龍谷窯系) 碗	口縁部小片					190-2
6	lc-393	11C-SE25	陶器(常滑) 罐	底部1/10				ナデ	190-1
7	L-726	11C-SE18	木製品・漆器類	4/5	14.0	8.0	5.6	漆剥離	189-12
8	L-729	11C-SE16	木製品・曲物	底板3/4	8.4		厚0.5		189-18
9	L-728	11C-SE16・3層	木製品・柄	ほぼ完形	長さ	幅	厚さ		
10	L-432	11C-SE16・3層	木製品・漆器下駄	側面一部欠損	21.7	2.1	1.0	分別材、端部を削り出し	189-19
11	L-130	11C-SF21・5層	木製品・板厚版	ほぼ完形	23.5	10.2	0.7	縦じ孔6	189-13
12	L-483	11C-SE25	木製品・曲物	底板1/2	(20.6)		0.8	縦合釘孔3	190-3

第503図 11C-SE16・18・21・25 出土遺物



No.	発掘No.	地区・遺構・階位	種別(所在地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	L-422	11C-SE10・4層	木製品・漆物	蓋/2		44.2	蓋内径	厚1.3	穿孔7,両面に引物傷多,破損後装板に転用?	189-10
2	L-423	11C-SE10・4層	木製品・漆物	底板/4		(41.7)			結合孔2	189-11

第504図 11C-SE10 出土遺物

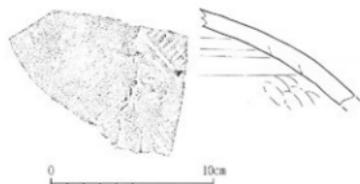


第505図
11B-SK10・17・18, 11F-SK19
平面・断面図

11F-SK19			
層位	色調	土質	遺人物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒散見
2	10YR3/2 黒褐色	粘土	黄褐色シルトブロック多量, 炭化物粒少量
3	10YR2/2 黒褐色	粘土	にぶい黄色シルトブロック散見, 酸化鉄を層紋に少量

11C-SK4・5・45 (第512図) M16・17グリッドのVa~Vb層上面で確認した。3基とも底際に位置しているため大きさは不明である。遺物はSK45から鉄釘が1点出土した(表134, 第511図1)。

11F-SK19・23 (第505・507図) Q14グリッドのVa層上面で確認した土坑で, SK23が11F-SE14 (TVb1期と推定)を切っている。大きさは約1.7m, 深さは40~50cm程度, 堆積土は自然堆積層である。遺物はSK19から土器片が少数出土しているのみで図化できたものはない。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	Ic-486	11B-SK18・1層	陶器(瀬美)	壺	体部小片				ナデ、麻状・菱形押印	188-6

第506図 11B-SK18 出土遺物

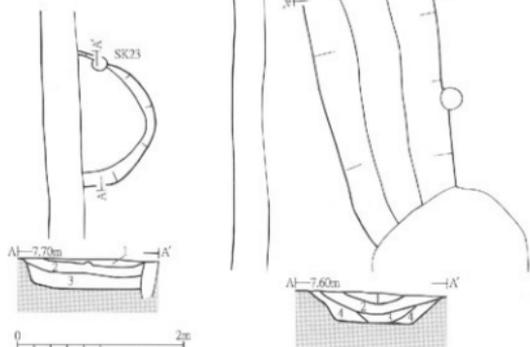
11F-SK23

層位	色産	土質	混入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒多量
2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	灰黄褐色粘土ブロック少量、炭化鉄を要状に少量
3	5Y2/1 黒色	粘土	灰オリーブ色粘土ブロック少量、炭化物多量

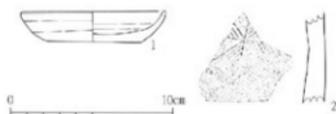
11F-SK69

1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・焼土粒少量
2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物少量
3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒微量
4	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック・炭化物少量

11F-SK69 (第507図) N14グリッドのIVb層上面で確認した長楕円形の土坑である。堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器や中世陶器片が約10点出土しているのみで図化できたものはない。



第507図 11F-SK23・69 平面・断面図

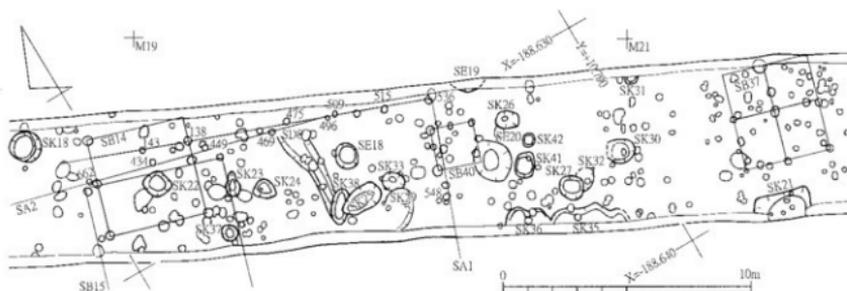


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	Ia-74	11F-SK5	土師質土器	小皿	3/4				口縁コ調製、目録品切、見込み一帯ナデ、白鉛電線	190-14
2	Ic-574	11F-SK5	陶器(瀬美)	壺	体部小片				ナデ、菱形押印	190-15

第508図 11F-SK5 出土遺物

4. 11C区東部～11D区西部の遺構と遺物

掘立柱建物跡5棟、柱列跡2条、井戸跡7基、土坑28基、ピット約400基を確認した(第509・510図)。

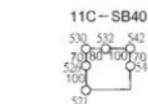
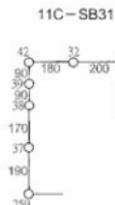
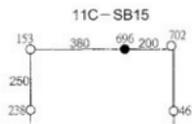
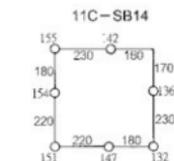


第509図 11C区中央部IVb層上面(IVb2期)平面図

(1)掘立柱建物跡・柱列跡

掘立柱建物跡は11C-SB14・15・31・37・40の5棟である。主軸方向は真北から $16\sim 20^\circ$ 東傾している。SB40は小規模な 2×2 間の正方形の建物跡で、「L」字形に屈曲する11C-SA1に重なるように配置されていることから櫓のような建物跡である可能性がある。SB14は中央の柱が確認できなかったものの、SB37と規模が似ているので同じような総柱の建物跡である可能性がある。遺物は土師器片などが少量出土しているのみであるが、SB15の鉄釘が同化できた(表135、第511図2)。

柱列跡は上記の11C-SA1の他にSA1とやや方向が異なる11C-SA2がある。SA1・2の新旧関係は不明で共にSB14と重複している。なお、SB14と半分重複して11C-SB15があるが、このSB15とSA1が同時に存在した可能性が高い。遺物は出土しなかった。

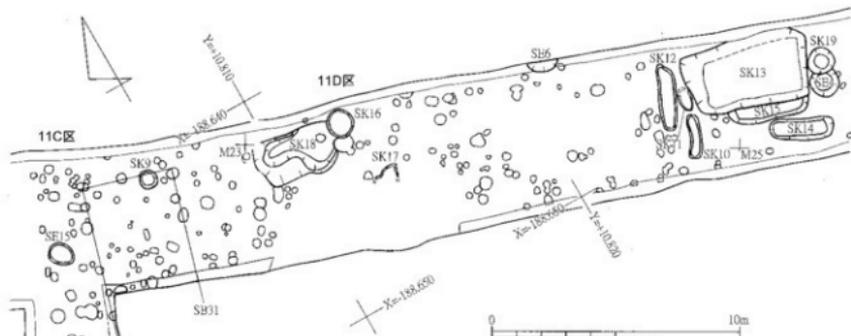


PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
151	IVb	38×35	20	?
154	IVb	36	27	?
155	IV's	40×36	30	?
242	IVb	50×36	32	?
136	IVb	37	48	?
132	IVb	40	28	?
147	IVb	42	30	?
規模	東西0.0m, 2間	南北0.0m, 2間		
柱間	1.6～2.3m	1.7～2.3m		
面積	16.0㎡	傾き	16°E	

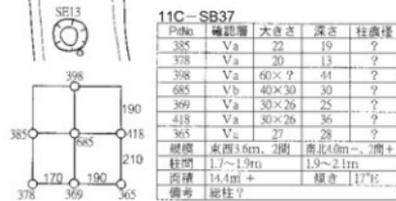
PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
238	Va	40×?	27	?
153	IVb	32	26	?
696	Vb	38×30	25	?
702	Vb	34	19	?
461	Va	60×42	26	?
規模	東西5.8m, 3間	南北2.5m+, 2間		
柱間	(1.9～2.0m)	2.5m		
面積		傾き	16°E	

PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
299	Va	44×30	14	?
37	IVb	35×28	19	?
38	IVb	46×42	52	?
39	Vb	38	44	?
42	Vb	31	27	?
32	IVb	44×40	27	?
22	IVb	46×?	22	?
23	IVb	36	21	?
24	IVb	60×40	48	?
規模	東西3.3m	南北5.4m+		
	縦行2間+	横行4間+		
柱間	1.8～2.0m	0.9m・1.8m		
面積	20.5㎡	傾き	16°E	

PitNo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
521	Va	25	11	?
526	Va	26×22	11	?
530	Va	46×30	31	?
532	Va	40×22	28	?
542	Va	30×24	8	?
544	Va	26	11	?
規模	東西1.8m, 2間	南北1.7m, 2間		
柱間	0.8～1.0m	0.7～1.0m		
面積	3.1㎡	傾き	20°E	

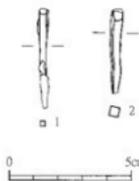


第510図 11C区東部～11D区西部IVb層上面 (IVb2期) 平面図



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
143	IVb	20	20	?
138	IVb	36×26	32	?
475	Va	28×24	20	?
899	Va	28×18	22	?
515	Va	30×26	27	10
536	Va	36×?	16	?
524	Va	40×32	31	?
548	Va	29	24	?
総横 東西2.0m+, 6割+ 南北4.1m+, 2割				
柱間 1.9～2.2m 2.0～2.1m				
積金 76kg 14 E				

PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
250	Va	26	31	?
662	Va	26×16	20	?
434	Va	26×22	23	11
449	Va	26×22	27	?
469	Va	25	20	?
496	Va	16	21	?
総横 東西15.0m+, (6割+)				
柱間 2.3～2.7m 積金 70kg W				



No	登録No	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	造り度	流量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						高さ	幅	厚さ		
1	Na-288	11C-SK45	鉄製品・釘	中央部	4,+	0.2	0.2	1g+		190-4
2	Na-281	11C-P461(11C-SB15)	鉄製品・釘	中央部	3.5+	0.4	0.3	1g+		190-5

第511図 11C-SB15、SK45 出土遺物

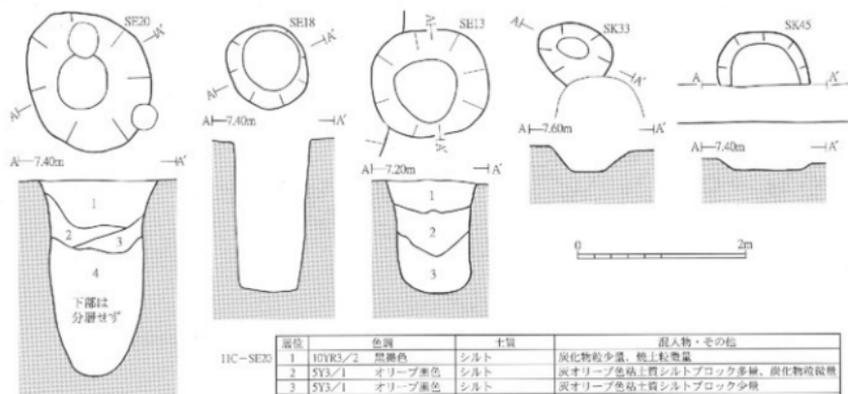
(2)井戸跡

この時期に属する可能性がある井戸跡は7基あるが、4基はIVa期の項で既に記載した。

11C-SE13 (第512図) N22グリッドのVa層上面で確認した井戸跡で、西側を11C-SD1に切られている。深さが1.3mとやや浅い。堆積上は自然堆積層である。遺物は土師器片など2点で図化できたものはない。

11C-SE18 (第512図) M19グリッドのVa層上面で確認した井戸跡で、SB15と並んで「L」字状に屈曲するSA1の南側に位置している。径1m前後と小さいが、深さは1.8mある。遺物は少なく、図化できたのは漆器桶1点である(表134、第503図7)。

11C-SE20 (第512図) M20グリッドのVa層上面で確認した。楕円形のやや大きな井戸跡で、深さも約2.4mある。



層位	色調	土質	混入物・その他
11C-SE20			
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物少量、焼土粒少量
2	5Y3/1 オリーブ褐色	シルト	灰オリーブ色粘土質シルトブロック多量、炭化物粒少量
3	5Y3/1 オリーブ褐色	シルト	灰オリーブ色粘土質シルトブロック少量
4	2.5Y2/1 黒褐色	粘土質シルト	緑褐色植物炭体多量
11C-SE13			
1	10YR3/2 黒褐色	粘土	黄褐色粘土ブロック少量、炭化物粒少量
2	2.5Y2/1 黒色	粘土	
3	10YR3/3 暗褐色	灰炭質粘土	互層
4	5Y3/1 暗褐色	粘土	
5	5Y3/1 暗褐色	粘土	
6	5Y3/1 暗褐色	粘土	

槽状の建物跡SB40と重複しているが新旧関係は不明である。遺物

第512図 11C-SE13・18・20、SK33・45平面・断面図

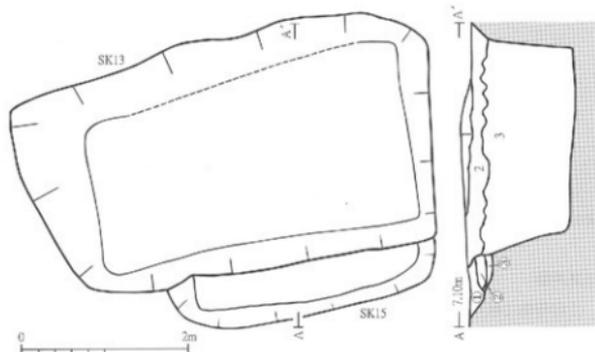
は土師器、須恵器、中世陶器片など約30点が出土したが図化できたものはない。

(3)土坑

この時期に該当する可能性のある土坑は28基あるが、大部分はIVa期の項で既に記載した。

11C-SK33 (第512図) M20グリッドのVa層上面で確認した土坑である。ほぼ同じ箇所IVb層上面で確認した11C-SK14がIVa期と想定されるので、SK33はそれ以前の時期と考えられる。堆積上は直上のIVb層が入り込んだ単層である。遺物は出土しなかった。

11D-SK10~12 LM24グリッドのVa層上面で確認した楕円形や長楕円形の土坑である。深さは約15cmと浅く、堆積土は直上のIVb層が入り込んだ単層である。遺物はSK12から土器片が1点出土している。



11D-SK13・15 (第513図)
L24・25グリッドのVa層上面

層位	色調	土質	混入物・その他
11D-SK13			
1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色シルトブロック少量、炭化物粒少量、炭化物粒少量
2	10YR3/2 黒褐色	粘土	オリーブ褐色シルト質粘土ブロック少量、炭化物粒少量、炭化物粒少量、炭化物粒少量
3	2.5Y2/1 黒色	粘土	緑褐色植物炭体ブロック多量
11D-SK15			
1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色シルトブロック・炭化物粒少量
2	2.5Y2/1 黒色	粘土	炭化物粒少量
3	5Y3/1 オリーブ褐色	粘土	緑褐色植物炭体ブロック多量

第513図 11D-SK13・15平面・断面図

で確認した土坑で、SK13がSK15を切っている。SK13は約5×3mの長方形で、大部分は人為的に埋め戻されている。規模や堆積状況は1～9区の水田遺構で多数検出されている土坑と類似している。SK15は大部分がSK13に切られているので、詳細は不明である。遺物は両者共に少数であるがSK15から出土した銭貨2点が図化できた(表136、第514図)。



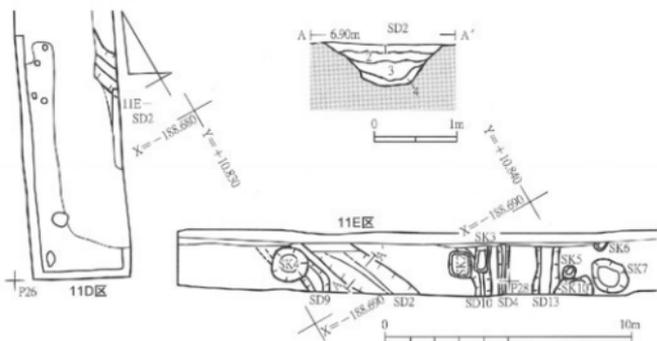
0 2cm

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真図版
						径	重量			
1	N5-223	11D-SK15	銅製品・銭貨	完形	2.4	3.4g		皇徳通寶(北宋・初铸1099年)	190-6	
2	N5-222	11D-SK15	銅製品・銭貨	完形	2.3	2.3g		享寧元寶(北宋・初铸1068年)	190-7	

第514図 11D-SK15 出土遺物

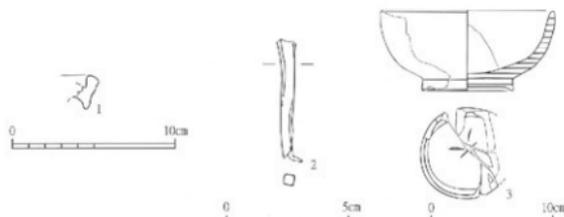
5. 11D区南部～11E区西部の遺構と遺物

この時期の可能性のある遺構は、大部分はIVa期の項で述べた。明らかにIVa期より古いと考えられるのは11E-SD2のみである。11D区南部から11E区にかけて部分的に確認した溝跡で、幅1.5m、深さ50cm、断面形は上部が開く浅い「U」字形、堆積土は自然堆積層である(第515図)。遺物は土師器、須恵器、木製品など8点で、漆器機1点が図化できた(表137、第516図)。



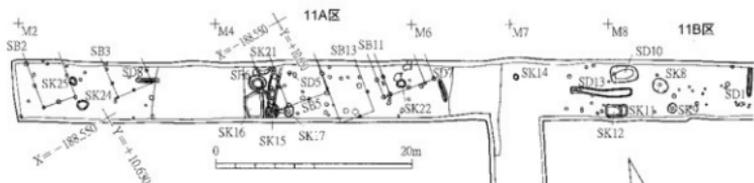
層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄を混状に微量、炭化物少量
2	7.5Y2/2 オリーブ黒色	粘土	酸化鉄痕少量、炭化物微量
3	7.5Y2/1 黒色	粘土	酸化鉄痕・炭化物微量
4	10Y4/1 灰褐色	粘土	管状酸化痕少量、炭化物微量

第515図 11D区南部～11E区西部
IVb層上面(IVb2期)平面図、11E-SD2 断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	1c-497	11E-SD4・1層	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				口コナ平、6a型式	190-9	
2	N6-363	11E-SD4・1層	陶製品・釘	中央部	長5.0	幅0.4	厚0.2	5g ±	190-10	
3	1c-453	11E-SD2・3層	木製品・漆器機	2/3	14.0	7.2	6.5	内外面黒色、底部外面線刻「大」、ケヤキ	190-8	

第516図 11E-SD2・14 出土遺物



第517図 11A区～11B区西部・11F区西部
IVb層上面 (IVb 1期) 平面図

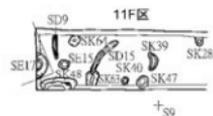
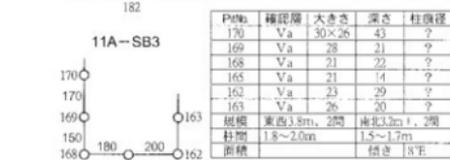
第4節 IVb層の遺構 (2) - IVb1期

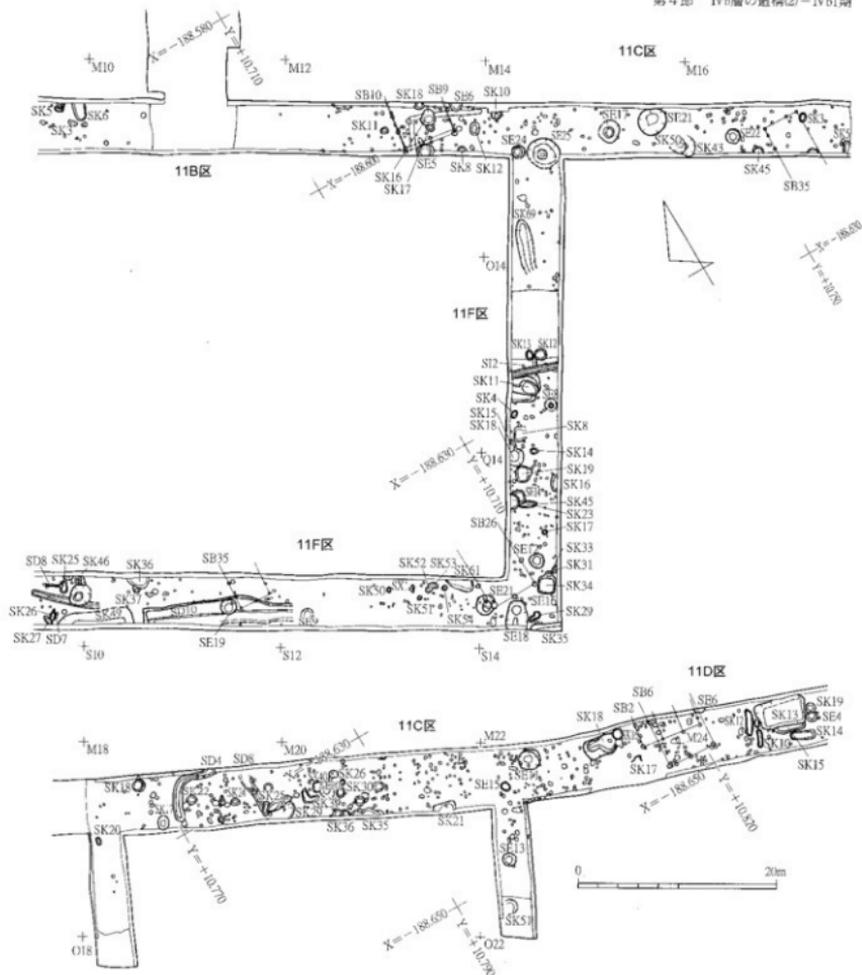
1. 遺構の概要

IVb期は城館以前の屋敷の古段階に相当する。この時期に所属する可能性のある遺構は、小規模な区画溝と掘立柱建物跡14棟、井戸跡29基、土坑111基、ピット約1100基などである。建物跡の方向は真北～11°東傾している。なお、溝跡、井戸跡、土坑についてはIVb2期～IVa期の項で述べた遺構は割愛し、それ以外についてののみみれる。

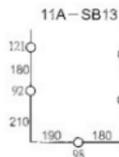
2. 11A区西部の遺構と遺物

この時期と推定される掘立柱建物跡は5棟である。すべて南北棟で、11A-SB2・3・13は奥行3.5～3.8mの同じような規模の建物跡、11A-SB5・11は相付きの建物跡である (第520・521図)。遺物はSB2・5・11から土師器片などが50点近く出土し、1点が図化できた (第519図)。

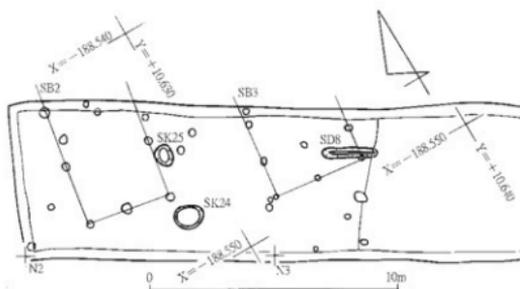
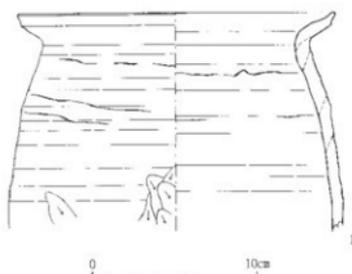




第518図 11B区～11D区西部・11F区IVb層上面（IVb1期）平面図



PitNo.	輪郭層	大きさ	深さ	柱痕跡
121	Va	20×7	19	?
92	Va	14	15	?
98	Va	28	13	?
105	Va	27	3	?
202	Va	30	20	?
規模	東西3.7m	南北3.9m+		
	敷行2間	桁行3間+		
柱間	1.8～1.9m	1.8～2.1m		
面積		傾奇 5°E		



第520図 11A区西部IVb層上面 (IVb 1期) 平面図

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別 (産地)	器種	遺存度	法蔵 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	D-52	11A-PIR2 (11A-SB2)	土師器・甕	土師15					口クロ産灰、体部外面下半ヘラケズリ	191.9

第519図 11A-SB2 出土遺物

3. 11F区の遺構と遺物

この時期と推定される掘立柱建物跡は3棟で、このほか溝跡2条、井戸跡2基、土坑6基がある (第525・527図)。

(1) 溝跡

11F-SD10 (第525～527図) R10・11グリッドのVa層上面で約15mの長さで確認している。幅約2.5m、深さ10～30cmで両側が1段低くなっている。堆積土は直上のIVb層が入り込んでいた。遺物は土師器や中世陶器など約170点が出土し、中世陶器を中心として8点が図化できた (表138、第523図)。性格は不明である。

11F-SD15 (第525・526図) R8グリッドのVa層上面で部分的に確認した。幅約50cm、深さ10cmで、堆積土は直上のIVb層が入り込んでいた。遺物は少なく図化もできなかった。

(2) 掘立柱建物跡

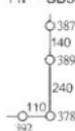
11F-SB3・26・35がある。すべてVa層上面で確認しており、SB26は11F-SE21を切っている。方向は真北～9° 東傾する。遺物はごくわずかで、図化もできなかった。

(3) 井戸跡

11F-SE14 (第524図) Q14グリッドのVa層上面で確認した。11F-SK23に切られ、SK45を切っている。規模などは表114 (26頁) のとおりで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器、須恵器、中世陶器など約20点で、2点が図化できた (表138、第522図1・2)。

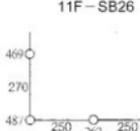
11F-SE21 (第524図) R13・14グリッドのVI層上面で確認した。11F-SK66を切っている。規模などは表114のとおりで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器・中世陶器・木製品など

11F-SB3



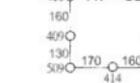
PINo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
387	Va	30×?	32	?
389	Va	38×32	50	?
378	Va	30×26	17	?
392	Va	21	24	?
規模	東西1.1m+	南北3.8m+		
柱間	1間	(3間+)		
柱間	1.1m	(1.2～1.4m)		
面積		積さ 19.15		
備考	SE17の上層?			

11F-SB26

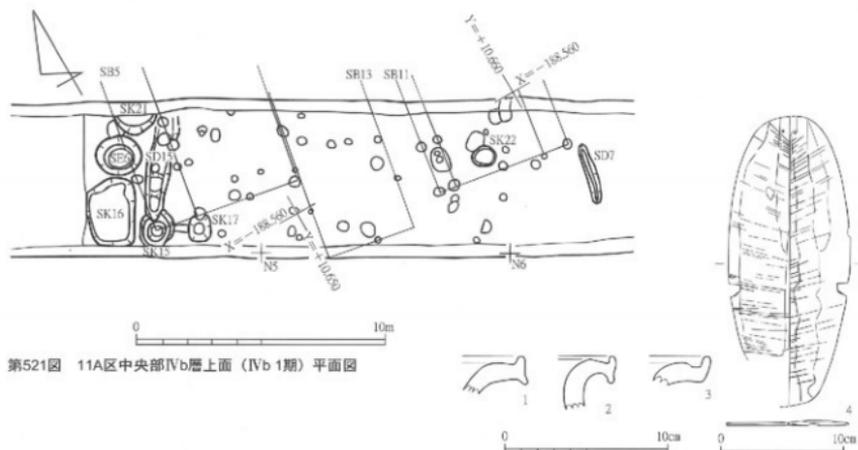


PINo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
1196	Va	32×?	32	?
232	Va	44×40	50	?
245	Va	46×42	14	?
262	Va	52×40	40	?
487	Va	64×?	40	?
469	Va	38×?	39	?
規模	東西5.0m、2間	南北4.0m+、2間+		
柱間	2.5m	2.2～2.7m		
面積		積さ N/S		

11F-SB35



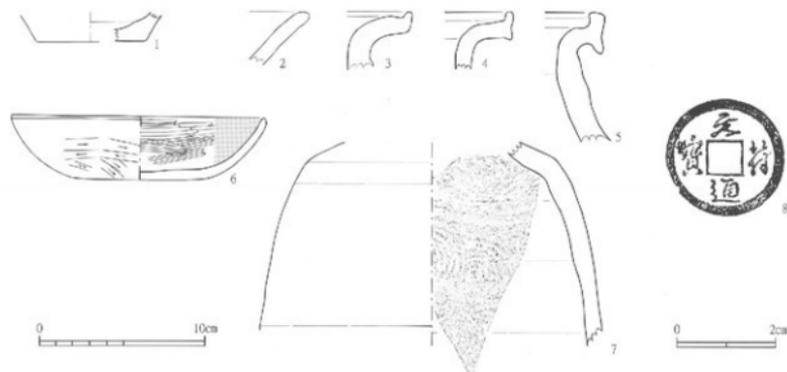
PINo.	確認層	大きさ	深さ	柱直径
410	Va	39	30	?
409	Va	26×22	24	?
209	Vb	23	45	?
414	Va	21	15	?
419	Va	26	25	?
413	Va	16	9	?
規模	東西3.4m、2間	南北2.5m+、2間		
柱間	1.6～1.7m	1.3～1.6m		
面積		積さ 3'E		



第221図 11A区中央部IVb層上面 (IVb1期) 平面図

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Ic-396	11F-SE14	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、5型式	192-1	
2	Ic-397	11F-SE14	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、6a型式	192-2	
3	Ic-387	11F-SE21	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、5型式	192-3	
4	L-481	11F-SE21・S層	木炭釜・板草履	ほぼ完形	23.6	9.8	0.4	側面に台形の突起。先端近くに小孔2	192-4	

第222図 11F-SE14・21出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	板径	高さ		
1	Ia-70	11F-SD10	土師質土器・小皿?	底面片				ロク口周壁一外面ナデ	191-14	
2	Ic-372	11F-SD10	陶器(東海) 鉢	口縁部小片		(6.4)		ロク口周壁、山菜純葉系	191-15	
3	Ic-373	11F-SD10	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ロ口周壁ヨコナデ、口縁内面茶色リブ色の片断体、半部ナデ5型式	191-16	
4	Ic-374	11F-SD10	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、5型式	191-18	
5	Ic-375	11F-SD10	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ロ・胴部ヨコナデ、体部ナデ、6a型式	191-17	
6	C-21	11F-SD10	土師器・坏	1/3	(15.0)	(8.0)	3.9	丸底風平底、外面ヘラケズリーヘラミガキ内面ヘシミガキ、黒色処理、白粉撒量	191-19	
7	Ic-80	11F-SD10	須恵器(大戸) 壺?	部分				ロク口周壁、タタキ周縁	191-21	
8	Nb-240	11F-SD10	瀬灰皿・鏡首	完形	径2.4		高さ2.3	元厚着費(北米・初録1989年)	191-20	

第223図 11F-SD10 出土遺物

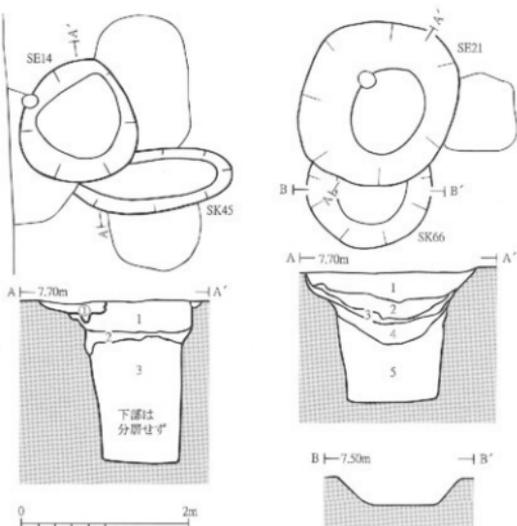
15点で、常滑産裏と板草履が図化できた(表138、第522図3・4)。

(4)土坑

11F-SK20・45(第524図) Q14グリッドのVa層上面で確認した小規模な土坑である。SK20はSK19に切れ、SK45はSE14に切られている。規模などは表115(35頁)のとおりで、堆積土は直上のIVb層が入り込んでいた。遺物はSK45から砥石が1点出土している(第562図)。

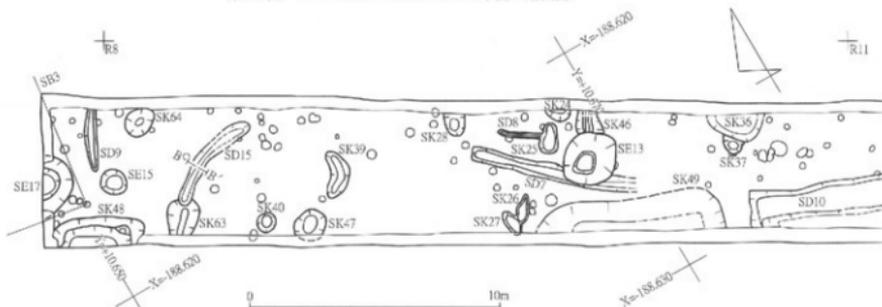
11F-SK36・37(第526図) R10グリッドのVa層上面で確認し、SK36がSK37を切っている。規模などは表115(35頁)のとおりで、堆積土は直上のIVb層が入り込んでいた。遺物は土師器片などが少数で、図化できたものはない。

11F-SK49(第526図) R9・10グリッドのVa層上面で確認した大きな土坑で、SK38に切られている。壁際に位置するため全容が不明であるが一辺7.5mほどの方形と推定され、深さは1.3mである。堆



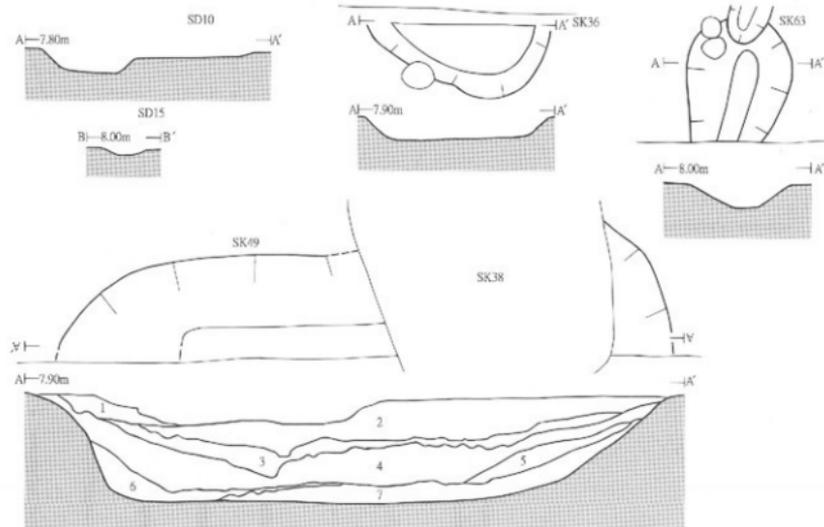
調査	色面	土質	混入物・その他
① 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	オリーブ褐色粘土粒少量、粘土ブロック少量
11F-SE14	1 10YR3/2	黒褐色	粘土
	2 5Y3/2	オリーブ褐色	粘土
	3 2.5GY2/1 7.5GY6/1	黒色 緑灰色	粘土 石層
11F-SE21	1 10YR3/2	黒褐色	粘土
	2 10YR2/1	黒色	粘土
	3 2.5Y3/1	黒褐色	互層
	4 2.5Y3/1	黒褐色	粘土質粘土
	5 7.5Y3/1	灰色	粘土

第524図 11F-SE14・21、SK45・66 平面・断面図



第525図 11F区西部IVb層上面(IVb1期)平面図

積土は自然堆積層で、下部には初殻を中心とする腐植土層が認められた。遺物は土師器・中世陶器・木製品などが80点出土し、青磁碗や常滑産の陶器、下駄や箸など14点が図化できた(表139、第528図)。



11F-SK49

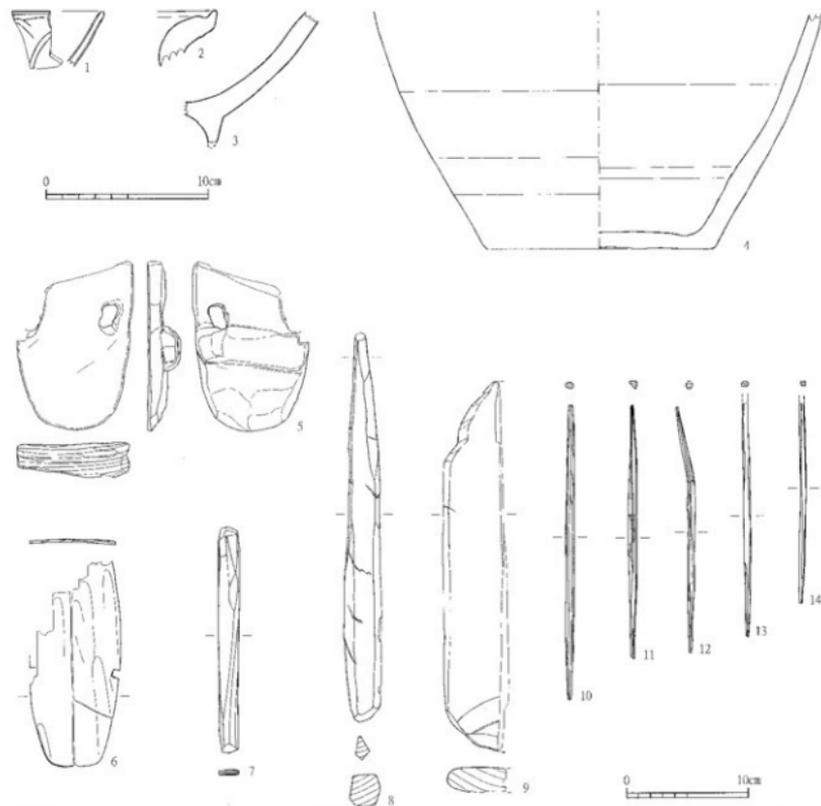
層位	色相	土質	遺人物・その他
1	0YR2/2 0YR2/1	粘土質シルト 粘土質シルト	ほぼ無遺物 灰化物少量
2	2.5Y2/1 5Y2/1	粘土 灰褐色	互層(やや乱れる)
3	10YR2/2 10YR1/1	灰褐色 灰褐色	灰褐色ブロック散在
4	10YR3/2 10YR4/3 10YR3/4	灰褐色 灰褐色 にぶい黄褐色 暗褐色	互層 オリーブ黒色粘土ブロック散在、磚状多量
5	7.5Y5/1 7.5Y3/1 2.5Y3/1	灰色 オリーブ黒色 黒褐色	粘土 泥炭質粘土 ブロックの混合
6	2.5Y4/2 2.5Y3/2	暗茶褐色 黒褐色	粘土 互層
7	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土 灰色砂質シルトブロック多量

第526図
11F-SD10・15断面図、
SK36・49・63平面・断面図



第527図 11F区東部IVb層上面(IVb1期)平面図

11F-SK63 (第526図) R8グリッドのVa層上面で確認した小規模な土坑で、11F-SD15に切られている。大きさは不明瞭であるが、深さは約30cmで、堆積土は直上のIVb層が入り込んでいた。遺物は土師器片などが少量出土したが図化できたものはない。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(現地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図番
					長さ	幅	厚さ		
1	T-125	11F-SK49	70組(磁器器)陶	口縁部小片				蓮弁文	192-5
2	Ic-406	11F-SK49	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ココナデ、4脚式	192-6
3	Ic-399	11F-SK49	陶器(常滑)片11鉢	底部~体壁片				ロクコ調器、底部下半回転ヘラケズリ、内面磨滅	192-7
4	E-75	11F-SK49	須恵器・甕	1/3		13.8		ロクコ調器、底部外面にヘラ記号「X」、内面磨滅 破損後跡に転用	192-8
5	L-586	11F-SK09・2層	木製品・漆桶下駄	2/3	12.5+	9.0	高1.2+		192-10
6	L-475	11F-SK49	木製品・板草履	2/3	17.0+	7.3+	0.3	側面に方形の抜り2	192-9
7	L-476	11F-SK49	木製品・教材	?	18.7+	1.6	0.4		192-11
8	L-488	11F-SK49	木製品・用途不明(棒状)	ほぼ完形	31.2+	2.9		先細り、断面多角形	192-13
9	L-487	11F-SK49	木製品・ヘラ?	背面欠損	30.5	5.2+	2.2		192-12
10	L-492	11F-SK49	木製品・箸	ほぼ完形	24.4	0.7	0.5		192-14
11	L-491	11F-SK49	木製品・箸	完形	21.0	0.8	0.7	中央で折れ	192-15
12	L-493	11F-SK49	木製品・箸	完形	23.4	0.7	0.7		192-16
13	L-490	11F-SK49	木製品・箸	先端欠損	19.3±	0.6	0.4		192-17
14	L-489	11F-SK49	木製品・箸	3/4	16.6+	0.5	0.5		192-18

第526図 11F-SK49 出土遺物

4. 11B区東部～11C区西部の遺構と遺物

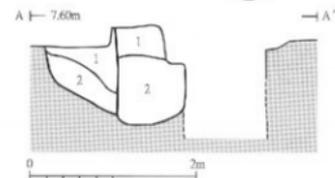
この時期と推定される獨立柱建物跡は3棟で、
その他の遺構として土坑2基がある（第531・533
図）。

(1) 獨立柱建物跡

11B-SB9・10と11C-SB35がある。11B-SB9
とSB10は規模と構造が全く同じであることか
ら、柱位置をわずかにずらして建て替えられた
建物跡と考えられる。方向は真北から8° 東傾し
ている。11C-SB35はそれよりもやや小さな建
物跡で、方向は真北方向である。遺物はSB9か
ら土師器片が出土したのみで、図化できたもの
はない。

(2) 土坑

11C-SK43・50（第529図） 11C-M15・16グリッド
のVa層上面で確認した。SK50がSK43を切り、
両者共に11C-SE9に切られている。平面形は楕
円形と推定される。堆積土は、SK43は自然堆積層
であるがSK50の大部分は人為的に埋め戻されて
いる。遺物はSK43から土師器片など55点が出土したが、
図化できたのは鉄釘2点と曲物1点である（表134、
第530図）。



第529図 11C-SK43・50 平面・断面図

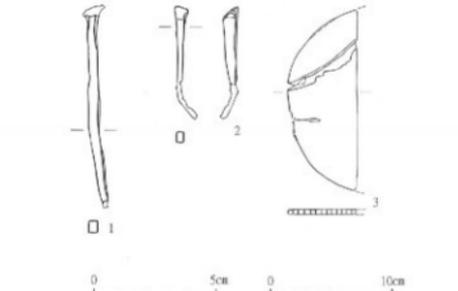
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
61	Va	24	19	?
137	Vb	36×30	35	?
68	Va	42×36	39	?
148	Vb	31	27	?
76	Va	30×26	20	?
105	Va	30×22	35	?
規模		東西5.3m	南北3.8m+	
柱間		梁行2間	桁行3間+	
面積		2.65m	1.8~2.1m	
		向き		8°E

PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
62	Va	36×30	30	19
136	Vb	36×30	19	?
189	Vb	46×40	32	?
149	Vb	30×24	31	?
75	Va	40×40	21	?
規模		東西5.3m	南北3.8m+	
柱間		梁行2間	桁行3間+	
面積		2.5~2.8m	1.7~2.1m	
		向き		8°E

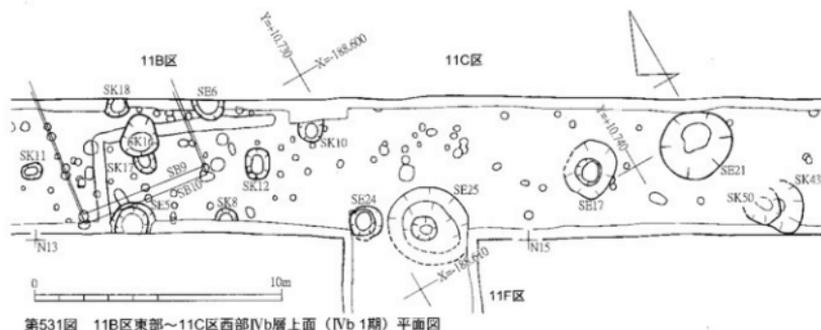
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
73	Va	30×26	24	?
78	Va	26	16	?
72	Va	30	42	?
334	Va	29	29	?
337	Va	24	23	?
14	Va	22×16	15	?
規模		東西3.8m	南北2.3m+	
柱間		梁行3間	桁行2間+	
面積		1.0~1.3m	2.2~2.3m	
		向き		NS

層位	色調	土質	埋入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・土塊
2	5Y4/1 灰色	砂質シルト	互層
	10YR3/1 オリーブ褐色	粘土質シルト	

層位	色調	土質	埋入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	土質の混合 人為的な埋め土
2	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	
	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	
	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法長 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-287	11C-SK43	鉄製品・釘	中央部	8.3+	0.5	0.4	5H+	191-11	
2	Na-286	11C-SK43	鉄製品・釘	部～中央部	4.6+	0.3	0.4	2H+	191-12	
3	L-402	11C-SK43	木炭・曲物	炭化材	縦150		0.5		191-13	



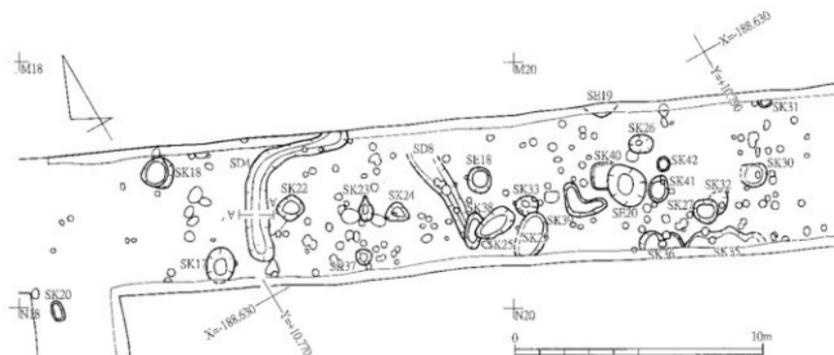
第531図 11B区東部～11C区西部IVb層上面 (IVb 1期) 平面図

5. 11C区東部～11D区の遺構と遺物

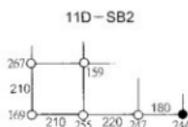
この時期と推定される竪立柱建物跡は3棟で、この他に溝跡1条、井戸跡1基、土坑3基がある (第532・535図)。

(1) 溝跡

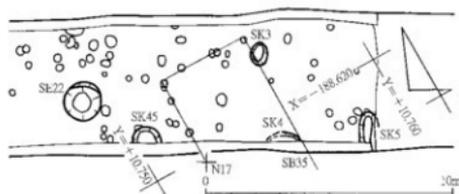
11C-SD4 (第532・537図) M18・19グリッドのVa層上面で検出した蛇行する溝跡で、11C-SB14 (IVb2期) に切られている。幅約1m、深さ30cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片など50点以上出土したが、図化できたのは磁石の破片1点である (表134、第534図)。



第532図 11C区東部IVb層上面 (IVb 1期) 平面図



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱原径
267	Va	24×38	48	?
169	IVb	44×35	23	?
159	IVb	40×36	32	?
255	Va	24	30	?
247	Va	30	44	?
244	Va	37×28	38	13
規模	表側6.1m, 3間 南北2.1m+, 1間+			
柱間	1.8~2.2m			
面積	2.1m			
面積	面積 9区			
備考	残柱 19区			



第533図 11C区西部IVb層上面 (IVb 1期) 平面図

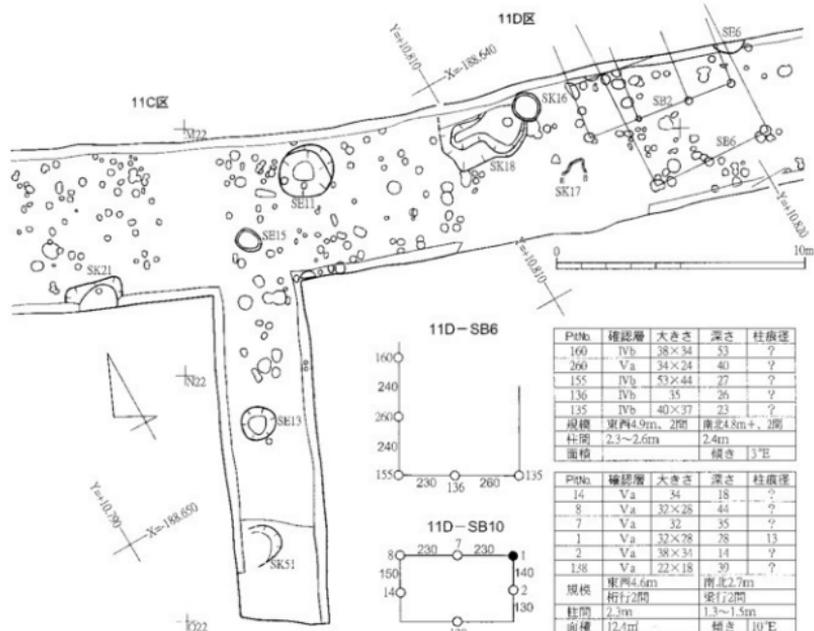
(2) 掘立柱建物跡

11D-SB2・6・10がある。いずれも小規模な建物跡で、方向は真北から3～10° 東傾している。遺物はSB2とSB10から土器片などがごく少量出土したのみで、図化できたものはない。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別 (産地)	器種	遺存度	活層 (cm)			調整・特徴	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	K-127	11C-SD4・2層	石製品・磁石		中央部のみ	14.1+	2.4+	3.2	111g+, デイサイト質磁板岩	191-10

第534図 11C-SD4 出土遺物



第535図 11C区東部～11D区西部
IVb層上面 (IVb 1期) 平面図

PtNo.	検認層	大きさ	深さ	柱痕跡
160	IVb	38×34	53	?
260	Va	34×24	40	?
155	IVb	53×44	27	?
136	IVb	35	26	?
135	IVb	40×37	23	?
規模		東西4.9m、2階	南北4.8m+, 2階	
柱間		2.3～2.6m	2.4m	
面積		横さ 3'±		

PtNo.	検認層	大きさ	深さ	柱痕跡
14	Va	34	18	?
8	Va	32×28	44	?
7	Va	32	35	?
1	Va	32×28	28	13
2	Va	38×34	14	?
138	Va	22×18	30	?
規模		東西4.6m	南北2.7m	
柱間		桁行2間 梁行2間		
柱間		2.3m	1.3～1.5m	
面積		12.4㎡	横さ 10'E	

(SB10の位置は第7編の全体図を参照)

(3)井戸跡

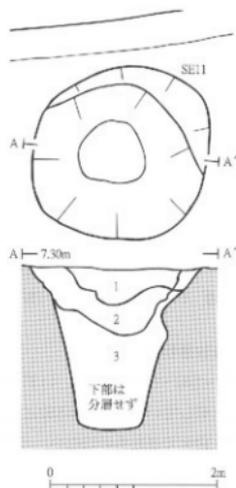
11C-SE11 (第536図) M22グリッドのVa層上面で確認した。11C-SB31 (IVb2期)に切られている。2.4×2.1mの楕円形で深さ2.1m。堆積土下層は人為的に埋め戻されている可能性がある。遺物は中世陶器片などが少量出土したが図化できたものはない。

(4)土坑

11C-SK17 (第537図) 11C-M18グリッドのVa層上面で確認した。11C-SB15 (IVb2期)に切られている。楕円形の浅い土坑で、堆積土は自然堆積層である。遺物は鉄滓1点である。

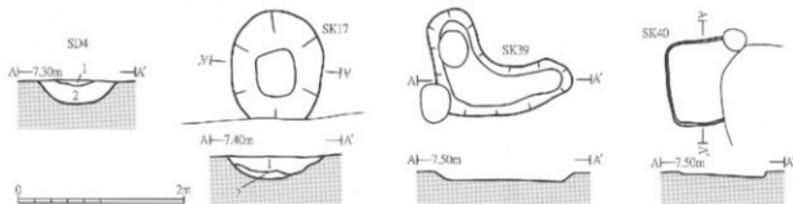
11C-SK39 (第537図) 11C-M20グリッドのVa層上面で確認した。11C-SB40 (IVb2期)に切られている。不整形の浅い土坑で、堆積土は直上のIVb層が入り込んでいた。遺物は土師器などが出土したが図化できたものはない。

11C-SK40 (第537図) 11C-M20グリッドのVa層上面で確認した。11C-SB40 (IVb2期)やSE20に切られている。方形と考えられる浅い土坑で、堆積土は直上のIVb層が入り込んでいた。遺物は土師器などが出土したが図化できたものはない。



層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR2/2 黒褐色	粘土	瓦片
	10YR1.5/1 黒色	灰	
2	10YR2/2 黒褐色	粘土	瓦片
	10YR1.5/1 黒色	灰	
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	灰色粘土ブロック・黒褐色シルトブロック多量

第536図 11C-SE11 平面・断面図



層位	色調	土質	混入物・その他
11C-SK17	1 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒少量
	2 10YR1/2 黒褐色	砂質シルト	
11C-SK40	1 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック・炭化物・粘土粒少量 炭化物粒少量
	2 10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	

第537図 11C-SK17・SK39・40 平面・断面図

第5節 Va層の遺構

1. 遺構の概要

Va層は10区と同じく畑の耕作土と考えられる層である。層上面で確認された遺構の分布状況も10区同様に少なく、竪穴住居跡1棟、井戸跡1基、土坑19基などである。なおこの外にピット約1000基があるが、これについてはIVa層やIVb層の項で述べたように、IVa層やIVb層の屋敷や城館に関係する建物の柱穴である可能性が高いと考えられる。

2. 11A区西部の遺構と遺物

新たに確認した遺構は竪穴住居跡1棟で、この外に溝跡1条、井戸跡1基、土坑4基がある（第544・547図）。

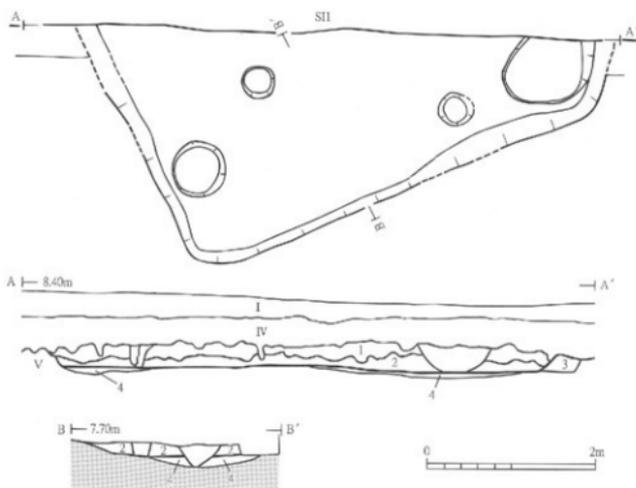
(1) 竪穴住居跡

11A-SI1（第538図） M4・5グリッドのVa層上面で確認した。北壁際に位置するため調査できたのは全体の1/3ほどである。大きさは東西方向が約6mと推定され、深さは約30cmであるが、上部は削平されていると考えられる。堆積土は自然堆積層である。カマドや明瞭な柱穴などは確認できなかった。

遺物はロクロ土師器・須恵器片などが約800点と鉄釘2点で、須恵器坏4点、土師器坏1点、土師器甕1点、鉄釘1点が図化できた（表132、第546図）。

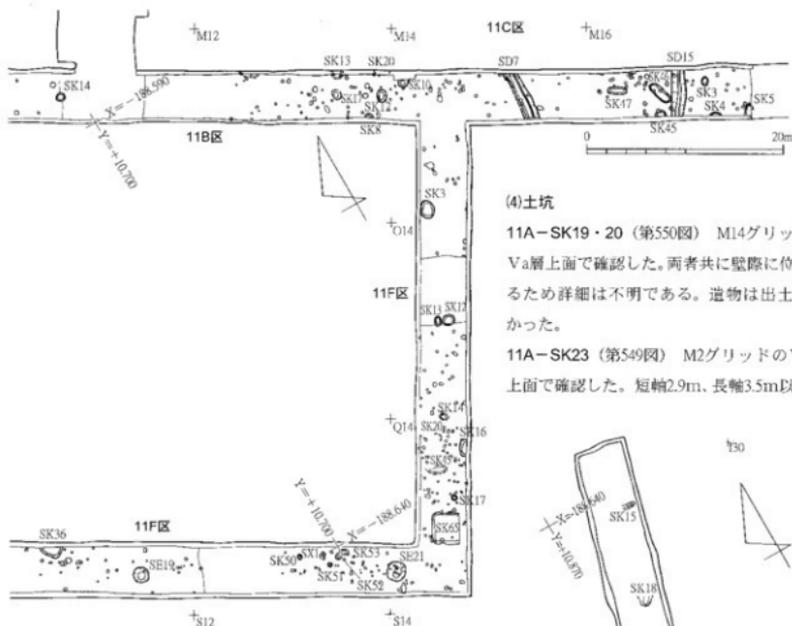
(2) 溝跡

11A-SD6（第547・549図） M5グリッドのVa層上面で確認した小規模な溝跡で、11A-SK22に切られている。幅1m、深さ15cmで、堆積土は直上のIVb層が入り込んでいた。



調査	色調	土質	混入物・その他
1	10YR3/7 暗褐色	物質シルト	粘土粒・炭化物粒少量
2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粘土粒・炭化物粒・V層ブロックや砂多量
3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	炭化物多量、粘土ブロック少額
4	10YR5/7 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック多量、炭化物やや多額

第538図 11A-SI1 平面・断面図



第542図 11B区東部～11C区西部・11F区東部
Va層上面平面図

楕円形と推定される。深さは約15cmで浅い。

遺物は土師器を中心に約280点出土している。中世の土器類が若干含まれているがごくわずかであるので周辺からの混入と考えられる。図化できたのは土師器坏や甕6点、鉄製品2点などである（表132、第548図）。

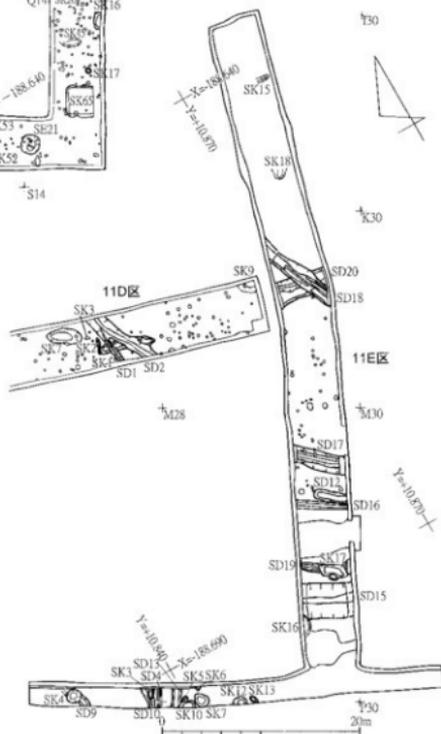
11A-SK29（第550図）M5グリッドのVa層上面で確認した。大きさが5.1×1.5mの長楕円形の土坑で、深さは約40cmである。

遺物は土師器を中心に約330点出土している。中世の土器類が若干含まれているがごくわずかであるので周辺からの混入と考えられる。図化できたのは土師器や赤焼土器4点である（表132、第552図）。

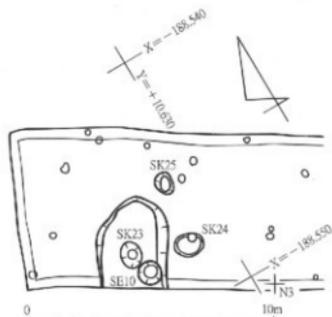
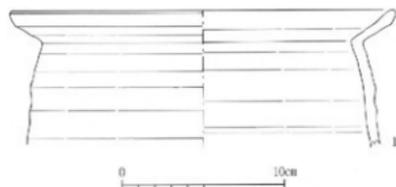
(4)土坑

11A-SK19・20（第550図）M14グリッドのVa層上面で確認した。両者共に壁際に位置するため詳細は不明である。遺物は出土しなかった。

11A-SK23（第549図）M2グリッドのVa層上面で確認した。短軸2.9m、長軸3.5m以上の



第543図 11D区東部～11E区Va層上面平面図



第544図 11A区西部Va層上面平面図

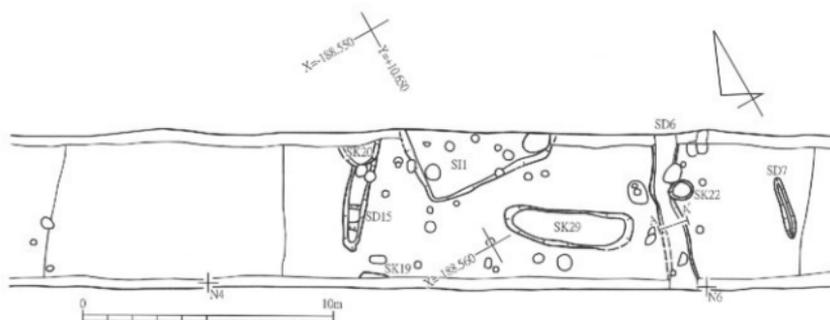
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量(cm)			調整・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
	D-53	11A-P46	土師器・甕	上部1/6		(23.5)			ロク口調整、白針敷	194-5

第545図 11A-P46 出土遺物

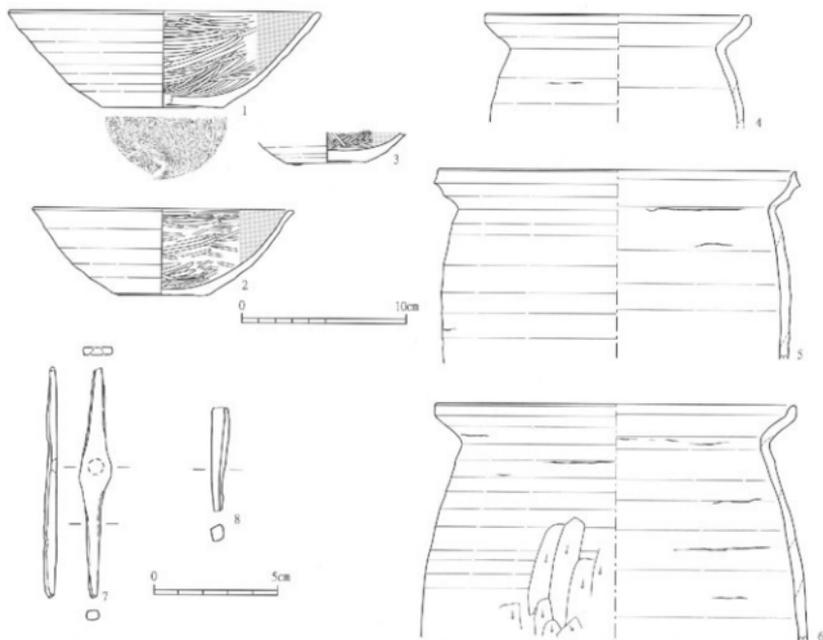


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量(cm)			調整・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	E-115	11A-S11	須恵器・杯	1/3		14.2	7.5	3.9	ロク口調整、底径調整不明→テテ、裏面/口縁0.48	193-7
2	E-114	11A-S11	須恵器・杯	1/2		(14.6)	(7.0)	4.1	ロク口調整、底径調整不明→テテ、裏面/口縁0.48	193-8
3	E-111	11A-S11	須恵器・杯	底部のみ			5.8		ロク口調整、同軸糸切、白針敷	193-9
4	E-112	11A-S11	須恵器・杯	底部のみ			7.3		ロク口調整、同軸糸切→テテ、裏面/口縁0.48	193-10
5	D-54	11A-S11	土師器・杯	1/4		(16.0)	(7.7)	6.0	ロク口調整、底径調整不明→テテ、裏面/口縁0.48	193-11
6	D-51	11A-S11	土師器・甕	上部1/4		(21.8)			ロク口調整、底径調整不明→テテ、裏面/口縁0.48	193-13
7	No-223	11A-S11	鉄製品・釘	頭~中央部		長さ	0.9	0.8	19前+	193-12

第546図 11A-S11 出土遺物

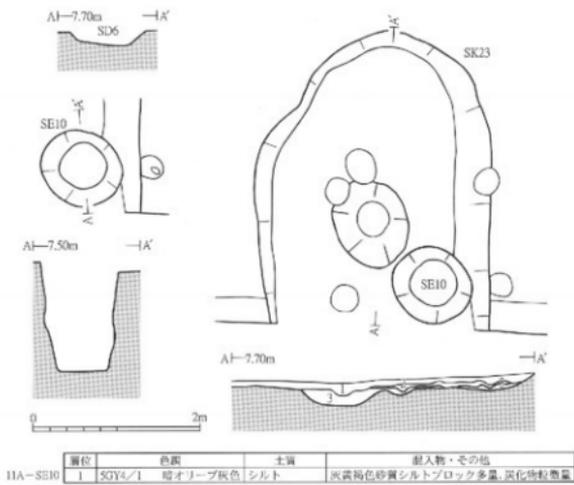


第547図 11A区中央部Va層上面平面図



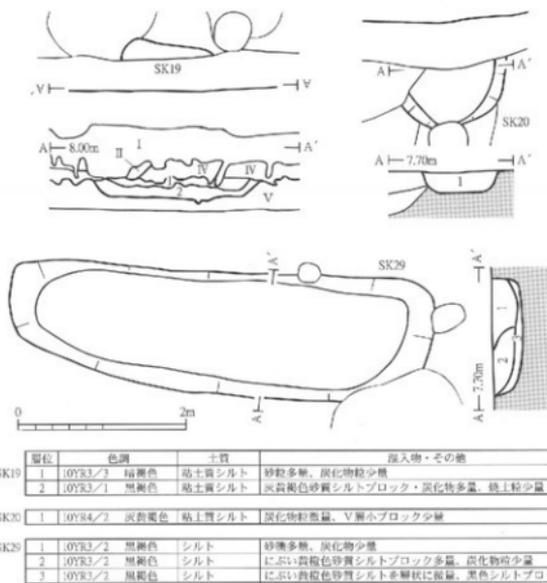
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(名称) 部種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 掲載
					口径	底径	高さ		
1	D-46	11A-SK23	土師器・杯	2/3	(19.0)	(7.4)	6.0	口クロ面塗、縁に赤土、内面ヘラミガキ・茶色感色、白針織量 底径/口径0.39	193-14
2	D-7	11A-SK23	土師器・杯	1/6	(16.0)	(5.8)	5.4	口クロ面塗、縁に赤土、内面ヘラミガキ・茶色感色、白針織量 底径/口径0.36	193-15
3	D-45	11A-SK23	土師器・杯	下部			4.9	口クロ面塗、底面回転糸切・ヘラ記号「×」 内面ヘラミガキ・黒色処理、白針織量	193-16
4	D-50	11A-SK23	土師器・甕	上部1/4	(16.3)			口クロ面塗	193-17
5	D-48	11A-SK23	土師器・甕	上部1/4	(22.0)			口クロ面塗、白針織量	193-18
6	D-49	11A-SK23	土師器・甕	上部1/4	(22.2)			口クロ面塗、体部外面下半ヘラケズリ	193-19
7	Na-225	11A-SK23・1期	鉄製品・用途不明	ほぼ完了?	9.4+	1.3	0.4	10g+	193-20
8	Na-226	11A-SK23	鉄製品・釘	中央部	4.2+	0.6	0.5	4g+	193-21

第548図 11A-SK23 出土遺物



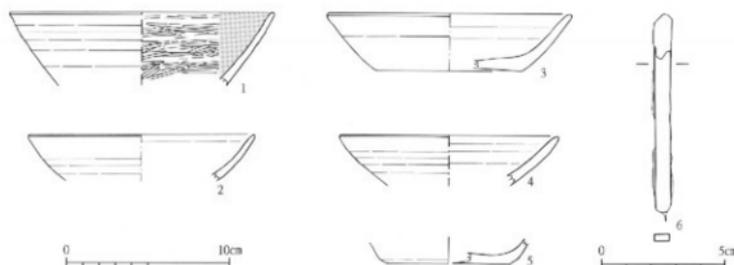
層位	色調	土質	埋入物・その他
11A-SE10	1 SGY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	灰青褐色砂質シルトブロック多量、炭化物粒少量
11A-SK23	1 10YR4/2 灰青褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト多量、炭化物粒少量
	2 10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量
	3 10YR5/2 灰青褐色	砂質シルト	灰青褐色シルトブロック少量

第549図 11A-SD6 断面図、SE10、SK23 平面・断面図



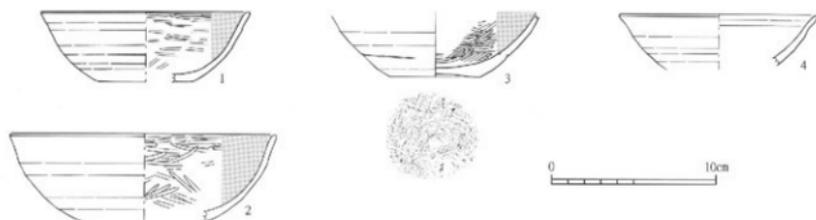
層位	色調	土質	埋入物・その他
11A-SK19	1 10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	砂粒多量、炭化物粒少量
	2 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰青褐色砂質シルトブロック・炭化物多量、焼土粒少量
11A-SK20	1 10YR4/2 灰青褐色	粘土質シルト	炭化物粒少量、V層小ブロック少量
11A-SK29	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	砂粒多量、炭化物少量
	2 10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルトブロック多量、炭化物粒少量
	3 10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト多量に少量、黒色シルトブロック少量

第550図 11A-SK19・20・29 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	D-43	11A-SD6	土師器・杯	上部1/5	(16.0)			ロクロ調整、内面ヘラミガキ・褐色処理、白針敷量	193-1
2	E-100	11A-SD6	須恵器・杯	1/10	(13.8)			ロクロ調整	193-2
3	E-102	11A-SD6	須恵器・杯	1/5	(14.9)	(8.8)	3.5	ロクロ調整、回転糸切、底径/口径0.59	193-4
4	E-101	11A-SD6	須恵器・杯	1/10	(13.4)			ロクロ調整、白針敷量	193-3
5	E-103	11A-SD6	須恵器・杯	底部1/2		7.4		ロクロ調整、回転糸切	193-5
6	Na-229	11A-SD6	鉄製品・釘	中央部	8.4+	0.6	0.3	8g+	193-6

第551図 11A-SD6 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	D-40	11A-SK29	土師器・杯	1/3	(12.6)	(5.9)	4.3	ロクロ調整、回転糸切、内面ヘラミガキ・褐色処理 底径/口径0.47	194-3
2	D-42	11A-SK29	土師器・杯	上部1/7	(16.0)			ロクロ調整、内面ヘラミガキ・褐色処理	194-1
3	D-41	11A-SK29	土師器・杯	下部		5.4		ロクロ調整、回転糸切、内面ヘラミガキ・褐色処理、白針敷量	194-2
4	D-82	11A-SK29	赤土師器・杯	1/4	(11.9)			ロクロ調整、内面工痕度	194-4

第552図 11A-SK29 出土遺物

3. 11B区～11F区北部～11C区西部の遺構と遺物

溝跡2条、土坑9基がある。

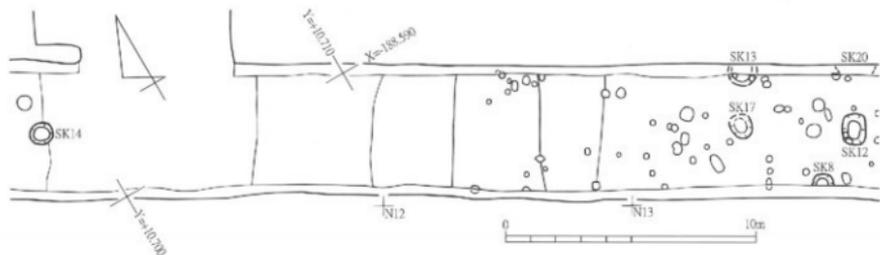
(1) 溝跡

11C-SD5 (第555・556図) M16グリッドのVa層上面で確認した。幅約1.5～2m、深さ40cmで、堆積上は自然堆積層である。鉄釘1点が出土している(表134、第560図7)。

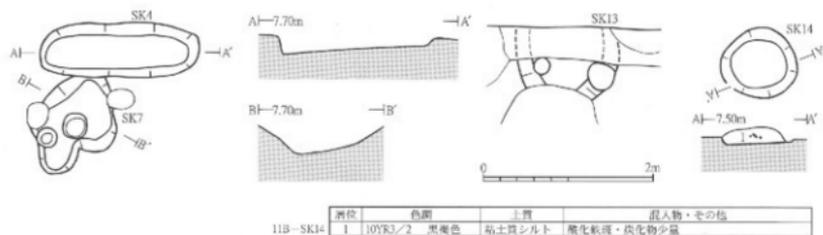
11C-SD7 (第555・556図) M15グリッドのVa層上面で確認した。幅約1.5m、深さ65cmで、断面形は上部が大きく開くが下部は箱型に近い。堆積上は自然堆積層である。遺物は土師器片などが60点以上出土したが固化できたものはない。

(2) 土坑

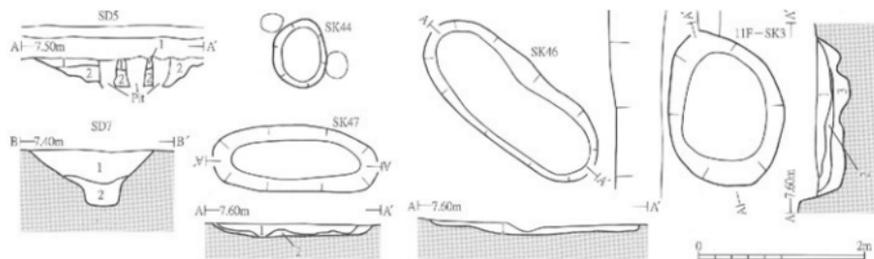
11B-SK4・7 (第554図) M9グリッドに位置し、SK4はVa層上面、SK7はVb層上面で確認した。SK4は長楕円形、



第553図 11B区東部Va層上面平面図

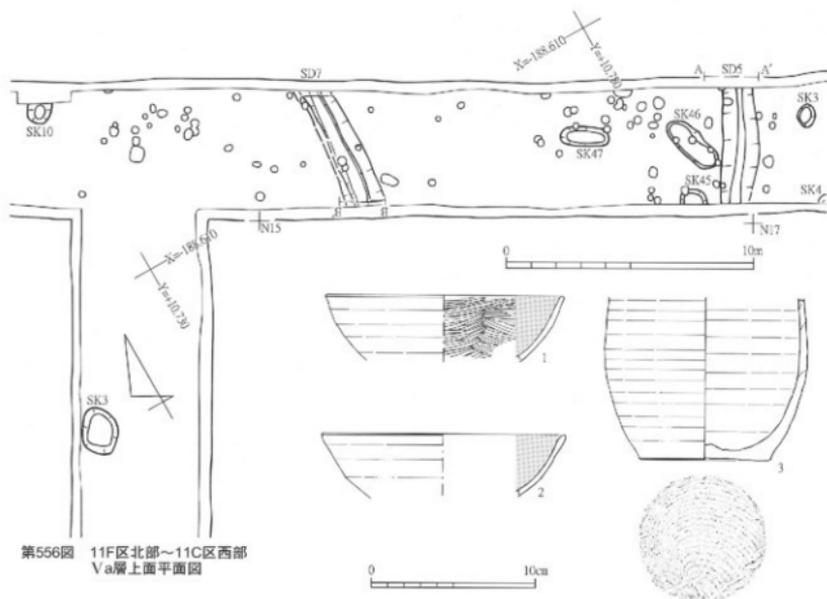


第554図 11B-SK4・7・13・14 平面・断面図



	層位	色調	土質	混入物・その他
11C-SD5	1	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	炭化物粒・粘土粒少量
	2	10YR3/2	黒褐色シルト	炭化物粒・粘土粒少量
11C-SD7	1	10YR4/2	灰黄褐色シルト	炭化物・粘土粒少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色粘土質シルト	軽オリーブ灰色粗砂を團状に堆積、炭化物少量
11C-SK47	1	10YR3/2	黒褐色	炭化物・粘土粒少量
	2	10YR4/2	灰黄褐色	炭化物粒少量、V層砂質ブロック多量
11C-SK46	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト
	2	10YR4/2	灰黄褐色	炭化物・粘土粒少量
11F-SK3	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト
	3	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト

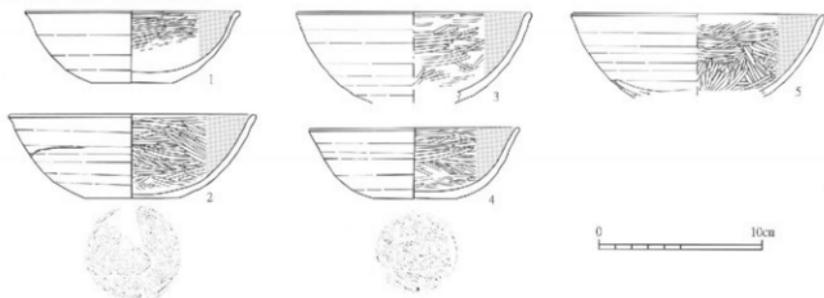
第555図 11C-SD5・7、SK44・46・47、11F-SK3 平面・断面図



第556図 11F区北部～11C区西部
Va層上面平面図

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図取
					口径	底径	器高		
1	D-73	11B-SK6	土師器・杯	3/5	(14.4)			ロク口調整, 内面ヘラミガキ・黒色処理, 白針微塵	194-6
2	D-72	11B-SK6	土師器・杯	1/5	(14.7)			ロク口調整, 内面ヘラミガキ・黒色処理, 黒色処理, 白針微塵	194-7
3	D-75	11B-SK6	土師器・小型碗	下部		8.0		ロク口調整, 黒色処理, 赤褐色, 赤褐色	194-8

第557図 11B-SK4 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図取
					口径	底径	器高		
1	D-70	11B-SK14	土師器・杯	2/3	(12.9)	5.0	4.4	ロク口調整, 内面ヘラミガキ・黒色処理, 白針微塵, 底径/口径0.39, 被熱痕跡	194-9
2	D-69	11B-SK14	土師器・杯	ほぼ完部	14.9	5.7	5.1	ロク口調整, 内面ヘラミガキ・黒色処理, 白針少塵, 底径/口径0.38	194-10
3	D-68	11B-SK14	土師器・杯	2/3	(14.2)			ロク口調整, 内面ヘラミガキ・黒色処理	194-11
4	D-71	11B-SK14	土師器・杯	3/5	12.7	5.0	4.4	ロク口調整, 内面ヘラミガキ・黒色処理, 白針微塵, 底径/口径0.39, 被熱痕跡	194-12
5	D-74	11B-SK14	土師器・杯	1/5	(15.4)			ロク口調整, 内面ヘラミガキ・黒色処理, 白針微塵, 被熱痕跡	194-13

第558図 11B-SK14 出土遺物

SK7は不整形で、深さは20~30cmである。堆積土は直上層が入り込んでいる。SK4からは土師器片などが約100点出土し、このうち3点が図化できたが(表133、第557図)、SK7からの出土遺物はない。

11B-SK14(第554図) M10グリッドのVa層上面で確認した。径1m弱の円形で、深さは20cm、堆積土は単層である。土師器などが廃棄された状態で出土しており、坏5点が図化できた(表133、第558図)。

11B-SK13・20(第554図) M13グリッドのVa層上面で確認した。両者共に壁際に位置するため不明な点が多く、遺物も出土しなかった。

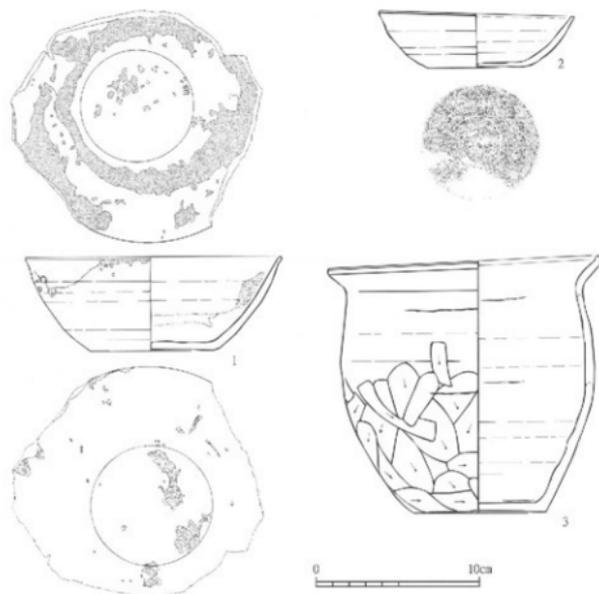
11F-SK3(第555図) N14グリッドのVa層上面で確認した。2.0×1.4mの楕円形で、深さ60cm、堆積土下部は自然堆積層であるが上層は埋め戻されている。遺物は出土しなかった。

11F-SK65(第527図) R14グリッドのVI層上面で確認した方形の土坑で、南北3m×東西3m以上、深さ30cmである。堆積土は直上のVb層である。遺物は土師器・須恵器が約70点出土し、3点が図化できた(第561図)。

11C-SK44(第555図) M18・19グリッドのVb層上面で確認した。約70~80cmの楕円形である。遺物は須恵器坏2点と土師器壺1点で、このうち2点はほぼ完形である(表134、第559図)。1の須恵器坏は内面にタール状の付着物が認められることから灯明皿として使用されたと考えられる。

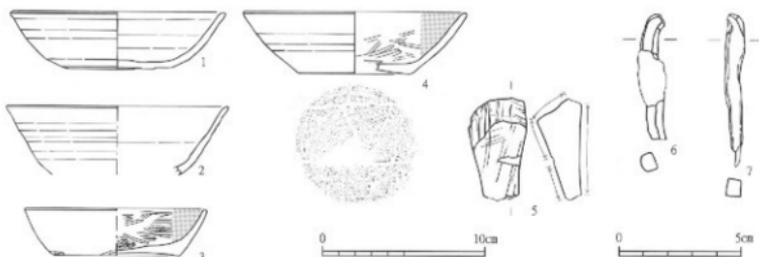
11C-SK46・47(第555図)

M16グリッドのVb層上面で確認した長楕円形の浅い土坑である。遺物はSK46から土師器や須恵器などの破片が300点出土し、土師器や須恵器の坏、砥石、鉄釘などが図化できた(表134、第560図1~6)。また、中世の土器類がわずかに含まれているがこれは周辺からの混入と考えられる。なお、SK47からは土師器片、鉄滓などが4点出土したが図化はできなかった。



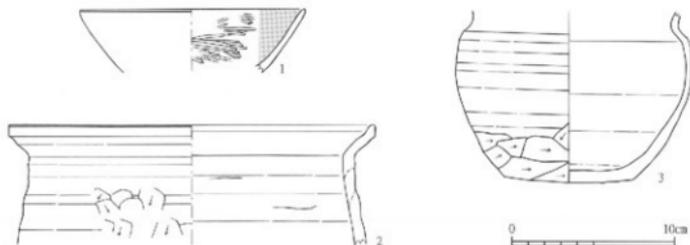
No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真図版
					口径	底径	高さ		
1	E-58	11C-SK44	須恵器・坏	3/4	15.6	7.5	5.8	口径調整、底部切離法不明→脚板ヘラケズリ内外面にタール状の付着物、底径/口径0.48	194-15
2	E-59	11C-SK44	須恵器・坏	ほぼ完形	12.0	5.8	3.4	口径調整、底部切離法不明→脚板ヘラケズリ、脚板調整底径/口径0.48	194-16
3	D-12	11C-SK44	土師器・壺	完形	15.6~15.7	7.8~8.3	15.7	口径調整、底部切離法不明→脚板ヘラケズリ、脚板調整	194-17

第559図 11C-SK44 出土遺物



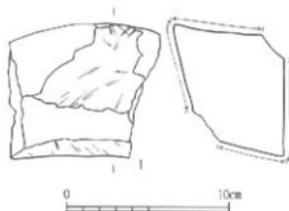
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	E-61	11C-SK46	須恵器・坏	土師器	1/3	(13.1)	6.8	3.5	ロク口調縁、内面ヘラミガキ、白針倉量、底径/口径0.52	194-19
2	E-63	11C-SK46	須恵器・坏	土師器	1/5	(13.3)			ロク口調縁	194-18
3	D-16	11C-SK46	土師器・坏	土師器	3/5	(10.8)	(7.6)	2.9	ロク口調縁、目録未録、外面下部下縁子母ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・藍色焼遺	194-20
4	D-17	11C-SK46	土師器・坏	土師器	5/6	(13.6)	6.9	3.8	ロク口調縁、目録未録、外面ヘラミガキ・藍色焼遺、白針倉量 底径/口径0.51	194-21
5	K-138	11C-SK46	石製品・砥石		端部のみ	6.4+	3.5	2.7	59g+, デイサイト質凝灰岩	194-22
6	Na-289	11C-SK46	鉄製品・釘		中央部	5.1+	0.7	0.5	15g+	194-23
7	Na-293	11C-SD5	鉄製品・釘		1/5	6.2+	0.7	0.5	5g+	194-14

第560図 11C-SD5、SK46 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	D-22	11F-SK65	土師器・坏	土師器	1/6	(13.6)			ロク口調縁、内面ヘラミガキ・藍色焼遺	191-1
2	D-23	11F-SK65	土師器・坏	土師器	上部1/3	(22.3)			ロク口調縁、体部外面ヘラケズリ	191-2
3	D-24	11F-SK65	土師器・坏	土師器	3/6		7.8		ロク口調縁、底径・体部下部ヘラケズリ、白針倉量	191-3

第561図 11F-SK65 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	K-130	11F-SK45-1層	石製品・砥石		中央部のみ	9.2+	8.2	6.4	665g+, デイサイト	195-6

第562図 11F-SK45 出土遺物



第563図 11C区東部～11D区西部Va層上面平面図

4. 11C区東部～11D区西部の遺構と遺物

(1)土坑

11C-SK19 (第564図) N22グリッドのVa層上面で確認した。西側の上部をIVb層から掘り込まれた11C-SD1に切られている。平面形は方形で、西側が調査区外のため東西長は不明であるが、南北は3.8mである。深さは1.3mで断面形は箱型に近い。堆積土はブロック状の混合上で、人為的に埋め戻されている。遺物は土師器片がわずかに出上しているのみで図化できたものもない。

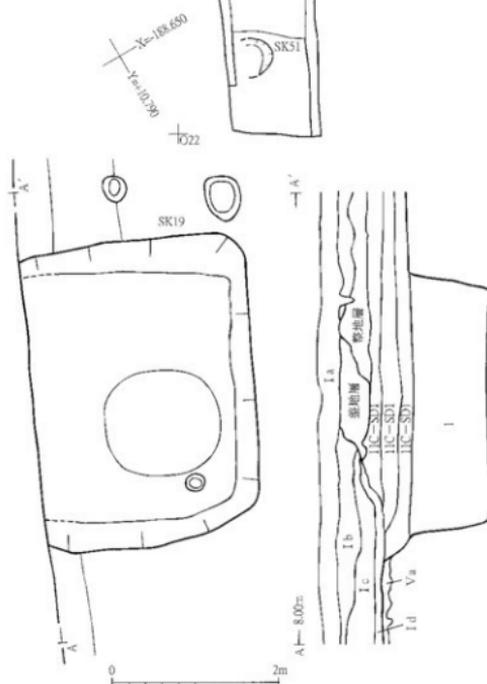
5. 11D区～11E区の遺構と遺物

この付近は現代の水田によって削平を受けているため、遺構の確認面はVa層～VI層である (第566・567図)。

(1)溝跡

11D-SD1・2 (第566・567図) L27グリッドのVa層上面で確認した。SD1がSD2を切っている。SD1は幅約70cm、深さ20cm、SD2は幅1～1.5m、深さ40cmである。SD2は堆積上の状況からすると人為的に埋め戻されている可能性がある。遺物はSD1から土師器片などが数点出土しているのみで図化できたものはない。

11D-SD3 (第566図) L25～26グリッドのVa層上面で確認した。幅約70cm、深さ10cmである。遺物は出土しなかった。



層位	色調	土質	遺人物・その他
1	SK1/1 2.SY3/2 10YR5/1	暗緑灰色 黄褐色 暗灰色	粘土質シルト 粘土質シルト シルト
		ブロックの混合	人為的な埋め土

第564図 11C-SK19 平面・断面図

11D-SD8(第566図) 11D区南部のNO26グリッドのVa層上面で確認した。大部分を城館の堀SD1009やSD1012によって切られているため、溝の下部だけが残存している。幅は推定4m、深さは約80cm、堆積土は自然堆積層である。なお、位置関係と規模からすると11E-SD15につながる可能性が高い。遺物は土師器・須恵器片が50点出土しているが、図化できたものはない。

11E-SD15(第567図) NO29グリッドのVI層上面で確認した。11E-SK16に切られており、埋没後は同じ場所に11E-SD7(IVa3期)が掘られている。軸3.6m、深さ80cmで、堆積土は自然堆積層である。前述したように西側にある11D-SD8とつながる可能性が高い。遺物は須恵器などが100点以上出土し、木製品を含む5点が図化できた(表137、第565図)。

11E-SD17(第567図) M29グリッドのVI層上面で確認した。幅約2m、深さ70cmで、堆積土の状況からすると人為的に埋め戻されている可能性がある。このことと位置関係などから、SD17は11D-SD2とつながる可能性がある。遺物は出土していない。

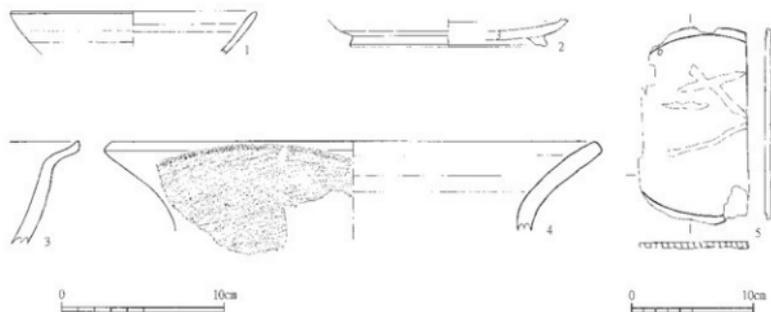
11E-SD18(第567図) K29グリッドのVI層上面で確認した溝跡で、11E-SD20を切っている。幅1.3~2m、深さ30cmである。遺物は土師器片が55点出土したが図化できたものはない。

11E-SD19(第567図) N29グリッドのVI層上面で確認した。幅約1m、深さ30cmで、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

11E-SD20(第567図) K29グリッドのVI層上面で確認した溝跡で、SD18に切られている。幅約2.5m、深さ20cmである。西側の11D区で確認できなかったが、削平された結果と推定される。遺物は土師器片などが数点出土したのみで、図化できたものはない。

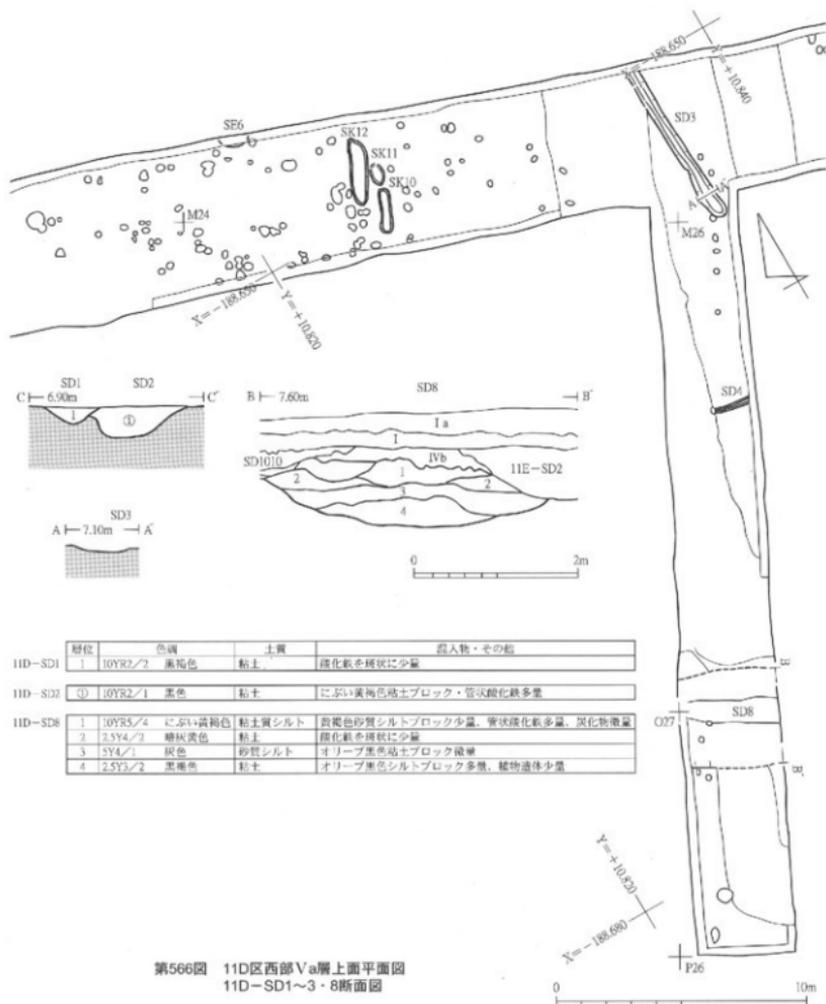
(2)土坑

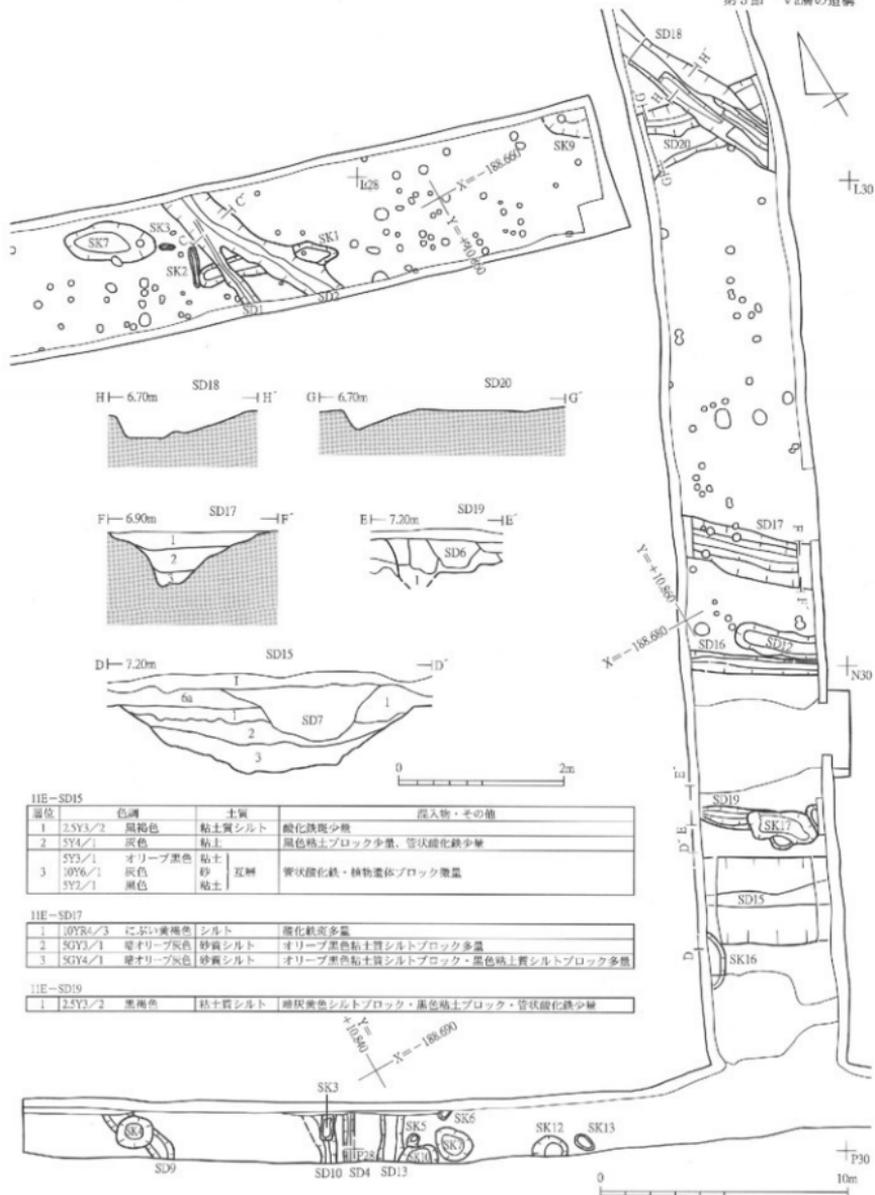
11D-SK1(第567図) L27グリッドのVa層上面で確認した長楕円形の土坑である。11D-SD1とSD2に切られている。大きさは5.7×1.4m、深さは15cmと浅い。遺物は出土していない。



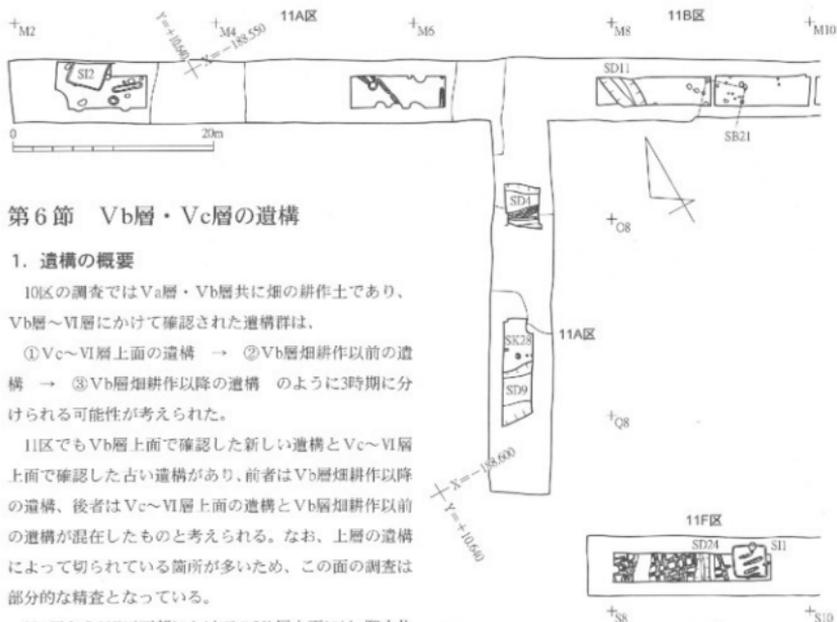
No.	発見地	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	径長(cm)			調整・特徴	写真 図像
						口徑	底径	胎高		
1	B-134	11E-SD15	須恵器・杯	1/10	(-)	(5.0)		口ク口調整	195-1	
2	B-133	11E-SD15	須恵器・高台杯	底部1/8		(7.0)		胎状、口ク口調整、口針痕	195-2	
3	B-132	11E-SD15	須恵器・鉢	口縁部小片				口ク口調整、口針痕	195-3	
4	B-131	11E-SD15	須恵器・鉢	口縁部小片	(30.2)			口ク口調整、タタキ痕跡	195-4	
5	L-461	11E-SD15・3期	木製品・横物	底板1/2	5.0		厚0.6		195-5	

第565図 11E-SD15 出土遺物





第567図 11D区東部～11E区Va層上面平面図、11E-SD15・17～20 断面図



第568図 11A区～11B区西部・11F区西部
Vb・Vc層上面平面図

第6節 Vb層・Vc層の遺構

1. 遺構の概要

10区の調査ではVa層・Vb層共に畑の耕作土であり、Vb層～VI層にかけて確認された遺構群は、

①Vc～VI層上面の遺構 → ②Vb層畑耕作以前の遺構 → ③Vb層畑耕作以降の遺構 のように3時期に分けられる可能性が考えられた。

11区でもVb層上面で確認した新しい遺構とVc～VI層上面で確認した古い遺構があり、前者はVb層畑耕作以前の遺構、後者はVc～VI層上面の遺構とVb層畑耕作以前の遺構が混在したものと考えられる。なお、上層の遺構によって切られている箇所が多いため、この面の調査は部分的な精査となっている。

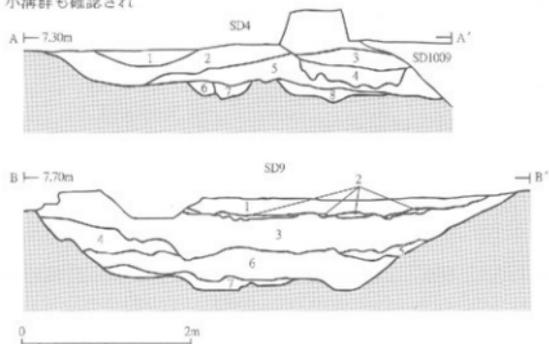
11A区から11F区西部にかけてのVb層上面には、堅穴住居跡と溝跡が散在している。VI層上面では11B区から東側に溝跡が多数認められているほか、小溝群も確認されている。

2. 11A区の遺構と遺物

(1) 溝跡

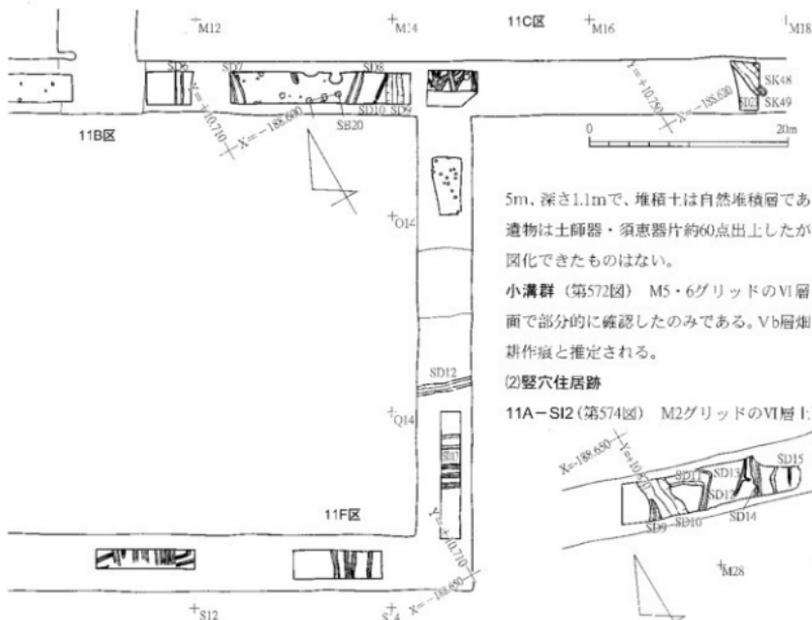
11A-SD4 (第569・572図) N7グリッドのVb層上面で確認した。南半部をSD1009によって切られている。幅4m以上、深さ70cmで、堆積土層に灰白色火山灰を含んでいる。遺物は鉄滓1点である。

11A-SD9 (第569・572図) P6・7グリッドのVb層上面で確認した。幅約



第569図 11A-SD4・9 断面図

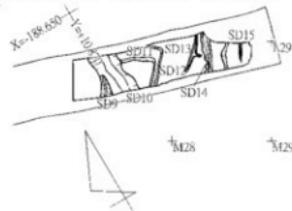
11A-SD4	層位	色調	土質	埋人物・その他
1	10YR5/2	灰黄色	粘土	管状酸化鉄多量、マンガン粒少量
2	10YR5/2	灰黄色	粘土	褐色粘土ブロック少量、灰白色火山灰多量に散在、管状酸化鉄多量、マンガン粒少量
3	10YR2/1	黒色	粘土	管状酸化鉄少量
4	10YR2/2	黒褐色	粘土	暗灰黄色粘土ブロック少量、酸化鉄を塊状に散在
5	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土	褐色粘土ブロック・にぶい黄色砂ブロック・管状酸化鉄少量
6	2.5Y4/1	黒褐色	粘土	褐色粘土ブロック少量、酸化鉄を塊状に少量
7	3.5Y3/1	黒褐色	粘土	埋人物少量
8	10YR3/1	黒褐色	粘土	埋人物少量



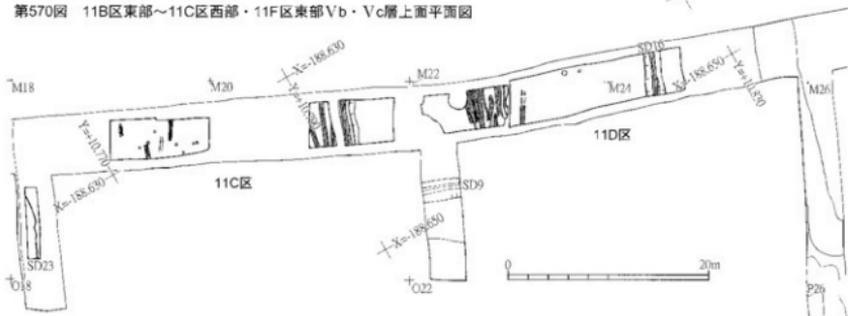
5m、深さ1.1mで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器・須恵器片約60点出土したが、図化できたものはない。小溝群（第572図）M5・6グリッドのVI層上面で部分的に確認したのみである。Vb層畑の耕作痕と推定される。

(2) 竪穴住居跡

11A-S12（第574図） M2グリッドのVI層上面



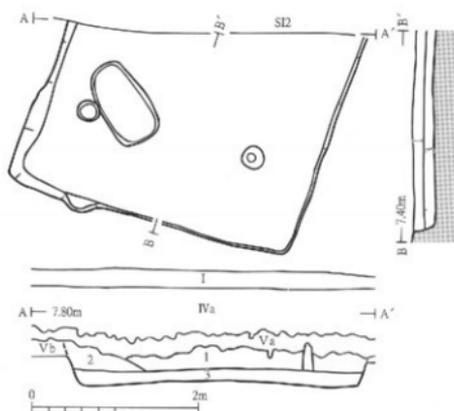
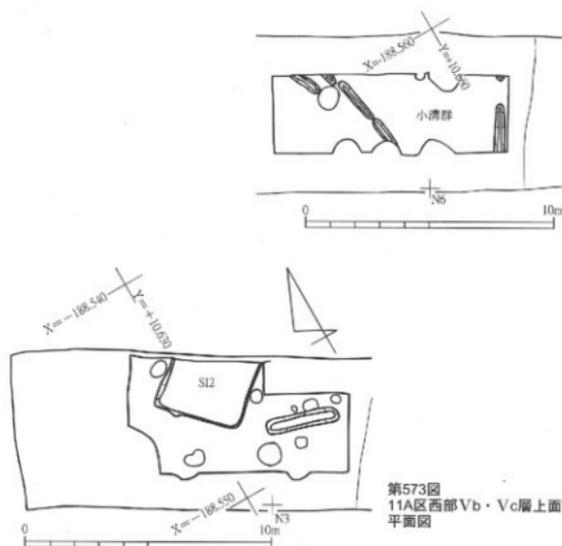
第570図 11B区東部～11C区西部・11F区東部Vb・Vc層上面平面図



第571図 11C区東部～11D区Vb・Vc層上面平面図

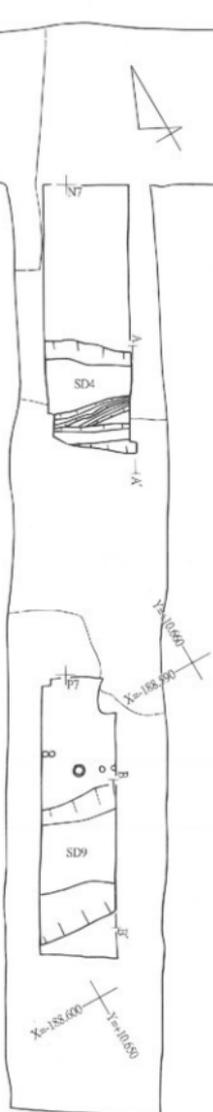
11A	SD9	層位	色層	土質	層人数・その他
1		2.5Y6/2	灰黄色	粘土	館北縁を境頭に少量、マンガン粉少量
2		5Y8/2	灰白色	粘土質シルト	黄鉄鉱化鉄少量、マンガン粉微量
3		2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土	酸化鉄を層状に散布、マンガン粉微量、酸化物粒少量
4		2.5Y6/3	にじみ黄色	砂質シルト	酸化鉄を層状に散布
5		2.5Y6/3	にじみ黄色	砂質シルト	互層
6		2.5Y7/3	濃褐色	粘土	
7		5Y6/1	灰褐色	粘土	黑色粘土ブロック少量、灰褐色を層状に散布
7		7.5Y1/1	オリーブ黒色	粘土	灰色砂ブロック散見

で確認したが、北部は調査区外となっている。東西長約3.5m、床面までの深さ10cmで、カマドは確認できなかったが、主柱穴2基を検出した。残存状況からすると本来はVb層から掘り込まれていた住居が廃絶後にVb層畑の耕作によって攪拌され、上部が失われた結果確認面がVI層となったと考えられる。遺物は出土しなかった。



層位	色調	土質	産人物・その他
1	ICYR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	産人物・その他
2	ICYR1/4 に近い黄褐色	砂質シルト	マンガン灰・V層ブロック多量、人為的な埋め土?
3	ZSYR3/2 黒褐色	粘土質シルト	マンガン灰多量
			暗オリーブ灰色砂質シルトブロック多量、酸化鉄点多量に少量

第574図 11A-SI2 平面・断面図



第572図
11A区東部Vb・Vc層上面平面図

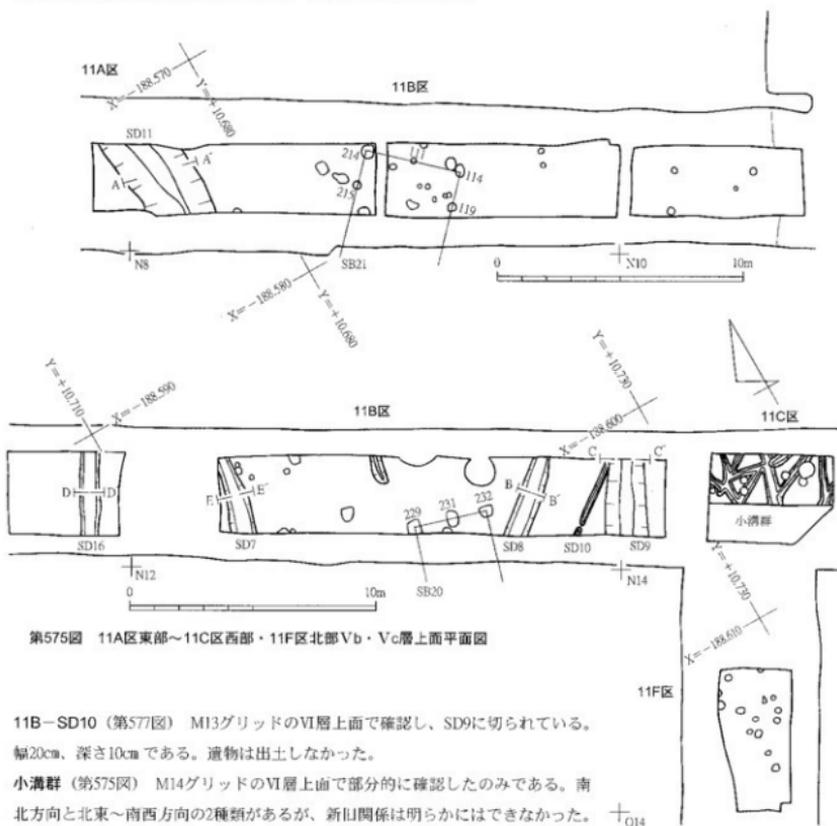
3. 11A区東部～11B区～11C区西部の遺構と遺物

(1) 溝跡

11A-SD11 (第575・577図) M7・8グリッドのVb層上面で確認した。平面では不明瞭であったが、断面観察では新旧2時期あることを確認し、新しいほうをSD11A、古いほうをSD11Bとした。SD11Aは幅1.6m、深さ80cm、SD11Bは切られているため幅は明確ではないが推定幅2m、深さ約80cmである。堆積土は両者とも自然堆積層である。遺物は土師器や須恵器の破片約100点が出土し、6点が図化できたが、A・B同時に掘り下げたため区別はできなかった(表132、第576図)。

11B-SD7・8・16 (第575・577図) M11～13グリッドのVI層上面で確認した。幅80～90cm、深さ10cmで、堆積土は直上のVb層である。遺物は出土しなかった。

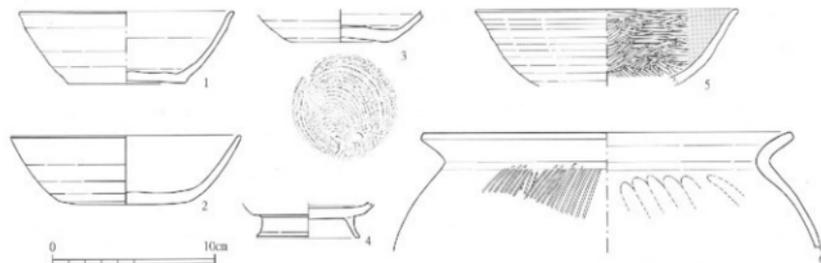
11B-SD9 (第575・577図) M13・14グリッドのVI層上面で確認し、小規模な溝跡SD10を切っている。幅1.5m、深さ50cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は出土しなかった。



第575図 11A区東部～11C区西部・11F区北部Vb・Vc層上面平面図

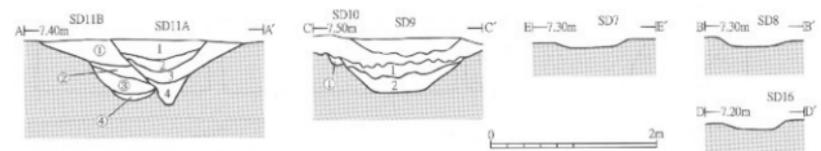
11B-SD10 (第577図) M13グリッドのVI層上面で確認し、SD9に切られている。幅20cm、深さ10cmである。遺物は出土しなかった。

小溝群 (第575図) M14グリッドのVI層上面で部分的に確認したのみである。南北方向と北東～南西方向の2種類があるが、新旧関係は明らかにはできなかった。Vb層畑の耕作痕と推定される。



No.	登録No.	地区・遺構・部位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	E-107	11A-SD11	須恵器・坪	1/2		(13.1)	(7.2)	4.4	ロクロ調整、回転糸切、底径/口径0.55	195-7
2	E-108	11A-SD11	須恵器・坪	1/3		(14.0)	7.4	4.2	ロクロ調整、転削調整不明、口縁ヘラツクリ、口縁微量紅彩/土匠53、内外面の磨き出し、底石に染み?	195-8
3	E-106	11A-SD11	須恵器・坪	底径のみ		(6.6)			ロクロ調整、回転糸切	195-9
4	E-104	11A-SD11	須恵器・碗?	底径のみ		6.2			ロクロ調整、底削調整不明、回転ヘラツクリ、付着物	195-10
5	D-44	11A-SD11	土師器・坪	上部1/5		(16.0)			ロクロ調整、内面ヘラツミガキ・黒色処理	195-11
6	F-105	11A-SD11	須恵器・甕	上部1/4		(22.2)			ロクロ調整、タタキ痕跡	195-12

第576図 11A-SD11 出土遺物



層位	色面	土質	層入物・その他
11A-SD11A	① 10YR5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄を斑点に少量、マンガング粒・炭化物微量
	② 2.5Y3/2 黄褐色	粘土	炭化物微量
	③ 5Y4/1 灰色	粘土	上半部は灰黄褐色シルト質粘土多量、酸化鉄を斑点に少量、炭化物微量
	④ 5Y2/2 オリーブ灰色	粘土	灰オリーブ色砂ブロック・炭化物微量
11A-SD11B	① 10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	下部に灰黄色砂・炭化物を斑点に少量、酸化鉄も少量、マンガング粒少量
	② 2.5Y3/1 黄褐色	粘土	黒色粘土ブロック少量、黄褐色砂を斑点に微量
	③ 10Y3/1 オリーブ灰色	粘土	黄褐色砂ブロック・管状酸化鉄微量
	④ 5Y2/1 灰色	粘土	黄褐色砂ブロック微量、炭化物少量
11B-SD9	① 10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	マンガング多量
	② 5GY4/1 暗オリーブ灰色	粘土質シルト	粘土質シルトブロック多量
11B-SD10	① 10YR5/2 黄褐色	粘土質シルト	VR用ブロック多量

第577図 11A-SD11、11B-SD7~10・16 断面図

11B-SB20

PNo.	確認層	大きさ	深さ	傾度
220	VI	55	21	?
231	VI	68×50	25	?
252	VI	51	23	?
規模	東西3.0m+	南北?		
要行	2回	柵行?		
柱間	1.5m			
面積		傾き	17°E	

11B-SB21

PNo.	確認層	大きさ	深さ	傾度
11A-215	VI	31	7	?
11A-214	VI	53	25	?
111	VI	21	29	?
114	VI	50×35	53	?
119	VI	36	40	?
規模	東西3.9m+	南北1.5m+		
要行	2回	柵行2回+		
柱間	1.9~2.0m	1.5m		
面積		傾き	43°E	

(2)掘立柱建物跡

11B区のVI層上面で2棟確認した。M13グリッドに11B-SB20、M8・9グリッドに11B-SB21が位置する。

4. 11F区の遺構と遺物

(1) 溝跡

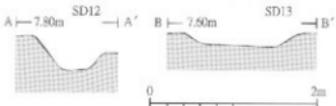
11F-SD12・13 (第579・580図)

PQ14グリッドのVb層上面で確認した。幅1~1.5m、深さ20~40cmで、堆積土は直上のVa層である。遺物は出土しなかった。

11F-SD24 (第578・581図) R8

グリッドのVI層上面で確認したが、調査区の壁面でVb層上面から掘り込まれていることを確認している。幅1.5m前後、深さ70

cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器・須恵器片約30点で、須恵器杯2点と甗1点が図化できた(表138、第582図)。

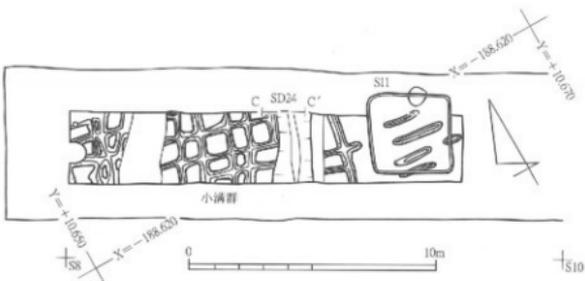


第579図 11F-SD12・13 断面図

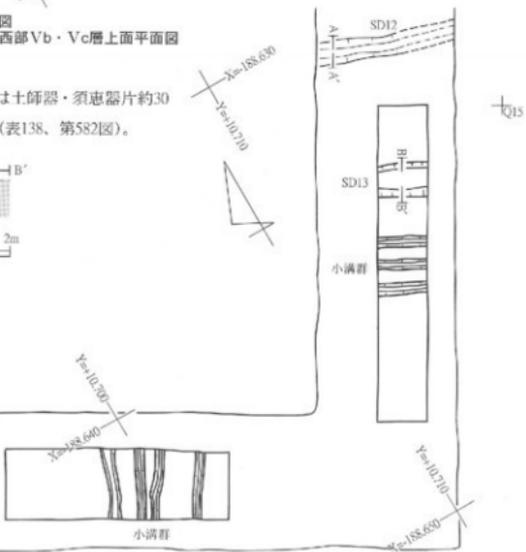
小溝群 (第578・580図) R8・9グリッドではVc層上面、その他の箇所ではVI層上面で確認している。南北方向のものと同方向の2種類があるが、新旧関係は明らかにはできなかった。Vb層畑の耕作痕と推定される。

(2) 竪穴住居跡

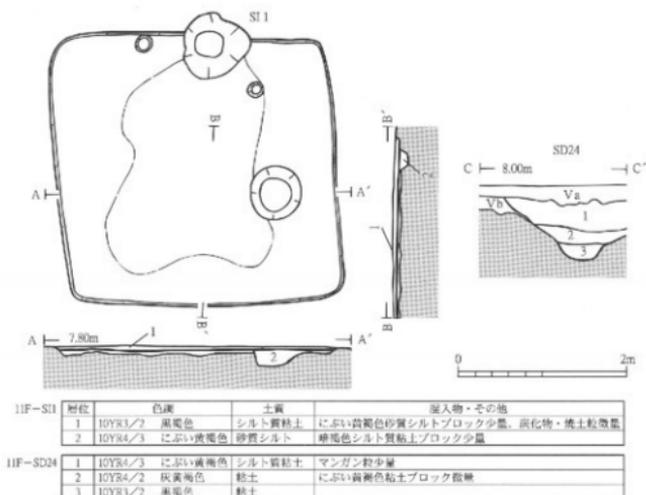
11F-SI1 (第581図) R9グリッドのVb層上面で確認した。一辺3.4mのやや歪んだ方形で、深さは5cmほどが残存していた。床面ではカマドや柱穴などは確認できなかった。残存状況からすると本来はVa層から掘り込まれていた住居が廃絶後にVa層畑の耕作によって攪拌され、上部が失われた結果確認面がVb層となったと考えられる。遺物は土師器・須恵器片が約250点出土し、須恵器3点が図化できた(表139、第583図)。



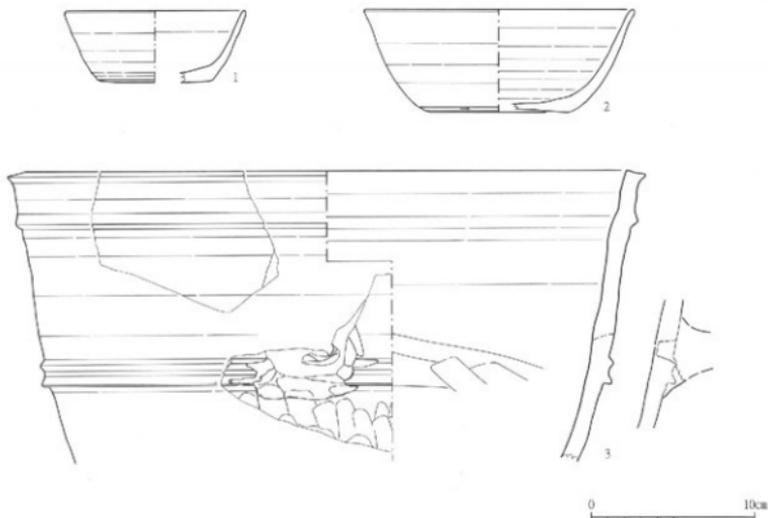
第578図 11F区西部Vb・Vc層上面平面図



第580図 11F区東部Vb・Vc層上面平面図

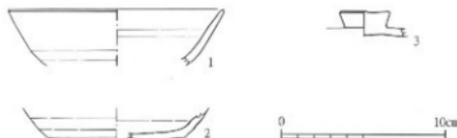


第581図 11F-SI1 平面・断面図、11F-SD24 断面図



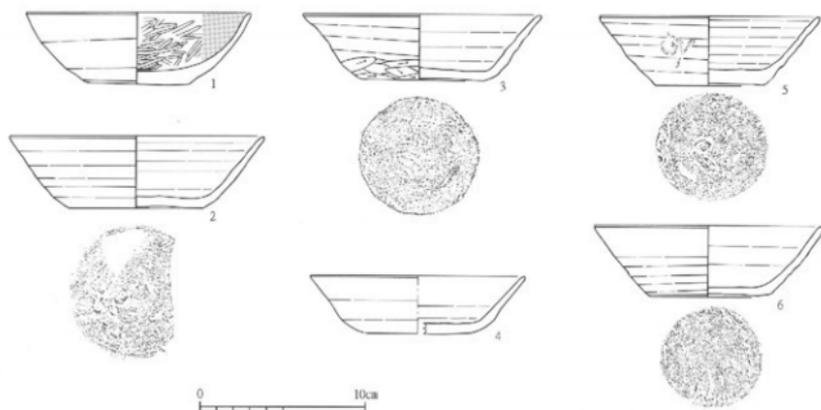
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法標 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	E-79	11F-SD24	須恵器・坏	1/4	(10.9)	(7.2)	4.5	口径測定、底径測定不明→口径ヘラウスリ一箇所ナブ 底径/口径0.66、白針微量	195-13
2	E-78	11F-SD24	須恵器・坏	1/4	(15.6)	(9.0)	6.4	口径測定、底径測定不明→底径ヘラウスリ一箇所ナブ 底径/口径0.54	195-14
3	E-77	11F-SD24	須恵器・瓶	部分	(39.0)			口径測定、口縁部と頸部に凸線、取っ手の痕跡等、太割	195-15

第582図 11F-SD24 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	E-82	11F-SI1	須恵器・坏	1/10		口径			ロク口調整	195-16
2	E-81	11F-SI1	須恵器・坏	底部1/3		(8.4)			ロク口調整、底部切縁法不明→同輪ヘラクスリ→部ナデ 白針微塵	195-17
3	E-83	11F-SI1	須恵器・蓋	部分					ロク口調整	195-18

第583図 11F-SI1 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	D-11	11D-SD16・1層	土師器・坏	完形		13.8	6.0	4.3	ロク口調整、底部切縁法不明→ナデ、内面ヘラミコト・栗色土 白針微塵、底径/口径0.43	195-19
2	E-50	11D-SD16	須恵器・坏	1/2		(15.4)	8.2	4.4	ロク口調整、底部切縁法不明→同輪ヘラクスリ、底径/口径0.51	195-20
3	E-44	11D-SD16	須恵器・坏	3/4		14.5	7.4	4.0	ロク口調整、底部切縁法不明→同輪ヘラクスリ、白針少量 底径/口径0.51	195-21
4	E-66	11D-SD16	須恵器・坏	1/2		(13.0)		3.5	ロク口調整、底部切縁法不明→同輪ヘラクスリ、白針少量 底径/口径0.48	195-22
5	E-45	11D-SD16	須恵器・坏	7/8		13.5	6.6	4.2	ロク口調整、底部切縁法不明→同輪ヘラクスリ 体部外面栗色土、白針微塵、底径/口径0.49	195-23
6	E-49	11D-SD16	須恵器・坏	3/4		13.8	6.7	4.4	ロク口調整、同輪切縁、底径/口径0.49	195-24

第584図 11D-SD16 出土遺物

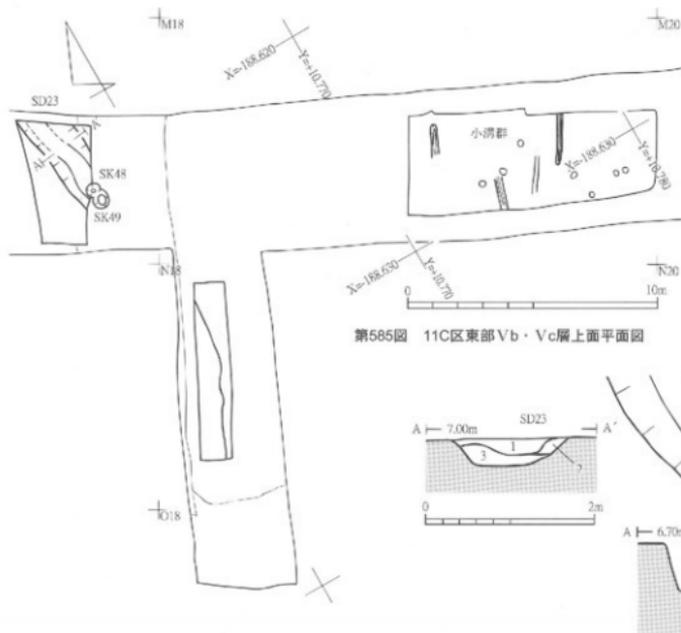
5. 11C区東部～11E区の遺構と遺物

(1) 溝跡

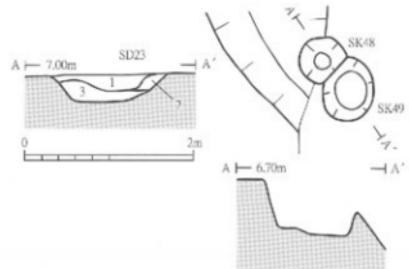
11C-SD9 (第587図) N22グリッドのVI層上面で確認した東西方向の溝跡であるが、大部分を11C-SK19に切られている。幅1.9m、深さ65cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は出土しなかった。

11C-SD23 (第585・586図) M17グリッドのVI層上面で確認した。11C-SK48・SK49に切られている。幅1.5m、深さ30cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器など10点ほどで、図化できたものはない。

11D-SD16 (第587図) LM24グリッドのVI層上面で確認した。幅1.8m、深さ70cmで、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器・須恵器片30点ほどで、須恵器坏を中心に6点が図化できた(表136、第584図)。



第585図 11C区東部Vb・Vc層上面平面図



11C-SD23

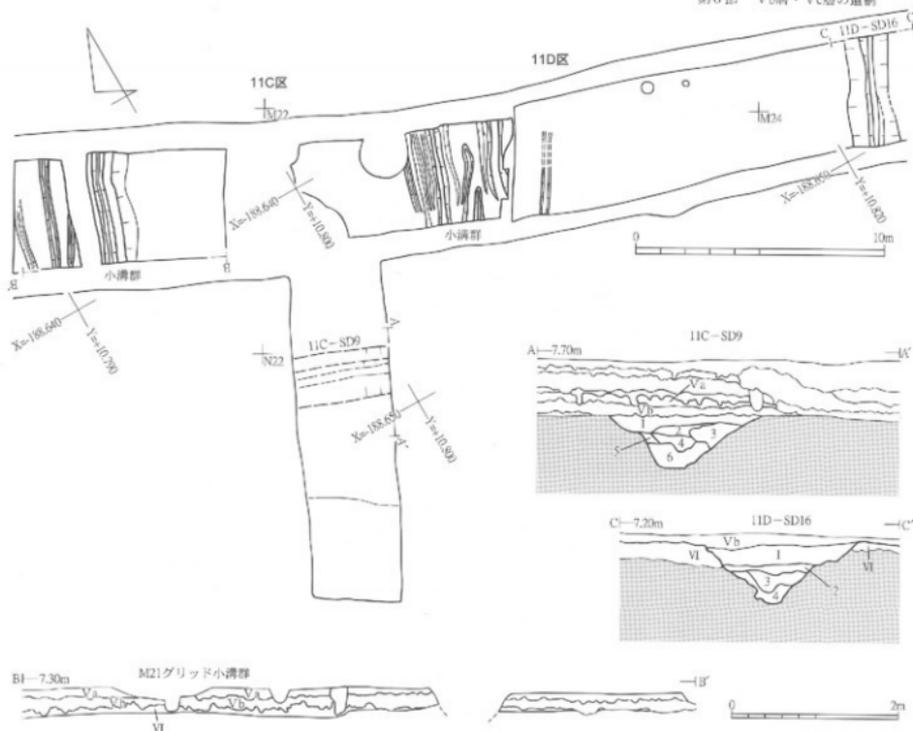
層位	色調	土質	説人物・その他
1	5GY4/1	暗オリーブ灰色	シルト
2	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト
3	5GY4/1	暗オリーブ灰色	砂質シルト 粘土質シルト・ブロック少量

第586図 11C-SD23 断面図、11C-SK48 平面・断面図

11D-SD10 (第588図) L27グリッドのVI層上面で確認している。11D-SD11と重複しているが新旧関係は不明である。幅2.5m、深さ80cm、堆積土は自然堆積層で一部に灰白色火山灰を含んでいる。遺物はごくわずかで図化できたものはない。

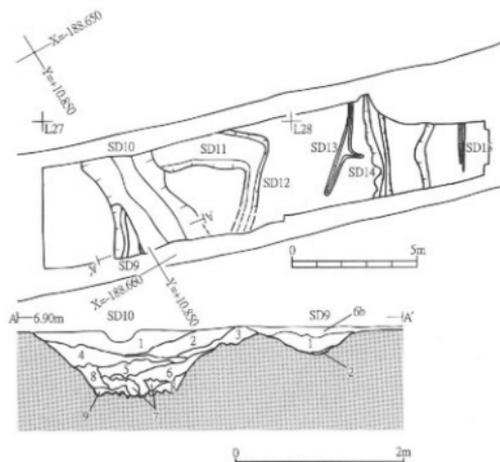
11D-SD11~15 (第588図) L27・28グリッドのVI層上面で確認した小規模な溝跡であるが、小溝群よりはやや幅が広い。遺物は出土していない。

小溝群 (第585・587図) 11C区ではM19・21・22グリッドのVI層上面で部分的に確認している。すべて南北方向のものである。なお、11E区でもVI層上面で部分的に確認している (写真図版86-1~4)。堆積土はVb層で、Vb層畑の耕作痕と推定される。



層位	色調	土質	副人物・その他	
11C-SD9	1 10YR4/3 に近い黄褐色	粘土	酸化鉄を皮状に多量	
	2 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト		
	3 5GY3/1 暗オリーブ灰色	シルト		
	4 5Y3/2 オリーブ黒色	粘土質シルト		
	5 5Y4/2 灰オリーブ色	シルト質粘土		
	6 5Y3/2 オリーブ黒色	粘土		
11C-SD16	1 10YR4/3 に近い黄褐色	粘土	酸化鉄粒多量	
	2 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	粘土		
	3 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色	砂質シルト		オリーブ褐色粘土ブロック微量
	4 5Y3/1 オリーブ藍色	粘土		黒色粘土ブロック・オリーブ灰色雑砂/ブロック多量

第587図 11C区東部～11D区西部Vb・Vc層上面平面図
11C-SD9、11D-SD16、11C区M21グリッド小溝群断面図



層位	色調	土質	器人物・その他
11D-SD9	1 10YR4/3	にぶい黄褐色 粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量
	2 10YR2/1	黒色 粘土	
11D-SD10	1 10YR3/2	黒褐色 粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック・炭化物少量
	2 10YR5/3	にぶい黄褐色 礫砂	暗褐色粘土ブロック少量
	3 2.5Y4/1	黄灰色 粘土	
	4 10Y4/1	灰色 粘土	暗オリーブ灰色細砂ブロック・オリーブ黒色粘土ブロック少量
	5 5Y3/1	オリーブ黒色 粘土	ひび割れに灰白色火山灰が混入
	6 5Y4/1	灰色 粘土	礫砂
	7 5Y3/1	オリーブ黒色 粘土	黒色粘土ブロック少量
	8 5Y3/1	オリーブ黒色 粘土	
	9 5Y2/1	黒色 粘土	互層
不明	7.5GY5/1 緑灰色 礫砂		

第588図 11D区東部Vb・Vc層上面平面図、11D-SD9・10 断面図

第7節 VII層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 11E区の東部は現代水田によって削平を受けてVa層～VI層が露出していたが、一部で下層遺構の確認のためVI層以下の調査を実施した。VI層は黒色粘土質シルト、VII層は暗緑灰色の砂質シルトであったが、VII層下部でVIII層（黒色粘土）の葎状の盛り上がりを確認し、VIII層水田跡を検出している。水田跡を覆っているVII層は自然堆積層であるため、遺構の遺存状況は良好である。

(2)耕作土 耕作土はVIII層で、厚さは4～10cm、下面は緩やかな起伏がある程度であり、直下層の巻上げはあまり顕著ではない。

(3)水田域 11E区以外の広がり是不明である。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	C-30	11E-L29・VII層	土師器・ミニチュア	3/4		5.5	4.9	3.2	内外面ナデ, 白針彫量	195-23

第589図 11E区 VII層出土遺物

2. 遺構の状況

(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、東西方向のものはNo.1～7まで7条、南北方向のものはNo.8～14まで7条を検出した。規模は概ね同じで、下端幅50～60cm、高さ2～7cmである。方向は検出した面積が狭いため明確ではないがほぼ真北方向に向いている。

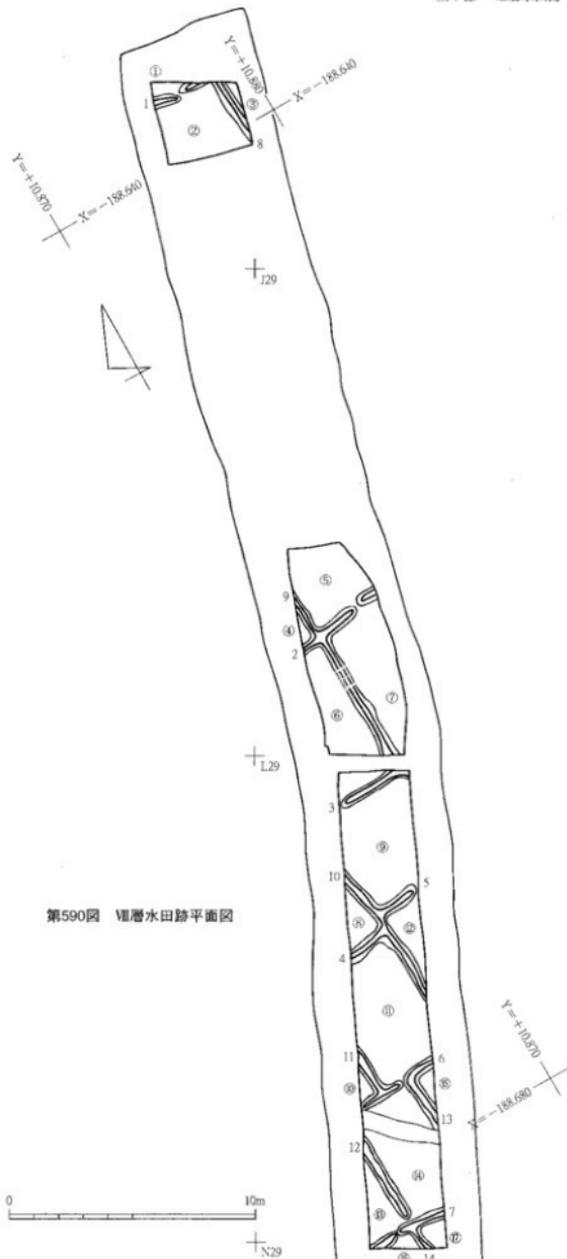
(2)水田区画 ①～⑭まで確認した。方形を基調としている。規模が判明した区画は3区画あり、それぞれ東西・南北長が⑨が4.5×4.0m、⑩が3.3×4.7m、⑪が2.5×5.0m、面積は12.5㎡～18㎡である。

(3)水田面の標高と傾斜 水田面の標高は5.98～6.31mで、西から東へ傾斜している。区画内の比高差は2～3cmと推定される。

(4)水口 区画の一辺の中央部、あるいはコーナーで畦畔が途切れる箇所があり、ここが水口と考えられる。

3. 出土遺物

耕作土中からの遺物は皆無であるが、水田跡を覆っていた基本層Ⅶ層下部から手づくね土器が4点出土している(第589図)。



第590図 Ⅶ層水田跡平面図

1. 11区の遺物出土状況

11区全体の遺物数を表140から求めると、縄文・弥生土器4点、土師器20,476点、須恵器6,489点、赤焼土器95点、土師質土器皿類971点、その他の土師質土器65点、瓦質土器73点、中世の無軸陶器4,116点（註1）、中世の施軸陶器214点、中国産陶磁器257点、その他近世の陶磁器など35点、瓦143点、金属製品703点（鉄製品576点、銅製品127点）、石製品103点、木製品420点、土製品65点、鉄滓671点で、このほかにウマやウシの骨や歯などを主とする動物遺存体、クルミやモモの種子などの自然遺物も出土している。

各種の遺物のうち土器類に限ってみると、縄文・弥生土器4点、古代27,060点（83%）、中世5,696点（17%）、近世35点で、古代の土器類が4/5以上を占め、中世の土器は1/5以下である。中世の土器5,696点の内訳は、土師質土器1,036点（18%）、瓦質土器73点（1%）、無軸陶器4,116点（72%）、施軸陶器214点（4%）、中国産陶磁器257点（5%）である。無軸陶器4,116点の内訳は常滑・渥美・東海地方産が2,821点（69%）、在地産1,295点（31%）（註2）で在地産全

別称・素柄	付随品	黒胎土器	土師質土器	瓦質土器	高瀬	赤焼	高瀬	須恵	赤焼	中国産	その他	瓦	金属製品	石製品	動物	その他	
		鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	陶磁器	土器・磁器	鉄	銅	不詳	動物	その他	
1～4層	209	144	5	15		47	2	3		4	36	7	3				
IV層	641	196	11	73		1	60	9	1	2	10	28	19	8		36	
V層	444	109	5	5		2	3	0	4		2	10	3	1		3	
SV-003	403	220		12			40			2	1	3	20	3	5		
SV004	28	21		4	1		10										
SV	6																
SV1	35	14		4			5	1	1								
SV2	47	25		7			6	2									
SV3	24	3					1										
SV5	28	3					1										
SV6	11	2															
SV7	5	2															
SV-5	2	1					3										
IV SD15							2										
SB1	1	1		1												2	
SB2	18	9					1	17								3	
SB3	17	6		25			4			1	10	12	3			6	
SB4	2						6									1	
SB5	0	2					2									1	
SB6	9			2												2	
SB7	2	4		3												2	
SB8	15	4					3									1	
SB4	38	3															
SB6	0	3															
SB8	3																
SB9	3	1															
SB1	2	2		1													
SB4	49	5		1													
SB5	1	1															
SB6	1	3		1			4										
SB7	2																
SB8	1	3															
SB9	3																
SB10		2															
SB11	9																
SB12	2																
SB13	1			1													
SB14	1																
SB16	8	2		1													
SB17	1																
SB18	5			1													
SB19	1																
その他	91	21		1	3		3									1	
合計	2,455	1,820		23	162		1	4	7	228	20	7	4	22	164	50	22
相違点 (注)	36,018	13,930		375	30	119	14,341	749	20	28,336	1,067						

表133 11区遺物集計表

層位・遺物	二層位	遺物数	赤土器		瓦質土器	常滑		瀬美		東海		その他		中国産	中国産	瓦	金属製品		石製品	木製品	土製品	鉄滓	その他	
			七郎	七郎		鉢	壺	鉢	壺	鉢	壺	鉢	壺				鉢	壺						鉢
1・10層	17	22	8	2	1	21	1									4	5	1	1					陶の山
5層						1																		
6層	15	2								2						1								1
7層	8	4										1	1	1										
8層																								
9層	4	11																						
10層	18	46				1	13	2	1			2	1			5	1						1	
SP10.4	2	11				1	36			2		8	2	1		1		1	6				4	陶の山・骨
SD10.2	5	10					6					3												3
SD4	2	4				3	10					3	1			出定陶器	2		1	3	7			陶の山
SD3	1	3																						4
SD1		1																						
SD5		5					2																	
SD7	2	42					2																	1
SD11							1																	
SD3	3																							
SD2	3																							
SD4	6	109					1																	1
SD8	55																							
SD20	5	1																						
SD21	1						4		1							6		1	2	5				陶の山
SB1	1	9					4					1		1										
SB2							1	2	1	1														1
SB3		1					1																	
SB4		1					1																	
SB5		1					1																	
SB5																								1
SB1	1	2					1																	5
SB2																								
SB4																								
SB7		1																						
SB14																								1
SB15																								2
SB17																								
SB18		1																						
SB19		1																						
その他C		10																						
総数	198	204	0	9	3		224	6	7	0	0	25	6	3	2	24	5	34	35	1	10			436
総重量 (g)	334	11,34	0	45	1,099	8,028	789	376	1,508															

表137 11E区遺物集計表

体の1/3以下であるが、表下半部に示した重量でみると常滑・瀬美・東海地方産が156,505g (61%)、在地産99,185g (39%)となり、在地産の比率がやや上がる。

2. 基本層からの出土遺物

表132～139によると、基本層からの出土遺物は古代の土器類が18,124点 (古代の土器全体の67%)、中世の土器類は4,319点 (中世の土器全体の76%)で、遺構中からの出土量を超越している。金属製品なども圧倒的に基本層中からの出土遺物が多い。

同化できたのは559点である (第591～618図)。

第591図は11A区の無釉の中世陶器で、常滑産の甕の破片が多い。Ic-430甕(6)は2型式と推定される破片で、砥石に転用されている。Ic-548瀬美産甕(21)は体部に平行沈線と籐葉状の線画あるいは線刻が見られる。

第592図は11A区の内産施種陶器、瓦質土器、土師質土器、中国産磁器である。土師質土器Ia-79(16)は他の部品と組み合せて灯籠のような形態の照明具となると推定される。組み合う部品が不明なため全体像も不明であるが、床などに置いて使用されたと考えられる。

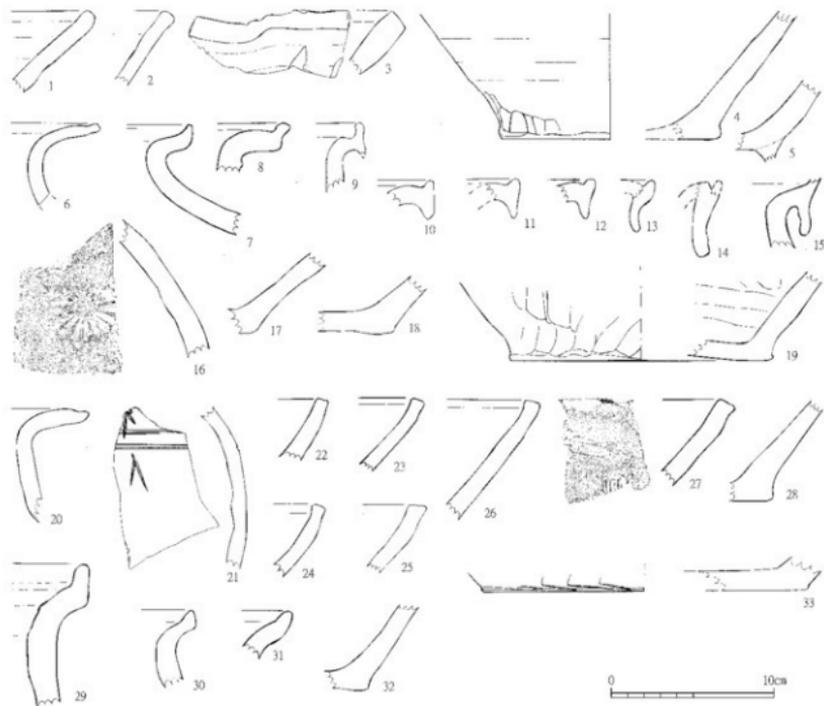
第593～595図は11A区の土師器・須恵器である。11A区西部のM2グリッドVa層上面で確認された11A-SK23からは土師器がまとまって出土しているが、M2グリッドのVa層よりも上層から出土した遺物は本来SK23の遺物であった可能性がある。側溝中から出土したものを含めると土師器D-25～30環と土師器D-38・39甕(第593図4・8・9・11～13、第594図2・4)は本来11A-SK23の遺物であった可能性がある。また、同様にM1～5グリッドの11A-S11、M5グリッドの11A-SK29からも土師器・須恵器がまとまって出土していることから、M4・5グリッドから出土した土師器D-34甕と須恵器E-95～97・135環(第594図1、第595図4・6・7・9・10)は11A-S11かSK29のどちらかの遺物であった可能性がある。

第5章 11区の調査

第8節 11区全体の出土遺物と基本層からの出土遺物

地区	10年度調査品数	前年度調査品数	土器類		瓦類		石類		金属類		その他		窯		石製品		木製品		土製品		計			
			数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合				
1区-1F	134	45	0	17	6	1	41	19	5	0	1	4	11	1	2	32	4	8	11	6	2	0	5	
1区-2F	53	21	9	82	4	2	11	38	0	2	0	4	24	0	0	1	1	8	2	7	0	1	2	
1区-3F	103	48	1	1	0	0	0	0	8	0	0	0	1	0	21	5	1	7	0	0	0	0	0	
1区-4F	26	44	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	1	2	0	0	0	0	0	0	
1区-5F	194	59	15	24	3	3	0	5	6	2	0	3	33	4	3	45	22	6	6	6	0	0	4	
1区-6F	56	14	3	1	1	0	1	0	0	0	1	10	2	7	0	4	9	0	1	1	0	0	0	
1区-7F	138	74	3	265	11	5	1	17	11	7	0	1	41	8	6	0	2	3	5	0	2	0	27	
1区-8F	911	301	13	39	24	4	13	22	3	3	0	4	24	3	11	8	3	1	1	4	2	0	4	
1区-9F	536	378	43	536	56	16	10	116	12	10	1	17	151	23	27	243	66	20	36	22	6	9	68	
1区-9aM	290	203	6	164	51	5	7	171	14	11	2	16	224	19	7	31	9	77	7	4	2	0	147	
1区-9bM	4,790	930	45	262	124	9	28	300	82	63	41	250	53	81	9	70	9	7	15	5	97	87		
1区-9cM	515	146	15	9	19	1	1	58	2	2	2	7	31	4	7	9	5	2	7	6	6	0	21	
1区-9dM	422	24	2	9	17	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
1区-9eM	4,996	1,297	68	474	295	15	36	1,011	88	74	67	64	527	69	101	40	80	91	18	26	53	56	203	
1区-10aF	3,106	716	18	236	44	10	11	276	24	20	31	277	38	47	5	13	300	16	22	27	0	113		
1区-10bF	3,197	1,094	0	371	5	4	5	328	74	24	40	33	286	23	41	10	10	16	22	27	3	96		
1区-10cF	1,57	644	10	259	21	4	7	277	31	26	5	23	309	36	48	4	13	66	23	23	84	112		
1区-10dF	388	300	2	29	25	32	1	193	30	32	9	17	200	30	75	5	4	86	9	27	103	15		
1区-10eF	317	366	2	165	19	11	2	222	12	20	11	0	317	5	25	8	25	30	15	2	364	6	34	
1区-9F計	6,325	2,096	62	1,220	168	63	29	1,412	171	127	99	114	1,268	122	160	77	182	544	198	103	588	27	497	
1区-11a区	10,074	969	5	172	37	10	9	571	28	20	10	24	241	44	66	1	151	22	33	14	7	87		
1区-11b区	3,455	300	22	262	1	4	7	228	30	7	4	29	164	50	79	9	5	90	7	8	26	0	36	
1区-11c区	2,825	848	8	238	5	8	4	464	18	25	8	10	342	34	55	6	26	10	25	23	26	57	28	
1区-11d区	507	254	6	40	12	16	7	214	4	32	1	20	146	28	40	0	12	42	41	6	31	5	41	
1区-11e区	48	294	0	9	1	11	7	311	4	7	0	0	25	6	0	1	14	5	3	14	38	1	35	
1区-11f区	4,687	1,637	4	288	12	24	16	569	65	64	47	28	271	55	77	1	20	138	87	21	244	15	294	
1区-9F計	20,478	4,089	95	671	66	73	44	4,828	126	161	73	105	1,189	214	297	41	143	736	127	109	428	66	674	
2区	2,850	1,727	9	8,433	0	21	21	8,781	30	66	0	5	342	30	91	24	10	294	47	19	22	15	724	
3区-1E	61	27	0	20	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3	
3区-2E	271	81	9	113	0	5	0	53	5	3	0	1	15	10	9	9	4	17	2	7	11	64	97	
3区-3E	290	439	0	271	2	24	2	146	5	20	0	5	43	16	18	13	8	14	6	10	33	79	65	
3区-4E	1,263	1,521	4	19	11	0	0	256	9	20	0	0	0	0	0	0	0	20	1	1	1	1	25	
4区-計	4,347	2,079	13	452	3	14	2	282	8	23	0	8	62	26	30	32	40	56	9	19	80	100	386	
5区	63	21	0	12	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	
7区	8,258	2,272	18	184	4	0	8	244	9	15	1	15	29	9	18	89	137	64	14	21	6	16	148	
10区	30	6	0	1	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
計	64,920	17,153	308	9,293	500	239	250	64,035	454	991	738	179	1,924	494	712	557	636	1,641	449	13	1,184	261	2,738	
				64,920				6,588	454	739	312	3,073			712	8,952	936	3,038	347	1,184	261	2,738		
中記上層の比率(%)				17.4				10.1							11.0									

※その他の土器・陶器類の内訳は、属文未加、赤土土器、古代の民器類(1.埴輪類、2.土器類、3.土器類、4.土器類、5.土器類、6.土器類、7.土器類、8.土器類、9.土器類、10.土器類、11.土器類、12.土器類、13.土器類、14.土器類、15.土器類、16.土器類、17.土器類、18.土器類、19.土器類、20.土器類、21.土器類、22.土器類、23.土器類、24.土器類、25.土器類、26.土器類、27.土器類、28.土器類、29.土器類、30.土器類、31.土器類、32.土器類、33.土器類、34.土器類、35.土器類、36.土器類、37.土器類、38.土器類、39.土器類、40.土器類、41.土器類、42.土器類、43.土器類、44.土器類、45.土器類、46.土器類、47.土器類、48.土器類、49.土器類、50.土器類、51.土器類、52.土器類、53.土器類、54.土器類、55.土器類、56.土器類、57.土器類、58.土器類、59.土器類、60.土器類、61.土器類、62.土器類、63.土器類、64.土器類、65.土器類、66.土器類、67.土器類、68.土器類、69.土器類、70.土器類、71.土器類、72.土器類、73.土器類、74.土器類、75.土器類、76.土器類、77.土器類、78.土器類、79.土器類、80.土器類、81.土器類、82.土器類、83.土器類、84.土器類、85.土器類、86.土器類、87.土器類、88.土器類、89.土器類、90.土器類、91.土器類、92.土器類、93.土器類、94.土器類、95.土器類、96.土器類、97.土器類、98.土器類、99.土器類、100.土器類、101.土器類、102.土器類、103.土器類、104.土器類、105.土器類、106.土器類、107.土器類、108.土器類、109.土器類、110.土器類、111.土器類、112.土器類、113.土器類、114.土器類、115.土器類、116.土器類、117.土器類、118.土器類、119.土器類、120.土器類、121.土器類、122.土器類、123.土器類、124.土器類、125.土器類、126.土器類、127.土器類、128.土器類、129.土器類、130.土器類、131.土器類、132.土器類、133.土器類、134.土器類、135.土器類、136.土器類、137.土器類、138.土器類、139.土器類、140.土器類、141.土器類、142.土器類、143.土器類、144.土器類、145.土器類、146.土器類、147.土器類、148.土器類、149.土器類、150.土器類、151.土器類、152.土器類、153.土器類、154.土器類、155.土器類、156.土器類、157.土器類、158.土器類、159.土器類、160.土器類、161.土器類、162.土器類、163.土器類、164.土器類、165.土器類、166.土器類、167.土器類、168.土器類、169.土器類、170.土器類、171.土器類、172.土器類、173.土器類、174.土器類、175.土器類、176.土器類、177.土器類、178.土器類、179.土器類、180.土器類、181.土器類、182.土器類、183.土器類、184.土器類、185.土器類、186.土器類、187.土器類、188.土器類、189.土器類、190.土器類、191.土器類、192.土器類、193.土器類、194.土器類、195.土器類、196.土器類、197.土器類、198.土器類、199.土器類、200.土器類、201.土器類、202.土器類、203.土器類、204.土器類、205.土器類、206.土器類、207.土器類、208.土器類、209.土器類、210.土器類、211.土器類、212.土器類、213.土器類、214.土器類、215.土器類、216.土器類、217.土器類、218.土器類、219.土器類、220.土器類、221.土器類、222.土器類、223.土器類、224.土器類、225.土器類、226.土器類、227.土器類、228.土器類、229.土器類、230.土器類、231.土器類、232.土器類、233.土器類、234.土器類、235.土器類、236.土器類、237.土器類、238.土器類、239.土器類、240.土器類、241.土器類、242.土器類、243.土器類、244.土器類、245.土器類、246.土器類、247.土器類、248.土器類、249.土器類、250.土器類、251.土器類、252.土器類、253.土器類、254.土器類、255.土器類、256.土器類、257.土器類、258.土器類、259.土器類、260.土器類、261.土器類、262.土器類、263.土器類、264.土器類、265.土器類、266.土器類、267.土器類、268.土器類、269.土器類、270.土器類、271.土器類、272.土器類、273.土器類、274.土器類、275.土器類、276.土器類、277.土器類、278.土器類、279.土器類、280.土器類、281.土器類、282.土器類、283.土器類、284.土器類、285.土器類、286.土器類、287.土器類、288.土器類、289.土器類、290.土器類、291.土器類、292.土器類、293.土器類、294.土器類、295.土器類、296.土器類、297.土器類、298.土器類、299.土器類、300.土器類、301.土器類、302.土器類、303.土器類、304.土器類、305.土器類、306.土器類、307.土器類、308.土器類、309.土器類、310.土器類、311.土器類、312.土器類、313.土器類、314.土器類、315.土器類、316.土器類、317.土器類、318.土器類、319.土器類、320.土器類、321.土器類、322.土器類、323.土器類、324.土器類、325.土器類、326.土器類、327.土器類、328.土器類、329.土器類、330.土器類、331.土器類、332.土器類、333.土器類、334.土器類、335.土器類、336.土器類、337.土器類、338.土器類、339.土器類、340.土器類、341.土器類、342.土器類、343.土器類、344.土器類、345.土器類、346.土器類、347.土器類、348.土器類、349.土器類、350.土器類、351.土器類、352.土器類、353.土器類、354.土器類、355.土器類、356.土器類、357.土器類、358.土器類、359.土器類、360.土器類、361.土器類、362.土器類、363.土器類、364.土器類、365.土器類、366.土器類、367.土器類、368.土器類、369.土器類、370.土器類、371.土器類、372.土器類、373.土器類、374.土器類、375.土器類、376.土器類、377.土器類、378.土器類、379.土器類、380.土器類、381.土器類、382.土器類、383.土器類、384.土器類、385.土器類、386.土器類、387.土器類、388.土器類、389.土器類、390.土器類、391.土器類、392.土器類、393.土器類、394.土器類、395.土器類、396.土器類、397.土器類、398.土器類、399.土器類、400.土器類、401.土器類、402.土器類、403.土器類、404.土器類、405.土器類、406.土器類、407.土器類、408.土器類、409.土器類、410.土器類、411.土器類、412.土器類、413.土器類、414.土器類、415.土器類、416.土器類、417.土器類、418.土器類、419.土器類、420.土器類、421.土器類、422.土器類、423.土器類、424.土器類、425.土器類、426.土器類、427.土器類、428.土器類、429.土器類、430.土器類、431.土器類、432.土器類、433.土器類、434.土器類、435.土器類、436.土器類、437.土器類、438.土器類、439.土器類、440.土器類、441.土器類、442.土器類、443.土器類、444.土器類、445.土器類、446.土器類、447.土器類、448.土器類、449.土器類、450.土器類、451.土器類、452.土器類、453.土器類、454.土器類、455.土器類、456.土器類、457.土器類、458.土器類、459.土器類、460.土器類、461.土器類、462.土器類、463.土器類、464.土器類、465.土器類、466.土器類、467.土器類、468.土器類、469.土器類、470.土器類、471.土器類、472.土器類、473.土器類、474.土器類、475.土器類、476.土器類、477.土器類、478.土器類、479.土器類、480.土器類、481.土器類、482.土器類、483.土器類、484.土器類、485.土器類、486.土器類、487.土器類、488.土器類、489.土器類、490.土器類、491.土器類、492.土器類、493.土器類、494.土器類、495.土器類、496.土器類、497.土器類、498.土器類、499.土器類、500.土器類、501.土器類、502.土器類、503.土器類、504.土器類、505.土器類、506.土器類、507.土器類、508.土器類、509.土器類、510.土器類、511.土器類、512.土器類、513.土器類、514.土器類、515.土器類、516.土器類、517.土器類、518.土器類、519.土器類、520.土器類、521.土器類、522.土器類、523.土器類、524.土器類、525.土器類、526.土器類、527.土器類、528.土器類、529.土器類、530.土器類、531.土器類、532.土器類、533.土器類、534.土器類、535.土器類、536.土器類、537.土器類、538.土器類、539.土器類、540.土器類、541.土器類、542.土器類、543.土器類、544.土器類、545.土器類、546.土器類、547.土器類、548.土器類、549.土器類、550.土器類、551.土器類、552.土器類、553.土器類、554.土器類、555.土器類、556.土器類、557.土器類、558.土器類、559.土器類、560.土器類、561.土器類、562.土器類、563.土器類、564.土器類、565.土器類、566.土器類、567.土器類、568.土器類、569.土器類、570.土器類、571.土器類、572.土器類、573.土器類、574.土器類、575.土器類、576.土器類、577.土器類、578.土器類、579.土器類、580.土器類、581.土器類、582.土器類、583.土器類、584.土器類、585.土器類、586.土器類、587.土器類、588.土器類、589.土器類、590.土器類、591.土器類、592.土器類、593.土器類、594.土器類、595.土器類、596.土器類、597.土器類、598.土器類、599.土器類、600.土器類、601.土器類、602.土器類、603.土器類、604.土器類、605.土器類、606.土器類、607.土器類、608.土器類、609.土器類、610.土器類、611.土器類、612.土器類、613.土器類、614.土器類、615.土器類、616.土器類、617.土器類、618.土器類、619.土器類、620.土器類、621.土器類、622.土器類、623.土器類、624.土器類、625.土器類、626.土器類、627.土器類、628.土器類、629.土器類、630.土器類、631.土器類、632.土器類、633.土器類、634.土器類、635.土器類、636.土器類、637.土器類、638.土器類、639.土器類、640.土器類、641.土器類、642.土器類、643.土器類、644.土器類、645.土器類、646.土器類、647.土器類、648.土器類、649.土器類、650.土器類、651.土器類、652.土器類、653.土器類、654.土器類、655.土器類、656.土器類、657.土器類、658.土器類、659.土器類、660.土器類、661.土器類、662.土器類、663.土器類、664.土器類、665.土器類、666.土器類、667

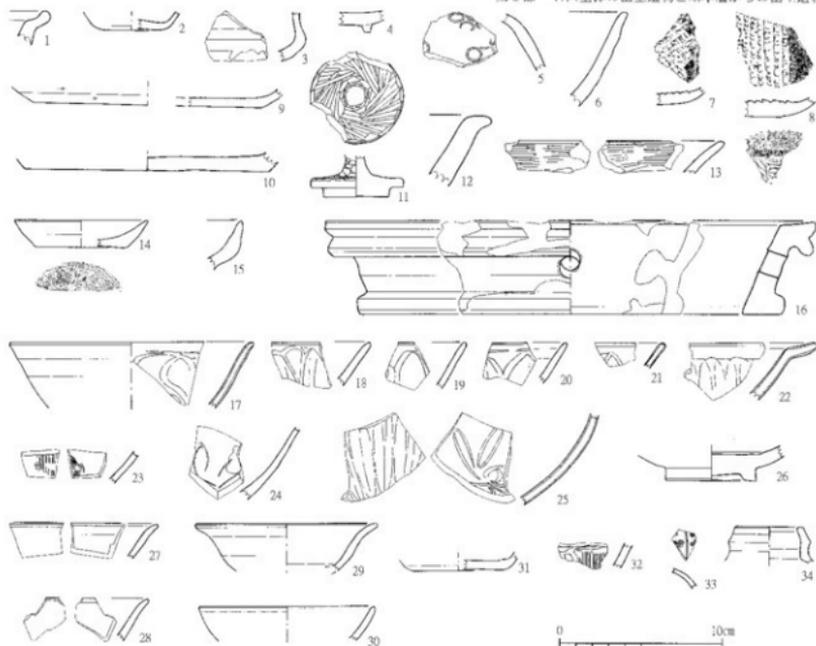


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	寸法(cm)			調整・特徴	所属図版
						口径	底径	器高		
1	Ic-410	11A・倒溝	陶器(東海)	鉢	口縁部小片				口クロ調整、山茶碗変型	147-1
2	Ic-411	11A・倒溝	陶器(東海)	鉢	口縁部小片				口クロ調整、山茶碗変型	147-2
3	Ic-426	11A-M5・IV層	陶器(常滑)	片11鉢	口縁部小片				口クロ調整	147-3
4	Ic-413	11A・I層	陶器(常滑)	片口鉢	底～体部1/5		(7.6)		口クロ調整、内面磨威	147-4
5	Ic-427	11A-M6・I層	陶器(常滑)	片口鉢	底部1/8				口クロ調整、内面磨威	147-5
6	Ic-430	11A-M9・倒溝	陶器(常滑)	壺	口縁～体部片				口縁部コナデ、内面灰ナデ、内面ヘラナデ、裏面変型自然痕2型式	147-6
7	Ic-429	11A-M5・IV層	陶器(常滑)	壺	口縁～体部片				口縁部コナデ、口縁部外縁にナデ、内面ヘラナデ、裏面変型自然痕2型式	147-7
8	Ic-521	11A-M7・III層	陶器(常滑)	壺	口縁部小片				コナデ、5型式	147-8
9	Ic-429	11A-N～O6・I層	陶器(常滑)	壺	口縁～体部片				コナデ、6型式	147-9
10	Ic-509	11A・倒溝	陶器(常滑)	壺	口縁部小片				コナデ	147-10
11	Ic-527	11A-M9・倒溝	陶器(常滑)	壺	口縁部小片				コナデ、6型式	147-11
12	Ic-431	11A・IVa層	陶器(常滑)	壺	口縁部小片				コナデ、6b型式	147-12
13	Ic-435	11A・倒溝	陶器(常滑)	壺	口縁部小片				コナデ、7～8型式	147-13
14	Ic-437	11A-N～O6・I層	陶器(常滑)	壺	口縁部小片				コナデ、8型式	147-14
15	Ic-436	11A・倒溝	陶器(常滑)	壺	口縁部小片				コナデ、8型式	147-15
16	Ic-533	11A・倒溝	陶器(常滑)	壺	体部小片				ナデ、菊花文押印	147-16
17	Ic-434	11A-O67・I層	陶器(常滑)	壺	底部小片				ナデ	147-17
18	Ic-433	11A-M6・倒溝	陶器(常滑)	壺	底部小片				体部外面ナデ、内面灰ナデ、内面自然痕	147-18
19	Ic-432	11A・倒溝	陶器(常滑)	壺	底部1/4				体部外面ヘラナデ、内面ナデ	147-19
20	Ic-532	11A-M6・倒溝	陶器(常滑)	壺	口縁～体部片		(15.8)		口縁部コナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ、ナデ	147-20
21	Ic-518	11A・倒溝	陶器(常滑)	壺	体部小片				ナデ、器部外縁に平行灰線、上下に棘変位の残存	147-21
22	Ic-530	11A-M4・IV層	陶器(在地)	白磁片口鉢	口縁部小片				コナデ(回転台調整)	147-22
23	Ic-473	11A-O7・I層	陶器(在地)	片11鉢	口縁部小片				口クロ(回転台)調整	147-23
24	Ic-529	11A・I層	陶器(在地)	白磁片口鉢	口縁～体部片				口クロ(回転台)調整	147-24
25	Ic-528	11A-M2・IV層	陶器(在地)	白磁片口鉢	口縁部小片				口クロ(回転台)調整	147-25
26	Ic-528	11A-M8・I層	陶器(在地)	白磁片口鉢	口縁～体部片				口クロ(回転台調整)	147-26
27	Ic-525	11A-M7・III層	陶器(在地)	片口鉢	口縁～体部片				コナデ、底に調整痕、体部外面ナデ、内面に灰、白磁少量	148-1
28	Ic-415	11A-O67・I層	陶器(在地)	白磁片口鉢	底部1/8				口クロ(回転台)調整、内面磨威	148-2
29	Ic-421	11A-M5・IV層	陶器(在地)	白磁片口鉢	口縁～体部片				コナデ、調整コナデ、体部ナデ	148-3
30	Ic-424	11A-N～O6・I層	陶器(在地)	鉢	口縁部小片				口縁部コナデ、体部ナデ、外面ナデ、調整コナデ、自然痕	148-4
31	Ic-520	11A・倒溝	陶器(在地)	壺	口縁部小片				コナデ	148-5
32	Ic-422	11A・倒溝	陶器(在地)	壺	底部1/10				ナデ	148-6
33	Ic-414	11A-M9・倒溝	陶器(在地)	白磁片口鉢	底部1/5		(19.6)		体部外面ヘラナデ、内面磨威、上部調整痕に転写?	148-7

第591図 11A区 基本層出土遺物 (1)

第5章 11区の調査

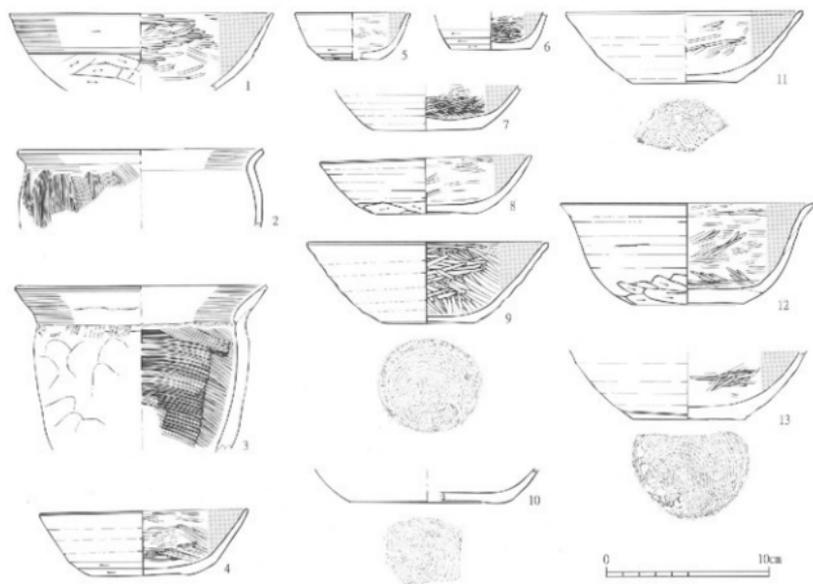
第8節 11区全体の出土遺物と基本層からの出土遺物



No.	発掘No.	地区・遺物・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)		調査・特徴	写真 図版	
					口径	底径・高さ			
1	1c-562	11A-M8・IV層	陶器(古瀬戸)折縁深皿	口縁部小片		(3.6)	灰焼, 中II期	148-8	
2	1c-566	11A・焼溝	陶器(古瀬戸)入子	底部1/3			前層~中II期	148-9	
3	1c-567	11A・焼溝	陶器(古瀬戸)折縁浅鉢	体部小片			灰焼, 後II~前期	148-10	
4	1c-577	11A・焼溝	灰輪陶器・鉢	底部1/2			K14形式	148-11	
5	1c-557	11A-M2・IV層	陶器(古瀬戸)梅瓶?	体部小片			灰焼, 印花文, 中I~II期	148-12	
6	1c-416	11A-M8・III層	陶器(古瀬戸)直縁浅鉢	口縁部小片			灰焼, 後I期	148-13	
7	1c-560	11A-M2・IV層	陶器(古瀬戸)鉢	底部1/4			灰焼, 中I~II期	148-14	
8	1c-409	11A・焼溝	陶器(古瀬戸)鉢	底部小片			灰焼, 中期	148-15	
9	1c-430	11A-M23・焼溝	陶器(古瀬戸)中皿	底部1/2		(14.0)	灰焼, 後I~II期	148-16	
10	1c-408	11A・II層	陶器(古瀬戸)折縁深皿	底部1/4		(15.0)	灰焼, 中I~II期	148-17	
11	1b-35	11A・焼溝	瓦片土器・葺	葺	3/4	5.7	外面ヘラミガキ, 内面ナデ, 白針微量	148-18	
12	1b-36	11A-M23・焼溝	瓦葺土器・葺	口縁部小片			ロク口調整	148-19	
13	1b-47	11A・焼溝	瓦葺・柄?	口縁部小片			内外面ヘラミガキ	148-20	
14	1a-81	11A-M2・IV層	土師質土器・小皿	1/5		(8.1) (5.6)	ロク口調整, 面転り切	148-21	
15	1a-78	11A・焼溝	土師質土器・皿	口縁~体部片			ロク口調整	148-22	
16	1a-79	11A-N~Q67・I層	土師質土器・磁器	1/5		(30.0)	5.8	ロク口調整, 穿孔(箇所), 本末は孔か?	148-23
17	1-167	11・焼溝	青磁(紀伊高系) 碗	口縁部小片				内面劃花文	148-24
18	F-131	11A-M7・焼溝	青磁(紀伊高系) 碗	口縁部小片				蓮弁文	148-25
19	F-134	11A-M8・I層	青磁(紀伊高系) 碗	口縁部小片				蓮弁文	148-26
20	F-135	11A-M2・IV層	青磁(紀伊高系) 碗	口縁部小片				蓮弁文	148-27
21	F-135	11A-M9・IV層	青磁(中国) 碗	口縁部小片				蓮弁文	148-28
22	F-129	11A-M8・IV層	青磁(紀伊高系) 碗	口縁部小片				蓮弁文	148-29
23	F-169	11A-M8・I層	青磁(紀伊高系) 碗	体部片				蓮弁文	148-30
24	F-136	11A-M9・IV層	白磁(中国) 鉢?	体部小片				劃花文	148-31
25	F-168	11A・I層	青磁(紀伊高系) 碗	体部片				蓮弁文, 内面劃花文	148-32
26	F-148	11A-M7・IV層	青磁(紀伊高系) 碗	底部1/2		5.8		148-33	
27	F-132	11A-M8・IV層	白磁(中国) 皿	口縁部小片				口茶	149-1
28	F-161	11A・I層	白磁(中国) 碗	口縁部小片				149-7	
29	F-133	11A・N~Q6・I層	白磁(中国) 碗	口縁部1/8		(11.2)		149-2	
30	F-130	11A-M7・IV層	白磁(中国) 皿	口縁部1/8		(10.8)		149-3	
31	F-60	11A-M9・焼溝	白磁(中国) 皿	底部1/4		(5.8)		149-3	
32	F-71	11A・焼溝	青白磁(中国) 磨機不明	小片				149-4	
33	F-70	11A-M9・IV層	青白磁(中国) 合子?	小片				149-5	
34	F-28	11A-M7・IV層	青白磁(中国) 梅瓶	口縁部1/8		(4.2)		149-6	

第592図 11A区 基本層出土遺物 (2)

第600・603図は11B区の土師器・須恵器である。11B区のM9グリッドVa層上面で確認された11B-SK4からは土師器がまとまって出土していることから、M9グリッドのVa層よりも上層から出土した土師器D-55~57杯・D-59鉢・D-65、C-25甕、須恵器E-94杯・E-118蓋・E-123長頸瓶(第600図1・2・7・8・11・12、第603図2・7・10)は本来11B-SK4の遺物であった可能性がある。また、同様にM10グリッドのVa層上面で確認された11B-SK4からも土師器・須恵器がまとまって出土していることから、M10グリッドのVa層よりも上層から出土した土師器D-61杯・C-26、D-63・65甕、須恵器E-119~122杯・E-117蓋(第600図3・9・10・13、第603図1・3・5・6・8)も11B-SK4の遺物であった可能性がある。



No.	登録No.	地区・遺構・部位	種別(産地)	図種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	C-22	11A-M3・IV層	土師器・杯	14		(16.2)			外面は黒いコナ子・赤褐色のヘラツクリ、口縁部と器底に白地に 沈線、内面ヘラミガキ・黒色処理	149-9
2	C-23	11A-M9・側溝	土師器・甕	上部2/5		(15.2)			口縁部コナ子、赤褐色の外側、内面コナ子、白粉多量	149-10
3	C-24	11A-M4~6・IV層	土師器・甕	土器1/1		(15.6)			口縁部コナ子、赤褐色の外側、内面コナ子、白粉多量	149-11
4	D-29	11A-M2・側溝	土師器・杯	2/3		(12.9)	6.0	4.0	口外側部、底が白地に赤褐色の沈線、内面ヘラツクリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.47	149-12
5	D-32	11A-M9・側溝	土師器・杯	1/4		(7.2)	(3.4)	2.9	口外側部、底が白地に赤褐色の沈線、内面ヘラツクリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、白粉少量、底径/口径0.47	149-13
6	D-33	11A-M8・Ⅲ層	土師器・杯	下部1/2			5.0		口外側部、底が白地に赤褐色の沈線、内面ヘラツクリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、白粉少量	149-14
7	D-34	11A-M6・IV層	土師器・杯	下部			6.6		口外側部、底が白地に赤褐色の沈線、内面ヘラツクリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、白粉少量	149-15
8	D-27	11A-M2・側溝	土師器・杯	5/6		13.0	6.2	3.5	口外側部、底が白地に赤褐色の沈線、内面ヘラツクリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.48	149-16
9	D-26	11A-M2・V層	土師器・杯	ほぼ完形		14.9	6.0	5.0	口外側部、底が白地に赤褐色の沈線、内面ヘラツクリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.40	149-17
10	D-80	11A-M7・側溝	赤褐色土器・杯	下部1/3		(9.4)			口外側部、底が白地に赤褐色の沈線、内面ヘラツクリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、白粉少量	149-21
11	D-30	11A-M2・IV層	土師器・杯	1/3		(14.4)	(6.2)	4.5	口外側部、底が白地に赤褐色の沈線、内面ヘラツクリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、白粉少量	149-18
12	D-25	11A-M2・側溝	土師器・杯	1/2		(15.6)	6.9	6.3	口外側部、底が白地に赤褐色の沈線、内面ヘラツクリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.44	149-19
13	D-28	11A-M2・側溝	土師器・杯	下部1/2			6.8		口外側部、底が白地に赤褐色の沈線、内面ヘラツクリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、白粉少量	149-20

第593図 11A区 基本層出土遺物 (3)

第601・602図は11B区の石製品・土製品・鉄製品で、鉄製品は釘が大部分である。Na-13(第601図2)は小札状の製品であるが、X線写真でも孔が1箇所しか確認できなかったので小札ではないと考えられる。

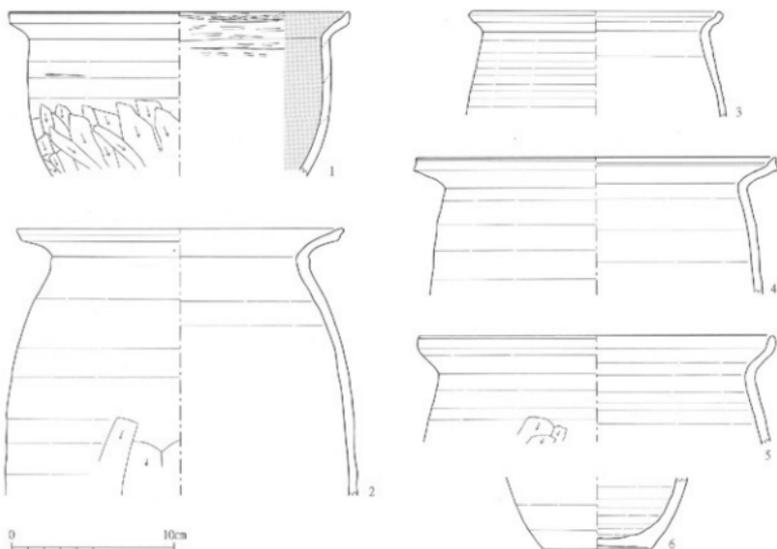
第605図は11C区の陶器で、常滑産の甕や在地産の片口鉢、吉瀬戸Ic-554・326平碗(18・19)やIc-323仏花瓶(20)などが図化できた。

第606図は11C区の中国産の陶磁器と土師質土器・瓦質土器で、中国産磁器は蓮弁文の青磁碗が多い。土師質土器はロクロ調整の小皿と皿があるが、皿類には底部がやや突出する形態のIa-39・45(28・29)も認められる。瓦質土器Ib-28(G1)は11A区から出土した土師質の灯籠と同じ器形であるので、同じような照明具であると考えられる。

第607図は11C区の土師器・須恵器・土製品で、須恵器5点、土師器4点、羽目2点が図化できた。

第608図は11C区の石製品と銅製品(銭貨)、第604・609・610図は鉄製品である(一部銅製品を含む)。石製品は硯1点と砥石8点が図化できた。銭貨は北宋銭6点と明銭2点である。鉄製品は他の地区と同様に釘が多いが、Na-322・310・332(第610図16~18)のように釘よりも厚みや幅が大きい楔状の製品もある。鉄鍋はNa-311(第610図11)が図化できたが、Na-279(第610図12)は三脚が付くので鉢として分類した。Nb-193(第604図3)は環状の扁平な銅製品で、大きさ・素材からすると兜の八幡座を固定する座金の可能性がある(註3)。

第611図は11D区の陶磁器・土師質土器・須恵器・石製品などである。陶器は東海・常滑・在地産の無釉陶器、中



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	D-34	11A-M 5・IV層	土師器・甕	上部1/4		(20.9)			ロクロ調整、赤褐色下平ヘラケズリ、赤褐色ミヅギ・黒色硯 白針微塵	149・22
2	D-39	11A-M 2・IV層	土師器・甕	上部1/4		(20.2)			ロクロ調整、赤褐色下平ヘラケズリ、赤褐色ミヅギ・黒色硯 白針微塵	149・23
3	D-37	11A-M 5・I層	土師器・甕	上部1/4		(15.6)			ロクロ調整	149・24
4	D-35	11A-M 2・IV層	土師器・甕	上部1/4		(22.0)			ロクロ調整、体部外縁一部ヘラケズリ	149・25
5	D-36	11A・I層	土師器・甕	上部1/7		(22.3)			ロクロ調整	149・26
6	D-35	11A・I層	土師器・甕	下部1/3		(6.5)			ロクロ調整、回転痕跡	149・27

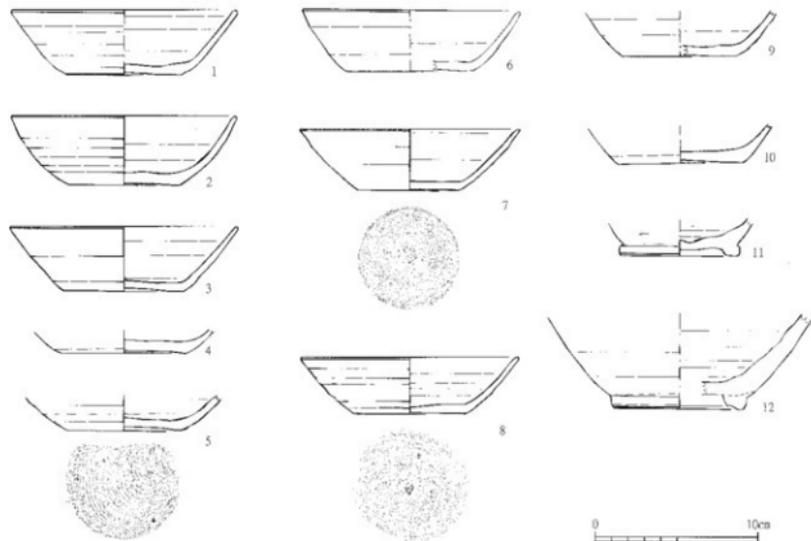
第594図 11A区 基本層出土遺物 (4)

国産磁器には青磁蓮弁文碗や白磁口禿皿などがある。土師質土器Ia-90(第611図13)は風伊と考えられる。K-106茶臼(15)は下面がほとんど磨り減っていない。

第612図は11D区の鉄製品・銅製品(銭貨)と土製品である。鉄製品は釘10点と鎌1点、銭貨は北宋銭16点が図化できた。

第613図は11E区の陶磁器・須恵器・鉄製品である。前述したように中世の層が削平されているため図化できた数は少ないが、Ic-491古瀬戸盤(7)やNa-365短刀(13)などがある。

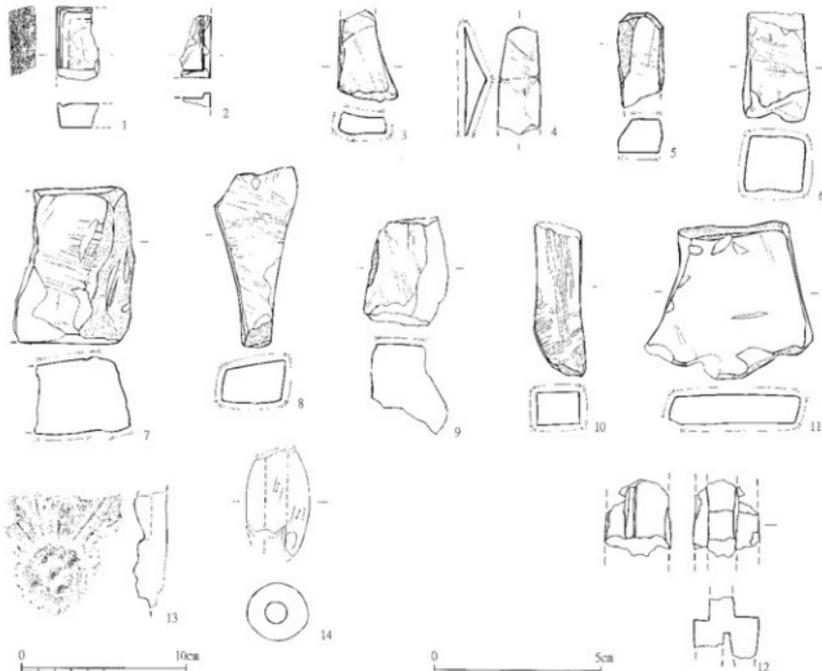
第614図は11F区の陶磁器である。東海や常滑産などの無釉陶器には片口鉢や甕などの他、Ic-365玉縁口縁壺(10)も認められた。古瀬戸は小壺、平碗、折縁深皿など5点、国産の陶磁器は龍泉窯系青磁蓮弁文碗や白磁口禿皿(碗)などが多い。陶器Ic-362壺(37)は暗赤褐色と緑色の釉が掛けられたもので、残存部で確認できたのは2色であるが三彩の可能性もある。中国南部の製品と推定される。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図版
						口径	底径		
1	E-91	11A-M6・IV層	須恵器・坪	1/4	(13.9)	(7.1)	4.0	口クロ濃色、基部切縁部不揃、口縁0.49	150-1
2	E-93	11A-M6・IV層	須恵器・坪	1/2	(13.8)	6.8	4.3	口クロ濃色、基部切縁部不揃、口縁0.49	150-2
3	E-92	11A-N-Q6・I層	須恵器・坪	1/2	14.0	7.3	4.0	口クロ濃色、口縁系切、口縁0.51	150-3
4	B-135	11A-M5・IV層	須恵器・坪	底部1/2	(7.6)			口クロ濃色、口縁系切、口縁0.51	150-4
5	E-90	11A-M6・IV層	須恵器・坪	下部	7.0			口クロ濃色、口縁系切、口縁0.51	150-5
6	E-91	11A-M5.6・IV層	須恵器・坪	1/4	(13.4)	(7.8)	3.9	口クロ濃色、基部切縁部不揃、口縁0.51	150-6
7	E-96	11A-M5.6・IV層	須恵器・坪	1/2	(13.6)	6.2	3.7	口クロ濃色、基部切縁部不揃、口縁0.51	150-7
8	E-99	11A-N-Q6・I層	須恵器・坪	1/2	(13.2)	7.0	3.5	口クロ濃色、基部切縁部不揃、口縁0.51	150-8
9	B-98	11A-M5・IV層	須恵器・坪	下部1/2	(7.0)			口クロ濃色、基部切縁部不揃、口縁0.51	150-9
10	E-95	11A-M5・IV層	須恵器・坪	底部のみ	7.6			口クロ濃色、基部切縁部不揃、口縁0.51	150-10
11	E-88	11A-M6・IV層	須恵器(大戸) 瓶	底部1/2	(7.2)			口クロ濃色、基部切縁部不揃、口縁0.51	150-11
12	E-89	11A-M6・IV層	須恵器・瓶	下部1/4	(8.0)			口クロ濃色、基部切縁部不揃、口縁0.51	150-12

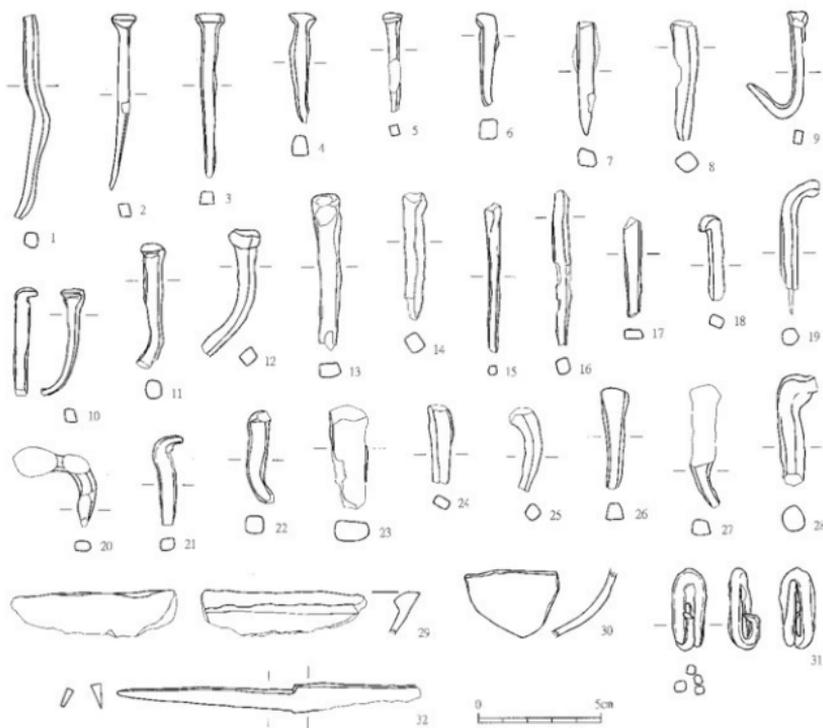
第595図 11A区 基本層出土物 (3)

第615図は土師質土器や瓦質土器、土師器である。土師質土器は小皿と皿の2種類が認められ、ほとんどはロクロ調整であるが、1a-60皿(6)は手づくねと考えられる。瓦質土器には内外面がヘラミガキされた兵器1b-32(12)も含まれている。なお、11F区のR9グリッドのVb層上面では11F-SIIが確認されているが、前述したように11F-SIIの上部はVa層畑の耕作によって撻挫されていると考えられ、その際に遺物も巻き上げられている可能性がある。したがって、土師器のうちR9グリッドから出土したD-19環とC-19・20(13・16・17)は本来SIIの遺物であった可能性がある。



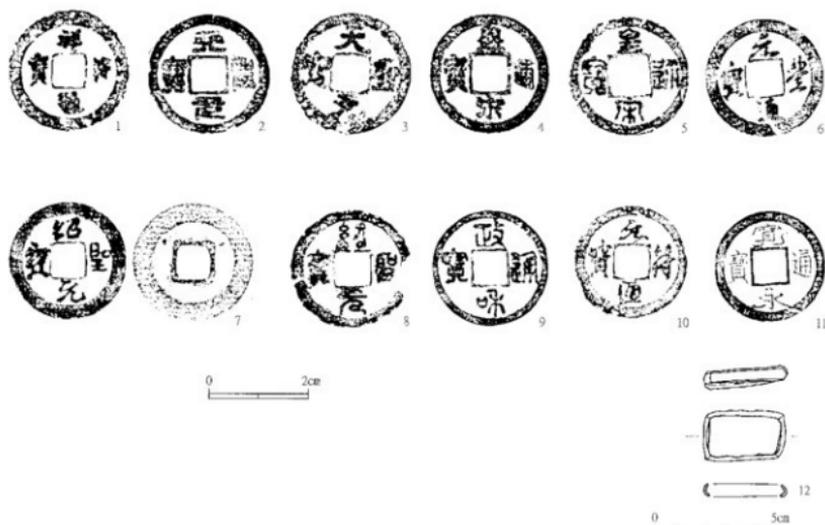
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	質量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					高さ	幅	厚さ		
1	K-152	11A-M5・IV層	石製品・環	部分	4.6+	2.7+	1.5	30g±, 貫石	150-13
2	K-145	11A-M2・IV層	石製品・環	部分	3.5+	1.9+	1.0+	3g±, 貫石	150-14
3	K-150	11A-M6・IV層	石製品・砥石	端部欠損	5.7+	3.8	1.5	30g±, デイサイト質凝灰岩	150-15
4	K-148	11A-M9・IV層	石製品・砥石	ほぼ完形	6.7	2.6	1.3	25g±, デイサイト質凝灰岩	150-16
5	K-144	11A・側溝	石製品・砥石	端部欠損	5.9+	2.8	2.5	60g±, デイサイト質凝灰岩	150-17
6	K-151	11A-M7・I層	石製品・砥石	中央部のみ	6.8+	4.0	3.2	150g±, デイサイト質凝灰岩	150-18
7	K-146	11A-M6・V層	石製品・砥石	端部のみ	8.6+	6.8	4.6	450g±, デイサイト	150-20
8	K-140	11A・側溝	石製品・砥石	ほぼ完形	10.5	5.0	2.5	200g±, デイサイト	150-21
9	K-142	11A-M3・IV層	石製品・砥石	部分	6.5+	4.8+	5.5+	200g±, デイサイト質凝灰岩	150-19
10	K-143	11A・側溝	石製品・砥石	端部欠損	9.6+	3.3	2.4	100g±, デイサイト	150-22
11	K-147	11A-M2・IV層	石製品・砥石	端部欠損	9.5+	0.7-	1.8	砂質凝灰岩	150-23
12	K-141	11A-SII・II層	石製品・用鏝不明	部分	2.2+	2.0	1.9	7g±, デイサイト	150-24
13	F-8	11A-M2・IV層	瓦・軒瓦	瓦当面の一部			1.9		150-25
14	F-12	11A-M6・I層	土製品・土師	2/3	6.7+	幅3.9		7g±	150-26

第596図 11A区 基本層出土遺物 (6)



No.	発掘No.	地区・遺構・層位	種別(原産地) 器種	遺存状況	法量 (cm)			重量・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Na-18	IIA-M8・II層	鉄製品・釘	4/5	6.5+	0.6	0.6	6g+	150-27
2	Na-17	IIA-M8・III層	鉄製品・釘	球状突起	7.3	0.5	0.5	頭部幅1.0cm, 7g+	150-28
3	Na-189	IIA-M6・I層	鉄製品・釘	頭~中央部	6.7+	0.6	0.6	頭部幅1.1cm, 10g+	150-29
4	Na-190	IIA-M6・I層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.5+	0.9	0.9	頭部幅1.1cm, 7g+	150-30
5	Na-191	IIA-M2・I層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.1+	0.5	0.4	頭部幅0.8cm, 3g+	150-31
6	Na-15	IIA-M8・III層	鉄製品・釘	3/4	3.7+	0.8	0.7	頭部幅0.9cm, 4g+	150-32
7	Na-16	IIA-M8・III層	鉄製品・釘	1/2	4.8+	0.8	0.7	6g+	150-33
8	Na-222	IIA-M6・II層	鉄製品・釘	中央部	4.9+	0.8	0.7	39g+	150-34
9	Na-221	IIA・II層	鉄製品・釘	球状突起	6.2	0.5	0.3	頭部5g+	150-35
10	Na-210	IIA-M5・IV層	鉄製品・釘	3/4	4.9+	0.5	0.4	頭部幅0.9cm, 5g+	150-36
11	Na-212	IIA-M2・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.1+	0.8	0.6	8g+	150-37
12	Na-203	IIA-M8・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	5.5+	0.6	0.5	頭部幅0.9cm, 8g+	150-38
13	Na-217	IIA-M2・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	6.2+	0.8	0.5	10g+	150-39
14	Na-206	IIA-M6・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.3+	0.8	0.6	8g+	150-40
15	Na-216	IIA-M2・IV層	鉄製品・釘	中央部	6.1+	0.4	0.3	4g+	150-41
16	Na-213	IIA-M2・IV層	鉄製品・釘	中央部	6.4+	0.6	0.5	7g+	150-42
17	Na-211	IIA-M2・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.1	0.7	0.4	5g+	150-43
18	Na-194	IIA-M6・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.4+	0.6	0.5	頭部幅0.9cm, 3g+	150-44
19	Na-202	IIA-M8・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.6+	0.7	0.7	頭部幅0.9cm, 7g+	150-45
20	Na-192	IIA-M2・IV層	鉄製品・釘	中央~先端部	3.5+	0.7	0.6	7g+	150-46
21	Na-218	IIA-M4~6・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.7+	0.6	0.5	頭部「L」字形, 4g+	150-47
22	Na-209	IIA-M5・IV層	鉄製品・釘	中央部	3.8+	0.8	0.7	6g+	150-48
23	Na-219	IIA-M4・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.2+	1.4	0.8	12g+	150-49
24	Na-214	IIA-M5・IV層	鉄製品・釘	中央部	3.2+	0.6	0.4	5g+	150-50
25	Na-204	IIA-M8・IV層	鉄製品・釘	中央部	3.6+	0.6	0.5	頭部幅0.9cm, 4g+	150-51
26	Na-193	IIA-M2・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.2+	0.8	0.7	頭部幅1.1cm, 7g+	150-52
27	Na-195	IIA-M6・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	5.0+	0.7	0.7	大部分欠損, 8g+	150-53
28	Na-205	IIA-M5・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.8+	1.0	0.9	頭部幅0.9cm, 9g+	150-54
29	Na-201	IIA-M8・IV層	鉄製品・鍔	口縁部小片	1.7+	6.7+	0.8	10g+	150-55
30	Na-2-3	IIA-M2・IV層	鉄製品・鍔	体部小片	2.7+	3.8+	0.3	14g+	150-56
31	Na-207	IIA-M4・IV層	鉄製品・釘?	不明?	3.4	0.5	0.5	8g	150-57
32	Na-208	IIA-M5・IV層	鉄製品・刀子	先端部欠損	12.4+	1.1	0.4	11g+	150-58

第597図 11A区 基本層出土遺物 (7)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						径	重量			
1	Nb-180	11A-M5・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.5		2.8g	祥符通寶(北宋・初鑄1009年)	151-1	
2	Nb-242	11A・側溝	銅製品・銭貨	完形	2.4		2.9g	大聖元寶(北宋・初鑄1023年)	151-2	
3	Nb-179	11A-M5・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.4		2.8g	大聖元寶(北宋・初鑄1023年)	151-3	
4	Nb-241	11A・側溝	銅製品・銭貨	完形	2.4		2.6g	皇寧通寶(北宋・初鑄1039年)	151-4	
5	Nb-243	11A・側溝	銅製品・銭貨	完形	2.5		2.8g	皇太通寶(北宋・初鑄1039年)	151-5	
6	Nb-175	11A-M6・IV層	銅製品・銭貨	完形(割れ)	2.4		2.9g	元豐通寶(北宋・初鑄1078年)	151-6	
7	Nb-176	11A-M2・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.5		3.4g	紹聖元寶(北宋・初鑄1094年)、裏面小点2	151-7	
8	Nb-244	11A・側溝	銅製品・銭貨	完形	2.5		2.8g	紹聖元寶(北宋・初鑄1094年)	151-8	
9	Nb-178	11A-M5・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.4		2.9g	政和通寶(北宋・初鑄1111年)	151-9	
10	Nb-177	11A-M5・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.4		2.2g	元符通寶(北宋・初鑄1098年)	151-10	
11	Nb-5	11A-M8・埋附	銅製品・銭貨	完形	2.3		2.3g	元祐通寶(新嘉坡錢)	151-11	
12	Nb-255	11A・側溝	銅製品・用途不明	完形	長3.3	幅2.0	厚1.2		151-12	

第598図 11A区 基本層出土遺物 (8)

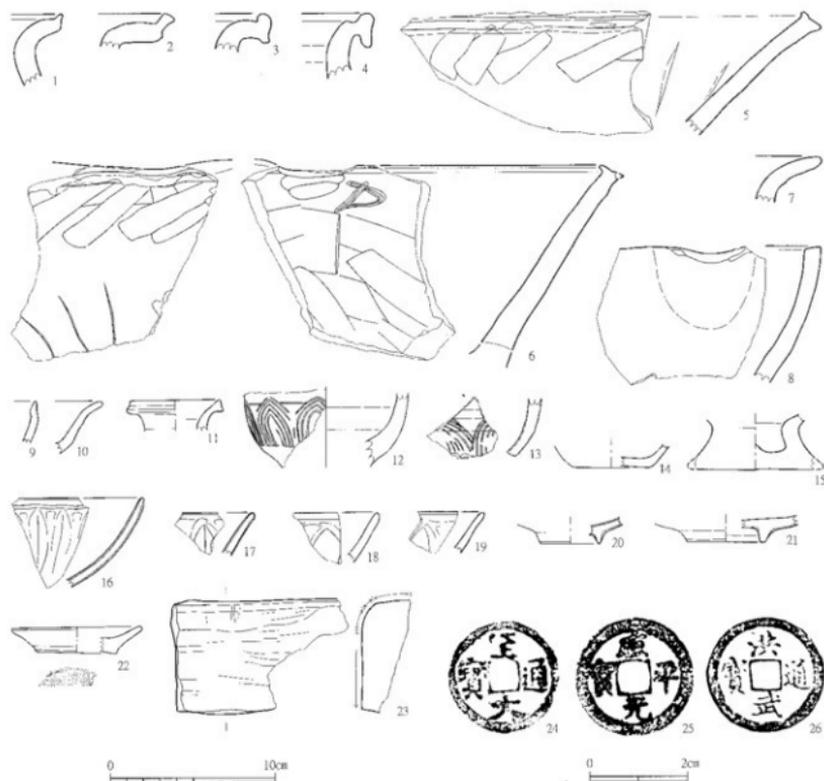
第616図は11F区の須恵器と石製品であるが、前述した理由によって須恵器のうちR9グリッドから出土したE-71杯、E-76棗(第616図・10)は本来S11の遺物であった可能性がある。石製品は砥石3点と温石1点が図化できた。

第617・618図は11F区の鉄製品・土製品・銅製品(銭貨)で、鉄製品は多数の釘のほか火箸・刀子・紡錘車軸・榎・銅などがある。銭貨は北宋銭8点と明銭1点である。

(註1) 常滑・深美・東海・在地産の他、表では「その他土器・陶磁器」の項目に入れた須恵器系陶器1点を含む。

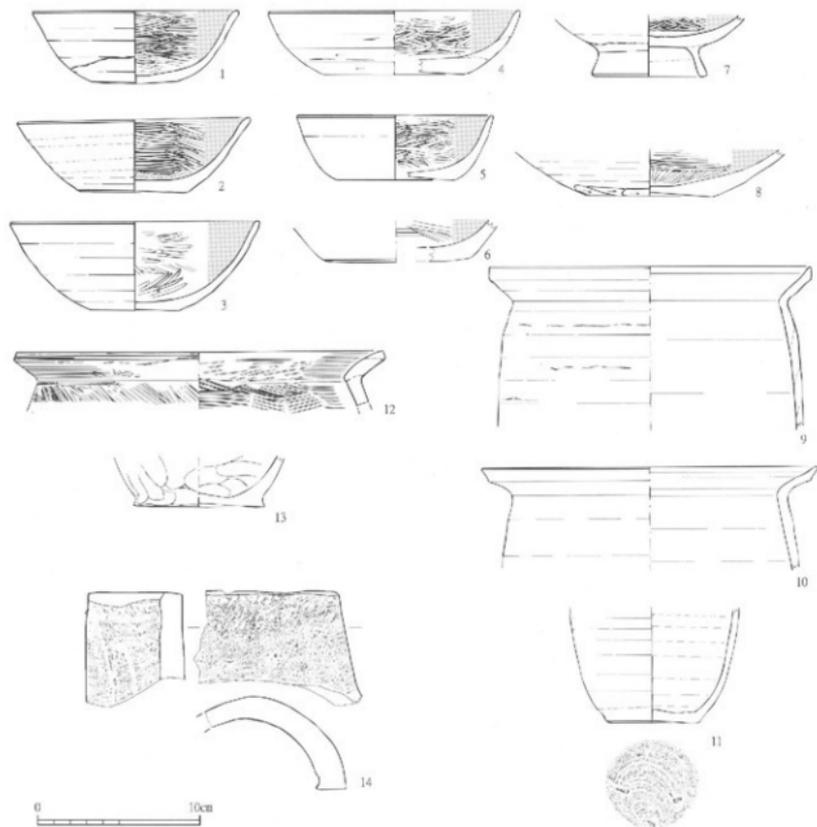
(註2) 産地不明の須恵器系陶器1点を含む。

(註3) 仙台市博物館学芸員、高橋あけみ氏の御教示による。なお、兜の八幡座であった場合、Nb-193には装飾が施されないで最下部の金物と考えられる。



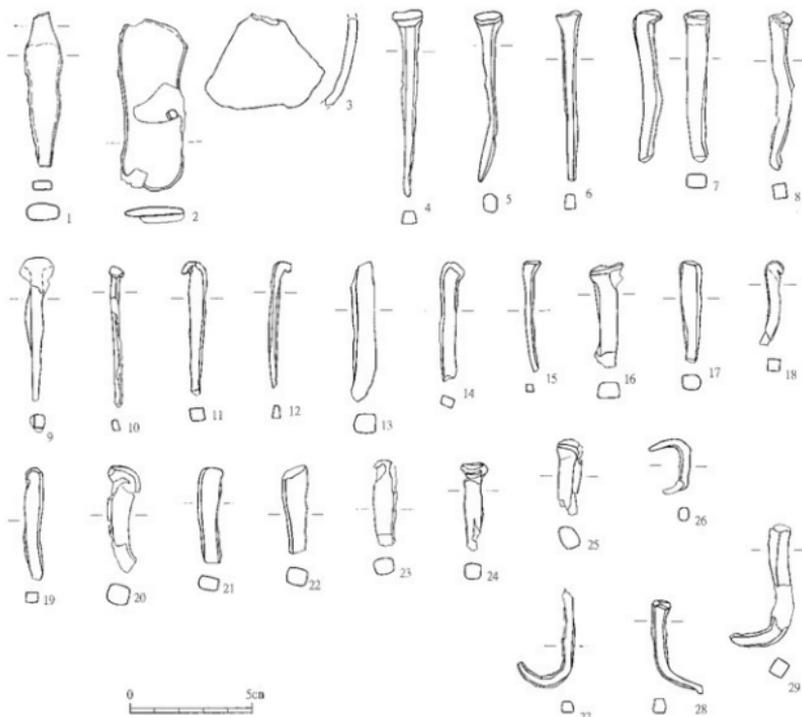
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(産地)	器種	遺存度	法属 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	lc-63	11B・側溝	陶器(常滑)	甕	口縁～体部片				11B側溝コナテ上縁内面に黒色の自然焼痕跡付。底式	151-13
2	lc-62	11B-M10・IV層	陶器(常滑)	甕	11縁部小片				ヨコナテ・5型式	151-14
3	lc-43	11B-M9・IV層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				ヨコナテ・6a型式	151-15
4	lc-64	11B-M10・IV層	陶器(常滑)	甕	口縁～体部片				口・器部ヨコナテ・体部ナゲ・6a型式	151-16
5	lc-60	11B-M13・V層	陶器(常滑)	片1鉢	口縁～体部片				ロウロ調整→内外面ヘラナテ	151-17
6	lc-66	11B-M13・V層	陶器(常滑)	片1鉢	口縁～体部片				ロウロ調整→内外面ヘラナテ・内面にヘラ跡	151-18
7	lc-65	11B-K11・IV層	陶器(常滑)	甕	11縁部小片				ヨコナテ	151-19
8	lc-58	11B-M13・側溝	陶器(佐渡)	白口片1鉢	口縁～体部片				ロウロ(同輪谷調整)	151-20
9	lc-69	11B・側溝	陶器(中国)	天目碗	11縁部小片				鉄輪	151-21
10	lc-68	11B-M9・IV層	陶器(古瀬戸)	底付貝皿	口縁～体部片				灰輪。中早期	151-22
11	lc-67	11B-M10・IV層	陶器(古瀬戸)	魚子口鉢	口縁部1/4	(5.4)			灰輪。前早期	151-23
12	lc-66	11B-M12・IV層	陶器(古瀬戸)	仏花瓶	体部小片		体部径(10.0)		鉄輪。印花文。中1～2期	151-24
13	lc-70	11B-M13・IV層	陶器(古瀬戸)	仏花瓶	体部小片				鉄輪。印花文。中1～2期	151-25
14	lc-68	11B-M9・IV層	陶器(古瀬戸)	人丁	底部1/5	(4.6)			灰輪。内面に赤色の付着痕跡として発見。前中1～2期	151-26
15	lc-80	11B-M13・側溝	陶器(古瀬戸)	式部瓶	底部1/5	(8.3)			灰輪。後早期	151-27
16	lc-141	11B-K11・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	11縁部小片				緑漆片文	151-28
17	lc-196	11B-M13・III層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				蓮弁文	151-29
18	lc-139	11B・側溝	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				蓮弁文	151-30
19	lc-128	11B-M10・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	11縁部小片				緑漆片文	151-31
20	lc-140	11B-K11・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	底部1/5	(3.6)			桃付陶胎	151-32
21	lc-187	11B-M13・III層	青磁(龍泉窯系)	碗	底縁1/5	(4.8)			真珠丸・雲付片陶胎	151-33
22	lc-85	11B・側溝	土師質土器・小皿	小皿	1/4	(8.0)	(5.0)	1.7	ロウロ調整。糸切。内面ナゲ。白針微塵	151-34
23	K-89	11B-M9・V層	銅製品	硝石	端部のみ	10.7+	7.0	2.8	245g±。砂質	151-35
24	Nb-187	11B-M13・V層	銅製品	鈴貨	幣23				重3.0g 天に通貨(元・初建)10年	151-36
25	Ns-1	11B-M14・側溝	銅製品	鈴貨	幣24				重3.2g 咸平元寶(成宗・初建 998年)	151-37
26	Ns-4	11B-M14・側溝	銅製品	鈴貨	幣24				重3.4g 法武通寶(明・初建)168年	151-38

第599図 11B区 基本層出土遺物 (1)



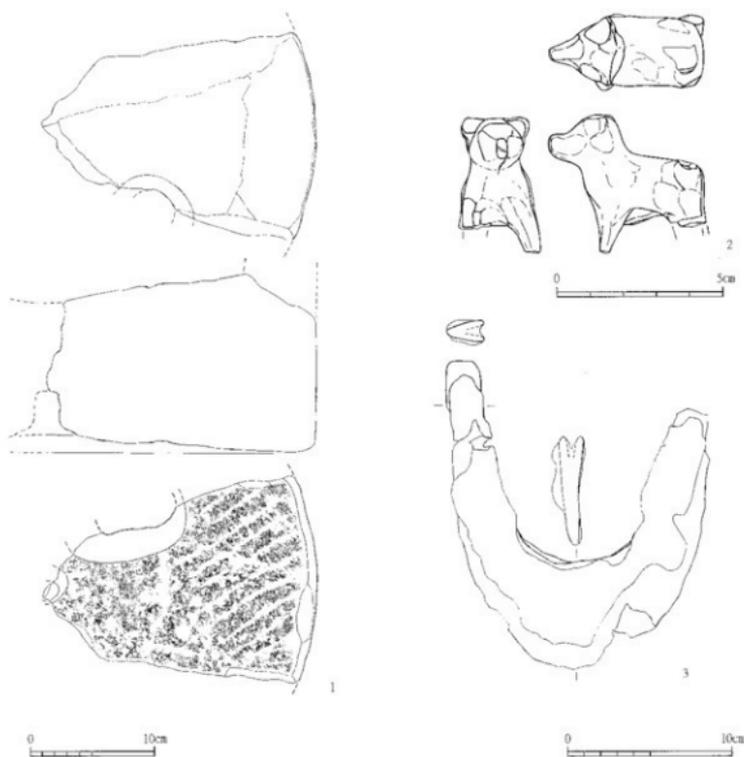
No.	登録No.	地区・遺跡・層位	種別(産地)	器種	造寸度	法尺 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	D-56	11B-M9・IV層	土師器	杯	深鉢完形	12.6	5.1	4.5	ロクロ調整、高部→手背ヘラケズリ、内面ヘラミダキ・黒色染付、白針少量、底径/口径0.40	152-1
2	D-55	11B-M9・V層	土師器	杯	深鉢完形	14.3	6.8	4.5	ロクロ調整、黒色染付、内面ヘラミダキ・黒色染付、白針少量、底径/口径0.48	152-2
3	D-61	11B-M10・V層	土師器	杯	1/4	(15.2)	5.3	5.5	ロクロ調整、黒色染付、内面ヘラミダキ・黒色染付、白針少量、底径/口径0.35	152-3
4	D-58	11B-M13・Vb層	土師器	杯	1/4	(15.3)	(8.5)	3.9	ロクロ調整、黒色染付、体部下半回転ヘラケズリ、内面ヘラミダキ・黒色染付、白針少量、底径/口径0.56	152-4
5	D-57	11B-M13・Vb層	土師器	杯	1/2	(12.0)	7.2	4.0	ロクロ調整、黒色染付、内面ヘラミダキ・黒色染付、白針少量、底径/口径0.60	152-5
6	D-60	11B-M13・Vb層	土師器	杯	底部2/5			(8.8)	外面磨減、内面ヘラミダキ・黒色染付、白針少量、ロクロ調整、黒色染付、内面ヘラミダキ・黒色染付、白針少量	152-6
7	D-62	11B-M9・V層	土師器	高台杯	下部		7.1		ロクロ調整、黒色染付、内面ヘラミダキ・黒色染付、白針少量	152-7
8	D-59	11B-M9・IV層	土師器	鉢	下部		2.7		ロクロ調整、底部→体部下端手背ヘラケズリ、内面ヘラミダキ・黒色染付、白針少量	152-8
9	D-63	11B-M10・V層	土師器	甕	上部1/4	(19.6)			ロクロ調整	152-11
10	D-65	11B-M10・IV層	土師器	甕	上部1/4	(20.5)			ロクロ調整、白針少量	152-12
11	D-64	11B-M9・V層	土師器	小型甕	下部			5.7	ロクロ調整、回転糸切	152-13
12	C-37	11B-M9・V層	土師器	甕	上部1/4	(22.6)			口縁部ヘラミダキ・黒色染付、白針少量	152-9
13	C-25	11B-M10・V層	土師器	甕	底部1/5			(8.0)	内外面ナデ、底面木炭痕、白針少量	152-10
14	F-9	11B-K11-IV層	瓦	瓦・瓦丸	部分	径6.8+	幅8.6+	厚1.6	凸面傾斜、ノースリケン、凹面直線、無面ナデ	152-14

第600図 11B区 基本層出土遺物 (2)



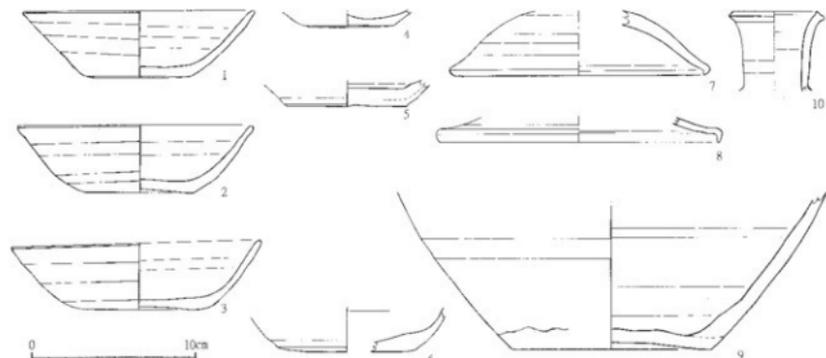
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(所在地)	器種	遺存状況	法量 (cm)		調整・特徴	参考図版
						長さ	幅		
1	Na-240	11B-K10・IV層	鉄製品・棒?	中央部	6.4+	1.5	0.4	12g+	153-1
2	Na-13	11B-M13・IV層	鉄製品・用途不明	ほぼ先端	7.2	2.5	0.7	30g	153-2
3	Na-7	11B-M13・IV層	鉄製品・棒	腰部小片	5.0+	(+3.8)	0.3	18g-	153-3
4	Na-6	11B-M17・IV層	鉄製品・釘	先端	7.8	0.6	0.5	頭部幅1.5cm, 9g	153-4
5	Na-14	11B-M13・IV層	鉄製品・釘	ほぼ先端	7.1	0.8	0.5	頭部幅1.2cm, 10g	153-5
6	Na-199	11B-M9・IV層	鉄製品・釘	9/10	7.0+	0.6	0.4	頭部幅1.0cm, 9g+	153-6
7	Na-235	11B-M10・IV層	鉄製品・釘	中央部	6.3+	0.8	0.5	頭部幅1.1cm, 9g+	153-7
8	Na-236	11B-M10・IV層	鉄製品・釘	中央部	6.6	0.6	0.6	頭部幅0.9cm, 7g+	153-8
9	Na-9	11B-M13・IV層	鉄製品・釘	ほぼ先端?	6.0	0.8	0.6	頭部跡のため不明瞭, 7g+	153-9
10	Na-197	11B-M9・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	5.9+	0.4	0.3	頭部幅0.6cm, 3g+	153-10
11	Na-261	11B-M12・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.5+	0.6	0.5	頭部幅1.0cm, 7g+	153-11
12	Na-11	11B-M13・IV層	鉄製品・釘	尖	5.3+	0.5	0.4	頭部幅0.7cm, 3g+	153-12
13	Na-239	11B-M13・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.8+	0.9	0.7	12g+	153-13
14	Na-198	11B-M9・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	5.0+	0.5	0.4	7g+	153-14
15	Na-196	11B-M9・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.6+	0.4	0.3	頭部幅0.8cm, 3g+	153-15
16	Na-12	11B-M17・IV層	鉄製品・釘	1/2	4.2+	0.9	0.7	頭部幅1.4cm, 6g+	153-16
17	Na-233	11B-M10・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.2+	0.8	0.6	7g+	153-17
18	Na-321	11B-M15・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.5+	0.5	0.5	2g+	153-18
19	Na-234	11B-M10・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.7+	0.5	0.4	5g+	153-19
20	Na-231	11B-M9・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.4+	0.9	0.8	頭部幅1.5cm, 7g+	153-20
21	Na-238	11B-M13・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.0+	0.8	0.6	5g+	153-21
22	Na-244	11B-M13・IV層	鉄製品・釘	中央部	3.7+	0.7	0.6	7g+	153-22
23	Na-257	11B-JK11・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.6+	0.8	0.7	6g+	153-23
24	Na-237	11B-M10・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.6+	0.7	0.6	頭部幅1.1cm, 4g+	153-24
25	Na-242	11B-M12・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.2+	1.0	0.7	6g+	153-25
26	Na-8	11B-M13・IV層	鉄製品・釘	中央~先端部	2.3+	0.6	0.5	器曲, 2g+	153-26
27	Na-200	11B-M9・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.8+	0.5	0.5	器曲, 5g+	153-27
28	Na-10	11B-M13・IV層	鉄製品・釘	尖	3.9+	0.6	0.5	頭部幅0.8cm, 5g+	153-28
29	Na-243	11B-M12・IV層	鉄製品・釘	中央~先端部	3.7+	0.7	0.6	器曲, 8g+	153-29

第601図 11B区 基本層出土遺物 (3)



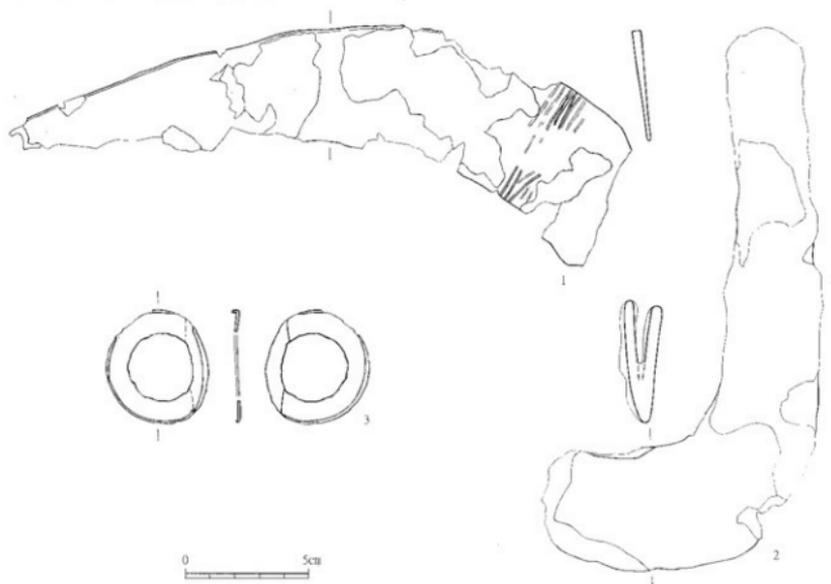
No.	登録No.	地区・遺物・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法尺 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	K-135	11B-M13・Vb層	石製品・粉状白土白	1/6	(44.5)		14.5-	灰山岩	152-26
2	P-1	11B-M13・IV層	土製品・犬形	3/4	4.7	2.5	高さ 4.3	24g+	152-25
3	Ns-245	11B-M9・V層	鉄製品・鉋頭先	部分損	18.9+	15.6+	1.5	11J 字形, 410g	152-27

第602図 11B区 基本層出土遺物 (4)



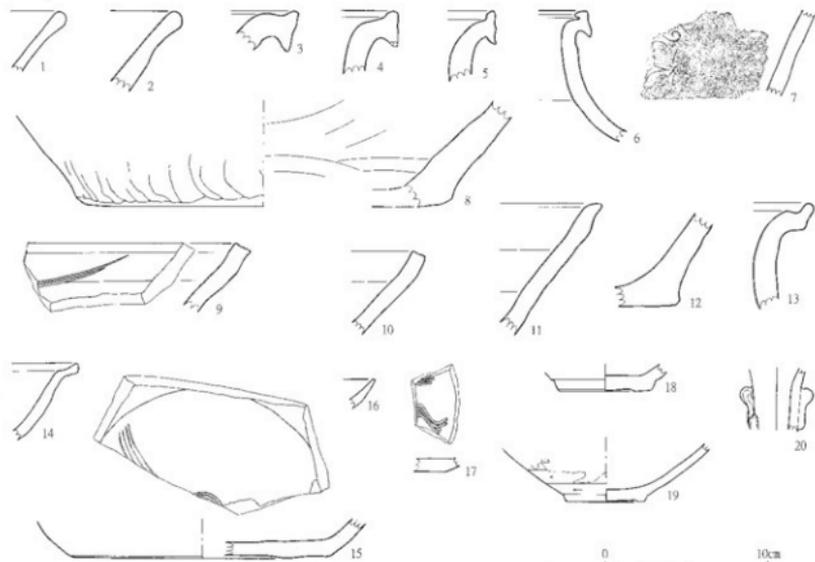
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	E-121	11B-M10・V層	須恵器・坏	1/2		4.0	6.4	4.1	ロク口調整、底縁切離法不明→ロクヘラケズリ→頸子底縁/口径0.46	152-15
2	E-94	11B-M9・IV層	須恵器・坏	1/2		14.2	6.3	4.1	ロク口調整、底縁切離、内斜調整、底縁/口径0.44	152-16
3	E-120	11B-M10・V層	須恵器・坏	完整		14.9	6.5	4.1	ロク口調整、内斜調整、内斜調整、底縁/口径0.44	152-17
4	E-136	11B-M15・IV層	須恵器・坏	底部分のみ		(4.7)			ロク口調整、底縁切離	152-18
5	E-119	11B-M10・V層	須恵器・坏	底部分のみ		7.7			ロク口調整、底縁切離法不明→ロクヘラケズリ	152-19
6	E-122	11B-M10・V層	須恵器・坏	底部分のみ		8.4			ロク口調整、底縁切離法不明→ロクヘラケズリ	152-20
7	E-118	11B-M9・V層	須恵器・蓋	1/5		(15.2)			ロク口調整	152-21
8	E-117	11B-M10・V層	須恵器・蓋	口縁部小片		(17.0)			ロク口調整	152-22
9	E-116	11B-M13・Vb層	須恵器・甕	下部1/2		11.9			ロク口調整、口縁切離、内斜調整、上部切離法不明に転用?	152-24
10	E-123	11B-M9・V層	須恵器・長柄瓶	11線部分のみ		5.8			ロク口調整	152-23

第603図 11B区 基本層出土遺物 (5)



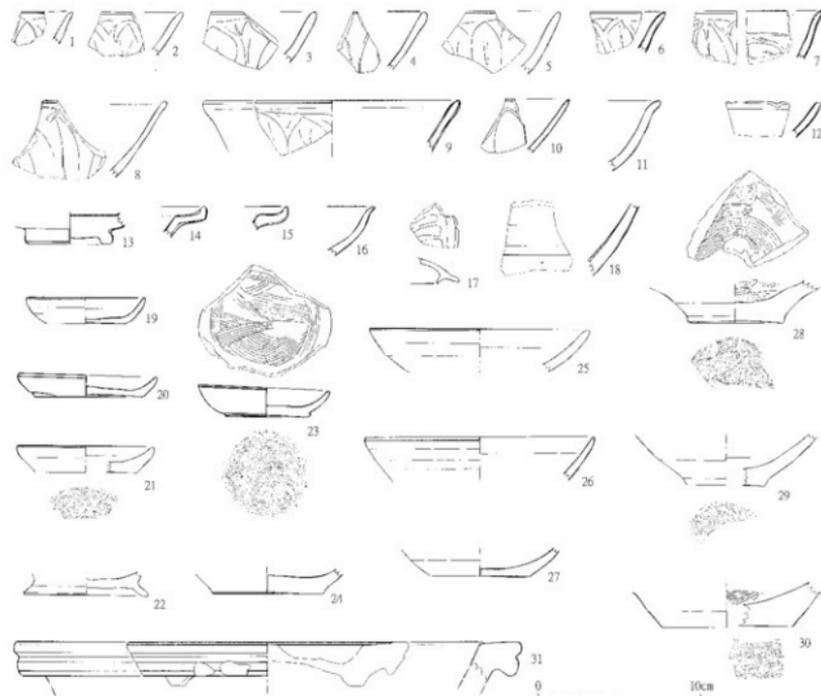
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	高さ		
1	Na-333	11C-M22・IV層	鉄製品・鏃		4/5	24.5+	4.5	0.3	基部付着に存状の痕跡、.12g	155-29
2	Na-28	11C-M21・Vb層	鉄製品・鐵剣先		1/2	21.8+	11.3-	1.5	271g+	156-50
3	Na-193	11C-M22・IV層	銅製品・金物?		ほぼ完整	径4.6	7/10		6g、八幡塚の金物?	155-24

第604図 11C区 基本層出土遺物 (1)



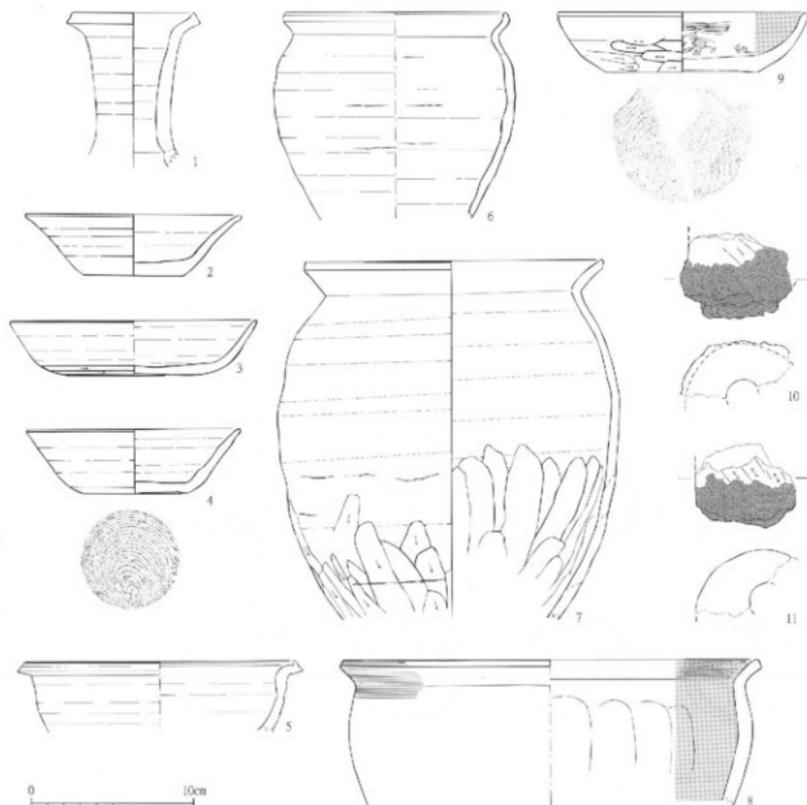
No.	発掘No.	地区・遺構・階位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	lc-328	11C-M14・IV層	陶器(東海)鉢	11線部小片				ロクロ陶器, 山茶碗器系	153-30
2	lc-329	11C-M22・IV層	陶器(東海)鉢	口縁部小片				ロクロ陶器, 山茶碗器系	153-31
3	lc-314	11C-M22・IV層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ, 内外裏オリーブ灰色の自然釉, 6a型式	153-32
4	lc-315	11C-II層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ, 内外裏オリーブ灰色の自然釉, 6a型式	153-33
5	lc-315	11C-倒溝	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ヨコナデ, 外面に緑赤褐色の自然釉, 6a型式	153-34
6	lc-316	11C-倒溝	陶器(常滑)甕	11線-体部片				11線ヨコナデ, 外面に緑赤褐色の自然釉, 6a型式	153-35
7	lc-322	11C-M22・IV層	陶器(常滑)甕	体部小片				ナデ, 北方向修理	153-36
8	lc-318	11C-I層	陶器(常滑)甕	底部片		(23.2)		ナデ	153-37
9	lc-319	11C-M22・IV層	陶器(佐野・白石)片口鉢	口縁部小片				ロクロ (回転台) 陶器, 外面にヘラ肌	153-38
10	lc-320	11C-M14・IV層	陶器(佐野・白石)片口鉢	口縁部小片				ロクロ(回転台) 陶器, 口縁部面に灰オリーブ色の自然釉	153-40
11	lc-311	11C-倒溝	陶器(佐野・白石)片口鉢	11線-体部片				ロクロ (回転台) 陶器, 内面磨減	153-39
12	lc-321	11C-M16・IV層	陶器(佐野・白石)片口鉢	底部小片				ロクロ (回転台) 陶器, 内面磨減	153-41
13	lc-322	11C-M22・IV層	陶器(佐野・白石)甕	口縁-体部片				ロ・海産ヨコナデ, 外面に灰白色の自然釉	153-42
14	lc-324	11C-M15-17・IVc層	陶器(佐野戸)片口鉢	口縁-体部片				灰釉, 中1期	154-1
15	lc-310	11C-M14・IV層	陶器(佐野戸)片口鉢	底部片		(16.0)		灰釉, 中1~II期	154-2
16	lc-327	11C-M16・IV層	陶器(佐野戸)線輪小皿?	11線部小片				灰釉, 後I期	154-3
17	lc-556	11C-II層	陶器(古瀬戸)折縁深皿	底部小片				灰釉, 中1~II期	154-4
18	lc-554	11C-M22・IV層	陶器(古瀬戸)平碗	底部		5.7		灰釉, 後I期	154-7
19	lc-326	11C-倒溝	陶器(古瀬戸)平碗	下部		4.8		灰釉, 後I期	154-6
20	lc-323	11C-倒溝	陶器(古瀬戸)仏花瓶	底部小片				鉄釉, 中1~II期	154-5

第605図 11C区 基本層出土遺物(2)



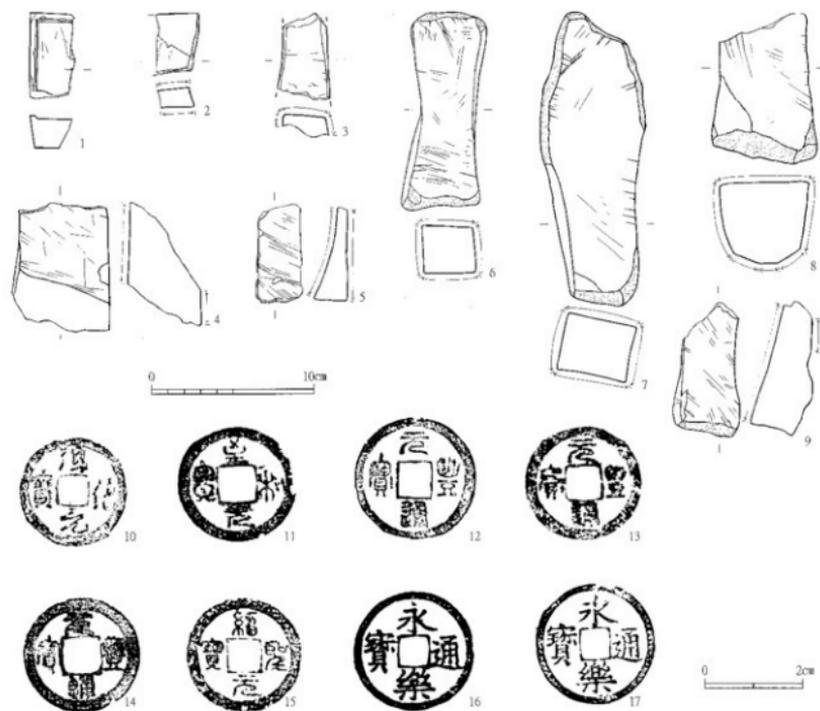
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(产地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						口徑	底径	胎高		
1	J-172	11C・II層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				海有文	154-8
2	J-102	11C-M21・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				蓮弁文	154-9
3	J-104	11C・M17・V層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				施赤弁文	154-10
4	J-174	11・側溝	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				蓮弁文	154-11
5	J-106	11C-M15・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				施蓮弁文	154-12
6	J-100	11C-M15-17・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				施蓮弁文	154-13
7	J-99	11C-M21・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				施蓮弁文・内面劃花文	154-14
8	J-103	11C・側溝	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				施赤弁文	154-15
9	J-101	11C・M19・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				蓮弁文	154-16
10	J-157	11C-M20・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				蓮弁文	154-17
11	J-105	11C・II層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片				蓮弁文	154-18
12	J-97	11C・M22・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片					154-19
13	J-94	11C・M22・IV層	青磁(龍泉窯系)	碗	底部		5.4			154-20
14	J-96	11C・I層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片					154-21
15	J-95	11C・II層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片					154-22
16	J-173	11C・I層	白磁(中国)	碗	口縁部小片					154-23
17	J-98	11C-M21・IV層	白磁(中国)	合子	口縁部小片					154-24
18	lc-317	11C-M21・IV層	陶器(中国)	天竹筒	底部小片				黒釉	154-25
19	la-38	11C・II層	十勝産土器・小皿	1/5	(7.1)	(4.8)	1.6		口の白磁質、裏面黒釉、見込み十字、内面にタテヨコ線の文、 灯明皿として使用、白刺襷文	154-26
20	1a-47	11C-M14・V層	十勝産土器・小皿	1/2	(8.6)	6.6	1.3		口の口調整、口縁糸切、白刺襷文	154-27
21	1a-49	11C-M22・IV層	十勝産土器・小皿	1/4	(8.4)	(6.2)	1.6		口の口調整、口縁糸切、白刺襷文	154-28
22	1a-44	11C-M16・V層	十勝産土器・碗	底部		7.6			口の口調整、付高台	154-29
23	1a-43	11C-M16-18・IV層	十勝産土器・小皿	2/3		5.3	1.9		口の口調整、口縁糸切、見込み十字、見込み十字	154-30
24	1a-42	11C・側溝	十勝産土器・皿	底部2/3		6.8			口の口調整、口縁糸切、白刺襷文	154-31
25	1a-86	11C-M22・IV層	十勝産土器・皿	11線部1/4	(13.9)				口の口調整、口縁糸切、白刺襷文	154-32
26	1a-37	11C-M20・IV層	十勝産土器・皿	口縁部1/4	(14.0)				口の口調整、口縁糸切、白刺襷文	154-33
27	1a-11	11C・I層	十勝産土器・皿	底部1/2		(6.2)			口の口調整、蓮花文一重十字、見込み十字、白刺襷文	154-34
28	1a-39	11C-M22・IV層	十勝産土器・皿	下部1/3		(6.0)			口の口調整、口縁糸切、見込み十字、白刺襷文	154-35
29	1a-45	11C-M21・IV層	十勝産土器・皿	下部1/3		(4.8)			口の口調整、口縁糸切、見込み十字、白刺襷文	154-36
30	1a-40	11C-M22・IV層	十勝産土器・皿	底部1/6		(8.0)			口の口調整、口縁糸切、見込み十字、白刺襷文	154-37
31	1b-28	11C-M17・層不明	瓦質土器・碗	口縁部1/10	(31.0)				口の口調整、白刺襷文	154-38

第606図 11C区 基本層出土遺物 (3)



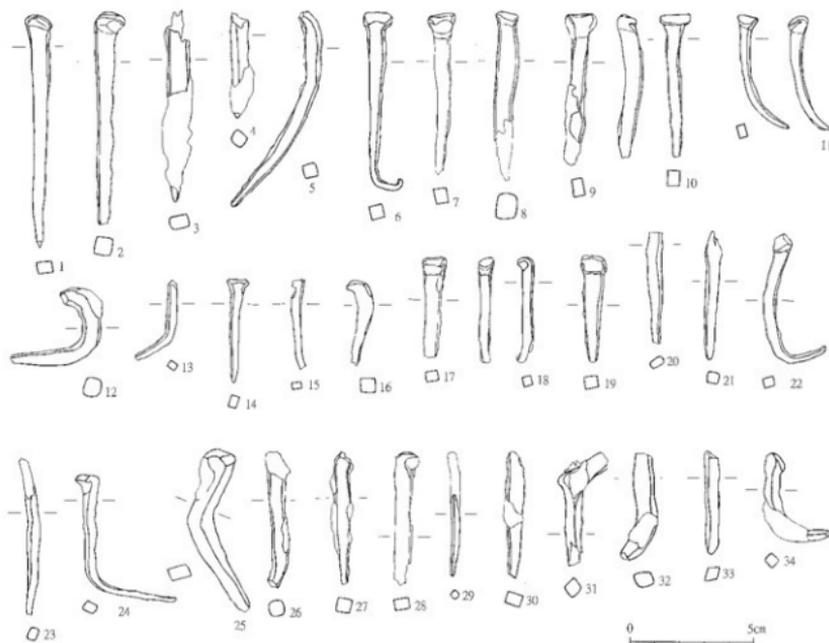
No	登録No	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法長 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	B-56	11C・側溝	須恵器・長頸瓶	口頸部		7.4			口ク口面整	154-39
2	B-55	11C-M21・V a層	須恵器・杯	2/3	13.4	6.0	3.8		口ク口面整, 横線ヘラ等一帯子, 白粉塗, 裏面/口内底	154-40
3	B-57	11C-M17・V層	須恵器・杯	1/5	(15.2)	(8.1)	3.4		口ク口面整, 裏面/口内底, 横線ヘラ等一帯子, 白粉塗, 裏面/口内底	154-41
4	B-56	11C-M15・V層	須恵器・杯	3/4	13.1	6.1	4.0		口ク口面整, 口縁点切, 白粉塗, 裏面/口内底	154-42
5	B-53	11C-M15・V層	須恵器・鉢	上部1/4	(17.6)				口ク口面整	154-43
6	D-14	11C-M20・IV層	土師器・甕	3/5	(13.6)				口ク口面整	155-2
7	D-15	11C-M19・IV層	土師器・甕	5/6	18.5				口ク口面整, 外面下部にハケツクス, 内面下部にハケツクス	155-3
8	C-17	11C-M21・V b層	土師器・鉢	1/6	(25.4)				口縁部内面へ生利身置コナナ子, 外面点切, 裏面点切	155-4
9	D-13	11C-M15・V層	土師器・杯	2/5	(15.2)	9.4	3.7		口ク口面整, 口縁点切, 白粉塗, 裏面/口内底, 内面へタミガナ子, 黒色點埋, 裏面/口内底	155-1
10	P-14	11C-M18・II層	土師器・羽口	部分	長6.8+	径7.0			110g+, 先端部片破	155-5
11	P-15	11C-M21・IV層	土師器・羽口	部分	長6.1+	径8.0			94g+, 先端部片破	155-6

第607図 11C区 基本層出土遺物 (4)



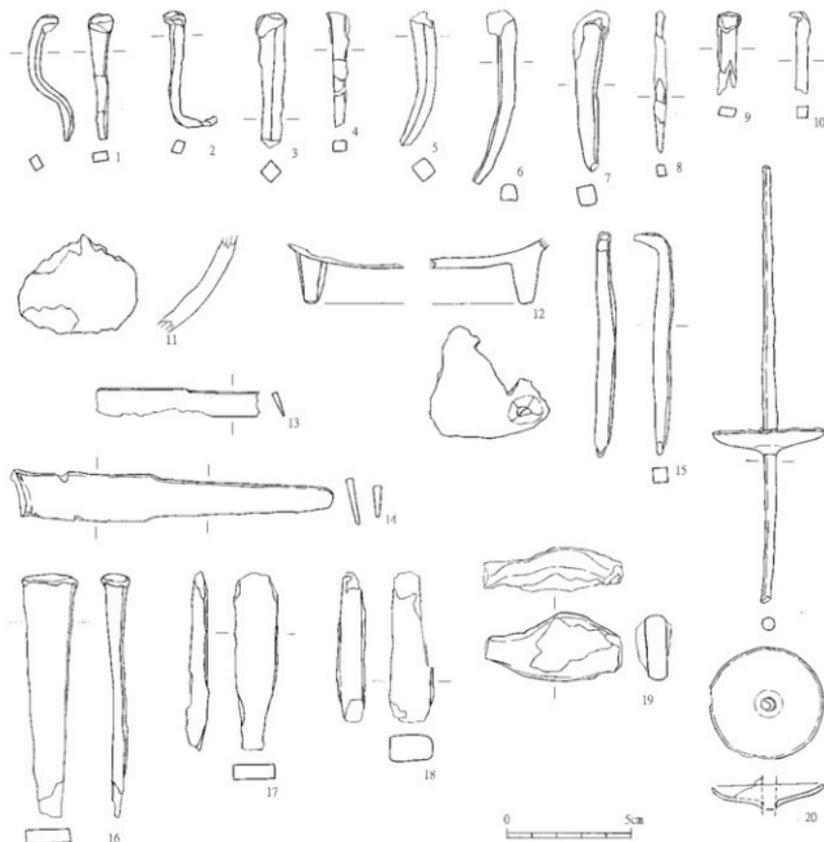
No.	収録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	K-103	11C-M22・IV層	石製品・硯	部分	5.3+	2.8+	2.0	42g+, 最厚部質	155-7
2	K-105	11C-M22・IV層	石製品・砥石	端部のみ	3.7+	2.7	1.4	14g+, デイサイト質凝灰岩	155-8
3	K-104	11C-M19・IV層	石製品・砥石	中央部のみ	5.4+	3.3+	3.4+	30g+, デイサイト	155-9
4	K-99	11C-M15・V層	石製品・砥石	中央部のみ	7.5	5.5	4.3	255g+, デイサイト	155-11
5	K-25	11C-M21・重層	石製品・砥石	端部のみ	5.7+	2.7	2.1	43g+, デイサイト	155-10
6	K-101	11C-M22・IV層	石製品・砥石	ほぼ完形	11.8	3.8	2.9	390g+, デイサイト	155-14
7	K-100	11C-M16・V層	石製品・砥石	完形	17.5	5.2	3.5	675g+, デイサイト質凝灰岩	155-15
8	K-102	11C-M18・IV層	石製品・砥石	端部のみ	9.2+	6.5	5.9	460g+, デイサイト質凝灰岩	155-12
9	K-26	11C-M21・V層	石製品・砥石	中央部のみ	8.2	4.1	3.2	105g+, デイサイト質凝灰岩	155-13
								車輪	
10	Nb-195	11C-M22・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.2		2.6	淳化元寶(北宋・初鑄990年)	155-16
11	Nb-196	11C-M16・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.4		3.0	聖和元寶(北宋・初鑄1054年)	155-17
12	Nb-194	11C-M22・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.5		3.9	元豊通寶(北宋・初鑄1078年)	155-18
13	Nb-190	11C-M16・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.4		2.0	元豊通寶(北宋・初鑄1078年)	155-19
14	Nb-2	11C-M21・重層	銅製品・銭貨	完形	2.6		2.5	元豊通寶(北宋・初鑄1078年)	155-20
15	Nb-191	11C-M16・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.4		3.2	紹聖元寶(北宋・初鑄1094年)	155-21
16	Nb-92	11C-M11・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.5		2.6	永樂通寶(明・初鑄1408年)	155-22
17	Nb-197	11C-M21・IV層	銅製品・銭貨	ほぼ完形	2.5		2.7	永樂通寶(明・初鑄1408年)	155-23

第608図 11C区 基本層出土遺物 (5)



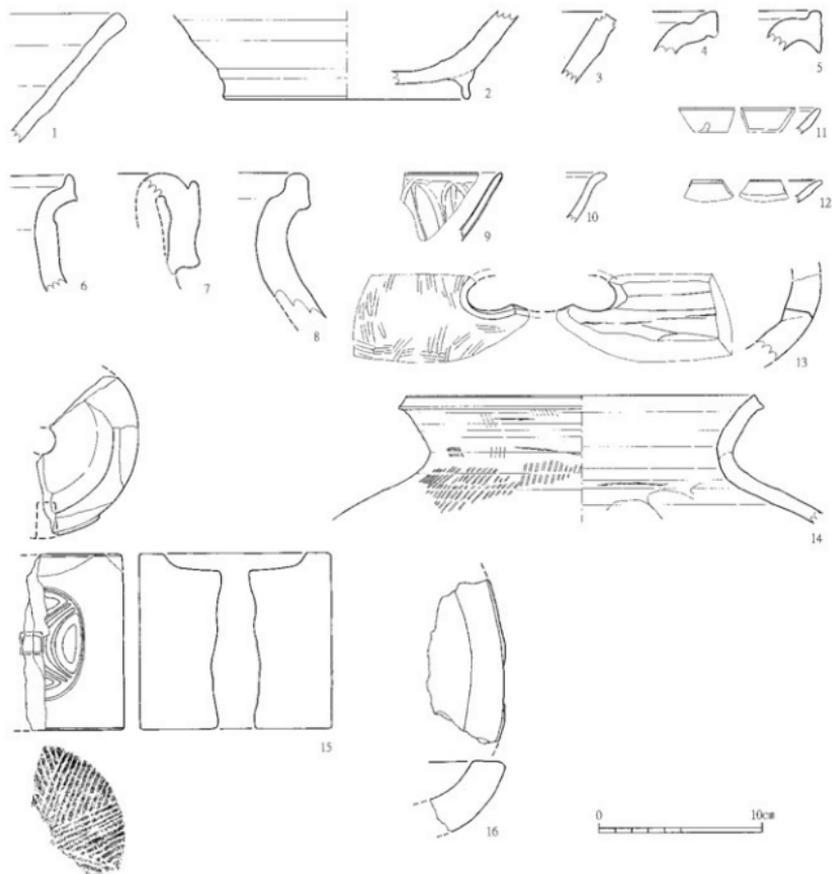
No.	登録No.	地区・遺物・層位	種別(高地)器種	遺存度	法曹 (cm)			調整・特徴	写真 階級
					長さ	幅	厚さ		
1	Na-324	11C-M22・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完形	9.5+	0.6	0.5	頭部幅1.0cm, 6g+	156-1
2	Na-328	11C-M20・IV層	鉄製品・釘	9/10	8.6+	0.7	0.7	頭部幅1.2cm, 19g+	156-2
3	Na-329	11C-M21・IV層	鉄製品・釘	中央部	7.8+	0.7	0.5	8g+	156-3
4	Na-329a	11C-M21・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.4+	0.6	0.5	4g+	156-4
5	Na-341	11C-M21・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完形	8.9	0.5	0.5	折曲, 8g	156-5
6	Na-319	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	完形	8.2	0.6	0.6	屈曲, 頭部幅1.1cm, 8g	156-6
7	Na-303	11C-M19・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完形	6.6+	0.5	0.6	頭部幅1.1cm, 8g+	156-7
8	Na-309	11C-M19・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	6.9+	0.8	1.0	12g+	156-8
9	Na-363	11C-M21・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	6.2+	0.5	0.7	頭部幅1.2cm, 11g+	156-9
10	Na-317	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	9/10	5.8+	0.5	0.7	頭部幅1.2cm, 9g+	156-10
11	Na-318	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	完形	5.3	0.3	0.5	屈曲, 頭部幅0.8cm, 4g	156-11
12	Na-327	11C-M20・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.9+	0.7	0.6	厚さ, 9g+	156-12
13	Na-325	11C-M16・IV層	鉄製品・釘	中央部	3.9+	0.4	0.3	屈曲, 1g+	156-13
14	Na-312	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	完形	4.3	0.3	0.5	頭部幅0.9cm, 4g	156-14
15	Na-331	11C-M20・IV層	鉄製品・釘	中央部	3.7+	0.4	0.3	2g+	156-15
16	Na-344	11C-M21・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.5+	0.6	0.6	3g+	156-16
17	Na-302	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.1+	0.5	0.4	5g+	156-17
18	Na-315	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	4.3+	0.4	0.4	頭部幅0.6cm, 4g+	156-18
19	Na-307	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	9/10	4.3+	0.5	0.5	頭部幅1.0cm, 4g+	156-19
20	Na-335	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.5+	0.5	0.3	3g+	156-20
21	Na-329	11C-M20・IV層	鉄製品・釘	中央~先端部	5.2+	0.5	0.5	3g+	156-21
22	Na-313	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	完形	7.1	0.5	0.4	折曲, 頭部幅0.7cm, 7g	156-22
23	Na-302	11C-M20・IV層	鉄製品・釘	中央部	6.4+	0.6	0.4	5g+	156-23
24	Na-320	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	完形	7.8	0.5	0.4	折曲, 頭部幅1.0cm, 5g	156-24
25	Na-305	11C-M20・IV層	鉄製品・釘	4/5	7.1+	0.9	0.6	屈曲, 14g+	156-25
26	Na-336	11C-M18・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.6+	0.6	0.5	7g+	156-26
27	Na-334	11C-M22・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.4+	0.6	0.5	6g+	156-27
28	Na-338	11C-M19・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	5.5+	0.6	0.5	7g+	156-28
29	Na-337	11C-M19・IV層	鉄製品・釘	中央~先端部	5.1+	0.3	0.3	3g+	156-29
30	Na-330	11C-M14・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.7+	0.7	0.5	3g+	156-30
31	Na-345	11C-M21・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.1+	0.6	0.5	折曲, 8g	156-31
32	Na-279	11C-M22・整理層	鉄製品・釘	中央部	4.6+	0.7	0.6	屈曲, 7g+	156-32
33	Na-5	11C-M21・V層	鉄製品・釘	2/3	4.2+	0.6	0.5	5g+	156-33
34	Na-272	11C-M20・V層	鉄製品・釘	頭~中央部	5.1+	0.5	0.4	折曲, 4g	156-34

第609図 11C区 基本層出土遺物 (6)



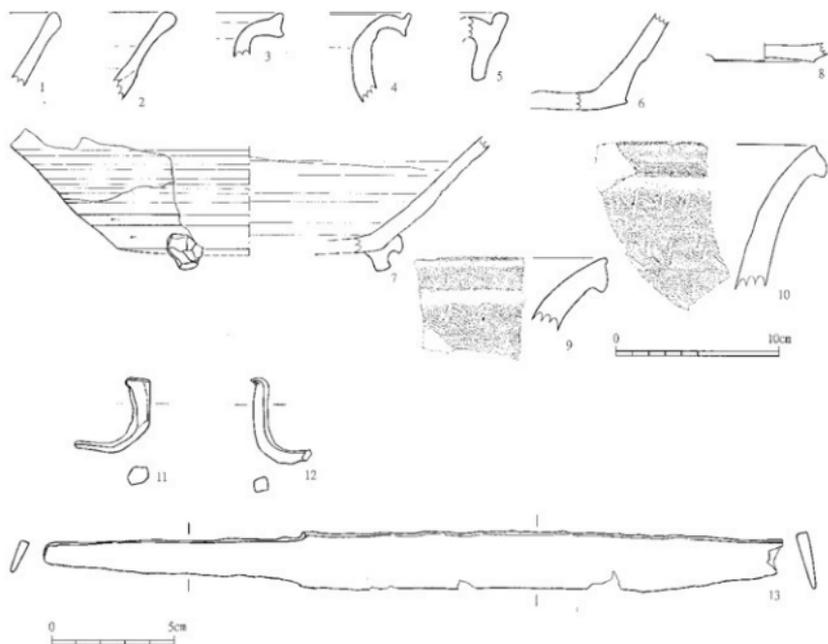
No.	登録No.	地区・遺跡・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量(4cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-278	11C・側溝	鉄製品・釘	完整	3.6	0.6	0.4	断面、4g	156-35	
2	Na-267	11C-M18・II層	鉄製品・釘	穿孔	6.0+	0.5	0.4	断面、断面幅0.9cm、(5g+)	156-36	
3	Na-270	11C-M18・III層	鉄製品・釘	頭~中央部	5.5	0.6	0.6	8g+	156-37	
4	Na-269	11C-M18・II層	鉄製品・釘	中央部	4.7+	0.5	0.4	4g+	156-38	
5	Na-271	11C・側溝	鉄製品・釘	中央部	5.5	0.8	0.7	8g+	156-39	
6	Na-4	11C-M21・III層	鉄製品・釘	4/5	7.2+	0.7	0.6	断面のため不明、9g+	156-40	
7	Na-276	11C・側溝	鉄製品・釘	中央部	6.5+	0.8	0.7	13g+	156-41	
8	Na-277	11C・側溝	鉄製品・釘	中央~先端部	5.8	0.5	0.3	4g+	156-42	
9	Na-268	11C-M18・II層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.4+	0.6	0.4	3g+	156-43	
10	Na-280	11C・側溝	鉄製品・釘	頭~中央部	3.3	0.5	0.4	3g+	156-44	
11	Na-311	11C・IV層	鉄製品・鋸	腰部小片	4.0+	4.8+	0.6	26g+	155-27	
12	Na-279	11C・側溝	鉄製品・鋸	腰部小片	4.9+	4.5+	0.5	断面1.6cm、36g+	155-28	
13	Na-316	11C-M18・IV層	鉄製品・刀子	部分	6.5+	1.0	0.2	6g+	155-25	
14	Na-342	11C-M21・IV層	鉄製品・刀子	茎~刀身基部	3.0+	1.5	0.4	24g+	155-26	
15	Na-308	11C-M15・IV層	鉄製品・鋸?	両端部欠損	9.2+	0.6	0.5	21g+	156-45	
16	Na-222	11C-M21・IV層	鉄製品・槌	4/5	10.0+	1.0~2.2	0.6	6g+	156-46	
17	Na-310	11C・IV層	鉄製品・?	端部欠損	7.3	1.7	0.6	板状、40g+	156-47	
18	Na-332	11C-M22・IV層	鉄製品・槌?	中央部	6.2+	1.6	1.0	23g+	156-48	
19	Na-306	11C-M19・IV層	鉄製品・火打金?	中央部	5.5	2.7	0.8	29g+	156-49	
20	Na-340	11C-M20・IV層	鉄製品・粘着具	軸頭端部欠損	17.0+	車径4.6	幅径0.5	30g+	156-51	

第610図 11C区 基本層出土遺物(7)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真図版
					口径	口径	器高		
1	Is-301	11D-IV層	陶器(東海)鉢					ロク口縄文、山系陶器系	157-1
2	Is-302	11D-1,27,28・IV層	陶器(東海)鉢	下部1/4		(15.1)		ロク口縄文、器底に若干のヘラツクス、体部下部にヘラツクス 内面野底して焼れる。山系陶器系	157-2
3	Is-303	11D-III層	陶器(在地・白石)片口鉢					口縁部小片	157-3
4	Is-302	11D-III層	陶器(常滑)甕					口縁部小片	157-4
5	Is-305	11D-IV層	陶器(常滑)甕					口縁部小片	157-5
6	Is-306	11D-III層	陶器(常滑)甕					口縁部小片	157-6
7	Is-304	11D-III層	陶器(常滑)甕					口縁部小片	157-7
8	Is-308	11D-1,25・IVa層	陶器(在地・白石)甕					口縁部小片	157-8
9	J-88	11D-IV層	陶器(常滑)甕					口縁部小片	157-9
10	J-73	11D-LM24・III層	陶器(常滑)甕					口縁部小片	157-10
11	J-86	11D-III層	陶器(常滑)甕					口縁部小片	157-11
12	J-87	11D-IV層	陶器(常滑)甕					口縁部小片	157-12
13	Is-90	11D-III層	陶器(常滑)甕					口縁部小片	157-13
14	E-17	11D-IV・V層	陶器(常滑)甕					口縁部小片	157-14
15	K-106	11D-III層	石製品・茶臼上臼			(22.2)	10.9	奈良産所、外周へつぎぎ、内面ナデ、臼軸部 ロク口縄文、外周タキ痕、内面ナデ	157-27
16	K-108	11D-III層	石製品・茶臼下臼	部分	10.1	4.7	4.3	200g±、灰山層	157-26

第611図 11D区 基本層出土遺物 (1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 附種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	lc-492	11E-N29・6層	陶器(東海) 鉢	口縁部小片				口ク口調整、山茶陶器系	158-17
2	lc-493	11E-128・5a層	陶器(東海) 鉢	1口縁部小片				口ク口調整、山茶陶器系	158-18
3	lc-489	11E-N29・6層	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ココナデ、S型式	158-20
4	lc-487	11E-128・6層	陶器(常滑) 甕	口縁～体部片				口縁部ココナデ、体部内蓋子内面へクナデ、S型式	158-19
5	lc-490	11E-N29・1層	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ、S型式	158-21
6	lc-488	11E-N29・6層	陶器(常滑) 甕	底部1/10				ナデ	158-22
7	lc-491	11E-N29・6層	陶器(古瀬戸) 壺胴	下部1/4	(15.9)			灰積、後Ⅲ～IV期	158-23
8	J-146	11E-6層	青磁(中世?) 瓦小片	底破	6.0				158-25
9	F-130	11E・割溝	銅製器・表	1口縁部小片				口ク口調整	158-26
10	E-129	11E-O30・1層	銅製器・裏	口縁部小片				口ク口調整、頸部外面縁線状文	158-24
11	Ns-367	11E-N29・6層	鉄製品・釘	完形	4.7	0.8	0.7	単曲、4g	158-26
12	Ns-368	11E-N29・6層	鉄製品・釘	胴～中央部	4.7+	0.6	0.6	屈曲、4g	158-27
13	Ns-365	11E-N29・6層	鉄製品・短刀	短刀完形	29.8+	2.4	0.4	刀身長19.4cm、70g+	158-28

第613図 11E区 基本層出土遺物



No.	発掘坑	地区・遺構・層位	種類(産地)	器種	遺存皮	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	1c-350	11F-R8・I, II層	陶器(東南)	鉢	口縁部小片				ロクロ調整、山系陶器系	159-1
2	1c-352	11F-R8・I層	陶器(東南)	鉢	口縁部小片				ロクロ調整、山系陶器系	159-2
3	1c-351	11F-R8・I層	陶器(東南)	鉢	口縁部小片				ロクロ調整、山系陶器系	159-3
4	1c-370	11F-R8・IV層	陶器(東南)	鉢	口縁部小片				ロクロ調整、山系陶器系	159-4
5	1c-354	11F-R12・IV層	陶器(東南)	鉢	口縁部小片				ロクロ調整、山系陶器系、11F-R12の破片と一致	159-5
6	1c-353	11F-R8・I, II層	陶器	鉢	底部小片				ロクロ調整、内面磨減、山系陶器系	159-7
7	1c-349	11F-N14・整地層	陶器(東南)	鉢	底部LS				ロクロ調整、内面磨減、山系陶器系	159-6
8	1c-572	11F-O3・整地層	陶器(常滑)	片口鉢	11縁-体部片				ロクロ調整	159-8
9	1c-367	11F-R11・IV層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				ロクロ調整	159-9
10	1c-365	11F-R8・IV層	陶器(常滑)	玉縁口鉢蓋	口縁部LS	(9.2)			ロ-横5コナテ-口縁内面に黒色の自然釉、赤褐色	159-10
11	1c-366	11F-R9・IV層	陶器(常滑)	甕	11縁部小片				ヨココナテ、5型式	159-11
12	1c-364	11F-R11・IV層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				ロ-横5コナテ-内面に灰白色の自然釉、赤褐色	159-12
13	1c-573	11F-R8・IV層	陶器(常滑)	甕	体部小片				ナテ、縞状押印	159-13
14	1c-365	11F-P14・V層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				ヨココナテ、6a型式	159-16
15	1c-355	11F-R14・IV層	陶器(高天)	甕	底部小片				ナテ	159-15
16	1c-356	11F-R13・IV層	陶器(高天)	甕	唇-体部小片				縞状ヨココナテ、体部ナテ	159-14
17	1c-569	11F-Q14・IV層	陶器(佐賀)	甕	口縁部小片				ヨココナテ	159-17
18	1c-560	11F-R8・IV層	陶器(古瀬戸)	小皿?	体部LS				体部最大径(5.5)	159-18
19	1c-559	11F-R2・IV層	陶器(古瀬戸)	平碗	口縁部小片				灰釉、前皿-IV層	159-19
20	1c-352	11F-R12・II層	陶器(古瀬戸)	平碗	口縁部小片				灰釉、前IV層?	159-20
21	1c-361	11F-R10・IV層	陶器(古瀬戸)	盤形	底部小片				灰釉、後皿-前層	159-21
22	1c-358	11F-R11・IV層	陶器(古瀬戸)	盤形	体部小片				灰釉、中間	159-22
23	J-115	11F-R11・IV層	青磁(肥前)	碗	11縁部小片				赤井文	159-23
24	J-114	11F-R8・IV層	青磁(肥前)	碗	口縁部小片				赤井文	159-24
25	J-116	11F-R8・IV層	青磁(肥前)	碗	口縁部小片				赤井文	159-25
26	J-117	11F-R11・IV層	青磁(肥前)	碗	口縁部小片				赤井文	159-26
27	J-177	11F-N16・V層	青磁(肥前)	碗	体部片				赤井文	159-27
28	J-118	11F-O14・IV層	青磁(肥前)	碗	底部-体部片				赤井文	159-28
29	J-113	11F-R14・V層	青磁(肥前)	碗	底部LS	(5.2)				159-29
30	J-110	11F-N14・整地層	白磁(中国)	碗小皿	11縁部小片				11葉	159-30
31	J-109	11F-Q14・IV層	白磁(中国)	碗	口縁部小片				口葉	159-31
32	J-181	11F-R9・IV層	白磁(中国)	碗小皿	口縁部小片				口葉	159-32
33	J-111	11F-R9・IV層	白磁(中国)	碗	口縁部小片				口葉	159-33
34	J-180	11F-R8・IV層	白磁(中国)	碗小皿	口縁部小片				口葉	159-34
35	J-112	11F-R11・IV層	白磁(中国)	碗	11縁部小片				口葉	159-35
36	J-178	11F-I層	青花(中国)	皿?	口縁部小片					159-36
37	1c-362	11F-R14・IV, V層	陶器(中国)	盤	小破片				3彩?、暗赤褐色と緑色の釉、黒色の縁線	159-37

第614図 11F区 基本層出土遺物(1)

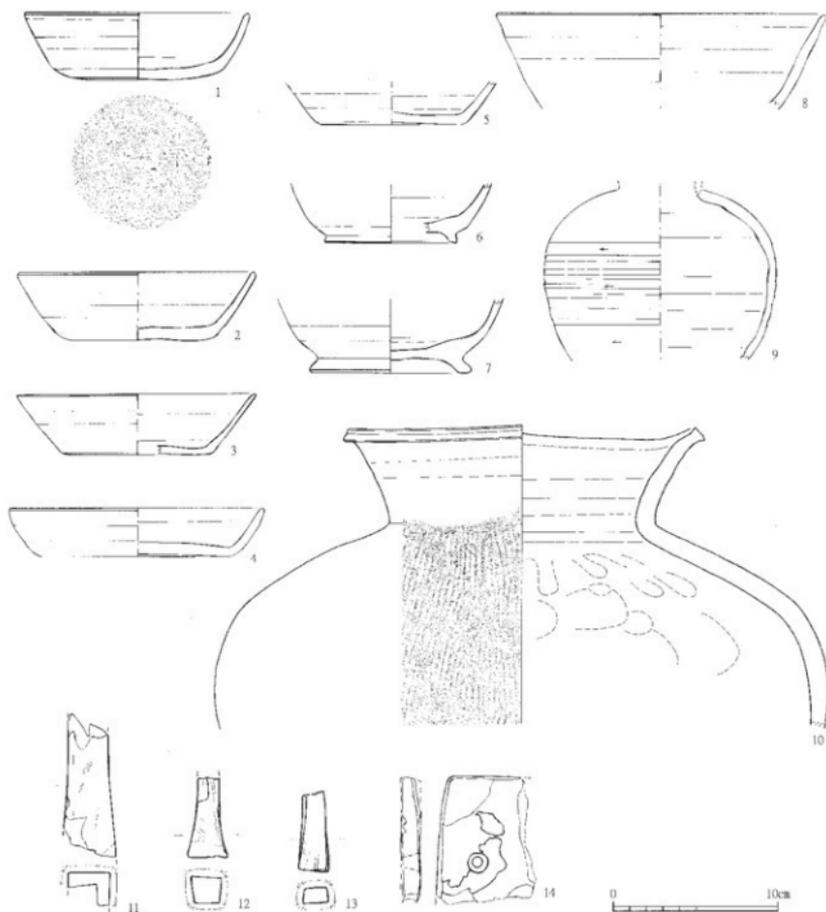
第5章 11区の調査

第8節 11区全体の出土遺物と基本層からの出土遺物



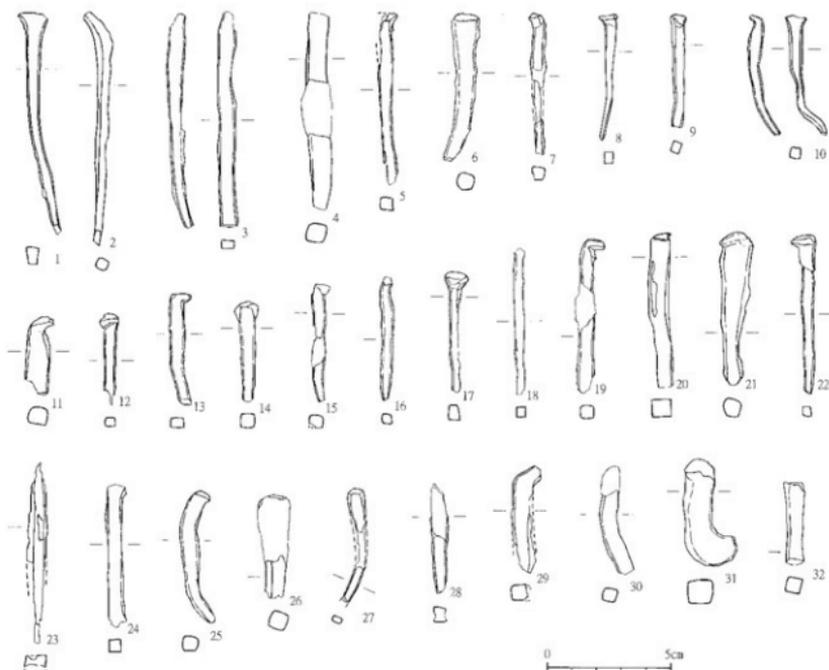
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図版	
					口径	底径			
1	1a-66	11F-IV層	土師質土器・小皿	2/5	(9.3)	(5.6)	1.3	口ケ口調整、回転糸切、白針少量	159-38
2	1a-61	11F-Q14・IV層	土師質土器・小皿	1/2	(7.6)	5.4	1.7	口ケ口調整、静止糸切、内面ナデ	159-39
3	1a-63	11F-R10・IV層	土師質土器・小皿	3/3	(8.2)	(6.9)	1.3	口ケ口調整、回転糸切、白針少量	159-40
4	1a-58	11F-R13・IV層	土師質土器・皿	1/5	(11.2)	(5.6)	3.5	口ケ口調整→体部内外面ナデ	159-41
5	1a-64	11F-R10・側溝	土師質土器・皿	1/8	(12.4)			口ケ口調整?→ナデ、白針少量	159-42
6	1a-60	11F-側溝	土師質土器・皿	1/5	(12.7)	(6.4)	2.7	口ケ口調整→ナデ、体部内外面ナデ	159-43
7	1a-59	11F-側溝	土師質土器・皿	1/4		(6.6)		口ケ口調整、磨滅、白針少量	159-44
8	1a-65	11F-R8・IV層	土師質土器・皿	底部1/5		(7.8)		口ケ口調整→体部内外面ナデ、回転糸切、白針少量	160-1
9	1a-56	11F-R9・IV層	土師質土器・小皿?	底部		6.1		口ケ口調整、回転糸切、夏込みナデ、白針少量	160-2
10	1a-67	11F-R12・IV層	土師質土器・楕鉢	体部小片				内外面ナデ、白針少量	160-3
11	1b-48	11F-R10・IV層	瓦葺土器・甕	口縁部小片				口ケ口調整	160-4
12	1b-32	11F-R12・IV層	瓦葺土器・甕?	口縁部小片				内外面ヘラミガキ	160-5
13	D-19	11F-R9・V層	土師器・坏	下部2/3	(8.2)			口ケ口調整、長距離回転糸切、体部内外面ナデ	160-6
14	D-18	11F-R8,9・IV,V層	土師器・坏	1/5	(15.9)	(7.0)	5.4	口ケ口調整、底部調整法不明→体部ナデ	160-7
15	C-18	11F-R9,10・V層	土師器・甕	下部1/3		(7.7)		内外面ナデ、外面体部下部ヘラケズリ	160-8
16	C-19	11F-R9・V層	土師器・甕	底部付底		6.2		外面磨滅、下部ナデ、底部木炭埋、内面ヘラナデ	160-9
17	C-20	11F-R9・IV,V層	土師器・甕	下部2/3		(8.2)		外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ	160-10
18	D-21	11F-R10・V層	土師器・甕	1/6	(21.2)			口ケ口調整、体部ナデ	160-11
19	D-20	11F-R9,10・V層	土師器・甕	1/4	(21.1)			口ケ口調整→外面体部内面体部下部ナデ	160-12

第615図 11F区 基本層出土遺物 (2)



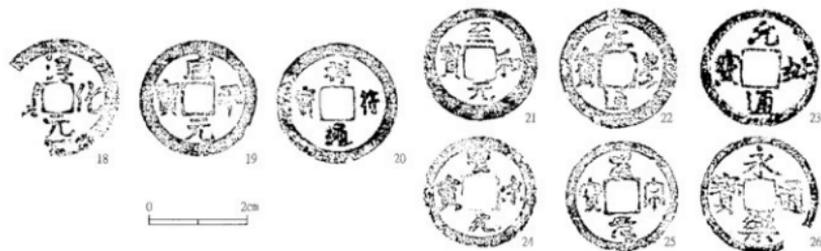
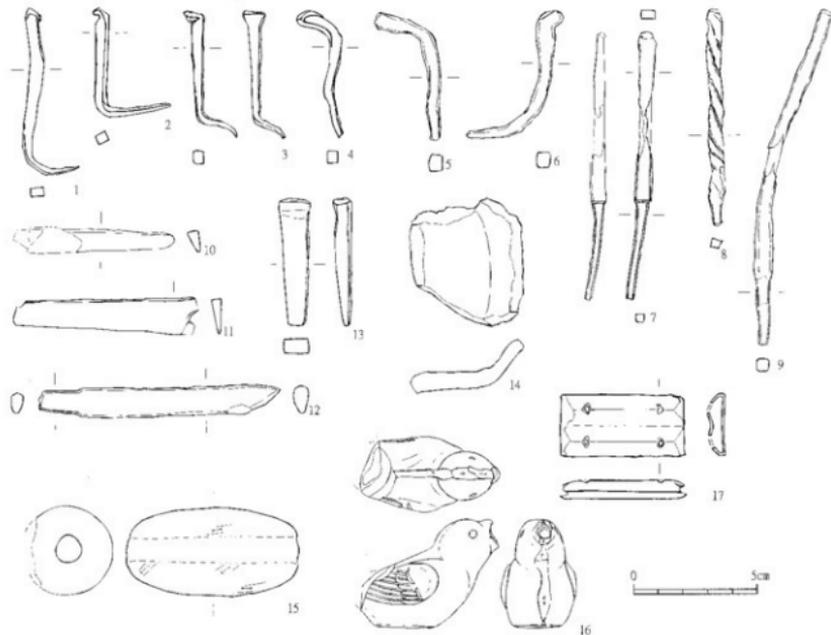
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	E-66	11F-R11・V層	須恵器・坪	3/4	13.6	8.2	4.2	ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に 底径/11径0.56	160-13	
2	E-71	11F-R9・IV層	須恵器・坪	1/3	(14.4)	(8.0)	4.2	ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に 底径/11径0.56	160-14	
3	E-67	11F-R14・V層	須恵器・坪	1/2	(14.4)	(8.6)	3.8	ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に 底径/11径0.56	160-15	
4	E-74	11F・側溝	須恵器・坪	1/4	(15.6)	(11.2)	3.0	ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に 底径/11径0.56	160-16	
5	F-72	11F-PQ14・V層	須恵器・坪	1/4		(8.6)		ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に 底径/11径0.56	160-17	
6	E-68	11F-R11・IV層	須恵器・瓶	1/3		8.0		ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に 底径/11径0.56	160-18	
7	F-70	11F-Q14・V層	須恵器・瓶?	下半部		9.8		ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に 底径/11径0.56	160-19	
8	E-69	11F・R8・V層	須恵器・鉢	上部1/8	(20.1)			ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に 底径/11径0.56	160-20	
9	E-65	11F-R89・IV層	須恵器・長頸瓶	体部1/4				ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に 底径/11径0.56	160-21	
10	E-76	11F-R9・V層	須恵器・壺	上部3/5	20.8			ロクロ製。裏面は焼土で塗られ、外側にヘラケズリ、底面/内面に 底径/11径0.56	160-22	
11	K-132	11F-R14・IV層	石製品・砥石	中央部のみ	8.8+	3.1+	2.1	79g-、砂岩	161-3	
12	K-131	11F-R11・IV層	石製品・砥石	端部のみ	4.9+	2.5	1.9	22g-、デイズイト	161-1	
13	K-129	11F-R14・IV層	石製品・砥石	端部欠損	5.0+	1.9	1.2	17g-、デイズイト	161-2	
14	K-128	11F-N14・V層	石製品・砥石	1/2	7.0+	6.2+	1.3+	92g-、新橋片岩	161-4	

第616図 11F区 基本層出土遺物 (3)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	何石 図録
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-376D	11F-R1・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完全	9.1-	0.8	0.5	頭部幅1.1cm, 5g+	161-7	
2	Na-402	11F-Q14・IV層	鉄製品・釘	中央部	9.5+	0.4	0.4	6g+	161-8	
3	Na-392	11F-R8・IV層	鉄製品・釘	中央部	8.8+	0.7	0.7	12g+	161-9	
4	Na-409	11F-P14・V層	鉄製品・釘	中央部	8.1+	0.7	0.6	13g+	161-10	
5	Na-388	11F-R8・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	7.0+	0.5	0.5	5g+	161-11	
6	Na-377	11F-R11・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	6.0+	0.7	0.7	8g+	161-12	
7	Na-392	11F-R9・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.7+	0.6	0.6	4g+	161-13	
8	Na-395	11F-R14・IV層	鉄製品・釘	完全	5.1	0.3	0.4	頭部幅0.7cm, 3g	161-14	
9	Na-385	11F-R11・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	4.6+	0.4	0.4	頭部幅0.6cm, 4g+	161-15	
10	Na-415	11F-N14・表地層	鉄製品・釘	ほぼ完全	4.9+	0.5	0.5	頭部幅0.8cm, 3g+	161-16	
11	Na-398	11F-R8・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	3.4+	0.8	0.7	5g+	161-17	
12	Na-372	11F-R10・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	3.7+	0.4	0.4	頭部幅0.5cm, 2g+	161-18	
13	Na-400	11F-R8・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	4.6+	0.5	0.4	5g+	161-19	
14	Na-393	11F-R9・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	4.1+	0.6	0.6	頭部幅0.9cm, 4g+	161-20	
15	Na-375	11F-R11・IV層	鉄製品・釘	4区	4.8+	0.6	0.6	3g+	161-21	
16	Na-399	11F-R8・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.1+	0.4	0.4	2g+	161-22	
17	Na-406	11F-R13・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	4.9+	0.5	0.6	頭部幅1.0cm, 3g+	161-23	
18	Na-379	11F-NQ14・IV層	鉄製品・釘	中央部	6.0+	0.4	0.3	4g+	161-24	
19	Na-403	11F-Q14・V層	鉄製品・釘	頭～中央部	5.3+	0.6	0.5	頭部幅0.9cm, 7g+	161-25	
20	Na-412	11F-V層	鉄製品・釘	頭～中央部	6.3+	0.8	0.7	10g+	161-26	
21	Na-414	11F-R10・側溝	鉄製品・釘	頭～中央部	6.2+	0.7	0.8	頭部幅1.3cm, 11g+	161-27	
22	Na-370	11F-I層	鉄製品・釘	9/10	6.5+	0.4	0.4	頭部幅1.0cm, 5g+	161-28	
23	Na-404	11F-R11・IV層	鉄製品・釘	中央部	7.4+	0.8	0.5	5g+	161-29	
24	Na-411	11F-Q14・V層	鉄製品・釘	中央部	5.9+	0.5	0.5	7g+	161-30	
25	Na-396	11F-R10・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完全	5.4	0.6	0.6	5g	161-31	
26	Na-383	11F-R11・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	4.2+	0.7	0.7	8g+	161-32	
27	Na-389	11F-Q14・IV層	鉄製品・釘	頭～中央部	4.7+	0.4	0.3	2g+	161-34	
28	Na-376D	11F-R11・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.5+	0.6	0.5		161-34	
29	Na-371	11F-R13・II層	鉄製品・釘	中央部	4.4+	0.7	0.7	6g+	161-35	
30	Na-408	11F-P14・V層	鉄製品・釘	中央部	4.4+	0.6	0.5	5g+	161-36	
31	Na-380	11F-R11・IV層	鉄製品・釘	中央部	4.4+	0.9	0.8	12g+	161-37	
32	Na-382	11F-R11・IV層	鉄製品・釘	中央部	3.4+	0.6	0.6	5g+	161-38	

第617図 11F区 基本層出土遺物 (4)



No.	登録No.	地区・遺跡・層位	種別(所在地)	器種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅		
1	Na-386	11F-R14・IV層	鉄製品・釘	完形	8.2	0.5	0.7	断面、頭部幅0.6cm、7g	161-29
2	Na-410	11E-O14・V層	鉄製品・釘	ほぼ完形	6.9+	0.5	0.4	断面、4g	161-40
3	Na-474	11F-R10・IV層	鉄製品・釘	完形	5.9	0.5	0.4	断面、頭部幅0.9cm、5g	161-71
4	Na-381	11F-R11・IV層	鉄製品・釘	頭~中央部	5.8+	0.5	0.4	断面、7g+	161-62
5	Na-408	11E-R10・IV層	鉄製品・釘	中央部	6.5+	0.7	0.5	断面、10g+	161-51
6	Na-497	11E-R10・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完形	7.1	0.6	0.5	断面、5g	161-24
7	Na-407	11F-R11・V層	鉄製品・棒	中央部	10.7+	0.7	0.4	9g+	161-66
8	Na-478	11E-NO14・IV層	鉄製品・火舌	中央~先端部	8.8+	0.6	0.6	全体に腐り、10g+	161-47
9	Na-391	11F-R10・IV層	鉄製品・筒状車軸?	中央部	13.9+	0.5	0.3	14g+	161-38
10	Na-413	11E-朝陽	鉄製品・刀子	先端部	9.4+	0.9	0.5	7g+	161-20
11	Na-394	11E-R5・IV層	鉄製品・刀子	先端部	9.4+	1.4+	0.6	目釘穴1、17g+	161-20
12	Na-480	11F-R11・IV層	鉄製品・刀子	刀身~葉1/4	9.7+	1.3	0.6	12g+	161-51
13	Na-401	11E-R9・IV層	鉄製品・棒?	先端部	5.9	1.0	0.6	13g	161-25
14	Na-383	11F-R14・IV層	鉄製品・1本	ほぼ完形	8.7+	0.5+	0.8	8g+	161-58
15	P-22	11E-朝陽	土製品・1本	ほぼ完形	7.2	18.8		10g	161-6
16	P-21	11E-R14・IV層	土製品・高脚	2/3	2.5+	3.1	高4.4	(16g+)、中央	161-5
17	Nb-227	11E-R13・IV層	銅製品・用筆不倒	ほぼ完形	5.0	2.5	0.7	18g、上部に小孔1、鍍金	161-53
18	Nb-234	11E-R13・IV層	銅製品・鏡背	2/3	2.5		重量		
19	Nb-237	11E-PT6・V層	銅製品・鏡背	完形	2.7		1.8g+	淳仁元寶(北条・初編900年)	161-54
20	Nb-235	11E-R10・IV層	銅製品・鏡背	完形	2.5		3.4g	咸平元寶(北条・初編984)	161-55
21	Nb-229	11E-R13・II層	銅製品・鏡背	完形	2.4		3.1g	社清通寶(北条・初編1009年)	161-56
22	Nb-233	11E-R13・II層	銅製品・鏡背	完形	2.5		3.1g	社清通寶(北条・初編1009年)	161-57
23	Nb-231	11E-R14・IV層	銅製品・鏡背	完形	2.4		2.7g	社清通寶(北条・初編1009年)	161-58
24	Nb-232	11E-R10・IV層	銅製品・鏡背	完形	2.4		2.6g	社清通寶(北条・初編1009年)	161-59
25	Nb-230	11E-R13・II層	銅製品・鏡背	完形	2.4		2.6g	聖元元寶(北条・初編1019年)	161-60
26	Nb-236	11E-R10・IV層	銅製品・鏡背	完形	2.3		2.8g	聖元元寶(北条・初編1019年)	161-61
27	Nb-230	11E-R13・II層	銅製品・鏡背	2/3	2.4		2.0g+	聖元元寶(北条・初編1019年)	161-61

第618図 11F区 基本層出土遺物 (5)

第2編 第2次発掘調査

第1章 はじめに

第1節 調査方法

第2次発掘調査は県道「泉塩釜線」建設工事に伴い、平成11年9月6日～12月24日まで実施された。

1. 調査区とグリッドの設定

本調査対象区は第1次調査10A区と利府バイパスとの間の道路建設予定地部分である（第3区）。10A区のすぐ西側には生活道路が存在するため、調査区はこの生活道路のさらに西側に設定した。東西長35m、南北幅24mで、排土置き場の関係から南側の1区と北側の2区に分割し、1区の調査を終了後2区の調査を実施した。1区は381㎡、2区は305㎡である。

遺構実測用の基準杭は調査区の方向に台合わせて設置し、これによって10mグリッドを設定した。グリッドの名称は南北方向を南から北にA、B、Cなどのアルファベット、東西方向を1,2,3などの数字とし、A1、B3などの組み合わせで表した。なお、グリッドの名称はその北西コーナーのグリッド杭の名称とも一致している。方位についてはグリッド杭A2とA4の座標値を測定し、図上で真北を求める方法をとった。A2・A4の座標値は以下のとおりである。

A2：X=-188.478475km、Y=+10.601556km

A4：X=-188.488970km、Y=+10.618591km

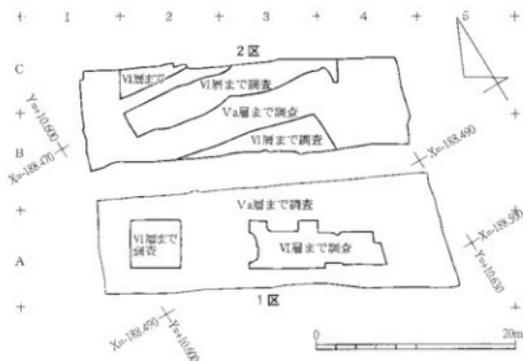
2. 調査方法

重機でI・II層を除去し、精査はその下層から実施した。なお、調査区の周囲には排水を兼ねた土層観察用の側溝を設けている。Va層まではほぼ全面の調査を行うことができたが、Vc層とVI層についてはIV層上面で大規模な埋跡が検出された関係で調査区が制約され、部分的な調査に留まっている。

遺構の平面図は基準杭によって簡易遊り方を組み、1/40あるいは1/20で作成した。断面図は1/20で作成した。写真は1/35モノクロとリバーサル一眼レフカメラで撮影し、補助的にレンズ付フィルムも使用している。

遺物は各遺構別の堆積土ごとに取り上げたが、堆積土で区別しなかった場合もある。遺構に伴わない基本層中の遺物は層ごとに10mグリッド別に取り上げた。

なお、第1次調査と同様にIVa層やIVb層で確認できた遺構は溝跡や規模の大きな土坑、一部の井戸跡のみで、大部分の遺構はVa層上面での確認である。このため時期が確定できた遺構は少ないが、溝跡や竪立柱建物跡については重複関係や1次調査の建物の変遷から類推して6期に細分した。



第619図 調査区・グリッド設定図

第2節 基本層序

調査区は第1次調査10A区の西側、自然堤防の北端に近い場所に位置している。基本層序は、第1次調査の自然堤防部分（9～11区）とほぼ一致するが欠落する層もある。

ここではⅠ・Ⅳ～Ⅶ層まで大別5層、細別で9層を確認した。

Ⅰ層 表上層である。Ⅰa層とⅠb層に細分した。

Ⅰa層 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト。砂粒を少量含む。層厚は10～15cmである。

Ⅰb層 10YR3/3暗褐色砂質シルト。層厚は25～40cmである。

Ⅱ層 旧溝作上で、Ⅱa層とⅡb層に細分されるが、1区東部で部分的に確認したのみである。

Ⅱa層 10YR4/3にぶい黄褐色シルト。灰黄褐色シルトブロックを多量に含む。

Ⅱb層 10YR4/3にぶい黄褐色シルト。灰黄褐色シルトブロックを多量、にぶい黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。

Ⅲ層 第1次調査区では暗褐色～にぶい黄褐色のシルト系の層で近世の畑の耕作土であったが、2次調査区では確認できなかった。

Ⅳ層 色調がやや暗く粘性がある。Ⅳa層とⅣb層に細分した。

Ⅳa層 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。炭化物粒・焼土粒を少量含む。層厚は約25cmである。

第1次調査区では上面が中世後半の遺構確認面であったが、今回確認できた遺構は少ない。

Ⅳb層 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。層厚は約20cmであるが1区・2区共に部分的な分布である。

第1次調査区では上面が中世前半の遺構確認面であったが、今回確認できた遺構は少ない。

Ⅴ層 Ⅳ層に比べて色調が明るく、粘性に欠ける。Ⅴa～Ⅴc層に細分した。

Ⅴa層 10YR3/3暗褐色～10YR4/2灰黄褐色シルト。炭化物粒・焼土粒を少量含む。層厚は10～25cmである。

第1次調査区では平安時代後半の畑の耕作土であったが、今回は直下のⅤb層上面で小溝群が認められなかったので耕作土かどうか判断できなかった。

上面で多数の遺構を確認しているが、第1次調査の状況からすると大部分は本来Ⅳa層やⅣb層上面から掘りこまれたものと推定される。

Ⅴb層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト。部分的に層上部に灰白色火山灰の小ブロックを含む。下面は細かな起伏があり、直下のⅤc層を巻き上げているため同層のブロックをわずかに含む。層厚は10cm前後である。

平安時代前半の畑の耕作土であり、直下のⅤc層上面に小溝群を残す。

Ⅴc層 10YR4/2褐色粘土質シルト。2区では直上のⅤb層による攪拌が激しいためほとんど確認できなかった。

下面は細かな起伏があり、直下のⅥ層を巻き上げているため同層のブロックをわずかに含む。1区での層厚は5cm前後である。

平安時代前半の畑の耕作土であり、直下のⅥ層上面に小溝群を残す。

Ⅵ層 10YR2/2黒褐色粘土。自然堆積層である。

Ⅶ層 2.5GY5/1オリブ灰色細砂。

第2章 1・2区の調査

第1節 IV層の遺構(1) - IVa3・4期

1. 遺構の概要

第2次調査区は第1次調査10A区の西端から約20m離れている。第1次調査で確認された城館の外堀からは30m以上離れた外側に位置することとなるが、城館内部と同様に堀によって区画が形成され、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑などの遺構群が存在することが明らかとなった。ただし、堀の方向は城館内部とは異なっている。前述したように遺構群は層的に確認したものではないため時期を限定できるものは少ないが、堀跡や掘立柱建物跡は重複関係や方向性の検討から6期の変遷が認められた。第1次調査で確認された屋敷や城館も6期に変遷することから、本調査区の遺構群の変遷は第1次調査の遺構群の変遷と共通すると考えられる(注1)。

なお、城館の最終時期のIVa4期の遺構を切る新しい遺構群があり、これらはIVa4期以降として区別している。第1次調査のⅢ層の時期に対応する可能性がある。

IVa4期は1区のSD4と2区のSD18A(両者は同一の溝跡)が南北から西に「L」字状に屈曲し、区画を形成している。掘立柱建物跡は10棟検出されているが、建物方向は真北から大きく傾いている(33~44°西傾と37~44°東傾)ものが大部分である。

IVa3期は1区のSD4Bと2区のSD23が南北から東に「L」字状に屈曲し、さらにSD23にはSD21とSD19が接続して南北から西に「L」字状に曲がって別な区画を形成している。掘立柱建物跡6棟と柱列跡1条が検出されている。建物方向は真北から東に9~12°傾いているが、これは第1次調査10A区の外堀SD1001の西側(城館の外側)の建物群の方向とほぼ一致しており(注2)、この時期の城館の外側の建物は同じ規制を受けていた可能性がある。

2. IVa4期以降の遺構

すべてIVa層上面で確認した遺構である。

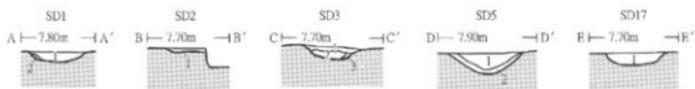
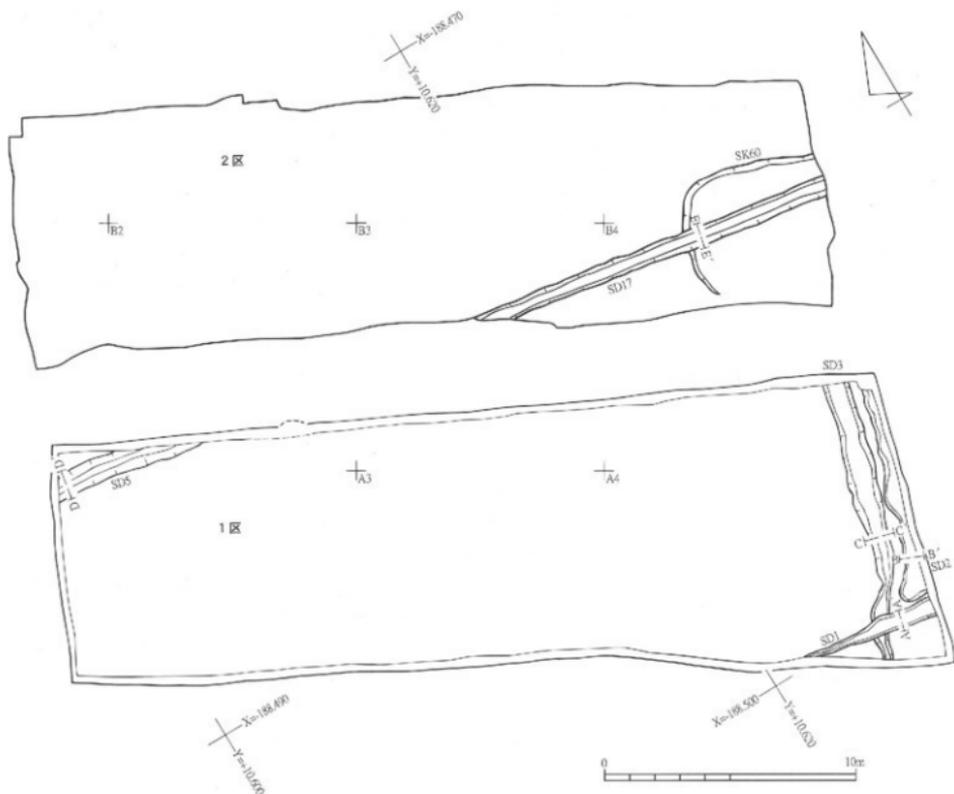
SD1 (第620図) 1区南東部で部分的に確認した溝跡で、SD3を切っている。方向はN-82°-Wで、幅30~80cm、深さ15cm、堆積土は自然堆積層である。北側のSD5・17(両者は同一の溝跡)とほぼ並行すると考えられ、溝同士の間隔は心々で17.5mである。遺物は土師質土器などが数点出土している。

SD2 (第620図) 1区東壁際に位置する。西側の肩が確認できたのみであるため幅は不明である。方向も明確ではないが真北から15~20°東に振れていると考えられる。深さ5cm、堆積土は単層である。遺物は土師質土器などが10点出土している。

SD3 (第620図) 1区東部に位置し、SD1に切られている。SD2とほぼ並行しており、方向もSD2と同様に真北から15~20°東に振れている。幅40~100cm、深さ15cm、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師質土器などが15点出土している。

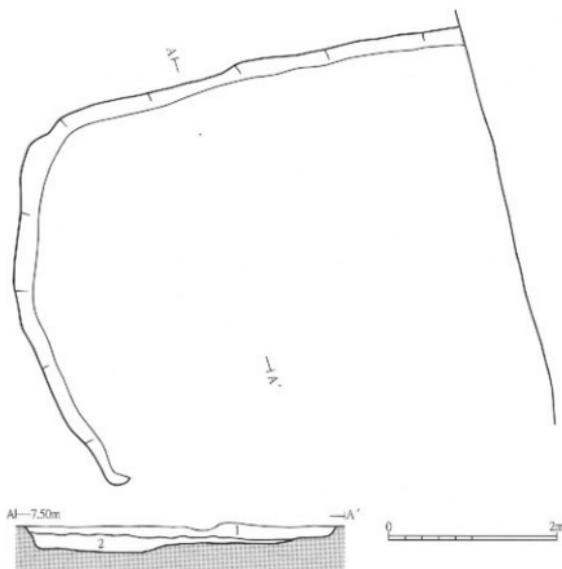
SD5・17 (第620図) SD5は1区北西部で部分的に確認し、SD17は2区南壁中央部から東壁に向かって延びている溝跡であるが、両者は同一の遺構と考えられる。方向はN-81°-Wで、SD1とほぼ並行している。幅は70~100cm、深さは1区が50cm、2区が30cmである。堆積土は1区のSD5が2層、2区のSD17が単層である。遺物は土師質土器や中世陶器などが60点以上出土し、青磁1点が同化できた(第622図2)。

SK60 (第621図) 2区東壁際に位置する。南側のプランが不明瞭なため大きさもはっきりしないが、南北4.5m、東西6m以上の隅丸方形で、深さは20~30cm、堆積土は自然堆積層である。遺物は土師質土器・土師器・須器などが65点出土し、土師質土器皿1点が同化できた(第622図1)。



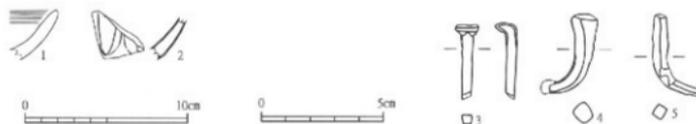
層位	色調	土質	遺人物・その他
SD1	1 10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	
	2 10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色シルト質粘土ブロック少量
SD2	1 10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	
SD3	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト質砂	
	2 10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	
	3 10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	黒褐色粘土ブロック少量
SD5	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物遺物
	2 10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック少量
SD17	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色土少量

第620図 IVa 4期以降の遺構平面図、SD1~3・5・17 断面図



層位	色調	土質	副入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	砂粒少量
2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒、磁化鉄を層状に散在

第621図 SK60 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	In-49	2-SK60	土師質土器	皿	口縁～体部片				丸底の丸底皿片、口縁部コナリ、体部ナリ、断面、口縁部	229-1
2	I-25	2-SD17	青磁(黒島窯系)	碗	体部小片				葉弁文	229-2
3	Na-157	2-SM1	鉄製品	釘	頭部～中央部	長3.0+	幅0.4	厚0.4	頭部幅1.0cm、2g+	229-3
4	Na-158	2-SM1	鉄製品	釘	45°	長4.2	幅0.7	厚0.8	頭部幅1.1cm、断面、4g	229-4
5	Na-159	2-SM1	鉄製品	釘	中央部	長4.2+	幅0.5	厚0.5	断面、4g+	229-5

第622図 SK60、SD17、SM1 出土遺物

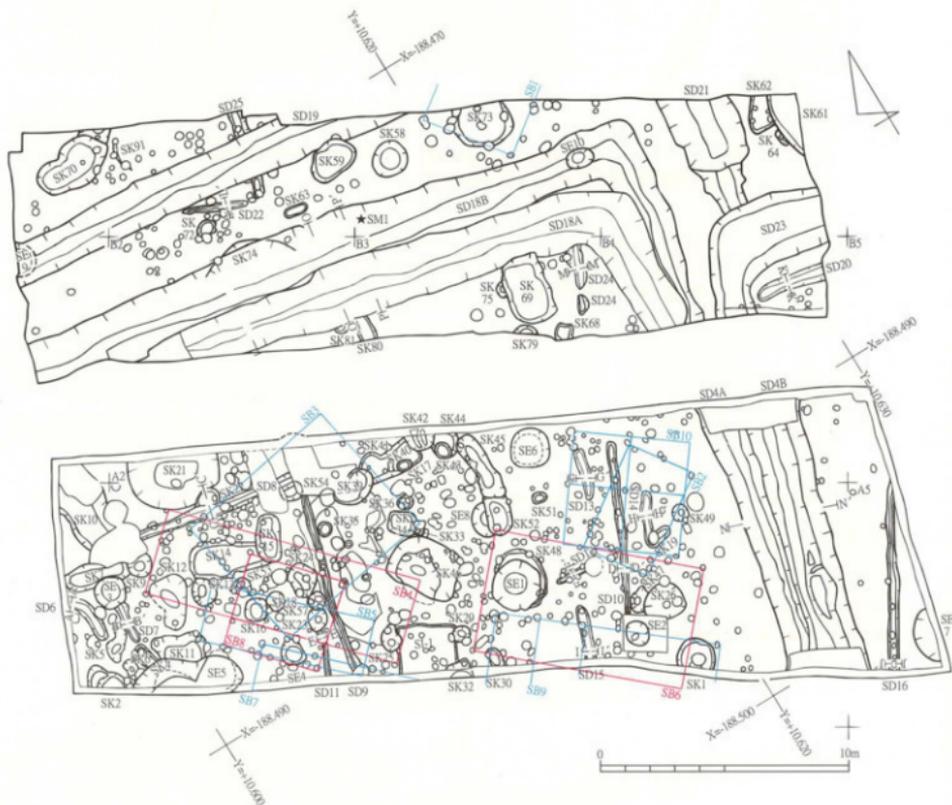
3. IVa4期の遺構

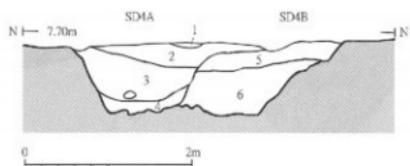
(1)溝跡

IVa4期に属する区画の堀跡はIVa層上面で確認したSD4AとSD18Aで、両者は連続する遺構である。その他の小規模な溝SD6~16・20・22・24・25はVa層上面での確認で、詳細な時期は不明であるが、他の遺構に切られるものが多いことからIVa・IVb期よりも古い可能性がある。

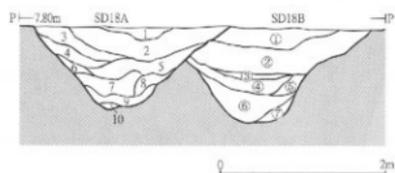
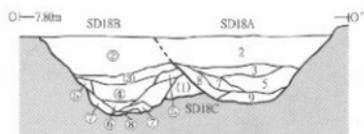
SD4A (第623・624図) 1区東部のIVa層上面で確認した南北方向の堀跡である。SD4Bを切っているが、SD4A・4Bを同時に掘り下げたため、平面図も両者を同時に完掘した状況で作成する結果となり、上端の幅などは表現できなかった。断面形は逆台形で、幅は断面図作成地点で2.4m、深さ90cm、堆積土は最下層に水成堆積層が認められたが、中層ではブロック土で埋め立てられた箇所もある。2区のSD18Aの南北部分を含めた全体形は東側にやや膨らむ形で湾曲しているため方向は明確ではないが、概ね真北から東に7° 振れている。

遺物はSD4A・4Bの区別ができなかったが、合計で約130点出土した。内訳は土師器・須恵器の他、土師質土器・中世陶器などである。図化できたのは瀬戸産の天目茶碗や常滑産の甕など3点である (第625図1~3)。





層位	色調	土質	混入物・その他
SD4A 1	10YR4/2 灰褐色	シルト	砂粒微量
2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	
3	2.5Y4/1 黒褐色	シルト質粘土	黒褐色粘土ブロック・灰褐色砂質シルトブロック多量、人為的な埋め土
4	2.5Y4/1 黄褐色	粘土	瓦層
2.5Y4/1	黄褐色	砂	
SD4B 5	10YR3/2 黒褐色	シルト質砂	炭化物少量
6	5Y2/1 黒色	粘土	
2.5Y4/1	黄褐色	砂	瓦層

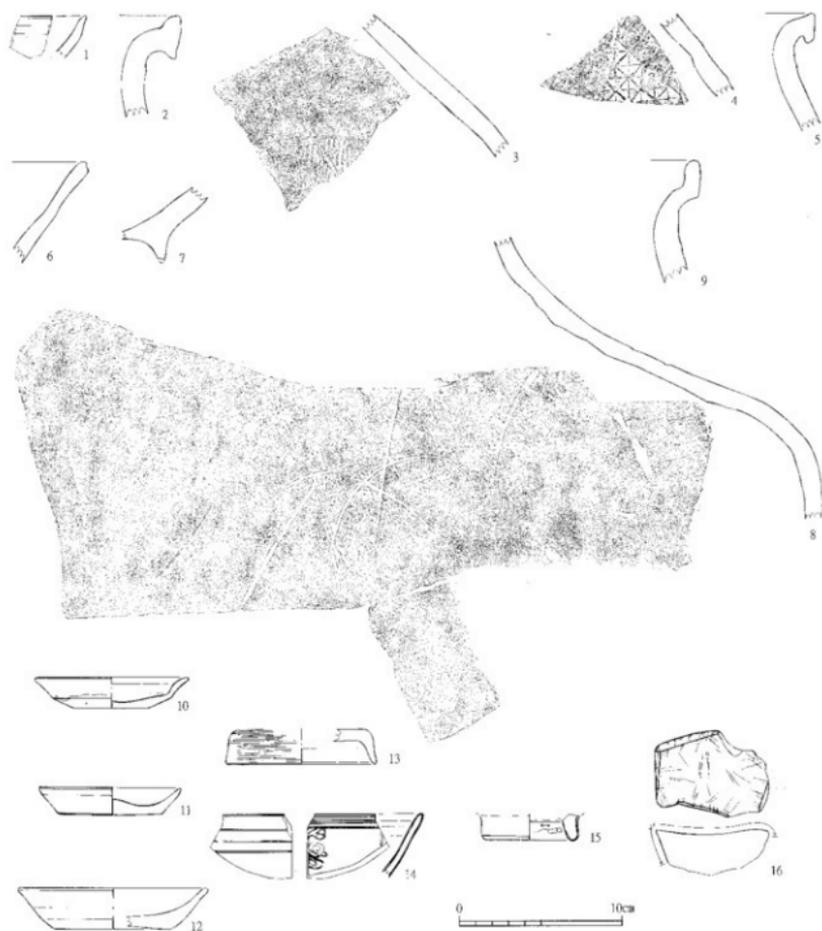


層位	色調	土質	混入物・その他
SD18A 1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒・粘土粒少量
2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒・粘土粒少量
3	10YR4/2 灰褐色	シルト	黄褐色土層微量
4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	腐化動物遺骸
5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	腐化動物骨殖に少量、黄褐色土粒微量
6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物土を層状に少量
7	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒・炭化植物残骸
8	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色土小ブロック・植物遺体少量
9	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰白色土を層状に少量
10	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰白色土小ブロック少量
SD18B ①	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒微量
②	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒微量
③	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒・炭化植物少量
④	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭褐色土を層状に少量
⑤	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	
⑥	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	
⑦	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	炭褐色土を層状に少量
⑧	10YR6/1 緑灰色	砂	黒褐色粘土少量
SD18C ①	10YR2/2 黒褐色	粘土	炭化物・植物遺体少量

第624図 SD4A・B、SD18A～C断面図

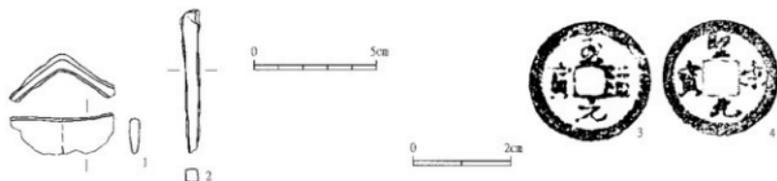
SD18A (第623・624図) 2区南部のIVa層上面で確認した堀跡で、同じような形でやや北にずれて位置するSD18Bを切っている。SD4の延長部分が北に5m程延びた後西に屈曲して「L」字状になっているが、屈曲部は直角ではなくやや鈍角である。これに続く東西部分はわずかに北側に膨らむ形で湾曲している。幅は2.0～2.5m、深さ85～105cmで、断面形は逆台形あるいは上が大きく開く「U」字形である。堆積土は自然堆積層で、SD4Aのような人為的な埋め土は認められなかった。東西部分の方向は真北から西に78°振られている。

遺物はSD18A・18Bの区別ができなかったものを含めて土師器・須恵器・土師質土器・中世陶器など約400点が出土したが、図化できたのは17点である。常滑や東海地方産の鉢や甕、瀬戸産の縁軸小皿、瓦質土器、土師質土器小皿類、中国産青磁、銭貨などがある(第625図4～16、第626図)。なお、大部分は周辺の古い遺構や基本層からの混入と考えられるが、特に土師質土器1a～4f小皿(第625図11)はB3グリッドに隣接するSK75に関連する可能性が高い。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法長 (cm)			調査・特徴	写真 掲載
					口徑	底径	器高		
1	lc-65	1-SD4・下層	陶器(古瀬戸)欠付茶碗	11線部小片				黒褐色の釉、後二期	220-23
2	lc-66	1-SD4・上層	陶器(常滑) 甕	口縁~肩部片				ヨコナデ、6曲型式	220-24
3	lc-67	1-SD4・上層	陶器(常滑) 甕	体部片				鑲嵌+「X」押印	220-25
4	lc-98	2-SD18A・(B)	陶器(常滑) 甕	体部小片				ナデIV、黒釉、外面に黒白の斑、5シロ、器底に黒白の土跡	230-2
5	lc-96	2-SD18A、(SD19)	陶器(常滑) 甕	口縁~体部片				口縁ヨコナデ、体部ナデ、6曲型式、SD19出土の破片と接合	230-3
6	lc-90	2-SD18A	陶器(東海) 片口鉢	口縁~体部片				ロクロ調整、山系陶器系	230-4
7	lc-87	2-SD18A	陶器(東海) 片口鉢	底部小片				ロクロ調整、器底下部にヘラケズリ、内面黒、山系陶器系	230-5
8	lc-73	2-SD18A	陶器(常滑) 甕	肩部片				外面にヘラ置き、IV層出土の破片と接合	230-1
9	lc-104	2-SD18	陶器(在地) 甕	口縁~体部片				口縁部ヨコナデ、体部ナデ	230-6
10	lc-110	2-SD18A	陶器(瀬戸) 線輪小皿	1/4	(9.4)	(4.5)	1.9	灰釉、後期	230-7
11	ja-47	2-SD18	土師質土器・小皿	1/2	(8.7)	6.5	1.7~1.9	ロクロ調整、黒釉、器底に黒白の斑、器底中心にナデ、裏面、白土ナデ	230-9
12	ja-50	2-SD18A	土師質土器・重	1/3	(11.6)	(7.1)	2.5	ロクロ調整、器底未切、内面底部ナデ	230-10
13	ja-7	2-SD18A	瓦管土器・壺?	1/3	(9.2)		2.2	外面ヘラミガキ、内面ロクロ調整	230-8
14	J-25	2-SD18A	青磁(龍泉窯系) 碗	口縁~体部片				新花文	230-11
15	J-15	2-SD18	青磁(龍泉窯系) 碗	高台のみ		5.4			230-12
16	K-16	2-SD18A	石製品・砥石	部分	長6.9+	幅0~5.1	厚2.4	97号+、デイスイト質凝灰岩	230-13

第625図 SD4・18 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Na-137	2-SD18	鉄製品・用途不明			4.3+	0.5+	0.4	屈曲、7g+	230-14
2	Na-136	2-SD18	鉄製品・釘	中央部		5.9+	0.5	0.6	7g+	230-15
3	Nb-24	2-SD18A	銅製品・鉄貨	完全形		径2.5		重2.7g	谷造元貨(北宋・初鎮995年)	230-16
4	Nb-25	2-SD18A	銅製品・鉄貨	完全形		径2.4		重3.6g	順承元貨(北宋・初鎮101年)	230-17

第626図 SD18 出土遺物

SD6・7 (第623・628図) 1区A1・2グリッドで部分的に確認した南北方向の溝で、隣接して位置する。幅35～50cm、深さ5～15cmで、堆積土はIV層に類似している。遺物は土師器・須恵器・中世陶器など数点である。

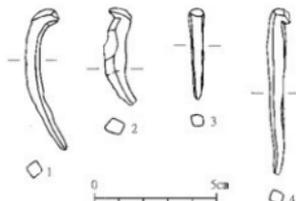
SD8・20 (第623・628図) SD8は1区AB2グリッド、SD20は2区B4グリッドで確認した東西方向の溝である。SD8は東西両側を攪乱によって切られているため確認できた長さは7.5m程であるが、東側を延長するとSD20にあたるので両者は連続していた可能性があり、区画溝と推定される。幅40～60cm、深さ10～15cmで、堆積土は基本的にIV層に類似している。遺物はSD8から須恵器、土師質土器、中世陶器、鉄製品などが16点、SD20から土師器、須恵器、中世陶器片が3点出土し、このうちSD8の鉄釘2点が図化できた(第627図1・2)。

SD9 (第623図) 1区A2～3グリッドで確認した南北方向の溝である。SD8と「T」字状に接する位置関係にあり、区画のための溝と推定される。幅30～40cm、深さ10cmで、堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器、中世陶器、金属製品などが17点出土している。

SD10・24 (第623・628図) SD10は1区AB4グリッド、SD24は2区B3グリッドで確認した南北方向の溝である。SD24の北側はSD18Aによって切られている。SD10の北側を延長するとSD24にあたるので本来両者は連続していた可能性があり、区画溝と推定される。幅20～60cm、深さ5～10cmで、堆積土はIV層に類似している。遺物はそれぞれ土師質土器や鉄製品が10点以上出土し、このうちSD10の鉄釘2点が図化できた(第627図3・4)。

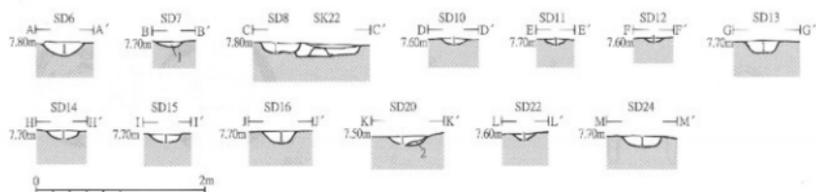
SD11 (第623・628図) 1区A2グリッド南端で確認した南北方向の溝で、北側をSK23によって切られている。幅20～30cm、深さ10cmで、堆積土はIV層に類似している。出土遺物はない。

SD12～15 (第623・628図) 1区AB3・4グリッドで部分的に確認した溝で、SD12は東西方向、SD13～15は南北方向である。幅30～40cm、深さ5～15cmで、堆積土はIV層に類似している。遺物はSD13～15から土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器などが出土しているが図化できたものはない。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Nb-88	1-SD8	鉄製品・釘		完全形	4.2	0.5	0.5	屈曲、6g	232-20
2	Nb-87	1-SD8	鉄製品・釘		9/10	4.0+	0.7	0.6	頭部幅1.0cm、5g+	232-21
3	Nb-89	1-SD10	鉄製品・釘			3.7	0.5	0.5	頭部幅0.7cm、2g	232-22
4	Nb-90	1-SD10	鉄製品・釘		9/10	6.9+	0.5	0.5	7g+	232-23

第627図 SD8・10 出土遺物



調査	色調	土質	流入物・その他
SD6	1 10YR2/7 黒褐色	粘土	灰褐色粘土ブロック・炭化物少量、焼土粒微量
SD7	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物少量
SD8	1 10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒微量
SD10	1 10YR2/7 黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物微量
SD11	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロック散見
SD12	1 10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	炭化物少量
SD13	1 10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物少量
SD14	1 10YR3/1 黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物少量
SD15	1 10YR2/7 黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルトブロック少量、炭化物微量
SD16	1 10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色シルトブロック少量、炭化物散見
SD20	1 10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰褐色砂粒少量
	2 10YR3/1 黒褐色	シルト質粘土	
SD22	1 10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色シルト粒・炭化物少量
SD24	1 10YR3/1 黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土少量

第628図 SD6～8・10～16・20・22・24 断面図（平面図は第623図）

SD16（第623・628図）1区A5グリッドで確認した南北方向の溝で、区画溝と推定される。先に述べた南北方向の区画溝SD9・10・12を合わせると3条の溝が10～11m間隔で北側がやや開いた放射状に並んだ配置となっている。幅は30～40cm、深さ10～15cmで、堆積土はIVb層に類似している。遺物は須恵器、土師質土器が1点出土している。

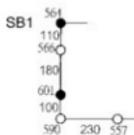
SD22・25（第623・628図）2区C2グリッドで部分的に確認した溝で、SD22は東西方向、SD25は南北方向である。幅30～50cm、深さ5～15cmで、堆積土はIVb層に類似している。遺物はSD25から土師器、須恵器、土師質土器が5点出土している。

(2) 掘立柱建物跡

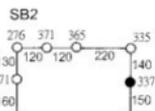
この時期と考えられる建物はSB1～10までの10棟である。建物方向は真北から10°西に振れるSB3、33～36°西に振れるSB1・2、大きく37～45°西に振れるSB4～10の3種類に分類できる。IVb1～IVa4期までの建物の方向は時期が新しくなるにつれて東に振れていく傾向があることから、これらの建物群も37～45°西に振れる（45～53°東に振れる）SB4～10が古く、33～36°と10°西に振れる（54～57°と80°東に振れる）SB1～3のほうが新しい可能性がある。なお、SB4～10も重複しているので実際は3～4回建て替えられていると推定される。

建物の性格は限定できないが、SB8やSB10のような2×2間の小規模な建物跡は倉庫、SB4のように梁行1間（柱間3.6m）の細長い建物跡は厩の可能性がある。

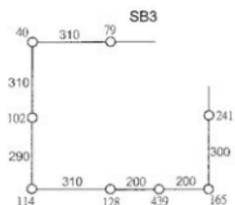
遺物はそれぞれの柱穴から土師質土器などが少量出土しているが掘り方と柱痕跡の区別ができたものは少ない。図化できたのはSB1・SB4・SB5から出土した中世陶器、砥石、鉄釘、銭貨などである（第654図17・19、第655図4・16）。



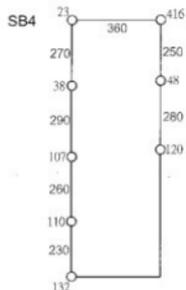
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
557	Va	27	20	?
590	Va	36	25	?
601	Va	41×33	32	10
566	Vg	46	44	?
564	Va	54×34	29	15
根柢	東西2.5m L、1.7m+ 南北3.9m、3期			
柱間	2.3m		1.0~1.1m、1.8m	
面積	?		楕円 36㎡	



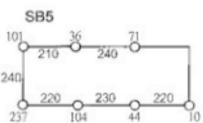
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
335	Va	28×20	5	?
337	Va	21	14	11
344	Va	24	16	10
263	Va	28	12	?
271	Va	30	22	?
276	Va	20	18	?
371	Va	16	8	?
365	Va	16	15	?
規模	東西4.6m		南北2.9m	
桁行(4期)			梁行2期	
柱間	(1.1~1.2m)		1.3~1.6m	
面積	13.3m ²		楕円 33㎡	



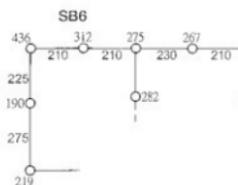
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
241	SJK遺構	14	8	?
165	Va	?	?	?
439	SJK遺構	18	18	?
128	Va	35	24	?
114	Vc	20	8	?
102	Va	30	31	?
40	Va	20	11	?
79	Va	48	34	?
規模	東西7.1m		南北6.0m	
桁行3~4期			梁行2期	
柱間	2.0m・3.1m		2.9~3.1m	
面積	42.6m ²		楕円 10㎡	



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
416	Vb	16	32	?
48	Va	28	39	?
130	Va	19	14	?
132	Va	22	13	?
110	Va	18	11	?
107	Va	16	20	?
38	Va	26	?	?
23	Va	36	16	?
規模	東西3.6m		南北0.5m	
梁行1期			桁行4期	
柱間	3.6m		2.3~2.9m	
面積	37.8m ²		楕円 42㎡	
備考	竪			

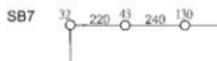


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
101	Va	28	18	?
36	Va	20	11	?
71	Va	24	14	?
10	IVb	68	57	?
44	Va	30	13	?
104	Va	22	8	?
237	SJK遺構	26×18	17	?
規模	東西6.7m		南北2.4m	
桁行3期			梁行1期	
柱間	2.2~2.3m		2.4m	
面積	16.1m ²		楕円 41㎡	
備考				

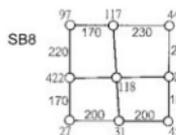


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
101	Va	28	18	?
36	Va	20	11	?
71	Va	24	14	?
10	IVb	68	57	?
44	Va	30	13	?
104	Va	22	8	?
237	SJK遺構	26×18	17	?
規模	東西9.2m、(5期)		南北1.8m、1.8m+	
柱間	(1.8~1.9m)		1.8m	
面積			楕円 40㎡	
備考	総柱?			

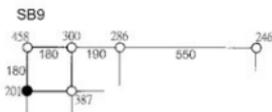
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
219	Va	20	24	?
190	Va	18	10	?
436	SJK遺構	28	27	?
312	Va	26×22	35	?
275	Va	22	27	?
267	Va	22	8	?
255	Va	20	7	?
251	Va	25	15	?
282	Va	20	10	?
規模	東西8.6m		南北5.0m	
桁行4期			梁行2期	
柱間	2.1~2.3m		2.1~2.75m	
面積	43.0m ²		楕円 143㎡	



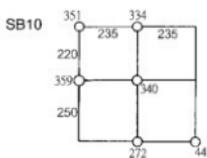
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
32	Va	28	21	?
43	Va	22	26	?
130	Va	24	12	?
規模	東西4.9m		2期	
柱間	2.2~2.4m		楕円 44㎡	



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
97	SJK遺構	22	16	?
442	P2遺構	14	23	?
117	Va	20	23	?
113	Va	18	15	?
45	Va	30	14	?
31	Va	26	37	?
27	Va	24	16	?
422	Vb	60×40	30	?
118	Va	32	15	?
規模	3.9m、2期		4.0m、2期	
柱間	1.8~2.1m		1.7~2.3m	
面積	15.6m ²		楕円 45㎡	
備考	杉柱、倉庫			



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕跡
387	Va	16	35	?
201	Va	20	12	6
458	Vb	34	19	?
300	Va	26	18	?
286	Va	26	33	?
246	Va	28×18	34	?
規模	東西9.2m、(5期)		南北1.8m、1.8m+	
柱間	(1.8~1.9m)		1.8m	
面積			楕円 40㎡	
備考	総柱?			



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱痕産
351	Va	34	9	?
334	Va	18	6	?
445	Va	18	7	?
272	Va	18	14	?
350	Va	16	18	?
340	Va	22	25	?
規模	東西4.7m、2間	南北4.7m、2間		
柱間	2.35m		2.2~2.5m	
面積	22.1㎡		縦さ 1.37m	
備考	礎柱、倉庫			

(3)井戸跡

井戸跡は10基あるが、この時期の可能性が考えられるのはSE2・3・7・9である。このうちSE9はIVa3期の堀跡SD19を切っているので可能性が高いが、IVa4期以降とも考えられるため断定はできない。なお、計測値等の詳細については表141に記載した。

SE2 (第629図) 1区A4グリッドのIVa層上面で確認した小型の井戸跡で、下半部の径が上端の半分ほどに狭くなっている。堆積土は自然堆積層である。遺物は常滑産甕の破片3点で、図化はできなかった。

SE3 (第629図) 1区A1・2グリッドのVa層上面で確認した。深さが15cmと浅い。堆積土は細砂ブロックや粘土ブロックを多量に含む黒褐色粘土で、人為的な埋め土である。遺物は土師質土器、陶器などが出土し、鉄釘と中国産の白磁が図化できた (第631図・2)。

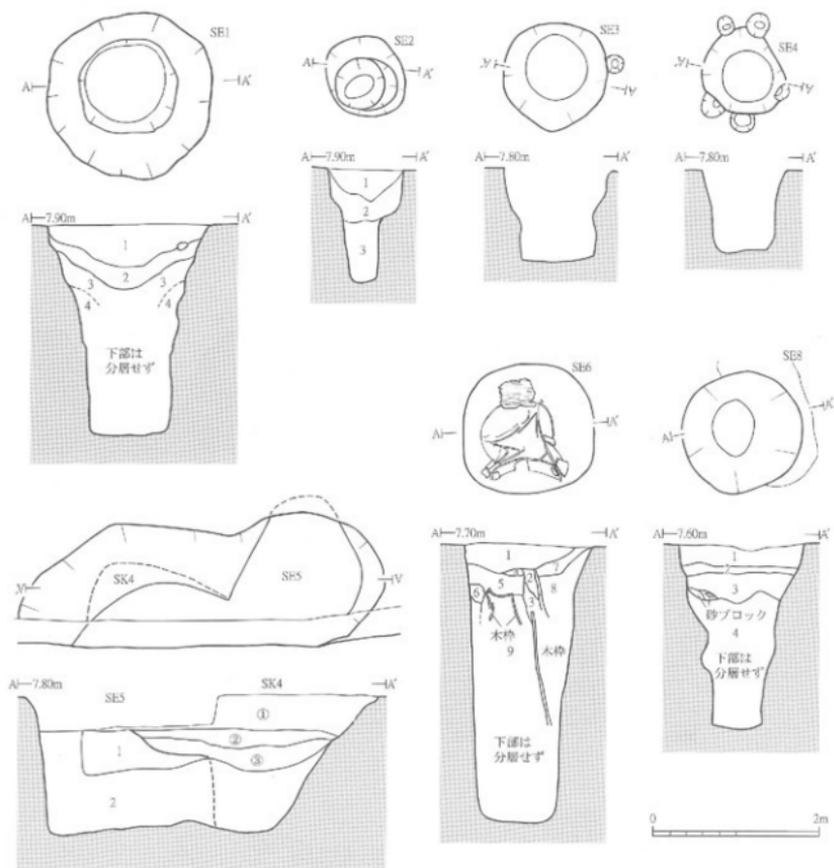
SE7 (第630図) 1区A5グリッドのVa層上面で確認した。確認面から1.4m掘り下げたが、壁際に位置するために完掘することができなかった。堆積土は自然堆積層である。遺物は土師質土器や常滑産甕など約30点で、土師質土器と鉄製品が図化できた (第632図)。

SE9 (第630図) 2区B1グリッドのIVa層上面で確認した浅い井戸で、SD19を切っている。堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器片1点である。

No.	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
SE1	A3・IVa層	円形	210×200	255	IVa3期、SB14が上層?
SE2	A4・IVa層	楕円形	110×90	140	IVa期
SE3	A1、2・Va層	円形	135×130	115	SD7・SK7を切る。IVb~IVa期
SE4	A2・Va層	楕円形	110×90	100	SB3・12・25に切られる。IVb~IVa1期
SE5	A2・Va層	円形?	190?	165	SK4に切られる。土師質土器・動物出土。IVb2期?
SE6	B3・Va層	歪んだ円形	160	(345)	崩落のため完掘できず。木枠(方形縦板型)あり。SB16がSB27が上層? IVa2~3期
SE7	A5・Va層	円形?	220?	140+	壁際のため完掘できず。IVb~IVa期
SE8	A3・Va層	円形	150×140	230	SK52、SB6・27に切られる。IV3期
SE9	B1・IVa層	円形?	140	150	SD19を切る。IVa4期
SE10	C3・SD18B底面	楕円形	110×75	120	SD18B4に切られる。IVb~IVa1期

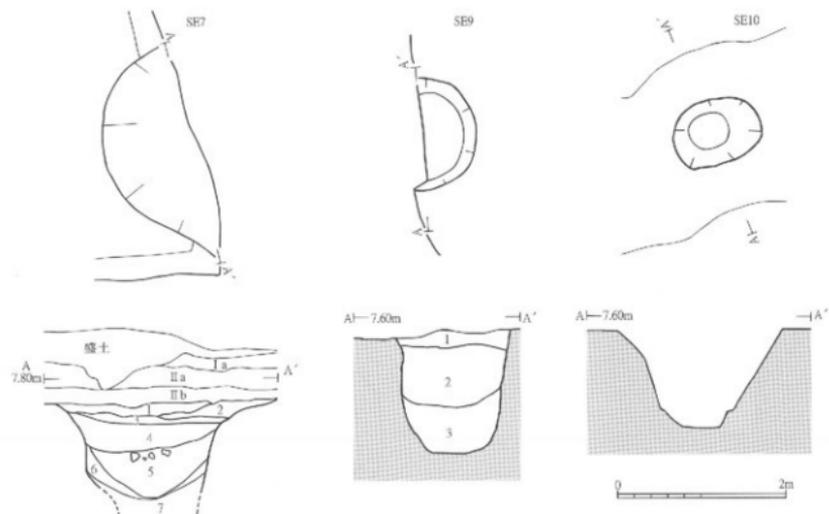
表141 井戸跡一覧表

層位	色相	土質	遺人物・その他
SB6	1 10YR2/1 黒色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック散見、炭化物多量
	2 2.5Y2/1 黒色	粘土	
	3 2.5Y2/1 黒褐色	粘土	褐色粘土ブロック少量
	4 5Y2/1 黒色	粘土	
	5 5Y2/1 黒色	粘土	褐色シルトブロック多量
	6 5Y4/1 灰色	粘土	褐色粘土ブロック少量
	7 2.5Y2/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物少量
	8 5Y4/1 灰色	粘土	灰オリーブ色細砂ブロック・オリーブ褐色粘土ブロック少量
	9 5Y2/1 黒色	粘土	
SB8	1 10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	
	2 10YR2/3 黒褐色	シルト質粘土	炭化物少量
	3 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	炭化物少量
	4 2.5Y2/1 黒色	粘土	



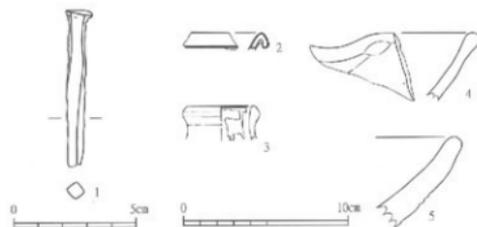
層位	色調	土質	遺入物・その他
SE1	1 10YR4/2 灰黄色	砂質シルト	炭化物・砂粒少量
	2 10YR2/2 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック少量、にぶい黄褐色粗砂ブロック少量
	3 10YR2/1 黒褐色	粘土	炭化物少量
	4 7.5Y2/1 黒色	粘土	
SE2	1 10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト粒少量
	2 10YR2/1 黒色	シルト質粘土	炭化物・焼土粒少量
	3 7.5Y2/1 黒色	シルト質粘土	
SE4	1 10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粗砂ブロック・炭化物少量、粘土粒少量
SE5	1 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	灰黄色粗砂ブロック少量、炭化物微量
	2 5Y2/1 黒色	粘土	灰黄色粗砂ブロック・炭化物微量
SK4	① 10YR2/3 黒褐色	シルト質粘土	炭化物多量、焼土粒少量、腐生炭を伴った炭粒
	② N1.5/0 黒色	シルト質粘土	炭化物多量、焼土粒少量
	③ N1.3/0 黒色	粘土	黒褐色粘土ブロック・炭化物少量

第629図 SE1~6・8、SK4 平面・断面図



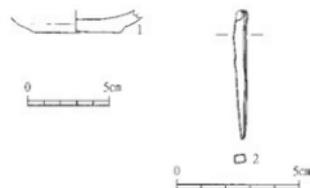
層位	色調	土質	混入物・その他
SE7 1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色粘土ブロック少量
2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色粘土ブロック少量
3	10YR3/1 黒褐色	シルト質粘土	灰黄褐色粘土ブロック少量
4	10YR3/1 黒褐色	粘土	炭化物多量
5	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	暗灰褐色シルトブロック少量、炭化物少量
6	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土ブロック少量
7	5Y2/1 黒色	粘土	
SE9 1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	灰白色砂粒ブロック・炭化物少量、酸化鉄を器状に微量
2	10YR2/2 黒色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック・植物遺体少量
3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	

第630図 SE7・9・10平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Nc-105	1-SE3	鉄製星・釘	9R0		長さ	幅	厚さ	頭部幅1.1cm、12R+	233-4
2	J-12	1-SE3	白磁(中国)水注	口縁小片		6.5+	0.6			233-5
3	Tc-27	1-SE4	陶器(中国)煎鍋	口縁部小片					灰釉、近世	233-6
4	tc-55	1-SE4	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片					口クロ調整、山茶碗葉系	233-7
5	tc-51	1-SE4	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片					口クロ調整	233-8

第631図 SE3・4出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	類別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	Te-9	1-SE7	土師質土器・皿	底部のみ			4.9		口縁直線, 底部断面が切ノコ状, 底径直線, 口縁直線	235-17
2	Na-110	1-SE7	鉄製品・針	ほぼ完形	長5.3	幅0.4	厚0.3	3g		235-11

第632図 SE7 出土遺物

(4)土坑

土坑は66基検出したが、時期が限定できたものは少ない。重複関係などからIVa4期に属する可能性があるのは37基で、規模などの詳細は表142・143 (238頁) のとおりである。

SK1 (第633図) 1区東部南壁際のIVa層上面で確認した。大きさの割には浅く、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は炭化物を多量に含んでいる。遺物は土師器、須恵器、土師質土器陶器等が40点出土し、青磁碗1点が固化した(第634図1)。

SK2 (第633図) 1区南西部のVa層上面で確認した。不整形で底面には段がついている。堆積土上部には炭化物を多量に含んでいる。遺物は土師器、須恵器、土師質土器片が23点出土している。

SK4 (第629図) 1区南西部のVa層上面で確認した。SE5を切っている。壁際なので大きさは不明瞭だが東西2.6m以上ある。堆積土上部には炭化物を多量に含んでいる。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器等が約90点出土したが、固化したものは鉄釘1点である(第634図11)。なお、この他に人骨や獣骨も出土しているが、二ホンオオカミの頭骨が1点確認されている(写真図版240, 第4分冊VII)。

SK5 (第633図) 1区西部のVa層上面で確認した。不整形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は須恵器片1点の他に鉄滓が多量に出土した。

SK7 (第633図) 1区西壁際のVa層上面で確認した。長楕円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器片が10点出土し、常滑産の甕が1点固化した(第634図8)。

SK9 (第633図) 1区西部のVa層上面で確認した。円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似しており、2層に分層される。SK7を切っている。遺物は鉄製品が1点出土している。

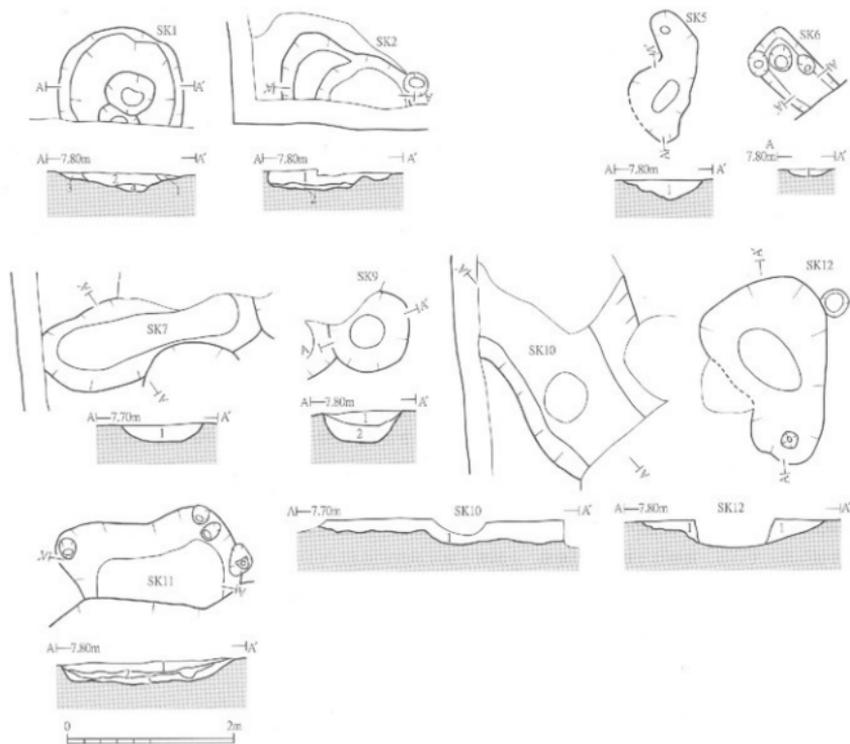
SK10 (第633図) 1区北西部のVa層上面で確認した。不整形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はVa層に類似している。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器片が20点以上出土している。

SK12 (第633図) 1区西部のVa層上面で確認した。不整形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器片が11点出土している。

SK15 (第635図) 1区西部のVa層上面で確認した。楕円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師器、須恵器、中世陶器片が9点出土している。

SK17 (第635図) 1区北部のVa層上面で確認した。楕円形で浅い。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器が4点出土している。

SK19 (第635図) 1区東部のVa層上面で確認した。楕円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似し



部位	色票	土質	埋人物・その他
SK1	1 09YR3/2 赤褐色	シルト	灰黄褐色砂質シルトブロック多量
	2 09YR2/1 赤色	粘土質シルト	灰黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物多量
	3 09YR3/2 赤褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック多量
	4 09YR2/1 赤色	粘土質シルト	炭化物多量
SK2	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量
	2 2.5Y2/1 黒色	灰	
SK5	1 10YR3/3 暗褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック少量、炭化物微量
SK6	1 10YR3/3 暗褐色	シルト質粘土	黒褐色粘土ブロック少量
SK7	1 10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルト質粘土ブロック少量
SK9	1 10YR3/1 赤褐色	粘土	炭化物・粘土粒多量
	2 10YR3/2 赤褐色	粘土	
SK11	1 09YR3/2 赤褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトブロック・炭化物少量
	2 09YR2/1 赤色	粘土	灰黄褐色粘土質シルトブロック微量、炭化物多量
	3 09YR3/1 赤褐色	粘土	炭化物少量
SK10	1 09YR4/2 灰黄褐色	粘土	炭化物微量
SK12	1 10YR2/3 暗褐色	シルト質粘土	炭化物少量

第633図 SK1・2・5～7・9～12 平面・断面図

ている。遺物は須恵器片が4点出土している。

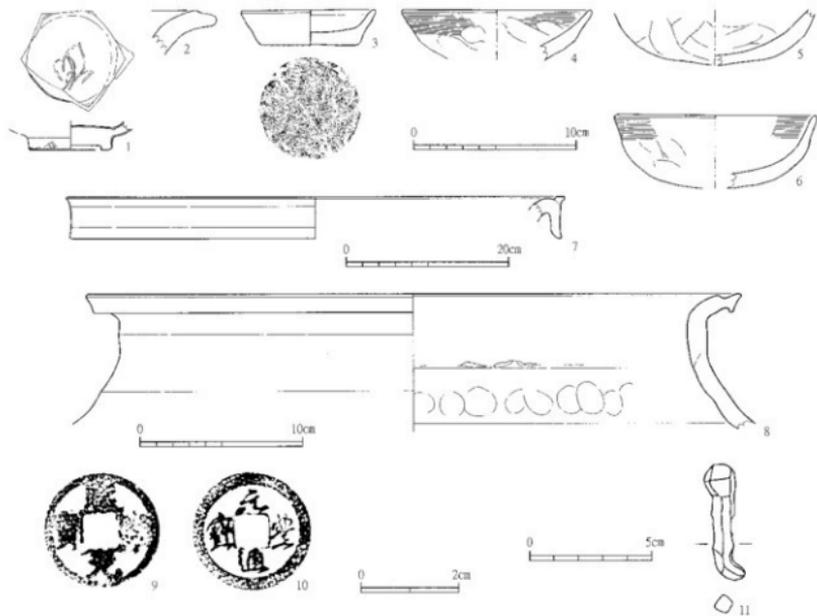
SK23 (第635図) 1区南西部のVa層上面で確認した。楕円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師器、土師質土器、中世陶器片が3点出土している。

SK25 (第636図) 1区南部のVa層上面で確認した。やや不整な楕円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は須恵器片が1点出土している。

SK32 (第636図) 1区南壁際のVa層上面で確認した。方形と推定される浅い土坑である。堆積土はIV層に類似し、2層に分層される。遺物は土師器、土師質土器片が6点出土している。

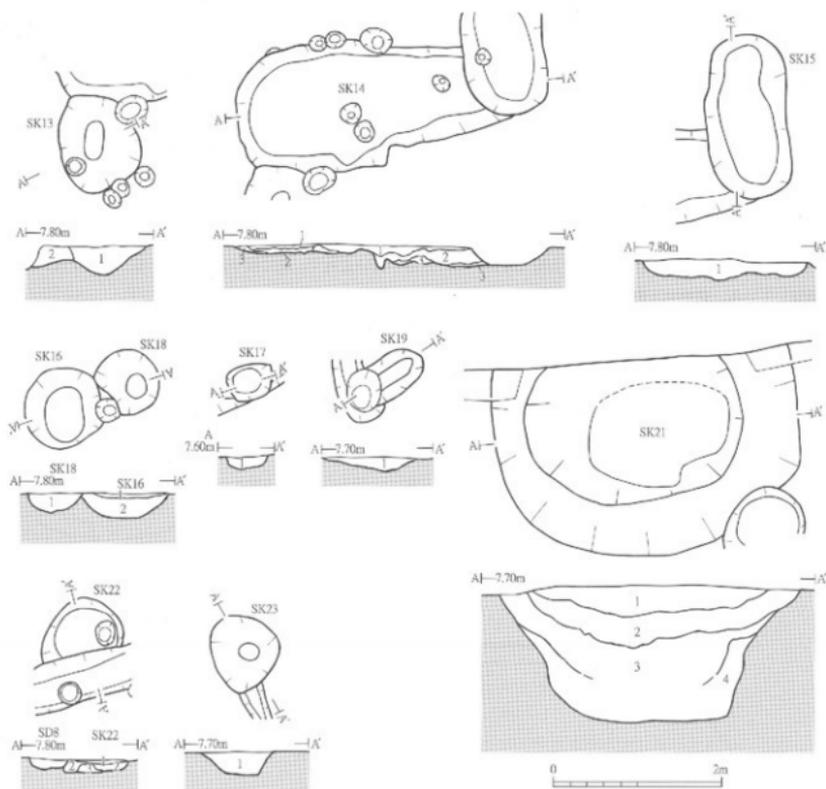
SK34 (第636図) 1区中央部のVa層上面で確認した。方形の浅い土坑で、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師器、土師質土器、中世陶器片が7点出土している。

SK35 (第636図) 1区中央部のVa層上面で確認した。円形の浅い土坑である。堆積土はIV層に類似している。遺物



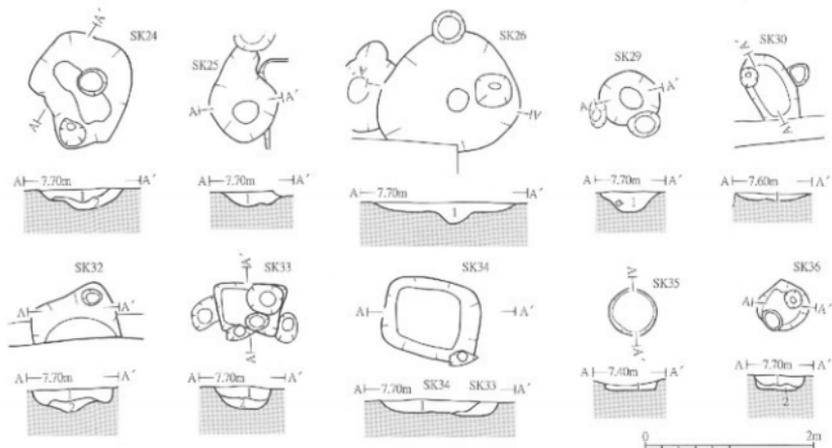
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	坑幅 (cm)		調整・特徴	写真 階級	
						口径	底径			
1	Jc-14	1-SK1	甕	(龍泉系)	底部		5.0	刺花文	235-14	
2	Ic-59	1-SK12	甕	(龍泉系)	口縁部小片			凸コナデ	235-15	
3	Ic-21	1-SK12	土師質土器	小皿	1/2	(8.2)	6.0	2.2	口縁部、底縁部、内面底縁部、内面、口縁部	235-16
7	Ic-22	1-SK13	土師質土器	皿	1/4	(11.6)			丸底、口縁部コナデ、体部~底縁部、縁部、口縁部	235-17
5	Ic-23	1-SK16	土師質土器	皿	1/2				丸底、体部~底縁部、縁部、口縁部	235-18
6	Ia-19	1-SK27	土師質土器	皿	1/4	(12.4)		4.5	丸底、口縁部コナデ、体部~底縁部、縁部、口縁部	235-19
7	Ic-	1-SK29・IVb層	陶器	(常滑)	口縁部1/6	(61.0)			口縁部コナデ、5割、IVb層土の断面と類似	235-20
8	Ic-60	1-SK7	陶器	(常滑)	口縁部1/5	(40.0)			口縁部コナデ、体部内面コナデ、口縁部内面、自然物	235-21
9	Nb-1	1-SK13	銅製品	残片	残片	径2.4		重3.0g	横断面? (横断面、北東・西向き、0.8x1.0cm、重量不明)	235-22
10	Nb-2	1-SK16	銅製品	残片	残片	径2.5		重2.9g	丸型遺物(北東・西向き、0.8x1.0cm、重量不明)	235-23
11	Nb-111	1-SK4	鉄製品	釘	ほぼ完形	長4.8	径0.6	厚0.7	頭部幅1.5cm、幅、10g	235-24
12	Qj	1-SK4	銅片	ニホシオオカス	部分				写真のみ	240-21

第634図 SK1・4・7・13・16・24・29 出土遺物



棟号	色調	土質	混入物・その他
SK13	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰黄色粘土ブロック少量、炭化物多量
	2 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量
SK14	1 10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物多量、焼土粒少量
	2 10YR2/1 黒色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロック少量、炭化物多量
	3 10YR3/2 黒褐色	粘土	黒色粘土質シルトブロック少量
SK15	1 10YR3/1 黒褐色	粘土	炭化物少量
SK16	1 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物少量
	2 10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物多量、焼土粒少量
SK17	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック・炭化物少量
	2 10YR2/1 黒色	粘土質シルト	木炭片・炭化物多量、焼土粒少量
SK18	1 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	暗灰褐色シルトブロック少量
SK21	1 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロック少量、炭化物多量
	2 N1.5/0 黒色	灰	瓦器
	3 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	
	4 2.5Y2/1 黒色	粘土	互層
SK22	1 10YR3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色粘土ブロック少量
	2 10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土	炭化物少量
	3 10YR3/3 暗褐色	シルト質粘土	炭化物多量
SK23	1 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロック・炭化物少量

第635図 SK13~19・21~23 平面・断面図



層位	色調	土質	遺人物・その他
SK24	1 10YR2/1	黒褐色 粘土	灰褐色砂質シルトブロック・炭化物少量
	2 10YR3/1	黒褐色 粘土	
SK25	1 10YR2/2	黒褐色 粘土質シルト	灰褐色砂質シルトブロック少量、炭化物多量
	2 10YR3/2	黒褐色 シルト質粘土	
SK26	1 10YR2/2	黒褐色 粘土質シルト	灰褐色砂質シルトブロック少量、炭化物少量
	2 10YR3/2	黒褐色 シルト質粘土	
SK29	1 10YR2/2	黒褐色 粘土質シルト	灰褐色シルトブロック少量、炭化物少量
	2 10YR3/2	黒褐色 シルト質粘土	
SK30	1 10YR2/2	黒褐色 粘土質シルト	灰褐色シルトブロック少量、炭化物少量
	2 10YR3/2	黒褐色 シルト質粘土	
SK32	1 10YR2/1	黒褐色 粘土	灰褐色シルトブロック少量、炭化物多量
	2 10YR3/1	黒褐色 粘土	
SK33	1 10YR2/2	黒褐色 粘土質シルト	灰褐色粘土ブロック少量、炭化物多量
	2 10YR3/2	黒褐色 粘土	
SK34	1 10YR3/1	黒褐色 シルト質粘土	暗褐色シルトブロック・炭化物少量
	2 10YR2/3	黒褐色 シルト質粘土	
SK35	1 10YR2/3	黒褐色 シルト質粘土	炭化物少量
	2 10YR3/3	黒褐色 シルト質粘土	

第636図 SK24～26・29・30・32～36 平面・断面図

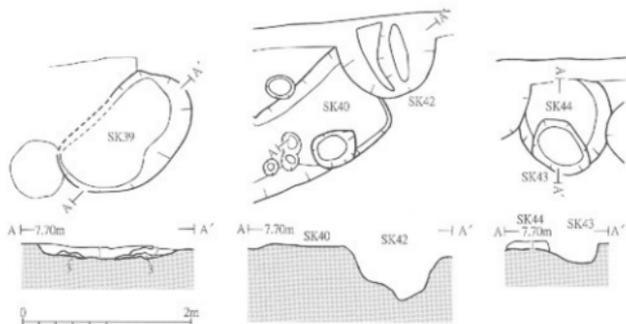
は出土しなかった。

SK36 (第636図) 1区北部のVa層上面で確認した。円形で浅い土坑である。堆積土はIV層に類似し、2層に分層される。遺物は土師質土器、陶器片が5点出土している。

SK37・38 1区北部のVa層上面で確認した。楕円形の浅い土坑である。堆積土はIV層に類似する。遺物は出土しなかった。

SK39 (第637図) 1区北部のVa層上面で確認した。楕円形で浅い土坑である。堆積土はIV層に類似し、3層に分層される。遺物は須恵器、土師質土器片が7点出土している。

SK42 (第637図) 1区北壁際のVa層上面で確認した。円形と推定される土坑である。遺物は土師器、須恵器、土師



層位	色調	土質	混入物・その他
SK39	1 10YR3/1 黒褐色	シルト質粘土	混入物・その他
	2 10YR3/1 黒色	灰	黒褐色シルト質粘土ブロック・炭化物少量
	3 10YR4/3 におい褐色	粘土	黒褐色シルト質粘土ブロック・炭化物少量
SK44	1 2.5Y3/1 黒褐色	シルト質粘土	混入物・その他

第637図 SK39・40・42～44 平面・断面図

質土器片が10点出土している。

SK43・44 (第637図) 1区北壁際のVa層上面で確認した。楕円形で浅い土坑である。遺物はSK43から土師器・須恵器・土師質土器、中世陶器片が14点出土している。

SK45 (第638図) 1区北部のVa層上面で確認した。長楕円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はブロック土を多量に含むことから人為的に埋め戻されている可能性がある。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、金属製品などが14点出土し、このうち鉄釘1点が図化できた(第641図8)。

SK49 (第638図) 1区東部のVa層上面で確認した。円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師器、須恵器、土師質土器片などが4点出土している。

SK51 (第638図) 1区北部のVa層上面で確認した。楕円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は出土しなかった。

SK54 (第638図) 1区北部のVa層上面で確認した。円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器を中心に30点出土したが、図化できたのは白磁13である。花弁状の陰刻が施されている(第641図5)。

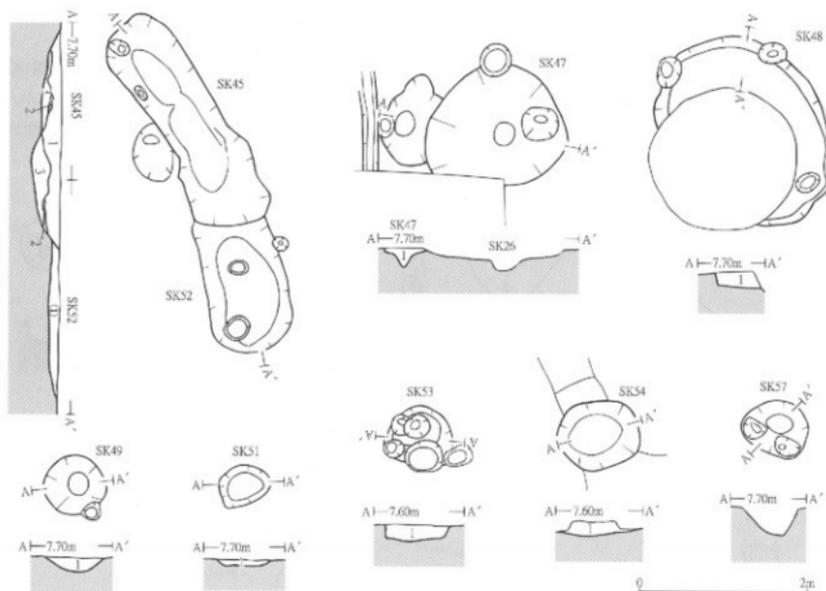
SK58 (第639図) 2区北部のIVa層上面で確認した。円形で壁は比較的急に立ち上る。堆積土は単層である。遺物は須恵器、土師質土器、中世陶器、中国産磁器、金属製品、鉄滓など23点出土し、北宋銭1点が図化できた(第641図15)。

SK59 (第639図) 2区北部のIVa層上面で確認した。楕円形で浅い土坑である。堆積土には灰白色火山灰を含んでいるがこれは流れ込みと考えられる。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、近世の陶器など14点出土したが、図化できたものはない。

SK61 2区北東部のIVa層上面で確認したが、部分的な確認なので平面形は不明である。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器片などが18点出土したが図化できたのは中世陶器1点である(第641図6)。

SK62 (第639図) 2区北東部のVa層上面で確認した。楕円形と推定される浅い土坑で壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器、鉄製品が3点出土し、鉄釘が図化できた(第641図12)。

SK63 (第639図) 2区中央部のVa層上面で確認した。楕円形で浅い土坑である。堆積土はIV層に類似している。遺物は須恵器、土師質土器が3点出土している。



調査	色調	土質	混入物・その他
SK45	1 10YR3/1	黒褐色	シルト質粘土
	2 2.5Y2/1	黒色	灰
	3 10YR3/1	黒褐色	粘土
SK47	1 10YR3/2	黒褐色	灰褐色粘土ブロック少量
	2 2.5Y3/1	黒褐色	灰褐色粘土ブロック少量
SK48	1 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト
	2 2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト
SK49	1 2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト
	2 2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト
SK51	1 2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト
	2 2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト
SK53	1 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト
	2 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト
SK54	1 10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト
	2 10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト
SK57	1 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト
	2 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト

第638図 SK45・47~49・51~54・57 平面・断面図

SK64 (第639図) 2区北東部のVa層上面で確認した。円形で壁は急に立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器、鉄滓が3点出土している。

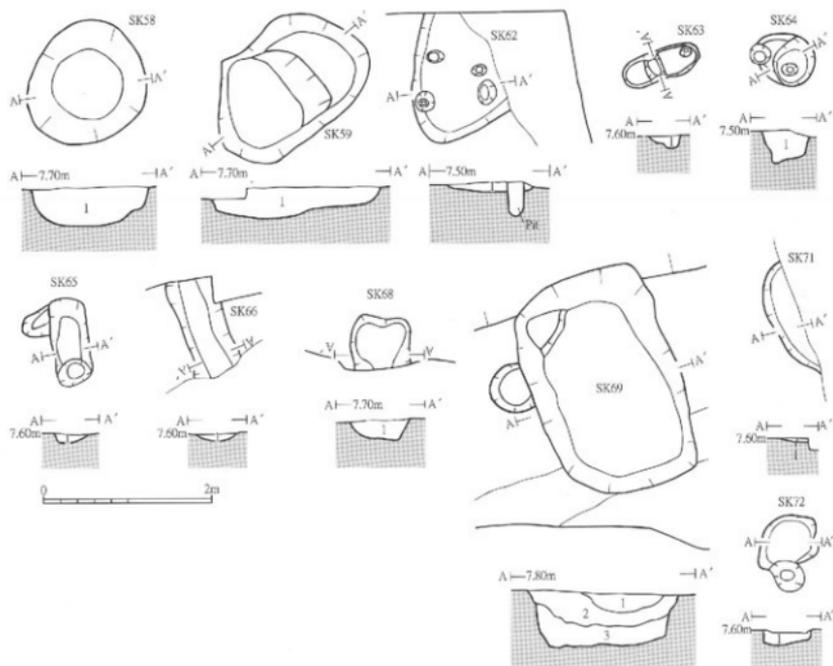
SK68 (第639図) 2区南壁際のVa層上面で確認した。方形と推定される浅い土坑で壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は鉄製品や鉄滓が3点出土している。

SK70 (第640図) 2区北西部のVa層上面で確認した不整形の土坑である。壁は緩やかに立ち上る。堆積土は自然堆積層であるが、灰、炭化物を多量に含んでいる。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、鉄製品が23点出土したが図化できたのは土師質土器1点である(第641図2)。

SK79 (第640図) 2区南壁際のVa層上面で確認した。円形と推定される浅い土坑で、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師器、土師質土器、中世陶器片が5点出土している。

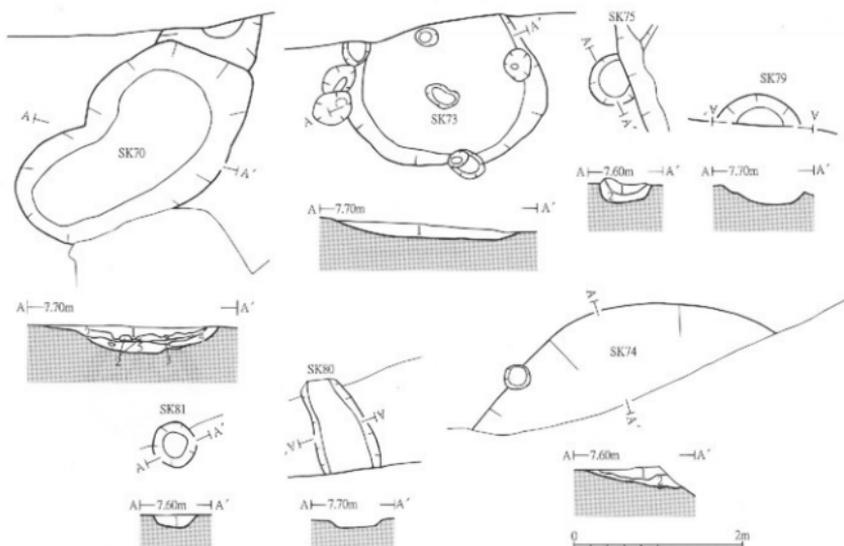
(5)土坑墓

SK69 (第639図) 2区南壁近くのIVa層上面で確認した。SD18AとSK75を切っている。大きさは南北270cm×東西180cmで、壁は比較的急に立ち上る。底面は平坦で底面には人骨が認められた。遺存状態が悪く詳細は不明であるが、土坑墓と推定される。頭骨らしい部分が北壁際と中央部の2箇所で認められたので、2体が埋葬されていた可能性がある。



層位	色相	土質	遺入物・その他
SK58	1 JY93/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック少量、黒色粘土を基状に少量
SK59	1 JY93/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・灰白色土(IVa)少量、炭化物微量
SK62	1 JY93/1 暗褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物少量
SK63	1 JY93/1 暗褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルトブロック少量、炭化物微量
SK64	1 JY92/2 黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト粒・炭化物少量
SK65	1 JY92/1 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色シルト粒・炭化物少量
SK66	1 JY93/1 黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト少量、炭化物少量
SK68	1 JY92/1 暗褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルト粒・炭化物少量
SK69	1 JY92/3 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック少量
	2 JY94/1 暗褐色	シルト	黄褐色土小ブロック少量、炭化物結晶量
	3 JY92/2 暗褐色	シルト	黄褐色土小ブロック少量、炭化物粒多量
SK71	1 JY93/1 暗褐色	粘土	炭化物少量
SK72	1 JY93/1 暗褐色	粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土ブロック・炭化物少量

第639図 SK58・59・62~66・68・69・71・72 平面・断面図



遺位	色調	土質	遺人物・その他
SK70	1 HOYK3/1 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒少量
	2 HOYK3/3 暗褐色	砂質シルト	黒褐色土多層状に少量
	3 HOYK3/1 黒色	砂質シルト	灰少量
	4 HOYK3/4 暗褐色	砂質シルト	灰土粒少量
	5 HOYK2/1 黒色	砂質シルト	炭化物粒・灰多量
SK73	1 HOYK3/1 黒褐色	粘土	にぶい黒褐色シルト質粘土ブロック少量、炭化物多量
	2 HOYK4/3	にぶい黄褐色シルト質粘土	黒褐色粘土ブロック少量、炭化物少量
SK74	1 HOYK3/1 黒褐色	粘土	炭化物少量
	2 HOYK4/3	にぶい黄褐色シルト質粘土	黒褐色粘土ブロック少量、炭化物少量
SK75	1 HOYK3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒多量
	2 HOYK3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒少量
SK81	1 HOYK3/1 黒褐色	粘土	黄褐色シルト質粘土ブロック少量、炭化物少量

第640図 SK70・73~75・79・80・81 平面・断面図

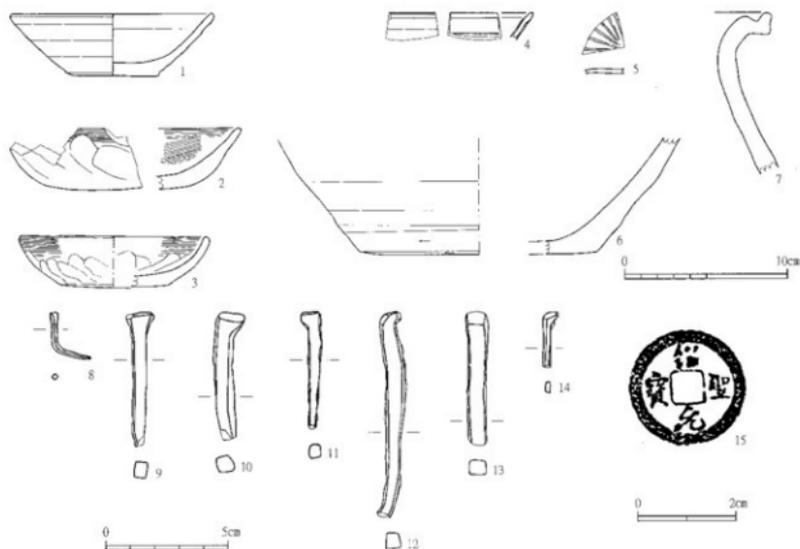
遺物は多量の土師質土器皿類のほか土師器、須恵器、中世陶器、中国産磁器、鉄製品や銭貨などが出土したが、このうち確実に副葬品と考えられるのは銭貨10点で、1点は錆のため種別が不明であったが、他は洪武通寶と永楽通寶である。鉄釘や刀子などの鉄製品については副葬品かどうか判断できないが、中世陶器については破片であるので混入品と推定される。土師質土器皿類はこのSK69に切られているSK75から大量に出上していることから本来はSK75の遺物であった可能性が高い(第642図)。

(6)火葬遺構

SM1 2区中央部のSD18Bの堆積土上層で焼骨と木炭が集中する箇所を確認した(第623図★印)。範囲は80×80cm程度である。当初は「火葬墓」としていたが、人骨は複数体分あるとの分析結果(第4分冊VII)をうけて「火葬遺構」とした。IVa2期の遺構であるSD18Bがほとんど埋没した後の遺構であるが、SD18Bの埋没過程が不明なため具体的な時期は特定できない。

(7)ピット

ピットは約600基検出したが、掘立柱建物跡としての組み合わせが判明したのが約350基である。約250基のピット

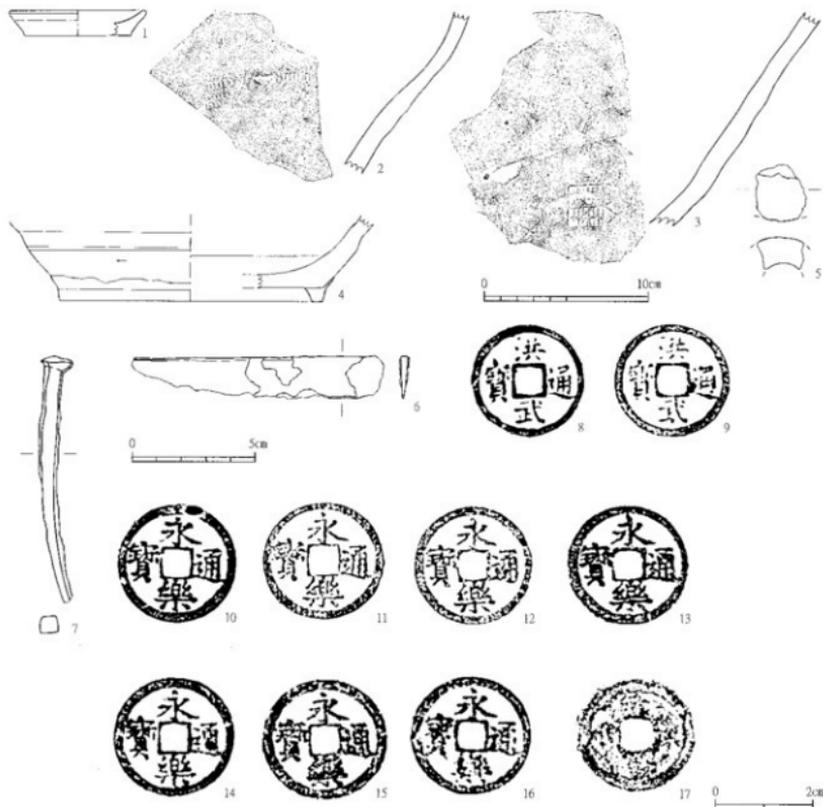


No.	発掘期	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口徑	底徑	高さ		
1	Ia-20	1-SK47	土師質土器・皿	1/3		(12.6)	5.7	3.8	ロク口縁部、底面中央部、内面中心部ナデ、白粉塗	236-12
2	Ia-51	2-SK70	土師質土器・皿	1/4					丸底中央部ナデ、口縁部コナデ、縁部ナデ、白粉塗	236-13
3	Ia-51	1-SX1	土師質土器・皿	1/4		(11.7)	(6.7)	3.2	丸底扁平、口縁部コナデ、縁部ナデ、白粉塗	236-14
4	I-30	2-SK74	白磁(中国)	口縁小片					花卉状の印刻	236-16
5	J-13	1-SK54	白磁(中国)	器種? 小片					ロク口縁部・体部下半~底面両面回転ヘラケズリ 内面磨滅、特に底面の磨滅が激しい、山形磨盤系 口縁部コナデ、縁部ナデ、環状、磁石の破片と重合	236-15
6	Ic-86	2-BC4・SK61	陶器(東海)	片口鉢	底~体部1/5		(14.6)			236-17
7	Ic-52	1-SX1	陶器(常滑)	表	1/縁~肩部1/5	長さ	幅	厚さ		237-1
8	Na-14	1-SK45	鉄製品・釘?	ほぼ完形		3.0	0.2	0.5	屈曲、1g	237-2
9	Na-116	1-SK47	鉄製品・釘	9/10		5.6+	0.5	0.6	頭部幅1.2cm、9g+	237-3
10	Na-117	1-SK48	鉄製品・釘	4/5		5.3+	0.7	0.7	頭部幅1.1cm、13g+	237-4
11	Na-118	1-SK48	鉄製品・釘	4/5		4.8+	0.5	0.6	頭部幅0.8cm、4g+	237-5
12	Na-160	2-SK62	鉄製品・釘	4/5		8.5+	0.6	0.7	14g+	237-6
13	Na-86	1-SX1	鉄製品・釘	中央部		5.5+	0.7	0.6	11g+	237-7
14	Na-85	1-S1	鉄製品・釘	頭部~中央部		2.3+	0.2	0.5	頭部幅0.6cm、1g+	237-8
15	Nb-29	1-SK58	銅製品・鏡背	完形		径2.4		重2.9g	紹聖元寶(北宋・初建1094年)	237-9

第641図 SK45・47・48・54・58・61・62・70・74、S11、SX1出土遺物

が残るので建物数は本来さらに多かったと推定される。ピットからは土師質土器などを中心に約550点の遺物が出土したが、図化できたのは19点である(第654図2~5・7・12~16・18・20・22、第655図6~10・12)。P310から土師質土器皿類・鉄釘がまとまって出土している。1区P198から出土した鉄製品Na-97(第655図12)は錆のため図は不明瞭であるが、X線写真(写真310-5)によって頭部の環に別の金具の環が結合されていることが判明した。小さい金具が建物に取り付けられた「止め金」、「L」字状のものが「卦金」と考えられる。

なお、P198はIVa3期のSB14(第644図・244頁の模式図)の南西コーナーにあるP197に隣接したピットであるが、SB14との関係は不明である。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	寸法 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	Ia-44	2-SK69	土師器・土器・小皿	1区		(8.4)	(6.5)	1.6	口ノ口調査、底部跡止未明、硬質、自針少量	229-6
2	Ic-100	2-SK69	陶器(常滑)・壺	体部小片					ナデ、蓋状押印	229-7
3	Ic-101	2-SK69 (V重・S218A)	陶器(常滑)・壺	体部小片					ナデ、蓋状押印 子字、蓋状「X」形押印、S.D. XAとV重出土層片と一致 0.7×0.7cm、0.8×0.7cm、0.7×0.7cm、0.7×0.7cm、0.7×0.7cm、0.7×0.7cm	229-8
4	Ic-88	2-SK69	陶器(東海)・片1鉢	底～体部1/4			(16.0)		山茶崎窯系	229-9
5	Ib-5	2-SK69	土師器・羽口	先端部小片	長さ5cm					229-10
6	Nb-161	2-SK69	鉄製品・刀子	身部の一部	長さ7cm	幅1.7cm	厚0.3cm	10g+		229-12
7	Nb-162	2-SK69	鉄製品・釘		長さ10.1cm	幅0.8cm	厚0.8cm	19g+		229-11
8	Nb-32	2-SK69	銅製品・銭貨	貨幣	直径	2.3		3.2g	洪武通宝(明・初録1368年)、六通銭	229-13
9	Nb-38	2-SK69	銅製品・銭貨	貨幣	直径	2.2		3.7g	洪武通宝(明・初録1368年)、六通銭	229-14
10	Nb-30	2-SK69	銅製品・銭貨	貨幣	直径	2.5		2.9g	永樂通宝(明・初録1408年)、六通銭	229-15
11	Nb-37	2-SK69	銅製品・銭貨	貨幣	直径	2.4		3.5g	永樂通宝(明・初録1408年)、六通銭	229-16
12	Nb-36	2-SK69	銅製品・銭貨	貨幣	直径	2.5		2.7g	永樂通宝(明・初録1408年)、六通銭	229-17
13	Nb-35	2-SK69	銅製品・銭貨	貨幣	直径	2.5		3.6g	永樂通宝(明・初録1408年)、六通銭	229-18
14	Nb-34	2-SK69	銅製品・銭貨	貨幣	直径	2.5		4.0g	永樂通宝(明・初録1408年)、六通銭	229-19
15	Nb-31	2-SK69	銅製品・銭貨	貨幣	直径	2.5		3.2g	永樂通宝(明・初録1408年)、六通銭	229-20
16	Nb-40	2-SK69	銅製品・銭貨	貨幣	直径	2.5		5.9g	永樂通宝(明・初録1408年)、六通銭	229-21
17	Nb-33	2-SK69	銅製品・銭貨	貨幣	直径	2.3		3.2g	銭のため彫り不明、六通銭	229-22

第642図 SK69 出土遺物

No	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
SK1	A4・IVa層	円形	150×?	24	IVb~IVa期
SK2	A1・2・Va層	不整形	160×?	20	IVb~IVa期
SK4	A2・Va層	不整形	260~	165	SE5・SK1を切る。IVa期
SK5	A1・2・Va層	不整形	110×70	27	Va~IVa期
SK6	A2・Va層	方形	110×60	10	SB21に切られる。Va~IVa1期
SK7	A1・2・Va層	長楕円形	(200) × 100	25	SK3・SK9に切られる。IVb~IVa期
SK9	A2・Va層	円形	100	37	Va~IVa期
SK10	A1・Va層	不整形	360~×200	18	IVb~IVa期
SK11	A2・Va層	不整形	200×110+	23	SE5, SK4, SB5・12・24・36に切られる。Va~IVb期
SK12	A2・Va層	不整形	220×160	34	IVb~IVa期
SK13	A2・Va層	楕円形	200×100	36	SB5・36に切られる。IVb期
SK14	A2・Va層	長楕円形	(360) × 150	7	SK13・15, SB8・12・18・46に切られる。Va期
SK15	A2・Va層	楕円形	200×100	17	SK14, SB37を切る。IVa2~4期
SK16	A2・Va層	円形	90	28	SK18, SB37に切られる。IVb期
SK17	B3・Va層	楕円形	60×40	14	SK40を切る。IVb~IVa期
SK18	A2・Va層	円形	80	27	SK16を切り、SB37に切られる。IVb期
SK19	A4・Va層	楕円形	60×50	18	Va~IVa期
SK21	A2・Va層	楕円形?	300×220+	169	SK22, SB49に切られる。佐倉遺出土。IVb期
SK22	A2・Va層	楕円形	(100) × 90	11	SK21を切り、SB12に切られる。Va~IVa2期
SK23	A2・Va層	楕円形	90×80	29	SD11を切る。IVb~IVa期
SK24	A2・Va層	不整形	140×120	26	SB36に切られる。IVb期
SK25	A3・Va層	楕円形	100×80	22	SD11を切る。IVb~IVa期
SK26	A4・Va層	楕円形	170×150	12	SK47を切り、SB30に切られる。IVb~IVa1期
SK29	A3・Va層	円形	70×50	23	SB26・45に切られる。IVb1期
SK30	A3・Va層	楕円形	80×50	7	SB9に切られる。Va~IVa3期
SK32	A3・Va層	方形?	90×70+	54	IVb~IVa期
SK33	A3・Va層	方形	80×60	18	SK34, SB3に切られる。IVb~IVa3期
SK34	A3・Va層	方形	110×100	13	SK33を切る。IVb~IVa期
SK35	A2・Va層	円形	60	35	
SK36	A3・Va層	円形	60	17	IVb~IVa期
SK37	AB3・Va層	楕円形	70×50	26	
SK38	A3・Va層	楕円形	50×40	31	
SK39	AB2・3・Va層	楕円形	175×170	20	IVb~IVa期
SK40	B3・Va層	方形	150×120	8	SB18に切られる。IVb~IVa1期
SK41	B3・Va層	円形?	130?	7	SB3に切られる。IVb~IVa3期
SK42	B3・Va層	円形?	120	46	SK40・44を切る。IVb~IVa期
SK43	B3・Va層	楕円形	80×60	26	IVb~IVa期
SK44	B3・Va層	楕円形	110+×100	9	
SK45	AB3・Va層	長楕円形	280×90	33	SK52を切る。IVb~IVa期
SK46	A3・Va層	隅丸方形	290×225	283	SB13・33・43に切られる。SB47が土層? 奥壁に杭状の木製点。IVb1期?
SK47	A4・Va層	楕円形	120×60+	6	SK26, SB3に切られる。IVb期
SK48	A3・Va層	楕円形	250∠(200)	19	SE1, SA2, SB43・48に切られる。IVb1期?
SK49	A4・Va層	円形	65	18	IVb~IVa期
SK51	A3・Va層	楕円形	60×40	12	
SK52	A3・Va層	楕円形	(180) × (100)	10	SK45, SB6・15・27に切られる。IVb~IVa1期
SK53	A2・Va層	不整形	80×70	30	SB3・18・36に切られる。Va~IVb1期
SK54	AB2・Va層	楕円形	90×80	7	SD8を切る。IVa期
SK57	A2・Va層	楕円形	80×65	31	SB5に切られる。Va~IVa3期

表142 1区土坑一覽表 (SK3・8・20・27・28・31・50・55・56は欠番)

No	グリッド・確認層位	平面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	時期・その他
SK58	C3・IVa層	楕円形	155×135	57	IVb~IVa期
SK59	C2・IVa層	楕円形	205×130	27	SD19を切る。IVa1期
SK60	BC4・IVa層	隅丸方形	600+×450	11	SD17に切られる。IVa1期以降
SK61	C4・IVa層	?	270+	14	SK62・64, SA2を切る。IVa2~4期
SK62	C4・Va層	楕円形?	140+×?	6	SK61に切られる。IVb~IVa期
SK63	C2・Va層	楕円形	100×40	11	IVb~IVa期
SK64	C4・Va層	楕円形	75×60	15	SK61に切られる。IVb~IVa期
SK68	B2・Va層	方形?	70+×70	21	
SK69	B3・IVa層	方形	270×180	55	SD18A, SK75を切る。IVa1期以降の土坑墓。
SK70	C1・Va層	不整形	305×70	35	IVb~IVa期
SK71	C2・Va層	?	145×35	5	SB38・39に切られる。IVb期
SK72	C2・Va層	楕円形	80×60	16	SB38を切り、SB23に切られる。IVa1~2期
SK73	C3・Va層	円形	240	12	SB1・11・34・40に切られる。IVb1期
SK74	B2・Va層	円形?	380+	20	SB44を切り、SD18Bに切られる。IVb2~IVa1期
SK75	B3・IVa層	円形?	60	25	SK69に切られる。土師黄土層直下層型。IVb1期
SK79	B3・Va層	円形?	170	18	IVb~IVa期
SK80	B2・IVa層	楕円形?	120+×70	9	SD18Aに切られる。IVb~IVa3期
SK81	B2・IVa層	円形	52	20	SD18Aに切られる。IVb~IVa3期

表143 2区土坑一覽表 (SK65~67・76~78は欠番)

4. IVa3期の遺構

(1)溝跡

IVa3期の区画の堀跡は1区のSD4Bと2区のSD23・21・19で、SD4BとSD23は南北から東西に「L」字状につながっている。SD23にはSD21が接続して北へ延びているが、このSD21は西側のSD19と調査区外で「L」字状あるいは「T」字状につながって別な区画を形成していると推定される。

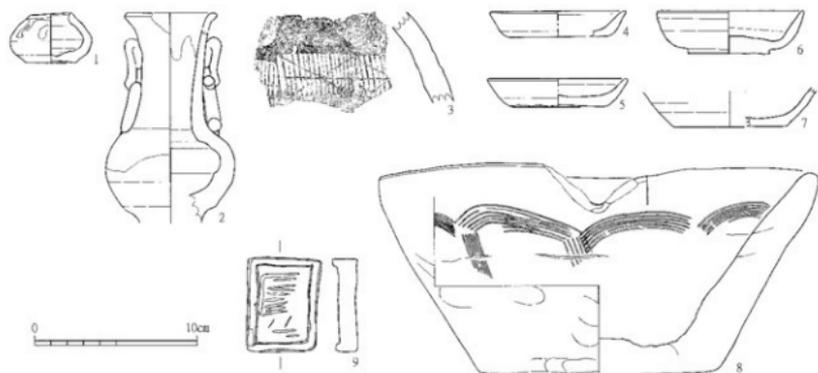
SD4B (第624・644図) 1区東部のIVa層上面で確認した南北方向の堀跡で、SD4Aに切られている。SD4Aの項で述べたようにSD4A・4Bを同時に精査したため平面図も両者を同時に完掘した状況で作成する結果となり、上端の幅などは表現できなかった。西側の肩をSD4Aによって壊されているため断面形や幅ははっきりしないが、断面形は逆台形で幅は2.5m程度と考えられる。深さは90cmである。堆積土は下層に厚い粘土と砂の互層が認められたので水成堆積と考えられる。方向は真北から東に16° 振れている。

遺物はSD4A・4B同時に取り上げたので区別ができなかった。詳細はSD4Aの項で述べたとおりである。

SD23 (第644・645図) 2区南東部にあるSK60の底面で確認している。1区のSD4Bに接続すると考えられる。断面形は浅い逆台形で、確認面での幅は1.5～2.5mであるが調査区南壁では約3mである。深さは70cmである。堆積土上層はSD4Bと類似するが、下層はSD4Bのような明瞭な水成堆積層ではない。

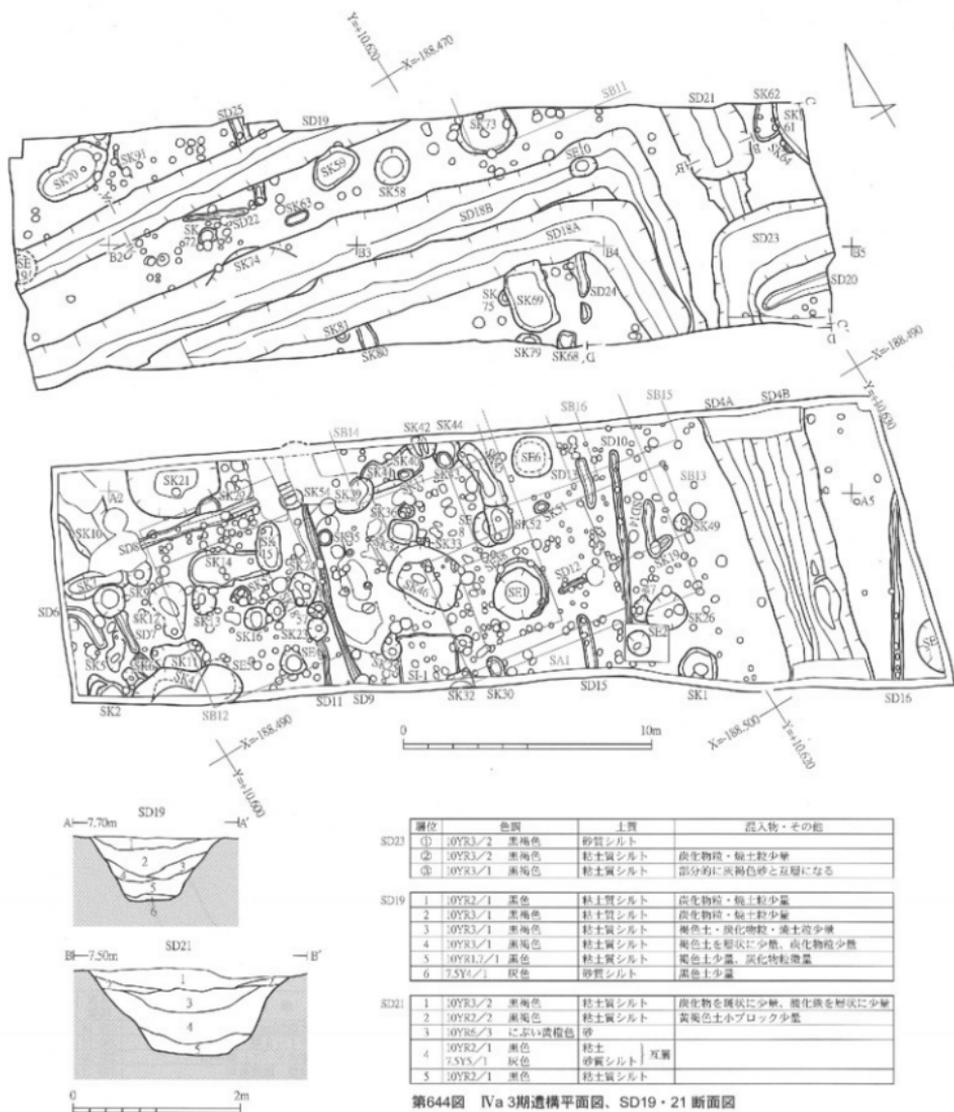
遺物は須恵器、土師質土器、中世陶器、金属製品など27点で、図化できたのは1c-105常滑産斐と用途不明の銅製品Nb-28である (第647図・5)。

SD21 (第644図) 2区東部のSK60底面～Va層上面にかけて確認した南北方向の堀跡で、SD23に接続している。断面形は逆台形で幅は2.5m、深さは100～110cmであるが、SD23との接続部分は幅1～1.5m、深さ10～30cmで狭く、浅く



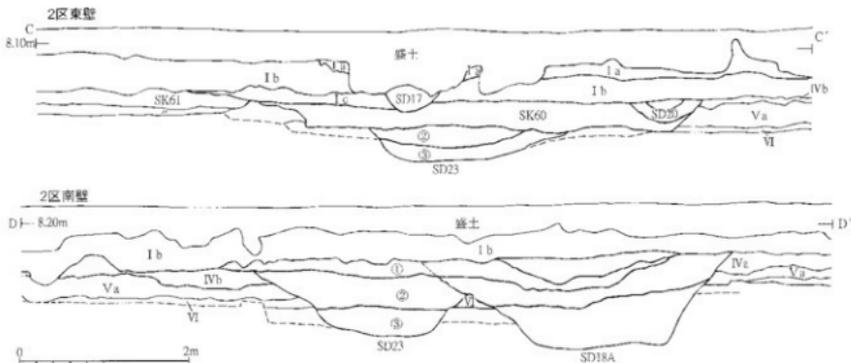
No	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	寸法 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	1c-109	2-SD19	陶器(瀬戸) 合子	完形	2.5	3.0	3.1	体厚最大径5.0cm、灰釉、中1期	230-18
2	1c-106	2-SD19	陶器(瀬戸) 仏花瓶	2/3	(5.6)			灰釉、中1～2期	230-19
3	1c-99	2-SD19	陶器(常滑) 甕	体部小片				ナデ、腹状+「X」形押印	230-20
4	1a-45	2-SD19	土師質土器・小皿	1/6	(8.4)	(6.0)	1.6	ロク口調整、底部糸切	230-21
5	1a-46	2-SD19	土師質土器・小皿	1/3	(8.6)	(6.0)	1.8	ロク口調整、底部回転糸切・部ナデ	230-22
6	1a-48	2-SD19	土師質土器・小皿	ほぼ完形	9.0	5.0	2.7	ロク口調整、底部回転糸切、内面中心部ナデ、自然変色	230-23
7	1a-34	2-C2-SD19 (IV層)	土師質土器・皿	下部1/2		6.8		ロク口調整、底部糸切	230-24
8	1c-74	2-SD19	陶器(美濃器系) 片口鉢	ほぼ完形	26.8	14.4	12.1～13.1	調整済、片口ナデ、内面糸切、全周(口縁)に転写の印痕、下半部の腹縁近くは底部調整の痕が濃い	231-1
9	1b-111	2-SD19	陶器	完形	長さ5.9	幅4.5	厚1.5	中央部に横方向の浅溝、表面に墨付、自然変色、3期	231-2

第643図 SD19 出土遺物(1)

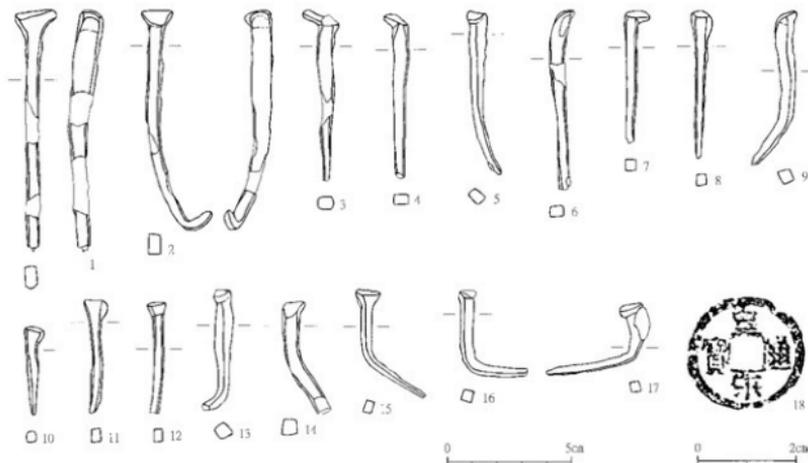


層位	色質	土質	混入物・その他
SD23	① 10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	
	② 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒・粘土粒少量
	③ 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	部分的に灰褐色砂と互層になる
SD19	1 10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒・粘土粒少量
	2 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒・粘土粒少量
	3 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色土・炭化物粒・炭土粒少量
	4 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色土を層状に少量、炭化物粒少量
	5 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色土少量、炭化物粒少量
	6 7.5Y4/1 灰褐色	砂質シルト	褐色土少量
SD21	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を層状に少量、炭化炭を層状に少量
	2 10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色土小ブロック少量
	3 10YR6/3 に近い黄褐色	砂	
	4 10YR2/1 黒色	粘土	互層
	5 7.5Y5/1 灰褐色	砂質シルト	
5 10YR2/1 黒色	粘土質シルト		

第644図 IVa 3期遺構平面図、SD19・21断面図



第645図 2区東壁・南壁断面図



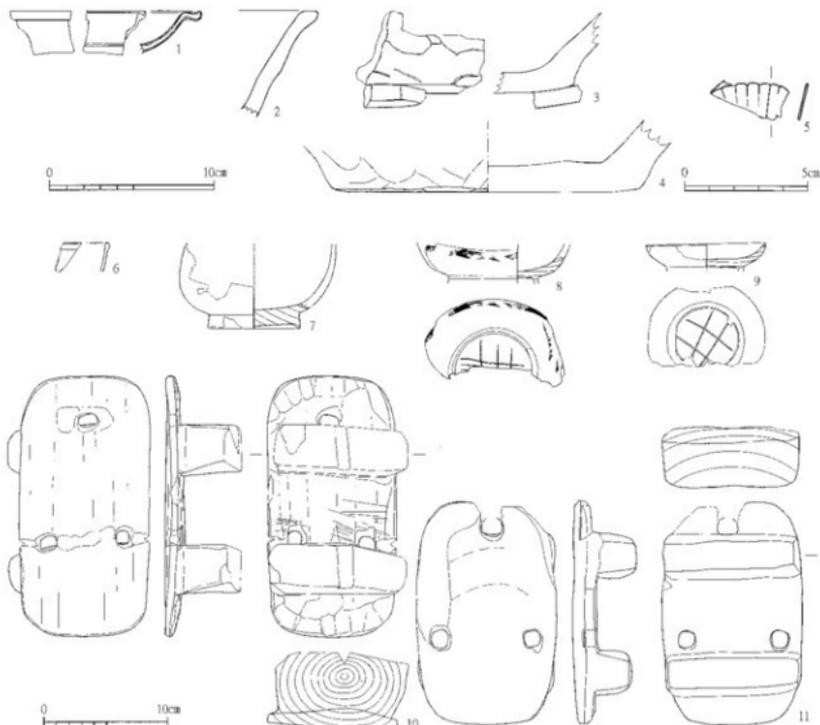
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	部種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	No.144	2.SD19	鉄製品・釘	45	10.0+	0.5	0.9	頭部幅1.7cm, 19g	231-3	
2	No.155	2.SD19	鉄製品・釘	凹形変形	7.3	0.4	0.9	頭部幅1.3cm, 屈曲, 16g	231-4	
3	No.141	2.SD19	鉄製品・釘	9/10	7.1+	0.7	0.5	頭部幅1.6cm, 6g+	231-5	
4	No.156	2.SD19	鉄製品・釘	9/10	6.8+	0.6	0.4	頭部幅1.1cm, 7g+	231-6	
5	No.142	2.SD19	鉄製品・釘	変形	8.8	0.4	0.6	頭部幅0.8cm, 5g	231-7	
6	No.140	2.SD19	鉄製品・釘	45	7.4+	0.5	0.4	6g+	231-8	
7	No.143	2.SD19	鉄製品・釘	9/10	5.5+	0.5	0.5	頭部幅1.1cm, 5g	231-9	
8	No.146	2.SD19	鉄製品・釘	変形	5.2	0.4	0.5	頭部幅0.9cm, 4g	231-10	
9	No.148	2.SD19	鉄製品・釘	凹形変形	6.4+	0.5	0.6	7g	231-11	
10	No.154	2.SD19	鉄製品・釘	変形	3.7	0.4	0.5	頭部幅0.8cm, 2g	231-12	
11	No.152	2.SD19	鉄製品・釘	変形	4.8	0.4	0.6	頭部幅1.0cm, 5g	231-13	
12	No.153	2.SD19	鉄製品・釘	45	4.7	0.4	0.6	頭部幅0.8cm, 3g+	231-14	
13	No.151	2.SD19	鉄製品・釘	45	5.4+	0.6	0.6	頭部幅0.7cm, 屈曲, 5g+	231-15	
14	No.149	2.SD19	鉄製品・釘	凹部~中央部	4.7+	0.5	0.6	5g+	231-16	
15	No.150	2.SD19	鉄製品・釘	凹形変形	5.6+	0.4	0.5	4g	231-17	
16	No.147	2.SD19	鉄製品・釘	中央部	5.4+	0.5	0.5	5g+	231-18	
17	No.145	2.SD19	鉄製品・釘	凹形変形	5.6	0.4	0.4	頭部幅1.0cm, 屈曲, 5g	231-19	
18	No.25-27	2.SD19	銅製品・鏡	変形	径2.4	厚2.7g		聖徳太子(北推、初建1099年)	231-20	

第646図 SD19 出土遺物(2)

なっている。堆積土上層はSD23と同じ黒褐色の粘土質シルト、下層には水成堆積層が認められた。方向は検出した長さが短いため明確ではないが、真北から東に10°前後振れている。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、金属製品、木製品など64点とウマの歯が出土した。図化できたのは青磁-24折縁皿や中世陶器、漆器箱・椀・皿類、下駄などである(第647図1・2・4・6~11)。

SD19(第644図) 2区北西部のIVa層上面で確認した東西方向の地跡で、SD21とは調査区外で「L」字状あるいは「T」字状に接続していると推定される。断面形は逆台形で幅は1.6~1.9m、深さは75cmである。堆積土は黒褐色粘土質シルトを主とした自然堆積層である。方向は真北から西に84°振れている。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口徑	底径	器高		
1	J-24	2-SD21	黄銅(東海)折縁皿	口縁~体部片						231-21
2	le-89	2-SD21	陶器(東海)片口鉢	口縁~体部片					口ク口調整、山菜柄家系	231-22
3	le-105	2-SD23	陶器(京西)椀	底部小片					ナデ、底部に幾竹の襷の痕片が附着	231-23
4	le-105	2-SD21	陶器(在揚)蓮	底部片		(18.6)			ナデ	231-25
5	Nb-28	2-SD23	銅製品・用途不明	部分	長3.2	幅1.5	厚0.03			231-24
6	L-20	2-SD21	木製品・漆器箱	口縁小片					内面黒色下地(漆がのれる?)、外面朱漆	231-26
7	L-17	2-SD21	木製品・漆器椀	下部		7.7			内外面の産割離、下地の黒色が一部残存	231-27
8	L-19	2-SD21	木製品・漆器椀	体部1/2					内面朱漆色漆、外面黒漆・漆文様・底部にヘラ跡	231-28
9	L-18	2-SD21	木製品・漆縁皿	2/3	(9.7)	(6.3)			内面朱漆色漆、外面黒漆残存・底部にヘラ跡	231-29
10	L-16	2-SD21	木製品・漆地下駄	ほぼ完形	長21.6	幅10.5	高6.2			232-2
11	L-15	2-SD21	木製品・漆地下駄	ほぼ完形	長18.2	幅11.4	高5.1			232-1

第647図 SD21・23 出土遺物

遺物は土師質土器・中世陶器・鉄製品などを中心に約250点出土した。図化できたのは瀬戸産の合子・仏花瓶、常滑産壺、土師質土器小皿類、在地産の片口鉢などの土器類(第643図1～8)のほか、Ic-111陶甕(第643図9)、鉄釘や鉄貨(第646図)などである。土師質土器小皿はIa-45・46(4)・(5)のように器壁がやや薄く直線的に立ち上がるものと、Ia-48(6)のように底部が厚くやや突出するものがある。瀬戸産のIc-109合子とIc-106仏花瓶(第643図1・2)は本来IVb期の遺構に伴うものと考えられ、伝世品あるいは周辺の古い遺構からの流れ込みと考えられる。Ic-74片口鉢(第643図8)は器壁がかなり厚い特異なものである。産地は特定できないが還元炭焼成であるので須志器系の窯と推定される。

(2)掘立柱建物跡・柱列跡

この時期と考えられる建物跡はSB11～16までの6棟があり、このほかに柱列跡1条(SA1)も確認している。建物方向は真北から9°～12°東に振れている。

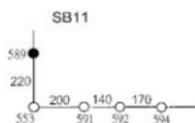
規模が判明あるいは復元できるのは、SB11～13の3棟である。SB11は区画の北東部に位置する小規模な建物跡であるが性格は不明である。SB12は2×3間の小規模な建物跡で、SB13も身舎の部分はSB12と同様の大きさであるが、東側に張り出しを持っている。

SB14は1区北側にある東西3間の建物と、1区中央部のSE1を囲む上屋が1間幅(柱間2.1m)の通路のような部分でつながった建物跡である。北側が1区・2区間の木漏壺部分と2区のSD18の存在によって不明なため全体がよく判らないが、東側にあるSB15が全く同じ方向であることからSB15も同一の建物の一部分である可能性もある。

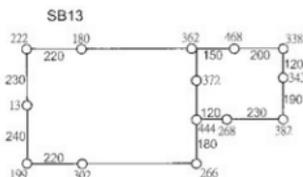
なお、SB16は南北方向の規模は不明であるが東西2間の小規模な建物跡で、SE6を取り込むような柱配置であるのでSE6の上屋である可能性がある。ただし、IVa2期のSB27も同様にSE6を取り込むような柱の配置であるので断定はできない。

SA1は1区で確認した「L」字状に屈曲する柱列跡である。柱間が3.6～3.7mと広いので建物ではなく1本柱列と推定したが北側の2区への延びは不明である。

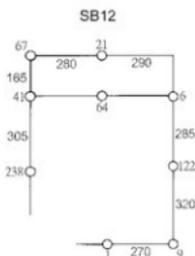
遺物はSA1から土師質土器器類が約30点出土したが、その他は土師器、須志器、土師質土器などが少量出土して



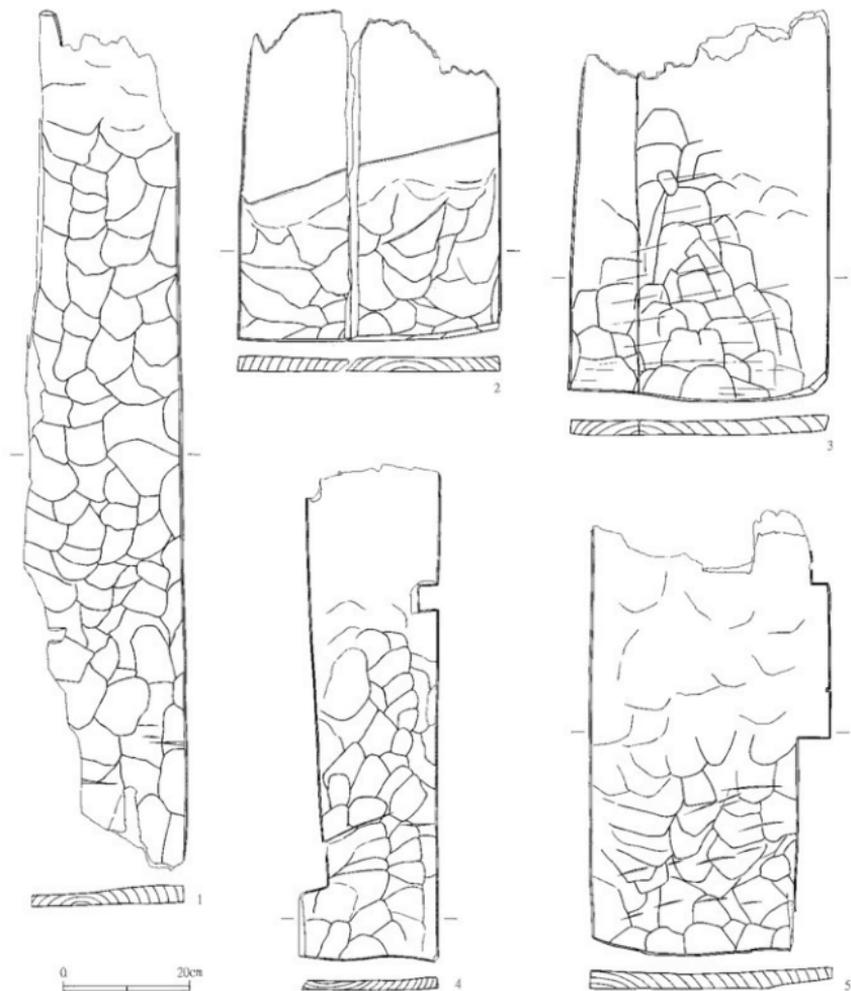
PthNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
594	Va	23	14	?
592	Va	27	18	?
591	Va	23	34	?
553	Va	29	21	?
589	Va	32×28	29	?
規模	東西5.1m+	1期+	南北3.2m+	1期+
柱間	1.4～2.0m		2.2m	
面積			積高	9°±



PthNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
222	SE6中層	26	?	?
180	Va	22	15	?
362	Va	26	19	?
468	Va	22	29	?
338	Va	18	8	?
343	Va	9	48	?
352	Va	24×44	19	?
266	Va	16×26	25	?
444	Va	34	?	?
265	Va	28	19	?
302	Va	38	12	?
199	Va	20	14	?
13	IVb	44	29	?
372	Va	26	10	?
規模	東西10.3m	南北4.7m		
身舎	桁行(3間)	身舎	桁行2間	
張り出し	2間			
柱間	身舎2.2～2.3m	身舎2.3～2.4m		
	張り出し1.5, 1.0～1.3m	張り出し1.2m・1.9m		
面積	42.2㎡	積高	9°±	



PthNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
67	Va	22	10	?
21	Va	26	18	?
6	IVb	26	33	?
122	Va	26	19	?
9	IVb	38	25	?
1	IVb	36	25	?
228	Va	20	11	?
41	Va	58	12	?
61	Va	40×30	5	?
規模	東西5.7m	南北2.7m		
張り出し	2間	桁行2間・北廻		
柱間	2.7～2.9m	身舎2.85～3.2m		
面積	43.9㎡	積高	9°±	

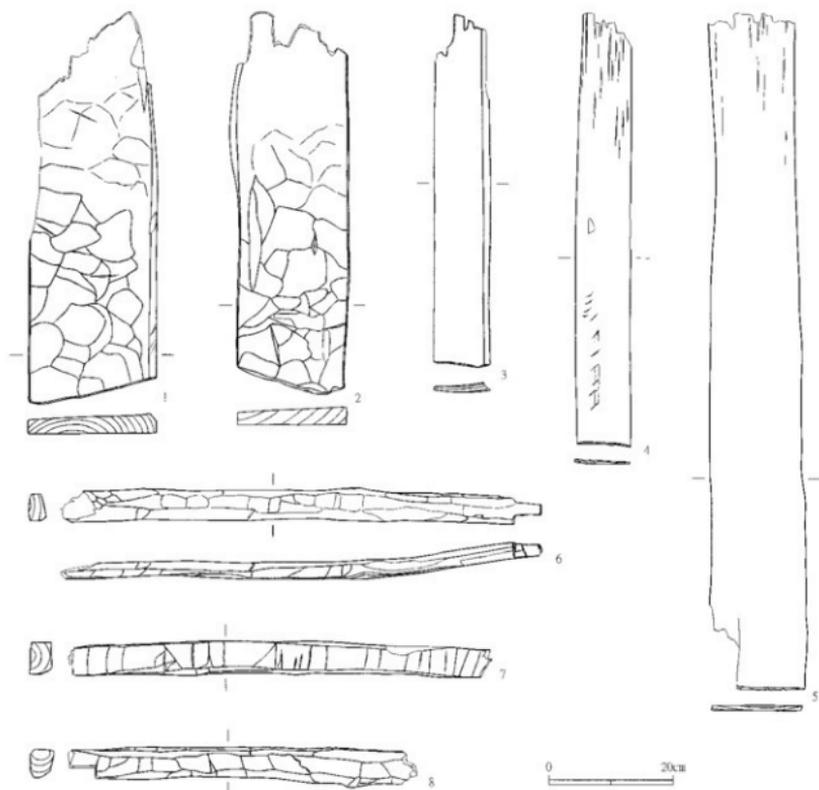


No.	登録No.	地区・遺構・部位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調型・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-30	1-SE6	木製品	井戸枠縦板	中央部	138.2+	21.8+	3.2	板目材	234-16
2	L-23	1-SE6	木製品	井戸枠縦板	端部のみ	53.2+	41.4	2.4	板目材	234-17
3	L-24	1-SE6	木製品	井戸枠縦板	端部のみ	52.4+	40.8	2.6	板目材	234-18
4	L-31	1-SE6	木製品	井戸枠縦板	端部のみ	78.0+	21.7	2.3	板目材、側面2方向に切り欠き	235-1
5	L-29	1-SE6	木製品	井戸枠縦板	端部のみ	71.0+	37.5	3.0	板目材、側面に切り欠き	235-2

第648図 SE6 井戸枠 (1)

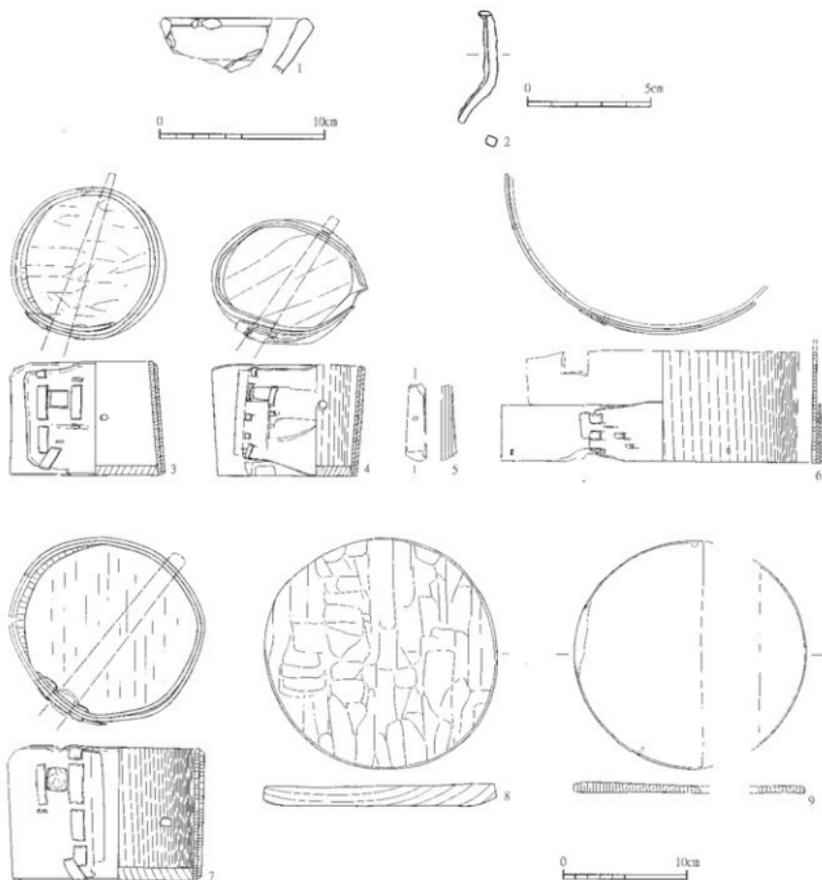
第4次調査4区で調査したSE10と同様の構造と推定される(註3)。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、金属製品、木製品など47点が出土した。図化できたのは東海産の片口鉢1点、鉄釘1点の他、柄杓などの木製品7点である(第650図)。柄杓L-1とL-6は柄の一部が残存していた。



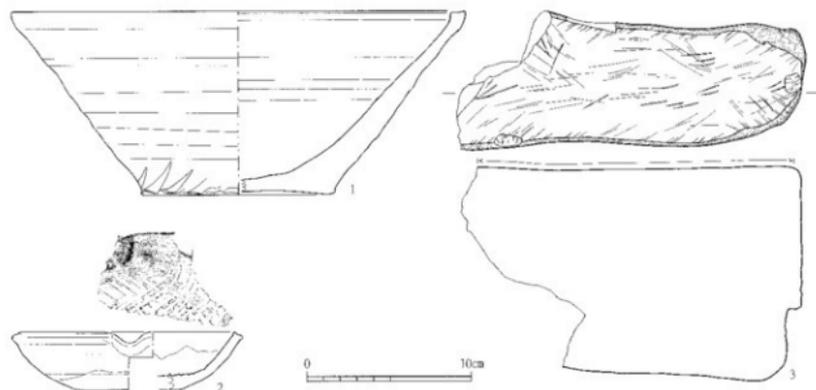
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量(cm)			調整・特徴	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-27	1-SF6	木製品	井戸枠板	端部のみ	64.4+	21.0	3.4	板目材	235-3
2	L-26	1-SE6	木製品	井戸枠板	端部のみ	62.7+	19.0	3.0	板目材	235-4
3	L-22	1-SF6	木製品	井戸枠板	端部のみ	53.0+	9.5	2.0	板目材	235-5
4	L-25	1-SE6	木製品	井戸枠板	端部のみ	70.7+	9.8	0.6	板目材	235-6
5	L-33	1-SE6	木製品	井戸枠板	端部のみ	112.2+	15.4	1.4	板目材	235-7
6	L-34	1-SE6	木製品	井戸枠板	端部欠損	78.4+	5.2	3.1	分割材	先端部切欠き 235-8
7	L-34	1-SE6	木製品	井戸枠板	4/5	68.8+	5.8	3.7	分割材	先端部切欠き 235-9
8	L-32	1-SF6	木製品	井戸枠板	3/5	56.4+	6.3	4.1	分割材	先端部切欠き 235-10

第649図 SE6 井戸枠(2)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	寸法 (cm)		調整・特徴	登録 図版
					口徑	底径		
1	1c-54	1-SF5	陶器(黑海)片1鉢	口縁部小片			口徑口縁部、底による種別重なり、山茶碗底系	234-8
2	Ne-109	1-SF5	鉄製品・釘	9/10	受5.0+	幅0.4	幅約0.5cm、屈曲、4g±	234-9
3	L-2	1-SB6	木製品・柄杓	容器部分	12.5		横皮糊じ、内面ケビキ、側板に柄の差込穴2箇所 内外面に楕円状の塗料付着	234-10
4	L-6D	1-SB5	木製品・柄杓	容器部分	10.2		横皮糊じ、内面ケビキ、側板に柄の差込穴2箇所 内外面に楕円状の塗料付着	234-11
5	L-6E	1-SF5	木製品・柄杓	柄の一部	長6.4	幅1.8	厚1.3	234-11
6	L-3	1-SB5	木製品・曲物	側板の一部	長11.6+	幅0.2~0.3		234-12
7	L-1	1-SB6	木製品・柄杓	容器部分と柄の一部	15.5		横皮糊じ、内面ケビキ、側板に柄の差込穴2箇所	234-13
8	L-13	1-SF5	木製品・桶?	底板のみ	18.8		厚1.8	234-14
9	L-12	1-SB6	木製品・曲物	底板、2分割	18.8		厚0.6~0.9	234-15

第650図 SE6 出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	図幅	遺存状況	法船 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	淵径		
1	Ic-49	3-SE1・1層	陶器(在地)片1鉢	1/4		(27.6)	(11.9)	11.4	内面→底面係直口クワ(白灰地)調整、体折ト盛ヘシナク 転倒面平子、内面→底面に灰白→褐色の自然釉、下土積	233-1
2	Ic-46	3-SE1・1層	陶器(古瀬戸)脚皿	1/7		(14.0)	(6.4)	3.6	灰釉、中土層	233-2
3	K-8	3-SE1	石製品・砥石	端部欠損	長21.4+	7.5~8.0	13.0		掘入量さき、3400g一、砂岩	233-3

第651図 SE1 出土遺物

(4) 土坑

土坑66基のうち重複関係などからIVa3期に属する可能性があるのは40基で、このうちIVa4期も含めて可能性のある34基についてはIVa4期の項で述べた。規模などの詳細は表142・143(238頁)のとおりである。

SK30(第636図) 1区南壁際のVa層上面で確認した。IVa4期のSB9に切られているのでそれよりも古い。楕円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は出土しなかった。

SK33(第636図) 1区中央部のVa層上面で確認した。IVa4期のSB3に切られているのでそれよりも古い。方形で壁は比較的急に立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器などが14点出土している。

SK41 1区北部のVa層上面で確認した。IVa4期のSB3に切られているのでそれよりも古い。円形と推定され、堆積土はIV層に類似している。遺物は出土しなかった。

SK57(第638図) 1区南部のVa層上面で確認した。IVa4期のSB5に切られているのでそれよりも古い。楕円形で壁は比較的急に立ち上がる。堆積土はIV層に類似している。遺物は出土しなかった。

SK80(第640図) 2区南壁際のIVa層上面で確認した。IVa4期のSD18Aに切られているのでそれよりも古い。楕円形と推定される。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器が1点出土している。

SK81(第640図) 2区南部のIVa層上面で確認した。IVa4期のSD18Aに切られているのでそれよりも古い。円形で浅く、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器などが13点出土している。

(註1) 掘立柱建物跡の建物方向と変遷との関係については総括の項(第7編)で触れる。

(註2) 1次調査10AIXで検出されたSD100Lの西側の建物SB1~4のうち1棟(SB4)はN-18°-Eであるが、SB1~3と柱列SA1の方向はN-10°~13°-Eである。

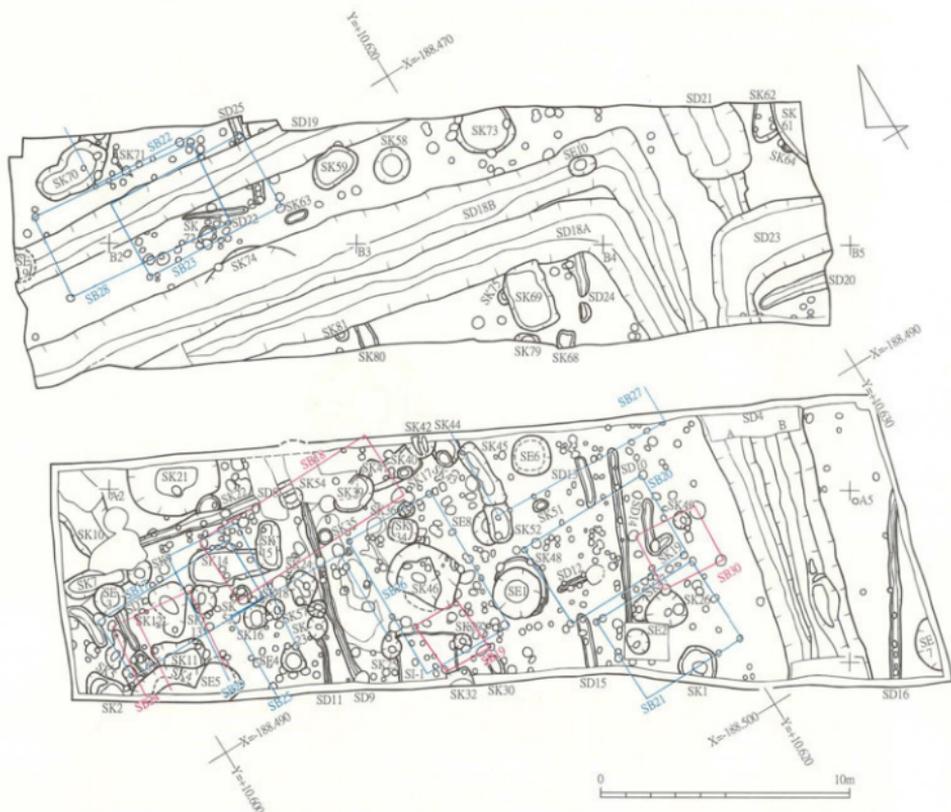
(註3) 第4次調査SE10は遺存状況が良好であったため構造が明らかになった。なお、4次-SE10は井戸底に倒板のみで底がない桶が設置されていたが、この2次-SE6については完掘できなかったため桶の有無は不明である。構造の詳細については第3編を参照。

第2節 IV層の遺構(2) -IVa1・2期

1. 遺構の概要

IVa2期は第1次調査で確認された城館の外堀SD1001が掘削される以前の段階である。今回の第2次調査区では2区で区画の堀跡であるSD18Bが確認されたが、これはその後IVa3期→IVa4期と変遷の中で造り替えられていく最初の段階の堀跡である。区画の内外では掘立柱建物跡、井戸跡、土坑などの遺構群が存在するが、前述したように時期を限定できる遺構は少ない。掘立柱建物跡は14棟検出されているが、建物方向は真北～真北から6° 東傾している。

IVa1期は大規模な「堀」が掘削される以前の段階である。第1次調査区では小規模な区画溝が検出されているが、第2次調査区では認められなかった。掘立柱建物跡11棟と柱列跡2条が検出されている。建物方向は真北から23～28° 東傾しているがこれは1次調査区の建物群とほぼ一致しており(註1)、「堀」が掘削される以前のこの時期は1次～2次調査区に及ぶ広い範囲において同じように建物方向が規制されていたと考えられる。



第652図 IVa2期 遺構平面図

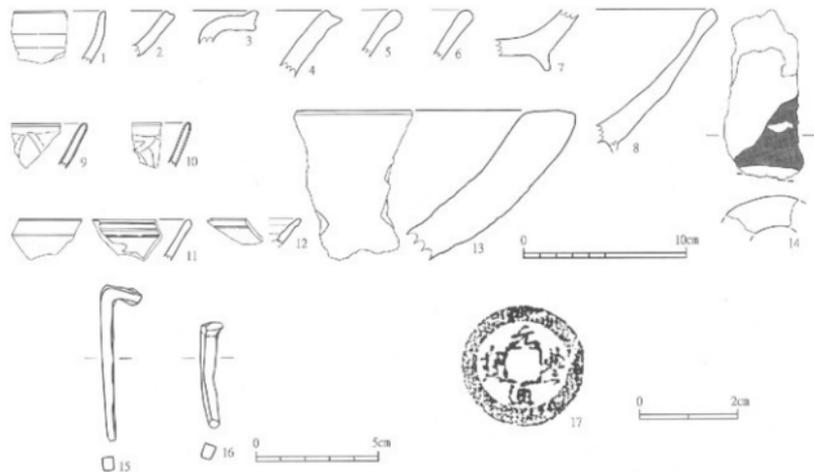
2. IVa2期の遺構

(1)溝跡

SD18B (第624・652図) 2区のIV層上面で確認した区画の堀跡で、「L」字状に屈曲している。1区では確認できなかったがSD4AやSD4Bに切られているためと考えられる。南側を並行して走るSD18Aによって南側の大部分の肩を築かれているので幅は明確ではないが概ね1.6~2.5m、断面形は上部が開く「U」字形で深さは1.0~1.2mである。堆積土は黒褐色シルトを中心とした自然堆積層である。方向は東西部分が $N-80^{\circ}-W$ 、南北部分が $N-8^{\circ}-E$ でほぼ直角である。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、中国産磁器、金属製品、石製品などの破片約250点が出土した。図化できたのは古瀬戸の天目茶碗や卍皿、常滑や東海地方産の甕や片口鉢、青磁碗、石鉢、鉄釘など17点である(第653図)。

SD18C (第624・652図) SD18AとSD18Bの間で部分的に確認できた溝跡であるが、大部分を切られているため詳細は不明である。遺物は須恵器、土師質土器、中世陶器などが12点出土している。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	図録	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	ic-108	2-SD18B	瓦葺(古瀬戸)天目茶碗	口縁小片					鉄軸、後1期	232-3
2	ic-107	2-SD18B	陶器(古瀬戸)卍皿	口縁~体部片					鉄軸、前IV期?	232-4
3	ic-95	2-SD18B	陶器(常滑)甕	口縁小片					ヨコナゲ、5型式	232-5
4	ic-102	2-SD18B	陶器(常滑)片口鉢	口縁小片					口縁口溝部	232-6
5	ic-93	2-SD18B	陶器(東海)片口鉢	口縁小片					口縁口溝部、山茶碗型	232-7
6	ic-92	2-SD18B	陶器(東海)片口鉢	口縁小片					口縁口溝部、山茶碗型	232-8
7	ic-91	2-SD18B	陶器(東海)片口鉢	底面小片					口縁口溝部、山茶碗型	232-9
8	ic-94	2-SD18B, SD21	陶器(東海)片口鉢	口縁~体部片					口縁口溝部、体部口溝部ヘラケズリ、西面下層層SD21出土の破片と接合、山茶碗型	232-10
9	J-27	2-SD18B	青磁(肥後)碗	口縁~体部片					瀬分文	232-12
10	J-28	2-SD18B	青磁(肥後)碗	口縁~体部片					瀬分文	232-13
11	J-26	2-SD18B	青磁(肥後)碗	口縁小片					瀬分文?	232-11
12	J-29	2-SD18B	白磁(中国)碗	口縁小片						232-14
13	K-17	2-SD18B	石製品・石鉢	部分					200g+、安山岩	232-15
14	P-4	2-SD18B	土製品・羽口	先端部小片	長10.5+					232-16
15	Na-139	2-SD18B	鉄湯草・釘	4号	長7.4+	幅0.5	厚0.6		断面、11号+	232-17
16	Na-138	2-SD18B	鉄湯草・釘	頭部~中央部	長4.4+	幅0.5	厚0.6		頭部幅0.3cm、6号+	232-18
17	Nb-26	2-SD18B	銅湯草・磁質	完形	径2.5		重3.0g		光巻通貫(北宋・初編10784)	232-19

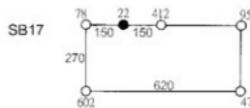
第653図 SD18B出土遺物

(2) 掘立柱建物跡

この時期と考えられる建物はSB17～30までの14棟がある。建物方向は真北～真北から6° 東に傾いているが、方向を詳細に見ると真北方向の5棟 (SB17～21)、真北から2～3° 東に傾く5棟 (SB22・23・25～27)、真北から5～6° 東に傾く4棟 (SB24・28～30) に分けられる。同方向の建物でも重複関係があるので (SB17とSB18、SB24とSB29) 必ずしも時期差を示すとはいえないが、真北方向を向く建物と真北から2～3° 東に傾く建物は並んで位置する傾向にあるのに対して真北から5～6° 東に傾く建物は他の傾きの建物とは並ばないことから後者はやや時期を異にする可能性がある。

規模は2×3間程度で面積も20～25㎡の小さなものが多い。梁行が3～4mで桁行の柱間が2m前後の建物は葺の可能性はあるが、大部分の建物の性格は不明である。なおSB27については前述したようにS6の上層である可能性がある。

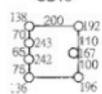
遺物はそれぞれの柱穴から土師器、須恵器、土師質土器、鉄製品などが数点～10数点出土しているが、柱痕跡と掘り方の区別ができたものは少ない。図化できたのはSB23の土師質土器Ia-41小皿、SB25の小札と礎、SB19・24・29の鉄釘などである (第654図9・21、第655図1・3・5・13～15)。SB25の小札Na-98・99・100は同じ柱穴 (P8) から出土したもので、Na-98は並札で2列13孔、Na-99は三目札で3列19孔、Na-100は四目札で2列14孔である。



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
78	Va	56	19	?
22	Va	22	23	10
413	Vb	28	27	?
95	Va	30	8	?
47	Va	34	37	?
602	Va	50	18	?

規模	東西6.2m	南北2.7m
桁間	桁行(4間)	梁行(1間)
柱間	1.5～1.6m	2.7m
面積	16.7㎡	傾き NS
備考	履?	

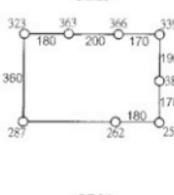
SB19



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
192	Va	24	17	?
167	Va	20	33	?
196	Va	25	38	?
136	須恵器	26	12	?
242	S16磁土	18	8	?
243	S16磁土	18	19	?
138	Va	34×20	18	?

規模	東西2.0m	南北2.1m、2.2m
柱間	2.0m	0.65～1.1m
面積	4.2㎡	傾き NS

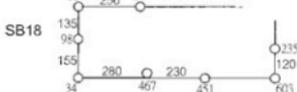
SB20



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
323	Va	22	12	?
363	Va	18	31	?
366	Va	16	11	?
339	Va	32	28	?
383	Va	24	14	?
258	Va	30	9	?
262	Va	25	8	?
267	Va	26	12	?

規模	東西5.5m	南北3.6m
桁間	桁行(2間)	梁行(2間)
柱間	1.7～2.0m	1.7～1.9m
面積	19.8㎡	傾き NS

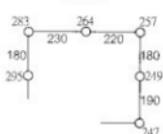
SB18



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
235	S16磁土	22	8	?
603	Va	40×53	31	?
451	S16磁土	20	6	?
467	Vb	18	24	?
34	Va	38	7	?
78	S16磁土	25	22	?
81	Va	30	32	?
94	Va	30	33	?

規模	東西7.9m	南北2.9m
桁間	桁行(2間)	梁行(2間)
柱間	2.3～2.5m	1.2～1.55m
面積	22.9㎡	傾き NS
備考	履?	

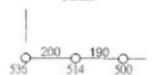
SB21



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
283	Va	29	9	?
264	Va	24	15	?
257	Va	26	14	?
219	Va	22	40	?
247	Va	20	30	?
295	Va	36	28	?

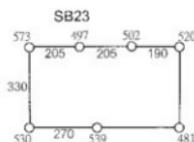
規模	東西5.5m	南北3.7m
桁間	桁行(2間)	梁行(2間)
柱間	2.2～2.5m	1.8～1.9m
面積	16.7㎡	傾き NS

SB22

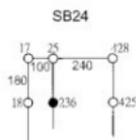


PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱径径
535	Va	22×25	?	?
514	Va	30	21	?
530	Va	33	23	?

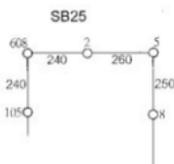
規模	東西3.9m	1.2間+
柱間	1.9～2.0m	
面積		傾き 3E



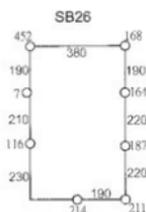
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
573	SD3底面	29	28	?
497	Va	20	28	?
502	Va	53	51	?
520	SD2底面	24	13	?
481	Va	37	28	?
539	Va	35	40	?
530	Va	25	31	?
規模		東西6.0m	南北3.3m	
柱間		1.9~2.05m	1.65~3.3m	
面積		19.8㎡	続き 3'±	
備考 P481底面に提板代わりの様				



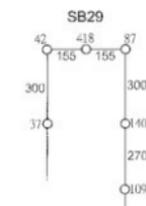
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
17	Va	30×50	24	?
25	Va	20	28	?
428	Va	32	24	?
425	Vb	34	30	?
236	SK11底面	28	23	10
18	Va	34	33	?
規模		東西3.4m	南北1.8m+	
柱間		身舎1間、西側1間+		
面積		身舎2.4㎡、西側1.0㎡	1.8㎡	
備考 城壁 6'±				



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
105	Va	34	31	?
608	Vb	40	30	?
2	IVb	64	22	?
5	IVb	52	35	?
8	IVb	44	48	?
規模		東西5.0m、2間	南北2.4m+、2間+	
柱間		2.4~2.6m	2.2~3.5m	
面積			続き 2'±	

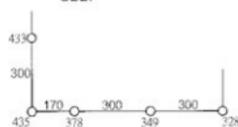


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
452	SK1底面	22	5	?
168	Va	22	29	?
164	Va	22×30	23	?
187	Va	22	9	?
211	Va	36	41	?
214	Va	30	25	?
116	Va	50	8	?
7	IVb	24	30	?
規模		東西3.8m	南北6.3m	
柱間		1.9m	1.9~2.3m	
面積		23.9㎡	続き 2'±	
備考 P2:1底面に提板代わりの様				



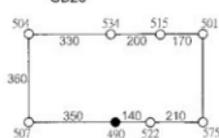
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
37	Va	26	26	?
42	Va	26	21	?
418	Vb	16	30	?
87	Va	18	21	?
140	Va	18	29	?
109	Va	30	10	?
規模		東西3.1m	南北5.7m+	
柱間		1.55m	1.7~2.2m+	
面積		17.7㎡	続き 6'±	

SB27



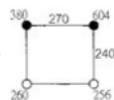
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
328	Va	20	16	?
349	Va	26	16	?
378	Va	18	14	?
435	SK5底面	24	14	?
433	SK45底面	14	17	?
規模		東西7.7m	南北3.0m+	
柱間		身舎3.0m、廊1.7m	3.0m	
面積			続き 2'±	

SB28

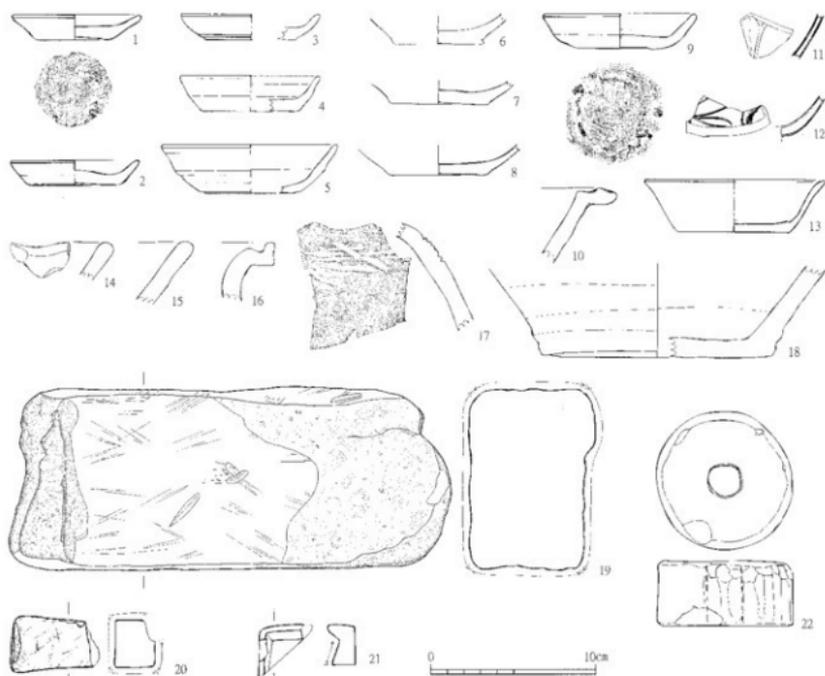


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
504	Va	27	75	?
534	Va	21	25	?
515	Va	23	28	?
501	Va	30	44	?
575	Va	25	10	?
507	Va	33	19	?
490	Va	28×36	15	11
522	Va	19	29	?
規模		東西7.0m	南北3.6m	
柱間		1.4~2.1m	1.8~3.6m	
面積		25.2㎡	続き 5'±	

SB30

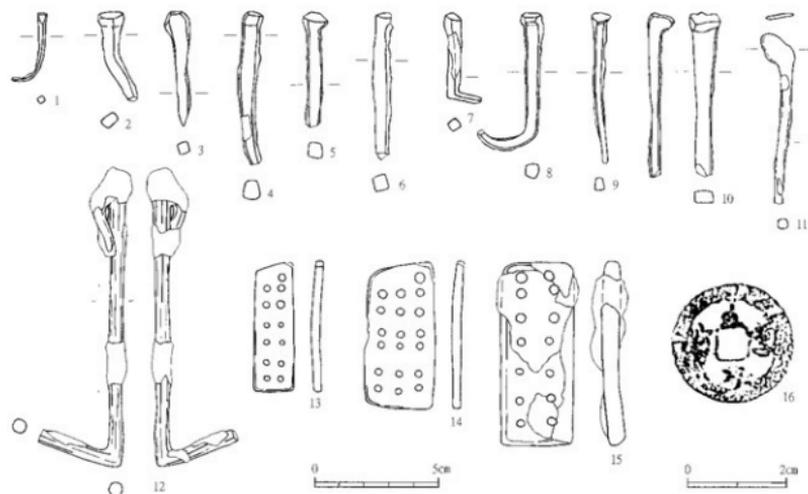


PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
380	Va	44	21	14
604	Va	54×78	20	24
256	Va	46	15	?
260	Va	38	46	?
規模		東西2.7m、1間	南北2.4m、1間	
柱間		2.7m	2.4m	
面積		6.5㎡	続き 1'±	



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	Ia-24	1-P35 (SB36)	土師質上部・小皿	3/4	7.8	4.5	1.6	ロク口調整、底部平坦、縁部斜切、硬質	239-4
2	Ia-12	2-P548	土師質土器・小皿	1/5	(7.8)	(5.8)	1.5	ロク口調整、底平坦、内面直縁ナデ、硬質、口縁少量	239-5
3	Ia-25	1-P310	土師質土器・小皿	1/5	(8.4)	(5.4)	1.6	ロク口調整、斜切	239-6
4	Ia-26	1-P310	土師質上部・小皿	1/4	(8.5)	(5.8)	2.2	ロク口調整、縁部一ナデ	239-7
5	Ia-30	1-P310	土師質土器・皿	1/6	(10.6)	(6.0)	3.0	ロク口調整、底部斜切、硬質	239-8
6	Ia-27	1-P201 (SA1)	土師質上部・皿	下部		5.5		ロク口調整、底部平坦、内面直縁ナデ	239-9
7	Ia-29	1-P202	土師質土器・皿	下部		6.1		ロク口調整、底部平坦、内面直縁ナデ、硬質	239-10
8	Ia-28	1-P201 (SA1)	土師質土器・皿	下部		6.1		ロク口調整、底部平坦、内面直縁ナデ、硬質	239-11
9	Ia-41	2-P300 (SB23)	土師質上部・小皿	完整	9.0~9.5	5.7	2.1~2.3	ロク口調整、底部平坦、内面直縁ナデ、硬質	239-12
10	Ic-64	1-P195 (SB45)	陶器(灰黒土)片鉢残片	片鉢残小片				灰黒土、内面に底縁の痕跡、中IV層	240-1
11	Ic-17	1-P222 (SB13)	青磁(楽楽系)片鉢	片鉢小片				底弁文	239-13
12	Ic-16	1-P16	青磁(楽楽系)片鉢	片鉢小片				底弁文	239-14
13	Ic-4	1-A3・IV層 P16	白磁(中国)口茶碗	1/4	(11.1)	(6.8)	3.2	新花文	239-15
14	Ic-38	1-P407	陶器(東海)貝1鉢	口縁部小片				ロク口調整、山菜陶系	240-2
15	Ic-61	1-P340	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				ロク口調整、山菜陶系	240-3
16	Ic-62	1-P294	陶器(常滑)甕	口縁部小片				11コナデ、5型式	240-4
17	Ic-97	2-P566 (SB1)	陶器(常滑)甕	口縁部小片				ナデ、外面にヘラ掻き	240-5
18	Ic-63	1-P273	陶器(常滑)甕	底部1/2		14.0		ナデ	240-6
19	K-11	1-P10 (SB5)	石製品・砥石	完整	長26.0	幅11.0	厚7.9	据え置式、4200g、デイスait	240-7
20	K-14	2-P566	石製品・砥石	破断欠損	長5.4+	幅2.8~3.5	厚2.4	61g+、デイスait	240-8
21	K-10	1-P5 (SB25)	石製品・砥石	部分	長3.3+	幅3.2+	厚1.4+	16g+、磨取質良好	240-9
22	P-2	2-P523	土製品・土埴	完整	径8.2~8.5		厚4.0	ナデ、孔径1.9cm、300g	240-10

第654図 掘立柱建物跡、ピット出土遺物 (1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(用途) 図様	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Na-93	1-P196 (SB19)	鉄製品・釘	ほぼ完形	2.9	0.3	0.3	1g	240-11
2	Na-91	1-P95 (SB12)	鉄製品・釘	4/5	3.8	0.4	0.7	頭部幅1.1cm, 5g	240-12
3	Na-96	1-P17 (SB24)	鉄製品・釘	完形	4.8	0.5	0.5	頭部幅1.1cm, 7g	240-13
4	Na-95	1-P110 (SB4)	鉄製品・釘	9/10	6.4+	0.7	0.8	10g+	240-14
5	Na-92	1-P140 (SB29)	鉄製品・釘	4/5	4.8+	0.6	0.7	頭部幅1.1cm, 7g	240-15
6	Na-94	1-P225	鉄製品・釘	4/5	6.2+	0.6	0.7	7g+	240-16
7	Na-101	1-P310	鉄製品・釘	ほぼ完形	4.6	0.3	0.5	幅: 3g	240-17
8	Na-103	1-P310	鉄製品・釘	ほぼ完形	7.5+	0.6	0.6	頭部幅0.5cm, 閉曲, 8g	240-18
9	Na-104	1-P310	鉄製品・釘	ほぼ完形	6.3+	0.4	0.6	頭部幅0.8cm, 5g+	240-19
10	Na-102	1-P310	鉄製品・釘	4/5	6.9+	0.8	0.5	頭部幅1.2cm, 13g+	240-20
11	Na-163	2-PS46 (SB40)	鉄製品・用途不明	頭部欠損	7.1+	0.4~1.2	0.1~0.4	頭部扁平	240-21
12	Na-97	1-P198	鉄製品・針金と止め金	ほぼ完形	12.6	0.6	0.6	頭部環状・環状部に別の金具が取り付く、先端部「L」字状	240-22 310-5
13	Na-98	1-P8 (SB25)	鉄製品・小札	ほぼ完形	5.4	1.8	0.1	並列3列13孔、縦の穴と毛立の穴径3mm、下側の穴径2mm, 8g	240-24 310-8
14	Na-99	1-P8 (SB25)	鉄製品・小札	ほぼ完形	6.2	2.9	0.4	三目札, 3列9孔、縦の穴と毛立の穴径3~4.5cm 下側の穴径2.5~3mm, 14g	240-23 310-9
15	Na-100	1-P8 (SB25)	鉄製品・小札	ほぼ完形	7.8	3.1	0.8	四目札, 2列14孔、縦の穴と毛立の穴径4mm, 下側の穴径3mm, 46g	240-25 310-10
16	Na-39	2-PS64 (SB1)	銅製品・鏡背	完形 (3分型)	2.5		2.4g	至道通寶(北条・初建995年)	240-26

第655図 掘立柱建物跡、ピット出土遺物(2)

(3) 井戸跡

この時期の可能性のあるSE2・3・6・7についてはIVa3・4期の項で述べた。

(4) 土坑

土坑66基のうち重複関係などからIVa2期に属する可能性があるのは43基で、42基についてはIVa3・4期の項で述べた。規模などの詳細は表142・143 (238頁) のとおりである。

SK22 (第635図) 1区西部のVa層上面で確認した。IVa3期のSB12に切られているのでそれよりも古く、Va~IVa2期と推定した。楕円形で浅く、壁は比較的急に立ち上る。堆積土下層に炭化物を多く含んでいる。遺物は出土しなかった。

3. IVa1期の遺構と遺物

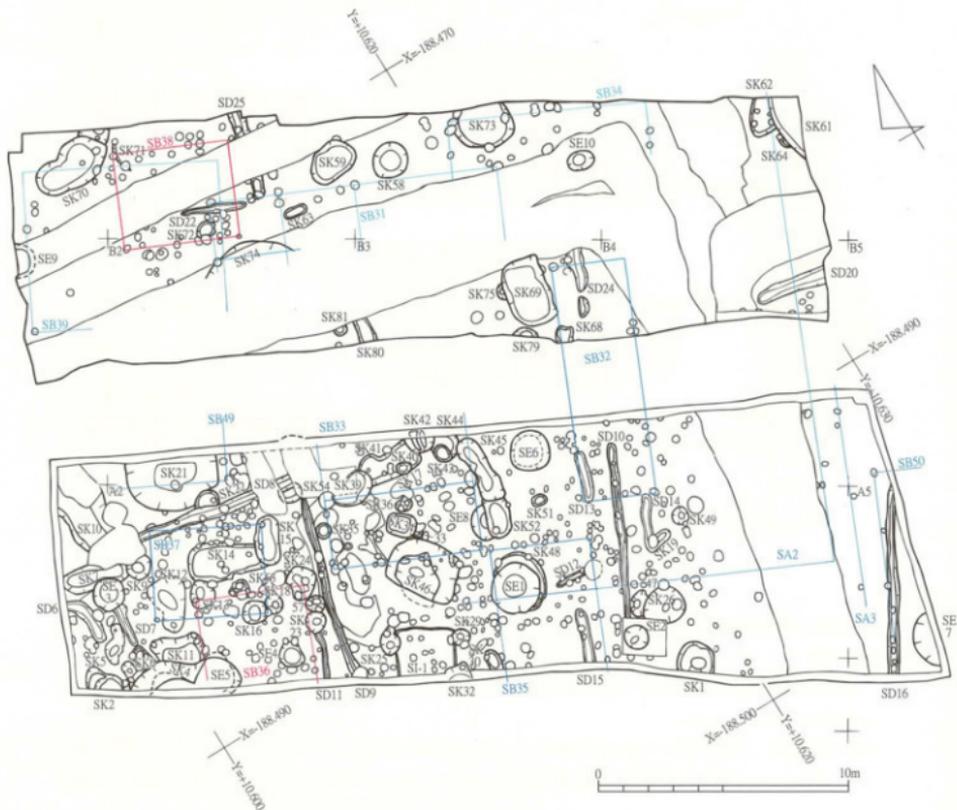
(1)掘立柱建物跡・柱列跡

この時期と考えられる建物跡はSB31～39・49・50の11棟で、この他に柱列跡が2条検出されている。建物方向は真北から23°～28°東に傾いているが、方向を詳細に見ると真北から23°～24°東に傾く7棟 (SB31～33・35・36・38・50)と真北から26°～28°東に傾く4棟 (SB34・37・39・49)に分けられる。柱列跡は真北から24°東に傾くので前者に含まれる。同方向の建物跡は一部で重複関係があるもの (SB31とSB38、SB35とSA2)、並んで位置する傾向があることから近い時期の建物跡である可能性が高い。

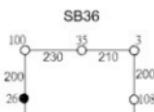
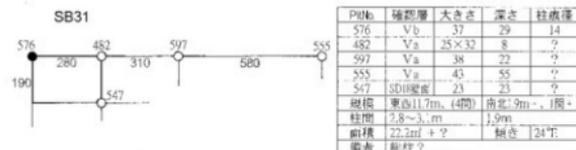
規模はSB37・38のように2×3間程度で面積が17～18㎡の小さなものが多いが、SB33のように東西長が6mで掘り方がやや大きな建物跡もある。このSB33は西側の柱列がSB31の西から1間目の梁行とほぼ一致することからSB31と同一の建物跡である可能性があり、この場合は南北15.5mの大きな建物跡となる。また、梁行1間 (柱間3m)で桁行4間と推定されるSB32は既の可能性が高い。

SA2は上記のSB31～SB33を囲むように「L」字状に屈曲する柱列跡で、南北18m、東西15mを確認している。

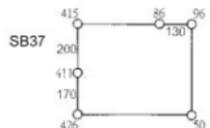
遺物はSB36から土師質土器皿類などが約50点出土しているが、その他はそれぞれの柱穴から土師器、須恵器、土



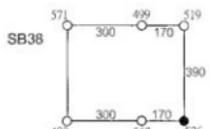
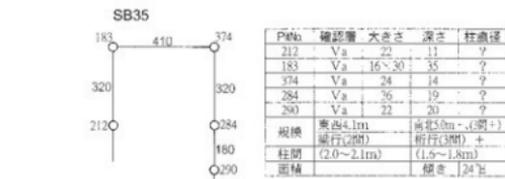
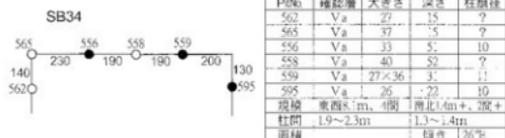
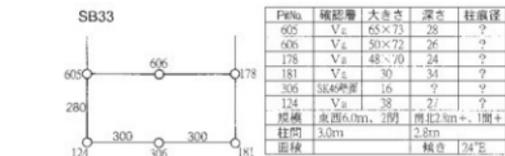
第656図 IVa1期 遺構平面図



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
26	Va	40	15	15
100	SKI被面	24	17	?
35	Va	22×36	7	?
3	IVb	28	36	?
108	Va	14	22	?
規模	東西4.4m、2間	南北2.0m、1.2間+		
柱間	2.1~2.3m	2.0m		
面積		積否	23°E	



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
415	Vb	30×40	26	?
86	Va	24	12	?
96	SKI被面	18	17	?
50	Va	30	31	?
426	Va	20	24	?
411	Va	22	49	?
規模	東西4.6m	南北3.7m		
柱間	1.3~1.7m	1.7~2.0m		
面積	17.0㎡	積否	28°E	



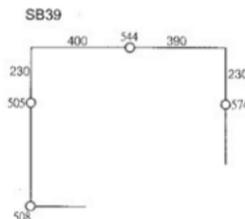
PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
571	Vb	28	29	?
499	Va	28	11	?
519	Va	22	12	?
526	Vb	22	13	?
567	Vc	30	46	?
488	Va	26	33	?
規模	東西4.7m	南北3.9m		
柱間	(1.5~1.7m)	船行(2間)		
面積	18.3㎡	積否	22°E	

師質土器、中世陶器などが数点ずつ出土しているのみである。SB36の土師質土器小皿1点が図化できた(第654図1)。

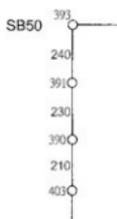
(3)井戸跡

他の遺構との重複関係からSE4・SE10がIVa1期の可能性がある。この他にこの時期の可能性があるSE2・3・7についてはIVa4期の項で述べた。

SE4(第629図)1区南西部のVa層上面で確認した。IVa2期のSB25に切られているのでそれよりも古い時期と考えられ、遺物を含めて考えるとIVb~IVa1期と推定される。径90~110cmと小規模で、深さも1mと浅い。堆積上は暗褐色



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
508	Va	28	20	?
505	Va	30	12	?
544	Vb	35	34	?
574	Vb	27×31	21	?
規模		東西7.9m	南北6.5m	
		新行(2間)	薬行(2間)	
柱間		3.9~4.0m	2.3・4.2m	
面積		51.4㎡	積き	28°



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
393	Va	24	26	?
391	Va	18	10	?
390	Va	24	34	?
403	SD16積	22	11	?
規模		南北6.8m+	3間+	
柱間		2.1~2.4m	積き	24°E

SB49



PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
57	Va	34	46	?
14	Vb	38	34	?
63	Va	26×40	12	?
規模		東西4.7m+	2間+	
柱間		2.2~2.5m	積き	28°

SA2

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
509	Va	22×32	32	?
400	Va	38	19	?
395	Va	18	36	?
254	Va	22	26	?
269	Va	22	26	?
311	Va	30	?	?
461	Va	24	22	?
規模		東西15.0m+	南北18.0m+	
		(5間) +	(6間) +	
柱間		2.8~3.2m	3.0~3.1m	
傾き		65°W	24°E	

SA3

PtNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
398	SD16積	24	1	13
392	SD16積	22	18	?
389	Va	22	32	?
規模		南北7.3m+		
柱間		3.5~3.7m	積き	24°

粘土質シルトである。遺物は土師質土器や中世陶器などが約60点出土し、陶器3点が図化できたがIc-47(3)は混入品と考えられる(第631図3~5)。
SE10 2区東部のSD18B底面で確認した。SD18BはIVa2期の区画の塼と推定されるのでSE10はそれよりも古く、IVb~IVa1期頃と推定される。残存していた大きさは表141(224頁)のとおりであるが、上部が失われているので本来の大きさは不明である。遺物は出土しなかった。

(4)土坑

土坑66基のうち重複関係などからIVa1期に属する可能性があるのは45基で、このうち37基についてはすでにIVa2~4期の項で述べた。規模などの詳細は表142・143(238頁)のとおりである。

SK6 1区南西部のVa層上面で確認した。IVa2期のSB24に切られているのでそれよりも古く、Va~IVa1期と推定した。方形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土は単層である。遺物は須恵器片が1点出土している。

SK26 1区南東部のVa層上面で確認した。IVa2期のSB30に切られているのでそれよりも古く、遺物も考慮してIVb~IVa1期と推定した。楕円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は須恵器、土師質土器が8点出土している。

SK40(第637図) 1区北壁際線のVa層上面で確認した。IVa2期のSB18に切られているのでそれよりも古く、遺物も考慮してIVb~IVa1期と推定した。方形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土は単層である。遺物は土師質土器などが約20点出土している。

SK52(第638図) 1区北部のVa層上面で確認した。IVa2期のSB27に切られているのでそれよりも古く、遺物も考慮してIVb~IVa1期と推定した。楕円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器などが4点出土している。

SK72(第639図) 2区西部のVa層上面で確認した。IVa1期のSB38を切り、IVa2期のSB23に切られているのでIVa1~2期と推定される。楕円形で、堆積土はIV層に類似している。遺物は出土しなかった。

SK74(第640図) 2区西部のVa層上面で確認した。IVb1期のSB44を切り、IVa2期のSD18Bに切られているのでIVb2~IVa1期と推定される。南側の大部分をSD18によって切られているため平面形や規模はよく判らないが、径4m近い円形と推定される。堆積土は2層に分層される。遺物は土師質土器などが35点出土し、白磁土-30口皿瓦が図化できた(第641図4)。

(註1) 1次調査区のIVa1期の建物は大部分が真北から17~28°東に傾いている。

第3節 IV層の遺構 (3) - IVb2期

1. 遺構の概要

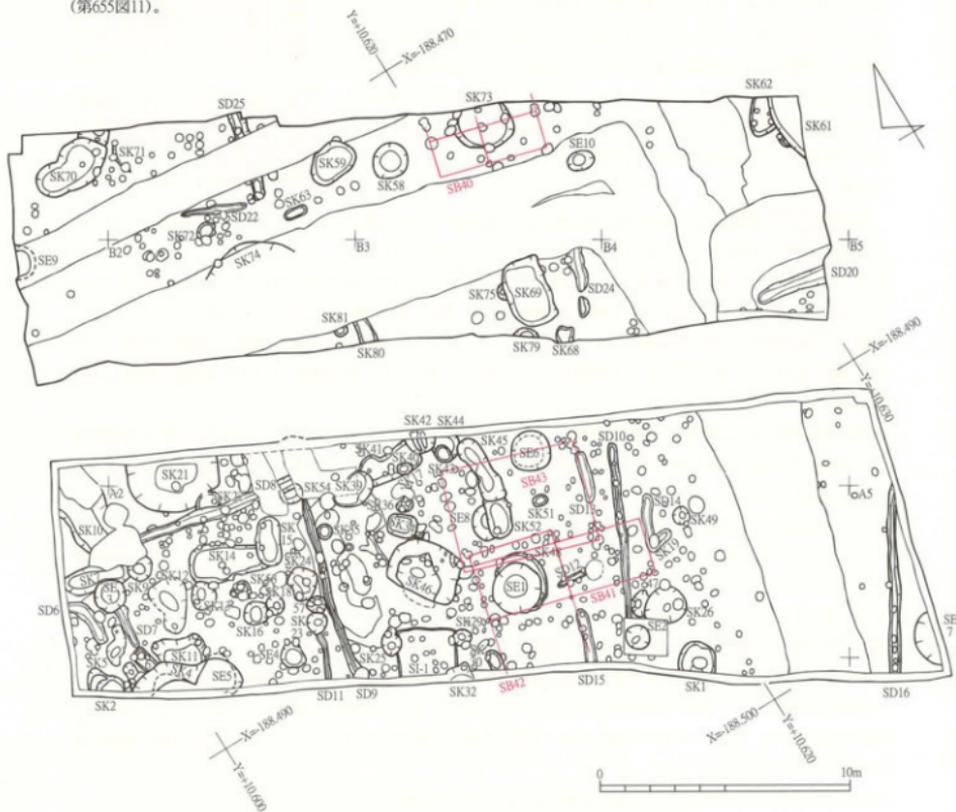
第1次調査ではIVb層上面が中世前半の遺構確認面であったが、今回の第2次調査区ではIVb層の分布が部分的であり、層位的に確認することはできなかった。IVb2期とした遺構は重複関係からこの時期と推定されたものの他、第1次調査のIVb2期の建物群と同じく建物方向が真北から15°~17°東に傾く掘立柱建物跡である(註1)。

2. 遺構と遺物

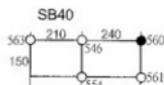
(1) 掘立柱建物跡

この時期と考えられる建物はSB40~43の4棟である。建物方向は真北から15°~17°東に傾いている。規模はSB41が1間×推定4間で16m²程度と小さく、SB43がそれよりも一回り大きい。

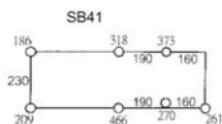
遺物はそれぞれの柱穴から土師器、須恵器、土師質土器などが少量出土し、SB40の鉄製品Na-163が図化できた(第655図11)。



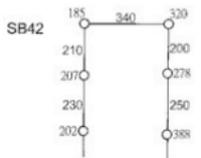
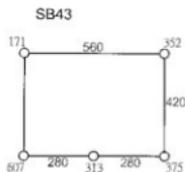
第657図 IVb2期 遺構平面図



PNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
563	Va	49	18	?
546	Va	25×41	20	?
560	Va	33	22	9
561	Va	46	50	?
554	Va	27	35	?
規模	東西4.5m、2間		南北1.5m、1間	
柱間	2.1~2.4m		1.5m	
面積	縦向き 16'E			



PNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
201	Va	22	16	?
270	Va	26	28	?
466	Vb	22	16	?
209	Va	22	24	?
186	Va	14	17	?
318	Va	16	15	?
373	Va	20	15	?
規模	東西7.0m		南北2.3m	
歩行(4間)	歩行1間			
柱間	1.6~1.9m		2.3m	
面積	横向き 16'E			



PNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
202	Va	26	7	?
207	Va	22	16	?
185	Va	30	38	?
330	Va	8	17	?
278	Va	20	22	?
388	Va	15×23	9	?
規模	東西3.4m		南北4.5m±	
歩行(2間)	歩行1間+			
柱間	3.4m		2.0~2.5m	
備考	既? 横向き 15'E			

PNo	確認層	大きさ	深さ	柱直径
171	Va	26	19	?
352	Va	26	12	?
375	Va	32	34	?
313	Va	30	21	?
607	Va	50×63	9	?
規模	東西5.6m		南北4.2m	
歩行(2間)	歩行1~2間			
柱間	2.8m		(2.1~4.2m)	
面積	横向き 17'E			

(2)井戸跡

重複関係からSE5・SE8がIVb2期の可能性がある。この他にこの時期の可能性のあるSE3・4・7・10についてはIVa~4期の項で述べた。

SE5 (第629図) 1区南西部のVa層上面で確認した。IVa期と考えられるSK4に切られていることと中世の遺物が多く出土していることからIVb期と推定される。壁際に位置するため規模は明確ではないが、径1.9mの円形と推定される。堆積土は黒色粘土土であるが上層は掘りなおされている可能性がある。遺物は土師器、須恵器、七師質土器、中世陶器などが79点出土し、滷美産の壺や在地の鉢、土師質土器皿類、曲物、鉄釘などが固化した(第658図)。

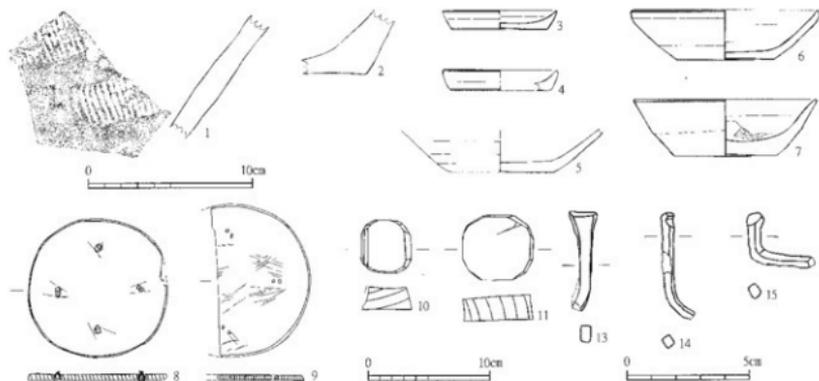
SE8 (第629図) 1区中央部のSK52底面~Va層上面で確認した。SK52よりも古いことが明らかであるが、SK52がIVa2期のSB27に切られていることと中世の遺物が出土していることからIVb~IVa1期と推定されるので、SE8はそれよりも古い時期のIVb期頃と考えられる。規模は表141(224頁)のとおりで、上層の堆積土は黒褐色粘土土を主とする自然堆積層であるが、下層は危険防止のため半裁しなかったので分層できなかった。遺物は須恵器、土師質土器、中世陶器などが17点の他、薄い木屑が多く出土している(写真図版235-13)。

(4)土坑

土坑66基のうち重複関係などからIVb2期に属する可能性があるのは52基で、このうち43基についてはすでにIVa~4期の項で述べた。規模などの詳細は表142・143(238頁)のとおりである。

SK11 (第633図) 1区南西部のVa層上面で確認した。IVa1期のSB36に切られているのでそれよりも古く、Va~IVa1期と推定した。方形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土は自然堆積層で炭化物を多く含んでいる。遺物は出土しなかった。

SK13 (第635図) 1区西部のVa層上面で確認した。IVa1期のSB36に切られているのでそれよりも古く、中世の遺物を多く含むことからIVb期と推定した。積円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土は2層に分層される。遺物は土師質土器皿類を中心に80点出土し、滷美産の壺、土師質土器皿類、鉄貨などが固化した(第634図2~4・9)。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	Ia-48	1-SES	陶器(陶美) 器	体部小片				横状押印	233-9
2	Ia-50	1-SES	陶器(在土) 片口鉢	底部小片				口クロ調整、調整、内面磨滅	233-10
3	Ia-17	1-SES	土師質土器・小皿	1/4	(7.0)	(5.9)	1.2	口クロ調整、糸切、ナデ、焼貫	233-11
4	Ia-18	1-SES	土師質土器・小皿	1/8	(7.0)	(6.3)	1.3	口クロ調整、糸切	233-12
5	Ia-10	1-SFS	土師質土器・皿	下部のみ		6.4		口クロ調整、裏面調整糸切、内面中心部ナデ、白粉撒き	233-13
6	Ia-12	1-SES	土師質土器・皿	1/3	()	6.0	3.1	口クロ調整、裏面調整糸切、内面中心部ナデ、白粉撒き	233-14
7	Ia-11	1-SES	土師質土器・皿	1/2	()	6.4	3.6	口クロ調整、裏面調整糸切、内面中心部ナデ、白粉撒き	233-15
8	L-11	1-SES	木製品・曲物	底板のみ	径11.4		厚0.5	縦じ穴2×4箇所、縦じ紐も4箇所残存 内面に側板の厚残存(径約7cm)	234-1
9	L-10	1-SES	木製品・曲物	底板のみ	径12.6		厚0.4	縦じ穴2×3箇所残存、縦じ紐一部残存	233-16
10	L-8	1-SES	木製品・曲物	底板のみ	径10-14		厚1.7		234-2
11	L-9	1-SES	木製品・曲物	底板のみ	径13-15		厚2.0		234-3
12	L-5	1-SFS	木製品					写真のみ	234-4
13	Na-106	1-SES	鉄製品・釘	2/3	長1.1	幅0.4		頭部幅1cm、7g+	234-5
14	Na-108	1-SES	鉄製品・釘	4/5	長1.7+	幅0.4		頭部幅3g+	234-6
15	Na-107	1-SES	鉄製品・釘	頭部~中央部	長1.0+	幅0.4		頭部幅0.7cm、幅曲、4g+	234-7

第658図 SE5 出土遺物

土師質土器はIa-21小皿(第634図3)が口クロ調整で静止糸切、Ia-22皿(第634図4)が手づくね成形で丸底のタイプで、2区のSK75から多数出土したものと共通する。

SK16(第635図) I区西部のVa層上面で確認した。Iva1期のSB37に切られているのでそれよりも古く、中世の遺物を多く含むことからIVb期と推定した。円形で壁は比較的急に立ち上る。堆積土層中に炭化物を多く含んでいる。遺物は土師質土器皿類を中心に26点出土し、手づくね成形で丸底の土師質土器Ia-23皿と鏡袋が図化できた(第634図5・10)。

SK18(第635図) I区西部のVa層上面で確認した。SK16と同じくIva1期のSB37に切られているのでそれよりも古く、中世の遺物を多く含むことからIVb期と推定した。円形で壁は比較的急に立ち上る。堆積土は炭化物を多く含んでいる。遺物は土師質土器皿類を中心に21点出土したが図化はできなかった。

SK21(第635図) I区北西部壁際のVa層上面で確認した。Iva1期のSB49に切られているのでそれよりも古く、中世の遺物を多く含むことからIVb期と推定した。長軸3.7mの楕円形で深さは約1.7mと深い。壁は急角度で立ち上るが上半部は大きく開く。堆積土は黒色や黒褐色の粘土・粘土質シルトの互層であるが間に灰の層を挟んでいる。遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器、金属製品、石製品、木製品、鉄滓など116点とウマの骨などが出土した。図化できたのは在地産の片口鉢1点、砥石1点、鉄製品2点、篋塚1点である(第659図)。L-4軒塔婆は作業の際に頭部を削ってしまい欠損しているが、頭部は三角形と推定される。片面にのみ墨書が認められる。

SK24(第636図) I区西部のVa層上面で確認した。Iva1期のSB36に切られているのでそれよりも古く、中世の遺物

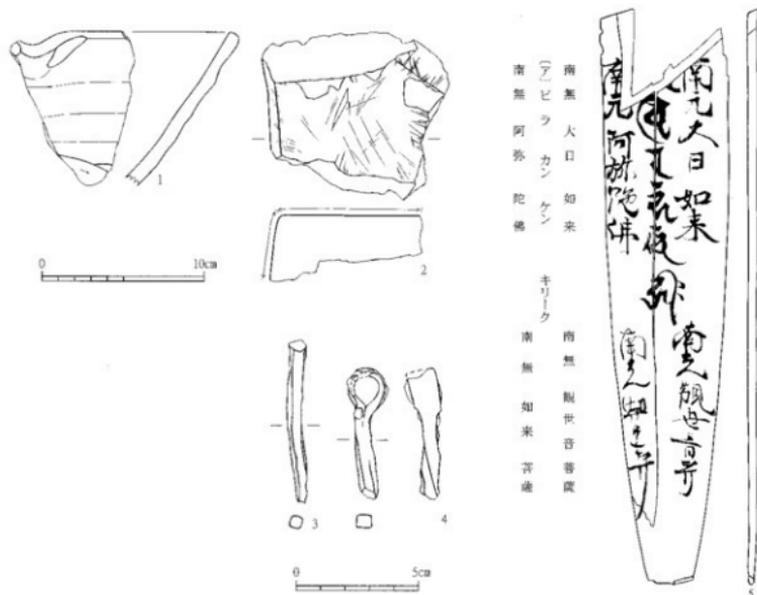
を多く含むことからIVb期と推定した。不整形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器皿類を中心に40点以上出土し、手づくね成形で丸底のIa-19皿が図化できた(第634図6)。

SK47(第638図) 1区東部のVa層上面で確認した。IVb~IVa1期のSK26に切られているのでそれよりも古く、中世の遺物を多く含むことからIVb期と推定した。楕円形で中央部のみが深い。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師質土器皿類を中心に250点以上出土し、ロクロ調整のIa-20皿と鉄釘点が図化できた(第641図1・9)。

SK53(第638図) 1区西部のVa層上面で確認した。IVa1期のSB36に切られているのでそれよりも古く、Va~IVb期と推定した。不整形形で壁は比較的急に立ち上る。堆積土はVa層に類似している。遺物は土師器片が42点出土している。

SK71(第639図) 2区北西部のVa層上面で確認したがプランを確定できたのが西側のみであるので全体の形態は不明である。IVa1期のSB38・39に切られているのでそれよりも古く、中世の遺物を含むことからIVb期と推定した。堆積土はIVb層に類似している。遺物は須恵器、土師質土器が3点出土している。

(注1) 第1次調査区のIVb2期の建物群の方向はN-13°~21°-Eである。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量(cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Ic-58	1-SK21	陶器(灰地)	片口鉢	口縁~体部中 部分	9.7+	11.2+	4.1+	口口口調整, 内面下半磨面	236-1
2	K-9	1-SK21	石製品	砥石	中央部	6.7+	0.5	5.0	580g+, 安山岩	236-2
3	Na-113	1-SK21	鉄製品	釘	中部	5.4+	0.6	0.5	6g+	236-3
4	Nb-112	1-SK21	鉄製品	止め金	端部~中央部	5.4+	0.6	0.5	頭部環状, 10g-	236-4
5	L-1	1-SK21	木製品	神塔婆	9/10	23.8+	5.2	0.3~0.4	頭部三角形と推定, 片面墨書	236-5 3ヶ・15

第659図 SK21 出土遺物

第4節 IV層の遺構(4) - IVb1期

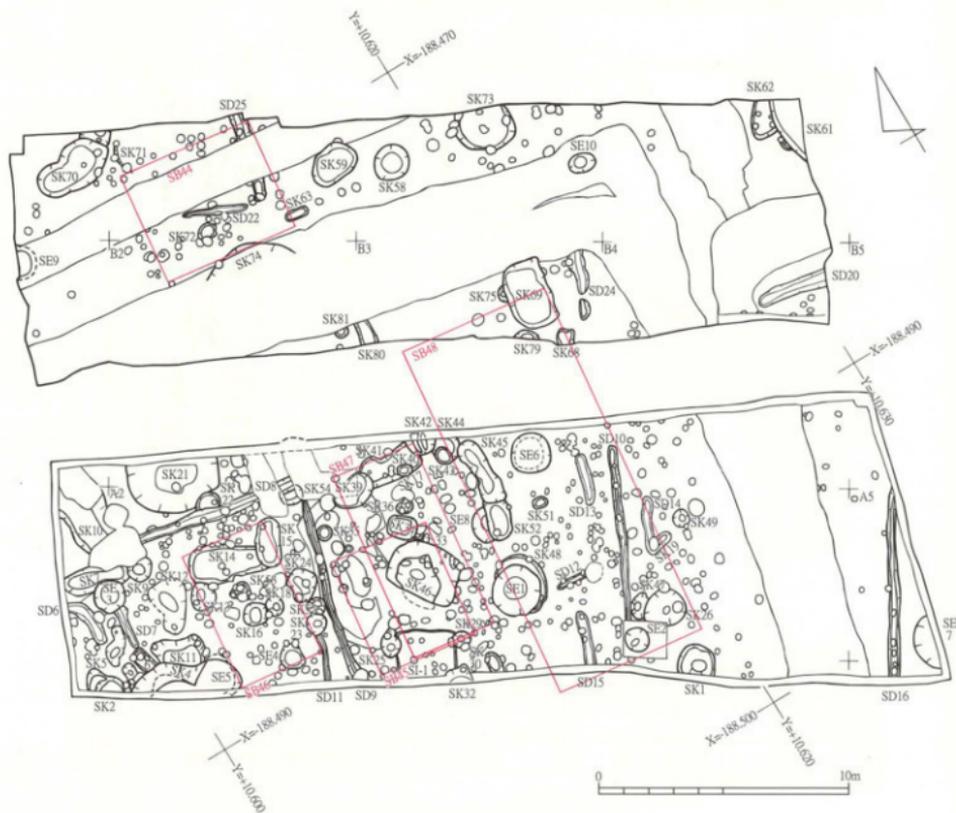
1. 遺構の概要

IVb1期は最初に作られた屋敷の段階で、掘立柱建物跡、竪穴遺構、井戸跡、土坑、性格不明遺構などがある。時期が限定できるものは少ないが、掘立柱建物跡は真北から8° 東に傾いており、これは第1次調査で検出された掘立柱建物跡の方向と一致している(註1)。

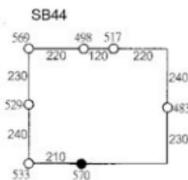
2. IVb1期の遺構

(1)掘立柱建物跡

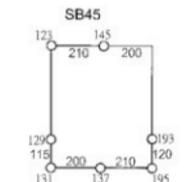
この時期と考えられる建物跡はSB44~48の5棟である。建物方向は真北から8° 東に傾いている。SB44とSB45は2×3~4間で桁行の長さが梁行の長さに対してあまり長くない類似した構造であるが、この2棟は東辺の梁行と桁行がそろえられていて計画的な配置となっているので同時期の建物と考えられる。SB45とSB47が重複しているが新田間



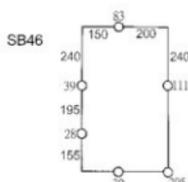
第660図 IVb1期 遺構平面図



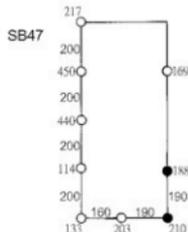
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
569	Vb	28	19	?
498	Va	23	20	
517	Vb	30	22	
483	Va	41	29	
570	Vb	33	31	12
535	Va	25	49	
529	Va	24	44	
規模	東西5.6m	南北4.7m		
掘行時期	1.9m~2.2m	2.3~2.4m		
柱間	1.2m	2.2m		
面積	26.3㎡	積さ	8坪	



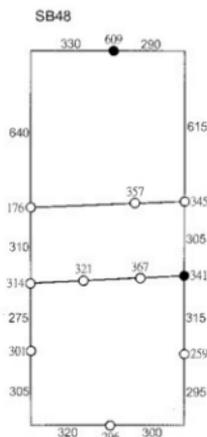
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
123	Va	24	24	?
145	Va	18×25	?	?
193	Va	24	24	?
195	Va	30	16	?
137	SI底面	24	19	?
131	Va	18	5	?
129	Va	22	16	?
規模	東西4.1m	南北5.0m		
掘行時期	2.0~2.1m	2.1(4層)		
柱間	2.0~2.1m	(1.25m)		
面積	20.5㎡	積さ	8坪	



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
83	Va	24	11	?
111	Va	18	16	?
205	Va	16	14	?
30	Va	34	26	?
28	Va	29	29	?
39	Va	22	8	?
規模	東西3.5m	南北5.9m		
掘行時期	1.5m~2.0m	1.55~2.4m		
柱間	1.5m	2.0m		
面積	20.1㎡	積さ	8坪	



PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
169	Va	22×26	35	
188	Va	26	8	13
210	Va	32	9	
203	SI底面	20×34	22	
133	SI底面	28	31	
114	SI底面	20	8	
440	SI底面	18	3	
450	SI底面	18	9	
217	塊瓦底面	32	7	
規模	東西3.5m	南北8.3m		
掘行時期	1.6~1.9m	2.0m		
柱間	1.6~1.9m	2.0m		
面積	28.0㎡	積さ	8坪	



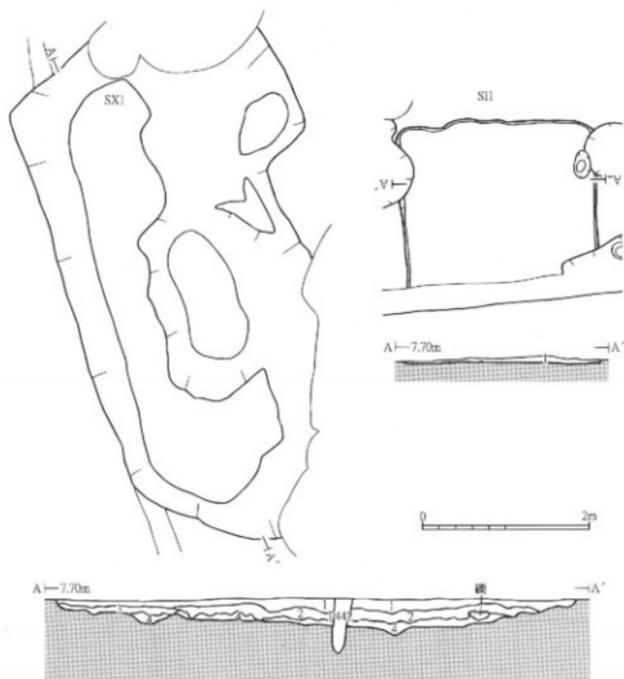
PitNo	確認層	大きさ	深さ	柱位置
609	IVb	47×50	36	16
345	Vc	28	34	
341	Va	34	18	10
259	Va	22	17	
296	Va	34	22	
301	Va	22	24	
314	Va	30	35	
176	Va	34×42	53	
357	Va	24	21	
367	Va	24	18	
321	Va	20	15	
規模	東西6.2m	南北15.3m		
掘行時期	2.9~3.3m	2.75~3.2m		
柱間	2.9~3.3m	2.75~3.2m		
面積	94.9㎡	積さ	18坪	

係は不明である。これらの東に位置するSB48は東西6.2m×南北15.3m、面積約95㎡と推定される規模の大きな建物であり、主屋的な性格を持つと考えられる。このSB48のすぐ北側に位置するSK75（後述する）には土師質土器皿と小皿が大量に廃棄されていたが、SB48が主屋的な性格を持つと仮定した場合これらの土器はSB48において使用された可能性が高いと考えられる。

遺物はそれぞれの柱穴から土師器、須恵器、土師質土器、鉄製品などが少量出土している。SB45の瀬戸産のIc-64灰釉甕が図化できたが（第654図10）、IVb1期よりも新しい遺物である。

②竪穴遺構

SI1（第661図）1区南壁際のVa層上面で確認した。IVb1期のSB45・47に切られているが中世の遺物も含むことからIVb1期と考えられる。東西2.4m、南北2.1m以上の方形で、深さ5~10cm、堆積土はIV層に類似している。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器などが少量出土している。図化できたのは鉄釘点である（第641図14）。遺構の性格を限定することはできなかった。



層位	色調	土質	混入物・その他
SX1 1	10YR2/3 黒褐色	シルト	砂粒・炭化物少量
2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物少量
3	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物少量
4	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒褐色シルト質粘土ブロック多量
SI1 1	10YR3/2 黒褐色	粘土	灰黄褐色シルト質粘土ブロック少量、炭化物多量

第661図 SI1, SX1 平面・断面図

(3)土坑

土坑66基のうち重複関係などからIVb1期に属する可能性があるのは57基で、このうち51基についてはすでにIVb2～IVa4期の項で述べた。規模などの詳細は表142・143(238頁)のとおりである。

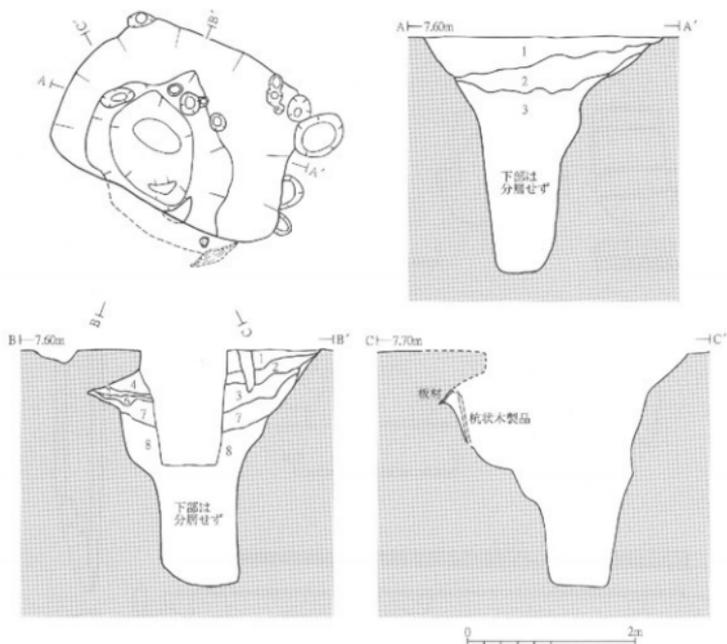
SK14 (第635図) 1区西部のVa層上面で確認した。IVb1期のSB46に切られているのでVa層の時期の遺構である可能性もある。楕円形で壁は緩やかに立ち上る。堆積土は自然堆積層で炭化物を多量に含んでいる。遺物は出土しなかった。

SK29 (第636図) 1区南部のVa層上面で確認した。IVb1期のSB45に切られているのでそれよりも古いが中世陶器が出土していることからIVb1期と推定した。円形で壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は土師器や中世陶器片が少量出土し、常滑産の甕が1点図化できた(第634図)が、IVb1期よりも新しい遺物である。

SK46 (第662図) 1区中央部のVa層上面で確認した。IVb2期のSB43に切られているのでそれよりも古く、中世の遺物を多く含むことからIVb1期と推定した。ちょうどSB47の内部に位置することからSB47が上屋である可能性がある。

平面形は隅丸長方形で大きさは290×225cm。平面プランの主軸は30°西に傾いているが、底面の平面形や主軸は上端と異っており、やや歪んだ三角形で真北からやや東に傾いている。深さは約280cmで、壁は垂直に近く立ち上った後上部は大きく開くが、南西側の上部は大きくせり出している。堆積土は自然堆積層であるが崩落の危険があったため下層の分層はできなかった。なお、南壁には段が2段作り出されており、上の段の奥には長さ144cmの杭状の材が下半部を埋め込まれた状態で柱のように設置されていた。この柱状の材の上部のせり出した天井部分には厚さ1cm程度の板材が天井板のように貼り付けられていた。確認できた板材は幅60cm、奥行き20cm程であったが板材がない部分でも痕跡が認められた箇所があったので本来は天井のようにになっている全体に貼り付けられていた可能性がある。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器、鉄製品、木製品などが134点出土したが、図化できたのは下駄1点、在地産の片口鉢1点、常滑産の壺2点、短刀1点、先述した杭状の材などである(第663図)。L-21杭状木製品は分割材で平坦面が作り出されているが墨書などは認められなかった。



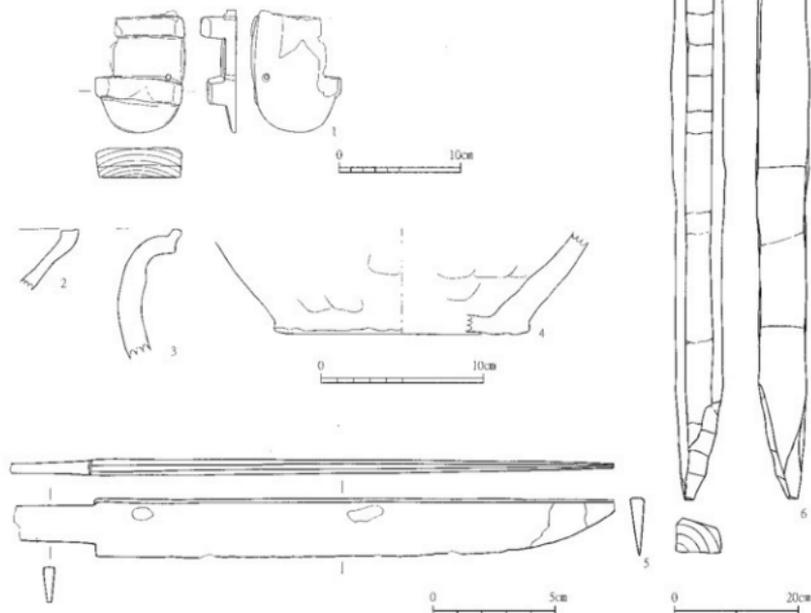
層位	色調	土質	混入物・その他
1	10YR2/3 黒褐色	粘土	暗褐色粘土少量、灰化物多量
2	10YR2/3 暗褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック・黄褐色粘土ブロック少量
3	10YR2/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土ブロック 細砂ブロック	混合
4	10YR2/3 黒褐色	粘土	
5	2.5Y2/1 黒色	粘土	灰化物少量
6	7.5Y4/1 灰色 7.5Y4/1 灰色	粘土 粗砂	混合
7	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	
8	5Y2/1 黒色	粘土	灰色粗砂ブロック少量

第662図 SK46 平面・断面図

遺構の性格は深さや大きさから判断すると井戸跡の可能性が高いが、壁を掘り残して作り出した「天井」と貼り付けた「天井板」、奥壁に作り出した「段」と奥壁に半分埋め込まれた「柱」が通常の井戸には見られない構造である。性格が断定できないため一応「上坑」に分類した(註2)。

SK48(第638図) 1区中央部のVa層上面で確認した。IVb1期のSB48に切られているのでそれよりも古いが中世陶器が出上していることからIVb1期と推定した。大部分をSE1に切られている。楕円形の浅く大きな土坑で、壁は比較的急に立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は須恵器や上師貫土器などが30点以上出土し、鉄釘2点が図化できた(第641図10・11)。

SK73(第640図) 2区北壁際のVa層上面で確認した。IVb2期のSB40Iに切られていることからIVb1期と推定した。円形で浅く、壁は緩やかに立ち上る。堆積土はIV層に類似している。遺物は出土しなかった。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	寄属 図層
					長さ	幅	厚さ		
1	L-7	1-SK46	木製品・漕面下駄	4/5	10.1	幅7.0	高さ2.9		236-6
2	Ic-57	1-SK46	陶器(存物) 片口鉢	11輪部小片				ロク13(回転台) 陶製	236-7
3	Ic-56	1-SK46	陶器(常滑) 甕	口縁~体部片				口縁部ヨコナデ、体部ナデ、5型式	236-8
4	Ic-55	1-SK46	陶器(常滑) 甕	底部IS	底径 (15.6)			内外面ナデ	236-9
5	No-115	1-SK46	鉄器品・短刀	葉瀬部欠損	24.8+	2.5	0.7	平造、身部長約21.5cm、123g+	236-10
6	L-21	1-SK46	木製品・杭状製品	ほぼ完形	144.0	8.4	5.3	分割材、先端加工	236-11

第663図 SK46 出土遺物

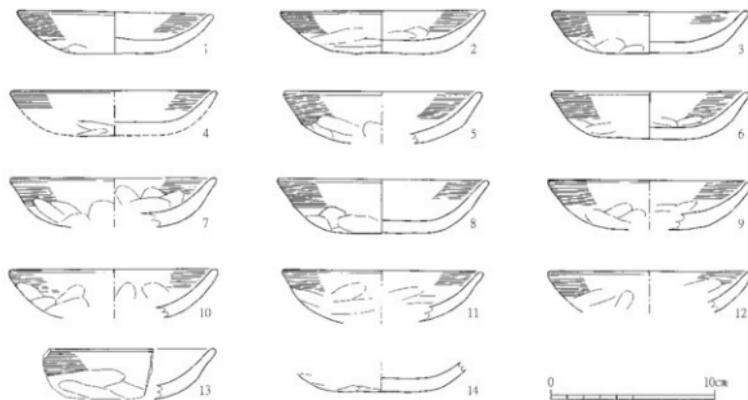
SK75 (第640図) 2区南部のIV層上面で確認した。SK69に東半部を切られているが径60cmの円形の上坑と推定され、深さは25cm、壁は急角度で立ち上る。堆積土はIV層に類似する黒褐色粘土質シルトで2層に分層される。堆積土中に大量の土師質土器皿類が含まれる(写真219-3・4)のに対してその他の遺物は須恵器1点と鉄滓2点のみであることから、土師質土器皿類を廃棄するために掘られた土坑であると考えられる。

SK75から出土した土師質土器皿類の破片は434点であるが、遺構の4割程度はSK69に切られていることと上部にある程度削平されていることを考慮すると、元々あった破片数は800点前後ではないかと考えられる。SK69からも本来SK75に属すると考えられる約180点の破片が出土しているため、これ以外に200点程度はあったと予想される。SK75とSK69から出土した約600点の破片から復元・図化したのは小皿59点と皿14点(第664・665図)であるので、既に失われたと想定される残り200点の破片を考慮すると合計100点程度(小皿約80点、皿約20点)が廃棄されていた可能性がある。2区のIV層中から出土したIa-38・39・40・43小皿とIa-32・35・36皿(第669図24~27、30~32)もこの中に含まれると推定される。

製作技法は小皿と皿がそれぞれ11種類の規格化されたものである。

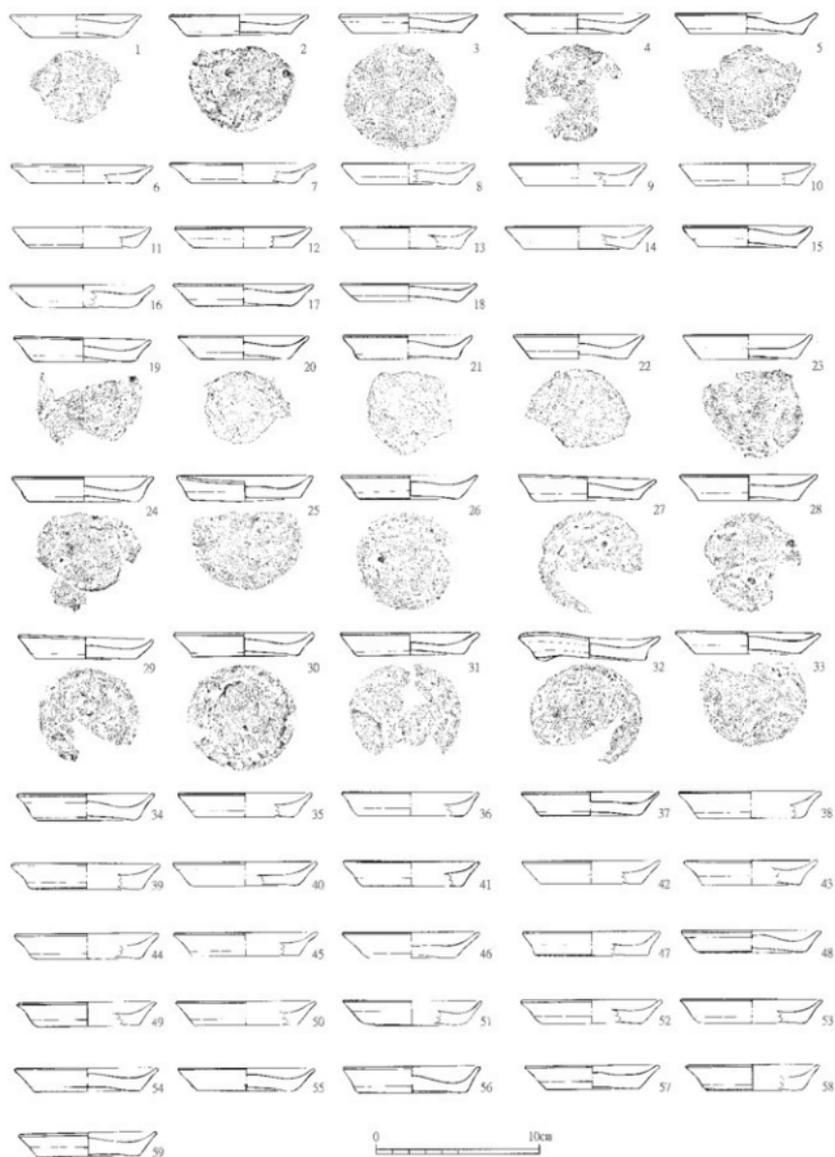
小皿は口口調整で、浅くて底部内面が盛り上がっているため器の容量が極端に少ない印象を受ける。口径8.0~9.0cm、底径5.1~7.0cm、器高1.1~1.8cmである。底部の切り離しは静止糸切、内面中心部にはナデ調整が施されている。体部から口縁部の器壁は薄いが底部は厚手である。焼成は硬質で色調は浅黄色のものが多く、胎土に白色針状物質をごく僅かに含むものもある。

皿は手づくね成形である。全体的に厚手のつくりで底部は丸底が丸底風平底である。口径11.8~12.8cm、平底のもの



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	発出 図版
						口径	底径	器高		
1	Ia-117	2-SK75	土師質土器	皿	2/5	11.8	6.3	2.4~2.7	丸底風平底、口縁部ヨコナデ、体部一底部ナデ、硬質、白針状物	238-24
2	Ia-118	2-SK75	土師質土器	皿	1/2	12.4	7.2	2.7	丸底風平底、口縁部ヨコナデ、体部一底部ナデ、硬質、白針状物	238-25
3	Ia-121	2-SK69、SK75	土師質土器	皿	4/5	12.0	8.0	2.6	丸底風平底、口縁部ヨコナデ、体部一底部ナデ、硬質、白針状物	238-26
4	Ia-124	2-SK69、SK75	土師質土器	皿	1/4	(2.4)		2.8	丸底風平底、口縁部ヨコナデ、体部一底部ナデ、硬質、白針状物	238-27
5	Ia-113	2-SK75	土師質土器	皿	1/4	(2.0)		(3.2)	丸底、11縁部ヨコナデ、体部一底部ナデ、硬質	238-28
6	Ia-114	2-SK75	土師質土器	皿	1/2	12.0	6.7	3.0	丸底風平底、口縁部ヨコナデ、体部一底部ナデ、硬質	238-29
7	Ia-115	2-SK75	土師質土器	皿	1/2	(2.4)			丸底風平底、口縁部ヨコナデ、体部一底部ナデ、硬質、白針状物	238-30
8	Ia-116	2-SK75	土師質土器	皿	1/4	12.8	6.7	3.2~3.4	丸底風平底、11縁部ヨコナデ、体部一底部ナデ、硬質	238-31
9	Ia-119	2-SK69、SK75	土師質土器	皿	1/4	(2.4)	(7.2)		丸底風平底、口縁部ヨコナデ、体部一底部ナデ、硬質	238-32
10	Ia-120	2-SK75	土師質土器	皿	1/2	(2.5)		3.0	丸底風平底、11縁部ヨコナデ、体部ナデ、硬質	238-34
11	Ia-123	2-SK75	土師質土器	皿	1/2	12.2			丸底風平底、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、硬質	238-33
12	Ia-125	2-SK69、SK75	土師質土器	皿	1/2	(12.4)			丸底風平底、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、硬質	238-35
13	Ia-112	2-SK75	土師質土器	皿	1/4				丸底風平底、口縁部ヨコナデ、体部一底部ナデ、硬質、白針状物	238-36
14	Ia-122	2-SK75	土師質土器	皿	1/4		7.2		丸底風平底、底部ナデ、硬質、白針状物	238-37

第664図 SK75 出土遺物(1)



第665図 SK75 出土遺物 (2)

No.	学録No.	地区・遺構・層位	種別(所在地) 器種	遺存度	流量 (cm)		調整・特徴	写真 図版	
					口径	表径			
1	Ia-87	2-SK75	土師質土器・小皿	2/5	(5.0)	(5.2)	1.4	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-10
2	Ia-105	2-SK75	土師質土器・小皿	1/2	3.5	6.4	1.4	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-11
3	Ia-104	2-SK75	土師質土器・小皿	傾倒欠形	8.5	6.8	1.2	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片、白針痕	237-12
4	Ia-106	2-SK75	土師質土器・小皿	1/2	(6.9)	(6.9)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-13
5	Ia-108	2-SK75、SK69)	土師質土器・小皿	1/2	(6.7)	(6.8)	1.3	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-14
6	Ia-53	2-SK75、SK75	土師質土器・小皿	2/4	(5.6)	(6.6)	(1.7)	ロク口調整、底部静止系切、破片	237-15
7	Ia-55	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.9)	(6.1)	1.3	ロク口調整、底部静止系切、破片	237-16
8	Ia-56	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.2)	(6.1)	1.3	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-17
9	Ia-58	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.4)	(6.4)	1.4	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片、白針痕	237-18
10	Ia-59	2-SK75	土師質土器・小皿	1/6	(5.4)	(6.4)	1.3	ロク口調整、底部静止系切、破片、白針痕	237-19
11	Ia-61	2-SK75	土師質土器・小皿	1/4	(5.4)	(6.5)	1.3	ロク口調整、底部静止系切、破片	237-20
12	Ia-65	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.4)	(6.2)	1.3	ロク口調整、底部静止系切、破片	237-21
13	Ia-68	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.4)	(6.4)	1.4	ロク口調整、底部静止系切、破片	237-22
14	Ia-73	2-SK75	土師質土器・小皿	1/5	(5.0)	(6.7)	1.4	ロク口調整、底部静止系切、破片、白針痕	237-23
15	Ia-83	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.0)	(6.0)	1.3	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-24
16	Ia-90	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.8)	(6.2)	1.4	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片、白針痕	237-25
17	Ia-99	2-SK75	土師質土器・小皿	1/2	(5.6)	(6.1)	1.4	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-26
18	Ia-101	2-SK69、SK75	土師質土器・小皿	1/4	(5.4)	(5.8)	1.2	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-27
19	Ia-79	2-SK75	土師質土器・小皿	2/3	2.4	6.2	1.4~1.6	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-28
20	Ia-84	2-SK75	土師質土器・小皿	1/2	(5.0)	(5.5)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-29
21	Ia-85	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.0)	(6.0)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-30
22	Ia-86	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.0)	(6.1)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-31
23	Ia-88	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.0)	(5.9)	1.6	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片、白針痕	237-32
24	Ia-89	2-SK75	土師質土器・小皿	1/2	(5.6)	(6.7)	1.6	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片、白針痕	237-33
25	Ia-93	2-SK75	土師質土器・小皿	3/4	8.4	6.2	1.3~1.8	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-34
26	Ia-96	2-SK75	土師質土器・小皿	傾倒欠形	8.4	6.1	1.6	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-35
27	Ia-98	2-SK75	土師質土器・小皿	3/4	2.4	6.2	1.3~1.7	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-36
28	Ia-102	2-SK69、SK75	土師質土器・小皿	2/3	8.4	6.2	1.8	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片、白針痕	237-36
29	Ia-105	2-SK75	土師質土器・小皿	3/4	8.2	6.0	1.3~1.7	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-37
30	Ia-107	2-SK75	土師質土器・小皿	傾倒欠形	5.6	6.4	1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-37
31	Ia-109	2-SK69、SK75	土師質土器・小皿	傾倒欠形	8.5	6.5	1.3~1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-38
32	Ia-110	2-SK69、SK75、IV層	土師質土器・小皿	3/4	8.7	6.7	1.3~1.8	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-39
33	Ia-111	2-SK75	土師質土器・小皿	3/4	8.9	6.8	1.3~1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	237-40
34	Ia-54	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.3)	(5.8)	1.6	ロク口調整、底部静止系切、破片、白針痕	237-41
35	Ia-57	2-SK75	土師質土器・小皿	1/6	(5.2)	(6.0)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片	237-42
36	Ia-60	2-SK75	土師質土器・小皿	1/4	(5.4)	(6.4)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片	237-43
37	Ia-62	2-SK75	土師質土器・小皿	1/4	(5.4)	(6.2)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	238-1
38	Ia-63	2-SK75	土師質土器・小皿	1/6	(5.8)	(6.3)	1.7	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-2
39	Ia-64	2-SK75	土師質土器・小皿	1/5	(5.0)	(7.0)	1.6	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-3
40	Ia-66	2-SK75	土師質土器・小皿	1/4	(5.8)	(6.0)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-4
41	Ia-67	2-SK75、IV層	土師質土器・小皿	1/6	(5.4)	(6.0)	1.6	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-5
42	Ia-69	2-SK75	土師質土器・小皿	1/4	(5.4)	(6.2)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-6
43	Ia-70	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.2)	(6.0)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-7
44	Ia-71	2-SK75	土師質土器・小皿	1/6	(5.8)	(6.7)	1.6	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-8
45	Ia-72	2-SK75	土師質土器・小皿	1/6	(5.8)	(6.5)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片、白針痕	238-9
46	Ia-74	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.7)	(5.1)	1.6	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	238-10
47	Ia-75	2-SK75	土師質土器・小皿	1/4	(5.4)	(6.5)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片、白針痕	238-11
48	Ia-76	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.6)	(6.8)	1.4	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片、白針痕	238-12
49	Ia-77	2-SK75	土師質土器・小皿	1/2	8.5	6.2	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-13
50	Ia-78	2-SK75	土師質土器・小皿	1/6	(5.6)	(6.4)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-14
51	Ia-80	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	8.5	6.0	1.6	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-15
52	Ia-81	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.6)	(6.0)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-16
53	Ia-82	2-SK69、SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.7)	(6.6)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、破片	238-17
54	Ia-91	2-SK75	土師質土器・小皿	1/3	(5.8)	(6.5)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片、白針痕	238-18
55	Ia-92	2-SK69、SK75	土師質土器・小皿	1/4	(5.4)	(5.9)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	238-19
56	Ia-94	2-SK75	土師質土器・小皿	1/4	(5.4)	(6.7)	1.8	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片、白針痕	238-20
57	Ia-95	2-SK75	土師質土器・小皿	1/4	(5.2)	(5.7)	1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片、白針痕	238-21
58	Ia-97	2-SK75	土師質土器・小皿	2/3	8.2	6.1	1.6	ロク口調整、底部静止系切、破片、白針痕	238-22
59	Ia-100	2-SK75	土師質土器・小皿	1/2	8.4	6.3	1.5	ロク口調整、底部静止系切、内面中心部十字、破片	238-23

のは底径6.3~8cm、器高2.4~3.4cmである。調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部にかけてはナデ調整である。焼成は小皿と同じく硬質で色調は浅黄色のものが多い。胎土に白色針状物質をごく僅かに含むものもある。

(4)性格不明遺構

SX1 (第661図) 1区西部のVa層上面で確認した。他のすべて遺構に切られているが中世の遺物が多く出土していることからIVb1期と推定した。平面形は不整な楕円形で南北6.5m、東西2.7~3.3mである。底面は東側が深くなっている。深さは約35cmで壁は緩やかに立ち上る。堆積上はIV層に類似した自然堆積層である。遺物は須臾器や土師質土器、中世陶器などが約220点出土したが、陶化できたのは土師質土器皿1点、常滑産の裏1点、鉄釘1点である(第641図3・7・13)。

(註1) 第1次調査で検出されたIVb1期の掘立柱建物跡の方向はN=0~11° -Eである。

(註2) 遺構が井戸であるとすれば、水に関係する祭祀が行われた可能性がある。

第5節 Vc層・VI層の遺構と遺物

1. 遺構の概要

IV層段階の堀跡などによって調査区が分断された形となっているため、下層の調査範囲は部分的となっている。Vc層とVI層上面で小溝群が検出された。畑の耕作に伴うもので、耕作土はそれぞれの直上層である基本層Vb層とVc層である。

2. 遺構と遺物

(1)Vc層上面

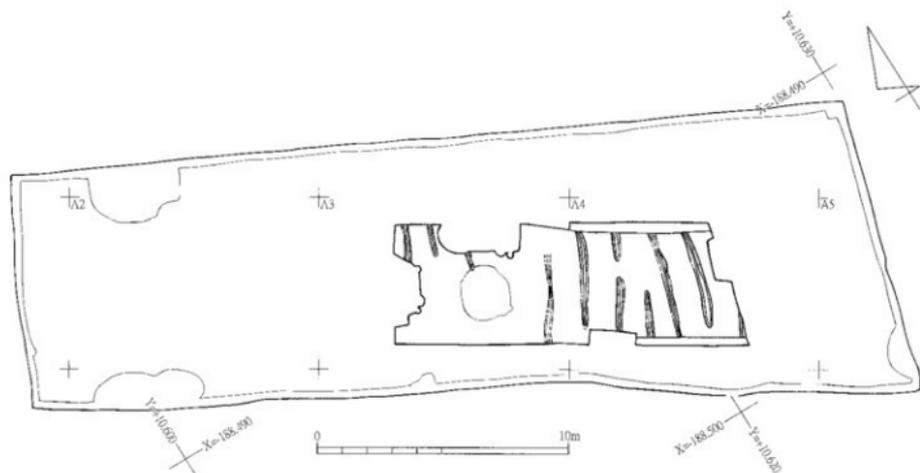
1区で小溝群を確認した。幅15～30cm、深さ1～5cmの浅い溝で、堆積土は直上の基本層Vb層が入り込んでいる。南北方向に平行しており、溝間の距離は心々で1～1.3mである。直上の基本層Vb層の耕作に伴う耕作痕であると考えられる。

耕作土であるVb層中からは土師器・須恵器約100点の他、土師質土器や中世陶器片が少量出土しているが、土師質土器と中世陶器は混入品と考えられる。図化できたのは須恵器1点である(第677図2)。

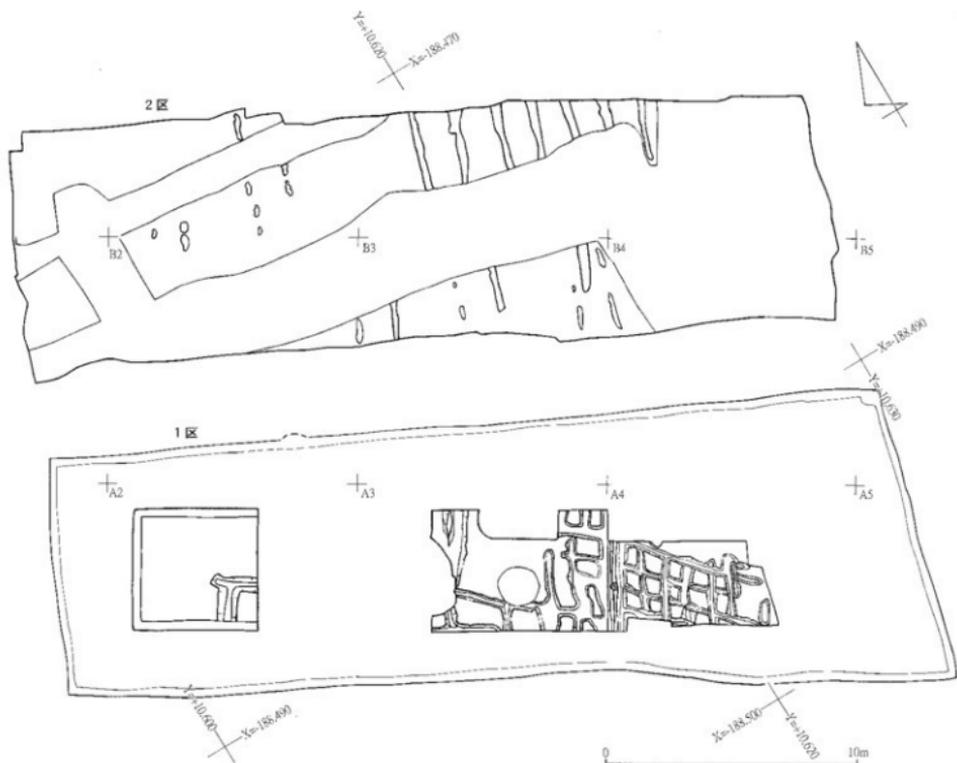
(2)VI層上面

1区・2区で小溝群を確認した。1区は東西方向と南北方向があるが新旧関係を明らかにすることはできなかった。2区は南北方向のみである。幅30～80cm、深さ5～10cmで、堆積土は直上の基本層Vc層が入り込んでいる。溝間の距離は1区が心々で0.8～1m、2区がやや広く1.2～1.5mである。直上の基本層Vc層の耕作に伴う耕作痕であると考えられる。

耕作土であるVc層中からは土師器・須恵器などの破片約200点が出上している。なお、中世陶器片が少量あるがこれは混入品と考えられる。図化できたのはK-1石製紡錘車と碁石の可能性のあるK-7の2点である(第677図4・5)。



第666図 1区Vc層上面平面図



第667図 VI層上面平面図

第6節 全体の出土遺物と基本層からの出土遺物

各遺構からの出土遺物については前節までで述べたので、ここでは調査区全体にかかわる点と基本層中からの出土遺物について触れる。なお、出土遺物の層位・遺構別の集計表は表144・145(280・281頁)、調査区全体をまとめたものが表140(185頁)である。

1. 遺物の出土状況

調査区全体の遺物数は、表140(185頁)によると、弥生土器3点、土師器1,890点、須恵器1,727点、灰釉陶器1点、赤焼土器9点、土師質土器皿類5,433点、瓦質土器21点、中世の無釉陶器1,407点、中世の施釉陶器30点、中国産陶磁器91点、その他近世の陶磁器など20点、瓦10点、金属製品301点(鉄製品254点、銅製品47点)、石製品19点、木製品23点、土製品15点、鉄滓724点で、このほかにウマやウシの骨や歯などを主とする動物遺存体、人骨などが出土している。

各種の遺物のうち土器類に限ってみると、弥生3点、古代3,627点(34%)、中世6,982点(66%)、近世20点で、古代

の土器類が1/3、中世の土器は2/3である。中世の土器6,982点の内訳は、土師質土器皿類5,433点（78%）、瓦質土器21点（0.3%）、無釉陶器1,407点（20%）、施釉陶器30点（0.4%）、中国産陶磁器91点（1%）で、土師質土器と無釉陶器で中世の遺物の大部分を占めている。無釉陶器1,407点の内訳は常滑・渥美・東海地方産が1,015点（72%）、在地産392点（28%）で在地産が1/3以下であるが、表下部に示した重量でみると常滑・渥美・東海地方産が44,303g（64%）、在地産25,366g（36%）となり、わずかに在地産の比率が上がる。

2. 基本層からの出土遺物

表144・145（280・281頁）によると、基本層からの出土遺物は古代の上器類が2,700点（古代の土器全体の74%）、中世の土器類は3,063点（中世の土器全体の44%）で、古代の上器は基本層中からの出土数が遺構中からの出土数を超えているが、中世の上器類は遺構からの出土数の方が基本層中からの出土数よりも多い。金属製品は圧倒的に基本層中からの出土遺物が多く、全体の出土数の2/3以上を占めている。これらの中で図化できたのは約230点である（第668～677図）。

第668図はⅠ～Ⅲ層の出土遺物で、常滑・在地・東海地方産の片口鉢や甕、古瀬戸の皿や御皿、中国産の磁器（龍泉窯系青磁碗、青花碗、白磁壺）、土師質土器、瓦質土器、石製品、金属製品などである。板状の鉄製品Na-119（27）は小札の可能性も考えられたが孔は確認できなかった。Nb-16銭貨（29・開元通寶）は表面の文字が不鮮明で裏面が平滑であることから模倣銭の可能性もある（註1）。

第669図はⅣa層出土の土器類で、Ⅳa・Ⅳb層に分類できなかったものも含めている。東海・常滑・在地産の片口鉢や甕、瀬戸産の皿、中国産の磁器（龍泉窯系青磁碗、白磁合子など）、土師質土器皿類がある。土師質土器皿類のうち底部が静止糸切のIa-38～40・43小皿（24～27）とIa-32・35・36手づくね皿（30～32）については2区のSK75から大量に出土した小皿・皿に特徴が類似することから本来SK75の遺物であった可能性がある。

第670・671図はⅣa層出土の鉄製品、石製品、土製品、銅製品で、Ⅳa・Ⅳb層に分類できなかったものも含めている。第670図の鉄製品は大部分が釘であるが、Na-120（第670図1）は火箸と考えられる。石製品K-2（第671図1）は石鍋と考えられる。銭貨うちのNb-3開元通寶（第671図5）は文字がやや不鮮明で裏面が平滑であることから模倣銭の可能性もある。銭貨Nb-20（第671図10）は表裏面とも無文で径が他よりもわずかに小さい。

第672図はⅣb層出土の土師質土器皿類、瓦質土器、石製品、土製品である。底部が静止糸切の土師質土器Ia-13・16小皿（第672図1・2）は前述したⅣa層出土の小皿と同様にSK75の遺物であった可能性がある。

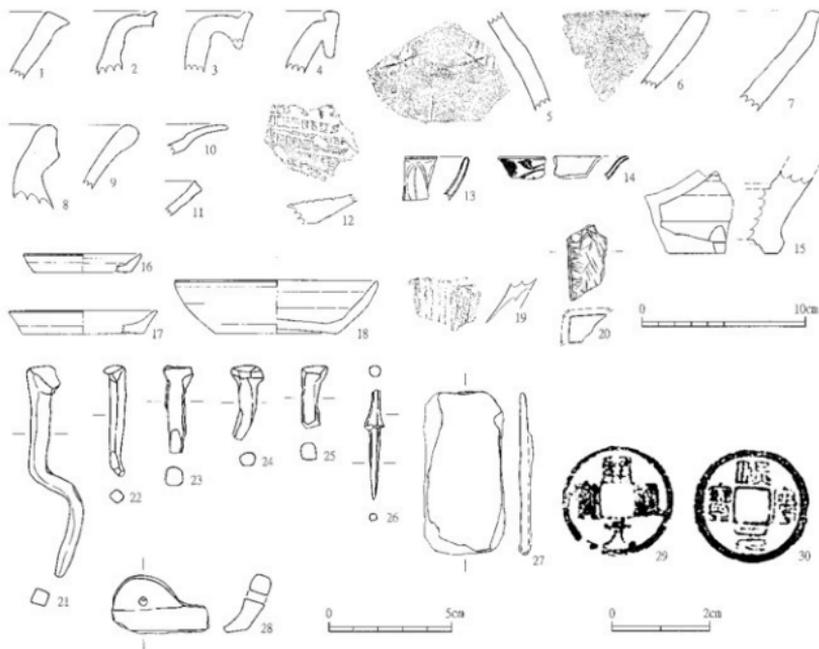
第673図はⅣb層出土の土器類で、常滑・渥美・東海・在地産の片口鉢や甕や壺、古瀬戸の折縁深皿や御皿、中国産の磁器（龍泉窯系青磁碗、白磁小杯など）がある。

第674～676図はⅣb層出土の鉄製品・銭貨である。鉄製品の大部分は釘で（55/61点）、その他に刀子、鎌、鋤がわずかにある。銭貨は北宋銭13点で、このうちNb-7・9・11・23（第676図3～5・13）は文字が不鮮明で裏面が平滑であるので模倣銭の可能性もある（註2）。

第677図はⅤ層出土の須恵器、陶器、石製品、鉄製品であるが、Ic-77渥美産壺（3）とNa-84小札（6）については上層からの混入の可能性もある。なお、Na-84小札は、出土したA2グリッドに隣接するP8（SB25の柱穴）から小札が3点出土しているのでP8との関連性も考えられる。

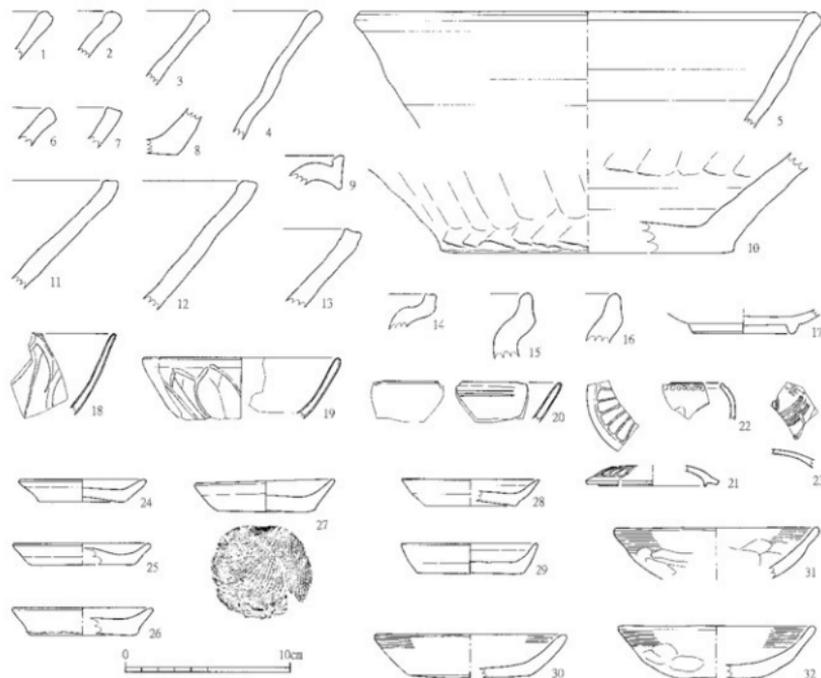
（註1） 嶋谷和彦：2003

（註2） 元祐通寶Nb-14（第676図10）と模倣銭と推定されるNb-23（第676図13）については成分分析を実施している。



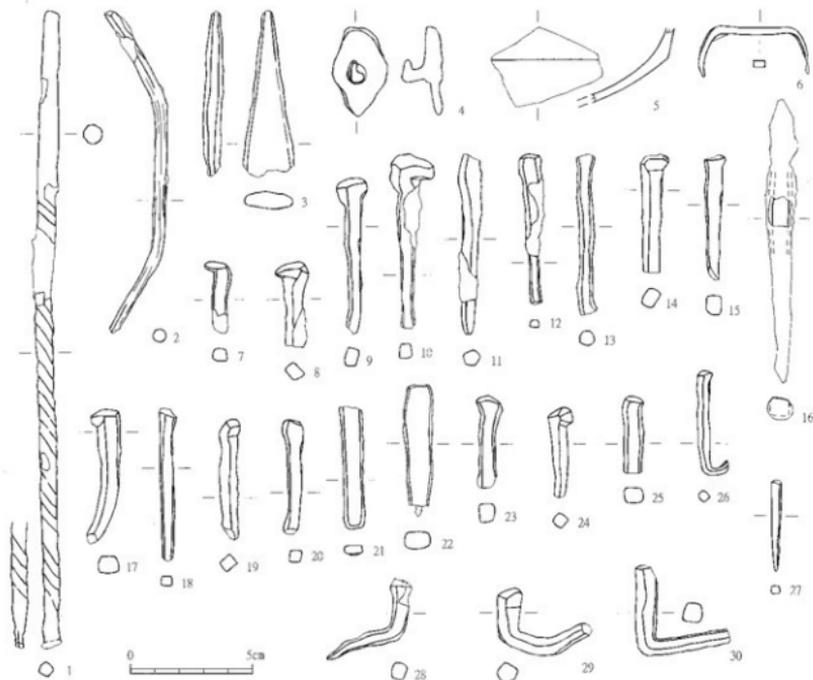
No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(産地)	器種	遺存状況	計量 (cm)			調整・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	1c-10	1-Ⅱ層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				ロクロ製。225-1	
2	1c-4	1-Ⅱ層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				225-2	
3	1c-5	1-Ⅱ層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				225-3	
4	1c-2	1-Ⅱ層	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				225-4	
5	1c-8	1-Ⅱ層	陶器(常滑)	甕	体部小片				225-5	
6	1c-19	1-Ⅱ層	陶器(在地)	片口鉢	口縁部小片				225-6	
7	1c-21	1-Ⅱ層	陶器(在地)	片口鉢	口縁部小片				225-7	
8	1c-27	1-Ⅱ層	陶器(在地)	甕	口縁部小片				225-8	
9	1c-32	1-Ⅱ層	陶器(東海)	片口鉢	口縁部小片				225-9	
10	1c-9	2-Ⅱ層	陶器(?)	甕	口縁部小片				225-10	
11	1c-81	2-Ⅱ層	陶器(古瀬戸)	印皿	口縁部小片				225-11	
12	1c-78	2-Ⅱ層	陶器(古瀬戸)	印皿	底部小片				225-12	
13	1-22	2-Ⅱ層	青磁(總持堂系)	甕	口縁部小片				225-13	
14	1-5	1-Ⅲ層	青花(中国)	甕	口縁部小片				225-14	
15	1-18	2-Ⅱ層	白磁(中国)	甕	底部小片				225-15	
16	1a-15	1-A2・樹溝	土師質土器・小皿		1/5	(7.2)	1.1		ロクロ製。底部部非切除?、破損	
17	1a-52	1-Ⅱ層	土師質土器・小皿		1/8	(9.0)	1.4		ロクロ製。底部部非切除、破損	
18	1a-7	1-Ⅱ層	土師質土器・甕		1/4	(12.3)	7.4	3.3	ロクロ製。底部部非切除、白針状痕	
19	1b-1	2-Ⅱ層	瓦葺土器・片口鉢	体部小片					内面に粘目、白針状痕	
20	1a-4	1-Ⅱ層	石製品・砥石	部分	4.7+	2.4+	1.6		20g+、裏面白石灰	
21	Na-2	1-Ⅱ層	鉄製品・釘	環状成形	8.7	0.6	0.7		頭部幅4cm、厚1.6g	
22	Na-3	1-Ⅱ層	鉄製品・釘	3/4	4.5+	0.5	0.5		頭部幅0.9cm、5g+	
23	Na-5	1-Ⅱ層	鉄製品・釘	環~中央部	3.6+	0.7	0.8		頭部幅2cm、5g+	
24	Na-4	1-Ⅱ層	鉄製品・釘	環~中央部	3.1+	0.6	0.5		頭部幅1.3cm、4g+	
25	Na-6	1-Ⅱ層	鉄製品・釘	環~中央部	2.6+	0.6	0.7		頭部幅1.1cm、4g+	
26	Na-7	1-Ⅱ層	鉄製品・環	先端部欠損	4.6+				3g+	
27	Na-119	2-Ⅱ層	鉄製品・用途不明	環状成形	6.7	3.0	0.4		X線写真でも孔は未確認、29g	
28	Na-1	1-Ⅱ層	鉄製品・環	口縁部小片					孔部に孔開閉、22g+	
29	Nb-16	2-C3・北壁	銅製品・銭貨	完全形	2.3		3.0g		模範銭? (隆元通寶・唐・初鉄821年)、裏面平造	
30	Nb-17	2-Ⅱ層	銅製品・銭貨	完全形	2.4		2.5g		治平元貨? (北・明鉄1064年)	

第668図 1～Ⅲ層出土遺物



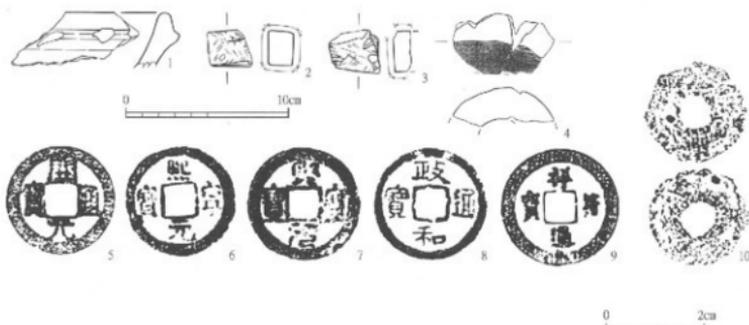
No.	発掘区	地区・遺構・層位	掘削(発地)附録	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	lc-31	1-A2~3・IVa層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				ロク口調整, 山茶碗底系	224-1
2	lc-83	2-C2・IV層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				ロク口調整, 山茶碗底系	224-2
3	lc-84	2-C2・IV層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				ロク口調整, 山茶碗底系	224-3
4	lc-85	2-C2・IV層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				ロク口調整, 山茶碗底系	224-4
5	lc-82	2-IV層・S K69	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片	(28.0)			ロク口調整, 内面に土層痕, 500g以下(約片と破片), 山茶碗底系	225-9
6	lc-68	2-IVa層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				ロク口調整	224-5
7	lc-69	2-IVa層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				ロク口調整	224-6
8	lc-13	1-A2・IVa層	陶器(東海)片口鉢	底面小片				ロク口調整	224-7
9	lc-77	2-C2・IV層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				ヨコナデ, 6a型式	224-8
10	lc-72	2-C2・IV層	陶器(東海)片口鉢	底面小片	(18.0)			内外面ヘナナデ	222-10
11	lc-22	1-A2・IVa層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片				ロク口(回転台)調整	224-11
12	lc-23	1-A2~3・IVa層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片				ロク口(回転台)調整	224-12
13	lc-75	2-C2・IV層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片				ロク口(回転台)調整	224-13
14	lc-29	1-A2~3・IVa層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片				ヨコナデ, 内面に灰オリーブ色の自然釉	224-14
15	lc-28	1-B4・IVa層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片				ヨコナデ	224-16
16	lc-76	2-C2・IV層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片				ヨコナデ	224-15
17	lc-80	2-IV層	陶器(瀬戸)片口鉢	底面小片	(6.2)			灰釉, 大家1~2期	224-17
18	J-7	1-A2・IV層	陶器(備前系)片口鉢	口縁部小片				灰釉文	224-18
19	J-21	2SD1, 3K3, IV層	陶器(備前系)片口鉢	口縁部小片	(11.8)			灰釉文, 内外面に灰釉の痕跡	224-19
20	J-11	1-A2.3・IV層	陶器(備前系)片口鉢	口縁部小片				灰釉文	224-20
21	J-1	2-B2・IV層	白磁(中国)合子蓋	口縁部小片	(8.2)			花弁状の彫刻, 漆喰修復	224-21
22	J-20	2-C2・IV層	白磁(中国)合子蓋	口縁部小片				11葉	224-23
23	J-19	2-C2・IV層	白磁(中国)合子蓋	口縁部小片				11葉	224-22
24	la-40	2-C3・IV層	土師質土器・小皿	口縁部小片	7.8	5.3	1.4	ロク口調整, 底部静止糸切, 硬質	225-1
25	la-38	2-C2・IV層	土師質土器・小皿	口縁部小片	(8.4)	(6.0)	1.4	ロク口調整, 底部静止糸切, 硬質, 白針敷	225-2
26	la-39	2-C2・IV層	土師質土器・小皿	口縁部小片	(8.6)	(6.8)	1.7	ロク口調整, 底部静止糸切, 硬質, 白針敷	225-3
27	la-43	2-B.2・IV層	土師質土器・小皿	口縁部小片	8.5	6.0	1.8~2.1	ロク口調整, 底部静止糸切, 硬質, 白針敷	225-4
28	la-37	2-C2・IV層	土師質土器・小皿	口縁部小片	(8.5)	(5.6)	1.7	ロク口調整, 底部回転糸切・ナデ	225-5
29	la-35	2-C2・III, IV層	土師質土器・小皿	口縁部小片	8.3	6.6	1.9~2.1	ロク口調整, 底部回転糸切, 白針敷	225-6
30	la-52	2-IV層	土師質土器・小皿	口縁部小片	(11.7)	(7.4)	2.7	灰釉文, 11葉, 口縁部ナデ, 底部静止糸切, 硬質, 白針敷	225-7
31	la-36	2-B2・IV層	土師質土器・皿	口縁部小片	(12.6)			A2aの硬質, 口縁部ナデ, 底部静止糸切, 硬質, 白針敷	225-8
32	la-35	2-C2・IV層	土師質土器・皿	口縁部小片	(12.1)		3.2	灰釉文, 11葉, 口縁部ナデ, 底部静止糸切, 硬質, 白針敷	225-9

第609図 IVa層出土遺物(1)



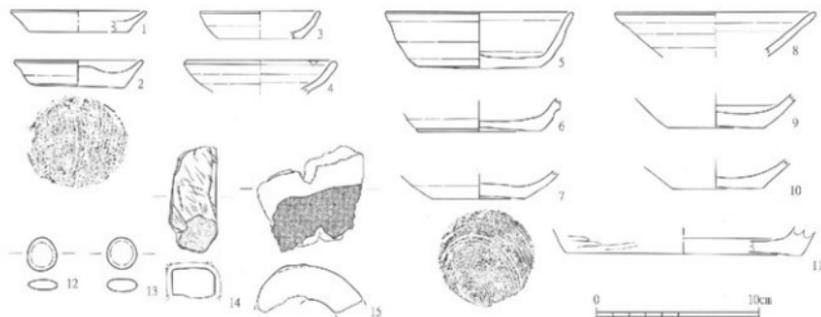
No.	発掘No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Na-120	2-V層	鉄製品・火箸	ほぼ完全	26.3		縦0.8	全体に捻り、50g	225-10
2	Na-134	2-C2・IV層	鉄製品・幼種車軸?	中央部	14.4	0.5	0.5	断面、13g	225-11
3	Na-125	2-C2・IV層	鉄製品・釘?	?	6.9	2.0	0.7	14g	225-12
4	Na-8	1-A2.3・IVa層	鉄製品・用途不明?	?	3.7	2.2	1.7	フック状の突起、8g	225-13
5	Na-127	2-V層	鉄製品・鉄	腰部小片				24g+	225-14
6	Na-126	2-C2・IV層	鉄製品・鉄	ほぼ完全	4.5	0.5	0.3	1コ、字状、4g	225-15
7	Na-10	1-A4・IVa層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.0	0.6	0.5	頭部幅1.0cm、4g	225-16
8	Na-9	1-A4・IVa層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.6	0.5	0.7	頭部幅1.4cm、5g	225-17
9	Na-14	1-A2.3・IVa層	鉄製品・釘	4/5	6.4	0.5	0.8	頭部幅1.3cm、8g	225-18
10	Na-17	1-A2.3・IVa層	鉄製品・釘	4/5	7.2	0.5	0.6	頭部幅1.8cm、15g+	225-19
11	Na-16	1-A2.3・IVa層	鉄製品・釘	頭部欠損	7.4	0.7	0.7	9g+	225-20
12	Na-19	1-A2.3・IVa層	鉄製品・釘	4/5	6.2	0.4	0.3	7g	225-21
13	Na-16	1-A2.3・IVa層	鉄製品・釘	中央部	5.7	0.6	0.6	7g+	225-22
14	Na-22	2-C2・IV層	鉄製品・釘	頭部~中央部	4.9	0.6	0.8	8g+	225-23
15	Na-20	1-B3・IVa層	鉄製品・釘	中央部	5.1	0.6	0.8	8g+	225-24
16	Na-128	2-C2・IV層	鉄製品・釘	中央部	11.8	0.8	0.7	鈍の濃しい、16g	225-25
17	Na-130	2-C2・IV層	鉄製品・釘	2/3	5.5	0.9	0.7	頭部幅1.2cm、8g+	225-26
18	Na-129	2-C2・IV層	鉄製品・釘	中央部	6.2	0.5	0.4	4g+	225-27
19	Na-124	2-C2・IV層	鉄製品・釘	2/3	5.1	0.5	0.6	6g+	225-28
20	Na-131	2-C2・IV層	鉄製品・釘	2/3	4.7	0.5	0.5	225-29	
21	Na-132	2-C3・IV層	鉄製品・釘?	頭部~中央部	5.1	0.9	0.4	6g	225-30
22	Na-121	2-C2・IV層	鉄製品・釘	中央部	5.5	1.1	0.7	13g+	225-31
23	Na-21	1-B1・IVa層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.8	0.7	0.8	頭部幅1.0cm、6g	225-32
24	Na-11	1-A4・IVa層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.7	0.5	0.5	頭部幅1.0cm、5g	225-33
25	Na-12	1-A4・IVa層	鉄製品・釘	頭~中央部	3.2	0.8	0.6	6g+	225-34
26	Na-15	1-A2.3・IVa層	鉄製品・釘	頭部欠損	4.3	0.4	0.4	先端磨損部、3g	225-35
27	Na-22	1-B3・IVa層	鉄製品・釘	頭部欠損	3.8	0.4	0.4	2g	225-36
28	Na-133	2-C2・IV層	鉄製品・釘	頭部欠損	5.3	0.6	0.7	頭部、5g+	225-37
29	Na-13	1-A2・IVa層	鉄製品・釘	3/5	3.9	0.8	0.8	断面、10g+	225-38
30	Na-124	2-C3・IV層	鉄製品・釘	中央部	6.9	0.9	0.8	断面、9g+	225-39

第670図 IVa層出土遺物(2)



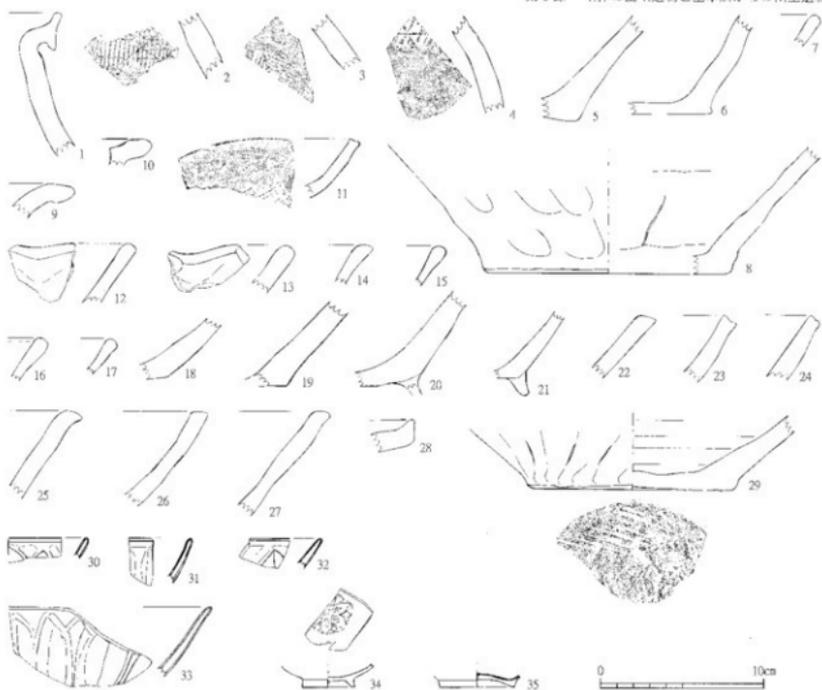
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	K-2	1-A2・IVa層	石製品・石錐	口縁部片				口縁部外側に溝彫。基部片岩(褐色古岩?)	225-41
2	K-12	2-C2・IV層	石製品・砥石	両端部欠損	2.7+	2.3	1.6	16g±、サイズ不明、黒板岩	225-42
3	K-13	2-C3・IV層	石製品・砥石	部分	3.0+	2.7+	1.0+	12g±、サイズ不明、黒板岩	225-43
4	P-1	1-A2・IV層	土製品・羽口	部分	長3.7+				225-40
5	Nb-3	1-A2・IVa層	銅製品・銭貨	完形	2.4	2.3		増隆造? (開元通寶・唐・初唐(618))、裏面平削	225-44
6	Nb-18	2-C2・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.4	2.9		順寧元寶(北宋・初開(1068年))	225-45
7	Nb-19	2-C3・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.5	4.4		順寧元寶(北宋・初開(1068年))	225-46
8	Nb-21	2-C3・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.4	3.5		政和通寶(北宋・初開(1111年))	225-47
9	Nb-22	2-C2・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.5	3.8		祥符通寶(北宋・初開(1009年))	225-48
10	Nb-20	2-C2・IV層	銅製品・銭貨	完形	2.2	1.5		無文銭	225-49

第671図 IVa層出土遺物(3)



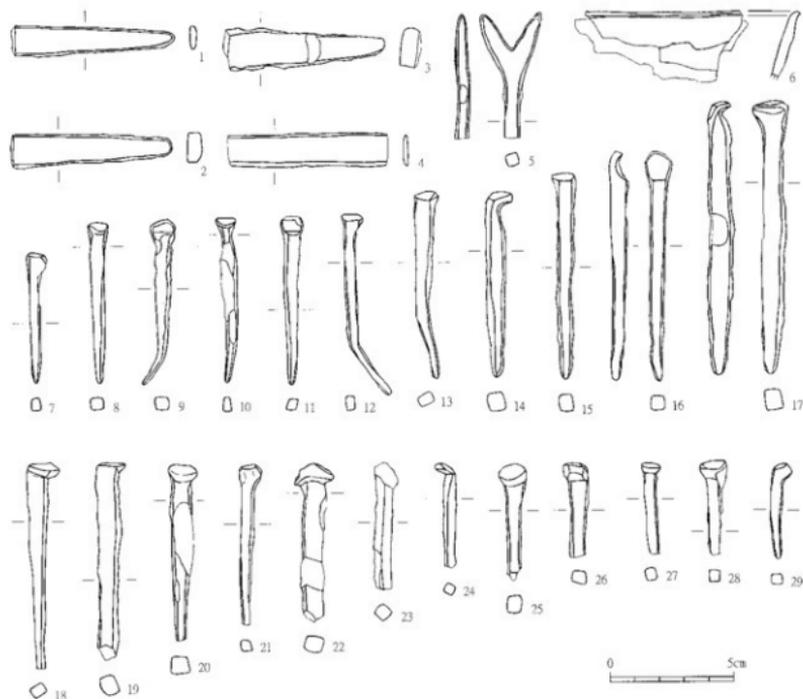
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口徑	底徑	器高		
1	ja-16	1-A3・IVb層	土師質土器・小皿	小片	(8.4)	(6.2)	1.3	口クロ腐蝕、底部平坦・急切、破片、白針織織	227-10
2	ja-13	1-A4・IVb層	土師質土器・小皿	ほぼ完形	8.0	5.9	1.6~1.8	口クロ腐蝕、底部平坦・急切、赤褐色土器、白針織織、白土少量	227-11
3	ja-14	1-A4・IVb層	土師質土器・小皿	小片	(7.4)	(5.2)	1.7	口クロ腐蝕、底部平坦・急切?	227-12
4	ja-5	1-A3・IVb層	土師質土器・小皿	上部1/3	(9.7)			口クロ腐蝕、口縁の一部にターセル状付着物	227-14
5	ja-1	1-A2・IVb層	土師質土器・皿	1/3	(11.3)	(7.5)	3.5	口クロ腐蝕、底部平坦・急切→一部ナデ	227-13
6	ja-4	1-A3・IVb層	土師質土器・皿	杯部~底縁片			7.6	口クロ腐蝕、底部平坦・急切	227-15
7	ja-2	1-A3・IVb層	土師質土器・皿	下部のみ			5.7	口クロ腐蝕、底部平坦・急切、硬質	227-16
8	ja-6	1-B4・IV層	土師質土器・皿	口部1/4	(12.4)			口クロ腐蝕、白針織織	227-17
9	ja-8	1-A4・IVb層	土師質土器・皿	下部1/3			(5.9)	口クロ腐蝕、底部平坦・急切、白針織織	227-18
10	ja-3	1-B4・IVb層	土師質土器・皿	下部のみ			5.6	口クロ腐蝕、底部平坦・急切、白針織織	227-19
11	ja-2	2-C7・IV層	丸皿土器・片口鉢	底部1/4			(14.4)	外面ヘラミナシ、内面ナデ	227-24
12	K-5	1-A3・IVb層	石製品・碇石?	完形	縦9~21		厚0.7	3.7g、頁岩、白色で黒褐色の鱗	227-20
13	K-6	1-A3・IVb層	石製品・碇石?	完形	縦9~20		厚0.8	3.3g、頁岩、暗褐色	227-21
14	K-3	1-A3・IVb層	石製品・砥石	両部欠損	長6.5+	幅2.9	厚1.9+	40g±、砂岩	227-22
15	P-2	2-B4・IV層	土製品・羽口	部分	長6.5+				227-23

第672図 IVb層出土遺物(1)



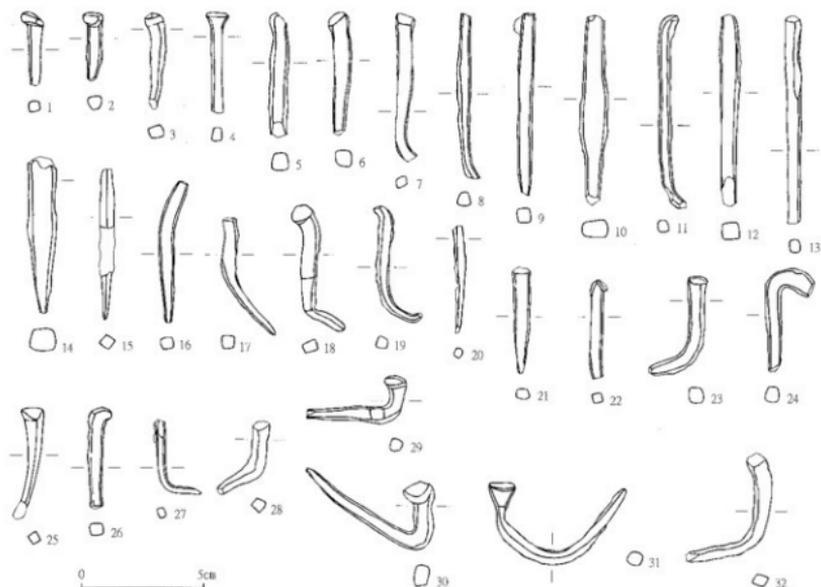
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	造形度	法量 (cm)			調整・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	Je-70	2-C4・IVb層	陶器(常滑)甕	口縁~肩部片					口縁部ヨリナデ、体部ナデ、6b型式	226-1
2	Je-6	1-A2・IVb層	陶器(常滑)甕	体部小片					葉状押印	226-2
3	Je-7	1-A4・IVb層	陶器(常滑)甕	体部小片					巻形「X」押印	226-3
4	Je-5	1-A3・IVb層	陶器(常滑)甕	体部小片					葉状「X」押印	226-4
5	Je-12	1-A5・IVb層	陶器(常滑)片口鉢	体部~底部片					口口調整	226-5
6	Je-25	1-B2・IVb層	陶器(在地)甕	底部片					外周ナデ、内面に灰白色の自然釉	226-6
7	Je-11	1-A3・IVb層	陶器(常滑)片口鉢	口縁部小片					口口調整	226-7
8	Je-9	1-A4・IVb層	陶器(常滑)甕	底部小片	(14.4)				外周ナデ、内面ヘリナデ	226-8
9	Je-43	1-A3・IVb層	陶器(常滑)甕	口縁部小片					ヨコナデ	226-9
10	Je-44	1-A2・IVb層	陶器(常滑)煎茶碗	口縁部小片					灰地、内面に施した流石、中IV期	226-10
11	Je-45	1-A3・IVb層	陶器(常滑)煎茶碗	口縁部小片					灰地、中IV期	226-11
12	Je-30	1-A2・IVb層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片					口口調整、山系陶器系	226-12
13	Je-34	1-A3・IVb層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片					口口調整、山系陶器系	226-13
14	Je-33	1-A3・IVb層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片					口口調整、山系陶器系	226-14
15	Je-36	1-A3・IVb層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片					口口調整、山系陶器系	226-15
16	Je-37	1-B3・IVb層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片					口口調整、内面に施した流石、山系陶器系	226-16
17	Je-35	1-A3・IVb層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片					口口調整、山系陶器系	226-17
18	Je-41	1-A3・IVb層	陶器(東海)片口鉢	底部小片					口口調整、内面に施した流石、山系陶器系	226-18
19	Je-70	1-A4・IVb層	陶器(東海)片口鉢	底部小片					口口調整、内面に施した流石、山系陶器系	226-19
20	Je-42	1-A5・IVb層	陶器(東海)片口鉢	底部~体部片					口口調整、内面に施した流石、山系陶器系	226-20
21	Je-39	1-A3・IVb層	陶器(東海)片口鉢	底部小片					口口調整、内面滑感、山系陶器系	226-21
22	Je-15	1-A4・IVb層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片					口口口(回転台)調整、内面に灰白色の自然釉	226-22
23	Je-18	1-A3・IVb層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片					口口口(回転台)調整、内面に灰白色の自然釉	226-23
24	Je-16	1-A3・IVb層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片					口口口(回転台)調整	226-24
25	Je-17	1-B3・IVb層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片					口口口(回転台)調整	226-25
26	Je-20	1-A2・IVb層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片					口口口(回転台)調整	226-26
27	Je-4	1-A3・IVb層	陶器(在地)片口鉢	口縁部小片					口口口(回転台)調整、内面に灰白色の自然釉	227-1
28	Je-26	1-A1・IVb層	陶器(在地)甕	口縁部小片					ヨコナデ	227-2
29	Je-24	1-A2・IV層	陶器(在地)甕	底部小片					内外面ナデ、底部にスノコ状圧痕	227-3
30	1-6	1-A3・IV層	青磁(肥後系)甕	口縁小片			(12.4)		葉弁文	227-4
31	1-9	1-A2・IV層	青磁(肥後系)甕	口縁部小片					葉弁文	227-5
32	1-8	1-B3・IV層	青磁(肥後系)甕	口縁小片					葉弁文	227-6
33	1-10	1-A3・IVb層	青磁(肥後系)甕	口縁小片					葉弁文	227-7
34	1-2	1-A3・IVb層	白磁(中国)小杯?	底部1/2			3.2		内面に花文押印	227-9
35	1-3	1-A2・IVb層	白磁(中国)小杯?	底部3/4			4.4			227-8

第673図 IVb層出土遺物(2)



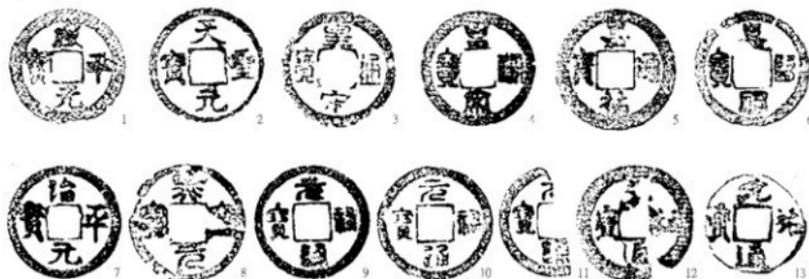
No.	発掘No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	発見図録
					長さ	幅	厚さ		
1	Na-60	I-A2・IVb層	鉄製品・刀子	茎のみ	6.8+	1.0	0.3	8g+	227-25
2	Na-82	I-A2・IVb層	鉄製品・刀子	茎のみ	6.7+	1.3	0.6	19g+	227-26
3	Na-51	I-A3・IVb層	鉄製品・刀子	茎端部	6.3+	1.7	0.7	13g+	227-27
4	Na-63	I-A3・IVb層	鉄製品・刀子	身部中央部	6.7+	1.3	0.2	7g+	227-28
5	Na-57	I-A3・IVb層	鉄製品・鏃	身部のみ	5.2+	2.6	0.5	施文式、8g+	227-29
6	Na-44	I-A3・IVb層	鉄製品・鏃	1/4線小片				33g+	227-30
7	Na-50	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	5.5	0.4	0.6	頭部幅0.9cm、5g	227-31
8	Na-30	I-A4・IVb層	鉄製品・釘	完全形	6.8	0.5	0.5	頭部幅0.8cm、6g	227-32
9	Na-35	I-A2・IVb層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	7.1	0.6	0.5	頭部幅1.1cm、扁曲、6g	227-33
10	Na-41	I-B3・IVb層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	7.0	0.4	0.6	頭部幅0.9cm、6g	227-34
11	Na-66	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	7.2	0.4	0.6	頭部幅0.9cm、7g	227-34
12	Na-25	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	完全形	7.6	0.4	0.6	頭部幅0.9cm、扁曲、8g	227-35
13	Na-75	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	完全形	7.9	0.7	0.5	頭部幅1.0cm、10g	227-36
14	Na-26	I-IVb層	鉄製品・釘	完全形	7.8	0.7	0.8	頭部幅1.1cm、11g	227-37
15	Na-53	I-A2・IVb層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	8.7	0.6	0.8	頭部幅1.1cm、18g	228-1
16	Na-27	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	頭部端欠損	(9.7)	0.6	0.6	頭部幅1.1cm、13g+	228-2
17	Na-39	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	11.2	0.7	0.9	頭部幅1.5cm、37g	228-3
18	Na-69	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	9/10	8.7+	0.6	0.5	頭部幅1.5cm、12g+	228-4
19	Na-42	I-A2・IVb層	鉄製品・釘	2/3	8.3+	0.7	0.9	頭部幅1.2cm、16g+	228-5
20	Na-31	I-A2・IVb層	鉄製品・釘	2/3	7.5+	0.8	0.8	頭部幅1.3cm、13g+	228-6
21	Na-56	I-A2・IVb層	鉄製品・釘	9/10	6.7+	0.5	0.5	頭部幅1.1cm、7g+	228-7
22	Na-43	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	2/3	6.7+	0.8	0.7	頭部幅1.7cm、14g+	228-8
23	Na-24	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央部	5.5+	0.6	0.6	8g+	228-9
24	Na-59	I-A2・IVb層	鉄製品・釘	2/3	4.4+	0.4	0.4	頭部幅1.0cm、4g+	228-10
25	Na-80	I-A6・IVb層	鉄製品・釘	2/3	5.0+	0.6	0.8	頭部幅1.2cm、10g+	228-11
26	Na-77	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	2/3	4.0+	0.7	0.5	頭部幅1.0cm、5g+	228-12
27	Na-78	I-A6・IVb層	鉄製品・釘	2/3	3.8+	0.5	0.6	頭部幅0.9cm、4g+	228-13
28	Na-54	I-A2・IVb層	鉄製品・釘	2/3	4.0+	0.5	0.5	頭部幅1.2cm、6g+	228-14
29	Na-40	I-A3・IVb層	鉄製品・釘	ほぼ完全形	4.1	0.5	0.5	頭部幅0.8cm、3g	228-15

第674図 IVb層出土遺物(3)



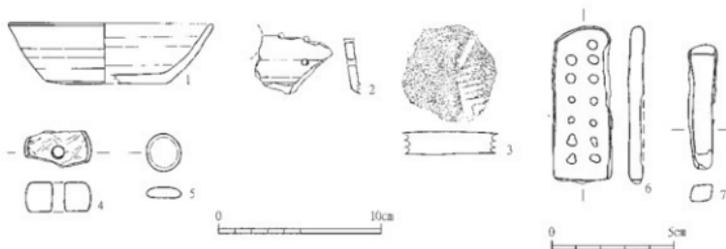
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量(cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	Np-47	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	2/2	3.1+	0.5	0.4	頭部幅1.0cm, 3段+	228-16	
2	Np-70	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	2/2	2.7+	0.6	0.6	頭部幅0.8cm, 3段+	228-17	
3	Np-65	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	2/3	4.0+	0.6	0.5	頭部幅0.7cm, 3段+	228-18	
4	Np-32	1-A2・IVb層	鉄製品・釘	1/2	4.1+	0.4	0.6	頭部幅1.0cm, 4段+	228-19	
5	Np-45	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央部	5.1+	0.7	0.7	7段+	228-20	
6	Np-38	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	4/5	4.9+	0.7	0.7	頭部幅0.9cm, 屈曲, 7段+	228-21	
7	Np-76	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	4/5	6.1+	0.5	0.4	頭部幅0.8cm, 屈曲, 7段+	228-22	
8	Np-71	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央部	6.8+	0.5	0.6	5段+	228-23	
9	Np-46	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央部	7.5+	0.6	0.6	15段+	228-24	
10	Np-61	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	身部中央部	7.7+	1.2	0.7	14段+	228-25	
11	Np-68	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央部	7.9+	0.5	0.5	6段+	228-26	
12	Np-33	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央部	7.9+	0.7	0.7	17段+	228-27	
13	Np-67	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央部	8.5+	0.5	0.6	7段+	228-28	
14	Np-72	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	先端部のみ	6.5+	1.2	1.0	27段+	228-29	
15	Np-74	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央～先端部	6.2+	0.5	0.5	5段+	228-30	
16	Np-42	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央部	5.8+	0.5	0.5	5段+	228-31	
17	Np-29	1-A4・IVb層	鉄製品・釘	頭部欠損	4.8+	0.6	0.6	折曲, 4段+	228-32	
18	Np-81	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	ほぼ欠損	5.6	0.6	0.5	頭部幅1.0cm, 屈曲, 8段	228-33	
19	Np-57	1-A2・IVb層	鉄製品・釘	中央部	5.8+	0.5	0.5	折曲, 4段+	228-34	
20	Np-55	1-A2・IVb層	鉄製品・釘	中央部	4.4+	0.3	0.4	2段+	228-35	
21	Np-35	1-A2・IVb層	鉄製品・釘	先端部	4.4+	0.6	0.5	4段+	228-36	
22	Np-64	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	4/5	4.1+	0.4	0.4	4段+	228-37	
23	Np-73	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	ほぼ完整	5.1	0.6	0.7	頭部幅0.8cm, 折曲, 6段	228-38	
24	Np-37	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央部	4.3+	0.6	0.7	折曲, 7段+	228-39	
25	Np-35	2A4・IVb層	鉄製品・釘	2/3	4.7+	0.4	0.4	頭部幅1.0cm, 4段+	228-40	
26	Np-73	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	2/3	4.2+	0.6	0.5	頭部幅1.0cm, 5段+	228-41	
27	Np-79	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央～先端部	4.3+	0.3	0.4	折曲, 2段+	228-42	
28	Np-58	1-A2・IVb層	鉄製品・釘	中央部	3.8+	0.5	0.5	屈曲, 4段+	228-43	
29	Np-28	1-A2・IVb層	鉄製品・釘	4/5	4.7+	0.5	0.5	頭部幅0.9cm, 屈曲, 6段+	228-44	
30	Np-22	1-A2・IVb層	鉄製品・釘	完整	7.9	0.6	0.9	頭部幅1.3cm, 屈曲, 10段	228-45	
31	Np-49	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	変形	8.8	0.6	0.6	頭部幅1.1cm, 屈曲, 9段	228-46	
32	Np-62	1-A3・IVb層	鉄製品・釘	中央部	6.3+	0.5	0.5	折曲, 8段+	228-47	

第675図 IVb層出土遺物(4)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図版
						径	重量		
1	Nb-12	1-A3・IVb層	銅製品・鉄貨	完形	2.4	2.9g	咸平元寶(北宋・初鑄1000年)	228-48	
2	Nb-4	1-A3・IVb層	銅製品・鉄貨	完形	2.4	3.2g	天聖元寶(北宋・初鑄1023年)	228-49	
3	Nb-9	1-A3・IVb層	銅製品・鉄貨	完形	2.4	2.8g	慶祥錢?(南宋通寶・北宋・初鑄1099年)・景祐平背	228-50	
4	Nb-7	1-A4・IVb層	銅製品・鉄貨	完形	2.4	2.7g	慶祥錢?(南宋通寶・北宋・初鑄1099年)・景祐平背	228-51	
5	Nb-11	1-A3・IVb層	銅製品・鉄貨	完形	2.5	3.7g	慶祥錢?(南宋通寶・北宋・初鑄1099年)・景祐平背	228-52	
6	Nb-15	1-A3・IVb層	銅製品・鉄貨	完形	2.4	2.3g	嘉祐通寶(北宋・初鑄1056年)	228-53	
7	Nb-5	1-A3・IVb層	銅製品・鉄貨	完形	2.4	3.5g	治平元寶(北宋・初鑄1064年)	228-54	
8	Nb-13	1-A3・IVb層	銅製品・鉄貨	一部欠損・2分割	2.4	2.7g	熙寧元寶(北宋・初鑄1068年)	228-55	
9	Nb-8	1-A2・IVb層	銅製品・鉄貨	完形	2.4	2.8g	元祐通寶(北宋・初鑄1084年)	228-56	
10	Nb-14	1-A3・IVb層	銅製品・鉄貨	完形	2.3	2.3g	元祐通寶(北宋・初鑄1084年)	228-57	
11	Nb-10	1-A3・IVb層	銅製品・鉄貨	1/2	2.4	1.3g	元祐通寶(北宋・初鑄1084年)	228-58	
12	Nb-6	1-A3・IVb層	銅製品・鉄貨	一部欠損・2分割	2.4	2.5g	元祐通寶(北宋・初鑄1084年)	228-59	
13	Nb-23	2-B2・IVb層	銅製品・鉄貨	完形	2.1		慶祥錢(南宋通寶・北宋・初鑄1099年)・景祐平背	228-60	

第676図 IVb層出土遺物(5)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	高さ		
1	E-1	1-A3・V層	須恵器・杯	1/2	12.6	(7.4)	3.7~3.9	口径測定、器底の磁石不純物の付着、更紗/白磁の白針少量	228-63	
2	E-2	1-A3・Vb層	須恵器・ワ	脚部小片				口径測定、スリット1箇所、径4.5の穴1箇所	228-64	
3	Ic-77	2-B2・V層	陶器(厚土)・盃	底部小片				破片を加工した凹痕	228-65	
4	K-1	1-A3・Vc層	石製石・滑車	1/3	径4.1	厚1.8	厚0.7	孔径0.7~0.8cm、29g+、粘着片付	228-66	
5	K-7	1-A3・Vc層	石製品・磨石?	完形	径1~2.4	厚0.7	厚0.6	3.1cm、1.1g、黒色	228-67	
6	Nb-84	1-A2・V層	鉄製品・小札	ほぼ完形	長6.5	幅2.4	厚0.6	穿孔: 2列: 穴1、縦の穴と竜立の穴径4~5mm、下縁の穴径2.5~3mm、1.7g	228-68	
7	Nb-83	1-A2・V層	鉄製品・釘	頭部~中央部	径5.2+	幅0.8	厚0.7	無頭幅2cm、11g+	228-69	

第677図 V層出土遺物

第3編 第4次発掘調査

第1章 はじめに

第1節 調査方法

第4次発掘調査は県道「泉塩釜線」と「利府岩切停車場線」建設工事に伴い、平成12年4月18日～12月27日まで実施された。

1. 調査区とグリッドの設定

本調査対象区は第1次調査8C区および11E区の東側に位置している。県道「泉塩釜線」と「利府岩切停車場線」の交差点にあたる箇所から南側140mまでの「利府岩切停車場線」を調査対象とした。交差点に1区、その南側にある水路のさらに南側に2区と3区、3区南側の生活道路を挟んだ南側に4区を設定した。各区の面積は1区-200㎡、2区-630㎡、3区-585㎡、4区-258㎡、総計1,673㎡である。

遺構実測用の基準杭は調査区の方に合わせて設置し、これによって10mグリッドを設定した。グリッドの名称は南北方向を北から南にA、B、Cなどのアルファベット、東西方向を1,2,3などの数字とし、A1、B3などの組み合わせで表した。なお、グリッドの名称はその北西コーナーのグリッド杭の名称とも一致している。方位についてはグリッド杭の座標値を測定し、図1で真北を求める方法をとった。なお、G3(2区北部)とM3(3区南部)の座標値は以下の通りである。

G 3 : X = -188.670099km, Y = +10.936754km

M 3 : X = -188.728730km, Y = +10.924008km

2. 調査方法

重機で礫土や表土を除去し、精査はその下層から実施した。1区と2～3区東半部は水田耕作土が分布していたので、各層を「気」に検出することはせず、直上層中において駐眸確認作業を行ないながら下層の検出に努めた。なお、調査区の周囲には排水を兼ねた土層観察用の側溝を設けている。

遺構の平面図は基準杭によって簡易造り方を組み、1/40あるいは1/20で作成した。断面図は1/20で作成した。

写真は1/35モノクロとリバーサルを一眼レフカメラで撮影し、補助的にレンズ付フィルムも使用している。

遺物は各遺構別の堆積上ごとに取り上げたが、堆積土で区別しなかった場合もある。遺構に伴わない基本層中の遺物は層ごとに10mグリッド別に取り上げた。

第2節 基本層序

調査区は1区が1次調査8C区の南東側約40mで、後背湿地に位置している。2～4区は1次調査11E区の東側約60mに位置しているが、このうち2～3区はちょうど自然堤防の東端から後背湿地にかかる地形の変換点に該当する。4区は自然堤防部分にあたると思われる。

1区の基本層序は1次調査の後背湿地部分(1～8区)とはほぼ一致しているが、細かな対応関係を明らかにすることはできなかった。2・3区は1次調査の自然堤防部分(9～11区)とはほぼ一致するが、一部に後背湿地部分の基本層も混在している。4区はほぼ1次調査の自然堤防部分と一致するが欠落する層もある。ここでは1区と2～4区に分けて記述する。



1. 1区の基本層序

1層 盛土以前の現代水田耕作土層である。1a～1c層に細分した。

1a層 10YR3/3 暗褐色砂質シルト。木炭粒を少量含む。層厚は約30cmである。

1b層 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト。木炭粒を少量含む。層厚は約10cmである。

1c層 10Y4/1 灰色シルト質粘土。南壁付近にのみ分布する。

2層 2a～2c層に細分したが、合わせるると層厚が70～80cmある。1次調査区の微高地部分のII層に対応する可能性があるが細分した層の対応はできなかった。

2a層 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト。マンガン粒を少量含む。層厚は20～30cmで下面は平坦である。

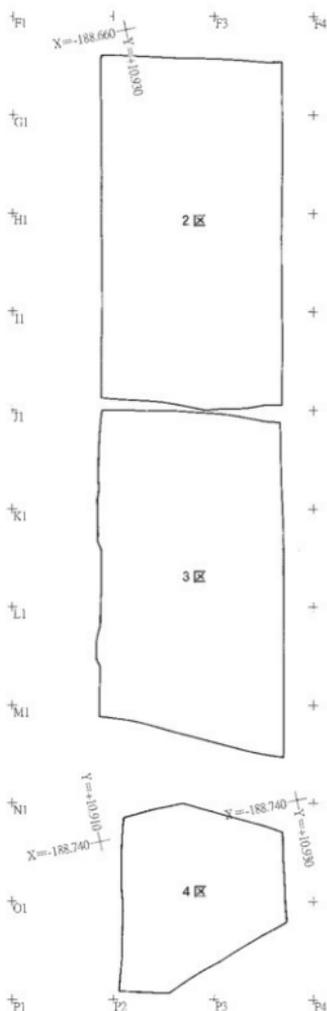
2b層 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト。層下面に酸化鉄の集積層がある。マンガン粒を少量含む。層厚は20～30cmで下面は平坦である。1層でピットを検出している。

2c層 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト。層中に酸化鉄の集積層が2～3層ある。マンガン粒を微量含む。層厚は5～40cmで下面には緩やかな起伏がある。

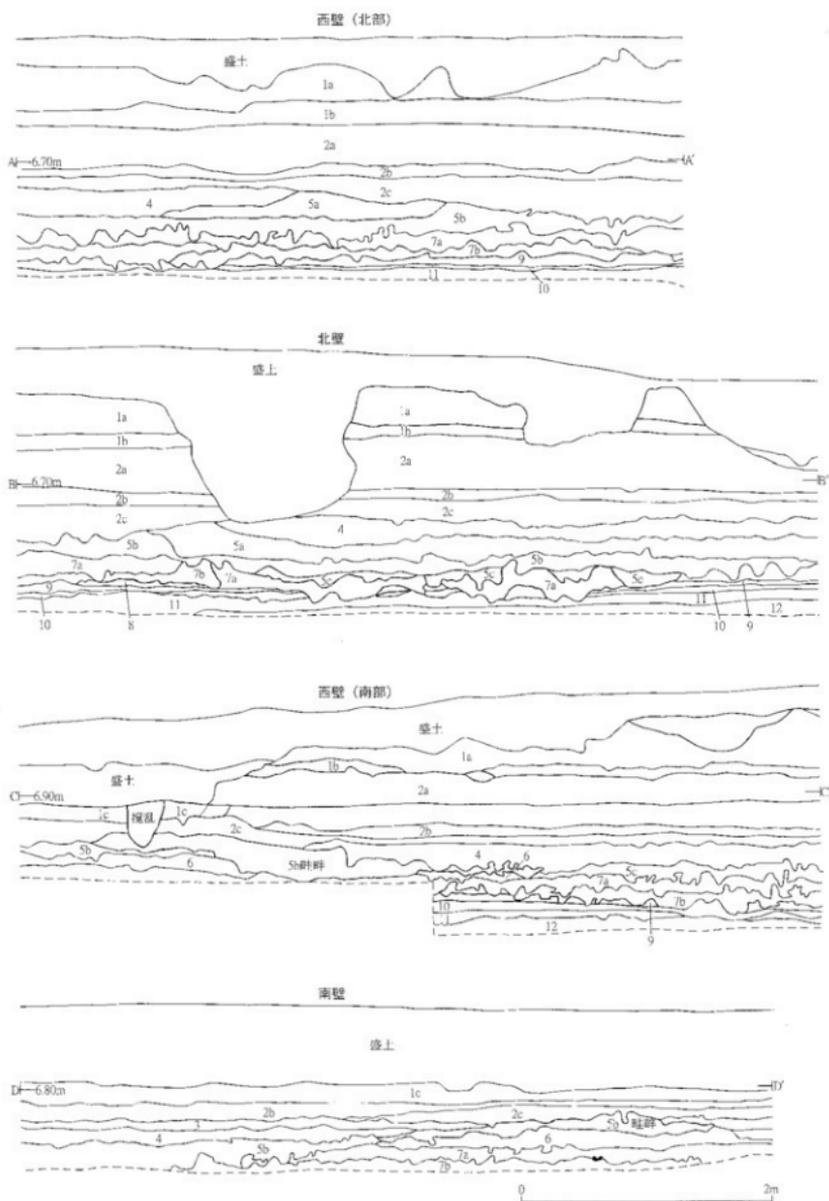
3層 2.5Y3/2 黒褐色粘土。管状の酸化鉄を多量に含む。南壁際のみ分布する。層厚は5～10cmで、下面には緩やかな起伏がある。水田耕作土と推定され、1次調査区の3a層か3b層に対応すると考えられる。

4層 10Y3/1 オリーブ黒色シルト。層厚は10～15cmで、下面には細かな起伏が認められる。水田耕作土と推定され、1次調査区の4a層か4b層に対応すると考えられる。

5層 グライ化した粘土層で、5a～5c層に細分した。



第678図 調査区設定図



第679図 1区北壁・西壁・南壁断面図(位置は第684頁2b層上面平面図)

5a層 5GY2/I オリーブ黒色シルト質粘土。灰オリーブ色細砂ブロックを少量含む。酸化鉄を斑文状に少量含む。層厚は10~20cmで、下面には細かな起伏が認められる。水田耕作土であり、1次調査区の5a層に対応する可能性がある。

5b層 7.5Y2/I 黒色粘土。層厚は10~20cmで、下面は激しい凹凸があり、7a層を巻き上げている。水田耕作土であり、1次調査区の5b層に対応する可能性がある。

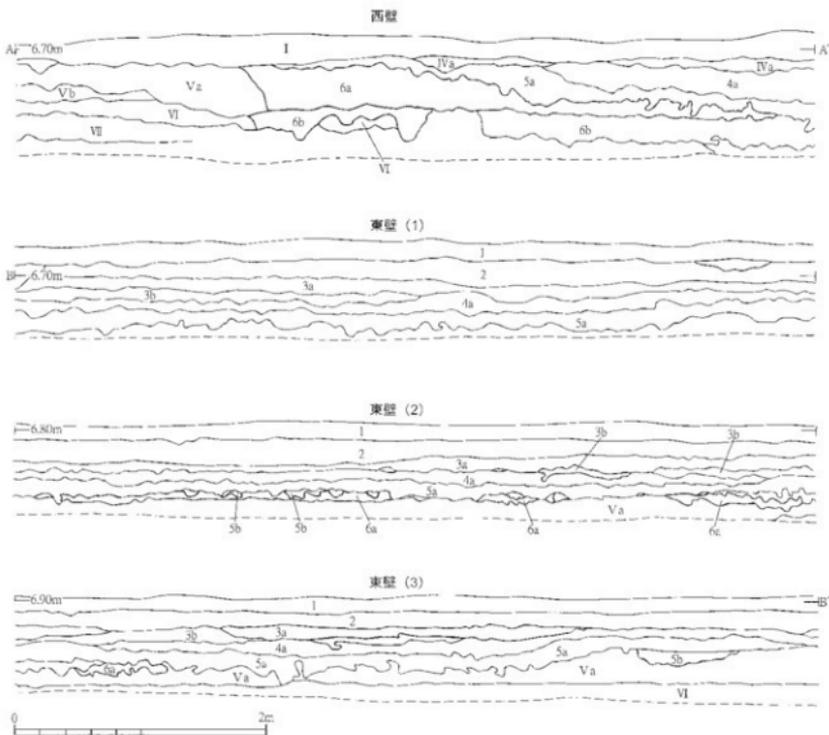
5c層 5Y2/I 黒色粘土。部分的な分布で、7a層をブロック状に巻き上げている。基本的に5b層耕作土下部のあまり攪拌されていない部分と推定される。

6層 5Y2/I 黒色粘土。灰オリーブ色粘土ブロックをわずかに含む。南西部の5b層の大畦畔と推定される部分のみ分布している。下面の起伏は緩やかである。耕作土かどうかは判断できない。

7層 グライ化が進んだ粘土層で、7a層と7b層に細分した。

7a層 5GY3/I 暗オリーブ灰色シルト質粘土。層厚は10~15cmで、下面は激しい凹凸があり、7b層やその直下層を巻き上げている。平安時代後半の水田耕作土と考えられ、1次調査区の6a層に対応する可能性がある。

7b層 7.5Y4/I 灰色粘土。層上面に灰白色火山灰ブロックをわずかに含む。黒色粘土ブロックをわずかに含む。平安時代前半の水田耕作土と考えられ、1次調査区の6b層に対応する可能性がある。



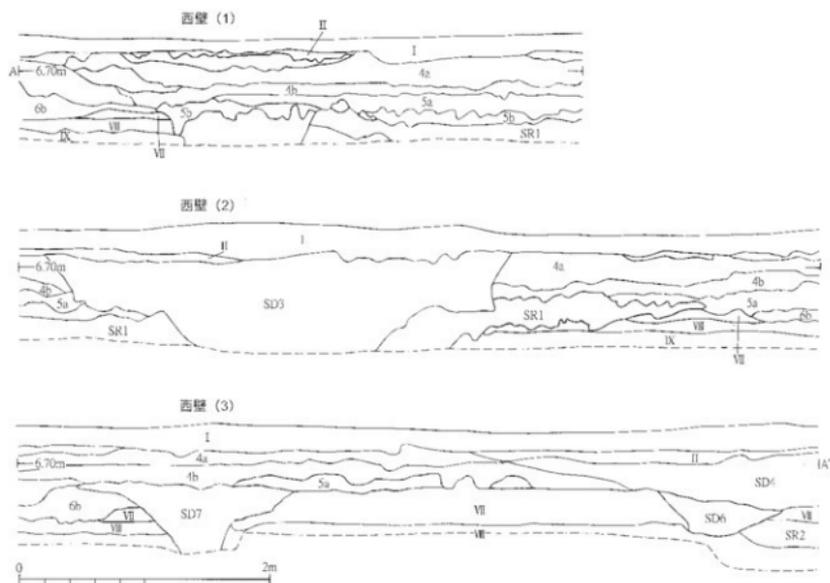
第680図 2区西壁・東壁断面図 (位置は第689図)

- 8層 7.5Y2/1 黒色粘土。北壁で部分的に確認した。層厚約5cmで自然堆積層と考えられる。
 9層 10Y2/1 黒色粘土。層厚約5cmで自然堆積層と考えられる。
 10層 10Y4/1 灰色粘土。層厚5~10cmで自然堆積層と考えられる。
 11層 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘土。層厚約10cmで自然堆積層と考えられる。
 12層 10Y2/1 黒色粘土。自然堆積層と考えられる。

2. 2~4区の基本層序

前述したように2~3区は自然堤防の東端から後背湿地にかかる地形の変換点に該当する。このため2~3区の西側では第1次調査の偏高地(9~11区)の基本層と一致するが、東側では低地の基本層が混在している。

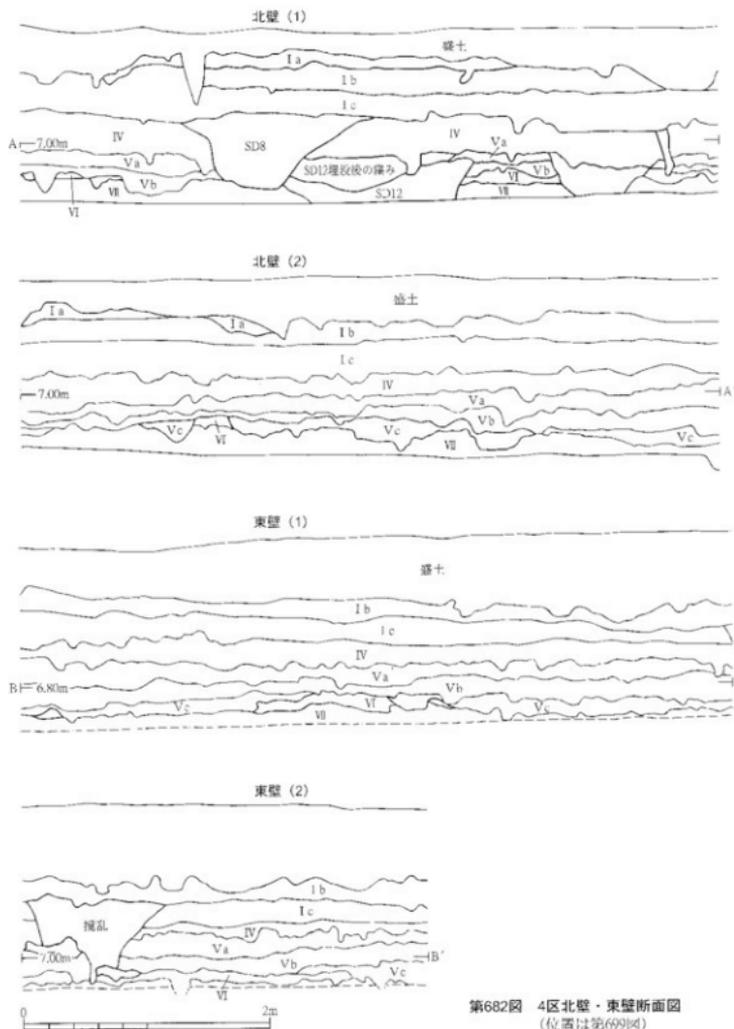
- 1層 10YR3/2 黒褐色粘土。酸化鉄を斑文状に多く含み、層厚は約20cmである。現代水田耕作土。
 2層 10YR4/2 シルト質粘土。酸化鉄を管状に多く含み、マンガン粒を少量含む。層厚は5~10cmで、下面には緩やかな起伏がある。2~3区の東半部に分布する。旧水田耕作土である。
 3a層 10YR3/2 黒褐色粘土。酸化鉄を管状に多く含み、マンガン粒を少量含む。層厚は5~10cmで、下面には緩やかな起伏がある。2区の東半部に分布する。1次調査の3a層に対応すると推定され、近世の水田耕作土と考えられる。
 3b層 2.5Y3/2 黒褐色粘土。暗灰黄色粘土ブロックを少量含み、酸化鉄を管状に多く含む。層厚は5~10cmで、下面には緩やかな起伏がある。2区の東半部に分布する。1次調査の3b層に対応すると推定され、中世末の水田耕作土と考えられる。
 IVa層 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土。酸化鉄を管状に少量含む。層厚は10~20cmである。2区の西半部と4区に分布



第681図 3区西壁断面図(位置は第695図)

する。第1次調査のIVa層と対応すると推定され、上面が中世の遺構確認面となっている。4区では直下層を巻き上げているので、部分的に畑として利用されている箇所があると考えられる。

4a層 10YR3/1 黒褐色粘土。酸化鉄を管状に少量含む。層厚は5~10cmで、下面には緩やかな起伏がある。2~3区に分布する。第1次調査の4a層に対応すると推定され、中世後半の水田耕作上と考えられる。



第682図 4区北壁・東壁断面図
(位置は第699図)

- 4b層** 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト。にぶい黄褐色シルトブロックを多量に含む。酸化鉄を斑文状に多量に含む。層厚は5~10cmで、下面には緩やかな起伏がある。3区西部に分布する。第1次調査の4b層に対応すると推定され、中世後半の水田耕作土と考えられる。
- 5a層** 2区では5Y3/1 オリーブ黒色粘土だが、3区ではやや色調が明るくなる。層厚は5~15cmで、下面には起伏があり、直下層のブロックを巻き上げている。2~3区に分布する。第1次調査の5a層に対応すると推定され、中世後半の水田耕作土と考えられる。
- 5b層** 2.5Y3/1 黒褐色粘土。暗灰黄色シルト質粘土ブロックを少量含む。層厚は5~10cmで、下面には起伏がある。2区東部と3区西部で部分的に確認できたのみであるが、第1次調査の5b層に対応すると推定され、中世前半の水田耕作土と考えられる。
- 6a層** 10YR5/2 灰黄褐色粘土。酸化鉄を管状に多く含む。層厚は約10~30cmで、下面には緩やかな起伏がある。2区に分布する。第1次調査の6a層に対応すると推定され、平安時代後半の水田耕作土と考えられる。
- Va層** 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土。酸化鉄を管状に多く含む、砂粒を少量含む。層厚は10~25cmである。2区と4区に分布し、4区では直下層に小溝群を残すことから畑の耕作土と考えられる。
- 6b層** 5GY3/1 暗オリーブ灰色シルト。層厚は5~20cmで、下面には緩やかな起伏がある。2~3区西部で部分的に確認できたのみである。平安時代前半の水田耕作土と考えられる。
- Vb層** 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト。灰黄褐色シルトブロックを少量含む。層厚は10~25cmである。2区西部と4区に分布する。直下層に小溝群を残すことから畑の耕作土と考えられる。
- Vc層** 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土。にぶい黄褐色細砂ブロックを少量含む。Vb層の母材層と推定される。
- VI層** 10YR3/1 黒褐色粘土。層厚は5~10cmであるが、Vb層の耕作深度が深い箇所ではほとんど遺存しない。
- VII層** 7.5GY3/1 暗緑灰色粗砂。3区では上面で河川跡や土坑が確認されている。
- Ⅷ層以下**は4区で下層調査を実施した関係で、4区でのみ確認している。
- VIII層** 10YR3/2 黒褐色粘土。にぶい黄褐色粘土ブロックを少量含む。
- IX層** 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土質シルト。
- X層** 5Y3/1 オリーブ黒色粘土と5Y4/1 灰色粘土の互層。
- XIa層** 2.5Y2/1 黒色粘土。
- XIb層** 2.5Y3/1 黒褐色粘土。
- Ⅻ層** 5Y4/1 灰色粘土。

第2章 1区の調査

1. 概要

1区は最も北に位置する調査区で、盛土される以前は水田として利用されていた箇所である。調査区は東西10m×南北20mである。4層上面までは全面精査を行なったが、5層以下は南北13mに縮小した。2層上面でビットなどの遺構を確認し、5a層・5b層・7a層では水田跡を確認した。なお、畦畔は確認できなかったが3層・4層・7b層は水田耕作土と考えられた。

2. 2b層上面 (第684図)

2b層は灰黄褐色の粘土質シルトで、上面でビット13基を検出している。ビットは「L」字状に曲がるものと直線的に並ぶものがあり、確定は出来なかったが掘立柱建物跡の一部である可能性がある。西に約60m離れた第1次調査8C区南端では小規模な門跡と塀が確認されているので、この付近に小規模な建物が存在していたと考えられる。2b

層の時期は確定できないが、下層の3層が第1次調査の3a~3b層に対応すると考えられることから近世以降と推定される。

ピット中からは土器片2点が出土し、瓦質土器が図化できた(第683図2)。

3. 5a層水田跡(第684図)

5a層はオリーブ黒色のシルト質粘土である。北西隅で畦畔を1条確認した。畦畔は耕作上を盛り上げて作られており、上端幅90cm、下端幅1.5m、高さ5~15cmで、方向はN-55°-Eである。他に畦畔を確認できなかったので水田区画についての詳細は明らかに出来なかった。

遺物は土師器・須恵器など15点が出土したが図化はできなかった。

4. 5b層水田跡(第684図)

5b層は黒色の粘土である。北西隅で段差を1箇所確認したほか、調査区壁面の観察により、南西部に大畦畔が存在した可能性が高いと考えられる。北西部の段差は高さ8cmで、方向は部分的なため確定できなかった。南西部の大畦畔と考えられるものは粘土や粘土質シルトのブロック土を5b層上に盛り上げて作られており、幅2.8m、高さ5~15cmで、方向はN-19°-Wである。なお、畦畔内部には6a層が認められたが、これは畦畔直下のみが耕作されずに擬似畦畔B(註1)状に残存した結果と考えられる。水田区画についての詳細は明らかにできなかった。

遺物は土師器・須恵器片が3点出土したが図化はできなかった。

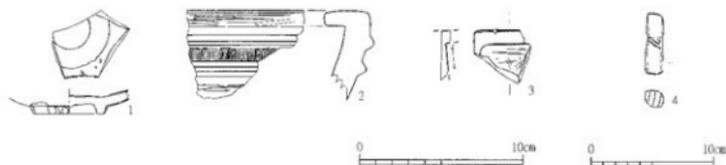
5. 7a層水田跡(第684図)

7a層はオリーブ灰色のシルト質粘土である。畦畔は確認できなかったが、南北方向の段差を確認した。西側が15cm前後高く、方向はN-4°-Wである。なお、水田区画についての詳細は明らかにできなかった。

遺物は土師器・須恵器・土師質土器皿類など5点で、図化はできなかった。

6. その他の出土遺物

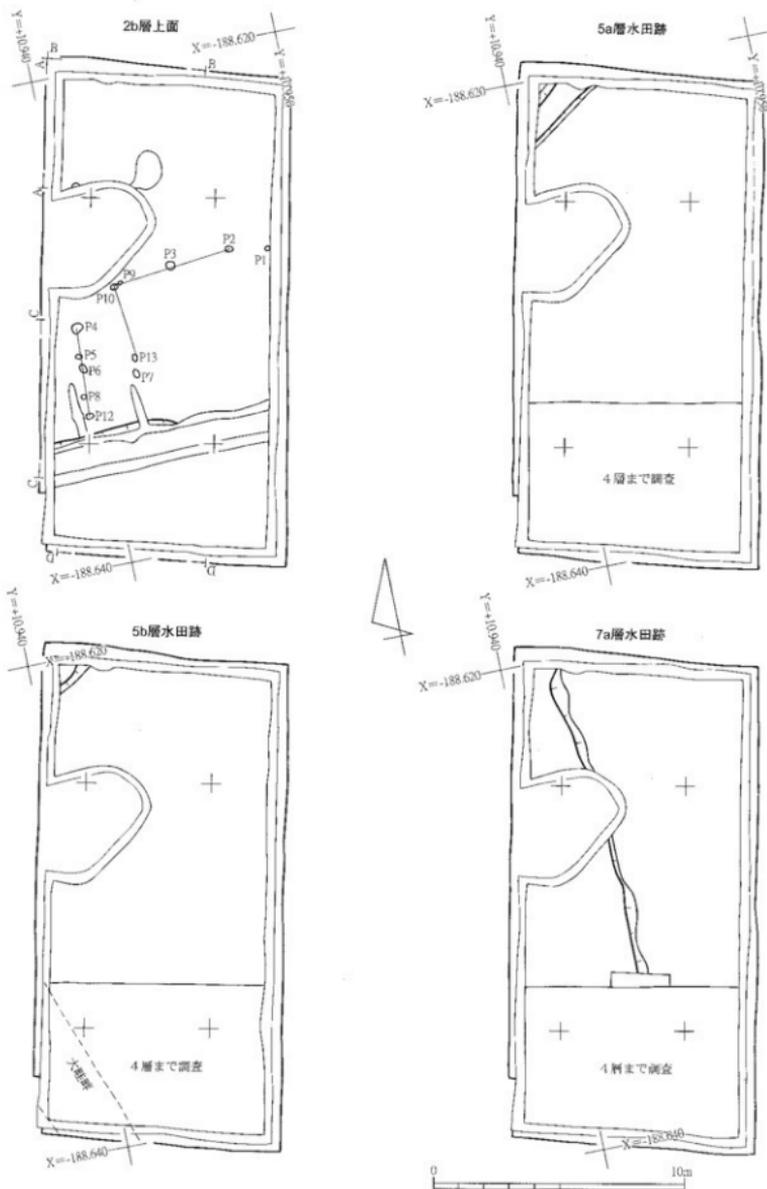
水田跡が検出された5a層・5b層・7a層の他に、1~4層・5c層・6層中からも土師器・須恵器・土師質土器皿類などの遺物が出土している(表146)。図化できたのは中国産の白磁皿、石製の硯、木製の編具などである(第683図1・3・4)。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存状況	括弧(cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	J-1	1-1層	白磁(中国)皿	底径1/5			(4.2)	厚込み輪の付録鉢耳	264-1
2	Ib-1	1-P7	瓦質土器・火鉢	11線部小片				口付調整、赤褐色・赤褐色ヘラミカ、凸形漆、凸形部に雷文スタンピング、内外面黒色色埋、白針少量	264-2
3	K-1	1-2層	石製品・硯	部分	長3.5+	幅3.3+	厚0.6+	7g±、頁岩	264-3
4	L-1	1-6層水田跡	木製品・編具	球足発形	長5.1		幅1.5	削り材を加工	264-4

第683図 1区出土遺物

(註1)「擬似畦畔B」は仙台市文化財調査報告書第98集『富沢 仙台市都市計画道路長町・折立線建設に伴う高沢遺跡第15次発掘調査報告書』において提唱された。東日本の水田跡を考える会『第3会東日本の水田跡を考える会資料集』1990にも掲載。



第684図 1区 2b層上面・5a層水田跡・5b層水田跡・7a層水田跡平面図

第3章 2～4区の調査

第1節 IVa層上面の遺構

1. 遺構の概要

IVa層は黒褐色のシルト質粘土で、2区西半部と4区に分布している。IVa層が分布していない2区東半部～3区にかけては水田耕作上の4a層が認められる。これらの層の上面では東西・南北方向の堀跡や溝跡によって区画が形成されており、井戸跡や土坑などが確認されたが、遺構には重複関係が認められることから異なる時期の遺構が混在していると考えられる。2～4区は第1次調査11E区の東方約60mに位置しており、位置関係からすると確認された区画は第1次調査で確認された城館跡の東端部の曲輪であると考えられる。第1次調査では、城館跡はIVa1期～IVa4期までの変遷が捉えられ、その下層にIVb1期～IVb2期の屋敷跡も確認されている。今回の調査ではIVb層は確認できなかったため、大部分の遺構は第1次調査のIVa1期～IVa4期に含まれると考えられるが、最も新しい遺構は近世にまで下ると推定される。

2. IVa期以降の遺構と遺物

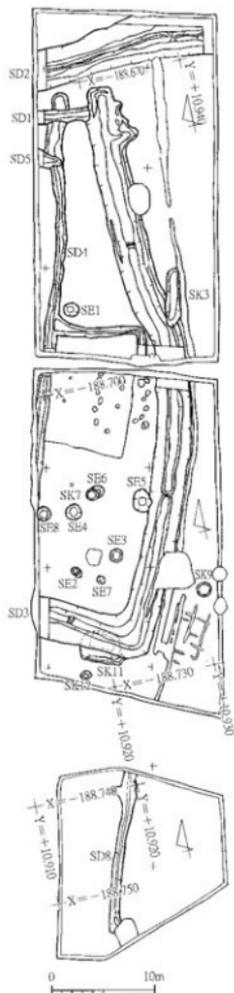
重複関係や出土遺物から明らかにIVa期以降と考えられるのは2区のSK3と3区のSE5・SE8である。

(1)井戸跡

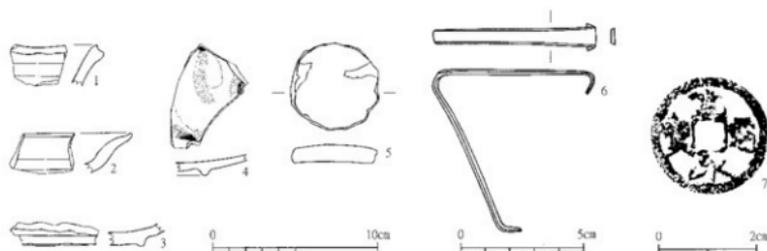
SE5 (第703図) 3区中央部に位置し、東部がわずかにSD3を切っている。不整形円形で大きさは2.3×1.8m、東側がやや窪んでいるが、これは東側のSD3を意識した結果ではないと考えられる。深さは2.8mで、断面形は上部がほぼ垂直であるが確認面から約1mの箇所に段がつき、そこから急に狭くなっている。段から上層の堆積土1・2層は人為的な埋土と考えられるが、3層以下は自然堆積層と推定される。なお、3層より下層は危険防止のため半載しなかったため図示はしていない。

遺物は土師器、十師質土器皿類、中世陶器、近世の磁器、金属製品など7点で、図化できたのは瀬戸や肥前など16世紀末～17世紀前半の陶磁器類、毛抜きや銭貨（古寛永）などの銅製品である（第686図）。

SE8 (第703図) 3区西壁際に位置する。径1.5×1.3mの楕円形で、深さは2.3mである。堆積上1～2層は人為的な埋土と考えられるが、3層以下は自然堆積層と推定される。なお、4層より下層は危険防止のため半載しなかったため図示はしていない。

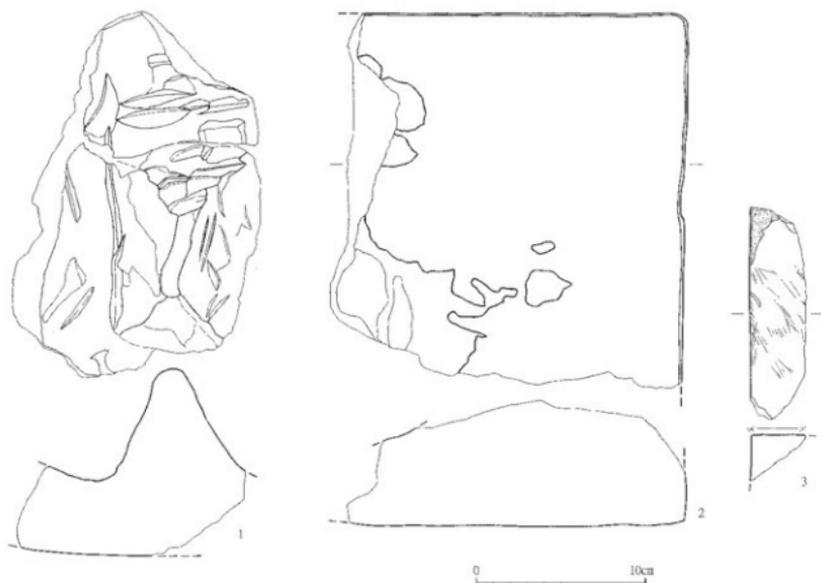


第685図 2～4区 IVa層上面平面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口縁部小片	底径	高さ		
1	Tc-35	3-SE5	陶器(甲)	片1	口縁部小片				内外面鉄粉	273-13
2	Tc-43	3-SE5	陶器(瀬戸)	端反踵	口縁～体部片				灰釉。大部3期?	273-14
3	Tc-36	3-SE5	陶器(志野)	皿	底部小片				窯場1～2期	273-15
4	T-17	3-SE5	漆器(左衛門)	駒?	底部分				漆付	273-17
5	Tc-39	3-SE5	銅器(左衛門)	加工作品	残部	径5.3	厚1.0		鉄を加工して製作	273-16
6	Nb-7	3-SE5	銅製品	毛抜き	完形	径7.2	幅0.7	厚0.15		273-18
7	Nb-8	3-SE5	銅製品	鉢	完形	径2.4		重2.6g	寛永通寶(古寛永)	273-19

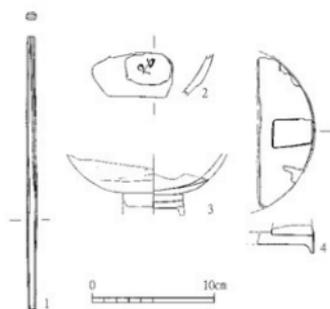
第686図 SE5出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						高さ	幅	厚さ		
1	K-20	2-SK3	石製品	用途不明	部分	22.0+	136+	11.3	1180g±。デイサイト質凝灰岩	278-1
2	K-20	2-SK3	石製品	用途不明	部分	22.4+	203+	7.2+	2300g±。デイサイト質凝灰岩	
3	K-4	2-SK3	石製品	風石	部分	12.9+	3.4+	2.8+	120g±。頁岩・砂岩互層	278-2

第687図 SK3出土遺物

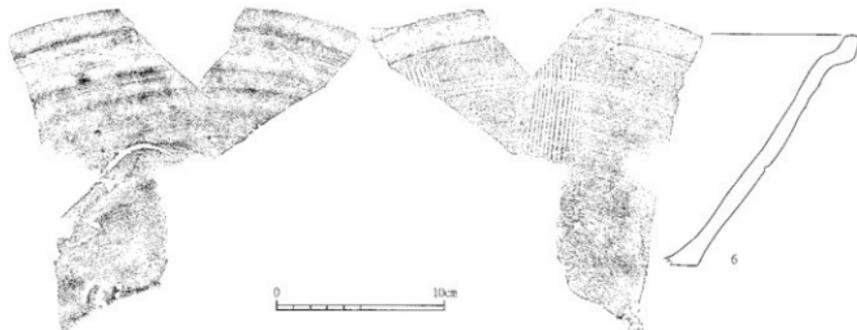
遺物は瓦質土器、中世陶器、近世陶器、木製品など7点が出土し、このうち6点が図化できた(第688図)。17世紀後半と推定されるIc-15瀬戸・美濃端反皿やIc-28瀬戸・美濃播鉢が含まれている。



(2)土坑

SK3(第701図) 2区南部に位置し、SD3を切っている。長さ5.9m、幅1.6mの長楕円形を呈し、断面形は浅い「U」字形で底面はほぼ平坦である。堆積土は自然堆積層である。

遺物は土師質土器や近世の陶磁器類、石製品が10点出土した。図化できたのは石製品3点であるが(第687図)1・2は本文同一個体と考えられる。一辺50cm程度の方角と推定され、中央部には断面三角形の突起が作られている。用途は不明である。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	L-52	3-SE8・下層	木製品・箸	完形	22.4		径0.8		274-5	
2	L-54	3-SE8	木製品・漆器柄	片断小片				内面黒色、外面黒色・赤漆文様	274-8	
3	L-53	3-SE8	木製品・漆器柄	下半のみ		(5.0)		内面赤漆、外面黒色・赤漆文様	274-7	
4	L-55	3-SE8	木製品・漆器蓋	1/4	径(4.0)		厚10~17	内外面に褐色漆	274-6	
5	Ic-15	3-SE8・下層	陶器(瀬戸)端反皿	完形	12.9	8.1	2.4	器底平坦、内面に竹炭ピンの痕跡・墨河、身置4個 ロケ口調整、内外面鉄線、内面に13本一 組の筋目、内面黒色磨滅、耳袋4~5割	274-10	
6	Ic-28	3-SE8	陶器(瀬戸・美濃)播鉢	1/7					274-9	

第688図 SE8出土遺物

3. IVa期の遺構と遺物

(1)溝跡

SD1(第689・694図) 2区北西部に位置する東西方向の溝跡で、SD4を切り、SD3の北部に接続している。新旧関係を確認するためにSD1とSD3を通した断面観察を行ったが、重複関係は認められなかったことから両者は同時に機能していたと考えられる(第694図G-G')。方向はN-81°-Wであるが、検出できた長さが約5mと短いため明確ではない。幅1~1.5m、断面形は上部がやや開いた逆台形で深さは55cmである。底面は西側が20cm程低い。堆積土は

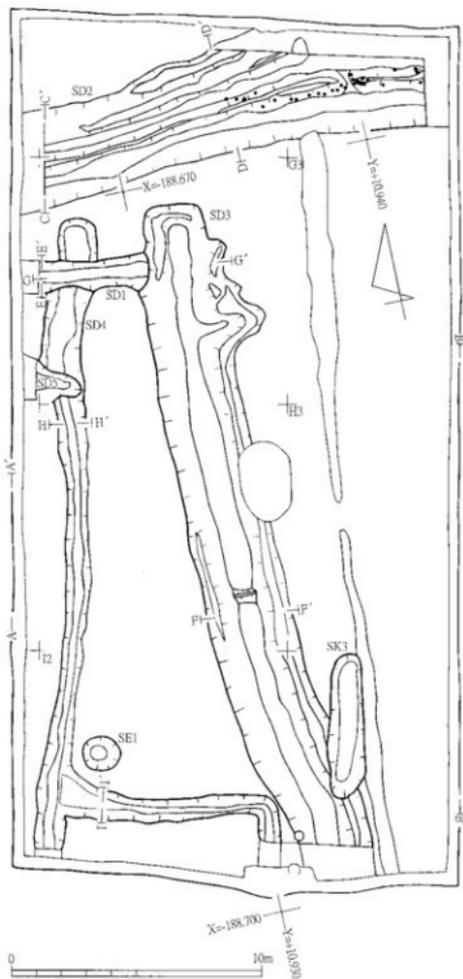
最上層に人為的な埋め上がり認められたが大部分は粘土を主とする自然堆積層で、中には細砂や泥炭質粘土との互層となっていて水成堆積層と考えられる層もある。

遺物は土師器・須恵器・中世陶器・木製品など9点である。ロール状になった樹皮I-28が図化できたが(第691図1)、曲げ物の縦じ紐のような材料である可能性が考えられる(註1)。

SD2(第689・690図) 2区北部を東西方向に横断する溝跡で、4期の溝が重複している。新しい溝はそれぞれが古い溝から幅半分程北にずらして掘りなおされている。新しい順にSD2A・2B・2C・2Dとしたが、平面的にそれぞれの堆積土を識別して精査することが困難であったため同時に精査する結果となり、平面図も全部を完掘した段階で作成している。方向は最も古いSD2DがN-90°-E、SD2CがN-85°-E、SD2BとSD2AはN-80°-E前後で、新しくなるにつれて北東→南西に振れていく傾向にある。個別の幅は不明確であるが、SD2Aが1.2～1.5m、SD2Bが2m、SD2Cが2～2.5m、SD2Dが2m前後と推定される。断面形はすべて逆台形で、深さはSD2Aが最も浅く50～70cm、SD2Bが50～70cm、SD2Cが70～80cm、SD2Dが最も深く90cmである。底面はほぼ平坦であるが東に向かって緩やかな傾斜が認められる。堆積土は、部分的に人為的に埋め戻した箇所が認められるものの大部分は粘土・泥炭質粘土・砂などの細かい互層となっており、水成堆積層と考えられる。

東半部には杭が約25本打ち込まれていたが(第693図)、杭の上部は腐食しており先端部のみが遺存していた。杭列は南側から延びてくるSD3の延長線から東側のみ認められ、その位置はSD2Bの南側の岸に相当するが、SD2Cの南壁かSD2Dの北壁に打ち込まれていた可能性もある。杭列の性格は断定できないが、場所を限定して部分的に設けられた護岸施設か、防衛施設であると考えられる。

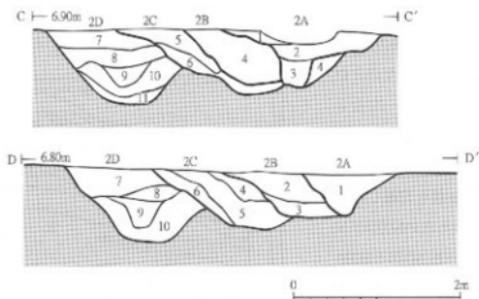
遺物は土師器・須恵器・土師質土器皿類、中世陶器、木製品、土製品、鉄滓など130点が出土した。図化できたのは木製品や羽口、鉄滓など20点で(第691図2～21)、Na-1鉄葉(20)と同一の形態のものが第1次調査で出土している(註2)。第692図は杭列のうちの一部の杭



第689図 2区IVa層上面平面図

材で、丸木材と分割材が用いられている。

SD3 (第689・694・695図) 2~3区を南北方向に縦断し、3区南部で西方に屈曲する溝跡で、規模が大きいことから城館の「堀跡」と考えられる。2区南部ではSK3、3区ではSESに切れ、3区南部ではSK11を切っている。溝跡の北



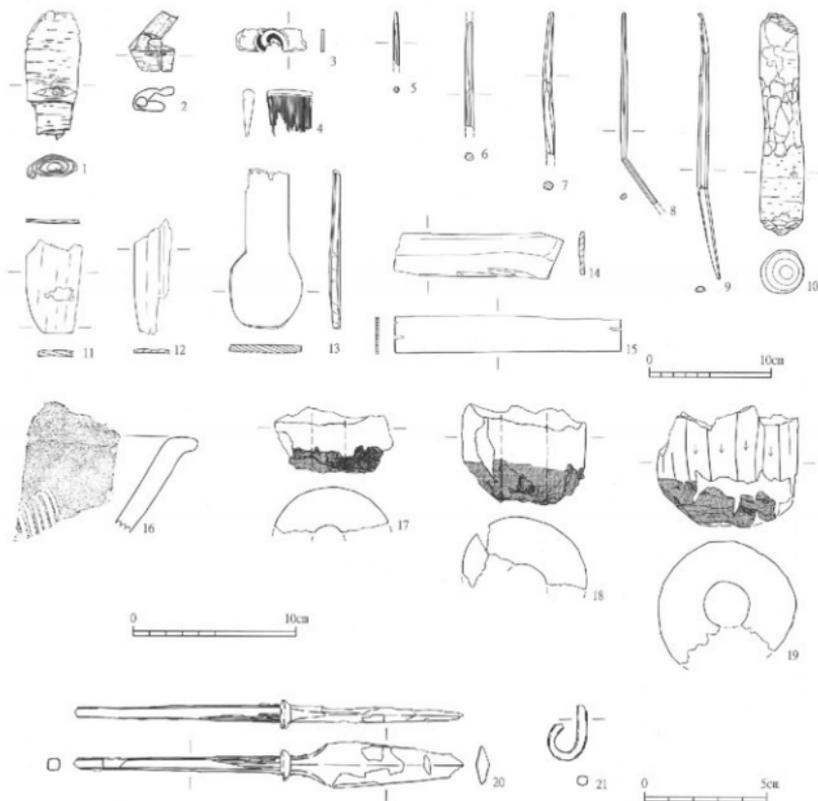
SD2 西壁 (C-C')

層位	色調	土質	混入物・その他	
SD2A	10YR4/2 10YR3/2	灰黄褐色 黒褐色	砂質シルト シルト	互層
	2.5Y3/1 2.5Y3/2	黒褐色 黒褐色	粘土 粘土	ブロックの混入
	2.5Y3/1 5Y3/1	黒褐色 オリーブ黒色	粘土 粘土	互層 (やぶれれる)
SD2B	10YR3/2 5Y4/1 2.5Y3/1 2.5Y3/1	黒褐色 灰色 黒褐色 黒褐色	泥炭質粘土 粘土 泥炭質粘土 粘土	互層
	5Y4/1	灰色	粘土	黒褐色粘土ブロック少量、炭化物微量
	5Y2/1 7.5Y4/1 2.5Y3/1	オリーブ黒色 灰色 黒褐色	粘土 砂質シルト 泥炭質粘土	互層 炭化物微量
	2.5Y3/2	黒褐色	粘土	炭化物少量
SD2D	10YR4/2	黒褐色	シルト質粘土	細かい黄褐色シルトブロック・炭化物少量
	2.5Y3/1 2.5Y3/1 2.5Y3/1	電灰色 黒褐色 黒褐色	粗砂 泥炭質粘土 粘土	互層 炭化物少量
SD2D	5Y3/1 2.5Y3/1 7.5Y3/1	オリーブ黒色 黒褐色 オリーブ黒色	粘土 砂質シルト 粗砂	互層 炭化物少量
	2.5Y3/1	黒褐色	泥炭質粘土	炭化物微量

SD2 中央ベルト (D-D')

層位	色調	土質	混入物・その他	
SD2A	1 5Y3/1	オリーブ黒色 粘土	オリーブ黒色粗砂ブロック少量	
SD2B	2 2.5Y3/2 2.5Y3/1	黒褐色 黒褐色	粘土 粘土	互層
	3 5Y3/1 5Y3/2	オリーブ黒色 オリーブ黒色	粘土 泥炭質粘土	互層
	SD2C	4 2.5Y3/1 5Y3/1	黒褐色 オリーブ黒色	粘土 粗砂
5 5Y3/1 5Y2/2 5Y2/1		オリーブ黒色 オリーブ黒色 黒色	粘土 シルト 泥炭質粘土	互層
6 7.5Y3/1 7.5Y3/1 5Y2/1		オリーブ黒色 オリーブ黒色 黒色	粘土 シルト 粘土	互層 黄灰色シルト質粘土ブロック・黒色粘土ブロックを部分的に少量
SD2D	7 2.5Y3/2 2.5Y3/1	黒褐色 黒褐色	粗砂 粘土	互層 (やぶれれる)
	8 2.5Y3/1 5Y3/2	黒褐色 オリーブ黒色	粘土 シルト	ブロッ クの混入
	9 2.5Y3/1 5Y3/1	黒褐色 オリーブ黒色	粘土 粗砂	互層 (やぶれれる)
	10 2.5Y3/2 2.5Y3/1	黒褐色 黒褐色	粗砂 泥炭質粘土	互層 (やぶれれる)

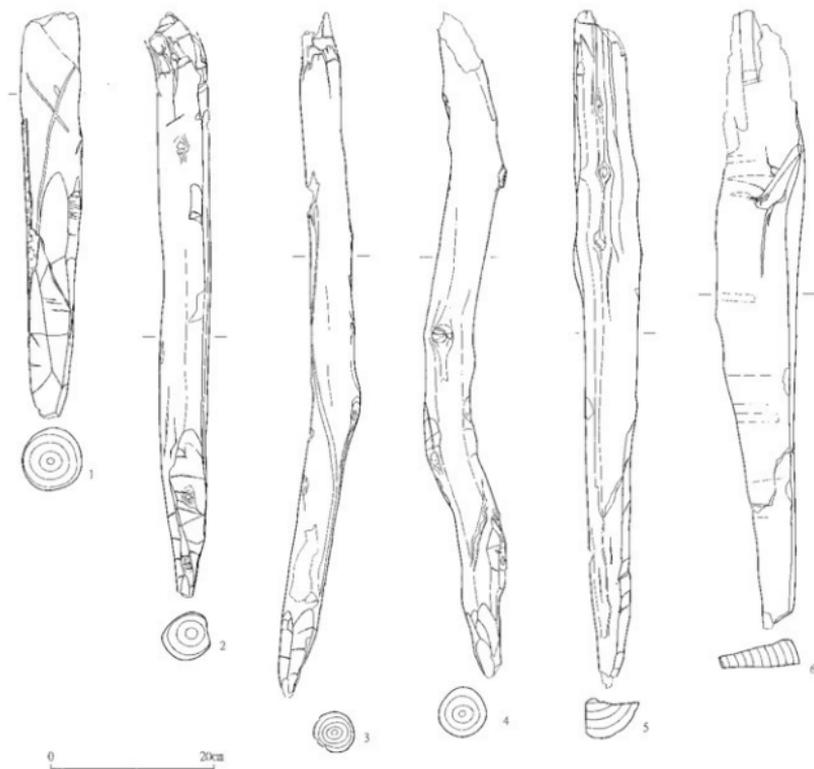
第690図 SD2断面図



No	登録No	地区・遺構・階位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 巻数
					長さ	幅	厚さ		
1	L-28	2-SD1・中層	樹皮	?				ロール状	267-9
2	L-11	2-SD2B・下層	樹皮	?				ロール状	267-10
3	L-13	2-SD2B	木製品・漆器箱	小片	5.7+	1.9+	厚0.2	内面黒色, 外面黒色・赤漆文様(巴文)	267-11
4	L-14	2-SD2B	木製品・櫛	1/3	3.6+	3.8	1.0		267-12
5	L-16	2-SD2B	木製品・箸	1/5	4.6+	0.5	0.5		267-13
6	L-18	2-SD2B	木製品・箸	1/2	8.6+	0.7	0.6		267-14
7	L-19	2-SD2B	木製品・箸	1/2	11.7+	0.7	0.7	1箇所で折れ	267-15
8	L-17	2-SD2B	木製品・箸	1/2	15.7+	0.6	0.3	1箇所で折れ	267-16
9	L-15	2-SD2B	木製品・箸	ほぼ完形	21.9	0.9	0.4	2箇所で折れ	267-17
10	L-21	2-SD2B	木製品・柄杓	ほぼ完形	18.2		径3.5	丸木材	267-18
11	L-24	2-SD2B	木製品・板草履	1/6	7.5+	4.5+	0.4		267-19
12	L-12	2-SD2B・下層	木製品・板草履	小片	8.7+	3.0+	0.3	板目	267-20
13	L-20	2-SD2B	木製品・しゃもじ	3/3	12.9+	5.9	0.6		267-21
14	L-25	2-SD2B	木製品・へら?	部分	13.3+	3.5	0.4	端部を三角形に整形, 板目	267-22
15	L-23	2-SD2B	木製品・掛敷	刺敷の一角	18.4	3.0+	0.2	板目	267-23
16	lb-3	2-SD2A・上層	灰質土器・鉢鉢	口縁・体部片				口縁口縁感, 内面に筋目, 黒色装飾	268-1
17	P-2	2-SD2A	土製品・羽口	先端部小片	4.0+	径(7.3)	孔径(2.0)	筋上に文字少量	268-2
18	P-3	2-SD2A	土製品・羽口	先端部小片	6.3+	径(7.6)	孔径(2.8)	筋上に文字少量	268-3
19	P-4	2-SD2A	土製品・羽口	先端部小片	7.5+	径(8.4)	孔径(2.7)	筋上に文字少量	268-4
20	Na-1	2-SD2・上層	鉄製品・鏝	両端部欠損	15.9+	1.7	0.5	板状形式・端縁粗1.3, 21頁+	268-5
21	Na-6	2-SD2B	鉄製品・釘?	中央部のみ	2.3	0.4	0.4	「U」字状, 1頁+	268-6

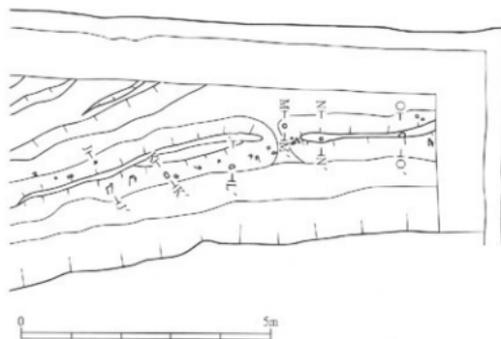
第691図 SD1・2出土遺物

端部はSD2南岸から約1.5m離れており、その間は通路状に開いている。北端部から約2.5m南側に西に延びるSD1に接続しているが、SD1の項で述べたようにSD3とSD1は同時期に機能していた溝跡と考えられる。なお、北端から約5mの地点には東側に向かって1.5mほど半円状に張り出す部分がある。南北部分の長さは約50mあるが直線ではなく、東方に向かって膨らむように、緩やかに屈曲している。2区における方向はN-10°-W、3区はN-22°-Eであるが、全体的にはN-5°-E前後である。3区南部の東西部分はN-60°-Wである。幅は3~4m、深さ1.0~1.2mで、断面形は下半部が逆台形であるが上半部は大きく開いており、このため壁面には明瞭な段が形成されている。堆積土もこの段の箇所では分層できることから、上半部は再掘削されている可能性が高い。底面には緩やかな起伏があるが

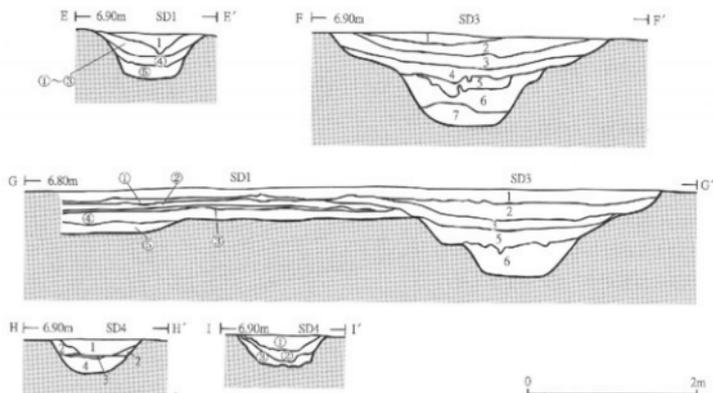
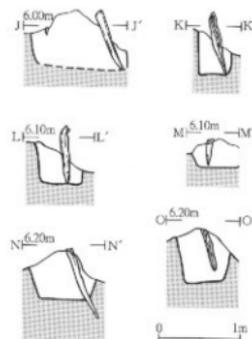


No	登録No	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写原 図層	
					長さ	幅			
1	L-68	2-SD2	木製品・杭	中央～先端部	49.0+		径7.7	268-7	
2	L-71	2-SD2	木製品・杭	中央～先端部	72.0+		径5.8	268-8	
3	L-73	2-SD2	木製品・杭	中央～先端部	84.3+		径5.0	268-9	
4	L-70	2-SD2	木製品・杭	中央～先端部	82.4+		径5.5	268-10	
5	L-72	2-SD2	木製品・杭	中央～先端部	83.9+	6.5	4.9	分割材	268-11
6	L-69	2-SD2	木製品・杭	中央～先端部	76.3+	10.5	3.1	分割材	268-12

第692図 SD2出土遺物



第693図 SD2杭列平面・断面図



層位	色別	土質	混入物・その他
SD1	① 2.5Y4/1 黄灰色 10YR5/2 黒褐色	シルト 粘土	瓦礫
	② 10YR3/1 黒褐色	粘土	オリーブ黒色粘土ブロック少量
	③ 5Y3/1 オリーブ黒色 2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト 黒土	瓦礫
	④ 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	⑤ 2.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	灰色粗砂ブロック少量
	⑥ 5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	
SD3	1 10YR4/2 灰黄褐色	粘土	管状器片少量
	2 2.5Y3/2 黒褐色 2.5Y3/1 黒褐色	粘土 粘土 (中・中混れ)	
	3 5Y4/1 灰色 2.5Y3/2 黒褐色	粘土 表面質粘土	1 瓦礫 暗灰色細砂多量状に微量
	4 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黄灰色粘土ブロック多量
	5 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	6 5Y3/1 オリーブ黒色	シルト質粘土	黒色粘土ブロック少量、オリーブ黒色粗砂ブロック多量
	7 7.5Y2/1 黒色 2.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土 粗砂	混入
SD4 北部	1 10YR4/1 黄褐色	粘土	
	2 10YR4/2 灰黄褐色	粘土	
	3 10YR3/2 黒褐色	粘土	
	4 7.5Y4/1 灰色	粘土	
SD4 南部	1 10YR4/1 黄褐色	粘土	
	2 10YR4/2 灰黄褐色	粘土	
	3 10YR3/2 黒褐色	粘土	
	4 7.5Y4/1 灰色	粘土	

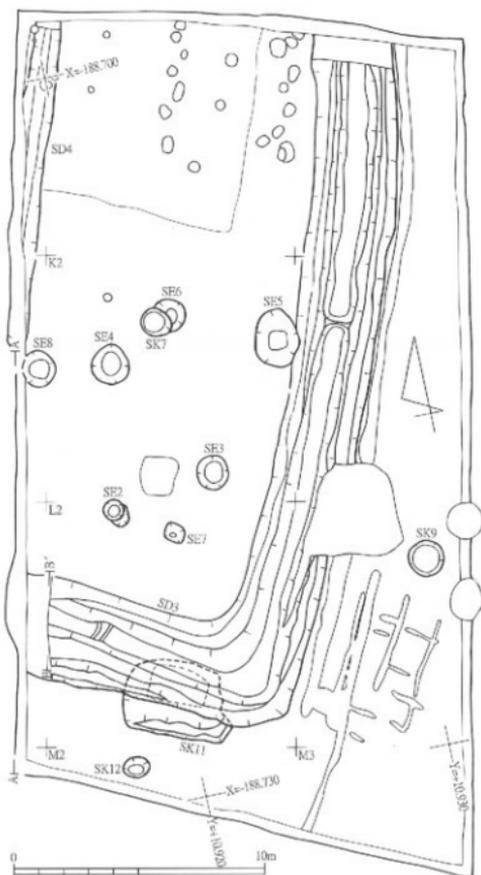
第694図 SD1・3・4断面図 (平面図は第689図)

全体的には北側が10cm前後低くなっている。体積土の大部分は粘土を主とする互層で、自然堆積層と考えられる。

なお、南北部分で2箇所、東西部分で1箇所、低い障壁状の高まりが認められた。南北部分で確認されたもののうち北側のものは2区南部にあり、溝跡の北端部からは16mの地点に位置している。溝底面からの高さは30cmである。南側のものは3区北部にあり、溝跡の南東角からは15m、2区の障壁状高まりからは25m離れている。溝底面からの高さは20cmである。東西部分で確認されたものは溝跡の南東角から6m西の地点に位置しており、南北部分で確認された南側の障壁状高まりからは溝底面上の距離で21m離れている。溝底面からの高さは5cmである。

遺物は土師器、須石器、土師質土器皿類、中世陶器、中国産陶磁器、近世陶器、金属製品、木製品、鉄滓など約390点が出土し、このうち図化できたのは47点である(第696～698・700図)。図化できなかったものも含めて中世陶器や瓦質土器の点数が多いが、堆積土層からは瀬戸・美濃・肥前など17世紀代の陶磁器も出している(註3)。L-29・4・8・7下駄(第697図6～9)は2区北部の東側に向かって半円状に張り出す部分からまとまって出土した(写真248～7)。鼻緒の孔が開けられていないので未成品と考えられる。

SD4(第689・694・695図) 2～3区の西壁沿いを南北方向に縦断する溝跡である。2区南部では東側に直角に分岐しさらに南に屈曲する部分があるが、調査区外で途切れている。2区北部ではSD1とSK1、3区北部ではP16～19に切られている。確認できた長さは2区が26m、3区



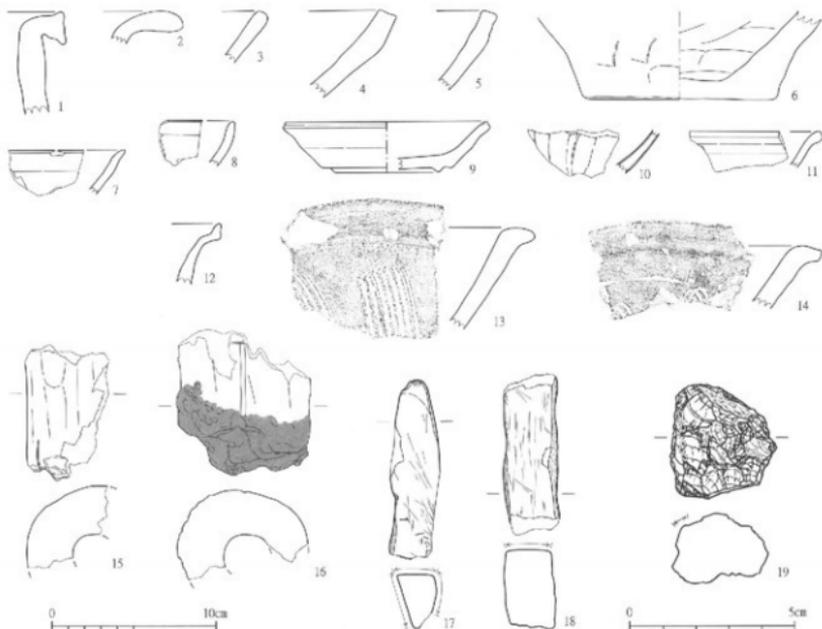
第695図 3区IVa層上面平面図
SD3断面図

層位	色調	土質	部入物・その他
SD1 1	10YR4/1 褐色	粘土	黒灰色粘土・黒褐色粘土を密に少量、炭化物微量
2	10YR2/2 黒褐色	粘土	互層
3	7.5Y4/1 灰褐色	互層	黄褐色ブロック少量
4	10YR4/1 灰色	粘土	黒褐色シルト質粘土少量
5	5Y3/1 オリーブ褐色	粘土	オリーブ黒色砂質シルト・炭化物少量
5	2.5GY3/1 オリーブ灰色	粘土	炭化物微量
6	N2/1 黒色	粘土	炭化物微量
7	2.5GY1/1 黄オリーブ灰色	粘土	炭化物微量

が13mで、総長は41m、方向はN-15°-Eである。東へ分岐する部分の東西長は8m、方向はN-75°-Wである。幅は80cm～1.5m、深さは40～45cmであるが、東へ分岐する部分は段差がついていて10cmほど浅い。断面形は上部が開く浅い「U」字形で、底面は緩やかな起伏があるがほぼ平坦である。堆積土は粘土を主とする自然堆積層であるが水成堆積ではないと考えられる。

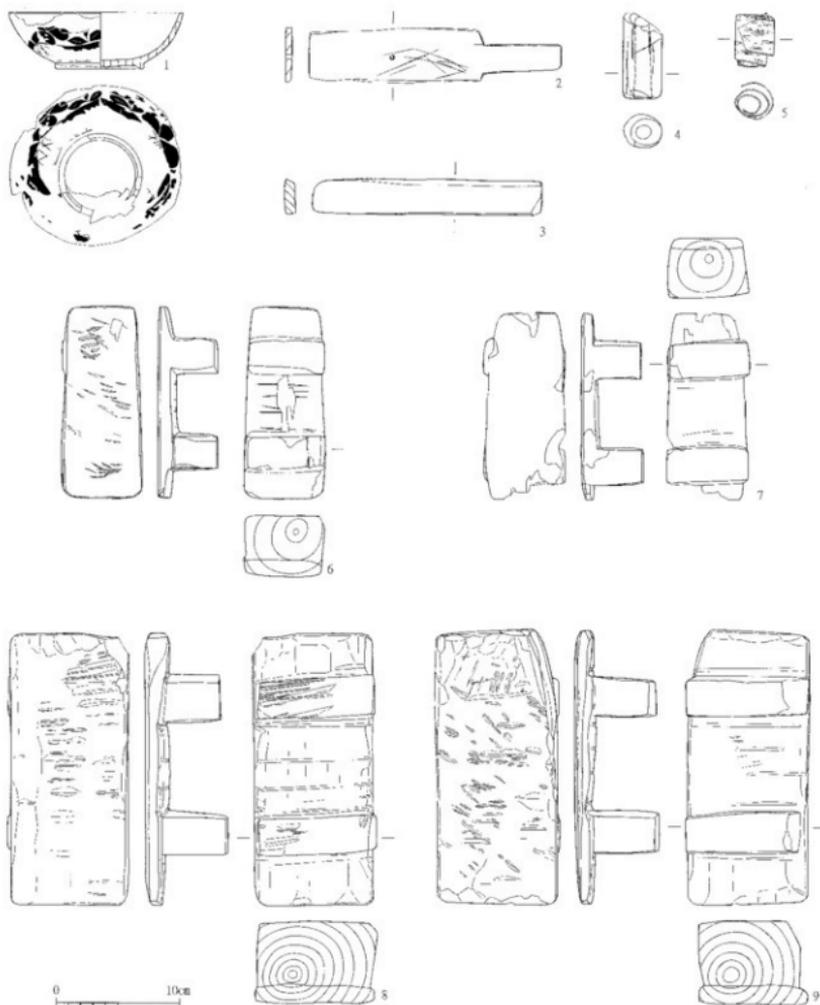
遺物は土師器・土師質土器皿類・中世陶器片など約20点が出土し、常滑産の甕が1点図化できた(第725図)。

SD5(第701図) 2区西壁際に位置し、SD4を切っている。東西方向の溝跡であるが、部分的に確認できたのみであ



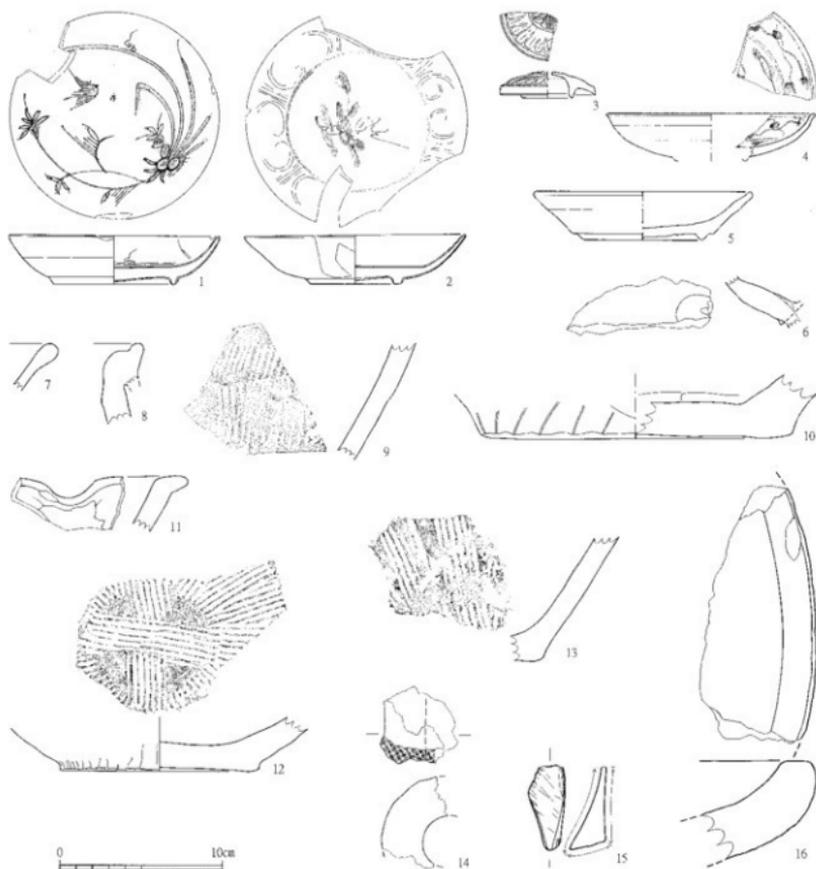
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種類(原地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	Ic-1	2-SD3	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				口縁部ヨコナデ、体部ナデ、5脚式	269-1
2	Ic-6	2-SD3	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				ヨコナデ	268-13
3	Ic-5	2-SD3	陶器(常滑) 片口鉢	口縁部小片				ロクロ調整、山形脚架系	268-14
4	Ic-2	2-SD3・上層	陶器(常滑) 片口鉢	口縁部小片				ロクロ調整、内面磨光	269-2
5	Ic-3	2-SD3	陶器(常滑) 片口鉢	口縁部小片				ロクロ調整、内面磨光	269-3
6	Ic-4	2-SD3	陶器(常滑) 片口鉢	口縁部小片				ロクロ調整、内面磨光	269-4
7	Ic-8	2-SD3・1層	陶器(常滑) 甕	底面片		(11.6)		ナデ	269-4
8	Ic-9	2-SD3	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				灰塗、内外面が括弧のため変れる、後日開	268-15
9	Ic-10	2-SD3	陶器(常滑) 甕	口縁部小片				黒色～黄褐色の焼	268-16
10	Ic-2	2-SD3	陶器(常滑) 甕	体部小片				灰塗、内面にトチンの痕跡、常滑3～4期	269-5
11	Ic-3	2-SD3・上層	青磁(常滑系) 甕	口縁部小片				滑文	269-6
12	E-2	2-SD3	須恵窯(大戸) 甕	口縁部小片				ロクロ調整	269-7
13	Ib-2	2-SD3	瓦質土器・楕鉢	口縁部小片				ロクロ調整、内面に7本・組の筋目、黒色鉄瓦	269-8
14	Ib-4	2-SD3・上層	瓦質土器・楕鉢	口縁部小片				ロクロ調整、内面に筋目、黒色鉄瓦	269-9
15	P-5	2-SD3	土製高・羽口	先端部小片	長8.3+			胎土にスサ少量	269-11
16	P-6	2-SD3・上層	土製高・羽口	先端部小片	長8.8+	径7.9	孔径3.0	胎土にスサ少量	269-12
17	K-6	2-SD3	石製品・砥石	端部欠片	長11.0+	幅3.0	厚2.14	130g±、良質	269-13
18	K-7	2-SD3	石製品・砥石	中央部のみ	長9.8+	幅3.1	厚4.9	255g±、塊状置き式、ディスプレイ	269-14
19	K-5	2-SD3・1層	石製品・火打石	完整	長3.5	幅3.2	厚2.1	21g、碧玉	269-15

第696図 SD3出土遺物(1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	保存度	法量 (cm)		調査・特徴	写真 図版
					長さ	幅・高さ		
1	L-6	2-SD3・中層	木製品・漆調楕	3/4	径(口)	高さ4.6	内面赤塗、外面単色・赤塗文様(単花)	270-1
2	L-22	2-SD3	木製品・板材	両側面欠損	20.3	4.4+ 0.6	中央に径3mmの孔	270-2
3	L-9	2-SD3・中層	木製品・板材	?	18.4+	2.9 0.9	板目	270-3
4	L-5	2-SD3・中層	木製品・柄?	部分	7.0+	外径3.1 内径1.2		270-8
5	L-10	2-SD3・中層	樹皮	?	4.3		口=丸状	270-9
6	L-29	2-SD3・上層	木製品・漆塗下駄	ほぼ完形	15.5	6.4 高4.9	未製品、心材	270-4
7	L-4	2-SD3・上層	木製品・漆塗下駄	9/10	15.1	幅6.5 高5.0	未製品、心材	270-5
8	L-8	2-SD3・上層	木製品・漆塗下駄	ほぼ完形	長22.0	幅7.5 高6.7	未製品、心材	270-6
9	L-7	2-SD3・上層	木製品・漆塗下駄	ほぼ完形	長22.2	幅7.9 高6.8	未製品、心材	270-7

第697図 SD3出土土物(2)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(現地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	高さ		
1	J-8	3-SD3・1層	染付(虎佐見)皿	ほぼ完形	12.8	7.4	3.0	染付(草花)。17世紀後半	271-1
2	J-7	3-SD3・1層	染付(肥前)皿	3/4	13.4	5.6	3.0	口は成形・型押・砂目柄み状。染付(草花) 17世紀中葉～後半	271-2
3	J-16	3-SD3・2層	白磁(中国)蓋	1/4	(5.8)		1.6	花弁状の彫刻	270-12
4-1	J-18	3-SD3・3層	染付(肥前)皿	1/6	(2.8)			染付。17世紀前半	270-10
4-2	J-19	3-SD3・3層	染付(肥前)皿					J-18と同・細体。写真のみ	270-11
5	Ic-46	3-SD3・1層	陶器(美濃)端反皿	1/4	(7.3)	(7.4)	3.0	民地内面に輪非チヤの痕跡。丹波に同種の産物 見出3～4期	271-3
6	Ic-47	3-SD3・下層	陶器(山崎口)水注	肩部小片				灰釉。前口開	271-7
7	Ic-38	3-SD3・上層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				口縁口開。山茶碗系	271-4
8	Ic-34	3-SD3	陶器(常滑)染	1口縁部小片				口縁高ヨコナデ。体高ナデ。6a～2型式	271-5
9	Ic-37	3-SD3・上層	陶器(常滑)染	体部小片				廣口形	271-6
10	Ic-41	3-SD3・下層	陶器(在地)染	底部小片		(19.0)		外面ヘラナデ・ナデ。内面ナデ	271-8
11	Ib-5	3-SD3	瓦質土器・片口鉢	口縁部小片				内外面無釉。黒色灰釉	271-11
12	Ib-10	3-SD3・上層	瓦質土器・片口鉢	底部のみ		12.2		8のナデナデ。外面に漆。黒色灰釉。白粉塗	271-10
13	Ib-9	3-SD3・上層	瓦質土器・鉢形	体部～底部片				ナデ。内面に6本一葉の扇付。黒色灰釉。白粉塗	271-9
14	P-7	3-SD3・上層	土製土・羽口	先端部小片	長4.9+	径(7.5)	厚(2)	胎土にスズ少量	271-12
15	K-15	3-SD3・下層	石製品・碇石	端部欠損	長5.3+	幅2.2	厚2.2	14g±。デイスイト質凝灰岩	271-13
16	K-14	3-SD3・下層	石製品・茶臼臼	前部口縁小片				470g±。安山岩	271-14

第698図 SD3出土遺物(3)

るので方向は限定できない。確認した長さは2.5m、幅1.5m、深さ70cm、断面形は逆台形であるが上部がやや開いている。堆積土は粘土を主とした自然堆積層で、細かな互層となっていることから水成堆積層と考えられる。

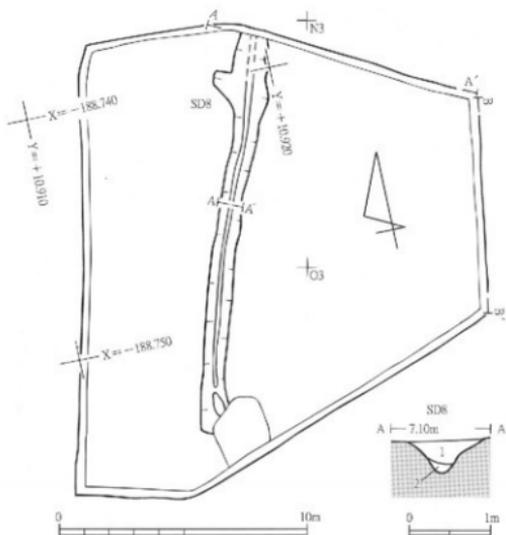
遺物は土師器、中世陶片など4点出土したが、図化できたものはない。

SD8 (第699図) 4区を南北に横断する溝跡であるが南部で途切れている。確認した長さは16.5m、方向はN-18° Eである。幅は80cm ~ 1.2mであるが部分的に2.2mほどに広がる箇所がある。深さは約40cmで、断面形は上部が開く浅い「U」字形である。底面はほぼ平坦であるが、北側が5cmほど低くなっている。堆積土は2層に分層されるが、上層は人為的に埋め戻されている可能性がある。溝の位置は3区のSD3の延長線上にあり、方向もSD3に近いことから城館の区画に関わる溝跡の可能性が高い。

遺物は土師器・須恵器など約110点が出土し、土師器坏1点が図化できた(第725図3)。

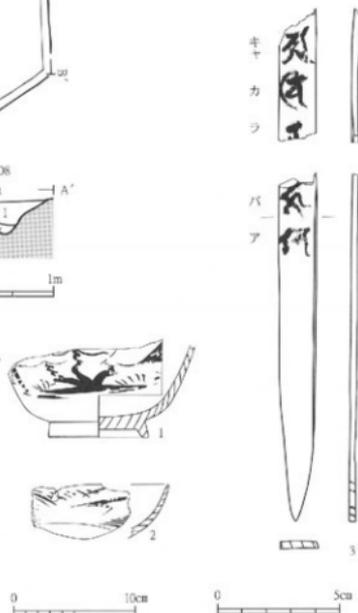
(2)井戸跡

井戸跡は2区で1基、3区で5基が確認されているが、すべてSD1とSD3によって形成さ



層位	色調	土質	遺人物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐色色馬土質シルトブロック多層
2	10YR2/1 黒色	粘土	黒褐色砂質シルトブロック少層

第699図 4区IV層上面平面図・SD8断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						口徑	底径	器高		
1	L-32	3-SD3・下層	木製品・漆器類	2/3					内面赤漆、外面黒色・赤漆文様(塗?)	272-1
2	L-34	3-SD3・上層	木製品・漆器類	口縁~体部片					内面赤漆、外面黒色・赤漆文様(塗木?)	272-2
3	L-58	3-SD3・上層	木製品・密着器	中央隆起下部	(19.5±)	1.5	0.3		片面黒漆、黒字キョカラバア、縦目	272-3

第700図 SD3出土遺物(4)

れた区画の内部に位置している。

SE1 (第701図) 2区南西部、SD4の東への分岐点近くに位置している。径1.4～1.5m、深さ1.85mで、堆積土は自然堆積層である。

遺物は須恵器、中世陶器、鉄製品、木製品、鉄滓など14点で、このうち5点が図化できた(第702図4～5)。L-2は大型の挽き物の鉢であるが、外面の口縁部から体部にかけてはロクロによる削り痕ではなく、手持ちの削り痕が残されている。L-3、Na-2短刀の柄(4・5)は木製の柄の内部に鉄製の茎が残存していたものである。

SE2 (第703図) 3区南部に位置する。径1.2×0.9mの楕円形であるが南東側は浅く、本来の井戸としての部分は円形である。深さは1.6m、堆積土は自然堆積層で、上層の6層まで確認しているが、それ以下は危険防止のため半蔵しなかつたので図示はしていない。

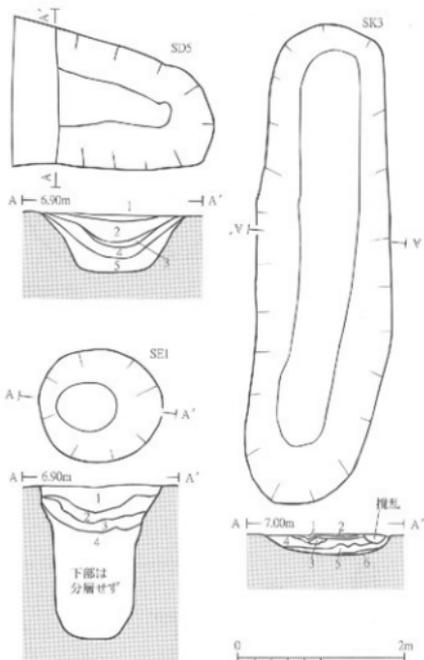
遺物は須恵器、土師質土器皿類、中世陶器片、木製品など8点で、建築材と考えられるL-46が図化できた(第702図6)。

SE3 (第703図) 3区南部に位置する。径1.4×1.3mの楕円形で、深さは2.8mである。堆積土1・2層は人為的な埋土と考えられるが、3層以下は自然堆積層と推定される。なお、5層より下層は危険防止のため半蔵しなかつたので図示はしていない。

遺物は陶器片、木製品2点で、柄のような小形の木製品L-47が図化できた(第702図7)。

SE4 (第703図) 3区中央部に位置する。径1.7×1.5mの楕円形で、深さは2.35mである。壁の一部が崩落のために抉れている。堆積土の最上層は人為的な埋土と考えられるが、2層以下は自然堆積層と推定される。なお、5層より下層は危険防止のため半蔵しなかつたので図示はしていない。

遺物は須恵器、土師質土器皿類、中世陶器、木製品など15点で、図化できたのはSD1やSD3から出土したのと同様なロール状の樹皮、釣瓶の部品と考えられる木製品L-49、唐津産の皿など5点である(第702図8～12)。なお、出土遺物からすると近世まで下る可能性がある。

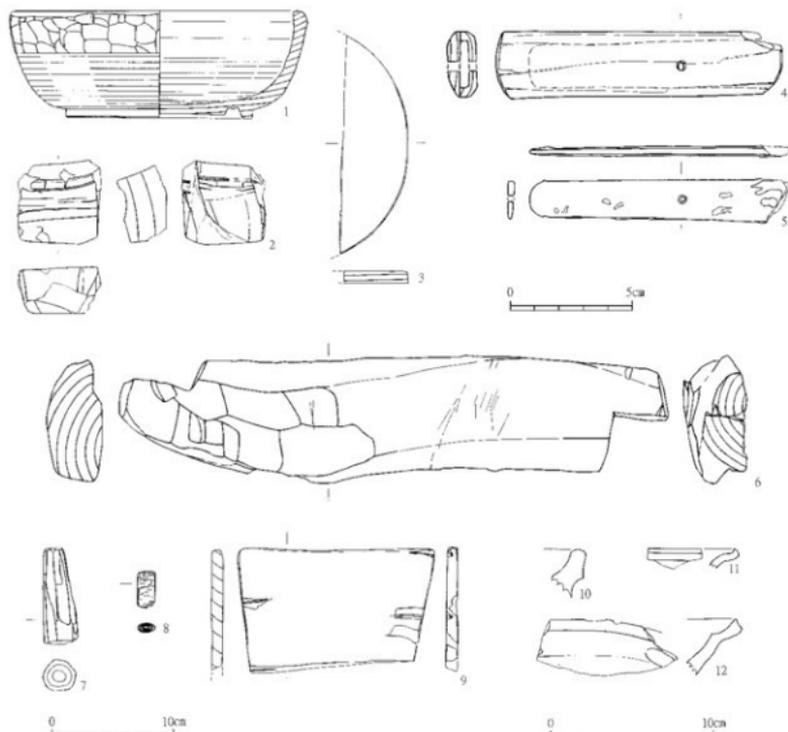


図号	色産	土質	遺人物・その他
SD5	1 30YR3/2 黒褐色	粘土	須恵色砂質シルトブロック構造、管状酸化鉄多量
	2 30YR4/2 灰黄褐色	粘土	
	3 30YR3/2 黒褐色	粘土	
	3 30YR3/3 暗褐色	硬質粘土	
	4 30YR4/1 黄灰色	粘土	
SE1	1 30YR4/1 黄灰色	粘土	灰色シルトブロック・植物遺体少量
	2 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	3 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	4 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	
	5 5Y3/1 黄褐色	シルト	
SK3	1 30Y3/1 暗褐色	シルト質粘土	マンガン少量 種化鉄多量 マンガン少量 マンガン・酸化鉄少量 植物遺体(L・粒)少量 炭素黒色シルト少量、マンガン多量
	2 30YR4/2 灰黄褐色	砂	
	3 30YR3/1 黒褐色	粘土	
	4 30YR3/2 黒褐色	粘土	
	5 30YR4/1 黄灰色	粘土	
	6 30YR3/2 黒褐色	粘土	

第701図 SD5・SE1・SK3 平面・断面図

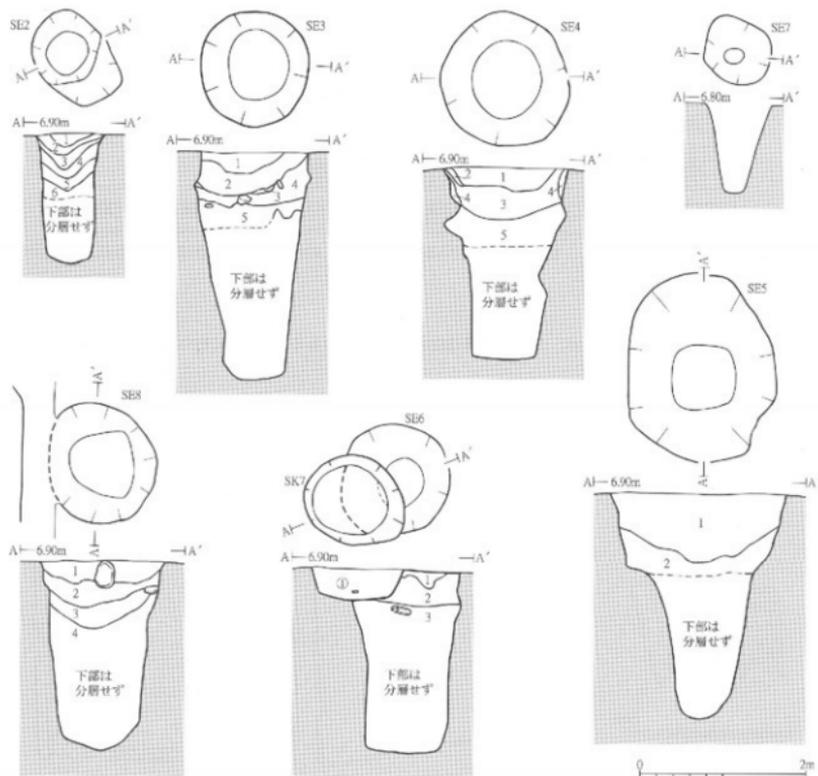
SE6 (第703図) 3区中央部に位置し、SK7に切られている。径1.4×1.3mの楕円形で、深さは2.25mである。堆積土は自然堆積層と推定されるが、3層より下層は危険防止のため半裁しなかつたので図示はしていない。

遺物は瓦質土器、陶器、木製品など5点で、図化できたのは瀬戸美濃産の丸皿、瓦質の火鉢、釣瓶、桶の取手など4点である(第704図)。L-66釣瓶(3)は台形の板を鉄釘で結合したもので、内容量は約6.9ℓである。取手は欠損しているため形状は不明であるが、口縁近くに釘穴が認められることから取手も鉄釘で止められていたと考えられる。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 名称	遺存度	寸法 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	胴高		
1	L-2	2-SF1	木製品・挽物鉢	4/5	23.7 長さ	15.2 幅	8.8 厚さ		273-1
2	L-27	2-SF1	木製品・容器?	部分	6.8+	6.8+	3.6		273-5
3	L-26	2-SB1	木製品・曲物	破板14	径10.2		厚1.0	板目	273-2
4	L-3	2-SB1	木製品・短刀柄	ほぼ完形	長7.6	幅2.8	厚1.0	茎(Na-2)も残存	273-3
5	Na-2	2-SB1	鉄製品・短刀	茎のみ	10.6+		1.6	目釘穴1箇所、11gr-、木製柄(L-3)も残存	273-4
6	L-46	3-SB2	木製品・建築材?	ほぼ完形?	45.2	10.1	4.5	両端部角を切り欠き	273-6
7	L-47	3-SF3・下層	木製品・柄?	部分	8.0+		径2.7	心材	273-7
8	L-48	3-SB4	板状	?	3.2			口縁	273-9
9	L-49	3-SF4	木製品・釣瓶	破板12	10.3+	16.0	1.0		273-8
10	1c-40	3-SB4	陶器(在胎) 鉢	11破部小片				11コサデ	273-11
11	1c-42	3-SF4	陶器(在胎) 皿	1口縁部小片					273-10
12	1c-44	3-SB4	陶器(瀬戸・美濃) 口鉢?	11縁・体部片				板軸、笠突前	273-12

第702図 SE1~4出土遺物



遺位	色票	土質	混入物・その他
SE2	1 0YR3/1 黒褐色	シルト質粘土	埋入物・その他
	2 0YR4/1 黒灰色	粘土	暗灰黄色砂粒少量
	3 0YR3/1 黒褐色	粘土	炭化物少量
	4 2.5Y4/1 黄灰色	粘土	黒色粘土を層状に少量
	5 0YR3/1 黒褐色	粘土	
6 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土		
SE3	1 10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色砂粒ブロック少量
	2 10YR6/2 灰黄褐色	粘土	灰黄褐色粘土ブロック・黒色粘土ブロック多量、灰黄褐色埋入物/ブロック少量
	3 10YR2/1 黒色	粘土	
	4 2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	互層
	5 10YR2/1 黒色	粘土	灰色粘土ブロック少量
6 7.5Y4/1 灰色	粘土	暗オリーブ灰色粘土ブロック少量	
SE4	1 10YR3/1 黒褐色	粘土	に広い黄色粘土大ブロック・黒色粘土大ブロック少量、灰白色火山灰小ブロック少量、黄褐色シルト質粘土小ブロック多量、炭化物少量
	2 10YR2/1 黒色	粘土	
	3 10YR2/2 黒褐色	粘土	
	4 10YR3/2 黒褐色	砂	互層
	5 5Y5/2 灰オリーブ色	砂	炭化物多量
6 7.5Y4/1 灰色	粘土		
7 10YR5/1 暗灰色	粘土		
8 10YR4/1 黄灰色	粘土		

第703図 SE2～8、SK7 平面・断面図

層位	色調	土質	灰人物・その他
SE7	1 10YR6/1 黒灰色	シルト	黒褐色粘土ブロック多量・灰黄色細砂ブロック少量
	2 10YR2/1 黒褐色	粘土	灰黄色粘土上ブロック多量
	3 2.5Y3/- 黒褐色	粘土	可憐
	4 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	灰オリブ色粘土ブロック少量
SK7	1 10YR3/3 黒褐色	粘土	黒色粘土・にぶい黒褐色粘土・灰黄褐色粘土・にぶい黒褐色細砂の各ブロック多量
SE6	1 10YR4/2 灰黄褐色	硬砂	黒褐色粘土ブロック少量
	2 10YR3/7 黒褐色	粘土	灰黄褐色シルトブロック・灰黄褐色粘土ブロック少量
	3 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	灰灰色シルト質粘土ブロック多量・黒色粘土ブロック少量
SK5	1 10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土・黒色粘土・灰黄褐色粘土・灰黄褐色細砂の小ブロック多量
	2 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック・灰色粘土ブロック多量

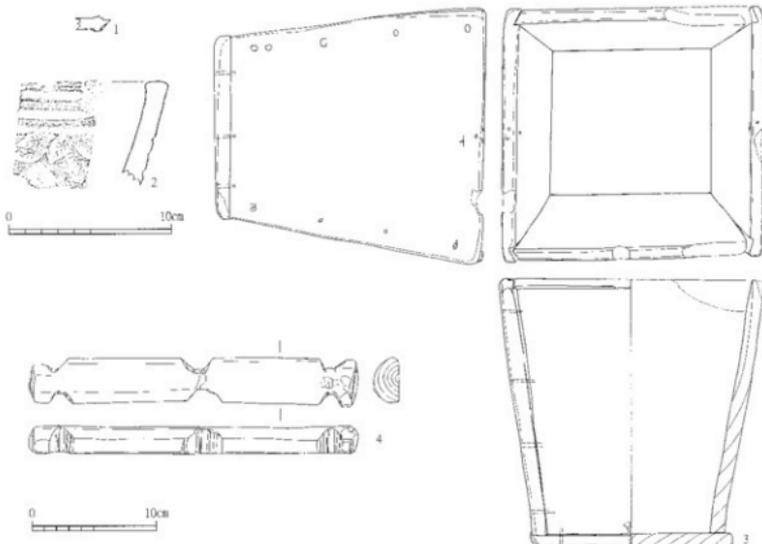
SE7 (第703図) 3区南部に位置し、SE2と隣接している。径75×95cmの楕円形で、深さは1.1mである。遺物は出土しなかった。

(3)土坑

土坑は3区で4基確認されているが、このうち1基はSD3に切られているので明らかに他の遺構よりは古いと考えられる。

SK7 (第703図) 3区中央部に位置し、SE6を切っている。径1.3×1.1mの楕円形で、深さは40cmである。堆積土にはブロック上が多量に含まれていることから人為的に埋め戻されていると推定される。

遺物は土師質土器皿と鉄滓計2点であるが図化はできなかった。



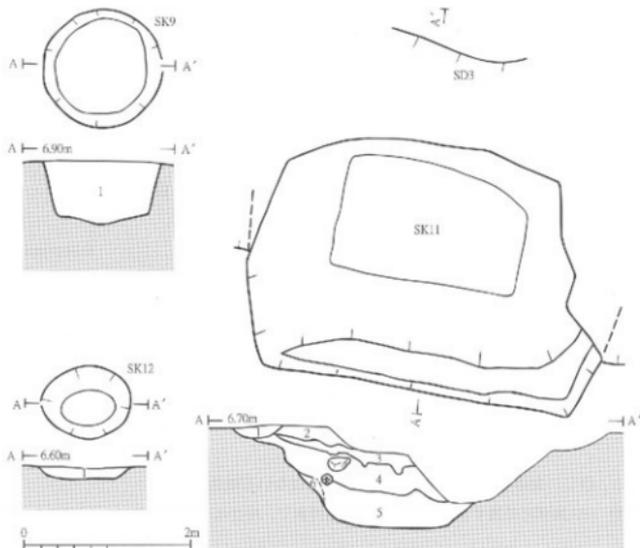
No.	発掘No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真図録
						口径	底径	高さ		
1	1c-45	3-SE6	陶器(瀬戸・美濃)	丸蓋?	底部小片				灰釉、大甕2~3期	274-2
2	1b-8	3-SE6	灰質土器	火鉢	口縁~体部止				口縁調整、体部直前にスタンプ(西大空)、黒色灰釉	274-3
3	1-66	3-SE6	木製品	釣瓶	深鉢冠形	20×10×7	16.2×14.8	21.2~21.7	取手の部分、樹皮包合、口縁は矢張りするの前の結合部あり	274-4
4	L-50	3-SE6	木製品	種	取っ手のみ	長26.3	幅3.7	幅2.0	2分削材、中央部両側近くの側面に板り	274-5

第704図 SE6出土土遺物

SK9 (第705図) 3区東部に位置する。径1.4mの円形で、深さは80cmである。堆積土にはブロック土が多量に含まれていることから人為的に埋め戻されていると推定される。遺物は出土しなかった。

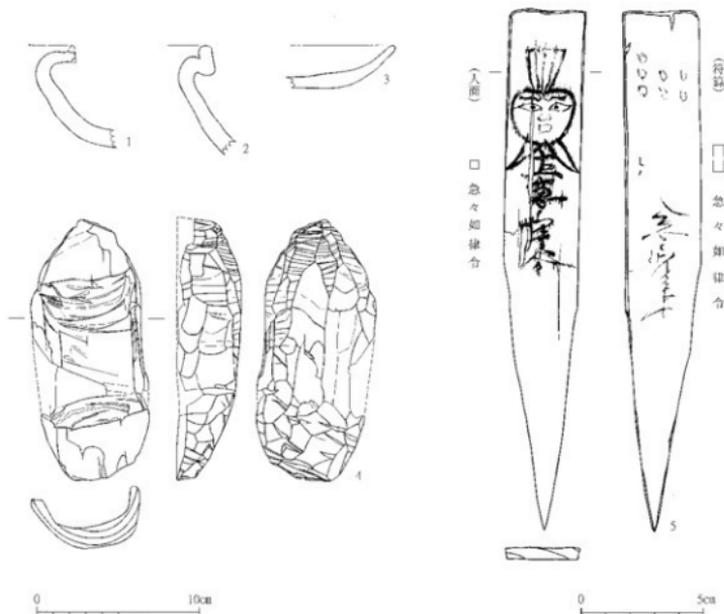
SK11 (第705図) 3区南部に位置し、SD3に切られている。平面形は長方形と考えられ、大きさは東西4.5m、南北は北側がSD3によって切られているため明確ではないが、残存している南半部から復元すると約4mと推定される。深さは1.3m、断面形は上部が大きく開く逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土の大部分は粘土を主とする細かな互層で、自然堆積層と考えられる。

遺物は須恵器、土師質土器皿類、中世陶器、木製品、鉄滓など29点と犬の頭骨で、木製品14点全部と常滑産の甕2点、土師質土器皿1点が図化できた(第706～708図)。木製品には日用品である曲物や板草履などの破片の他、L-59①漆膜(第708図3)と同様の漆膜が多量に出土している。他にL-59②紐(第708図4)も出土していることから烏帽子の一部である可能性がある。また、L-44呪符木筒(第706図5)、L-42舟形(第706図4)のように明らかに「まじない」に係わる遺物があり、注目される。さらに、杭状や棒状の木材が「十」字状に組み合わせられたL-67(第707図)は1次調査10E区のSD8から出土した塔婆の杵と共通する要素があり、呪符木筒や舟形が出土していることを



SK12	層位	色調	土質	埋人物・その他
	1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック少量
SK11	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粗砂ブロック少量
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土	管状硬化鉄少量
	3	5Y3/1 オリーブ黒色 5Y4/1 灰色	粘土 互層	オリーブ黒色粗砂ブロック少量
	4	2.5Y2/1 黒色 2.5Y3/1 黒褐色	粘土 シルト質粘土 互層	灰色シルトブロック鉄塊
	5	2.5Y2/1 黒褐色 2.5Y2/1 黒色 5Y4/1 灰色	粘土 互層	
	6	7.5Y3/1 オリーブ灰色	粘土	粗砂多量、崩落土

第705図 SK9・11・12 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	1c-33	3-SK11・上層	陶器(常滑) 甕	口縁～体部片				2面にコナナ、裏面に7～7の印痕。図式	280-1
2	1c-32	3-SK11・下層	陶器(常滑) 甕	口縁～体部片				口縁にコナナ、裏面に7の印痕。図式	280-2
3	1a-7	3-SK11・上層	木製土器・皿	16				口縁部にナラ、体部に底筋ナデ、両斜線量	280-3
4	1c-32	3-SK11	木製品・舟形	99.0	16.2	6.6	3.9	粗い加工	280-4
5	1c-32	3-SK11・下層	木製品・呪符木簡	完形	21.5	3.1	0.5	呪符木簡、板目 片面に(人面)二急々如律令(律令)1急々如律令	280-5 カラー-5

第706図 SK11出土遺物(1)

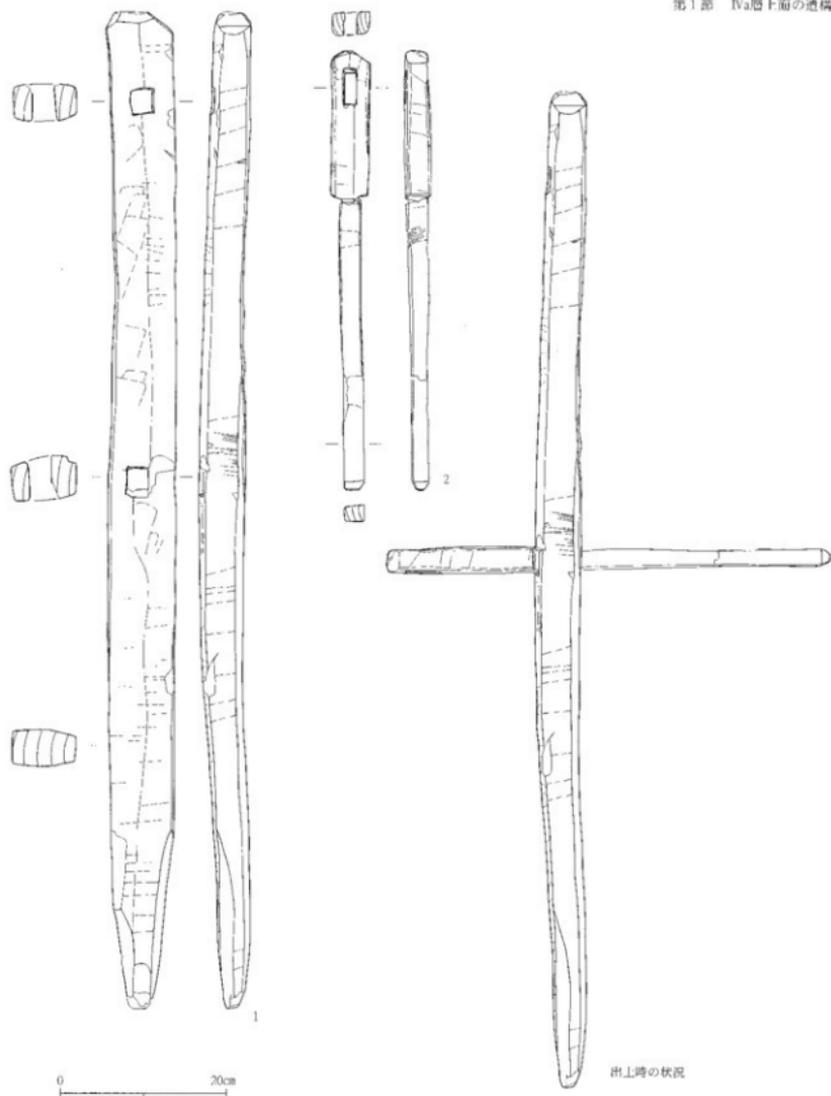
併せて考えると、詳しい用途は不明ながら日常的な道具ではない可能性がある。

SK12(第705図) 3区南部に位置する。径1.1×0.9mの楕円形で、深さは10cm、堆積土は1層である。遺物は出土しなかった。

(註1) 樹種同定を行わなかったが、桜や樟のような外観を呈している。

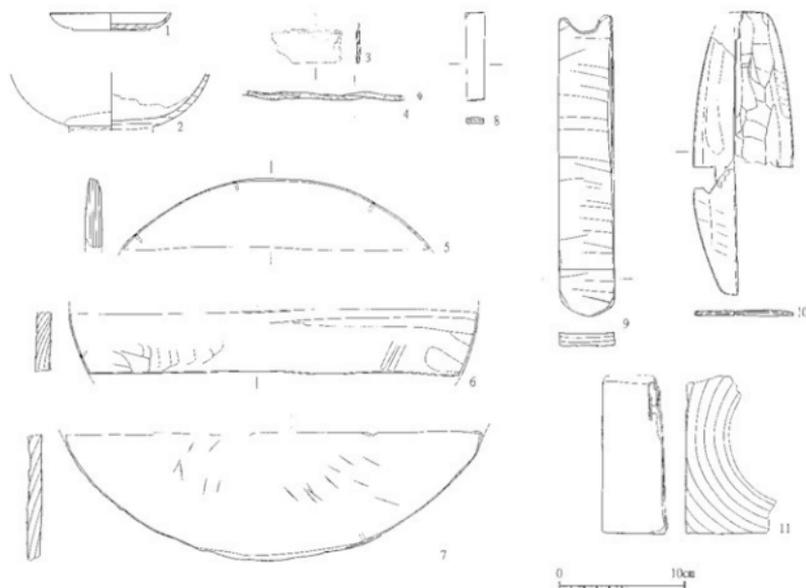
(註2) 10E区のSD1005から出土している(第251図)。

(註3) 近世の陶磁器類は、本調査区よりも西方に位置する第1・2次調査区では出土数が少ないが、本調査区と第7次調査区では比較的多い傾向にある。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-67①	3-SK11・下層	木製品	用途不明	ほぼ完形	122.3	8.0	5.3	方形の孔が遺所(上部2.5×3cm, 中央部2.5×1.5cm)中央の孔にL-67②が差し込まれる	280-5
2	L-67②	3-SK11・下層	木製品	用途不明	ほぼ完形	53.7	4.7	3.2	両端が幅広いで、方形の孔(縦9(1.5)×横4)あり、幅狭い部分がL-67①に差し込まれる	280-6

第707図 SK11出土遺物 (2)



No.	発掘No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口徑	底徑	器高		
1	L-23	3-SK11・上層	木製品・食物小皿	ほぼ完形	9.8	6.2	1.4		279-1
2	L-25	3-SK11	木製品・漆器桶	下部				内外面黒色	278-7
3	L-59D	3-SK11	漆製品・鳥帽子?	漆膜				窪み付らしい遺跡する孔が残存。他に多数の漆片	279-9-1
4	L-59D	3-SK11	鳥帽子?	網	長13.0+				279-9-1
5	L-35	3-SK11	木製品・曲物	底板跡	(33.2)		厚1.4	板目	279-2
6	L-40	3-SK11	木製品・曲物	底板跡	(32.8)		厚1.1	釘孔(箇所残存)、板目	279-5
7	L-27	3-SK11	木製品・曲物	底板跡	(38.4)		厚1.2	板目	279-4
8	L-39	3-SK11	木製品・桶	側板1枚	7.1	1.5	0.5	板目	279-6
9	L-38	3-SK11	木製品・板材	?	24.0+	4.5	1.0	径2.5cmの孔、板目	279-7
10	L-36	3-SK11	木製品・板草履	?	(23.0)	(8.0)	0.4	左右別々の材から製作、板目	279-5
11	L-41	3-SK11	木製品・用途不明	部分	12.8+	4.9+	7.2		279-8

第708図 SK11出土遺物(3)

第2節 4a層水田跡

1. 水田の概要

(1) 検出・遺存状況 畦畔は確認できなかったが2区で南北方向の段差を確認した。全体的に遺存状況が悪く、畦畔や水田区画などの詳細を明らかにすることはできなかった。

(2) 耕作土 耕作土は草本層4a層で黒褐色の粘上である。厚厚は5~10cmで、下面には緩やかな起伏がある。層相から水田耕作土と推定され、第1次調査の4a層水田耕作土に対応すると思われる。

(3) 水田域 4a層自体は2区から3区にかけて分布しているが、3区では層上面から堀跡や溝跡が確認されており、水田域とはなっていない。水田域と考えられるのは2~3区のSD3の東側である。なお、対応関係は明確ではないが1区で

も4a層水田耕作土と考えられる層が確認されているので、水田域は調査区の北部～東部に広がっていると考えられる。

(4)土坑 2区北部の4a層中で土坑を3基確認している (SK2・4・5、第709図)。径60～90cmの楕円形で浅い。遺物は出土しなかった。

2. 出土遺物

2区の4a層水田耕作土中からは土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器が50点出土したが図化したものはない。

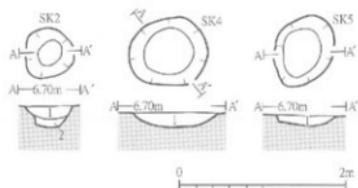
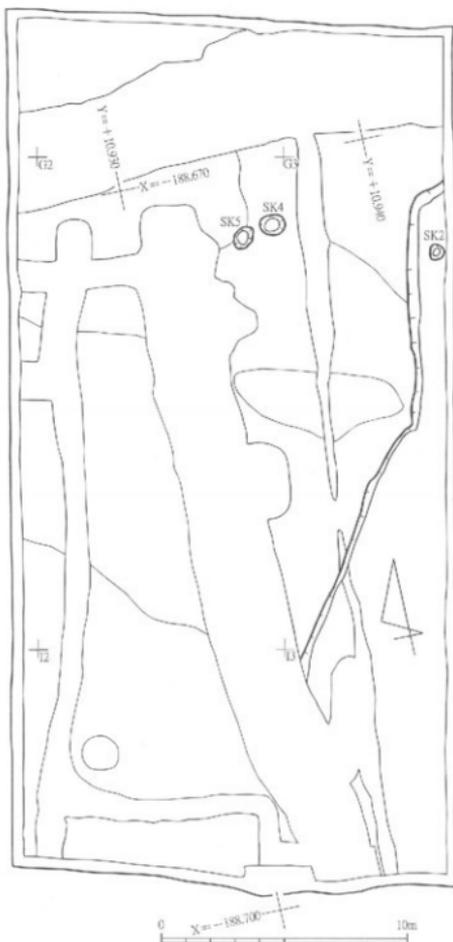
第3節 5a層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 畦畔は直上の4a層中で確認しているが、部分的である。5a層がほとんど遺存しない箇所もあり、2～3区の西部では段差のみの確認となっている。

(2)耕作土 耕作土は基本層5a層で、オリブ黒色の粘土である。層厚は5～15cmで、下面には起伏があり、直下層のブロックを巻き上げている。第1次調査の5a層に対応すると推定される。

(3)水田域 5a層は2区から3区北部に認められるので、水田域も同様である。なお、対応関係は明確ではないが1区でも5a層水田耕作土と考えられる層が確認されているので、水田域は2区～3区北部とその北側と推定される。

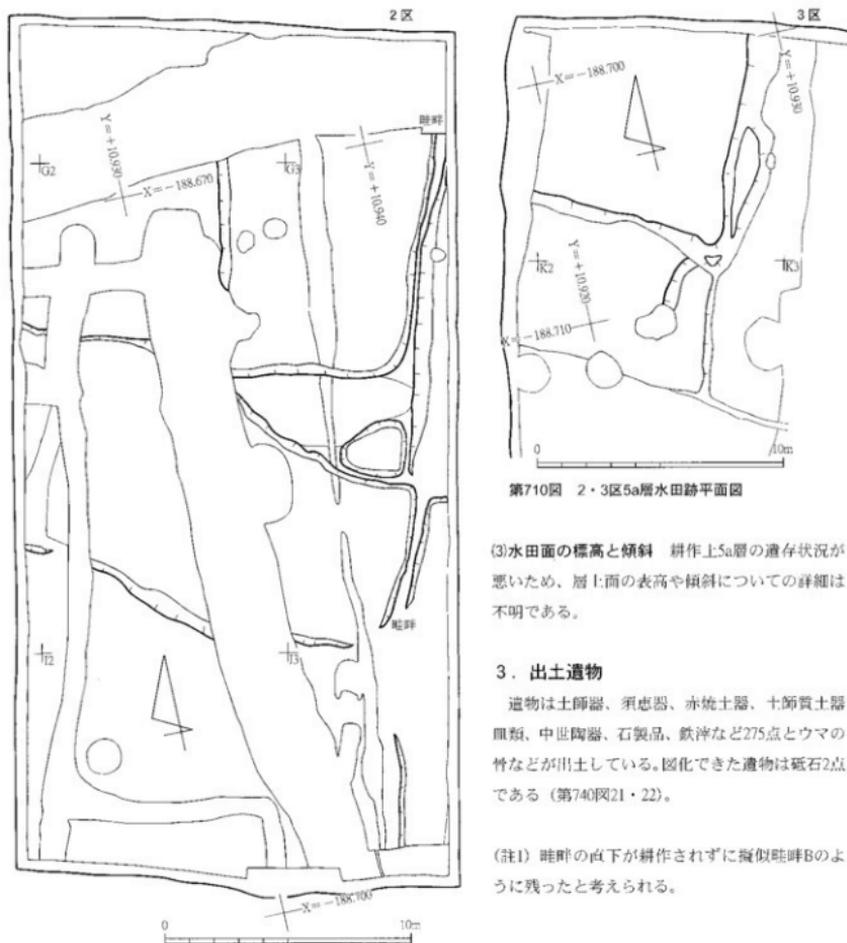


層位	色調	土質	埋入物・その他
SK2	1 2.5Y6/2	暗灰黄色 粘土	灰褐色細砂ブロック少量
	2 10YR4/1	黒褐色 粘土	
SK4	1 2.5Y3/1	黒褐色 粘土	
SK5	1 2.5Y3/1	黒褐色 粘土	

第709図 2区4a層水田跡平面図、SK2・4・5平面・断面図

2. 遺構の状況

- (1)畦畔 畦畔は2区東部で部分的に検出した。基本的には耕作上を盛り上げて造られているが、5a層がほとんど遺存しない所では直下の6a層が露出している(注1) 箇所もある。下端幅80~120cm、高さは2~3cmの箇所が多いが、部分的に5cm以上の箇所も認められる。方向は真北を中心にして東に約20°振れている。なお、2~3区の西部では6a層が広く露出する中に5a層が分布する方形の窪みが入り込んだ形になっており、窪みの縁には段差が形成されている。
- (2)水田区画 水田区画は方形を基調としている。規模が判明した区画はないが、2区中央部の段差で囲まれた区画は南北7~9m×東西17m以上(136㎡以上)である。



第710図 2・3区5a層水田跡平面図

- (3)水田面の標高と傾斜 耕作上5a層の遺存状況が悪いため、層上面の表高や傾斜についての詳細は不明である。

3. 出土遺物

遺物は土師器、須恵器、赤土器、土師質土器皿類、中世陶器、石製品、鉄滓など275点とウマの骨などが出土している。図化できた遺物は磁石2点である(第740図21・22)。

- (注1) 畦畔の直下が耕作されずに擬似畦畔のように残ったと考えられる。

第4節 6a層・Va層上面の遺構

1. 遺構の概要

2～3区においては、5a層を除去した直下の6a層あるいはVa層上面で、溝跡多数と土坑数基を確認している(第711・712図)。溝跡は2～3区のほぼ全域で認められたが、2区と3区北部の溝跡は5a層水田跡の畦畔脇や段差の直下に位置しているので、6a層やVa層に伴うものではなく5a層水田跡に伴うと考えられる。3区南部の溝跡については、3区南部で畦畔や段差が確認できなかったので断定はできないが、方向や規模、堆積土などが2区や3区北部の溝跡と共通することから、同じように畦畔や段差に伴うものと考えられる。なお、3区中央部の溝跡2本は堆積土が他の溝跡と異なっていたためSD6とSD7として区別している。土坑については5a層と6a層の時期のものが混在している可能性がある。

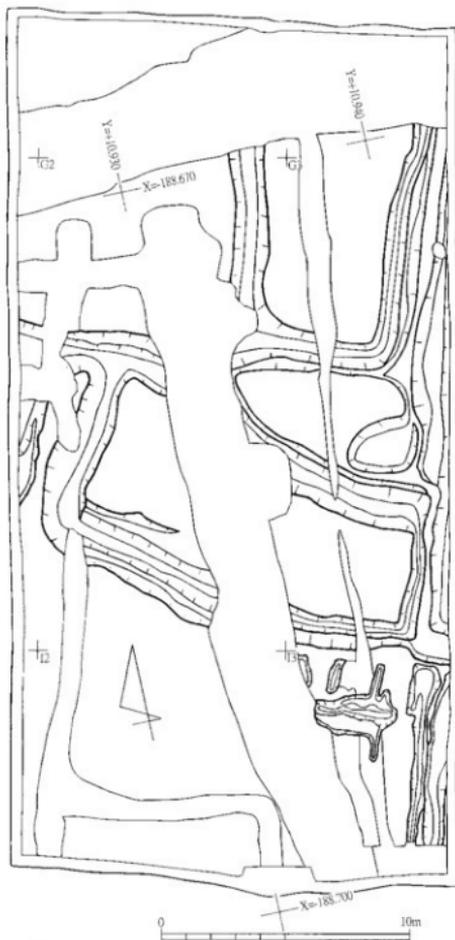
4区には5a層水田跡が分布していないので、耕作土下面の溝跡は認められず、2～3区とは様相を異にしている。Va層上面で井戸跡1基、土坑10基、部分的な溝跡2条を確認しているが、直上のIVa層上面から掘り込まれた遺構も一部含まれている。

2. 遺構と遺物

(1) 溝跡

5a層水田跡に伴うと考えられる溝跡は、幅1～2m、深さは5～30cmである。堆積土は基本層5a層が入りこんだものであるため、5a層水田耕作土の深い箇所が溝状に残存していると考えられる。位置が畦畔や段差脇であることから5a層水田の畦畔を盛り上げる際に掘られた痕跡ではないかと考えられる。このため特に遺構番号はつけていない。なお、遺物は5a層として取り上げている。

SD6(第712図) 3区中央部を北西～南東方向に横断しているが南東側は途切れている。やや蛇行しているため方向は確定しがたいが、概ねN \rightarrow 60° \rightarrow Wである。幅1.6～1.8m、深さ30～45cmで底面には段が付いており、東側が15cmほど低い。断面形は上部が大きく開く逆台形である。堆積土中位には灰白色火土灰ブロックが多量に含まれていた。遺物は須志器片2点が出土したが



第711図 2区6a層・Va層上面平面図

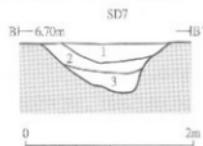
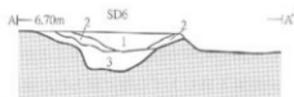
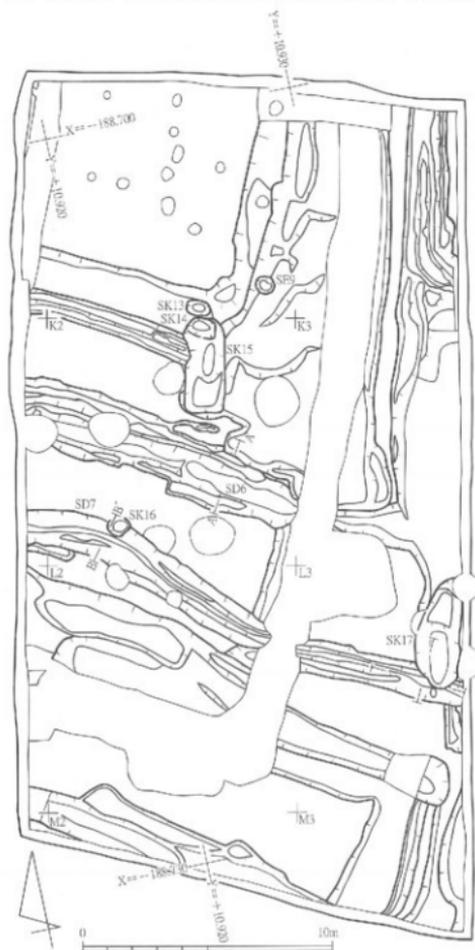
図化はできなかった。

SD7 (第712図) 3区中央部をSD6にほぼ平行し、北西～南東方向に横断している溝跡で、SK16とSK17に切られている。蛇行しているため方向は確定しがたいが、SD6と同じく概ねN-60°-Wである。幅1.2～1.6m、深さ60cmで、底面は東側が5cmほど低い。断面形は上部が大きく開く浅い「U」字形である。堆積土は自然堆積層と推定される。

遺物は土師器、須恵器片8点で、このうち須恵器坏1点が図化できた(第725図2)。

SD9 (第713図) 4区東部に位置する。部分的な確認であるため方向は確定しがたいが、概ねN-46°-Wである。幅40cm、深さ5cmで、底面はほぼ平坦である。断面形は浅い「U」字形である。堆積土は基本層4層に類似した黒色シルト層である。遺物は土師器、須恵器片4点であるが、図化はできなかった。

SD10 (第713図) 4区南部に位置し、SK24を切り、SK27に切られている。部分的な確認であるため方向は確定しがたいが、概ねN-55°-Wである。幅40～50cm、深さ5～10cmで、底面はほぼ平坦である。断面形は浅い「U」字形である。堆積土は基本層4層に類似した黒色シルト層である。遺物は土師器、須恵器片21点であるが、図化はできなかった。



層位	色相	土質	遺人物・その他
SD6	1 10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰青褐色粘土ブロック・灰白赤山灰少量
	2 10YR4/2 灰黄褐色	粘土	灰白赤山灰ブロック多量
	3 2.5Y4/1 黄褐色	粘土	黒色粘土ブロック・灰黄褐色砂ブロック少量
SD7	1 10YR4/2 灰黄褐色	粘土	黒褐色砂質シルトブロック多量
	2 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色粘土ブロック多量
	3 2.5Y4/1 黄褐色	細砂	灰色粘土ブロック・黒色粘土ブロック多量

第712図 3区6a層・Va層上面平面図、SD6・7断面図

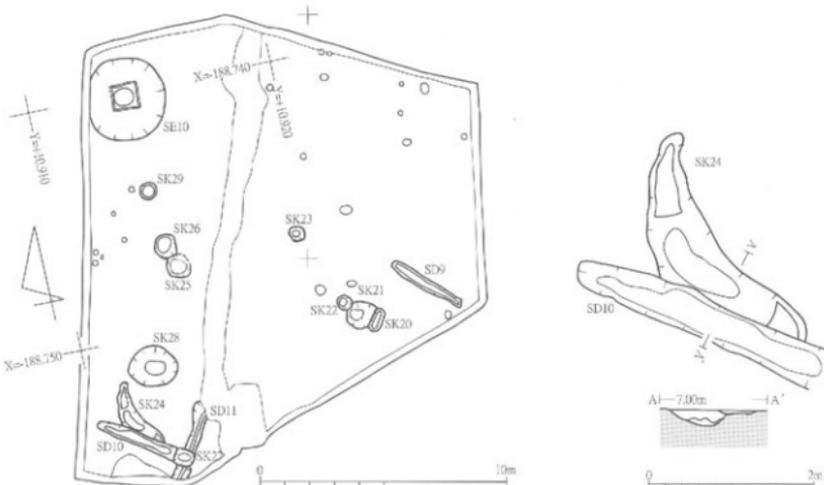
SD11 (第713図) 4区南部に位置し、SK27に切られている。部分的な確認であるため方向は確定しがたいが、概ねN-30°-Eである。幅40～50cm、深さ15cmで、底面はほぼ平坦である。断面形は浅い「U」字形である。堆積土は基本層4層に類似した黒色シルト層である。遺物は土師器、須恵器片4点であるが、図化はできなかった。

(2)井戸跡

SE9 (第722図) 3区北部の段差の下で確認した。径70cmの円形で、段差の下からの深さは70cmである。堆積土はややグライ化した粘土層で、5a層水田耕作土に類似している。遺物は出土しなかった。

SE10 (第714図) 4区北西部に位置し、井戸枠と井戸底に設置された桶を伴っている。IVa層上面で確認できていたが、輪郭が不明瞭なためVa層上面まで掘り下げてから精査を行った。掘り方は円形で、南北3.4m、東西3.2m、深さは2.65mである。断面形は上部が開く逆台形で、最上部はさらに大きく開いている。井戸枠から上の堆積土は自然堆積層である。内部は砂質の堆積土であったが、湧水が激しかったことと、井戸枠を残しながらの精査であったため内部の分層はできなかった。

井戸枠の最上部(井桁)は確認できなかったが、掘り方の上面から50cm下で井戸枠を確認した。残存する井戸枠の構造は「方形縦板型」で、最上部がやや腐食していたが遺存状況は良好であった。平面形は一辺1.1～1.2mの方形で、長さ約180cm、幅約35cmの縦板を一辺に3～4枚立て並べ、外側の四隅と縦板の隙間の位置には幅10～15cmの添板が並べられている。縦板の内側には上下3段の横棧が組まれて縦板を支えている。上下の間隔は50～60cmである。横棧は長さ112～115cmの角材で、端部は凹形のものと同形のものがあり、それぞれが組合せられている。なお、北西隅の上から1段目と2段目の間とそこから対角の位置に相当する南東隅の上から2段目と3段目の間の横棧の間には横棧を支える支柱が設置されている。この支柱は1本の材から分割して作られたものである(第717図17・18)。また、北西隅の3段目の横棧と縦板の間には楔状の材が差し込まれていた(第717図19)。

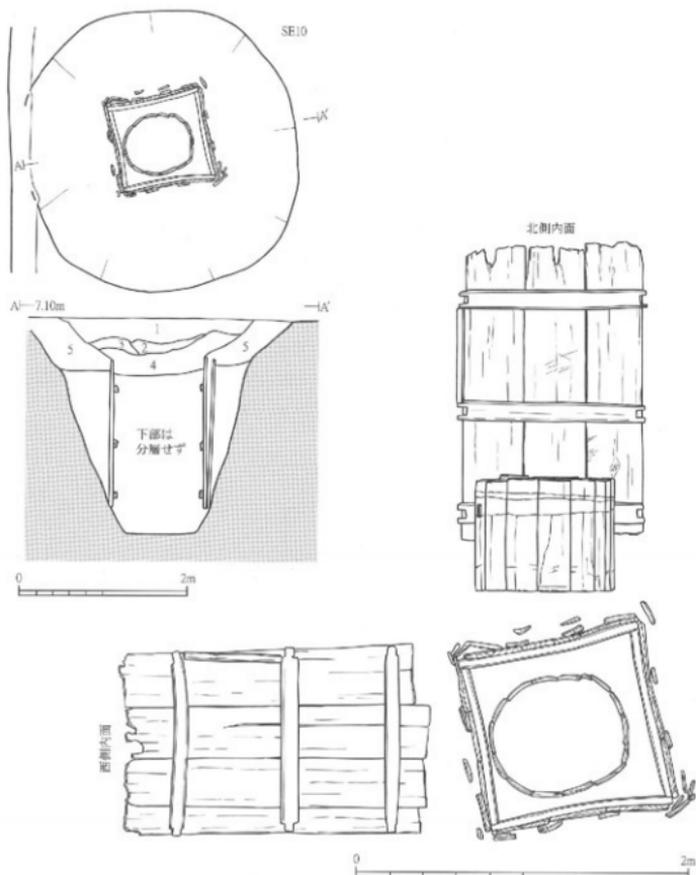


第713図 4区Va層上面平面図

層位	色澤	土質	遺人物・その他
SK24 1	10YR3/2 黄褐色	粘土	灰黄褐色シルトブロック少量
2	10YR3/1 黄褐色	粘土	黄灰色粘土ブロック少量
SD10 ①	10YR3/2 黄褐色	シルト	灰黄褐色砂質シルトブロック少量

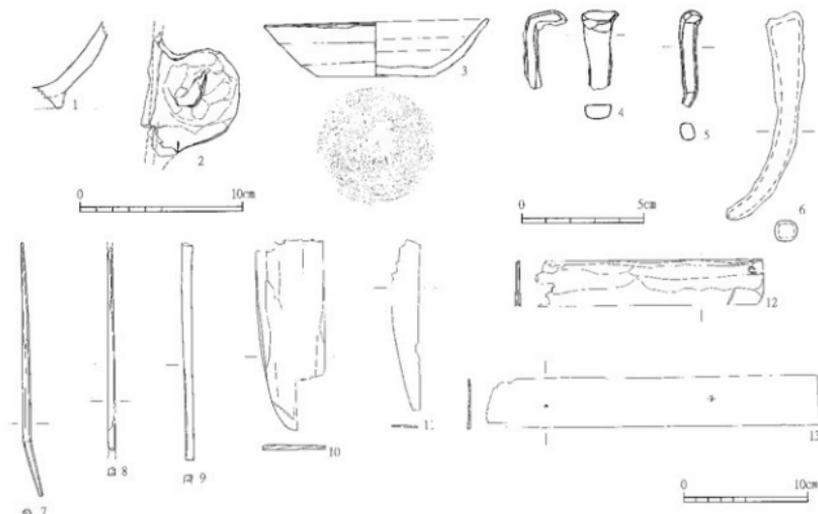
井戸底には底を抜いた桶が逆さに設置されていた。桶が残存していなかったためかやや歪んでいたが、径は70～80cm、高さ約70cmである。側板の1枚には方形の孔が開けられている。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、金属製品、木製品など187点で、釘などの鉄製品と箸や折敷など木製品を中心に13点が図化できた（第715図）。なお、井戸棒と桶については第716～721図に掲載したが、このうち縦板と横板は掲載できなかったものも含めて全点の観察表を作成している。



層位	色調	土質	産人物・その他
1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黒褐色シルトブロック少量、炭化物少量
2	2.5Y2/1 黒色	粘土	黒褐色粘土ブロック少量、炭化物少量
3	5Y2/1 黒色	粘土	炭化物少量
4	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	オリーブ黒色面砂ブロック少量、炭化物少量
5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	にぶい黒褐色砂質シルトブロック多量、炭化物少量

第714図 SE10 平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	lc-27	4-SE10	陶器(東南)	片11鉢	底部~体部片				口径調整、内面磨滅、山形脚痕著	234-11
2	lc-3	4-SE10	土師質土器・鏡?	取の手のみ				ナデ	234-13	
3	lc-30	4-SE10	銅表器・環	ほぼ定形	B1~B3	7.3	3.1~3.5	口径調整、底部回転へう切一回転ヘラケズリ 底径/口径0.53~0.56	234-12	
4	Na-29	4-SE10	鉄製品・釘	頭部~中央部	3.3+	1.1	0.6	頭部幅1.6cm、7g+	234-14	
5	Na-31	4-SE10・掘り方	鉄製品・釘	頭部~中央部	4.2+	0.6	0.7	5g+	234-15	
6	Na-30	4-SE10・掘り方	鉄製品・釘	ほぼ定形	8.7	0.9	0.9	23g	234-16	
7	L-60	4-SE10・掘り方	木製品・箸	定形	20.7	0.7	0.5	1箇所で折れ	235-1	
8	L-61	4-SE10	木製品・箸	中央部3/4	6.5+	0.6	0.6		235-2	
9	L-56	4-SE10	木製品・棒	端部欠損	17.8+	0.8	0.5		235-3	
10	L-63	4-SE10・内部	木製品・板厚履	1/3	15.5+	5.5-	0.3	板目	235-4	
11	L-65	4-SE10・内部	木製品・板厚履?	1/8	13.9+	2.2+	0.1	板目	235-5	
12	L-62	4-SE10・内部	木製品・折敷	底板の一部	18.3+	3.7	0.4	端部に結合穴3箇所、板目	235-6	
13	L-64	4-SE10・内部	木製品・折敷	底板の一部	26.9+	4.1+	0.2	縁じ孔2箇所残存	235-7	

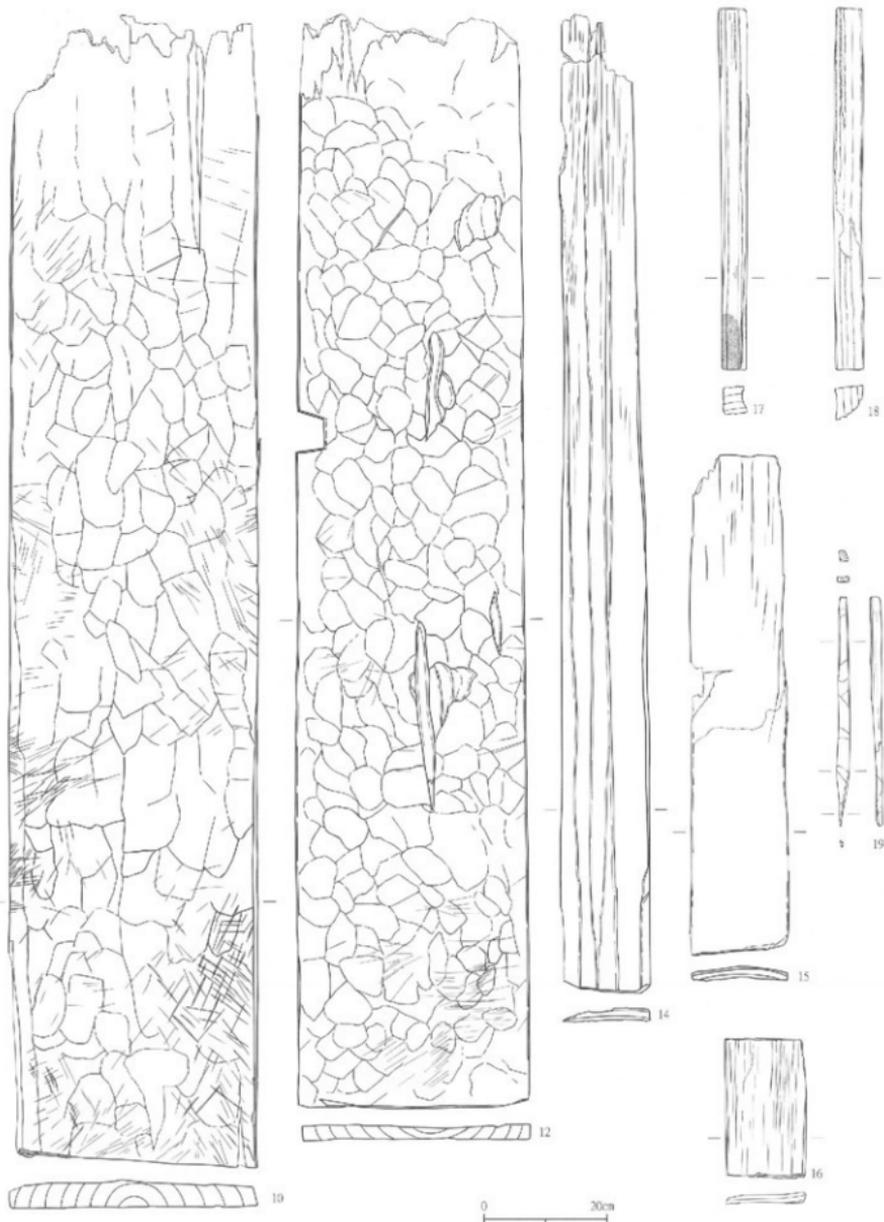
第715図 SE10出土遺物

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-108	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	77.4+	3.0~8.2	2.0~3.6	西面、南から板目、板目、板巻縁部部分あり	235-14	
2	L-107	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	78.7+	30.5~34.0	2.3~4.0	西面、南から板目、板目、板巻縁部部分あり	235-15	
3	L-106	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	181.0+	29.4	3.2	西面、南から板目、板目	235-16	
4	L-105	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	178.0+	22.7	2.6~3.0	西面、南から板目、板目	235-17	
5	L-109	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	181.0+	35.6~37.0	2.0~4.5	北面、南から板目、板目、写真のみ	235-18	
6	L-110	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	181.0+	36.0~38.0	2.2~3.6	北面、南から板目、板目、写真のみ	235-19	
7	L-111	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	180.3+	34.4~35.0	2.6~3.6	北面、南から板目、板目、写真のみ	235-20	
8	L-112	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	183.0+	37.0	約3.2	東面、北から板目、板目、写真のみ	235-21	
9	L-113	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	189.2+	36.0	約3.9	東面、南から板目、板目、写真のみ	236-1	
10	L-114	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	187.3+	40.0	3.5~3.9	東面、北から板目、板目	236-2	
11	L-115	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	180.0+	34.0	2.6~2.6	南面、東から板目、板目、写真のみ	236-3	
12	L-116	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	178.5+	37.0	2.5	東面、北から板目、板目、西側面に方形の切欠きあり	236-4	
13	L-117	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	177.2+	34.0	2.7~3.0	南面、東から板目、板目、写真のみ	236-5	
14	L-118	4-SE10	木製品・井戸枠板	上部欠損	160.0+	11.6~14.4	0.7~2.3	南側縁板外側の透板	235-12	
15	L-119	4-SE10	木製品・井戸枠板	ほぼ定形?	81.4+	4.0~15.1	1.5~1.8	縁板外側の透板	235-13	
16	L-57	4-SE10	木製品・井戸枠?	部分	12.9+	22.8	1.7	板目	235-10	
17	L-103	4-SE10	木製品・井戸枠縁板支台	定形	59.0	4.7	4.4	木製品・透板、木製品・透板目・透板目・透板目・透板目	235-8	
18	L-104	4-SE10	木製品・井戸枠縁板支台	定形	59.0	5.5	2.0	木製品・透板、木製品・透板目・透板目・透板目・透板目	235-9	
19	L-102	4-SE10	木製品・井戸枠縁板支台	定形	37.4	2.0	0.9	透板を長く閉り出し	235-11	
20		4-SE10	木製品・井戸枠板	上部欠損				縁板外側の透板、写真のみ	235-4	

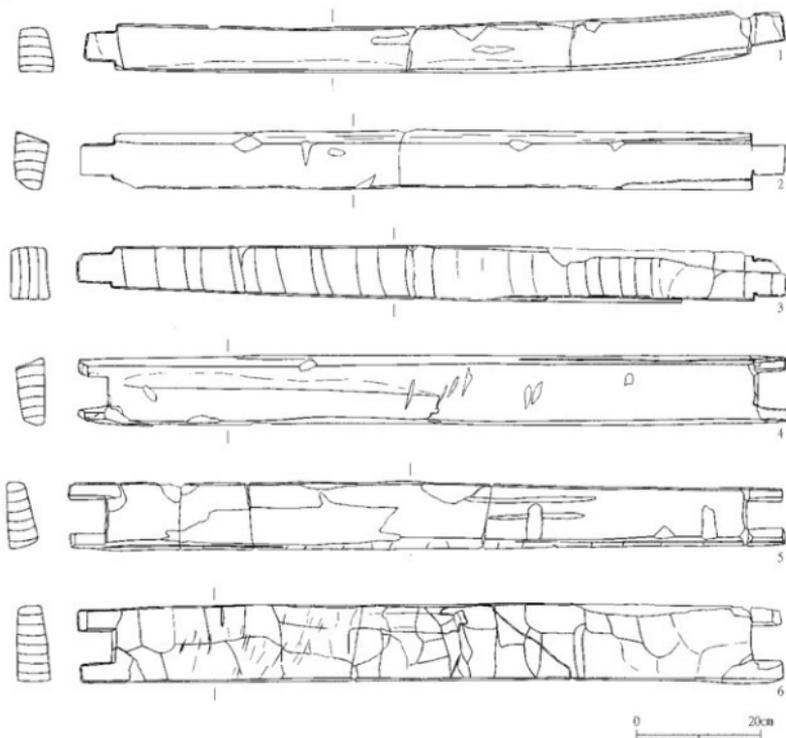
SE10井戸枠(第716・717図の表)



第716圖 SE10井戸杵 (1)

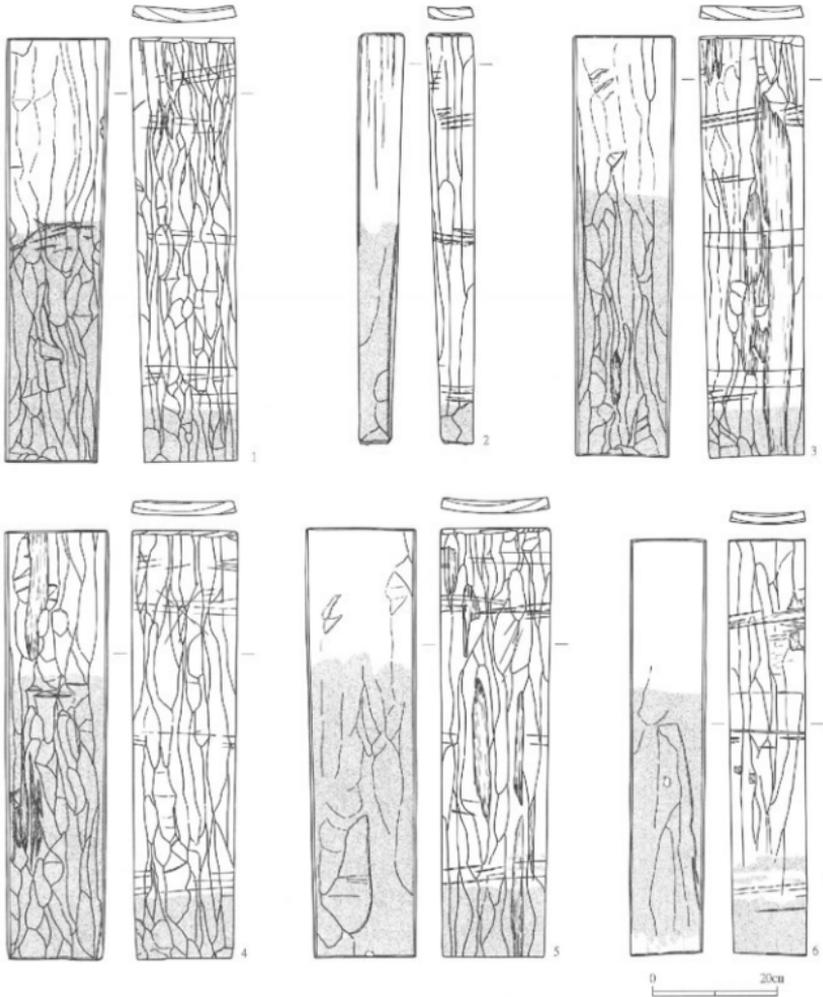


第717図 SE10井戸枠 (2)



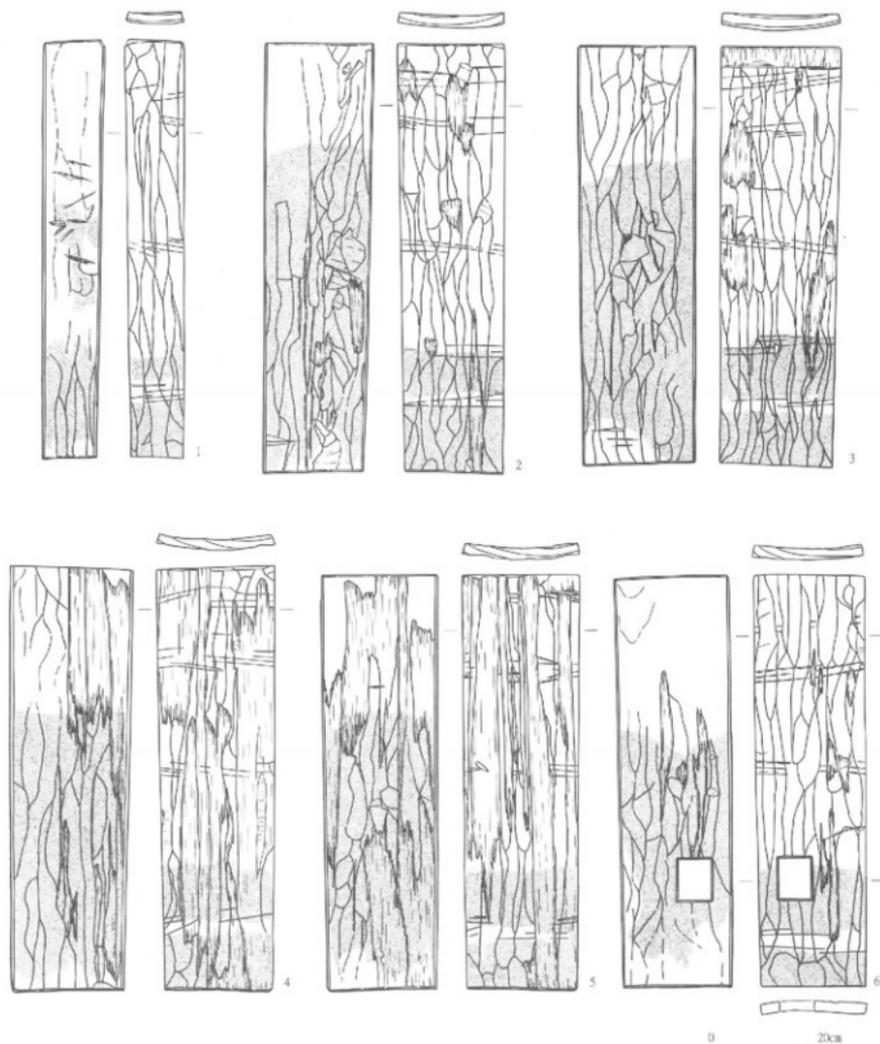
No.	登録No.	地区・遺跡・層位	種別(産地) 器種	保存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図録
					長さ	幅		
1	L-90	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	完形	112.8	7.4~7.8 3.9~4.6	両側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む	277-1
2	L-91	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	完形	113.5	8.8~9.4 5.2~5.5	両側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む	277-2
3	L-92	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	ほぼ完形	114.0	6.5~8.6 5.7~6.1	両側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む	277-3
4	L-93	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	完形	114.0	10.5~11.2 3.2~4.6	上側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む	277-4
5	L-94	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	完形	115.0	9.4~11.0 3.7~4.4	上側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む	277-5
6	L-95	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	完形	113.4	10.8~12.2 3.7~5.0	上側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む	277-6
7	L-96	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	完形	114.0	7.0~9.0 2.6~4.9	両側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む, 両側のみ	277-7
8	L-97	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	完形	112.8	6.5~8.5 3.5~4.8	両側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む, 両側のみ	277-8
9	L-98	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	完形	113.0	9.0~10.0 2.7~4.3	両側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む, 両側のみ	277-9
10	L-99	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	ほぼ完形	112.0	10.0~10.0 3.2~5.2	両側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む, 両側のみ	277-10
11	L-100	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	完形	114.0	10.0~10.5 2.4~4.5	両側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む, 両側のみ	277-11
12	L-101	4-SE10	木製品・井戸杵横棧	完形	113.0	9.0~9.5 3.5~5.1	両側段目, 両側を凸状に磨削し, 固定する横棧に嵌め込む, 両側のみ	277-12

第718図 SE10井戸杵(3)



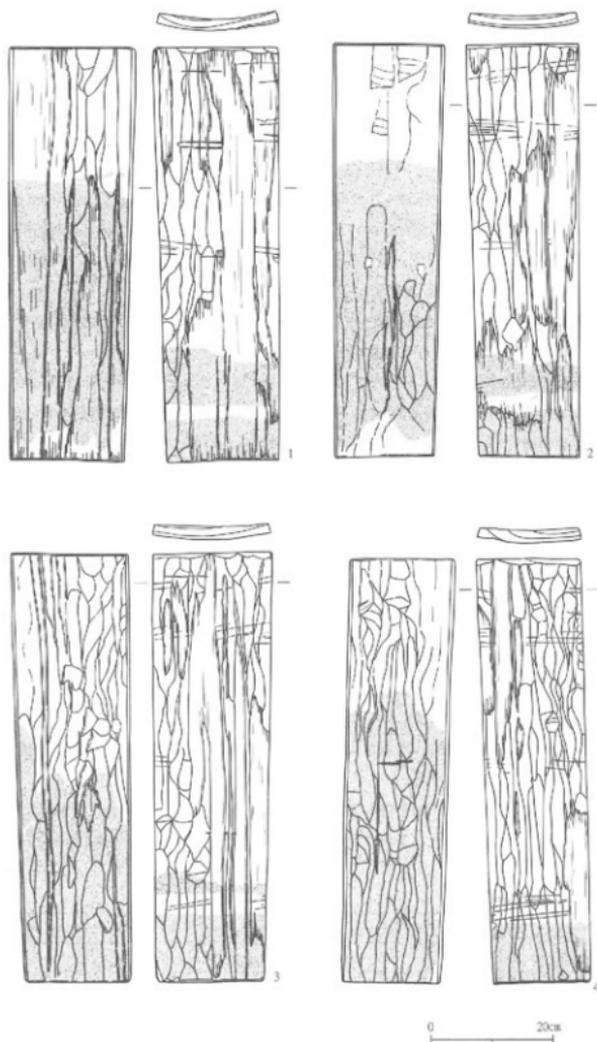
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図版
						長さ	幅		
1	L-74	4-SE10・底面掘付	木製品・楯	銅板1枚	69.1	14.5~16.2	1.8	外面に漆の痕跡4本、板目、下半部炭赤褐色	277-13
2	L-89	4-SE10・底面掘付	木製品・楯	銅板1枚	66.8	5.2~7.2	2.0	外面に漆の痕跡4本、板目、下半部炭赤褐色	277-14
3	L-88	4-SE10・底面掘付	木製品・楯	銅板1枚	68.7	15.2~16.4	1.8	外面に漆の痕跡4本、板目、下半部炭赤褐色	277-15
4	L-87	4-SE10・底面掘付	木製品・楯	銅板1枚	70.0	15.0~16.8	2.0	外面に漆の痕跡4本、板目、下半部炭赤褐色	277-16
5	L-86	4-SE10・底面掘付	木製品・楯	銅板1枚	70.0	16.3~17.7	1.9	外面に漆の痕跡3本、板目、下半部炭赤褐色	277-17
6	L-85	4-SE10・底面掘付	木製品・楯	銅板1枚	67.8	11.5~11.1	1.7	外面に漆の痕跡4本、板目、下半部炭赤褐色	277-18

第719図 SE10井戸枠 (4)



No	登録No	地区・遺構・部位	種別(高地)	器種	遺存度	法量(cm)			断端・特徴	写真 図号
						長さ	幅	厚さ		
1	L-84	4-SE10・底面附付	木製品・櫛	櫛板1枚	67.5	8.3~9.3	1.6	外面に櫛の直線4本、板目、下部分淡赤褐色	277-19	
2	L-83	4-SE10・底面附付	木製品・櫛	櫛板1枚	69.5	15.7~17.3	1.7	外面に櫛の直線5本、板目、下部分淡赤褐色	277-20	
3	L-82	4-SE10・底面附付	木製品・櫛	櫛板1枚	68.2	17.8~18.9	2.3	外面に櫛の直線5本、板目、下部分淡赤褐色	277-21	
4	L-81	4-SE10・底面附付	木製品・櫛	櫛板1枚	69.0	17.4~19.2	1.8	外面に櫛の直線4本、板目、下部分淡赤褐色	277-22	
5	L-80	4-SE10・底面附付	木製品・櫛	櫛板1枚	67.4	11.5~13.8	1.7	外面に櫛の直線4本、板目、下部分淡赤褐色	277-23	
6	L-79	4-SE10・底面附付	木製品・櫛	櫛板1枚	67.0	16.7~18.0	1.9	外面に櫛の直線4本、方形の孔(5.5×7.0cm)1箇所、板目、下部分淡赤褐色	277-24	

第720図 SE10井戸枠(5)



No.	登録No.	地区・遺構・方位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図版	
						長さ	幅			厚さ
1	L-78	4-SE10・瓦面敷付	木製品・榿	板1枚		67.9	18.7~30.5	?	外面に漆の痕跡3本、裏目、下半部褐色斑色	277-28
2	L-77	4-SE10・瓦面敷付	木製品・榿	板1枚		67.7	16.0~18.2	?	外面に漆の痕跡1本、裏目、下半部褐色斑色	277-26
3	L-76	4-SE10・瓦面敷付	木製品・榿	板1枚		70.2	17.2~19.2	?	外面に漆の痕跡1本、裏目、下半部褐色斑色	277-27
4	L-75	4-SE10・瓦面敷付	木製品・榿	板1枚		69.5	15.4~16.8	1.9	外面に漆の痕跡3本、裏目、下半部褐色斑色	277-28

第721図 SE10井戸枠(6)

(3)土坑

SK13 (第722図) 3区北部の段差の下に位置する。径100×70cmの楕円形で、深さは20cm、断面形は浅い皿形である。堆積土は2層である。遺物は出土しなかった。

SK14 (第722図) 3区北部の段差の下に位置し、SK15を切っている。径130×90cmの楕円形で、深さは30~40cm、断面形は上部が大きく開いた浅い「U」字形である。堆積土は2層で、自然堆積層と推定される。遺物は土師質土器皿1点が出土したが図化はできなかった。

SK15 (第722図) 3区北部の段差の下に位置し、5a層下面の溝とSK14に切られている。平面形は長楕円形で、南北3.9m、東西1.6m、深さは110cm、底面には段が付いており中央部が約20cm深くなっている。断面形は「U」字形である。堆積土は粘土を主とする細かく互層で、自然堆積層と推定される。遺物は出土せず、土壌の分析を行ったが特別な所見を得ることはできなかった(第4分冊V)。

SK16 (第722図) 3区中央部に位置し、SD7を切っている。径80cmのやや歪んだ円形で、深さは35cm、断面形は逆台形である。堆積土は3層で、自然堆積層と推定される。遺物は出土しなかった。

SK17 (第722図) 3区東壁際に位置し、SD7を切っている。南北4.5m、東西1.8mの長楕円形で、深さは90cm、底面には段差が付いており南側が約30cm低い。断面形は、下部が垂直に立ち上がるが上部は大きく開いた逆台形となっている。堆積土は自然堆積層で、層上部には灰白色火山灰が多量に含まれていた。遺物は土師器、須恵器7点で、墨書が施されたほぼ完形の須恵器E-34環が含まれている(第726図2)。

SK20 (第723図) 4区南部に位置し、SK21を切っている。径100×50cmの楕円形で、深さは10cm、断面形は浅い皿形である。堆積土は1層である。遺物は土師器片1点で、図化はできなかった。

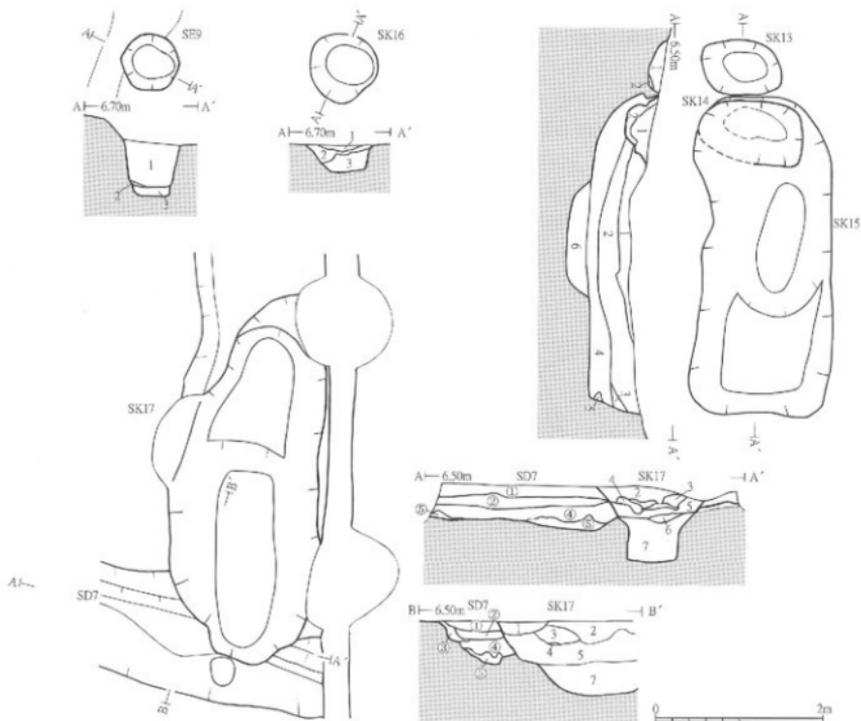
SK21 (第723図) 4区南部に位置し、SK22を切り、SK20に切られている。径120cmの円形で、深さは10cm、断面形は浅い皿形である。堆積土はブロック土の混合であるので人為的に埋め戻されていると考えられる。遺物は土師器、須恵器片2点で、図化はできなかった。

SK22 (第723図) 4区南部に位置し、SK21に切られている。径60cmの円形で、深さは5cm、断面形は浅い皿形である。堆積土は1層である。遺物は出土しなかった。

SK24 (第713図) 4区南部に位置し、SD10に切られている。平面形は三日月形で大きさは3m×80cm、深さは15cmで底面には段が付いており、中央部が低い。断面形は浅い「U」字形で、堆積土は2層である。遺物は土師器、須恵器、中世陶器27点であるが図化はできなかった。

SK25 (第723図) 4区西部に位置し、SK26を切っている。径1mの円形で、深さは10cm、断面形は浅い皿形である。堆積土には木炭粒が多量に含まれていた。遺物は土師器、須恵器片3点で、図化はできなかった。

層位	色相	土質	混入物・その他
SD7	① 2.5Y1/1 黒褐色	粘土質シルト	黒色粘土ブロック少量
	② 2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	
	③ 2.5Y4/1 灰褐色	粗砂	黒色粘土ブロック少量
	④ 2.5Y1/1 黒褐色 2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト 粘土	互層
	⑤ 2.5Y3/1 黒褐色	粘土	灰色粘土ブロック少量
SK17	1 10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	
	2 2.5Y4/1 黄灰色	シルト質粘土	黒褐色粘土ブロック多量、灰白色火山灰物質
	3 2.5Y4/1 黄灰色	シルト質粘土	灰白色火山灰多量
	4	火山灰	灰白色火山灰
	5 5Y4/1 灰褐色	粘土	立脚
	6 5Y3/1 オリーブ黒色	粗砂	
	7 5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	灰色粘土ブロック・黒色粘土ブロック少量、オリーブ褐色粗砂ブロック多量



層位	色調	土質	埋入物・その他
SK9	1 5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	灰オリーブ色粘土ブロック・黒色粘土ブロック少量
	2 7.5Y4/1 灰色	粘土	
	3 2.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	
SK16	1 10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰黄褐色産砂ブロック少量
	2 10YR4/2 灰黄褐色	粘土	暗灰黄色産砂を層状に少量
	3 10YR3/2 黒褐色	粘土	黒褐色産砂ブロック少量
SK13	1 10YR3/1 黒褐色	粘土	暗灰色粘土ブロック少量
	2 10YR5/1 暗灰色	粘土	暗灰色粘土ブロック少量
SK14	1 7.5Y4/1 黄灰色	粘土	黒褐色粘土を層状に少量
	2 10YR2/1 黒色	粘土	暗灰色粘土小ブロック少量
SK15	1 10Y2/1 黒色	粘土	互層 オリーブ黄色産砂を層状に少量
	2 7.5Y4/1 灰色	粘土	
	2 10YR6/3 土赤・黄褐色	粘土	互層 オリーブ黄色産砂を層状に少量
	2 2Y2/0 黒色	粘土	
	3 10Y4/1 灰色	砂	
	4 7.5Y6/2 灰オリーブ色	粘土	互層 灰色産砂少量
4 7.5Y5/1 灰色	粘土		
5 2.5Y5/3 灰オリーブ色	粘土	層状に	
6 10YR4/1 暗灰色	粘土	産物遺体少量	

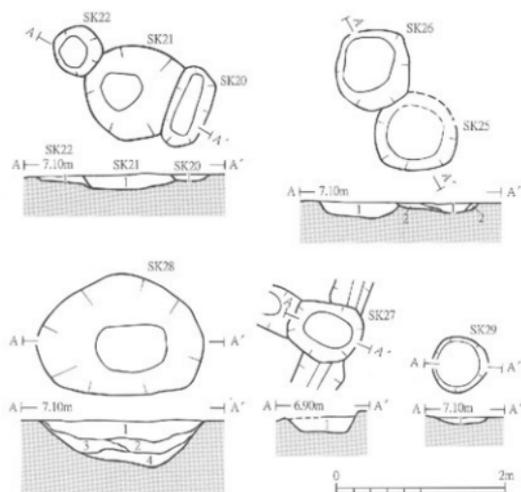
第722図 SE9, SK13～17 平面・断面図, SD7断面図

SK26 (第723図) 4区西部に位置し、SK25に切られている。径90×100cmの円形で、深さは20cm、断面形は浅い皿形である。堆積土には木炭粒が多量に含まれていた。遺物は土師器、須恵器、土師質土器10点で、図化はできなかった。

SK27 (第723図) 4区南部に位置し、SD10・11を切っている。径70×90cmの楕円形で、深さは15cm、断面形は逆台形である。堆積土は1層である。遺物は土師器、須恵器11点で、図化はできなかった。

SK28 (第723図) 4区南部に位置する。径2.0×1.5mの楕円形で、深さは60cm、断面形は浅い「U」字形である。堆積土は自然堆積層である。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、鉄滓など33点で、図化はできなかった。

SK29 (第723図) 4区北西部に位置する。径65cmの円形で、深さは10cm、断面形は浅い皿形である。堆積土は1層である。遺物は土師器4点で、図化はできなかった。



遺物	色調	土質	記入物・その他
SK20	1 10YR3/2 黒褐色	粘土	記入物・その他 にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量
SK21	1 10YR4/2 灰褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト 砂質シルト	ブロック混合 人為的な埋土
SK22	1 10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	灰黄色砂質シルトブロック少量
SK25	1 10YR3/2 黒褐色 2 10YR3/2 黒褐色	粘土 粘土	炭化物多量 灰黄色粘土ブロック少量
SK26	1 10YR2/1 黒色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物多量
SK27	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	
SK28	1 10YR2/2 黒褐色 2 10YR1/2 黒褐色 3 10YR3/2 黒褐色 4 10YR2/2 黒褐色	シルト 粘土 粘土 粘土	灰黄色砂質シルトブロック少量、炭化物少量 灰黄色粘土ブロック少量 灰黄色粘土ブロック少量 灰黄色粘土ブロック少量
SK29	1 10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック少量

第723図 SK20～22・25～29 平面・断面図

第5節 Vb層上面の遺構

1. 遺構の概要

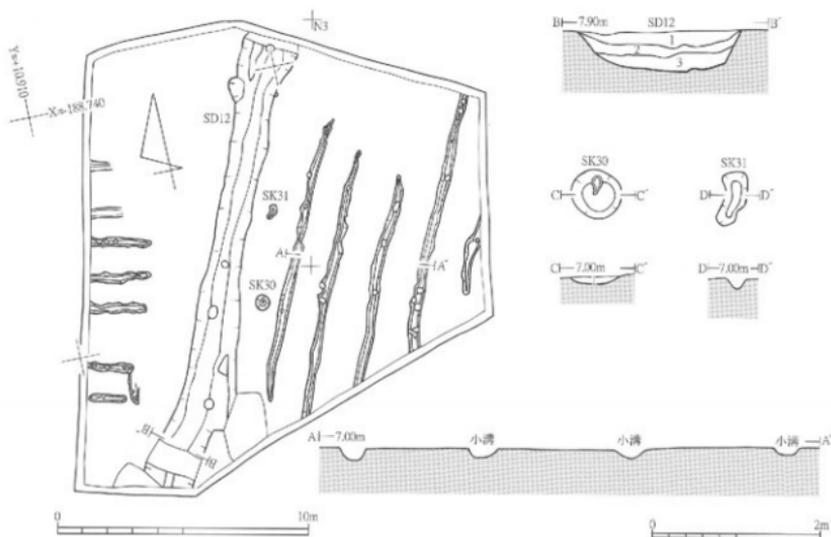
4区で溝跡1条、土坑2基、小溝群が確認された。Vb層上面から掘りこまれていることが確認できた遺構は溝跡のみで、土坑についてはVa層上面から掘りこまれた後、Va層の畑の耕作によって上部が攪拌されている可能性がある。また、小溝群はVa層の畑に伴う耕作痕と考えられる。

2. 遺構と遺物

(1) 溝跡

SD12 (第724図) 4区中央を南北に横断する溝跡で、方向はN-24°-Eである。幅は1.3～2.3m、深さは55～65cmで、断面形は上部が開く逆台形である。底面には緩やかな起伏があるがほぼ平坦である。堆積土は自然堆積層である。

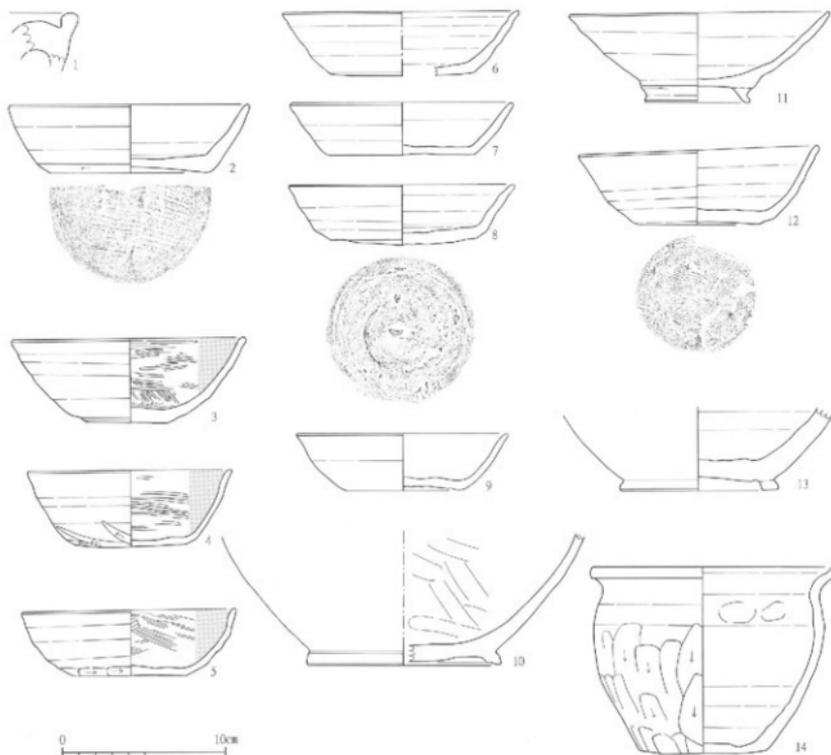
遺物は土師器、須恵器を中心に土器約200点とウマの歯などが出土した。図化できたのは土師器環、須恵器環・変など8点である(第725図4～11)。土師器環はロクロ調整で切り離し後に底部～体部下半に手持ちヘラケズリが施されるD-18・22(4・5)、須恵器環は底径が大きき切り離し後に底部全面に回転ヘラケズリ再調整が施されるE-21・26・25(6～8)と回転ヘラ切り無調整のE-22(9)、底径が小さく器高が高いE-24高台付環(11)などである。



第724図

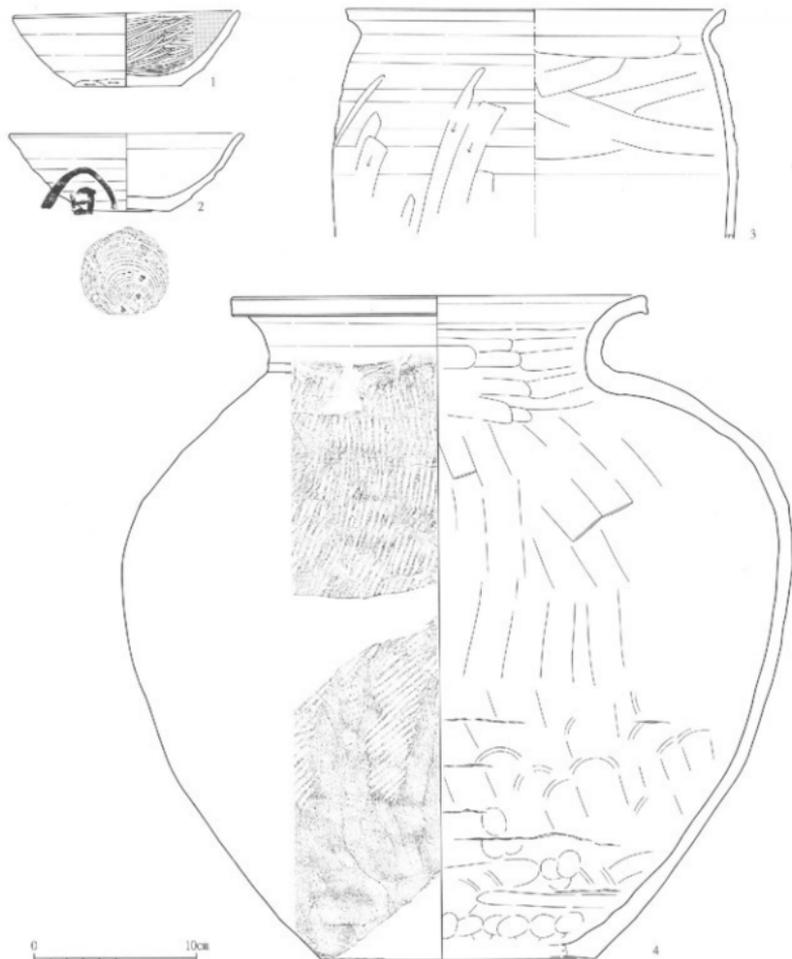
4区Vb層上面平面図
SK30・31平面・断面図
SD12・小溝群断面図

副位	色票	土質	混人物・その他
SD12	1 10YR4/1 褐灰色	粘土	灰白色火山灰数量 炭化物散粒
	2 10YR5/2 黒褐色	粘土	
	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	
3 2.5Y2/1 黒色	粘土	オリゾ灰色砂粒大ブロック多量	
SK30	1 10YR3/2 暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂粒少量
SK31	1 10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	E-31	3-SD1	陶器(新瀬)	狭	口縁部小片				口縁部コゴナテ、外側に黒白色の直線模を施す形式	272-4
2	E-33	3-SD7	須恵器・坏	1/2	14.4	9.6	4.1	口縁部直線、底縁部土系同一形式、外縁下部縦線ヘラケズリ 底径/口径0.67	272-5	
3	D-23	4-SD8, (SD12)	土師器・坏	1/2	14.0	4.7	5.2	口縁口調直、底縁部直線、内面ヘラミガキ、黒色処理 底径/口径0.34、白針穴模様	272-6	
4	D-18	4-SD12	土師器・坏	1/2	12.2	6.8	4.7	口縁口調直、底縁部直線、外縁下部半手掛ヘラケズリ 内面ヘラミガキ、黒色処理、底径/口径0.57	272-8	
5	D-22	4-SD12, (SD8)	土師器・坏	1/2	12.8	6.7	4.0	口縁口調直、底縁部直線、外縁下部半手掛ヘラケズリ 内面ヘラミガキ、黒色処理、底径/口径0.52	272-7	
6	E-21	4-SD12	須恵器・坏	1/4	(14.2)	(8.8)	3.9	口縁口調直、底縁部直線、外縁ヘラミガキ、黒色処理 白針穴模様	272-16	
7	E-26	4-SD12, (SD8, 古瀬)	須恵器・坏	1/2	13.4	8.8	3.7	口縁口調直、底縁部直線、外縁下部半手掛ヘラケズリ、黒色処理 白針穴模様	272-15	
8	E-25	4-SD12, (古・Va瀬)	須恵器・坏	1/2	13.6	8.6	3.8	口縁口調直、底縁部直線、外縁下部半手掛ヘラケズリ、黒色処理 白針穴模様	272-12	
9	E-22	4-SD12	須恵器・坏	1/2	12.7	7.0	3.5	口縁口調直、外縁口調直、黒色処理、底径/口径0.55	272-9	
10	E-17	4-SD12	須恵器・狭	下部2/5		(11.6)		口縁口調直、外縁口調直、内面ヘラミガキ	272-10	
11	E-24	4-SD12	須恵器・高台杯	1/2	15.7	6.3	5.3~5.6	口縁口調直、底縁部直線、外縁下部半手掛ヘラケズリ、黒色処理 白針穴模様	272-13	
12	E-31	4-(SD12), SD14	土師器・坏	3/5	14.5	7.3	4.2~4.8	口縁口調直、底縁部直線、外縁下部半手掛ヘラケズリ、黒色処理 白針穴模様	272-14	
13	E-18	4-SD14	須恵器(大?)	下部1/2			9.4	口縁口調直、内面底縁部ヘラケズリ	272-11	
14	D-15	4-SD14	土師器・狭	2/5	14.5	7.6	11.4	口縁口調直、外縁口調直、外縁下部半手掛ヘラケズリ	272-17	

第725図 SD4・7・8・12・14出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	D-1	2-SK6・3層	土師器・坏	ほぼ完形		14.0	6.5	4.3~1.7	コシロ調染。表裏面にオ・土師調染。赤褐色下平帯ヘラズリ。内面ヘラミガキ・黒色処理。底径/口径0.46	Z78-6
2	E-34	3-SK17・下層	須恵器・坏	ほぼ完形		14.4	5.1	4.8	ロクク調染。表裏面に赤褐色ヘラミガキ。赤褐色調染。内面ヘラミガキ。内面赤下平帯。底面に同心円状のヘラミガキのようなオ。底径/口径0.35	Z78-5
3	D-5	3-SK19	土師器・甕	上部1/5	(23.2)				ロクク調染。外周赤下平帯ヘラズリ。内面赤上平帯。白針織。底	Z78-3
4	E-32	6-SD8, SD14, SK31 IV, Va, Vb層	須恵器・甕	1/2	31.5~25.5	(16.8)	(40.6)		赤面平行タテオ。ロクク調染。赤褐色下平帯ヘラズリ。内面アテ具痕。一ツテ	Z78-4

第726図 SK6・17・19・31出土遺物

(2)土坑

SK30 (第724図) SD12の東側に位置する。径65cmの円形で、深さは10cm、断面形は浅い皿形である。堆積土は1層である。遺物は土師器、須恵器4点で、図化はできなかった。

SK31 (第724図) SD12の東側で、SK30の北側に位置する。径70×25cmの長楕円形で、深さは10cm、断面形は浅い「U」字形である。堆積土は1層である。

遺物は須恵器E-32隻が廃棄された状態で出土している。土坑内の破片数は190点であるが、近くのSD8・SD14や基本層IVa・Va・Vb層から出土した破片と接合して約1/2が復元できた(第726図4)。

(3)小溝群

SD12の西部では東西方向、東部では南北方向の小溝群が認められた。幅20～40cm、深さ5～10cm、間隔は1.2～2mである。底面には深さ5cm前後で大きさが20×10cm前後の三日月形や楕円形の窪みが多数認められた。堆積土が直上のVa層であることから、Va層の畑に伴う耕作痕と考えられる。

第6節 VI層上面の遺構

1. 遺構の概要

2～3区では、上層の遺構によって切られたり攪拌されている箇所が多かったことからのVI層上面の遺存状況は良くない。4区では比較的広い範囲でVI層が確認されたが分布は部分的である。遺構は、2～3区で部分的に確認した小溝群と少数の上坑、4区の小溝群と掘立柱建物跡であるが、VI層が残存していない箇所ではVII層上面での確認となっている。なお、VI層上面から掘りこまれていることが確認できた遺構はなく、大部分の遺構は直上のVb層から掘りこまれた後、Vb層の畑の耕作によって上部が攪拌されている可能性がある。

2. 遺構と遺物

(1)土坑

SK6 (第727図) 2区南部に位置し、大部分をSD3に切られている。径3×4m前後の楕円形と推定される。深さ90cm、断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土の最上層は人為的に埋め戻された可能性があるが、大部分は自然堆積層で中位には灰白色火山灰が認められた。

遺物は土師器など39点であるが、中～近世の陶器2点はSD3からの混入品と考えられる。図化できたのはほぼ完形の土師器1点である(第726図1)。

SK18 (第728図) 3区の北壁際に位置するが、東側をSD3に切られ北側が調査区外となっている。大きさは東西3.2m以上、南北1.8m以上であるが、平面形は不明である。深さは約20cmで、中央部が一段低くなっている。遺物は出土しなかった。

(2)性格不明遺構

SX2 (第728図) 3区北西部に位置する。小溝群を確認した際に径約50cmの範囲で土師器が集中する箇所が認められた。この面では遺構を確認することはできなかったが、

SK6

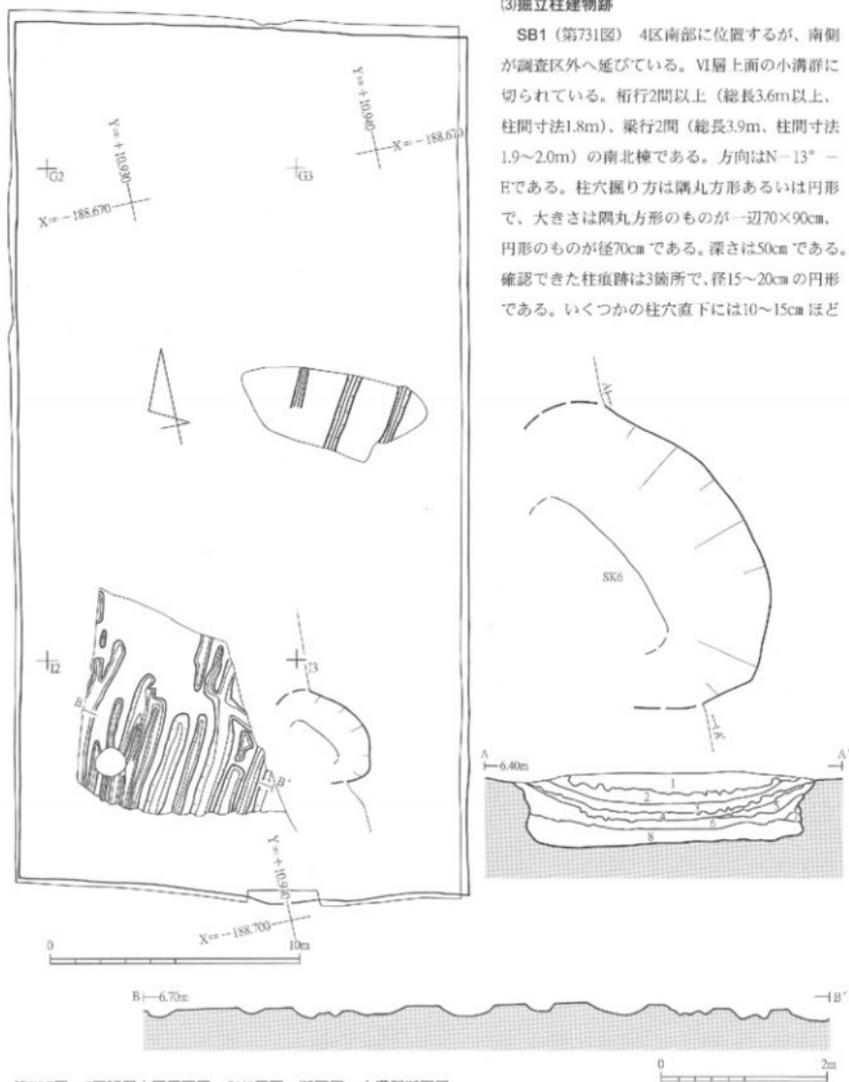
層位	色調	土質	遺物	侵入物・その他
1	10YR2/1 黒色	粘土	ブロックの 面合	人為的な埋土
	2.5Y4/1 黄灰色	粘土		
	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト		
2	5Y4/1 灰色	粘土	互層	
	5Y5/1 灰色	シルト質粘土		
	10YR1.7/1 黒色	粘土		
3	10YR4/1 黄灰色	粘土	互層	植物遺体多量
	10YR3/1 黄褐色	粘土		
	10YR3/2 黄褐色	粘土		
4	10YR5/2 黄褐色	シルト質粘土	互層	
	2.5YR1/1 灰白色	火山灰		
	10YR2/1 黒色	粘土		
5	10YR4/1 黄灰色	粘土	互層	灰オリーブ色砂を層状に少量
	5Y4/1 灰色	粘土		
	5Y5/1 灰色	砂		
6	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	互層	
	10YR2.1/1 黒色	粘土		
	5Y4/1 灰色	粘土		
7	5Y4/1 灰色	粘土	互層	灰オリーブ色砂ブロック少量、崩落土
	5Y3/2 オリーブ褐色	粘土		
	5Y2/1 灰色	粘土		
8	10YR3/2 黄褐色	粘土	互層	
	10YR3/2 黄褐色	粘土		

小溝の下面で焼土が堆積した浅い窪みを確認した。窪みは径45cmの円形で深さは5cmである。

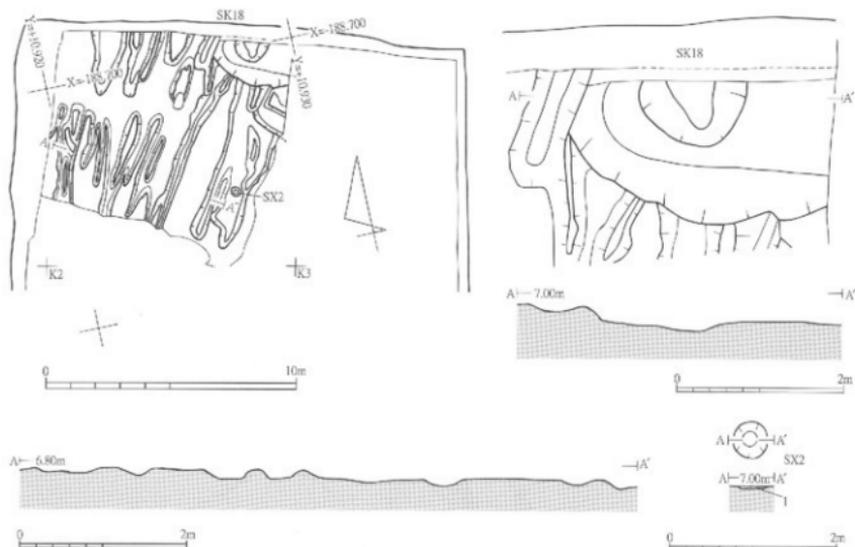
遺物はやや浮いた状態であるが土師器片134点で、図化できたのは裏4点である(第729図)。

(3) 掘立柱建物跡

SB1(第731図) 4区南部に位置するが、南側が調査区外へ延びている。VI層上面の小溝群に切られている。桁行2間以上(総長3.6m以上、柱間寸法1.8m)、梁行2間(総長3.9m、柱間寸法1.9～2.0m)の南北棟である。方向は $N-13^{\circ}-E$ である。柱穴掘り方は隅丸方形あるいは円形で、大きさは隅丸方形のものが一辺70×90cm、円形のものが径70cmである。深さは50cmである。確認できた柱痕跡は3箇所、径15～20cmの円形である。いくつかの柱穴直下には10～15cmほど

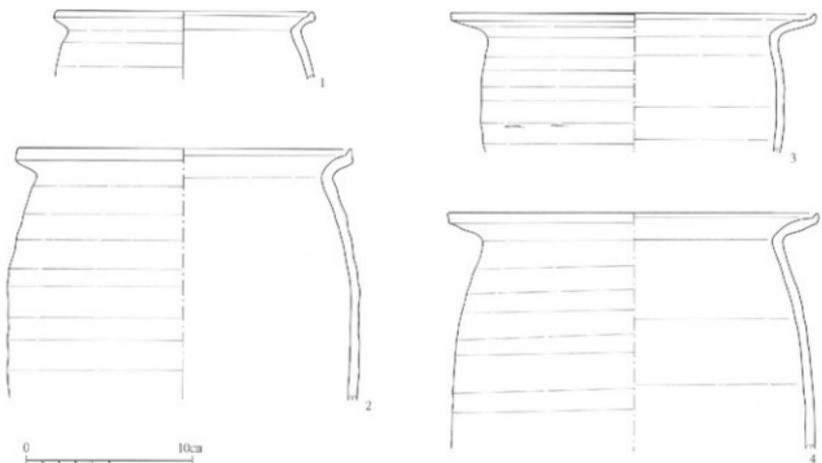


第727図 2区VI層上面平面図、SK6平面・断面図、小溝群断面図



第728図 3区VI層上面平面図、
SK18、SX2 平面・断面図、
小溝群断面図

SX2			
材料	色相	土質	混入物・その他
1	EYR4/5 褐色	粘土質シルト	(黄土)

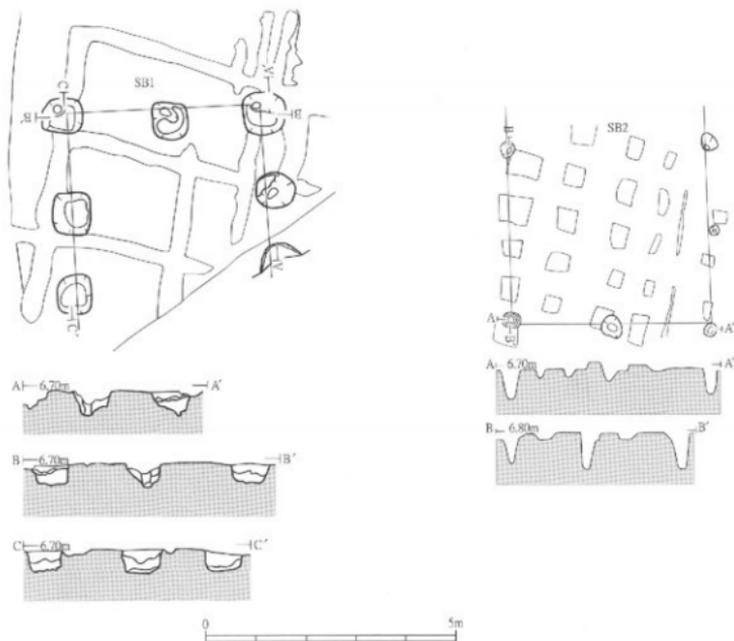


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	保存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図取
					口径	底径	器高		
1	D-10	3-SX2	土師器・甕	口縁~体部	15.9			口ケ口前縁	28-1
2	D-11	3-SX2 (1,2・V層)	土師器・甕	上部1/4	(20.0)			口ケ口前縁、内面磨減	28-2
3	D-12	3-SX2	土師器・甕	上部1/5	(22.0)			口ケ口前縁	28-3
4	D-13	3-SX2 (V層)	土師器・甕	上部1/5	(22.2)			口ケ口前縁	28-4

第729図 SX2出土遺物



第730図 4区VI層上面平面図、小溝群断面図



第731図 SB1・2 平面・断面図

柱が沈下した痕跡が認められた。

遺物は柱穴掘り方土から土師器、須恵器片3点が出土したが図化はできなかった。

SB2(第731図) 4区北部に位置するが、北側が調査区外へ延びている可能性がある。VI層上面の小溝群に切られており、大部分が小溝群の底面で確認されている。桁行2間以上(総長3.65m以上、柱間寸法1.8~1.85m)、梁行2間(総長4.0m、柱間寸法2.0m)の南北棟と推定される。方向はSB1と同じくN-13°-Eである。柱穴掘り方は楕円形で、大きさは小さいもので径20~25cm、大きいもので35~50cmである。深さは50~70cmである。柱痕跡は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

(4)小溝群

2区中央部と南部、3区北西部、4区で確認したが、2区と3区では部分的に確認されたのみである。

2~3区では大部分が南北方向である。溝の間隔は心々で50cm~1m前後と一定しないが、一部重複している箇所があることから、すべてが同一時期に掘られたものではなく複数期の溝跡があると考えられる。ただ、新旧関係を明らかにすることはできなかった。幅は30~80cmのものが多く、深さは5~10cm、底面は凹凸がある。

4区では東部に集中して認められ、東西・南北方向のものが重複しているが新旧関係を明らかにすることはできなかった。溝の間隔は心々で30cm~1m前後、幅は30cm前後の狭いものと50cm以上の広いものがある。深さは5~15cm、底面には径10~20cm前後の楕円形で深さ5~10cmの窠みが多数認められる。

小溝の堆積土は直上の基本層Vb層に類似したシルト質粘土であることから、小溝群に係わる耕作上は基本層Vb

層であると推定される。なお、3区のようにほとんどVb層が認められない箇所もあるが、これはその直上の耕作土によって攪拌を受けたため大部分のVb層が失われた結果と推定される。

なお、遺物は小溝群として区別せず、基本層Vb層として取り上げた。

第7節 VII層上面の遺構と下層の調査

1. VII層上面の遺構の概要

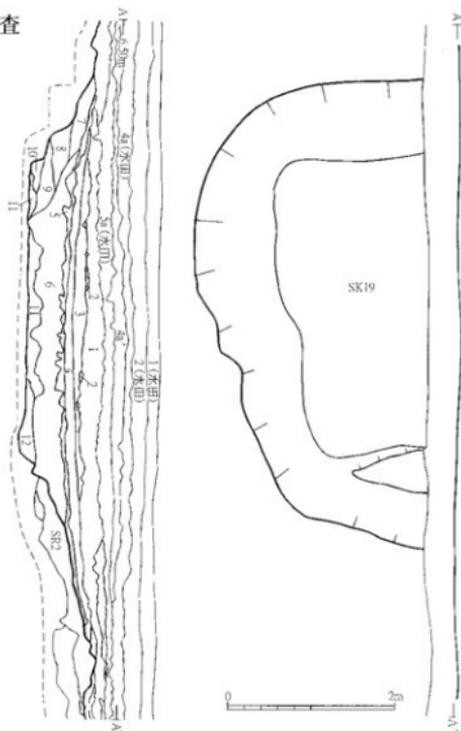
3区で小規模な自然流路（小河川跡）2条と土坑1基、4区で溝跡2条を確認しているが、3区の土坑は周囲を5a層水田跡の耕作土によって削平されたため結果的にVII層上面での確認となったもので、本来の掘りこみ面はさらに上層であったと考えられる。

2. VII層上面の遺構と遺物

(1) 溝跡

SD14（第734図）4区南西部で部分的に確認した南北方向の溝跡で、SD15に切られている。上面では確認できなかったが、断面観察によれば2条の溝跡が幅半分ほどずれて重複している。西側が新しく、方向はN-23°-E、幅約1.3m、深さ30～40cm、断面形は上部が大きく開く「U」字形で、底面は北側が約20cm低くなっている。東側の溝跡は南端が途切れており、さらに東の層をSD12によって切られ、西の層を新しい溝によって切られているため全体像は不明である。方向は西側の溝と同様で、幅約1.3m、深さ40～50cm、断面形は逆台形と推定され、底面は北側が約5cm低くなっている。なお、西側の新しい溝の堆積土は自然堆積層であるが、東側の古い溝は多量のブロック土が混入することから人為的に埋め戻されている可能性が高い。

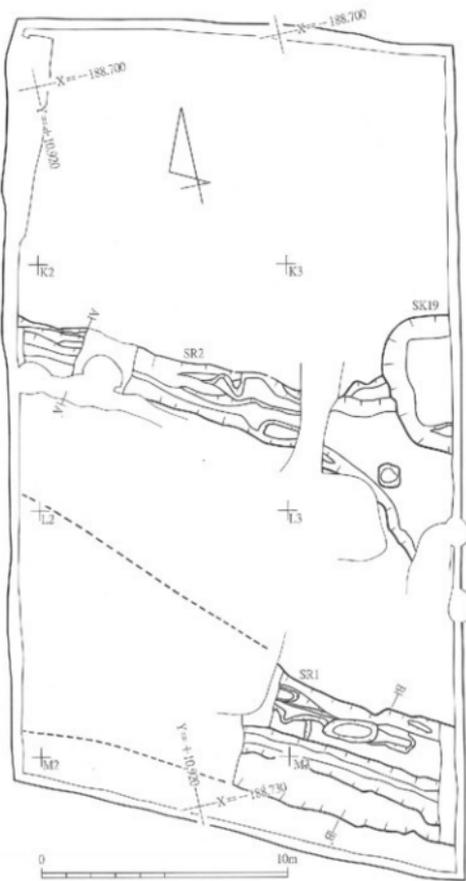
遺物は土師器、須恵器片240点とウマの歯などで、のうち須恵器環・壺、土師器甕など3点が図化できた（第725図12～14）。



層位	色層	土質	遺人物・その他
1	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土ブロック・灰白色火山灰ブロック少量、粗砂少量
2		火山灰	灰白色火山灰
3	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	灰白色火山灰少量
4	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	部分的に黒褐色粘土・灰白色を層状に少量
5		火山灰	部分的に黒褐色粘土ブロック少量
6	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	
7	5Y3/1 オリーブ黒色	粗砂	オリーブ黒色粘土ブロック・黒色粘土ブロック多量
8	5Y3/1 オリーブ黒色	雑砂	
9	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土	黒色粘土ブロック・オリーブ黒色粗砂ブロック少量
10	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	ブロックの混入
	5Y2/1 褐色	粘土	
	5Y4/1 暗オリーブ灰色	粘土	
11	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	灰色粘土ブロック少量
12	2.5Y4/1 灰色	粘土	ブロックの混入
	7.5Y2/1 黒色	粘土	

第732図 SK19 平面・断面図

SD15 (第734図) 4区南西部で部分的に確認した東西方向の溝跡で、SD14を切っている。方向は概ね $N-71^{\circ}-W$ で、幅約1.8m、深さ50cm、断面形は上部が大きく開く浅い「U」字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は自然堆積層である。なお、遺物は出土しなかった。



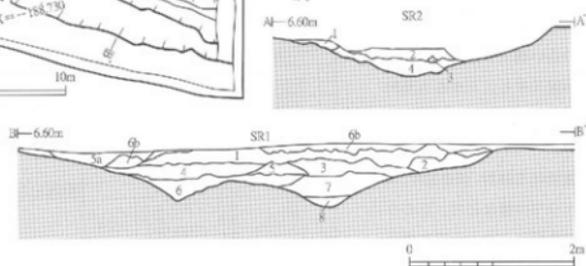
(2)土坑

SK19 (第732図) 3区東壁際に位置し、SR2を切っている。なお、上部は5m層水田跡の耕作土によって削平されており、周辺はVII層上面が露出している。東部が調査区外となっているため詳細は不明であるが、南北5.7m、東西3m以上の隅円方形と推定される。深さは90cm、断面形は上部が大きく開く箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は自然堆積層で中位には灰白色火山灰が認められた。

遺物は土師器、須恵器片8点で、土師器裏1点が図化できた (第726図3)。

(3)自然流路 (小河川跡)

SR1 (第733図) 3区南部を北西～南東に横断しているが、西部はSD3やSK11によって大部分を切られているため精査は東側のみを留めている。方向は $N-59^{\circ}-W$ である。精査を実施した部分の幅は約5mであるが、西部では約10m前後に広がっている。流路は2条認められ、深さは約70cm、壁は緩やかに立ち上がる。底面は東側に向かって緩やかに傾斜しており、精査した部分における高低差は約15cmである。堆積土は下層が粗砂、中位が細砂、上層が粘土を主としている。



第733図 3区VII層上面平面図、SR1・2断面図

層位	色調	土質	埋入物・その他
SR1	1 2.5Y4/1 灰色	シルト質粘土	黒色粘土・灰黄色シルト・オリブ黒色細砂の各ブロック多量
	2 5Y4/1 灰色	粘土	黒色粘土・灰黄色シルトの各ブロック多量、部分的にオリブ黒色粘土・灰黄色細砂を露出に少量
	3 2.5Y4/1 灰色	細砂	黒色粘土・灰色粘土・オリブ黒色粘土の各ブロック多量
	4 7.5Y3/1 灰色	細砂	
	5 7.5Y3/1 オリブ黒色	互層	
	6 7.5Y4/1 オリブ黒色	細砂	黒色粘土ブロック・灰色粘土ブロック多量
	7 7.5Y4/1 灰色	細砂	黒色粘土ブロック・オリブ黒色粘土ブロック少量
	8 7.5Y3/1 オリブ黒色	粗砂	
SR2	1 10YR4/1 黄灰色	シルト質粘土	にぶい黄褐色小礫多量
	2 2.5Y4/1 黄灰色	粘土	
	3 7.5Y4/1 灰色	砂	
	4 2.5Y3/1 黄褐色	粘土	

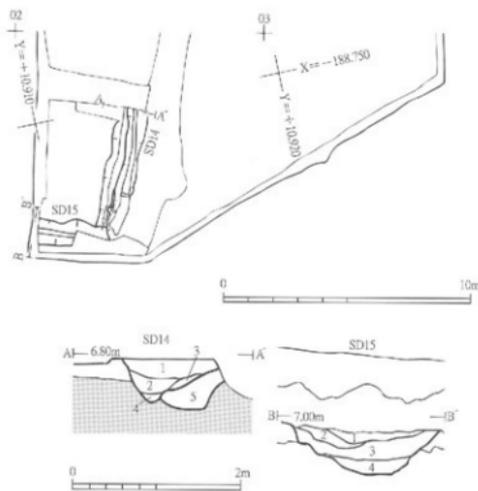
遺物は土師器、須恵器、弥生土器など40点で、このうち3点が図化できた（第735図）。

SR2（第733図）3区中央部を北西～南東に横断している。東部でSK19に切られている。方向はN-62°-Wである。西側から中央部にかけての幅は2～2.5mであるが東部では急激に開き、東壁際では10m前後となっている。深さは約40cmで、壁は緩やかに立ち上がる。底面は東側に向かって緩やかに傾斜しており、調査区内における高低差は約10cmである。堆積土は西部から中央部は粘土を主とするが、東部では砂と粘土の互層となっている。

遺物は土師器、須恵器など約400点で、須恵器環や土師器環を中心に20点が図化できたが、墨書土器が6点含まれている（第736・737図）。

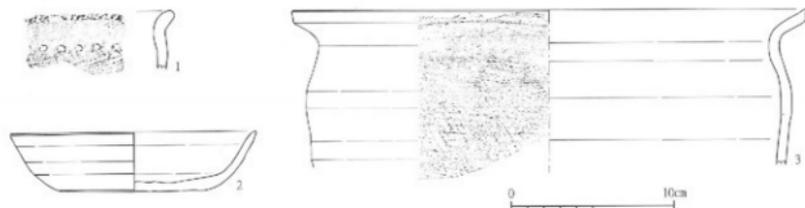
3. 下層の調査

4区のSE10の精査中、付近のX層中から弥生土器が3点出土した。弥生土器は3区のSR1からも1点出土していたので、付近に弥生時代の遺構が存在する可能性が考えられた。このため4区東部で下層遺構の有無を確認するための調査を実施している。VII層～XI層まで各層上面の精査を実施したほか、水田跡の可能性も考えられたため層中においても直下層の畦畔の確認作業に務めた。精査の結果、VII層～XI層までの面で遺構は確認できず、畦畔も確認できなかった。なお、プラント・オパール分析でもイネのプラント・オパールは検出されなかった（第4分冊I-5参照）。



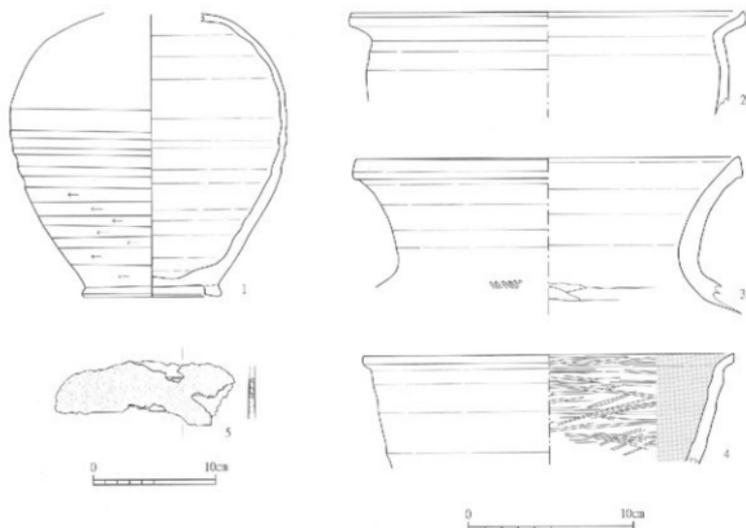
層位	色調	土質	埋入物・その他
SD14	1 10YR3/2 黄褐色	粘土	
	2 7.5Y2/1 灰色	粘土	灰オリブ色シルトブロック少量
	3 10Y4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	互層
	4 10Y7/1 灰白	火山灰	
	5 10Y4/2 灰黄褐色	シルト	オリブ黒色シルト質粘土ブロック少量
SD15	1 10YR3/2 黄褐色	粘土	にぶい黄褐色シルト少量
	2 10YR5/2 灰黄褐色	粘土	にぶい黄褐色シルトブロック少量
	3 10YR5/2 黄褐色	粘土	
	4 2.5Y2/1 灰色	粘土	オリブ灰色粘土大ブロック少量

第734図 4区VII層上面平面図、SD14・15断面図



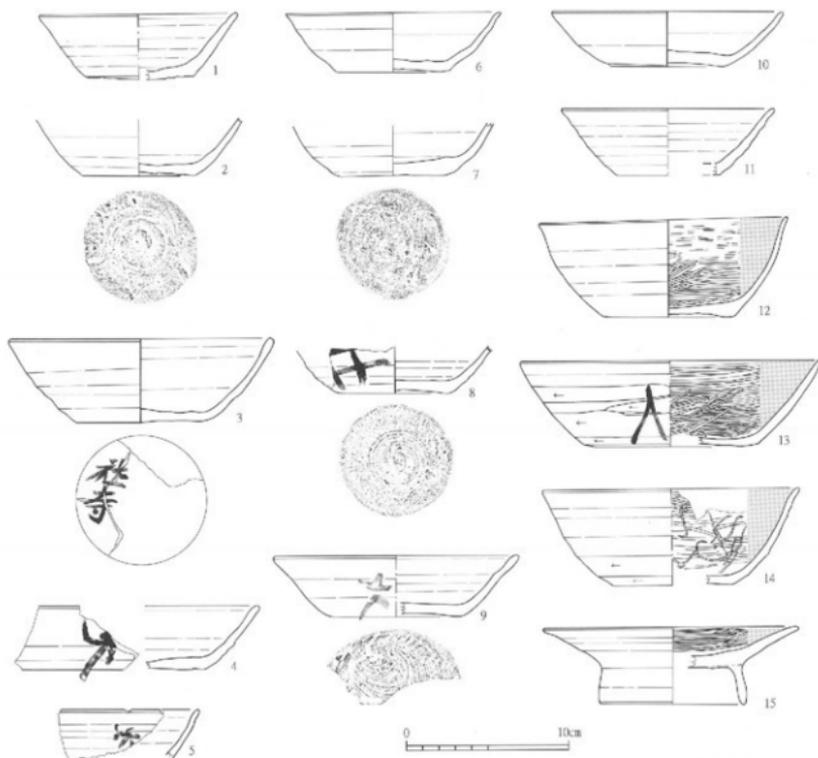
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	B-1	3-SR1	壳生土器・	口縁部小片					281-5	
2	E-36	3-SR1	須恵器・坏	1/2	15.0	9.0	3.7	ロクロ製, 裏面凹面への凹面へのタタキ→一部タタキ底径/口径0.60, 白針敷織	281-6	
3	E-35	3-SR1, Va層	須恵器・壺	上部1/3	(31.4)			外面格子タタキ→ロクロ調整	281-7	

第735図 SR1出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	E-14	3-SR2	須恵器(灰被?) 壺	体部3/4				外面大器型, ロクロ調整, 裏面凹面, 外側縁部→再付厚付外面に灰オリーブ色の自然釉	283-3	
2	E-38	3-SR2	須恵器・壺	上部1/5	(23.8)	8.4		ロクロ調整, 内面被熱粘	283+4	
3	E-16	3-SR2	須恵器・壺	1/1~下部1/4	(23.6)			平行タタキ→ロクロ調整	283-5	
4	D-3	3-SR2	土師器・鉢	上部1/5	(22.4)			ロクロ製, 裏面に黒粘土, 内面へのタタキ, 内外面黒色黒土	283-6	
5	L-30	3-SR2	木製器・漆屋形?	彫分	12.6+	4.8+	厚0.4	内外面黒色	283-7	

第736図 SR2出土遺物(1)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	E-5	3-SR2	須恵器・杯	1/5		(12.2)	(6.6)	4.1	ロク口調整, 底縁に紅丸, 外縁に黄赤斑, 口縁/口内5	281-8
2	E-7	3-SR2	須恵器・杯	下半のみ			7.0		ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	281-9
3	E-3	3-SR2	須恵器・杯	3/4		16.2	7.8	5.2	ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	282-1
4	E-6	3-SR2	須恵器・杯	1/5				3.0	ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	282-2
5	E-4	3-SR2	須恵器・杯	口縁部小片					ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	281-10
6	E-9	3-SR2	須恵器・杯	1/2		13.2	6.9	3.7	ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	281-11
7	E-11	3-SR2	須恵器・杯	下部			6.4		ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	281-12
8	E-8	3-SR2	須恵器・杯	下半のみ			6.9		ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	282-3
9	E-10	3-SR2	須恵器・杯	1/5	(15.0)	(7.9)	3.8		ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	282-4
10	E-12	3-SR2	須恵器・杯	1/5	(14.0)	6.8	3.4		ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	282-5
11	E-13	3-SR2, IVA層	須恵器・杯	上部1/2	(13.0)	(6.3)	4.1		ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	282-6
12	D-7	3-SR2	土師器・杯	1/2	(15.2)	8.0	5.7~6.2		ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	282-8
13	D-9	3-SR2	土師器・杯	1/3	(18.4)	(10.7)	5.3		ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	283-1
14	D-6	3-SR2	土師器・杯	1/5	(15.8)	(7.1)	5.9		ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	282-7
15	D-8	3-SR2	土師器・高台付皿	1/4	(15.6)	8.9	4.7~4.9		ロク口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 口口調整, 底縁に紅丸切, 口縁にスノコ状牙状 やや濃化表焼成	283-2

第737図 SR2出土物(2)

第8節 全体の出土遺物と基本層からの出土遺物

各遺構からの出土遺物については前節までで述べたので、ここでは調査区全体にかかわる点と基本層中からの出土遺物について触れる。なお、出土遺物の層位・遺構別の集計表は表146～149である。

1. 遺物の出土状況

調査区全体の遺物数は表140（185頁）によると、弥生土器10点、土師器4,347点、須恵器2,070点、赤埴土器13点、土師質土器皿類452点、その他の土師質土器3点、瓦質土器21点、中世の無軸陶器355点、中世の施軸陶器26点、中国産陶磁器30点、その他近世の陶磁器22点、瓦40点、金属製品63点（鉄製品54点、銅製品9点）、石製品19点、木製品80点、土製品100点、鉄滓392点で、このほかにウマやウシの骨や歯などを主とする動物遺存体、クルミやモモの種子などの自然遺物が出土している。

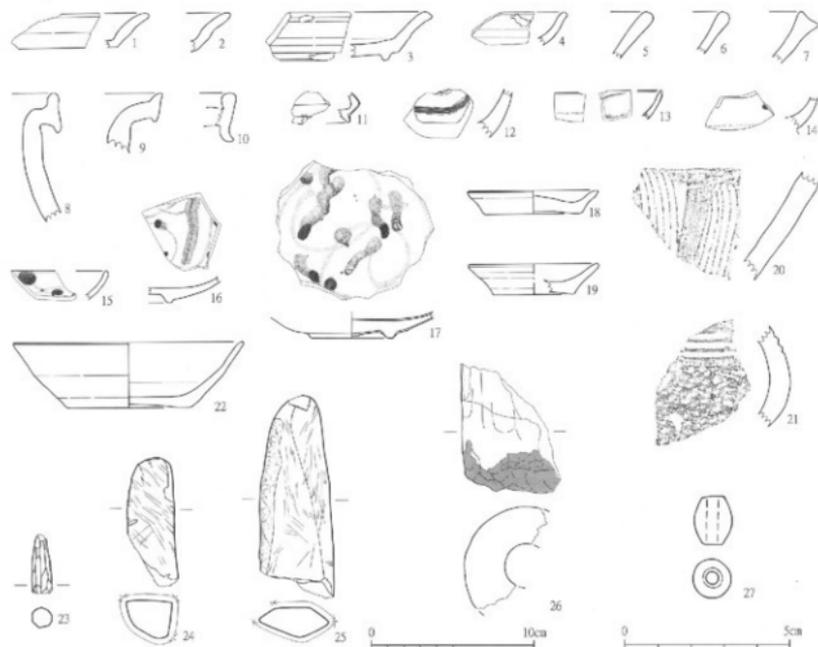
各種の遺物のうち土器類に限ってみると、弥生10点、古代6,430点（88%）、中世887点（12%）、近世22点で、古代の土器類が圧倒的に多い。中世の土器887点の内訳は、土師質土器皿類452点（51%）、その他の土師質土器3点（0.3%）、瓦質土器21点（2%）、無軸陶器355点（40%）、施軸陶器26点（3%）、中国産陶磁器30点（3%）で、土師質土器皿類と無軸陶器で中世の遺物の大部分を占めている。無軸陶器355点の内訳は常滑・瀬美・東海地方産が285点（80%）、在地産70点（20%）で在地産が全体の1/5であるが、表下半部に示した重量で見ると常滑・瀬美・東海地方産が13,036g（70%）、在地産5,689g（30%）となる。

層位・遺構	土師器	須恵器	赤埴土器	土師質土器 皿類	土師質土器 他	瓦質土器	中世 無軸陶器	中世 施軸陶器	中国産 陶磁器	その他 近世陶磁器	瓦	金属製品	石製品	木製品	土製品	鉄滓	その他
1層	10	1		7		2				1							
2層	10			8		2				1							骨の骨
3層	10	5		3		1					3		1				2
4層(土師器)	1	11		1		2											1
5層(赤埴土器)	8	4		1													2
6層(赤埴土器)	2	1															
7層																	
8層(赤埴土器)	6	4		1													1
9層	3	1		1													
計	1				1												
総数	6	27	0	30	0	2	0	7	0	0	0	0	0	0	0	6	7
総重量	207	90		37		82		225		30							108

表146 1区遺物集計表

層位・遺構	土師器	須恵器	赤埴土器	土師質土器 皿類	土師質土器 他	瓦質土器	中世 無軸陶器	中世 施軸陶器	中国産 陶磁器	その他 近世陶磁器	瓦	金属製品	石製品	木製品	土製品	鉄滓	その他
1・1層	23	5	1	32	1	6	2		1	3	2	1	1			2	48
1層	16	1		2		1			1								3
2層	42	27				3											
3層	7	1	1	1													2
4層	21	4		9		2				2							9
5層	8	7		5		2						1					2
6層(赤埴土器)	27	5	1	3		4											
7層(赤埴土器)	59	20	5	10					1								
8層(赤埴土器)	6																
9層	1	1								1							2
S10		2		6			1			1		1					6
S20a-c					1												16
S20D	7			6		2						1					20
S21	8	14		1	3	19	3		2	8	3	4					24
S24	6	1				2				1							1
S25	1																
S21	1	1				1						1					4
SK1	7																1
SK3				7													1
SK6	36																1
PI1																	
総数	211	81	0	113	0	5	0	53	5	3	6	3	15	10	9	9	9
総重量	1,798	737	29	469		491		2,564	136	71		1,506		122	62		9,081

表147 2区遺物集計表

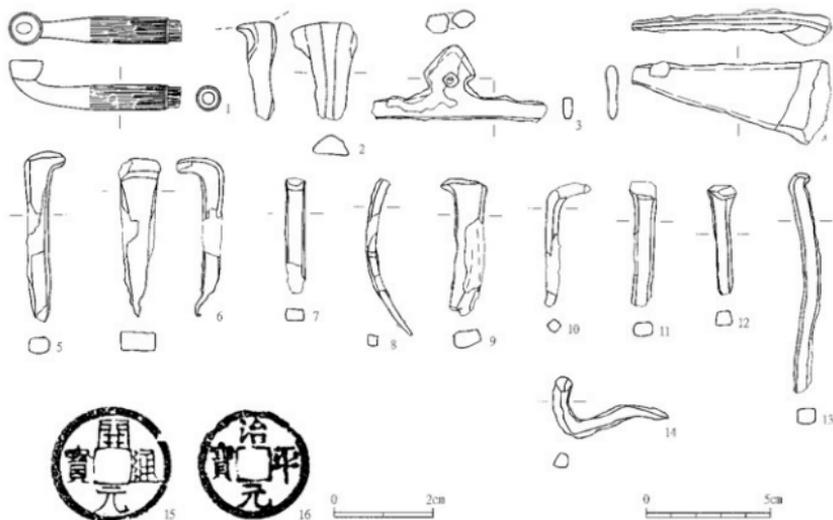


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口徑	底徑	器高		
1	1c-7	2-期溝	陶器(志野)	滑反皿	小片				灰釉、堂壇1~2層	264-5
2	1c-44	3-1層	陶器(志野)	滑反皿	口縁~体部片				灰釉、堂壇1~2層	264-6
3	1c-16	3-1・E層	陶器(美濃)	滑反皿	1/10		3.0		灰釉、堂壇3~4層	264-7
4	1c-17	3-1・E層	陶器(瀬戸・美濃)	丸皿	口縁~体部片				灰釉、外面に漆状の付着物、大塚2期	264-9
5	1c-18	3-1・E層	陶器(東海)	片口鉢	口縁部小片				ロク口調整、山系陶器系	264-10
6	1c-19	3-1・E層	陶器(東海)	片口鉢	口縁部小片				ロク口調整、山系陶器系	264-11
7	1c-13	3-1・E層	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				ロク口調整	264-12
8	1c-30	3-期溝	陶器(常滑)	鉢	口縁~体部片				細線ヨコナデ、内面にオリーブ色の筋状部ナデ、外側に白線ヨコナデ、内面にオリーブ色の筋状部ナデ、外側に白線ヨコナデ、内面にオリーブ色の筋状部ナデ、外側に白線ヨコナデ	264-8
9	1c-12	3-1・E層	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片					264-13
10	1c-29	3-期溝	陶器(常滑)	鉢	口縁部小片				白線ヨコナデ、外側にオリーブ色の筋状部ナデ、外側に白線ヨコナデ	264-14
11	1-15	3-1,2層	白磁(中国)	器種不明	底部小片					264-15
12	1-14	3-1,2層	青磁(高良原系)	鉢	体部小片					264-16
13	1-9	3-1,2層	磁付(肥前)	皿	口縁部小片				磁付	264-17
14	1-10	3-1,2層	磁付(肥前)	皿	体部小片				磁付	264-18
15	1-6,20	2-G3・重層	磁付(肥前)	皿	口縁部小片				磁付、17世紀前半	264-19
16	1-5	2-1層	磁付(肥前)	皿	底面片				磁付、17世紀前半	264-20
17	1-6(1)	2-1層	磁付(肥前)	皿	底面		5.2		磁付、17世紀前半	264-21
18	1c-2	3-1,2層	土師質土器・小皿	1/3		(8.1)	6.0	1.5	ロク口調整、底面静止系切、白針敷	264-22
19	1c-4	3-無溝	土師質土器・小皿	1/2		(8.0)	5.0	1.9	ロク口調整、底面静止系切、白針敷	264-23
20	1b-11	3-1,2層	瓦質土器・漆鉢	体部小片					ロク口調整、内面に筋目、褐色肌、白針敷	264-24
21	1b-7	3-覆瓦	瓦質土器・漆鉢?	体部小片					ロク口調整、外面に筋目(スタンプ痕?)、花押?、内外面黒色処理、白針敷	264-25
22	1c-37	3-無溝	灰土器・杯	1/3		(14.2)	7.6	4.0	ロク口調整、回転系切、底径/口径0.54	264-26
23	1c-8	3-1,2層	石質基・用途不明	部分		長3.6		厚1.2	6.5g±、デイスイト質凝灰岩	265-1
24	1c-3	?	石質基・磁石	端部欠損		長8.0	幅2.9	2.3	65g±、デイスイト質凝灰岩	265-2
25	1c-13	3-無溝	石質基・磁石	端部欠損		長12.5±	幅5.5	1.8	130g±、真直	265-3
26	P-8	3-1,2層	土師質土器・羽口	先端部小片		長8.0	径(7.5)	孔徑0.5	粘土にスラ少織	265-5
27	P-1	3-2層	土師質土器・土師	丸形		長1.5	径1.2	孔徑0.4	2g	265-4

第738図 2~4区I~III、1~3層出土遺物(1)

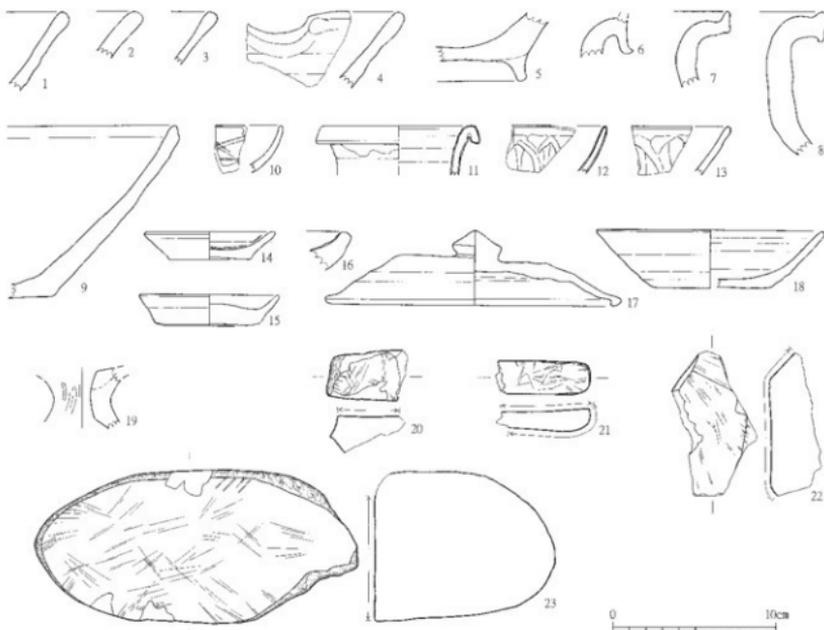
第738・739図は1～Ⅲ層および側溝中から出土したため正確な出土層位が不明な遺物である。第738図は陶器、磁器、十師質土器、瓦質土器、須恵器、石製品、土製品で、常滑産の甕や東海地方産の片口鉢、中国産の磁器など中世の遺物に加えて、志野・瀬戸・肥前など近世の陶磁器類も多い。第739図は金属製品で大部分は釘であるが、Na-3鉄鉢の脚(2)やNa-11火打ち金(3)もある。

第740・741図はⅣa・Ⅴa・4a・5a層からの出土遺物である。第740図は土器類や石製品などで、東海・常滑産の片口鉢や甕、中国産の磁器(龍泉窯系青磁碗、白磁四耳壺など)、十師質土器小皿、とりべ、須恵器の蓋と坏、十師器器台、砥石などがある。上師質土器小皿は底部が静止糸切のものである。とりべと考えられるla-1(第740図16)は内面に熱を受けた痕跡が認められる。SD2やSD3から羽口が多く出土していることを考慮すると付近に鉄器生産に係わる遺構が存在した可能性が考えられる。第741図は金属製品で、大部分が釘である。



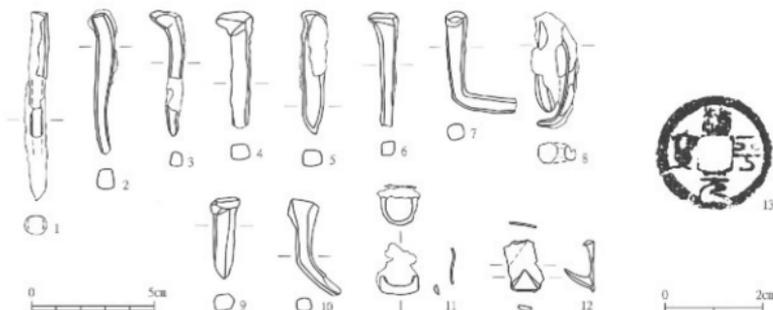
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)部種	遺存度	寸法(cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Na-1	2-2層	銅製品・鎌置覆首	完形	長6.3	火根径1.3	小口径1.1	一部に鎌平残存	265-6
2	Na-2	2-1層	鉄製品・鉢	胴・一部欠損	4.0-	2.7+	0.8	11g ±	265-8
3	Na-11	3-1,2層	鉄製品・火打金?	中央部のみ	7.0 ±	3.0	0.7	釜形の突起、17g ±	265-7
4	Na-12	4・側溝	鉄製品・鉢	中央部のみ	8.0+	3.5	0.5	21g ±	265-9
5	Na-4	2-2層	鉄製品・釘	ほぼ完形	7.0+	0.8	0.7	頭部幅1.6cm, 23g	265-10
6	Na-5	2-2層	鉄製品・釘	ほぼ完形	6.5	1.4	0.7	頭部幅1.7cm, 22g	265-11
7	Na-10	3-1,2層	鉄製品・釘	中央部のみ	4.7+	0.8	0.5	9g ±	265-12
8	Na-13	4・側溝	鉄製品・釘	頭部欠損	6.4 ±	0.4	0.5	両曲、5g ±	265-13
9	Na-16	4・側溝	鉄製品・釘	頭部~中央部	5.6+	1.1	0.7	頭部幅1.8cm, 11g ±	265-14
10	Na-14	4・側溝	鉄製品・釘	中央部のみ	5.3+	0.6	0.6	両曲、5g ±	265-15
11	Na-15	4・側溝	鉄製品・釘	中央部のみ	5.1+	0.8	0.6	8g ±	265-16
12	Na-17	4・側溝	鉄製品・釘	頭部~中央部	4.5+	0.7	0.6	頭部幅1.2cm, 5g ±	265-17
13	Na-9	3-1,2層	鉄製品・釘	4/5	5.0+	0.8	0.7	14g ±	265-19
14	Na-18	4・側溝	鉄製品・釘	完形	6.5	0.5	0.6	両曲、6g	265-18
15	Na-2	2-03・3層	銅製品・銭貨	完形	径2.4			重2.6g 開元通寶(唐・初録(21年))	265-20
16	Na-3	3-2層	銅製品・銭貨	完形	径2.2			重2.7g 開元通寶(北宋・初録1001年)	265-21

第739図 2～4区Ⅰ～Ⅲ、1～3層出土遺物(2)



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	lc-26	4-IV層	陶器(東海)片口鉢	口縁~体部片				口縁口調整、内面に灰白色の自然釉、山菜筒黒茶	265-22
2	lc-25	4-IV層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				口縁口調整、山菜筒黒茶	265-23
3	lc-20	3-IV層	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				口縁口調整、山菜筒黒茶	265-24
4	lc-21	3-IV層	陶器(東海)片口鉢	口縁~体部片				口縁口調整、山菜筒黒茶	265-25
5	lc-22	3-IV層	陶器(東海)片口鉢	底部片				口縁口調整、山菜筒黒茶、内面磨滅	265-28
6	lc-23	3-IV層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				口コナ子、6b型式	265-26
7	lc-11	3-IV層	陶器(常滑)甕	口縁部小片				口縁部コナ子、体部ナ子、5型式	265-27
8	lc-24	3-IV層	陶器(常滑)甕	口縁~体部片				口縁部コナ子、体部ナ子、体部に灰白色の自然釉、3型式	265-29
9	lc-14	3-4層	陶器(常滑)片口鉢	口縁		10.5		口縁口調整~外面下半子、内面に灰白色の自然釉	265-34
10	lc-11	3-IV層	白磁(中国)四耳壺?	口縁~体部片				片付	265-30
11	lc-12	3-IV層	白磁(中国)四耳壺?	口縁部1/2	(9.2)				265-31
12	lc-15	3-K2・IV層	青磁(龍泉窯系)碗	口縁~体部片				葉分文	265-32
13	lc-4	2-5a層	青磁(龍泉窯系)碗	口縁~体部片				葉分文	265-33
14	la-5	4-IV層	土師質土器・小皿	口縁	7.9	4.9	1.7	口縁口調整、底面磨滅、内面にクレー状の付着物	266-1
15	la-6	4-IV層	土師質土器・小皿	口縁部	8.4	6.3	1.9	口縁口調整、底面磨滅、白針少量	266-2
16	la-1	3-K2・IV層	土師質土器・とりべ	口縁部小片				ナ子、内面磨滅痕跡、白針微量	266-3
17	lc-20	4-(SB8、PS2)、IV層	須恵系・甕	口縁	17.9		4.6	口縁口調整、室状装ツマミ	266-5
18	lc-28	4-IV層	須恵系・甕	口縁	13.8	6.8	3.5	口縁口調整、底面磨滅、内面にクレー状の付着物、やや酸化感、白針微量	266-6
19	lc-1	3-K2・Va層	土師器・部	脚部上手				外面ヘラミガキ、内面磨滅	266-4
20	lc-10	3-IV層	石炭灰・碇石	部分	長4.3+	幅3.0	厚2.1	37g+、デイスaito質磁民岩	266-7
21	lc-9	3-1.3・5a層	石炭灰・碇石	脚部欠損	長5.7+	幅2.0	厚1.2	26g+、頁岩	266-8
22	lc-1	3-1.3・5a層	石炭灰・碇石	部分	長8.9+	幅4.0	厚3.0+	120g+、デイスaito	266-9
23	lc-12	3-M2・IV層	石炭灰・碇石	完整	長19.5	幅2.3	厚11.0	290g+、網文置き式、安山岩	266-23

第740図 IV・4a・5a層出土遺物



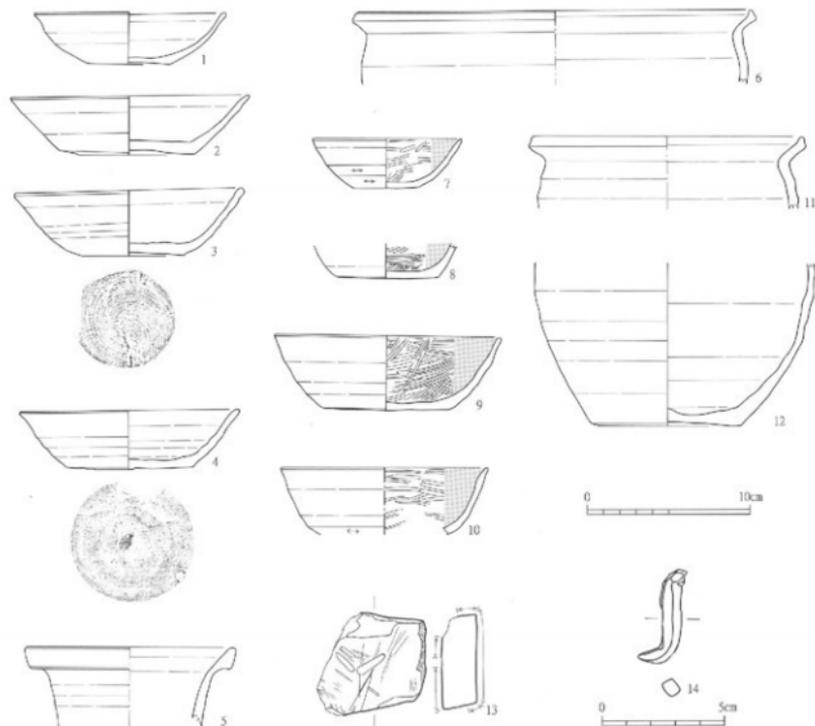
No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(定地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					長さ	幅	厚さ		
1	Na-25	4・IV層	鉄製品・釘	中央部のみ	7.7+	0.9	0.8	12g+	266-10
2	Na-25	4・IV層	鉄製品・釘	4/5	5.9+	0.8	0.9	10g+	266-11
3	Na-20	4・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完形	5.1	0.5	0.6	断面幅1.5cm, 7g	266-12
4	Na-21	4・IV層	鉄製品・釘	頭部～中央部	4.8+	0.8	0.6	断面幅1.5cm, 10g+	266-13
5	Na-24	4・IV層	鉄製品・釘	ほぼ完形	3.1	0.8	0.7	9g+	266-14
6	Na-7	3K2・4層	鉄製品・釘	頭部～中央部	4.7+	0.5	0.6	断面幅1.3cm, 7g+	266-15
7	Na-26	4・IV層	鉄製品・釘	4/5	5.9+	0.7	0.7	断面, 7g+	266-16
8	Na-27	4・IV層	鉄製品・釘?	?	4.8	0.9	0.4	断面, 9g+	266-17
9	Na-19	4・IV層	鉄製品・釘	完形	3.4	0.9	0.7	断面幅1.2cm, 6g	266-18
10	Na-22	4・IV層	鉄製品・釘	頭部～中央部	4.5+	0.6	0.6	断面幅1.3cm, 断面, 7g+	266-19
11	Nb-5	3-4層	銅製品・用途不明	?	2.1+	1.8+	0.1		266-20
12	Nb-6	3-4層	銅製品・用途不明	?	2.1+	1.3	0.15		266-21
13	Nb-4	3.1.3・4層	銅製品・鏡背	完形	径2.4		2.3g	拾平元寅(北宋・初韓1064年)	266-22

第741図 IV・4a層出土遺物

第742図は6a・V・VI層出土の土師器、須恵器、石製品、鉄製品である。4区のVb層烟跡に係わる遺物が多い。口径が10cm未満の小形の土師器D-16・20環(7・8)が出土している。



SE10 作業風景



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	E-1	2-12・V層	須恵器・杯	9/10	116~119	4.8	3.0~3.2	ロク口調整。底面調整痕。底径/口径0.4~0.44	266-24	
2	E-23	4-02.3・Vb層	須恵器・杯	1/2	14.3	8.0	3.6	ロク口調整。底面調整痕。底径/口径0.55。底面炭化痕。接合痕跡。	266-25	
3	E-27	4-N2・Vb層	須恵器・杯	1/2	13.8	6.1	3.9~4.1	ロク口調整。底面調整痕。底径/口径0.44。全量未成型。	266-26	
4	E-29	4-N2(Va)・Vb層	須恵器・杯	1/2	13.2	7.5	3.6	ロク口調整。底面調整痕。底径/口径0.55	266-28	
5	E-15	3-IV, 6a層, (4層)	須恵器・壺	口縁1/4	(12.4)			ロク口調整	266-27	
6	E-19	4-02.3・Vb層	須恵器・壺	口縁部1/4	(24.5)			ロク口調整	266-29	
7	D-16	4-N2・Vb層	土師器・杯	1/2	9.0	4.0	3.1	ロク口調整。切離法不明→手持ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理。底径/口径0.44	267-1	
8	D-20	4-03・Vb層	土師器・杯	下部のみ		6.1		ロク口調整。切離法不明→回転ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理	267-2	
9	D-21	4-N3・Vb層	土師器・杯	1/2	13.7	7.6	4.6	ロク口調整。切離法不明→手持ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理。底径/口径0.55	267-5	
10	D-17	4-02・Vb層	土師器・杯	1/4	12.4			ロク口調整。体部下半回転ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理	267-6	
11	D-14①	4-N2・Vb層	土師器・壺	上部1/3	(16.4)			ロク口調整	267-3	
12	D-14②	4-N2・Vb層	土師器・壺	下部		9.0		ロク口調整。底面回転糸切	267-4	
13	X-16	3・V層	石炭系・根石	隅部欠損	6.6+	6.1	2.0	120g+, デイサイト質凝灰岩	267-7	
14	Ns-28	4・Vs	鉄炭系・釘	ほぼ完形	4.8	0.6	0.7	粗重, 2g+	267-8	

第742図 6a・Va・Vb・VI層出土遺物

第4編 第5次発掘調査

第1章 はじめに

第1節 調査方法

第5次発掘調査は県道「泉塩釜線」建設工事に伴い、平成13年4月12日～7月5日まで実施された。

1. 調査区とグリッドの設定

本調査対象区は遺跡の南東端部に位置している。県道「泉塩釜線」と「利府岩切停車場線」の交差点にあたる箇所（第4次調査1区）から東側150～250mを調査対象とした。後の平成15年に調査された第10次調査区はこの中間地点に当たる。

調査対象区付近が生活道路に囲まれていたこと、大部分の調査区では水田跡の検出が予想されたことから、当初は小規模な調査区を複数配置し、調査状況によっては調査区を追加設定していく方針とした。南西部に1区と2区、その北側に3・4区を設定し、4区から東に30～60m離れた地点には5区と6区を設定した。5区の北西側には後に7区を追加設定している。各区の面積は1区-48㎡、2区-26㎡、3区-158㎡、4区-68㎡、5区-30㎡、6区-30㎡、7区-33㎡、総計393㎡である。

遺構実測用の基準杭は平面直角座標系Xにに合わせて設置し、これによってグリッドを組んだ。

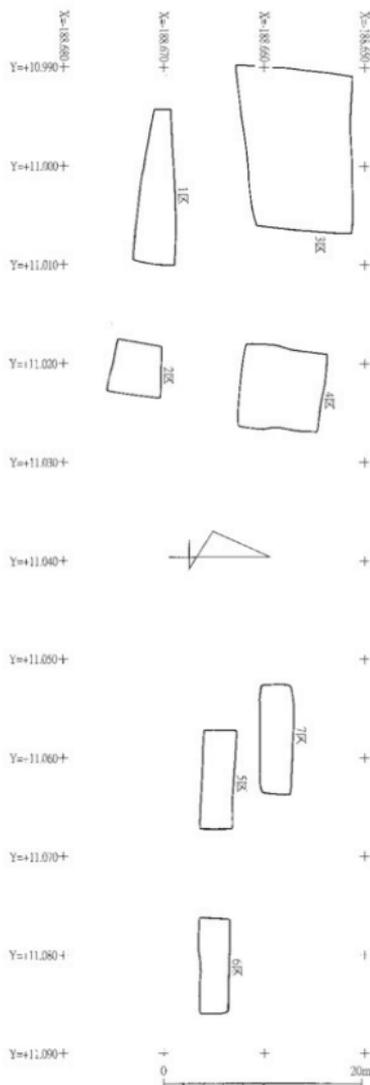
2. 調査方法

重機で盛土や表土を除去し、精査はその下層から実施した。3～7区は水田耕作土が分布していたので、各層を一気に検出することはせず、直上層中において畦畔確認作業を行ないながら下層の検出に努めた。なお、調査区の周囲には排水を兼ねた土層観察用の側溝を設けている。

遺構の平面図は基準杭によって簡易選り方を組み、1/40あるいは1/20で作成した。ただし、1区と2区は平板で作成している。断面図は1/20で作成した。

写真は35mmモノクロトリバーサル一眼レフカメラで撮影し、補助的にレンズ付フィルムも使用している。

遺物は各遺構別の堆積上ごとに取り上げたが、堆積上で区別しなかった場合もある。遺構に伴わない基本層中の遺物は層ごとに取り上げた。



第743図 調査区設定図

第2節 基本層序

周辺の調査区における状況を考慮すると、第5次調査区は自然堤防の北端から後背湿地にかかる地形の変換点に当たると考えられた。調査の結果1・2区では基本層をほとんど確認できなかったが、3～7区では水田耕作土や泥炭層を確認しているため、自然堤防よりは後背湿地部分に該当すると考えられる。

調査区は第1次調査区や第4次調査区から離れているので、これらの調査区の基本層序との細かな対応関係を明らかにすることはできなかった。

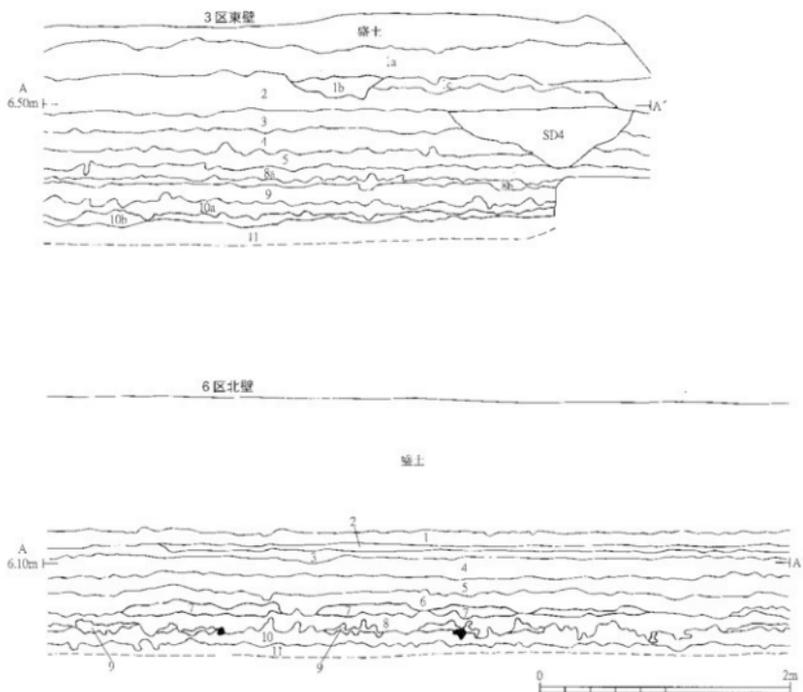
1層 盛土以前の現代水田耕作上層である。1a～1c層に細分した。

1a層 5Y4/1 灰色粘土質シルト。層厚は15～25cmである。

1b層 5Y4/2 灰オリーブ色シルト質粘土。3区で部分的に確認している。

1c層 2.5Y3/1 黒褐色粘土、2.5Y4/2 暗灰黄色粘土、2.5Y7/2 灰黄色粘土質シルトの混合。層厚は5～10cmで、3区で部分的に確認している。

2層 10YR4/1 褐灰色シルト質粘土。マンガン粒を少量含む。層下部に酸化鉄層がある。層厚は3区で20～30cmであるが、東部の5～7区では5～10cmと薄い。下面はほぼ平坦である。



第744図 3区東壁、6区北壁断面図（黒色部分は灰白色火山灰）

- 3層 2.5Y4/1黄灰色粘土。東部の5~7区ではややグライ化している。管状の酸化鉄を多量に含む。層厚は西部で15~25cm、東部では5~10cmで、下面には緩やかな起伏がある。畦畔は確認できなかったが、層相から水田耕作土と推定され、1次調査区の3a層に対応すると考えられる。
- 4層 10GY4/1 暗緑灰色~7.5Y4/1灰色粘土。層厚は15~20cmで、下面には細かな起伏が認められる。畦畔は確認できなかったが、層相から水田耕作土と推定される。
- 5層 10G3/1暗緑灰色シルト質粘土。層厚は10~15cmで、下面には緩やかな起伏がある。水田耕作土である。
- 6層 5GY3/1暗オリーブ灰色シルト質粘土。層厚は10~15cmで、東部の5~7区に分布している。下面には緩やかな起伏がある。水田耕作土である。
- 7層 7.5GY3/1 暗緑灰色シルト質粘土。層厚は5~10cmで、東部の5~7区に分布している。下面には緩やかな起伏がある。
- 8層 2層に細分している。
- 8a層 2.5GY2/1 黒色シルト質粘土。東部では5Y2/1黒色粘土。層厚は5~20cmで、下面は凹凸が激しく直下層を巻き上げている。畦畔は確認できなかったが層相から水田耕作土と推定される。
- 8b層 N1.5/0 黒色粘土。西部でのみ確認されている。層厚は5cm未満である。
- 9層 5G3/1 暗緑灰色粘土。東部では7.5Y3/1オリーブ黒色粘土。灰白色火山灰ブロックを少量含む。層厚5~15cmで、下面には細かな起伏がある。畦畔は確認できなかったが層相からは水田耕作土と推定される。
- 10層 2層に細分している。
- 10a層 5GY2/1 黒色粘土。層上面に灰白色火山灰ブロックが乗るが、部分的に層中に含む場合もある。層厚5~15cmで、下面には細かな起伏がある。畦畔は確認できなかったが層相からは水田耕作土と推定され、火山灰のあり方から第1次調査の6a層に対応すると考えられる。
- 10b層 2.5Y2/1黒色粘土。西部でのみ確認されている。層厚は5~15cmである。10a層水田耕作土の母材層と推定される。
- 11層 7.5GY4/1 暗緑灰色粘土と7.5GY4/1 暗緑灰色細砂の互層。自然堆積層と考えられる。



3区 SD3

第2章 1・2区の調査

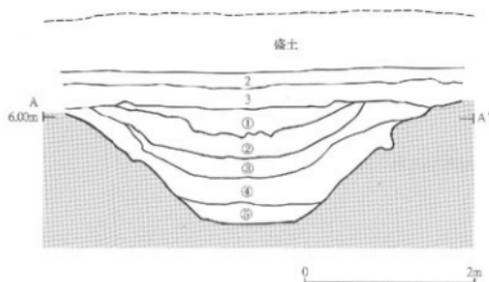
1. 概要

1区と2区は東西に8m離れた調査区であるが、現生活道路による制限が大きく、1区は48m、2区は26mと限定された面積の調査に留まっている。3層を除去した面で屋敷の堀跡と考えられる規模の大きな溝跡を確認しているが、調査区全面を堀跡が占めているため、他の遺構は検出されていない。また、屋敷内部は調査区外のため詳細は不明である。

2. 遺構と遺物

(1) 溝跡

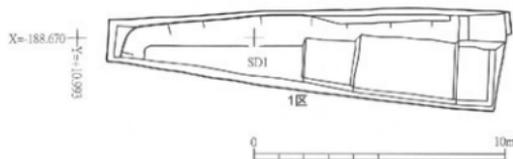
SD1 (第745図) 1区を東西に縦断して2区に達し、さらに東方に延びている。1区では北側の肩が西部でかろうじて調査区内に入っているが、南側の肩は調査区外となっている。2区では南東部で南側の肩を部分的に検出しているが大部分は調査区外である。1区は東側から階段状に掘り下げて精査を行ったが調査区西半部の幅が3m未満と極端に狭いためここでは溝底面を検出することはできなかった。西端部で西壁に当たることから、ここで止まるかあるいは南に屈曲していると考えられる。2区は西側から階段状に掘り下げて精査を行い、調査区の東半部で底面を検出できた。1・2区を通した方向は概ねN-86°-Wで、幅は2区東壁で約4.5mと推定され、深さは1.4m、断面形は逆台形である。なお、1区で底面を検出できなかったので底面の傾斜などは不明である。堆積土は自然堆積層であるが、大部分が泥炭質粘土と粘土との互層であることから、緩やかな水流による水成堆積と考えられる。



遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、金属製品、石製品、木製品など約30点が出土した。図化できたのは9点で、漆器の皿や椀、桶などの木製品、石鉢などの石製品、鏝などの鉄製品がある(第746図)。

1区の詳細が不明なため断定はできないが、航空写真ではSD1の地点から南側に方形の堀跡らしき痕跡が認められることから(写真図版1-1右下)1区西端部で南に屈曲し、南部の屋敷を区画していると推定される。

層位	色調	土質	埋入物・その他	
①	2.5Y4/1 5Y4/1 2.5Y3/1 5Y3/1 2.5Y3/1	黄灰色 灰色 黒褐色 オリーブ黒色 黒褐色	粘土 シルト質粘土 粘土 粘土 泥炭質粘土	黒褐色シルトブロック・オリーブ黒色シルト質粘土ブロック少量
②	10YR3/1 2.5Y3/1	黒褐色 黒褐色	赤灰質粘土 粘土	互層
③	2.5Y3/1 10YR3/1	黒褐色 黒褐色	赤灰質粘土 粘土	互層
④	5Y3/1	オリーブ黒色	黄砂	部分的に黄灰色粘土を層状に少量 黒色粘土ブロック・黒褐色粘土ブロック多量



第745図 SD1平面・断面図



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口徑	底径	高さ		
1	T-5	2-SD1・下層	木製品・漆器類	3/4	13.0	8.8	2.1	内面赤漆一部残存。外面黒色	200-8
2	L-4	2-SD1・中層	木製品・漆器類?	高台のみ		8.6		内面赤漆。外面黒色。底部に彫刻1つ。	200-9
3	L-2	2-SD1・中層	木製品・漆	側板9/10	26.7	4.9~5.6	1.4	漆材	200-10
4	L-6	1-SD1・中層	木製品・漆	完形?	36.3	4.6	3.5	全長の2/3が断面「U」字状。鉄釘1本残存	200-11
5	L-1	2-SD1・中層	木製品・漆器下駄	3/4	21.4	10.6	高3.9	穴縁の孔の間に補修用の小孔×2	200-12
6	L-3	2-SD1・中層	木材片	3/4	4.9	3.5	2.2	鋸による切断面	200-13
7	K-2	2-SD1・上層	石製品・砥石	端部欠損	4.6+	2.8	2.0	40g+。テイスサイト質凝灰岩	200-14
8	K-3	2-SD1・上層	石製品・石鉢	口縁部小片				340g+。テイスサイト	200-15
9	Na-1	2-SD1・上層	鉄製品・鉄	完形	10.7	3.0	0.5	20g	200-16

第746図 SD1 出土遺物

第3章 3～7区の調査

3～7区は1・2区の北から東に位置する調査区で、盛上される以前は水田として利用されていた箇所である。4層下部では畦畔に伴うと推定される溝跡、5層で水田跡、6層では水路を伴う水田跡、8a層上面では段差を確認している。なお、畦畔は確認できなかったが3層、9層、10層は層相から水田耕作土と考えられた。このほか3層上面で水路跡やピット、5層中ではピットを確認した。

第1節 3層上面の遺構

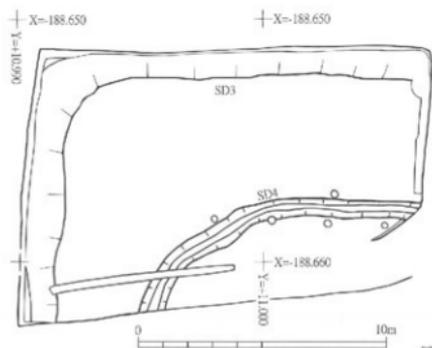
1. 遺構の概要

3層は層相からは水田耕作土と考えられる層であるが、畦畔は確認できなかった。層上面では水路と考えられる溝跡が3区～4区～7区に延びているのが確認されたほか、3区では小規模な溝跡とピットが確認された。

2. 遺構と遺物

(1) 溝跡

SD3 (第747～749図) 3区の西壁際から北壁際にかけて「L」字状に屈曲し、そのまま東方に延びて4区と7区の北壁



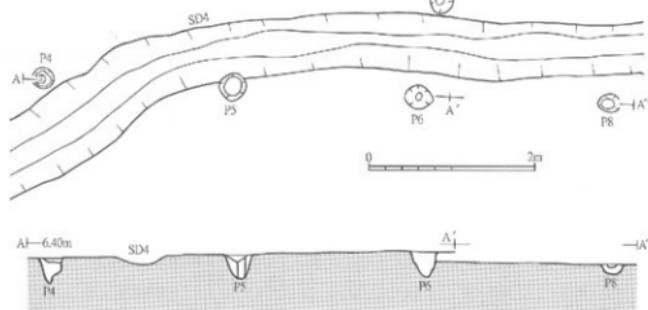
際を東西に走っている。3区から7区まで確認できた長さは東西72m、方向はN-84°-Wである。片側の肩のみを検出したのみで大部分が調査区外のため正確な規模は不明であるが、7区では幅が1.5m以上、深さが80cm以上ある。また、底面を検出できなかったため傾斜も不明であるが、溝の掘りこみ面である3層上面は西側の3区に比べて東側の7区が約20cm低いことから溝底面も同様に東側に向かって傾斜している可能性が高い。堆積土は自然堆積層で、大部分が粘土を主とする細かな互層であることから、緩やかな水流による水成堆積と考え

られる。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器、中世陶器、近世の陶磁器、ウマの骨など約16点が出土したが、図化はできなかった。

SD4 (第747図)

3区南部で確認した小規模な溝跡で、ほぼSD3に沿うよ



第747図 3区 3層上面平面図、P4～8平面・断面図

うな位置で弧状に廻っている。幅60～90cm、深さ約40cm、断面形は上部が大きく開く「U」字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土はグライ化した粘土、シルト、砂の混合土である。

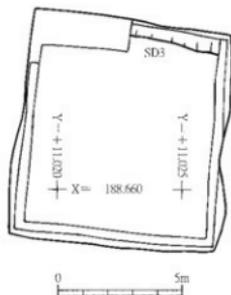
遺物は土師器、須恵器片5点で、図化はできなかった。

(2)ピット (第747図)

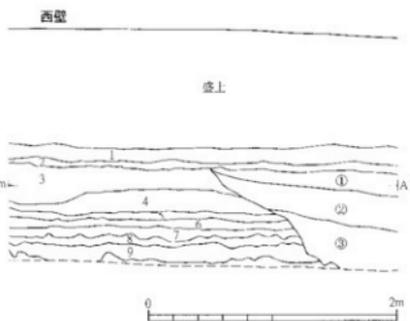
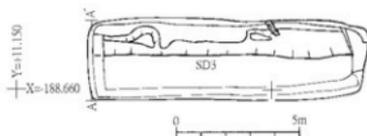
3区南部で5基検出した。このうち4基は直線上に並び、間隔も2.3mで等しいことから、掘立柱建物跡の一部か柱列と考えられる。ただし、部分的な検出なので全体の状況は不明である。なお、遺物は出土しなかった。

(3)層中の出土遺物

3層中からは中世陶器6点と銅製品1点が出土した。図化できたのは標管1点である (第756図8)。



第748図 4区 3層上面平面図



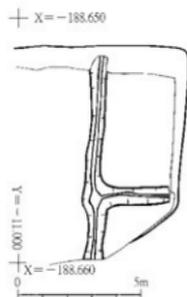
第749図 7区 3層上面平面図、SD3断面図

層位	色調	土質	個人物・その他
①	SBG3/1	暗赤灰	瓦葺
	10BG3/1	暗赤灰	
	10G3/1	暗赤灰	
②	5Y3/1	オリーブ黒色	瓦葺
	5Y4/1	黒色	
	2.5Y3/1	黒褐色	
③	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土
	5Y3/2	オリーブ黒色	
	2.5Y3/2	黒褐色	瓦葺
	2.5Y3/1	黒褐色	
	7.5Y3/1	オリーブ黒色	
	7.5Y3/2	オリーブ黒色	

第2節 4層下部～5層上面の遺構

4層は廂から水田耕作土と考えられる層であるが、畦畔は確認できなかった。3区東部では4層を除く4層下部～5層上面において「U」字状に接する溝跡を確認している。幅50～70センチ、深さ15～20cm、底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に類似した粘土層が入り込んでいた。3区東部では5層の畦畔も確認されているが、この溝跡は5層の畦畔を切っており、堆積土が4層に類似することからも4層の水田跡に係わる遺構であると考えられ、畦畔を盛り上げた際に畦畔脇に付いた痕跡である可能性がある。

4層中からは土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器などが19点出土し、中国産青花皿1点で図化できた (第756図2)。



第750図
3区 4層下部平面図

第3節 5層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 畦畔は3区、5区、6区において、直上層である4層下部で確認した。概して遺存状況は良好である。

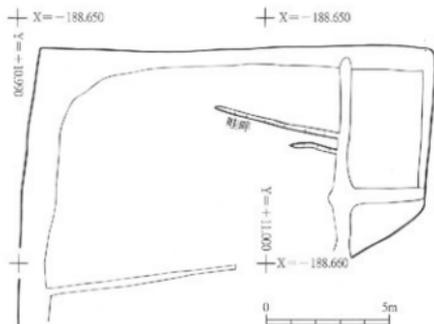
(2)耕作土 耕作土5層の厚さは10~15cmである。

下面是緩やかな起伏があり、直下層を巻き上げている。

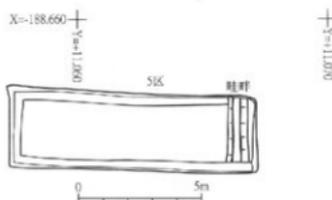
(3)水田域 水田域は3~7区に広がっている。

2. 遺構の状況

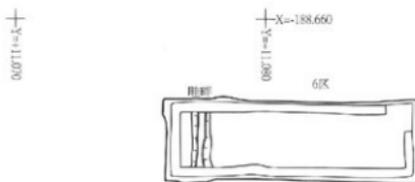
(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、3区東部、5区東部、6区西部で検出した。規模はほぼ同じで、上端幅25~35cm、下端幅75~85cm、高さ3~5cmである。方向は、確認できた距離が短いため明確ではないが3区がN-79°-W、5・6区がほぼ真北方向である。



第751図 3区 5層水田跡平面図

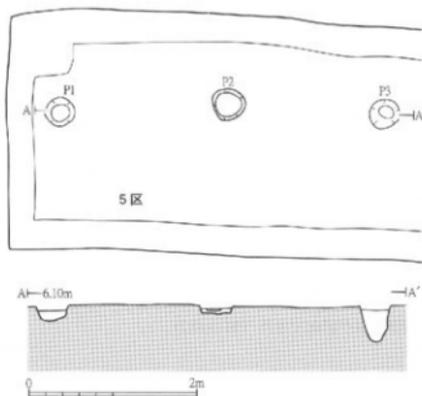


第752図 5区・6区 5層水田跡平面図



(2)水田区画 水田区画は方形を基調としていと考えられる。規模は、5区と6区の畦畔の間隔が約10mで、5区の畦畔の西側と6区の畦畔の東側もそれぞれ8m程度の範囲で畦畔が確認されていないので、一辺の長さは東西10m前後である可能性がある。ただし部分的な検出なので断定はできない。

(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高い3区が6.10m、最も低い6区が約5.98mである。全体を検出できた区画がないため明確ではないが、水田面はほぼ平坦と考えられる。区画内の比高差も5区と6区の間で部分的に判明したのみで、西側の5区の区画に比べて東側の6区の区画のほうが約3cm低い。



第753図 P1~3平面・断面図

(4)ピット 5区西部の5層中でピットを3基確認した。直線上に並び、間隔は2.0mである。部分的であるが掘立柱建物跡の一部が柱列と考えられる。なお、層中での確認ではあるが、本来の掘り込み面は5層上面と推定され、その後の5層水田跡の耕作によって上部が攪拌されたと考えられる。

3. 出土遺物

5層中からは土師器、須恵器、中世陶器など10点が出土したが図化はできなかった。

第4節 6層水田跡

1. 水田の概要

- (1)検出・遺存状況 6区において、直下層である7層の擬似畦畔Bを確認した。
- (2)耕作土 耕作土6層の厚さは10～15cmである。下面は緩やかな起伏があり、直下層を巻き上げている。
- (3)水田域 耕作土は5～7区に分布しているので水田域も同様と考えられる。

2. 遺構の状況

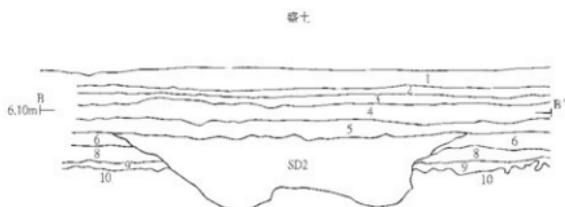
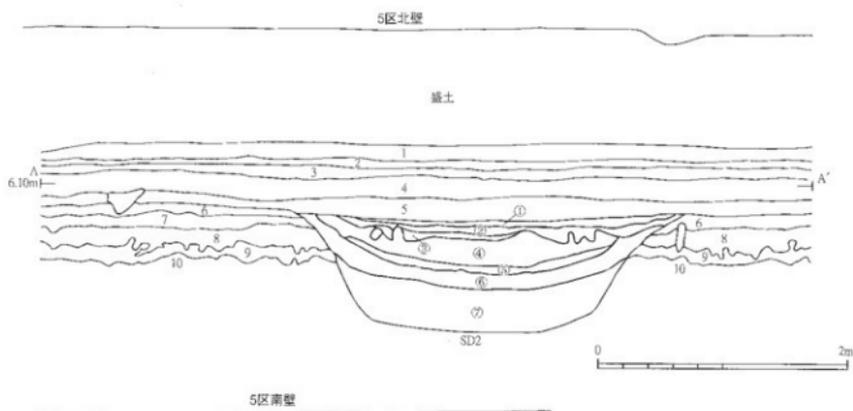
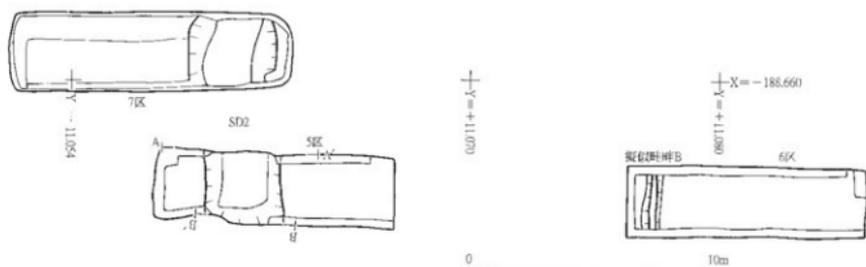
- (1)畦畔 畦畔は検出できなかったが、6区において、直下層の7層の畦畔状の高まりを確認した。しかし、この付近の7層は遺存状況が悪く、6層が7層を深く攪拌している状況が認められた。このことからこの7層の畦畔状の高まりは7層の畦畔ではなく、6層水田に伴う擬似畦畔Bの可能性が高いと考えられた。規模は上端幅15～25cm、下端幅60～70cm、高さ3～4cmである。方向は、確認できた距離が短いため明確ではないがほぼ真北方向である。
- (2)水田区画 確認できた畦畔（擬似畦畔B）が1条であるので水田区画の詳細は不明であるが、5区で清跡を確認している。6区の擬似畦畔Bと5区の溝跡との間隔が約14mであるので、この部分の水田区画は東西14m前後である可能性がある。ただし全体の状況は明らかではない。
- (3)水田面の標高と傾斜 5区が5.90m、6区が約5.85mである。全体を検出できた区画がないため明確ではないが、水田面はほぼ平坦と考えられる。区画内の比高差は西側の5区の区画に比べて東側の6区の区画のほうが約5cm低い。
- (4)溝跡 5区西部で南北方向の溝跡を確認した。

SD2（第754図） 5区西部を南北方向に横断している。壁が調査区南壁に向かって立ち上がるので土坑の可能性が考えられ、確認のために5区の北側に隣接して7区を設定して調査を行った。この結果、5区から7区にかけて南北方向に伸びる溝跡であることが確認された。方向は概ね真北方向である。幅3.0～3.5m、深さ1.0m、断面形は逆台形である。底面は5区中央部から7区にかけてはほぼ平坦であるが、5区の南側では20cm程の立ち上がりが認められた。この立ち上がりの南側は調査区外のため詳細は不明であるが、第1次調査区や第4次調査区で検出したような、城館の堀に伴う障壁状の高まりのような形態となる可能性がある。堆積土は自然堆積層で、大部分が粘土を主とする細かな互層であることから、緩やかな水流による水成堆積と考えられる。

遺物は5区から土師器、在地の中世陶器、木製品が各1点出土したが、図化はできなかった。

3. 出土遺物

6層中からは土師器、須恵器、土製品などが5点出土し、須恵器鉢1点が図化できた（第756図1）。



層位	色相	土質	遺入物・その他
SD2 ①	5DG3/1 暗青灰	シルト質粘土	
②	5G1/1 暗緑灰	シルト質粘土	
③	5DG3/1 暗青灰	粘土	
④	2.5Y3/1 黒褐色 7.5Y2/1 オリーブ黒色 2.5Y2/2 黒褐色	砂質シルト 粘土	互層 植物遺体を解状に少量
⑤	2.5Y3/2 黒褐色 5Y3/2 オリーブ黒色	粘土 粘土	互層
⑥	5Y3/1 オリーブ黒色 5Y3/2 オリーブ黒色 7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土 粘土 粘土	互層
⑦	5Y2/1 黒色 5Y2/2 オリーブ黒色	粘土 粘土	互層 黒色粘土上段少量

第754図
5～7区 6層水田跡平面図
SD2断面図

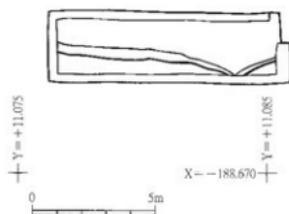
第5節 8層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 畦畔は確認できず、6区において段差を確認したのみである。

(2)耕作土 耕作土8a層の厚さは5～20cmである。下面是凹凸が激しく直下層を巻き上げているが、下面の乱れは東部の5～7区で顕著で、西部の3～4区ではそれほど激しくはない。

(3)水田域 耕作土は3～7区に分布しているので水田域も同様と考えられる。



第755図 6区 8層水田跡平面図

2. 遺構の状況

(1)畦畔 畦畔は検出できなかったが、6区において東西方向の段差を確認した。段差は高さ3～5cmで、方向は途中で屈曲しているため明確ではない。

(2)水田区画 水田区画の詳細は不明である。

(3)水田面の標高と傾斜 水田面の標高は3区が6.00m、5区が5.74m、6区が約5.68mである。区画が不明であるため、水田面の傾斜や区画内の比高差は不明である。

3. 出土遺物

8層中からの出土遺物は土師器片1点で、図化はできなかった。

第6節 全体の出土遺物と基本層からの出土遺物

各遺構からの出土遺物については前節までで述べたので、ここでは調査区全体にかかわる点と基本層中からの出土遺物について触れる。なお、出土遺物の層位・遺構別の集計表は表150(360頁)である。

1. 遺物の出土状況

調査区全体の遺物数は表150によると土師器63点、須恵器21点、土師質土器皿類12点、中世の無釉陶器34点、中世の施釉陶器2点、中国産陶磁器1点、その他近世の陶磁器6点、金属製品2点(鉄製品1点、銅製品1点)、石製品3点、木製品6点、土製品1点、鉄滓3点である。

各種の遺物のうち土器類に限ってみると、古代84点(60%)、中世49点(35%)、近世6点(4%)で、古代の土器類が2/3、中世の土器は1/3である。中世の土器49点の内訳は、土師質土器皿類12点(24%)、無釉陶器34点(69%)、施釉陶器2点(4%)、中国産陶磁器1点(2%)で、土師質土器と無釉陶器で中世の遺物の大部分を占めている。無釉陶器34点の内訳は常滑・東海地方産が23点(68%)、在地産11点(32%)で在地産が1/3であるが、表下半部に示した重量でみると常滑・東海地方産が2,458g(77%)、在地産755g(23%)となる。

2. 基本層からの出土遺物

表150によると、水田跡の耕作土を含めた基本層からの出土遺物は、古代の土器類が62点、中世の土器類は27点で、基本層中からの出土数が遺構中からの出土数を超えている。図化できたのは8点で、大部分は水田跡の項ですでに述べた(第756図)。

第5編 第7次発掘調査

第1章 はじめに

第1節 調査方法

第7次調査は原道「利府岩切停車場線」建設事に伴い、平成13年11月27日～平成14年3月11日まで実施された。

1. 調査区とグリッドの設定

本調査対象区は第4次調査4区の南側に位置している。平成13年3月に試掘調査を実施した結果、北部は遺構面が削平されていることが判明したため、第4次調査4区に近い北部約20mを除外して、旧「泉塩釜線」との交差点に近い長さ46mの部分調査対象とした。ただし、東側に歩道を確保する必要があったため調査区の幅は8mに狭めざるを得なかった。面積は370㎡である。

遺構実測用の基準杭は調査区の方に合わせて設置し、これによって10mグリッドを設定した。グリッドの名称は北から南に1グリッド(1G)～5グリッド(5G)とした。方位と座標については道路の幅杭を測定して図上で求める方法をとった。

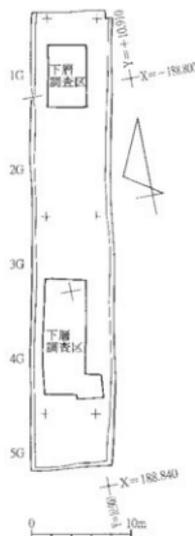
2. 調査方法

重機で盛土と表土を除去し、精査はその下層から実施した。調査区の周囲には排水を兼ねた土層観察用の側溝を設けている。冬期の調査であったので、通常のブルーシートを2枚重ねにしたことに加えて、凍結防止用保温マットを敷き詰めて遺構面の保護に努めた。

遺構の平面図は基準杭によって簡易遣り方を組み、1/40あるいは1/20で作成した。断面図は1/20で作成した。

写真は35mmモノクロとリバーサルを一眼レフカメラで撮影し、補助的にレンズ付フィルムも使用している。

遺物は各遺構別の堆積土ごとに取り上げたが、堆積土で区別しなかった場合もある。遺構に伴わない基本層中の遺物は層ごとに10mグリッド別に取り上げた。



第757図 調査区設定図

第2節 基本層序

調査区は第4次調査4区から約40m離れているが、同様に自然堤防部分にあたると思われる。基本層序は、第4次調査4区と同じく、ほぼ第1次調査の自然堤防部分（9～11区）と一致しているため第1次調査と共通の名称を用いたが、Ⅲ層が欠落している。なお、北部に行くにしたがってⅡ層以下の基本層が深く攪拌されており、1グリッドではⅠ層直下がⅥ層やⅦ層となっている。中世の遺構面であるⅣ層は2グリッド以南で遺存している。層序は以下のとおりであるが、基本層の断面図は割愛した。

I層 現代の耕作土であるが北部ほど耕作深度が深くなり、1m以上の箇所もある。Ia～I d層に細分した。

II層 10YR4/3 ぶい黄褐色砂質シルト。ぶい黄褐色細砂ブロックを多量に含む。層厚は5～20cmで、北部ではI層によって攪拌されているため、3グリッド以南に部分的に分布する。上面が近世の遺構確認面となっている。

IV層 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト。ぶい黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。層厚は10～40cmで、北部ではI層によって攪拌されているため2グリッド以南に分布する。上面が中世の遺構確認面となっている。5グリッドでは直下層を巻き上げていて攪拌された様相を示しているため、この付近は部分的に畑として利用されている可能性がある。第1次調査のIVa層に対応すると思われるが、ここではIVb層は確認できなかった。

V層 10YR4/3 ぶい黄褐色砂質シルト。灰黄褐色シルトブロックを少量含む。層厚は10～30cmで、北部ではI層によって攪拌されているため2グリッド南半部から南に分布している。上面が古代の遺構確認面となっている。第1次調査のVa層に対応すると思われる。

VI層 10YR3/2 黒褐色粘土。層厚は10cmで調査区のほぼ全面に分布している。上面では小溝群、溝跡、自然流路（小河川）などが確認されている。

VII層 10YR4/3 ぶい黄褐色砂質シルト。北部ではやや色調が明るい細砂となる。

VII層以下は1グリッドで下層調査を実施した関係で、1グリッドでのみ確認している。

VIII層 10YR5/4 ぶい黄褐色粗砂。下部では灰黄褐色粘土、黒褐色粘土と互層になる。

IX層 10YR3/1黒褐色粘土、10YR4/2灰黄褐色粘土、10YR2/1黒色粘土の互層。

X層 10YR1.7/1黒色粘土。植物遺体を少量含む。

XI層 5Y3/1オリーブ黒色粘土。

XII層 2.5Y2/1黒色粘土。植物遺体を多量に含む。

第2章 調査結果

第1節 II層上面の遺構

1. 遺構の概要

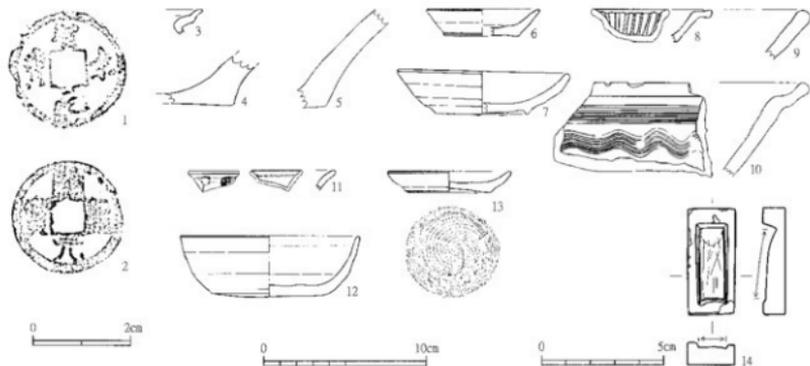
II層はにぶい黄褐色の砂質シルトである。3グリッドの南側に分布しているが、大部分をI層によって埋せられているため遺存状況が悪く、分布は部分的である。このためII層が遺存していない箇所では確認した遺構は時期が確定できないものもあるが、北部で溝跡4条と土坑1基、中央部～南部で井戸跡4基と溝跡1条、掘立柱建物跡2棟を確認している。時期は近世以降と推定される。

2. 遺構と遺物

(1) 掘立柱建物跡

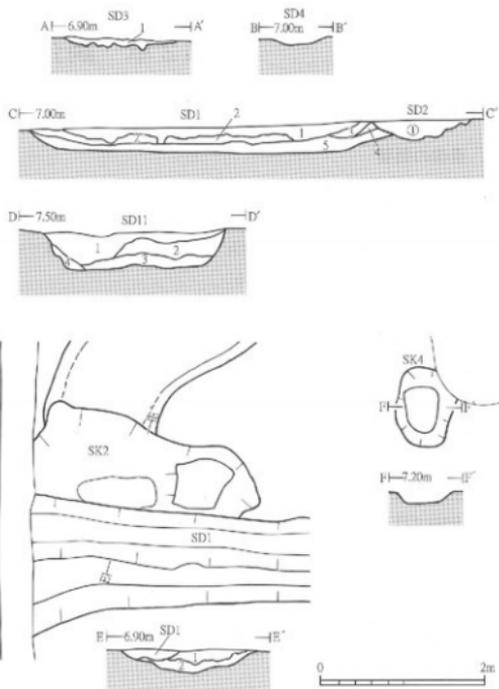
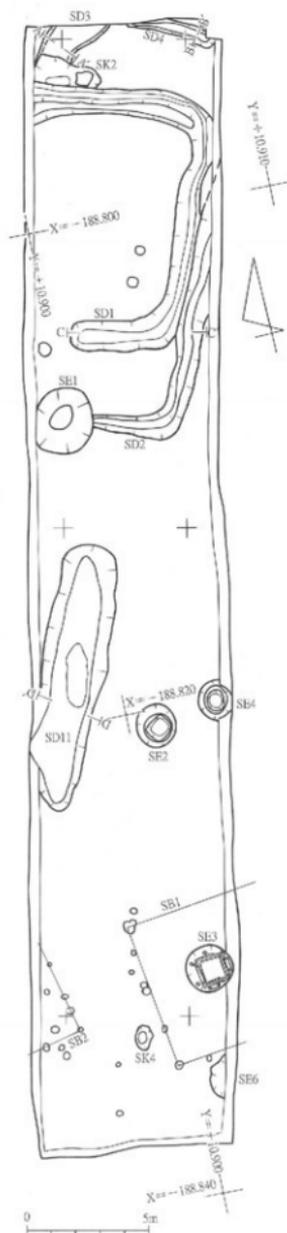
SB1 (第760図) 4～5グリッド東部に位置するが、東側が調査区外へ延びている。SE3との位置関係からするとSE3の上屋である可能性がある。南北4間(総長6.0m、柱間寸法1.1～1.7m)、東西2間以上(柱間寸法1.3m)の建物跡で、方向はN-9°-Wである。柱穴掘り方は円形あるいは楕円形で、大きさは径20～50cm、深さは15～50cmである。なお、柱痕跡は確認できなかった。

遺物は柱穴掘り方埋土から土師器、須恵器片4点が出土したが図化はできなかった。



No.	発露No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)		調整・特徴	写真 図版
						口径	底径		
1	Nb-4	SD2	銅製品・鉄器	売形		径2.4	2.2	環状(有金釘・金釘・銅釘印、文字4個埋・表面平直)	303-5
2	Nb-6	SK4	銅製品・鉄器	売形		径2.4	2.7	環状(有金釘・金釘・銅釘印、文字4個埋・表面平直)	303-6
3	C-4	SD2	土師器・台付罎	11瓣部小片				口コナテ、IS字痕口縁	303-7
4	Ic-15	SD2	陶器(在地)片口鉢	底部小片				口コナテ、調整、内面磨光	303-8
5	Ic-16	SD2	陶器(在地)片口鉢	底部小片				口コナテ(同転台)調整、内面磨光	303-11
6	Ia-4	SD11	土師器土罎・小皿	1/4	(7.0)	(4.6)	1.7	口コナテ調整、底部同転糸切	303-17
7	Ic-22	SD11	陶器(瀬戸・美濃)丸皿	1/2	10.6	5.6	2.7	灰緑、底部外面にトナリ3張所付着、大衆1期後半	303-13
8	Ic-21	SD11	陶器(瀬戸・美濃)長縁皿	小片			2.1	灰緑、大衆4期前半	303-10
9	Ic-18	SD11	陶器(東海)片口鉢	口縁部小片				口コナテ調整、山蒸陶器系	303-9
10	Ic-20	SD11	陶器(瀬戸)鉢	口縁一部小片				容衆2期	303-12
11	I-6	SD11	貴花(中国)鍍反皿	口縁部小片				鍍反質直径、16g	303-14
12	B-18	SD11	須恵器・杯	1/3	(11.0)	(7.0)	3.8	口コナテ調整、底部同転法不明・同転ヘラズリ・ナテ底径/口径0.64	303-16
13	Ia-6	SK2	土師器土罎・小皿	売形	7.6	5.3	1.4	口コナテ調整、底部同転糸切、白粉多量	303-18
14	K-11	SD11	石製品・硯	ほぼ売形	長4.4	幅1.9	厚0.9	緑灰質直径、16g	303-14

第758図 SD1・2・11、SK2・4出土遺物



層位	色調	土質	副入物・その他
SD3	1 10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト質砂・黒褐色粘土質シルトブロック少量
SD1	1 10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	灰黄褐色粘土ブロック少量
	2 10YR4/2 灰黄褐色	粘土	灰黄褐色粘土ブロック少量
	3 10YR3/3 暗褐色	シルト質粘土	
	4 10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルトブロック少量
	5 10YR3/3 暗褐色	粘土	
SD2	① 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	暗褐色粘土ブロック少量
SD11	1 10YR3/2 黒褐色	粘土	灰黄褐色細砂ブロック多量
	2 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色粘土ブロック少量
	3 10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色細砂ブロック少量
	4 10YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色シルトブロック少量
SK2	1 10YR3/2 暗褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色細砂ブロック・炭化物少量
	2 10YR2/1 黒色	粘土	混合

第759図 II層上面平面図、SD1~4・11断面図、SK2・4平面・断面図

SB2 (第760図) 4~5グリッド西部に位置するが、西側が調査区外へ延びている。南北2間以上(総長3.0m以上、柱間寸法1.5m)、東西1間以上(柱間寸法1.5m)の建物で、方向は $N-14^{\circ}-W$ である。柱穴掘り方は円形あるいは楕円形で、大きさは径20~30cm、深さは20~45cmである。なお、柱痕跡は確認できなかった。

遺物は柱穴掘り方埋土から土師器、鉄製品が2点出土し、Na-1鉄釘が図化できた(第761図13)。

(2)溝跡

SD1 (第759図) 1~2グリッドのII層上面で確認した溝跡で、SK2を切り、SD2に切られている。「コ」字状に屈曲しており、溝で区画された範囲は南北8.5m、南北部分の方向は $N-23^{\circ}-E$ である。幅80cm~1.2m、深さ15~30cm、断面形は上部が開く浅い「U」字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は自然堆積層である。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器、金属製品、土製品、鉄滓など89点が出土し、在地産の中世陶器Ic-16が図化できた(第758図5)。

SD2 (第759図) 1~2グリッドのII層上面で確認した溝跡で、SD1を切っている。SE1には切られているが両者の位置関係を考慮すると同時に存在していた可能性もある。「L」字状に屈曲しており、確認できた長さは南北11m、東西2.5mである。南北部分の方向はSD1と同じく $N-23^{\circ}-E$ である。幅60cm~1.0m、深さ20~30cm、断面形は上部が開く浅い「U」字形である。底面はほぼ平坦であるが北側に向かって緩やかな傾斜が付いており、北側が約10cm低い。堆積土は1層で、ブロック土が多量に含まれているので人為的に埋め戻されている可能性がある。

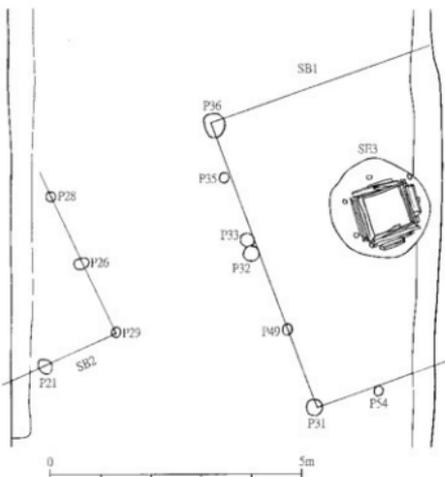
遺物は土師器、須恵器、中世陶器、金属製品などが46点出土し、土師器壺、在地産の中世陶器、銭貨が図化できた(第758図1・3・4)。土師器C-4甕は古墳時代前期の所謂「S字状口縁台付甕」の口縁部、銭貨(聖宋元寶)は模範銭の可能性はある。

SD3 (第759図) 1グリッドの北西隅で確認した溝跡で、SK2に切られている。北東~南西方向に延びているが、部分的な検出なので詳細な方向は不明である。確認できた長さは1.5m、幅1.4m、深さ15cm、断面形は浅い皿形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は1層で、ブロック土が多量に含まれているので人為的に埋め戻されている可能性がある。遺物は土師器、須恵器片が5点出土したが、図化できたものはない。

SD4 (第759図) 1グリッドの北東隅で確認した溝跡である。北西~南東方向に延びているが、部分的な検出なので詳細な方向は不明である。確認できた長さは3m、幅80cm、深さ5cm、断面形は浅い皿形で、底面はほぼ平坦である。遺物は常滑産の甕1点で、図化はできなかった。

SD11 (第759図) 3~4グリッドの西側で確認した南北方向の溝跡であるが、両端が途切れている。方向は $N-20^{\circ}-E$ 、長さ11.0m、幅2.3~2.8m、深さ50cm、断面形は逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土下部は自然堆積層と考えられるが、最上層はブロック状の砂を多量に含むので人為的に埋め戻されている可能性がある。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器、中国産磁器、近世の陶磁器、瓦、金属製品、石製品、鉄滓など373点が出土した。土師器と須恵器が多いが、古代~中世の土器類は混入品と推定される。図化できたのはIa-4



第760図 SB1・2平面図

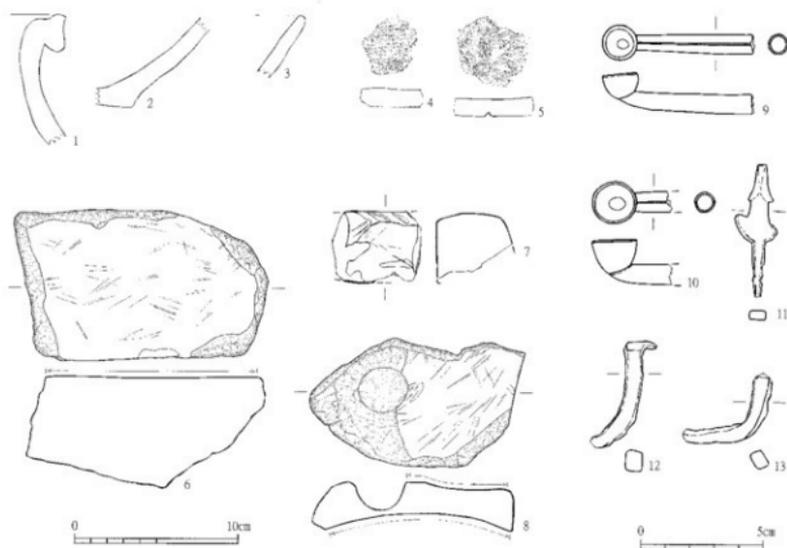
土師質土器小皿、Ic-18東海産片口鉢、Ic-22瀬戸美濃産丸皿（16世紀後半）、Ic-21瀬戸・美濃産折縁皿（16世紀末）、I-6中国産青花、須恵器、硯など8点である（第758図）。

(3)井戸跡

SE1（第762図）2グリッドの西壁際に位置する。IV層上面での確認であるが、IV層の遺構を切っているSD2をさらに切っていることから最も新しい遺構と考えられる。平面形は楕円形で、大きさは2.7×2.3m、深さ1.45mで、断面形は逆台形である。堆積土は自然堆積層である。

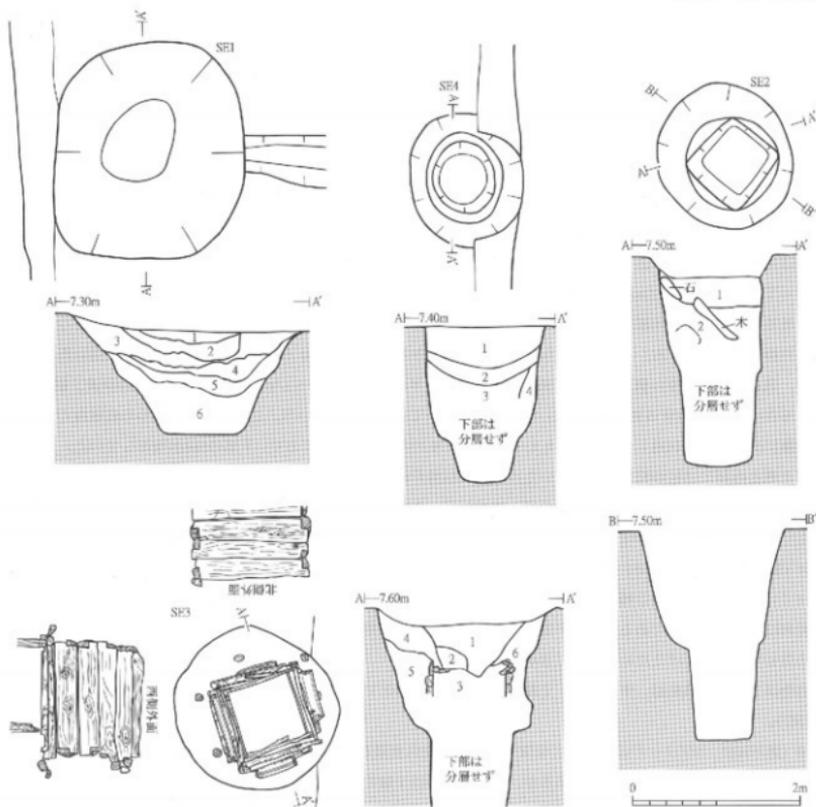
遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器、近世の陶磁器、金属製品、石製品、鉄洋など48点で、図化できたのは中世陶器3点と磁石1点である（第761図1～3・6）。

SE2（第762図）3グリッドに位置する。IV層上面での確認であるが、付近のII層はI層の攪拌によって失われているので、本来はII層上面から掘り込まれていた可能性がある。上面は1.8×1.6mの楕円形であるが、下半部は80×90



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	流量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口徑	底径	高さ		
1	Ic-9	SE1	陶器(常滑)	夏	口縁～体部片				D部スコッチ、B部デ、口縁上面と体部断面に自由の曲線、6a型式	303-19
2	Ic-10	SE1	陶器(常滑)	片口鉢	底部～体部片				ロク口碗状、内面磨減	303-21
3	Ic-17	SE1	陶器(常滑)	片口鉢	口縁部小片				ロク口碗状、山系陶器系	303-20
4	Ic-12	SE3	陶器	円盤状土器		径3.8			常滑窯の縁を加工した円盤	304-1
5	Ic-13	SE3	陶器	円盤状土器		径4.9			在来窯の縁を加工した円盤、中心に土質透の穴	304-2
6	K-12	SE1	石製品	砥石	ほぼ完整	長さ	幅	厚さ		
7	K-14	SE3	石製品	砥石	両端部欠損	5.4+	4.5	4.6		
8	K-15	SE3・掘り方	石製品	砥石	完整	7.5	7.8	2.5		
9	Nb-1	SE3・内部	銅製品	燧管煙首	ほぼ完整	5.2	火管径1.4	小口径0.8		
10	Nb-3	SE3・内部	銅製品	燧管煙首	小1付近欠損	3.3+	火管径1.8			
11	Nb-2	SE3・内部	銅製品	用途不明	?	5.5+	1.7	0.4		
12	Na-2	SE3	鉄製品	釘	4.5	5.0+	0.7	0.9		
13	Na-1	SE2 (I'29)	鉄製品	釘	中央部のみ	5.2+	0.5	0.7		

第761図 SE1・3、SE2出土遺物



層位	色調	上質	既入物・その他
SE1 1	10YR4/3 ほぼ無着色	粘土	
2	10YR2/1 黒色 10YR2/2 黒褐色	木炭粉 シルト質粘土	瓦片
3	10YR1/2 黒褐色	粘土	
4	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	
5	10YR3/1 黒褐色 2.5Y3/2 黒褐色	粘土 粗砂	瓦片
6	2.5Y4/1 暗灰褐色 2.5Y3/1 黒褐色	シルト質粘土 粘土	瓦片
SE4 1	10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	ほぼ無着色砂質シルトブロック・炭化物少量
2	10YR3/2 黒褐色	粘土	灰褐色細砂ブロック多量
3	10YR3/2 黒褐色 10YR4/2 灰褐色	粘土 粗砂	瓦片
4	10YR3/2 黒褐色 10YR4/2 灰褐色	粘土 粗砂	ブロック の混在
SE2 1	10YR3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック・黒褐色細砂ブロック少量
2	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色粘土ブロック多量
SE3 1	10YR3/3 暗褐色	粗砂	褐色粗砂・黒褐色シルト質粘土を層状に少量、植物遺体少量
2	10YR3/1 黒褐色	シルト質粘土	黒褐色シルト質粘土ブロック・炭化物・植物遺体少量
3	10YR3/1 黒褐色	粘土	黒褐色粘土・植物遺体少量
4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	灰褐色シルト質粘土を層状に少量、褐色細砂・炭化物少量
5	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	黒褐色粘土塊
6	10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	黒褐色粘土・植物遺体少量

第762図 SE1~4 平面・断面図

cm の方形となっている。深さは2.6mである。断面形は上半部が上部が開く「U」字形で、下半部の方形の部分は箱形である。堆積土は1・2層が人為的に埋め戻されている可能性があるが、下層は危険防止のため半裁せずに掘り下げたため詳細は不明である。

遺物は土師器、須恵器、中世陶器、瓦、石製品、鉄滓など27点で、図化できたのは大形の砥石1点である（第763図3）。

SE3（第762図） 4グリッドの東壁際に位置する。井戸枠を伴っていたが、調査区東壁が崩落する危険性があったため途中で精査を断念している。IV層上面での確認であるが、付近のII層はI層の攪拌によって失われているので、本来はII層上面から掘り込まれていた可能性がある。掘り方は円形で、上半部は径1.9~2.0m、下半部は径1.0mと狭くなっている。深さは2.5m以上である。断面形は上部が開く逆台形、下半部は箱型である。井戸枠から上の堆積土は自然堆積層である。内部の堆積土は暗褐色の粘土であったが、湧水が激しかったため内部の分層はできなかった。

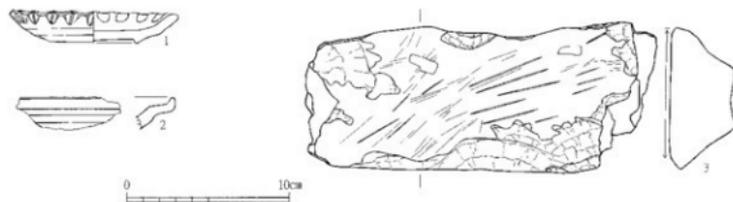
井戸枠の最上部（井桁）は確認できなかったが、掘り方の上面から60cm下で井戸枠を確認した。上部は崩れていたが、残存する井戸枠の構造は「方形横板型」である。平面形は一边0.9~1.0mの方形で、長さ1.0m前後、幅13~20cm、厚さ6~8cmの板材の両端部を「L」字形に切り欠いて組み合わせている。この板材は丸太から柱材などを製材した際に出る端材を利用したもので、丸太の外周面を井戸の外側に向けており、下部の6段が残存していた。井戸枠外の北側と西側には杭が打ち込まれていたが、これは井戸枠が外側に開くのを防ぐためと考えられる。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器、中国産の磁器、近世の陶磁器、瓦、金属製品、石製品など77点で、砥石や煙管などのほか中世陶器片を円盤状に加工したものなど8点が図化できた（第761図4・5・7~12）。

SE4（第762図） 3グリッドの東壁際に位置する。IV層上面での確認であるが、付近のII層はI層の攪拌によって失われているので、本来はII層上面から掘り込まれていた可能性がある。大きさは1.6×1.3mの楕円形で、深さ1.9m、断面形は上半部が箱型であるが、最下部は急に狭まっている。堆積土は自然堆積層であるが、下層は危険防止のため半裁せずに掘り下げたため分層はできなかった。

遺物は土師器、須恵器、中世陶器、土製品など24点で、図化できたのはc-23瀬戸美濃産梅花丸皿1点である（第763図1）。

SE6（第759図） 5グリッドの東壁際に位置するが、調査区東壁がSE6堆積土とともに崩落したためほとんど精査はできなかった。IV層上面での確認であるが、付近のII層はI層の攪拌によって失われているので、本来はII層上面から掘り込まれていた可能性がある。径約2mの円形と推定されるが、深さや堆積土は不明である。



No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(産地) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	Io-23	SF4	陶器(瀬戸美濃) 梅花丸皿	2/3	0.4	5.5	1.9	形跡、内面に円縁ビンの彫刻(磨痕)、底面外周に輪下りの彫刻 大塚4期前半	304-10
2	J-7	SE6	台皿(中国) 壺						304-11
3	K-13	SF2	石製品・砥石		長21.2	幅8.5	厚4.0	横溝式、1410g、11段	304-12

第763図 SE2・4・6出土遺物

遺物は堆積土上層から土師器、須恵器、中国産磁器、金属製品など11点が出土し、中国産の白磁盤1点が図化できた(第763図2)。

(4)土坑

SK2(第759図) 1グリッド北西部に位置する。SD1に切られているため平面形は明確ではないが、楕円形あるいは不整長方形と考えられる。東西長2.8m以上、南北幅約1.5mと推定される。断面形は浅い皿形で、底面は西側が一段低くなっており、深さは約20cmである。堆積土下層には木炭が多量に含まれていた。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器など29点で、図化できたのは完形の土師質土器1a-6小皿1点である(第758図13)。

SK4(第759図) 5グリッドに位置する。IV層上面での確認であるが、付近のII層はI層の攪拌によって失われているので、本来はII層上面から掘り込まれていた可能性がある。楕円形で大きさは95×70cm、深さ約10cm、断面形は浅い皿形で、底面は平坦である。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、銅製品など6点で、図化できたのはNb-6銭貨(開元通寶)1点である(第758図2)。文字が不明瞭で裏面が平滑であるので模倣銭の可能性はある。

第2節 IV層上面の遺構

1. 遺構の概要

IV層は灰黄褐色の粘土質シルトで、2グリッドから南側に分布している。IV層が遺存していない箇所を確認した遺構は時期が限定できないものもあるが、他の遺構との重複関係からこの時期と推定した。東西方向の溝跡4条、南北方向の小規模な溝跡1条、井戸跡4基、土坑2基を確認したが、溝跡のうち最も北に位置するSD7は「堀跡」に近い規模を有している。大部分の遺構の時期は中世後半と推定される。

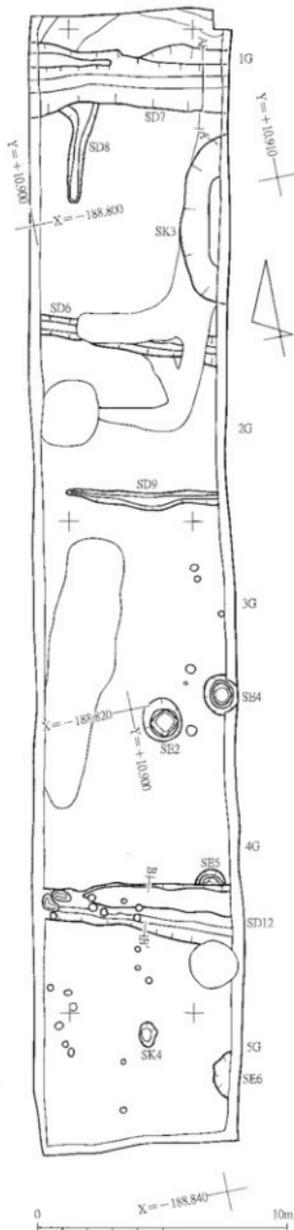
2. 遺構と遺物

(1)溝跡

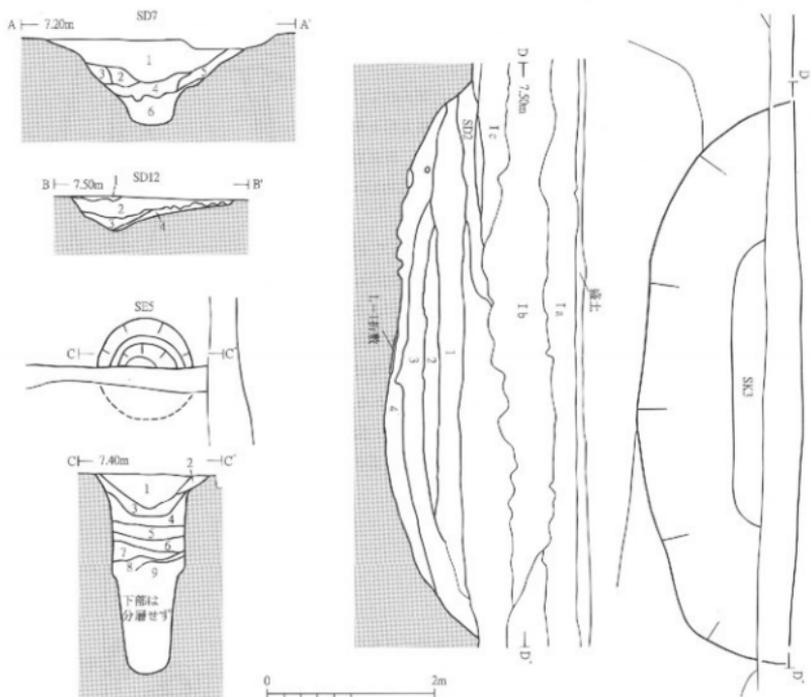
SD6(第764・777図) 2グリッドに位置する。確認面はI層直下のIV層下部である。方向はN-70°-Wで、確認した長さは7m、幅0.7~1.2m、深さ15~20cmである。断面形は浅い皿形で、底面には起伏がある。堆積土は砂質シルトを主とする自然堆積層である。

遺物は石製品1点が出土したが、図化はできなかった。

SD7(第764・765図) 1グリッドに位置する。確認面はI層直下のVI層上面であるが、II層の遺構(SD1・SK2など)に切られていることと出土遺物からIV層期の遺構と考えられ、規模が大きいこ



第764図 IV層上面平面図



層位	色相	土質	深入物・その他
1	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	暗褐色細砂ブロック少量、酸化鉄少量
2	5YR3/1 黒褐色	細砂	黒褐色シルト質砂・酸化鉄少量
3	10YR3/2 黒褐色	細砂	黒色粘土・酸化鉄少量
4	2.5YR3/1 赤褐色	細砂	
5	10YR3/4 暗褐色	粘土	オリーブ黒色砂粒少量
6	2.5YR2/1 赤黒色	粗砂	黒褐色粘土・酸化鉄少量

層位	色相	土質	深入物・その他
1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	
2	10YR3/2 黒褐色	粘土	灰黄褐色砂質シルトブロック少量
3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	黒褐色粘土ブロック多数
4	10YR3/3 暗褐色	細砂	黒褐色粘土ブロック少量

層位	色相	土質	深入物・その他
1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	
2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロック多数
3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	灰化物少量
4	10YR3/2 暗褐色	シルト	黒褐色粘土ブロック少量、灰化物微量
5	10YR3/2 暗褐色	シルト質粘土	灰化物微量
6	10YR2/1 黒色	粘土	
7	10YR2/2 黒褐色	粘土	にぶい黄色シルトブロック少量
8	10YR2/1 黒色	粘土	
9	10YR4/2 灰黄褐色	粗砂	

層位	色相	土質	深入物・その他
1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄・灰化物少量
2	7.5Y4/1 灰色	シルト質粘土	
3	10YR4/1 褐色	粘土	
4	10YR3/1 黒褐色	シルト質粘土	

第765図 SD7・12断面図、SE5・SK3平面・断面図

とから城館に係わる「堀跡」か、あるいはそれに類する区画溝と推定される。SD8とは同時期と考えられる。方向はN-80°-Wで、確認した長さは8m、幅2.0~3.0m、深さ1.0mである。断面形は上半部が大きく開いているが、下半部は「U」字形を呈している。北壁には部分的に段が付いている。底面はほぼ平坦である。堆積土は砂を主とする自然堆積層である。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器、瓦、土製品など251点が出土したが、このうちの大部分を占める土師器と須恵器は周辺からの混入と考えられる。東海産の中世陶器が2点図化できた(第766図1・2)。

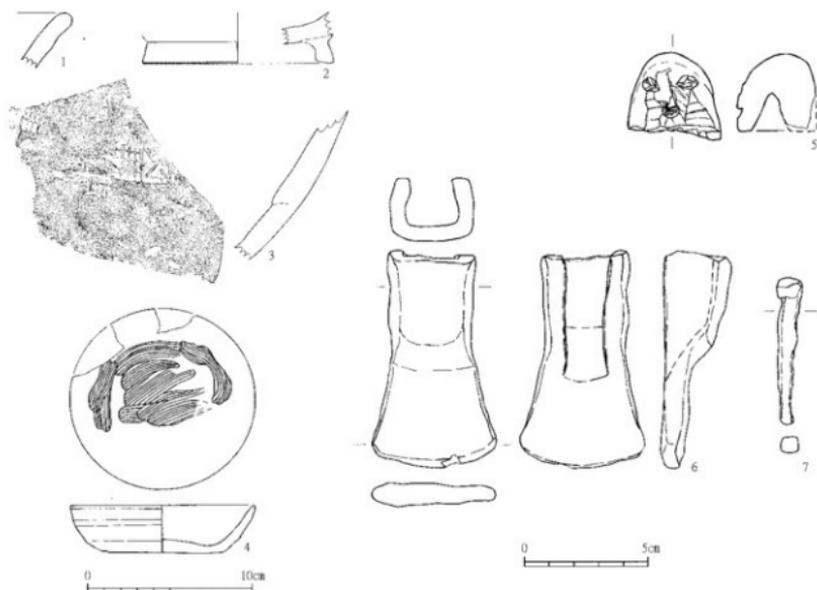
SD8(第764図) 1)グリッドで部分的に確認し

た南北方向の溝跡で、SD7と接続していると考えられる。確認面は1層直下のIV層下部～VII層上面である。方向は概ねN-15°-Eで、確認した長さは4m、幅は50cmであるがSD7との接続部分は1.7mに広がっている。深さは約10cm、断面形は浅い皿形で、底面は北側のSD7に向かって緩やかに傾斜している。遺物は土師器片7点で、図化はできなかった。SD9(第764図) 2グリッド南部に位置する東西方向の溝跡で、西側が途切れている。確認面は1層直下のIV層中である。方向はN-78°-Wで、SD7とほぼ平行している。確認した長さは6m、幅50～70cm、深さ10cmである。断面形は浅い皿形で、底面には緩やかな起伏がある。

遺物は土師器、須恵器、中世陶器、石製品、土製品などが45点出土し、人面状に加工した石製品K-17が図化できた(第766図5)。

SD12(第764・765図) 4グリッドに位置する東西方向の溝跡で、確認面は1層直下のIV層中である。方向はN-70°-80°-Wで、確認した長さは7.5m、幅は西側が1.2mであるが東側が2.7mと広がっている。深さは30～45cmで、断面形は三角形であるが、北側には段が付き、底面はほぼ平坦である。堆積土は自然堆積層である。

遺物は土師器、須恵器、中世陶器、中国産磁器、金属製品、鉄洋などが204点出土し、Ic-14常滑産甕、Ia-5土師質土師皿、Na-5手斧、Na-4釘が図化できた(第766図3・4・6・7)。土師質土器Ia-5皿とNa-5手斧はほぼ完成品である。



No.	登録No.	地F・遺構・層位	種別(産地) 器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図取
					口径	底径	器高		
1	Ic-24	SD7	陶器(東南)片1鉢	11段蓮小片				ロク口調整、山菜陶器系	304-13
2	Ic-25	SD7, (SD10)	陶器(東南)片口鉢	底部3/4		11.6		ロク口調整、山菜陶器系	304-14
3	Ic-14	SD12	陶器(常滑)甕	底部小片				格子状+「X」押印	304-16
4	Ia-5	SD12	土師質土師・皿	ほぼ完成	10~11.3	7.0	3.0	ロク口調整、底面印転染、底面内面ナシ、白粉塗	304-15
5	K-17	SD9	石製品・用途不明	ほぼ完成?	高3.6	幅3.8	奥行3.2	人顔状加工、下面に溝み、25g+、デイスライト製鉄器	304-17
6	Na-5	SD12	鉄製品・手斧	完成	長8.9	幅3~5.1	厚2.8	柄の装着部断面が「U」字形、110g	304-18
7	Na-1	SD12	鉄製品・釘	2/3	長6.1+	幅0.6	厚0.4	頭部幅1.1cm、7g+	304-19

第766図 SD7・9・12出土遺物

(2)井戸跡

この時期に属すると考えられる井戸跡はSE2・4・5・6の4基があるが、このうちSE2・4・6についてはⅡ層の時期の遺構である可能性もあるためⅡ層の項で述べた。

SE5 (第765図) 4グリッドの東部に位置し、SD12に切られている。径1.2mの円形で、深さ2.45m、断面形は深い「U」字形であるが、途中でわずかに狭まっている。上半部の堆積土は自然堆積層であるが、下層は危険防止のため半葦せずに掘り下げたため分層はできなかった。遺物は土師器、須恵器、ウマの骨など約10点であるが、図化できたものはない。

(3)土坑

この時期に属すると考えられる土坑はSK3・4の2基があるが、このうちSK4についてはⅡ層の時期の遺構である可能性もあるためⅡ層の項で述べた。

SK3 (第765図) 1~2グリッドの東壁際に位置する。大部分が調査区外のため平面形は明確ではないが、楕円形か隅丸方形と推定され、南北の規模は約7mである。深さは約1m、壁は緩やかで底面はほぼ平坦である。堆積土は自然堆積層である。

遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、中世陶器、縄文土器、金属製品、木製品、動物の骨など約70点で、このうちL-1折敷の蓋、L-2箸、L-3棒などの木製品とNb-5銭貨(熙寧元寶)が図化できた(第767図)。L-1折敷の蓋は表裏面ともに刃物傷と推定される痕跡が多数認められることから、組板などとしての転用が考えられる。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
						長さ	幅	厚さ		
1	L-1	SK3	木製品・折敷	裏	97.9				組板に転用?	304-20
2	L-2	SK3	木製品・箸	9/10	9.0+	0.5	0.5			304-21
3	L-3	SK3	木製品・棒	?	2.9+	1.4	1.4		先端部を細く加工、反対側に径0.3cmの孔	304-22
4	Nb-5	SK3	銅製品・銭貨	形形	径2.4			重3.6g	熙寧元寶(北宋・初建1084年)	304-23

第767図 SK3出土遺物

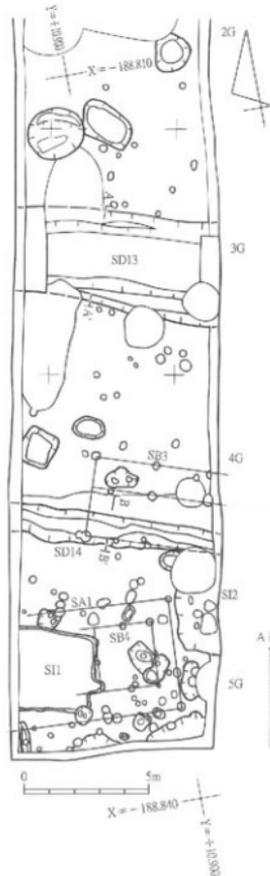
第3節 V層上面の遺構

1. 遺構の概要

V層はにぶい黄褐色の砂質シルトで、2グリッド南半部から南側に分布している。上面で竪穴住居跡1軒、竪穴遺構1基、掘立柱建物跡2棟、柱列跡1条、東西方向の溝跡2条、土坑17基を確認した。竪穴住居跡以外の遺構の時期は確定できないが、出土遺物や重複関係からすると大部分は中世の遺構である可能性がある。

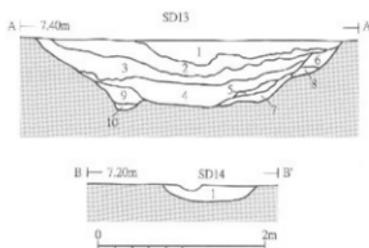
2. 遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡



SI1（第769図）5グリッド西縁際に位置するが、上部を基本層IV層によって攪拌されているため遺存状態は良くない。西側が調査区外のため東西長は不明であるが、南北長は3.2～3.3m、残存していた深さは約10cmである。堆積土は自然堆積層である。床面は掘り方を5～15cm埋め戻して作られており、中央部が踏み固められたためか周辺に比べて硬い。ピットは9基確認し、このうちP1・3・8・7・6・5が東西2.2m、南北1.9～1.95mの方形に並ぶことから柱穴と推定される。カマドは東壁の南寄りに設置されている

層位	色調	土質	埋入物・その他
1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒色粘土小ブロック少量
2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒色粘土ブロック・にぶい黄褐色細砂ブロック少量
3	10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	黒色粘土ブロック・にぶい黄褐色細砂ブロック少量
4	10YR3/2 黒褐色	粘土	瓦片
	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	10YR5/2 灰黄褐色	粘土	
	10YR3/1 黒褐色	粘土	
5	10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂	
	10YR3/1 黒褐色	粘土	
6	10YR5/2 灰黄褐色	粘土	瓦片
	10YR5/2 灰黄褐色	粘土	
7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	黒色粘土小ブロック少量
	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	
8	10YR5/2 灰黄褐色	細砂	黒色粘土小ブロック少量
	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	
9	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	黒色粘土小ブロック少量
	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	
10	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	黒色粘土小ブロック少量
	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	
SD14			
1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	灰黄褐色粘土ブロック少量



第768図 V層上面平面図、SD13・14断面図

が遺存状態が悪く、ソデや天井部などは確認できなかった。

遺物はカマド付近に多く認められ、土師器、須恵器を中心に、金属製品、石製品、鉄滓など665点で、このうち土師器環5点、裏1点、須恵器環1点、砥石1点が図化できた（第770図）。土師器D-9～12環は底部あるいは底部～体部下端に再調整が施されるが（1～4）、D-8のみは回転糸切無調整で深い器形である（5）。なお、付近の基本層（IV層）中からも器形・調整技法が類似した土師器環が出土している（第784図）。限定はできないが、これらには本来SI1の遺物であったものも含まれている可能性がある。

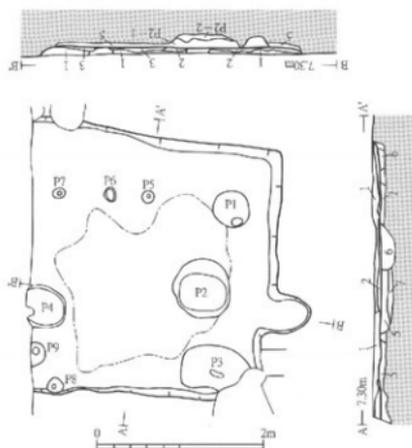
(1) 竪穴遺構

SI2（第768図） 壁が緩やかで通常の竪穴住居跡とは様相が異なるので竪穴遺構とした。4～5グリッド東壁跡に位置するが、上部を基本層IV層によって攪拌されているのと北部をSE3によって切られているため遺存状態は良くない。東側が調査区外のため東西長は不明であるが、南北長は3.5～4mと推定される。残存していた深さは約25cmである。堆積土は自然堆積層である。床面には起伏があり、ピットなどは確認できなかった。

遺物は土師器、須恵器を中心に、中世陶器、瓦、金属製品、鉄滓など220点で、このうち土師器裏、須恵器環・裏が図化できた（第771図1～3）。

(2) 掘立柱建物跡・柱列跡

SB3（第772図） 4グリッドに位置し、SD14を切っている。東側が調査区外へ延びているため全容は不明であるが、南北2間（総長3.15m、柱間寸法1.95+1.2m）、東西3間以上（総長4.8m以上、柱間寸法1.25+1.25+2.3m）の建物跡で、北側の1間分は廂と考えられる。方向はN-19°-Eである。柱穴掘り方は径20～40cmの円形あるいは楕円形である



が、北西隅のP-10Sだけが一辺25cmの隅円方形を呈している。深さは20～45cmである。なお、P50は他の柱穴に比べて径20cmと小さく、深さも10cmと浅いので主柱穴ではない可能性があり、出入り口に依わる柱穴など補助的な性格が考えられる。柱痕跡はP88で確認し、径14cmの円形であった。

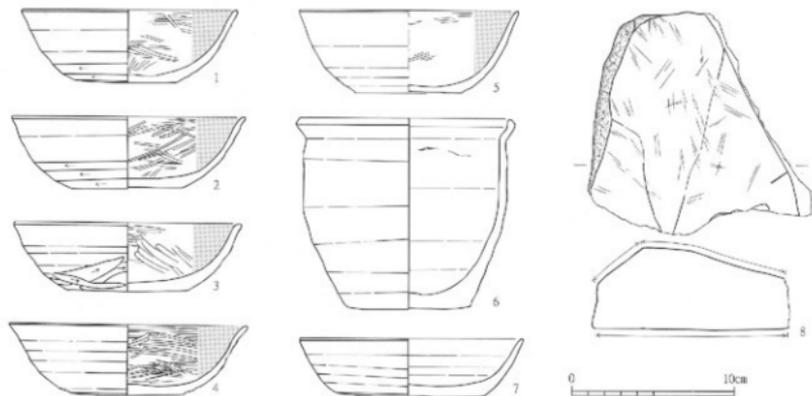
遺物は柱穴掘り方埋土から土師器、須恵器、瓦片が8点出土したが図化はできなかった。

建物の方向は第1次・第2次調査区のIVb2期の建物跡と共通しているので、中世前半の遺構である可能性が考えられる（註1）。

SB4（第772図） 5グリッドに位置する。西側がSI1と重複しているがSI1との新旧関係は明らかにできなかった。南北2間（総長2.6m、柱間寸法1.2+1.4m）、東西2間（総長2.4m、柱間寸法1.2m）の建物跡であ

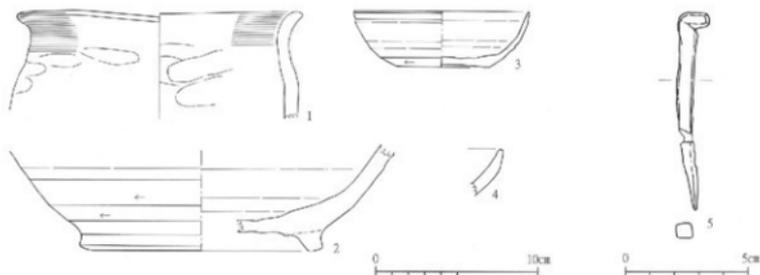
層位	色澤	土質	埋入物・その他
1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂ブロック・暗褐色シルト少量、酸化鉄・炭化物少量、焼土多量
2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック少量、部分的に黒褐色粘土質シルト少量、焼土・炭化物少量
3	10YR3/4 暗褐色	シルト	
4	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	暗褐色シルトブロック少量
5	10YR2/3 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂粒・黒褐色砂粒少量
6	10YR3/4 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色砂粒・炭化物少量
7	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色砂粒・炭化物・焼土少量
P2-1	10YR3/3 暗褐色	シルト	暗褐色シルト粒少量
2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色砂粒・焼土少量

第769図 SI1 平面・断面図



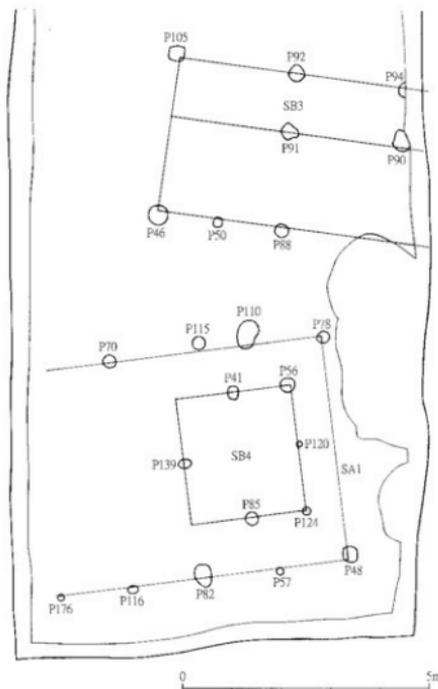
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	D-12	SI1・地壇土, SI1-P3	土師器・杯	45	13.2	6.3	4.6	口径口縁部、底縁部不明。底径-体部下半部細ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.48	305-5	
2	D-11	SI1、IV層	土師器・杯	34	14.3	6.7	4.5	口径口縁部、底縁部不明。底径-体部下半部細ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.47	305-6	
3	D-10	SI1・カマド	土師器・杯	楕円形	14.0	7.4	4.3	口径口縁部、底縁部不明。底径-体部下半部細ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.53	305-7	
4	D-9	SI1・カマド	土師器・杯	1/2	14.6	7.0	4.4	口径口縁部、底縁部不明。底径-体部下半部細ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.48	305-8	
5	D-8	SI1・カマド	土師器・杯	1/3	(13.4)	(6.4)	5.1	口径口縁部、底縁部不明。底径-体部下半部細ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.48	305-9	
6	D-13	SI1・地壇土, SI1-P3	土師器・杯	1/4	12.9	7.6	11.8	口径口縁部、底縁部不明。底径-体部下半部細ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.48	305-10	
7	B-10	SI1-P1、IV・V層	須恵器・杯	1/2	(13.7)	9.0	3.6	口径口縁部、底縁部不明。底径-体部下半部細ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.48	305-11	
8	K-6	SI1	石製壺・甕	肩部欠損	長13.5+	幅13.6	厚5.0	1000g ±、安山岩	305-12	

第770図 SI1出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	C-7	SI2	土師器・甕	土師器・甕	上半部3/5	17.5			口縁部コノテ、体部ナデ・オサエ	305-13
2	B-12	SI2	須恵器・甕	底部分		(15.0)			口径口縁部、体部下半部細ヘラケズリ	305-13
3	E-11	SI2	須恵器・杯	1/2	(10.8)	(5.7)	3.4		口径口縁部、底縁部不明。底径-体部下半部細ヘラケズリ 底径/口径0.51	305-14
4	Ia-32a	SK16	土師質土器・皿	口縁部小片					口径口縁部、底縁部不明。底径-体部下半部細ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色処理、底径/口径0.48	305-16
5	Na-3	SK5	鉄製品・針	楕円形	長8.2	幅0.6	厚0.6		頭部幅1.3cm、10g+	305-17

第771図 SI2、SK5・16出土遺物



第772図 SB3・4、SA1 平面図

いが、P110のように40×60cmと大きいものやP57・116・176のように径10cmのものもある。深さは10～40cmである。柱痕跡はP48でのみ確認し、径15cmの円形であった。

遺物は柱穴掘り方埋土から土師器、須恵器片4点が出土したが、図化はできなかった。

(3)溝跡

SD13 (第768図) 3グリッドに位置する。方向はN-74°-Wで、確認した長さは8m、幅3.5～4.3m、深さ85cmである。断面形は逆台形であるが上半部がやや大きく開いている。壁には部分的に段が付いている。底面はほぼ平坦である。堆積上下層は自然堆積層であるが、上層の1～3層(特に2層)は人為的に埋め戻されている可能性がある。

遺物は土師器、須恵器を中心として、中世陶器、中国産磁器、瓦、金属製品、鉄滓など567点が出土した。図化できたのは須恵器2点と白磁の脚と推定される部品1点である(第773図2～4)。

遺構の時期は、遺物に中世陶器が含まれていることから中世の可能性はあるが、掘り込み面がV層上面であることを確認しているため中世後半までは下らないと推定される。この点ではSD7よりは古いと考えられる。

SD14 (第768図) 4グリッドに位置する。方向はN-71°-Wで、確認した長さは8.5m、幅1.0～1.4m、深さ20～30cmである。断面形は浅い皿型で、底面は東側が西側に比べて15～20cm低くなっている。堆積土は1層である。

遺物は土師器、須恵器を中心として、土師質土器皿類、中世陶器、中国産磁器、鉄滓など204点が出土した。図化できたのは須恵器E-21杯1点である(第773図1)。

るが、さらに西側に延びる可能性がある。方向はN-4°-Eである。柱穴掘り方は径10～30cmの円形で、深さ10～30cmである。柱痕跡は確認できなかった。なお、建物の周囲にはSA1が廻っていると推定される。

遺物は柱穴掘り方埋土から須恵器片2点が出土したが、図化はできなかった。

建物の方向は第1次・第2次調査区のIVb1期の建物と共通しているため、中世前半の遺構である可能性が考えられる。

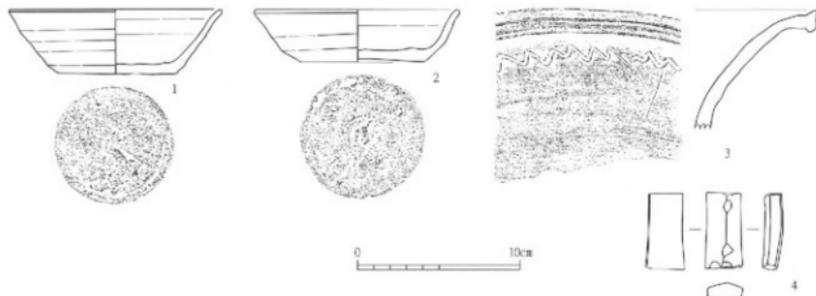
SA1(第772図) 4～5グリッドに位置する。SB4の南北両側を平行して東西方向に走る柱列があり、これらの柱穴の多くが正対する位置関係にあることから両柱列は連続する同一の遺構であると推定され、SB4の周囲を「コ」字状、あるいは方形に廻ると考えられる。なお、南側の柱穴の中には規模が極端に小さいものも認められるため「掘立柱建物跡」とはせず、一応「柱列跡」としている。柱穴は北側で4基、南側で5基確認した。柱間寸法は北側が1.0～1.8mとばらつきがあるが、南側はすべて1.5mである。方向は東西方向の柱列でN-87°-W(仮にP78とP48をつないだ線を東辺とすると南北方向はN-3°-E)で、SB4の方向に近い。柱穴掘り方は径25～45cmの円形あるいは楕円形が多

遺構の時期は、SD13と同じく遺物に中世陶器が含まれていることから中世の可能性はあるが、掘りこみ面がV層上面であることを確認しているので中世後半までは下らないと推定される。なお、IV層上面ではこのSD14とはほぼ同位置・同一の方向にSD12が認められることから、この地点に比較的長期間に渡って地割線が存在した可能性がある。

(4)土坑

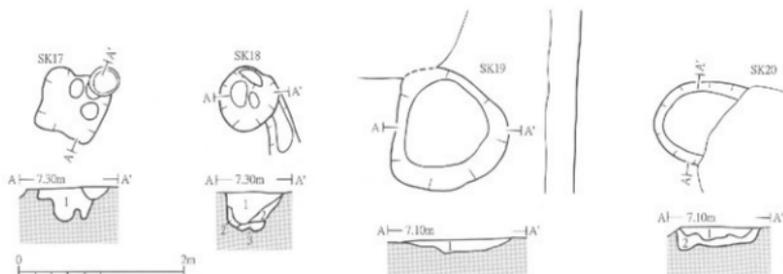
SK1・5～20の17基を確認した(第774・775図)。大部分が楕円形や不整形で、浅いものが多い。用途を明らかにできたものではなく、時期も大部分は確定できなかった。ただし、SK8・16からは土師質土器皿類や中世陶器などが出土しているのでSK8とSK16は中世の遺構であると考えられる。

遺物は土師器、須恵器が中心であるが、SK16の土師質土器皿とSK5の鉄釘が図化できた(第771図4・5)。



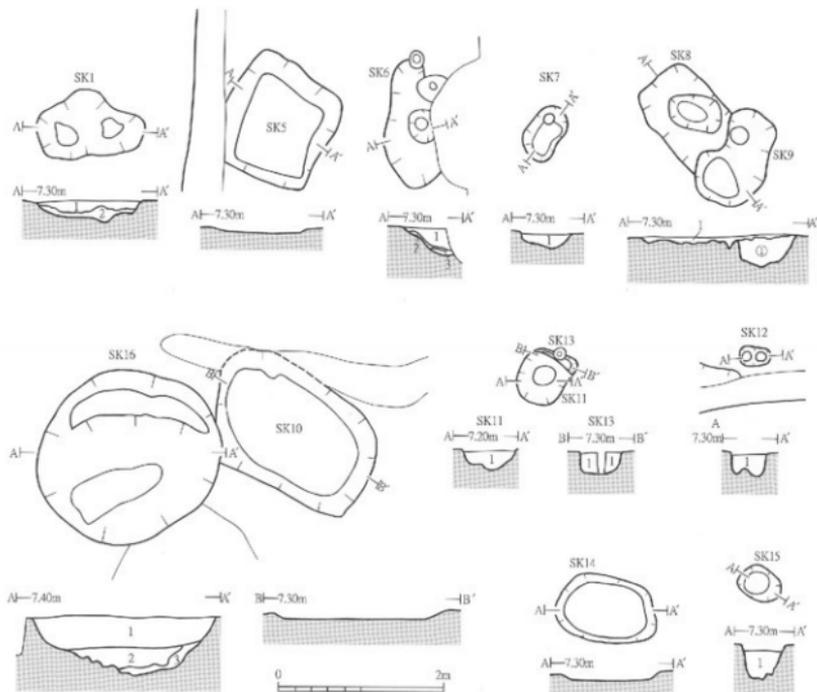
No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(京堆) 器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
					口径	底径	深高		
1	E-21	SD14、(V層)	須恵器・環	3/4	13.0	7.2	4.0	口口の調整、底面調整法不同→両面ヘタケズ(ローナデ底径/口径0.55)	305-2
2	E-20	SD13、(SD11)	須恵器・環	ほぼ完形	12.6	7.6	3.2	口口の調整、両面ヘタケ→両面ヘタケズ(1)、裏面/内面	305-1
3	E-19	SD13	須恵器・塊	口縁部1/4				口口の調整、口縁部外面に被状文1条	305-3
4	J-8	SD13	白磁(中国) 疑?	脚の一部					305-4

第773図 SD13・14出土遺物



層位	色調	土質	副人物・その他
SK17	1 H0YR3/4 暗褐色	シルト	副人物・その他 褐色シルト大ブロック多量、灰化物少量
SK18	1 H0YR3/3 暗褐色	シルト	灰黄褐色砂粒多量、褐色砂粒ブロック少量
	2 H0YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色砂粒ブロック・黒褐色シルト多量
	3 H0YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色砂粒少量
SK19	1 H0YR3/3 暗褐色	粘土	灰黄褐色シルト質粘土ブロック少量
SK20	1 H0YR3/3 暗褐色	粘土	灰黄褐色粘土ブロック多量、黄褐色粘土ブロック少量
	2 H0YR3/2 黒褐色	粘土	にぶい黄褐色砂質シルトブロック多量

第774図
SK17～20 平面・断面図



層位	色調	土質	埋入物・その他
SK1	1 10YR4/2	灰黄褐色 砂質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック少量
	2 10YR3/2	黒褐色 粘土	灰黄褐色砂質シルトブロック微量
SK6	1 10YR3/3	暗褐色 シルト質砂	にぶい黄褐色砂粒小ブロック・マンガン粒微量
	2 10YR1/4	暗褐色 砂	にぶい黄褐色砂粒ブロック多量
	3 10YR1/4	暗褐色 砂	黒褐色砂粒ブロック多量、にぶい黄褐色砂粒ブロック少量
SK7	1 10YR2/3	黒褐色 シルト	にぶい黄褐色砂粒・暗褐色砂粒多量、黒褐色シルト・炭化物少量
SK8	1 10YR1/3	黒褐色 シルト	にぶい黄褐色砂粒・黒褐色シルト・黒色シルト少量
SK9	① 10YR1/3	暗褐色 シルト	にぶい黄褐色砂粒・黒褐色砂粒少量
SK16	1 10YR4/2	灰黄褐色 シルト	黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物微量
	2 2.5Y3/1	黒褐色 砂質シルト	黒褐色粘土ブロック少量
	3 2.5Y4/3	暗褐色 粗砂	黄褐色粘土ブロック・黒褐色粘土ブロック少量
SK11	1 10YR2/3	黒褐色 シルト	褐色砂粒ブロック・灰黄褐色細砂ブロック多量
SK13	1 10YR2/3	黒褐色 シルト	褐色細砂ブロック多量、黒褐色砂粒ブロック少量、黒褐色粘土質シルト微量
SK12	1 10YR2/2	黒褐色 粘土質シルト	褐色粗砂ブロック多量
SK15	1 10YR2/3	黒褐色 シルト	黒褐色シルト・褐色砂粒・炭化物少量

第775図 SK1・5～16 平面・断面図

(註1) 第1次・第2次調査で検出した中世前半の掘立柱建物跡はIVb1期とIVb2期に区別される。IVb1期の建物の方向は真北から2～11°東に振れ、IVb2期の建物の方向は真北から13～21°東に振れている。

第4節 VI層上面の遺構(1)

1. 遺構の概要

VI層は黒褐色の粘土で、調査区のほぼ全面に分布している。上面では南北方向の小溝群がほぼ全面に認められ、それに切られる溝跡や自然流路(小河川)などが確認されている。小溝群はV層を耕作土とする畑跡の耕作痕と考えられるので、VI層上面での確認ではあるがV層関連の遺構として捉えられる。このため小溝群をVI層上面の遺構(1)、その他の遺構をVI層上面の遺構(2)として分割して記述することとする。

2. 遺構と遺物

(1)土坑

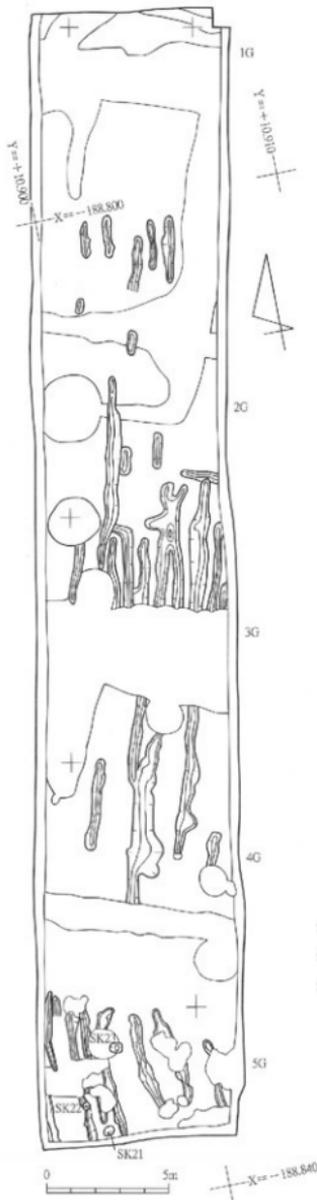
5グリッドでSK21~23を確認している。径30~50cmの小規模な土坑であるので、小溝群と混在している。遺物はそれぞれ土師器、須恵器、土師質土器皿類が1~2点出土したが図化できたものはない。

(2)小溝群

調査区のほぼ全面で確認したが、上層の遺構によって切られているため遺存状況は良くない。方向は概ねN-15°~20°-Eであるが南部ではほぼ真北に近い。なお、2グリッド南部では直交する東西方向の溝跡も一部で認められた。溝の間隔は心々で50~80cm前後、幅は25~40cmのものが多いが、中には幅90cm前後の広いものもある。深さは5~15cm、底面は凹凸がある。堆積土は直上の基本層V層に類似したにぶい黄褐色の砂質シルトで、VI層をブロック状に巻き上げている。

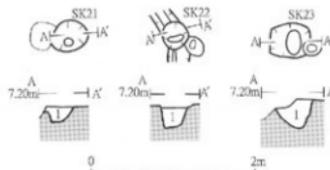
遺物は土師器、須恵器、土師質土器皿類、鉄滓が約200点出土したが、図化はできなかった。土師質土器は混入と推定される。

耕作土であるV層上面では畑に関する遺構は確認できなかったの



第776図 VI層上面平面図(1)、SK21~23平面・断面図

層位	色調	土質	器人物・その他
SK21	1 10YR3/4 暗褐色	砂	黒褐色シルトブロック・褐色細砂多量
SK22	1 10YR2/3 黄褐色	シルト	暗褐色砂粒ブロック・灰黄褐色砂礫ブロック多量
SK23	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色粘土ブロック少量



で煙跡の詳細は不明であるが、1~4グリッドと5グリッドでは方向を異にするブロックを形成していることから、このブロックが煙の区画を反映している可能性がある。なお、V層上面で確認された竪穴住居跡や溝跡などは煙よりも新しい遺構と考えられる。

第5節 VI層上面の遺構(2)と下層の調査

1. 遺構の概要

前節で述べたように、VI層上面では小溝群に切られる溝跡や自然流路(小河川)などが確認されている。小溝群はV層煙跡に係わる遺構であるが、これらに切られる溝跡などはVI層上面の遺構と考えられる。溝跡は南北方向に蛇行するもの1条と、東西方向のもの2条、自然流路は東西方向のもの2条が確認された。

2. 遺構と遺物

(1) 溝跡

SD5(第777図) 1グリッド西部から4グリッド東部にかけて、蛇行しながら調査区を縦断している。正確な方向は測定できないが、北北西から南南東に向かって走っている。確認した長さは直線で24m、幅1.0~1.6m、深さ50~55cmである。断面形は逆台形あるいは上部が開く「U」字形で、壁面には部分的に段が付いている。底面は平坦ではなく高低差10~15cmほどの段差が認められ、全体的には北側が約15cm低くなっている。堆積土は自然堆積層である。なお、南端部のSR2近くには太さ10cm前後、長さ80~160cmの杭5本と短い杭3本が集中して打ち込まれていた。

遺物は上記の杭(第779図)のほか土師器、須恵器片が120点出土したが、土器類は図化できなかった。

この溝跡は、SR1とSR2をつなぐように掘られていることから、2本の自然流路を結ぶ水路と推定される。溝底面の標高が北側に向かって低くなっていることから、南側のSR2から取水して北側のSR1に排水していると考えられ、南端部のSR2近くに集中する杭はSR2からの取り入れ口の施設であると推定される。なお、SR1とSR2については後述するが、微地形を考慮するとSR1・2共に西から東へ向かって流れていると考えられる。SD5はSR1・2の水流とは逆の配置となっているが、これはSR2から取水する際の水勢を弱めるためではないかと考えられる。

SD16(第777図) 2~3グリッドに位置するが、小溝群によって切られているため遺存状況は良くない。方向はN-75°-Wで、確認した長さは5.5m、幅60~75cm、深さ約25cmである。断面形は浅い「U」字型で、堆積土は2層である。遺物は出土しなかった。

SD17(第777図) 4~5グリッドに位置する。方向はN-55°-Wで、確認した長さは8m、幅80~140cm、深さ約20cmである。断面形は浅い「U」字型で、底面には緩やかな起伏がある。堆積土は2層で、自然堆積層である。

遺物は土師器片3点で、図化はできなかった。

	層色	色調	土質	遺入物・その他
SD5 (A-A')	1	10YR3/2 黒褐色	粘土	灰黄褐色シルト質粘土ブロック少量
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	にぶい黄褐色細砂ブロック少量
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	
SD6 (A-A')	①	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	②	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色粘土ブロック・にぶい黄褐色細砂ブロック少量
SD16 (B-B')	①	10YR4/1 褐褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・増灰黄色砂質シルトブロック少量
	②	5Y4/1 灰色	砂質シルト	黄灰色粘土ブロック少量、黒褐色粘土ブロック少量
SD17 (C-C')	1	10YR4/2 にぶい黄褐色	砂質シルト	
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	



第777図 VI層上面平面図(2)、SD5・6・16・17断面図

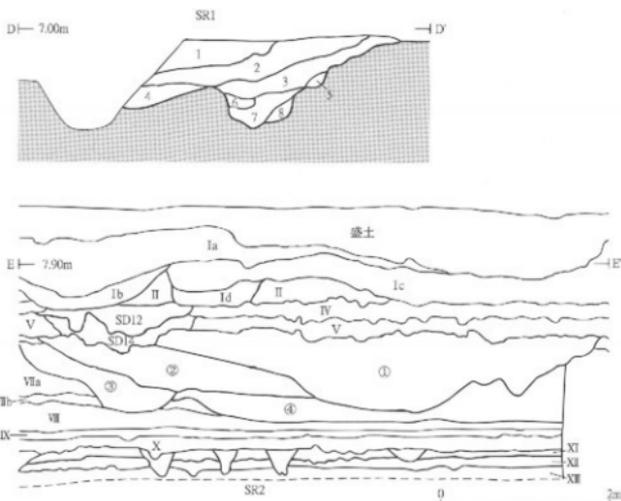
(2)河川跡

SR1 (第778図) 1グリッドに位置する。南岸を確認したのみで、北側の岸は調査区外となっている。方向は南岸で $N-83^{\circ}-W$ 、確認した長さは4m、深さは約1.1mである。底面は起伏があり、南岸の直下は深くなっている。堆積土下層は粘土と砂の互層であるが、大部分は崩落したような自然堆積層である。

遺物は土師器、須恵器を中心に瓦、土製品、鉄滓、骨など400点以上出土した。図化できたのは須恵器杯、土師器甕、土製品の5点である(第780図)。

SR2 (第778図) 4グリッドに位置する。方向は $N-65^{\circ}-W$ で、確認した長さは8m、幅6.5m、深さ約50cmである。底面は起伏が激しく、段差が多数認められる。堆積土の大部分はシルトや粘土の互層であるが、最下層は粗砂である。

遺物は土師器、須恵器、赤焼土器、土師質土器皿類、中世陶器、瓦、金属製品、石製品、土製品、鉄滓など985点で、図化できたのは土師器杯や須恵器の杯・甕、火打石など12点である(第781図)。土師器杯は径9cm未満の小型のものである。



SR1		土質	混入物・その他
1	10YR2/1 黒色	粘土	
2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰黄色細砂ブロック多量
3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック・暗褐色細砂ブロック多量
4	5Y4/1 灰色 2.5Y4/1 黄灰色	【互層】 粘土	
5	10YR3/1 黒褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土 【互層】 粗砂	ブロック
6	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黄灰色細砂ブロック多量
7	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	黒色粘土ブロック・灰色粘土ブロック少量
8	5Y4/1 灰色 5Y3/1 オリーブ褐色 2.5Y2/1 黒色	砂質シルト 粗砂 粘土	【互層】

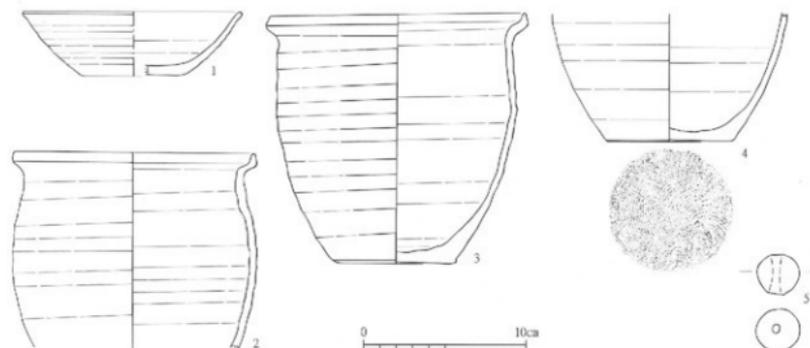
SR2		土質	混入物・その他
①	10YR6/2 灰黄褐色 2.5Y5/2 黄褐色 2.5Y5/1 暗黄褐色 2.5Y4/2 暗黄褐色	シルト シルト質粘土 粘土 粗砂	互層
②	10YR4/3 にぶい黄褐色	粗砂	
③	10YR4/2 灰黄褐色 10YR4/2 灰黄褐色 10YR3/2 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト 粘土 粘土 粗砂	【互層】
④	10YR5/4 にぶい黄褐色	粗砂	

第778図 SR1・2断面図

No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版	
					長さ	幅	厚さ			
1	L-4	SD5・前面	木製品・杭	?	淵底欠損	105.3+	8.5	7.1	分割材	
2	L-8	SD5・前面	木製品・杭	?	淵底欠損	98.9+	10.6	5.6	分割材	
3	L-7	SD5・前面	木製品・杭	?	淵底欠損	83.4+			径11.0 丸木材	
4	L-6	SD5・前面	木製品・杭	?	淵底欠損	146.1+			径11.9 丸木材	
5	L-5	SD5・前面	木製品・杭	?	淵底欠損	157.6+			径13.7 丸木材	



第779図 SD5出土遺物



No.	登録No.	地区・遺構・階位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調査・特徴	写真 図版
					口径	底径	器高		
1	E-17	SR1	須恵器・坏	1/3	(13.5)	(6.2)	4.0	口クロ調整、底部回転糸切、底径/口径0.46	306-1
2	D-24	SR1	土師器・甕	上半2/3	14~16			口クロ調整	306-2
3	D-28	SR1	土師器・甕	4/5	15.6	7.4	15.5	口クロ調整、底部回転糸切	306-3
4	D-25	SR1	土師器・甕	下半のみ		7.7		口クロ調整、底部回転糸切、口針微量	306-4
5	F-2	SR1	土製品・土瓦	完形	径2.7	孔径0.4	厚2.7	16g	306-5

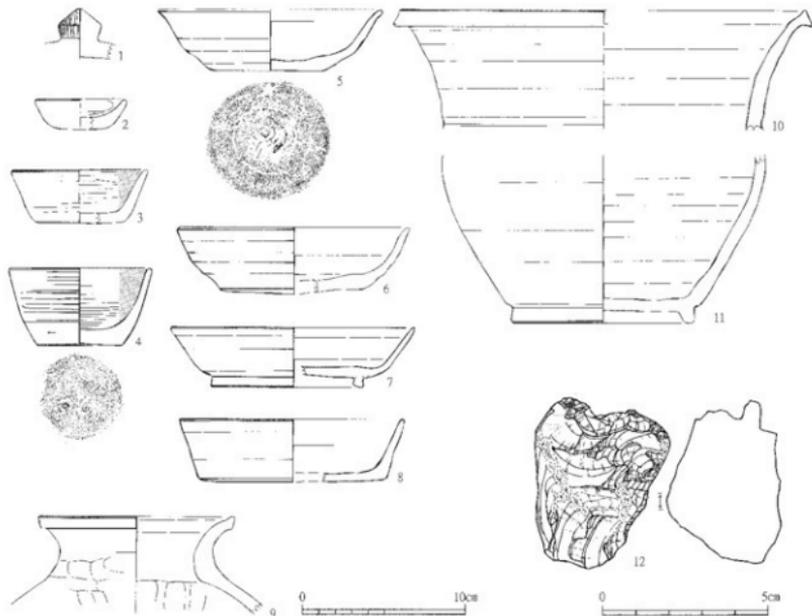
第780図 SR1出土遺物

3. 下層の調査

1グリッド南部およびSR2の底面を利用して部分的な下層の調査を実施した。遺構は確認できなかったが1グリッドのⅡ層中から弥生土器1点が出土している。第4次調査のX層中からも弥生土器が出土していることから付近には当該期の遺構が存在する可能性がある。



1グリッドの下層調査



No.	取録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 ID取
					口径	底径	器高		
1	C-5	SR2	十師器・蓋	ツマミ部分				内外面ヘラミガキ	306-6
2	C-5	SR2	十師器・ミニチュア	1/4	(5.6)	(3.0)	1.9	ナゲ、ヘラナゲ、白針微塵	306-7
3	D-22	SR2	十師器・杯	1/3	(8.4)	(5.4)	3.3	コクロ調整→匙ヘラミガキ、内面ヘラミガキ・黒色調整 底径/口径0.62	306-8
4	D-15	SR2	十師器・杯	1/2	8.8	5.2	4.8	ツマミ調整、何れヘラミガキ・赤褐色調整ヘラケズリ 底径同軸車切→一部同軸ヘラケズリ	306-9
5	E-14	SR2	須恵器・杯	1/2	13.7	7.3	3.8	内面ヘラミガキ・黒色調整、底径/口径0.53	306-10
6	E-13	SR2、(SE2)	須恵器・杯	1/2	14.2	8.7	4.1	ロクロ調整、底部切磨法不明→同軸ヘラケズリ、底径/口径0.61	306-11
7	E-27	SR2	須恵器・杯	1/2	(14.8)	9.2	3.7	ロクロ調整、底部同軸ヘラケズリ、底径/口径0.62	306-12
8	E-28	SR2、(V層)	須恵器・杯	1/2	13.6	11.3	3.9	ロクロ調整、底部切磨法不明→同軸ヘラケズリ、底径/口径0.53	306-13
9	E-15②	SR2	須恵器・蓋	上部3/4	12.0			ロクロ調整、体部ナゲ	306-14
10	E-25	SR2、(SD2)、(V層)	須恵器・覆	口縁部1/3	(25.7)			ロクロ調整	306-15
11	E-26	SR2、(SD1)	須恵器・蓋	下部のみ		11.2		ロクロ調整	306-16
12	K-10	SR2	石製品・火打石?	宛形?	5.0	4.1	3.4	縁面に打撃によると見られるツツリ、7g、費正	306-17

第781図 SR2出土遺物

第6節 全体の出土遺物と基本層からの出土遺物

各遺構からの出土遺物については前節までで述べたので、ここでは調査区全体にかかわる点と基本層中からの出土遺物について触れる。なお、出土遺物の層位・遺構別の集計表は表151である。

1. 遺物の出土状況

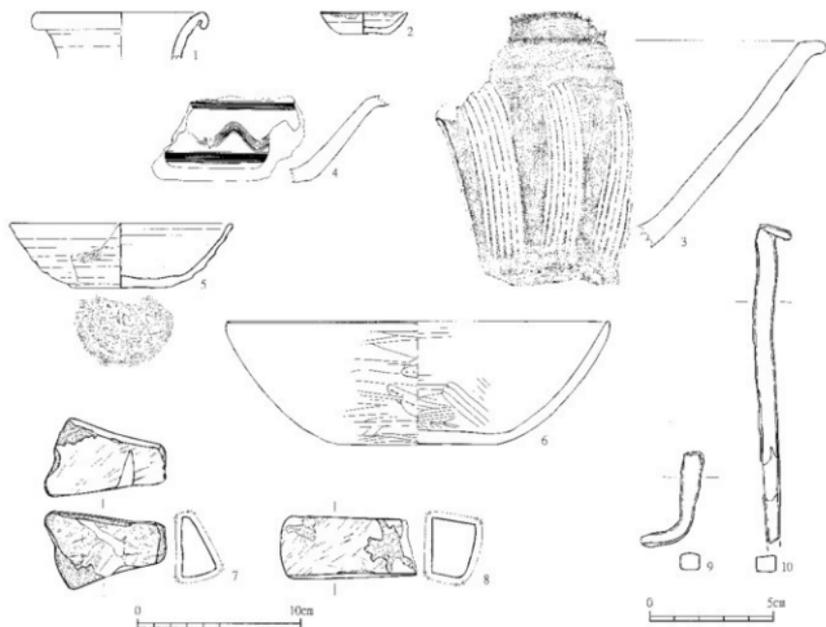
調査区全体の遺物数は表151のとおりで、縄文土器1点、弥生土器1点、土師器8,258点、須恵器2,272点、赤埴土器16

層位・遺構	土師器	須恵器	土師器土器		瓦器・土器	常形		瓦瓦		東高		在池		中割屋	その他	瓦	金属製品		土師器	土師器	土師器	土師器	その他		
			土師器	土師器		土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器				土師器	土師器						土師器	土師器
I～II	202	274		40	4																				
古層	2,183	990	5	79		2	59	1	6	1	5	12	3	4										14	
V層	1,222	388		1																				75	
VI層	189	49																						10	
VII層	5	2																							
遺層																									
SD1	58	14		4		1	2					1												3	
SD2	34	5					2					1													
SD3	4	1																							
SD4																									
SD5	206	16																						3	
SD6																									
SD7	281	69		4			8		2			2												3	
SD8	7																								
SD9	32	7					4																		
SD10	36	15							1																
SD11	268	44					10		1				4	1											
SD12	120	63		6			3	1				1	2	1										19	
SD13	454	89					9	5				1	1	1										2	
SD14	129	68		2					1															6	
SD15	1	1																						3	
SD17	3																								
SD18	13																								
VI層上小溝	141	53		6																				3	
SE1	13	9		2		2	3		1	1														1	
SE2	16	4					4																	1	
SE3	20	17		3			3		1			2		1											
SE4	17	3					1					1	1											1	
SE5	5	4																							
SE6	7	2																							
SE7	8	4					3																		
SE8	13	6		2			2					1													
SE9	41	6		6		1	10					1													
SE4	2	3		1																					
SE5	11	8																							
SE6	2	3																							
SE7	2																								
SE8	12	6		6																					
SE9	1	1																							
SE14	1	6																							
SE15	4	1																							
SE16	8	9		4			6																	2	
SE17	1	1																							
SE18	4	3																							
SE19	9	1																							
SE20	13	8																							
SE21				2																					
SE22	1	1																							
SE23	1	1																							
SE1	601	52																						2	
SE2	183	31				1																		2	
SE1	300	104																						4	
SE2	654	274	11	1																				2	
SE1	3	1																							
SE2	3	1																							
SE3	1																								
SE1	3	2																							
SE2	0	3																							
その他	46	13		1																					
総量	8,258	2,272	6	184	4	0	8	244	9	15	1	15	29	9	18									169	
総重量	45,583	21,877	108	1,024	355	0	275	2,272	225	534	40	543	1,443	464	136									1,322	
							7,517				574		2,383												

表151 遺物集計表

点、土師質土器皿類184点、その他の土師質土器4点、中世の無軸陶器321点、中世の施軸陶器9点、中国産陶磁器18点、その他近世の陶磁器87点、瓦137点、金属製品98点（鉄製品84点、銅製品14点）、石製品21点、木製品8点、土製品16点、鉄滓149点で、このほかにウマやウシの骨や歯などを主とする動物遺存体、クルミやモモの種子などの自然遺物が出土している。

各種の遺物のうち土器類に限ってみると、縄文1点、弥生1点、古代10,546点（94%）、中世536点（5%）、近世87点で、古代の土器類が圧倒的に多い。中世の土器536点の内訳は、土師質土器皿類184点（34%）、その他の土師質土器4点（0.7%）、無軸陶器321点（60%）、施軸陶器9点（1.7%）、中国産陶磁器18点（3%）で、土師質土器と無軸陶器で中世の遺物の大部分を占めている。無軸陶器321点の内訳は常滑・湿美・東海地方産が277点（86%）、在地産44点（14%）であるが、表下半部に示した重量でみると常滑・湿美・東海地方産が8,346g（78%）、在地産2,383g（22%）である。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(所在地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版	
						口径	口径	高さ			
1	I-1	I, II層	白磁(中国)	陶器蓋	口縁部1/6	(10.7)				301-1	
2	Ia-1	I, II層	土師質土器	小皿	1/2	5.3	3.0	1.4	コクハ周縁、口縁部内外面にケール状の付着物、口縁部ヨコナテ、体部ナデ、内面に体一帯の磨白	301-2	
3	Ia-2	I, II層	土師質土器	漆鉢	体部小片				口縁に緑釉流し、磨白1~2層	301-4	
4	Ia-1	4G・側溝	陶師(黄瀬川)	鉢	体部小片				コクハ周縁・体部外面に志原、比叡田板ヘラ切→チヘラ結着、X、底縁/口縁部、酸化変色地、白付磨目	301-3	
5	E-1	試掘南トレンチ	織布器	環	1/3	13.5	5.9	3.9	外面ヘラクリ→ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、長径短径 白針多量	301-6	
6	C-2	3G・側溝	土師器	鉢	1/4	(23.4)	(10.0)	7.6		301-5	
7	K-2	西砂	石製品	砥石	ほぼ完形	長さ	7.2	2.5~4.7	2.0	デイスait質製砥石、70g	301-7
8	K-1	側溝	石製品	砥石	端部欠損	長さ	8.0+	3.3	2.5	デイスait質製砥石、130g+	301-8
9	Na-12	I, II層	鉄製品	釘	中央部のみ	長さ	4.9+	0.8	0.6	折曲、2g+	301-9
10	Na-11	I, II層	鉄製品	釘	W10	長さ	13.2	0.8	0.6	頸部幅14mm、33g+	301-10

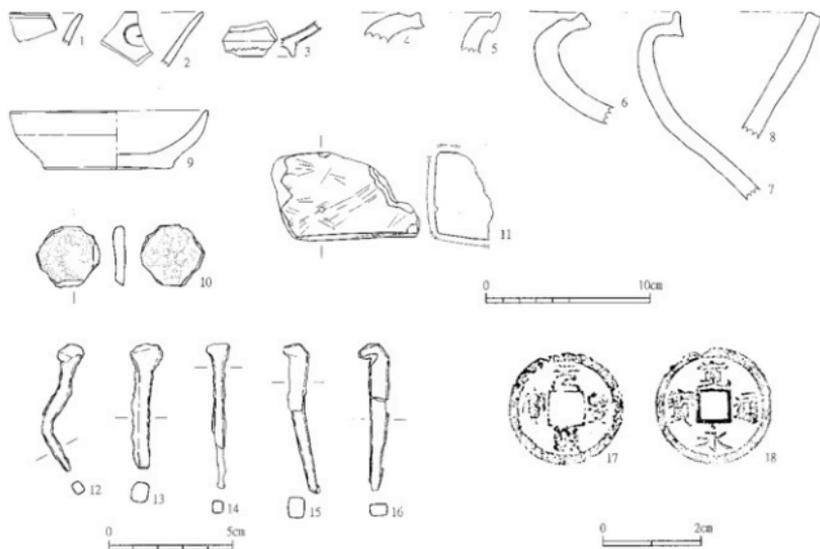
第782図 I・II層、その他の出土遺物

2. 基本層からの出土遺物

表151によると、基本層からの出土遺物は古代の土器類が5,928点、中世の土器類は354点で、古代・中世の上層共に基本層中からの出土数が遺構中からの出土数をわずかに超えている。金属製品なども半数以上が基本層中からの出土である。これらの中で図化できたのは54点である（第782～785図）。

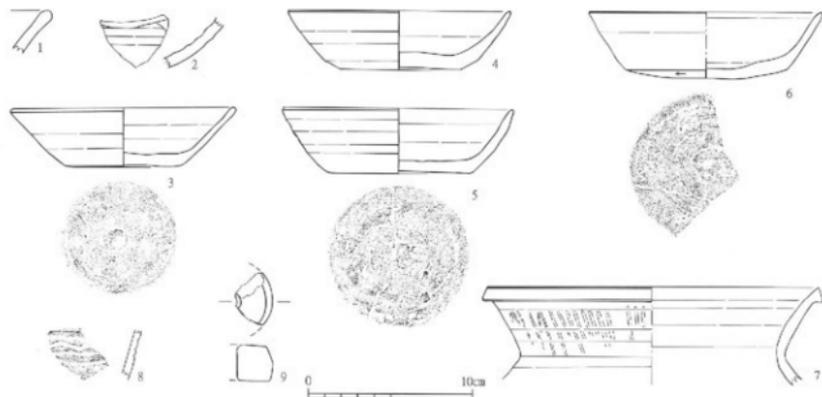
第782図はⅠ～Ⅱ層および側溝中から出土したため正確な出土層位が不明な遺物である。白磁四耳壺、土師質土器小皿、阿波鉢、黄瀬戸甕などの中近世の遺物のほか、土師器・須恵器の坏、磁石、鉄釘土製品などがある。

第783・784図はⅣ層からの出土遺物である。第783図は中国産の磁器（白磁皿、龍泉窯系青磁碗など）、常滑産の



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	J-3	4.5G・Ⅳ層	白磁(中国)	白壳皿	11線部小片					301-11
2	J-5	4.5G・Ⅳ層	青磁(龍泉窯系)	碗	口縁部小片			劃花文		301-12
3	J-4	4.5G・Ⅳ層	青磁(龍泉窯系)	碗	底部小片			高台部の輪を挟っている		301-13
4	Ic-4	2G・Ⅳ層	陶器(常滑)	葉	口縁部小片			ヨコナデ、4型式		301-14
5	Ic-2	5G・Ⅳ層	陶器(常滑)	土師口母章	口縁部小片			ヨコナデ、6型式?		301-15
6	Ic-6	4.5G・Ⅳ層	陶器(常滑)	葉	口縁～体部片			口縁部ヨコナデ、葉ナデ、葉部面に透孔色の非貫通、3型式		301-16
7	Ic-5	5G・Ⅳ層	陶器(常滑)	葉	口縁～体部片			口縁部ヨコナデ、葉ナデ、口縁内面に透孔色の非貫通に貫通、5型式		301-17
8	Ic-8	4G・Ⅳ層	陶器(在地)	片口鉢	口縁～体部片			口縁部ヨコナデ、葉ナデ、葉部面に透孔色の非貫通、5型式		301-18
9	Ic-3D	3G・Ⅳ層	土師質土器	皿	1/4	(12.0)	(7.9)	3.6	白磁片、龍泉窯系、表面の一面にテラコッタの彫刻	301-19
						長さ	幅	厚さ		
10	K-5	5G・Ⅳ層	石製品・円盤	?	?	径3.8		0.7	埋没部が(イイサイト)付着部が溶け化したもの、14g	301-21
11	K-3	2G・Ⅳ層	石製品・磁石	両端部欠損	?	8.4	5.0	3.5	デイスイト質薄灰質、180g+	301-20
12	Na-9	4.5G・Ⅳ層	鉄製品・釘	ほぼ完形	?	5.8	0.4	0.7	部曲、5g	301-22
13	Na-6	4.5G・Ⅳ層	鉄製品・釘	2/3	?	5.2+	0.6	0.6	部曲幅1.3cm、5g+	301-23
14	Na-7	4.5G・Ⅳ層	鉄製品・釘	中央部のみ	?	6.0+	0.4	0.5	4g+	301-24
15	Na-8	4.5G・Ⅳ層	鉄製品・釘	ほぼ完形	?	6.2	0.7	0.9	部曲幅1.1cm、10g	301-25
16	Na-10	4.5G・Ⅳ層	鉄製品・釘	?	?	6.1	0.7	0.6	部曲幅1.0cm、7g+	301-26
17	Nb-7	5G・Ⅳ層	銅製品・銭貨	完形	?	径2.4		重3.1g	元豊通寶(北宋・初鑄1078年)	301-27
18	Nb-8	3G・Ⅳ層	銅製品・銭貨	ほぼ完形	?	径2.4		重2.5g	元豊通寶(古銭複製)	301-28

第783図 Ⅳ層出土遺物(1)

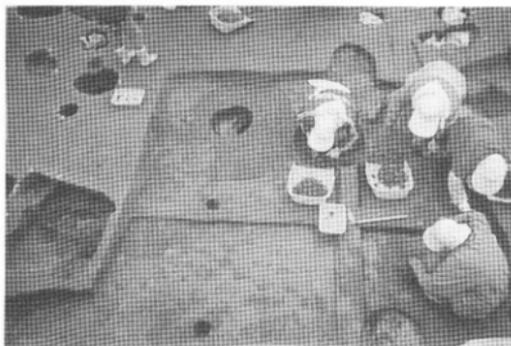


No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存度	法量 (cm)			調整・特徴	写真 図版
						口径	底径	器高		
1	Ic-7	3.4G・V層	陶器(常陸)	片口鉢	口縁部小片				ロクロ調整	302-20
2	J-2	2.3G・V層	白磁(中国)	鉢	体部小片					302-21
3	E-6	2.3G・V層	須恵器	・環	1/5	(13.6)	7.0	3.7	ロクロ調整、底面(鉢ヘラケズリ、裏面/口縁部、白粉塗)	302-16
4	E-16	2.3G・V層	須恵器	・環	1/2	13.5	7.5	3.6	ロクロ調整、底面(鉢ヘラケズリ、裏面/口縁部、酸化炭素焼)	302-14
5	E-9	2.3G・V層	須恵器	・環	1/2	14.1	8.5	4.1	ロクロ調整、底面(鉢ヘラケズリ、裏面/口縁部)	302-13
6	E-22	2.3G・V層	須恵器	・環	1/4	(14.2)	(9.6)	4.1	ロクロ調整、底面(鉢ヘラケズリ、裏面/口縁部、やや酸化炭素焼)	302-12
7	E-4	4G・V層	須恵器	・環	口縁部1/4	(20.8)			平行タタキ、ロクロ調整	303-2
8	B-1	5G・V層	弥生土器	・鉢?	体部小片					303-3
9	P-1	2.3G・V層	土製品	・鉄線車	1/4	径(2.5)	厚2.3	16g+		303-4

第785図 V・VI・VII層出土遺物

甕・壺、在地産の片口鉢、土師質土器皿、砥石、鉄釘、銭貨などである。第784図は土師器と須恵器で、土師器は底部の切り離し後再調整されるものが大部分である。須恵器E-23円面鏡(15)は接合しないが同一個体と考えられる2点を図上復元したもので、長方形のスカシ窓が認められる。

第785図はV・VI・VII層出土の土師器、須恵器、弥生土器、土製品である。須恵器環は底部の切り離し後ヘラケズリ再調整されるものがほとんどで、IV層出土のE-7・8環(第784図11・12)に比べて底径/口径比が大きい。



S11の調査

第6編 第10次発掘調査

第1章 はじめに

第1節 調査方法

第10次発掘調査は県道「泉塩釜線」建設工事に伴うもので、民間の発掘会社に委託して平成15年8月28日～10月15日まで実施された。本編は調査担当会社から当教育委員会に提出された「洞ノ口遺跡発掘調査終了概要報告書」を基に執筆している。

1. 調査区とグリッドの設定

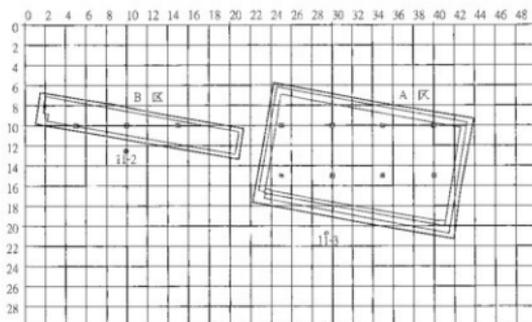
本調査対象区は第4次調査1区と第5次調査区に位置している。これまでの調査結果から主な調査対象を水田遺構と予想したが、この他に第4次調査1区との間に堀跡などの城館に関する遺構が存在する可能性も考えられた。このため、東側に主に水田調査を対象とするA区、第4次調査区に近い西側には掘跡の有無を確認するためのB区を設定した。A区は南北12m×東西20m、B区は東西20m×南北3m、面積は計300㎡である。

グリッドは平面直角座標系Xに合わせて設定した。

2. 調査方法

重機で盛土～2層中まで除去し、精査は2層中から実施した。調査区の周囲には排水を兼ねた土層観察用の側溝を設けている。水田遺構の調査となったA区では7層までの精査を行った。精査においては、各層の精査終了後における耕作土の除去作業が直下層の畦畔の確認作業でもあるため、常に除去作業中の層と直下層の状況を把握しながら慎重に掘り下げを行い、各層の精査を繰り返した。水田跡の調査終了後は下層の状況把握のための部分的な掘り下げを実施している。B区は城館の堀跡などの有無を確認することが主目的であったので3層上面の精査で留め、それより下層の調査は実施しなかった。

遺構の平面図はトータルステーション、断面図はデジタルカメラを使用して作成した。縮尺は、平面図1/40、断面図1/20を基本とした。



第786図 調査区・グリッド設定図

写真は35mmモノクロトリバーサルを一眼レフカメラで撮影し、必要に応じてデジタルカメラを使用している。全体写真については6×7判モノクロトリバーサルで撮影した。

遺物は出土層位を確認しながら地点を記録して取り上げた。

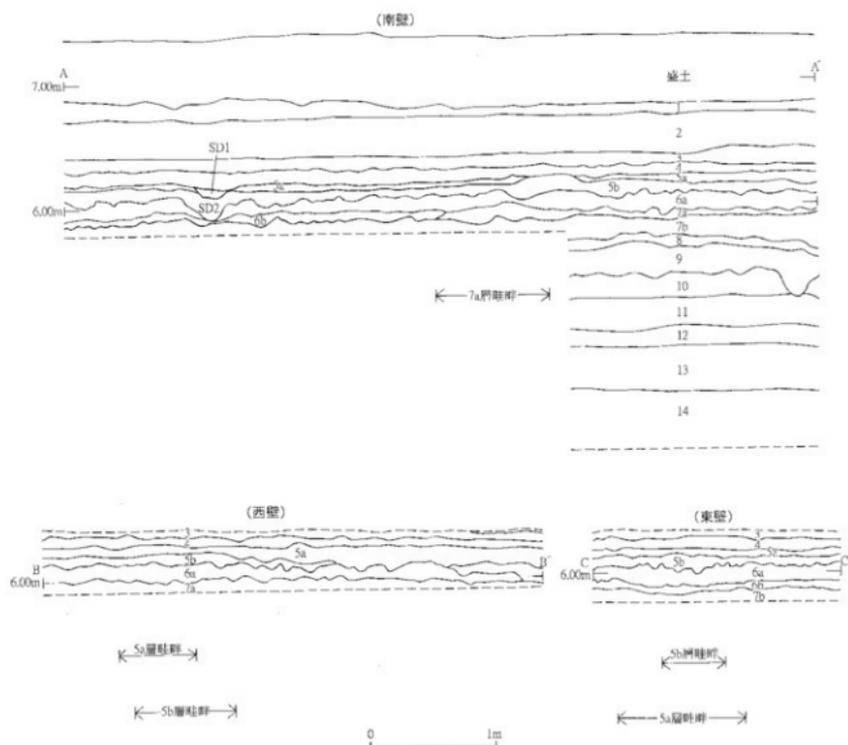
なお、A区ではプラント・オパール分析を実施している（第4分冊Ⅰ-6参照）。

第2節 基本層序

調査区は後背湿地部分に相当する。基本的に第1次調査1～8区や第4次調査1区と共通すると考えられるが、細部に至る対応関係を明らかにすることはできなかった。このため層の名称は本次調査区独自で付けている。

調査区周辺は約50cmの盛土整地がされていたが、以下は次のとおりである。

- 1層 10YR3/2黒褐色粘土。層厚は10～20cmである。盛土以前の現代水田耕作土。
- 2層 10YR5/1褐灰色粘土質シルト。砂粒を微量、炭化物粒を少量含む。層厚は30cmで下面はほぼ平坦である。
- 3層 2.5Y4/1黄灰色シルト質粘土。炭化物粒、マンガング粒、砂粒を少量含む。層厚は10～15cmで下面には緩やかな起伏がある。
- 水田耕作土と考えられ、第1次調査の3a層か3b層に対応すると考えられる。時期は中世後半か近世と推定される。
- 4層 5Y4/1 灰色粘土質シルト。炭化物粒、砂粒を少量含む。層厚は5～15cmで下面には緩やかな起伏がある。
- 水田耕作土であり、第1次調査の4a層か4b層に対応すると考えられる。時期は中世後半と推定される。
- 5a層 5Y3/1 オリーブ黒色シルト質粘土。層厚は5cmで下面には緩やかな起伏がある。
- 水田耕作土であり、第1次調査の4b層か5a層に対応すると考えられる。時期は中世前半と推定される。
- 5b層 5Y2/1黒色粘土。層厚は5～15cmで、下面は凹凸が激しい。
- 水田耕作土であり、第1次調査の5b層に対応する可能性があり、時期は中世前半と推定される。
- 5c層 5Y3/1 オリーブ黒色粘土。暗オリーブ灰色シルトを少量含む。層厚は15～20cmで、A区の北壁際に部分的に分布している。
- 水田耕作土であり、第1次調査の5b層に対応する可能性があり、時期は中世前半と推定される。
- 6a層 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘土。層厚は5～15cmで下面は凹凸が激しい。
- 平安時代後半の水田耕作土と推定され、第1次調査の6a層に対応する可能性がある。
- 6b層 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘土。層厚は5cmで、下面には緩やかな起伏がある。7a層ブロックを少量含む。
- 平安時代後半の水田耕作土と考えられる。
- 7a層 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色粘土。層厚は2～15cmで、下面には緩やかな起伏がある。層上面に灰白色火山灰ブロックを少量乗せる。灰白色火山灰ブロックは層中にも少量認められる。
- 平安時代前半の水田耕作土と推定され、第1次調査の6b層に対応すると考えられる。
- 7b層 N3/1 暗灰色粘土。灰白色火山灰ブロックを少量含むが、これは上層からの躰込みやヒビ割れ等による混入の可能性がある。
- 8層以下はA区における下層の調査区で部分的に確認している。
- 8層 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土。
- 9層 N20黒色粘土。
- 10層 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルト。
- 11層 7.5Y3/2オリーブ黒色シルト質粘土。
- 12層 7.5Y4/1灰色粗砂。
- 13層 7.5Y4/1灰色シルト。



第787図 A区南壁、西壁、東壁断面図
(位置は第788図)

14層 2.5GY3/1 暗オリブ灰色シルト。

第2章 調査結果

A区では4層、5a層、5b層、5c層、7層で畦畔を確認し、6a層上面では段差を確認している。なお、遺構は確認できなかったが3層、6b層も水田耕作土と考えられた。

B区では3層上面で精査を実施したが城館に係わる地帯などの遺構は確認できなかった。3層面は北に向かって緩やかに傾斜していたが、これは自然堤防から後背湿地に移行していく地形を反映していると考えられる。

第1節 4層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 畦畔は直上層である3層下部で確認した。遺存状況はあまり良くなく、畦畔は部分的に確認できたのみである。

(2)耕作土 耕作土4層の厚さは5~15cmである。下面は緩やかな起伏がある。

(3)水田域 水田域は調査区外に広がっているが、具体的な範囲については明確ではない。

2. 遺構の状況

(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られている。規模は下端幅が40~110cmであるが、80cm前後のものが多い。高さは1~6cmである。方向は中央部で確認した東西方向の畦畔1がN-89°-Eで概ね真東西方向であるが、それに「J」字状に交わる南北方向の畦畔3・4は西に11°振れている。規格性は認められない。

(2)水田区画 水田区画は①~⑤まで認められた。方形を基調としているが、規模が判明した区画は少ない。③のように東西長2~3mの小さな区画がある一方で、①・②のように東西長12m以上の区画も認められる。

(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高い西部が6.36m、最も低い南東部が6.27mである。各水田区画内における傾斜は概ね地形の傾きと一致しており、西から東方向を中心としているが、小さな区画③・④については凹凸があるもののほぼ水平である。区画内の比高差は、全体を検出できた区画がないため明確ではないが、⑤以外は概ね5cm以内と考えられる。

3. 出土遺物

耕作土中から土師器2点、須恵器2点、銅製品1点とウマの歯が出土したが、図化できたのは銭貨（大観通寶）1点である（第791図2）。

No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
1	89°E	13.3+	44~80	66~100	2~6	
2	71~90°E	3.5+	60~88	80~110	1~3	やや屈曲
3	11°W	5.2+	32~90	42~110	2~6	畦畔4と連続?
4	1°W	1.8+	30	50~58	1~3	畦畔3と連続?
5	2°W	3.4+	40~60	65~84	4~6	

表152 4層水田跡畦畔計測表

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
①	6.31~6.36	4+	西→東	3.5+	?	12.2+	?	
②	6.32~6.36	4+	西→東	6.2+	?	?	12.4+	
③	6.30~6.34	4+	ほぼ水平	3.2+	4.6+	2.4	?	東西2.4~3.2m
④	6.30~6.34	4+	ほぼ水平	?	3.0+	1.8+	?	
⑤	6.27~6.34	7+	北西→南東	?	4.8+	?	4.6+	

表153 4層水田跡水田区画計測表

第2節 5a層水田跡

1. 水田の概要

- (1)検出・遺存状況 畦畔は直上層である4層下部で確認した。遺存状況は比較的良好である。
 (2)耕作土 耕作上5a層の厚さは5cmである。下は緩やかな起伏がある。
 (3)水田域 水田域は調査区外に広がっているが、具体的な範囲については明確ではない。

2. 遺構の状況

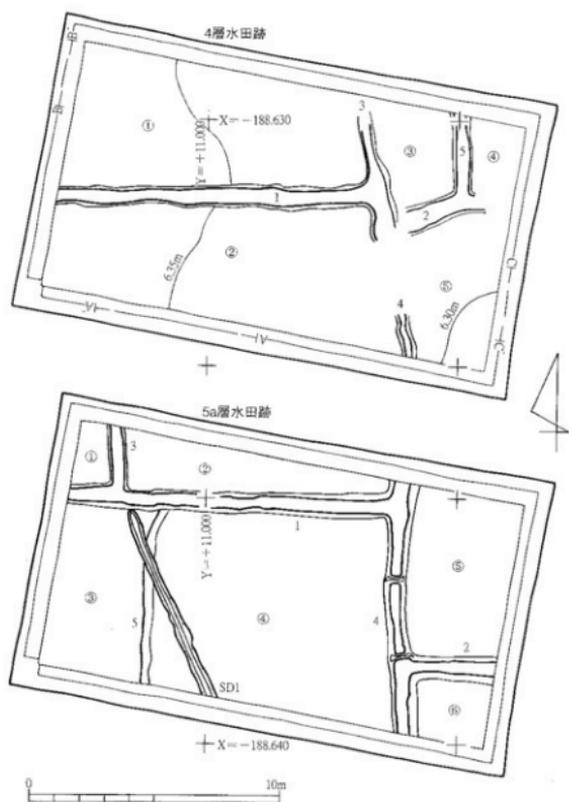
(1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られている。規模は下端幅が50~116cmとややばらつきがあるが、上端幅は50cm前後のものが多い。高さは畦畔2が10cm以上あるが、他は概ね5cm内外のものが多い。方向は東西方向の畦畔1・2がN-88~89°-Eで概ね真東西方向である。南北方向の畦畔は畦畔3のように真北から振れるものや、畦畔4のように若干蛇行するものがあるが、ほぼ真北を基準として考えると考えられる。

(2)水田区画 水田区画は①~⑥まで認められた。方形を基調としており、規模が一部判明した区画②・④は東西長が10m前後である。

(3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高い区画③が6.22m、最も低い区画⑥が6.11mである。各水田区画内における傾斜は概ね地形の傾きと一致しており、西から東方向を中心としている。区画内の比高差は、全体を検出できた区画がないため明確ではないが比較的レベルに近く、概ね5cm以内と考えられる。

(4)水口 畦畔4で2箇所検出している。幅は15~20cm、底面は区画④の水出面よりも2~4cm高い。いずれも区画④と区画⑤を結ぶ給排水用と考えられる。

(5)溝跡 水田面において畦畔3の南側から南東方向に延びるSD1を確認している。幅40



第788図 4層水田跡平面図、5a層水田跡平面図

No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
1	88°W	13.6+	40~64	76~102	4~8	
2	89°W	3.6+	36~56	90~116	2~13	
3	5°W	2.6+	49~50	65~70	5	
4	5°E~4°W	10.2+	50	50~58	1~3	やや斜行、水口箇所
5	2°E	7.0+	—	—	3~6	段差

表154 5a層水田跡畦畔計測表

No.	標高(m)	北端広さ(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
①	6.16	?	?	2.3	?	1.5	?	
②	6.16~6.17	1+	西→東	0.5	2.4+	10.4	?	東西10.4m
③	6.20~6.22	2+	ほぼ水平	7.0	?	?	?	3.6+
④	6.13~6.17	4+	西西→北東	8.7	7.0+	?	?	東西9.2m
⑤	6.12~6.14	2+	ほぼ水平	?	6.8+	3.4	?	
⑥	6.11~6.13	2+	?	?	2.2+	?	3.0+	

表155 5a層水田跡水田区画計測表

～60cm、深さ4～10cm、断面形は上部が開く浅い「U」字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は5a層に類似した粘土に褐灰色粘土ブロックが混じる。方向はN-24°-Wである。南北方向の段差を切っているように認められたが、6層上面で確認されたSD2と全く同位置にあることから、何らかの理由で下層のSD2の部分が埋んだ痕跡である可能性が高い。

3. 出土遺物

耕作土中から土師器4点、須恵器4点、常滑産の甕2点が出土した。図化できたのは常滑産の甕1点である（第7919図1）。

第3節 5b層水田跡

1. 水田の概要

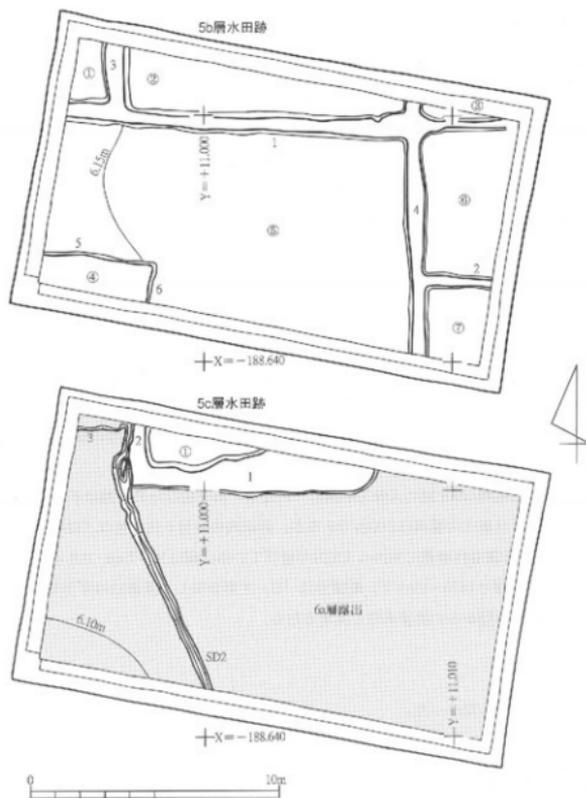
- (1)検出・遺存状況 畦畔は直上層である5a層下部で確認した。遺存状況は比較的良好である。
 (2)耕作土 耕作土5b層の厚さは5～15cmである。下面は凹凸が激しく、直下層を巻き上げている。
 (3)水田域 水田域は調査区外に広がっているが、具体的な範囲については明確ではない。

2. 遺構の状況

- (1)畦畔 畦畔は耕作土を盛り上げて造られている。規模は下端幅が45～120cm、上端幅は60cm前後である。高さは5cm内外のものが多い。方向は東西・南北方向の畦畔ともに概ね真北を基準としている。南西部では「L」字状に屈曲する段差を確認したが、調査区南壁の断面ではこの位置に畦畔状の盛り上がりが見られるので本来は畦畔があった可能性が高い。
 (2)水田区画 水田区画は①～⑦まで認められた。方形を基調としており、規模が一部判明した区画②は東西長が11m、⑥の南北長が5.9mである。
 (3)水田面の標高と傾斜 最も標高が高い区画④が6.20m、最も低い区画③が6.11mである。各水田区画内における傾斜は概ね地形の傾きと一致しており、西から東方向を中心としている。区画内の比高差は、⑤以外は比較的水平和に近く、概ね5cm以内と考えられる。

3. 出土遺物

耕作土中から土師器片1点が出土したが、図化はできなかった。



第789図 5b層水田跡平面図、5c層水田跡平面図

No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
1	86°W~89°E	17.8+	40~100	70~120	1~6	やや狭行
2	88°W	2.6+	30~44	45~62	1~2	
3	1°W	2.8+	58~80	95~120	5~6	
4	NS	10.2+	50~76	70~90	1~4	
5	85°W	4.4+	—	—	5	段差
6	11°E	1.6+	—	—	5	段差

表156 5b層水田跡畦畔計測表

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	規模・その他
①	6.08~6.11	3+	?	2.3+	?	1.5+	?	
②	6.09~6.11	2+	西→東	0.5+	2.5+	11.0	?	東西11.0m
③	6.11	?	?	?	0.4+	2.8+	?	部分的に検出
④	6.19~6.20	1+	?	1.6+	?	?	?	
⑤	6.11~6.17	6+	西→東	8.6+	?	?	13.7+	分割される?
⑥	6.10~6.13	3+	?	?	5.6	3.7+	3.5+	南北5.9m
⑦	6.10~6.12	2+	?	?	2.7+	?	2.5+	

表157 5b層水田跡水田区画計測表

第4節 5c層水田跡

1. 水田の概要

- (1) 検出・遺存状況 畦畔は直上層である5b層下部で確認した。畦畔は部分的であるが、遺存状況は比較的良好である。
- (2) 耕作土 耕作土5c層は調査区北部で部分的に確認されたのみである。厚さは15～20cmである。下面は凹凸が激しく、直下層を巻き上げている。なお、5c層が分布しない箇所は6e層が露出している。
- (3) 水田域 水田域は調査区北部から調査区外の北側に広がっていると推定されるが、部分的に確認できたのみであるため不明な点が多い。

2. 遺構の状況

- (1) 畦畔 調査区の北壁際で「コ」字状に屈曲する畦畔を確認した。耕作土を盛り上げて造られている。東西方向の畦畔1の規模が大きく、上端幅60～150cm、下端幅110～170cm、高さ3～11cmで、南北方向の畦畔2は上端幅50～70cm、下端幅80～100cm、高さ8cmである。なお、南北方向の畦畔2の西側には東西方向の段差が四方に延びている。高さは7cmである。方向は確認できた長さが短いため明確ではないが、東西・南北方向の畦畔ともに概ね真北を基準としている。
- (2) 水田区画 水田区画は畦畔1の北側に区画①が認められたが、部分的なため詳細は不明である。
- (3) 水田面の標高と傾斜 区画①の標高は6.00mであるが、区画内の傾斜や比高差などは明確ではない。
- (4) 溝跡 畦畔2の西側から調査区南壁に向かってSD2が延びている。幅は50～70cmであるが、畦畔2の西側が約30cmでやや狭くなっている。深さは10～15cmで、断面形は「U」字形を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は直上の5b層である。溝の性格は南側からの給排水用と推定される。

3. 出土遺物

耕作土中から遺物は出土しなかった。

第5節 6a層水田跡

1. 水田の概要

- (1) 検出・遺存状況 畦畔は確認できなかったが、調査区北壁際に段差を確認した。水田面の遺存状況は比較的良好である。
- (2) 耕作土 耕作土6a層の厚さは5～15cmである。下面は凹凸が激しく、直下層を巻き上げている。
- (3) 水田域 水田域は調査区外に広がっているが、具体的な範囲については明確ではない。

2. 遺構の状況

- (1) 段差 北壁際の西側と東側の2箇所を確認した。西側の段差は高さ約10cmで「L」字状に屈曲するが、東側の段差は部分的なもので詳細は不明である。方向は、西側の段差の東西部分ではほぼ真東方向である。
- (2) 水田区画 畦畔を確認できなかったため、水田区画については不明である。
- (3) 水田面の標高と傾斜 最も標高が高い箇所は調査区南西部で6.10m、最も低い箇所が西側段差の下の5.99mであるが、水田区画内における傾斜や区画内の比高差は不明である。

(4)土坑 調査区西部で小規模な土坑3基を確認している。径50～95cmの楕円形で、深さは北側の2基が約7cmであるが、南側の1基は底面がピット状に窪んでおり、約30cmと深い。なお、性格を明らかにすることはできなかった。

3. 出土遺物

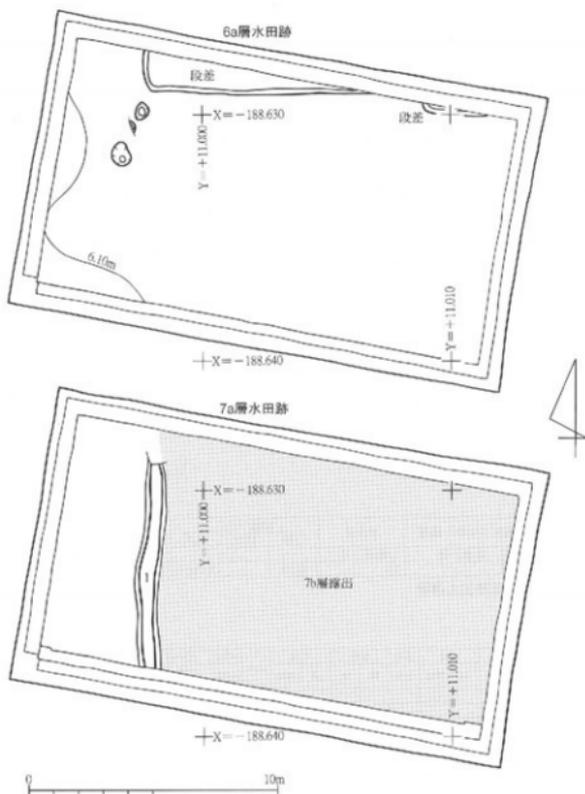
耕作土中から土師器片1点が出土したが、図化はできなかった。

第6節 7a層水田跡

1. 水田の概要

(1)検出・遺存状況 畦畔は直上層である6a層下部で確認した。遺存状況はあまりよくない。

(2)耕作土 耕作土7a層は調査区の西部で確認された畦畔の西側にもみ分布している。厚さは2～15cmで、下面には緩



第790図 6a層水田跡平面図、7a層水田跡平面図

やかな起伏がある。上面には灰白色火山灰ブロックが認められるが、火山灰は層中にも少量認められる。

(3)水田域 水田域は調査区西部から西側に広がっているが、具体的な範囲については明確ではない。

2. 遺構の状況

(1)畦畔 南北方向の畦畔1を確認した。耕作土を盛り上げて造られている。規模は下端幅80～95cm、上端幅40～50cm、高さ3～5cmである。方向はN-2°-Eで真北からやや東に振れているが、やや蛇行しているので明確ではない。

(2)水田区画 水田区画は畦畔1の西側に存在するのみであるが、詳細は不明である。なお、畦畔1の東側には耕作土7a層は認められず、6b層下には7b層が分布していた。東側に本来7a層が分布していなかった可能性はあるが、7a層の代わりに6b層が分布していることからすると、7a層は6b層の耕作によって攪拌された結果、失われてしまった可能性が高いと考えられる。

(3)水田面の標高と傾斜 詳細は不明であるが、標高は5.96m前後で田面はほぼ平坦である。

3. 出土遺物

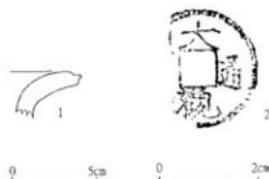
耕作土中から遺物は出土しなかった。

第7節 全体の出土遺物と基本層からの出土遺物

ここでは調査区全体にかかわる遺物の出土状況について触れる。なお、出土遺物の層位・遺構別の集計表は表158である。

調査区全体の遺物数は表によると、土師器30点、須恵器6点、土師質土器血頭1点、中世の無釉陶器5点、金属製品1点（銅製品）、土製品2点、鉄滓1点である。

各種の遺物のうち土器類に限ってみると、古代36点（86%）、中世6点（14%）で、古代の遺物が大部分である。これは他の調査区でも同様であるが、今回の第10次調査における遺物の総数が極端に少ないため、他の調査との細かな比較はできない。なお、中世の土器類は6点のうち5点は常滑産の甕であった。



No.	登録No.	地区・遺構・層位	種別(産地)	器種	遺存状況	法量 (cm)			調整・特徴	写真図版
						口径	底径	器高		
1	Ic-1	A-5a層水田跡	陶器(常滑)	甕	口縁部小片				3コナデ、3型式?	310-1
2	Nb-1	A-4層水田跡	鉄滓		2/3	径2.4		径1.6+	大塚通寶(北条・初建1307年)	310-2

第791図 4層水田跡、5a層水田跡出土遺物

層位・遺構	土師器	須恵器	土師質土器		瓦	銅器	鉄器	金銀	金箔	金	銀	鉛	その他	その他	瓦	金属製品	石製品	木製品	土製品	鉄滓	その他		
			血頭	血頭																		血頭	血頭
2層	17																						
3層	1																						
4層	2	2																					高の土 器の遺
5a層	4	4																					
5b層	1																						
5c層	2																						
5d層	4																						
総数	30	6	1			4			1						1					2	1		
総重量	325	72	1			163																	153

表158 遺物集計表

第7編 総括

第1章 出土遺物

本書において記載した遺構と遺物は縄文時代～近世にまで及んでいる。遺構数や種類が多いのは中世で、遺物も多様に富んでいる。一方、遺物の数量が最も多いのは古代であるが、古代の遺構の大部分は溝跡と如跡下面の小溝状遺構群であった。ここでは主に中世の遺構と遺物についてまとめてみたい。

すべての調査区における出土遺物の集計は表140（第2分冊185項）で示した。ここでは表140によって出土遺物の全体的な様相について触れておく。

計測対象とした遺物の総数は95,128点である。内訳は縄文土器1点、弥生土器32点、土師器46,920点、須恵器17,153点、灰釉陶器1点、緑釉陶器1点、赤土器306点、土師質土器皿類9,293点、その他の土師質土器500点、瓦質土器209点、中世の無釉陶器11,761点（註1）、中世の施釉陶器494点、中国産陶磁器712点、その他近世の陶磁器507点、瓦636点、金属製品2,093点（鉄製品1,644点、銅製品49点）、石製品314点、木製品1,184点、土製品291点、鉄滓2,738点である。この他、表140では割愛したが、各調査区の遺物集計表で示したように、人骨、ウマやウシの骨や歯などを主とする動物遺存体、クルミやモモの種子などの自然遺物も多数出土している。次に、各種の遺物の概要について述べる。

1. 土師質土器

土師質土器の出上総数は9,793点で、中世の上器類の43%を占めている。このうち皿類（皿と小皿）が9,293点、その他が500点ある。小破片から器種を特定するのは困難なため、皿と小皿の場合は「皿類」として集計した。なお、この皿類の分布にはかなりの偏りが認められる。出上総数は9,293点で、中世の上器類22,973点の40%を占めている。しかし、このうちの5,433点が第2次調査で出上しており、仮に第2次調査における出上点数を除いた場合、土師質土器皿類は3,860点となり、中世の土器類の比率は40%から17%に減少する。このように、上器類の比率は調査区の位置によって大きく左右されるため、土師質土器に限らず今後のデータの蓄積がより重要となろう。

皿類 皿類で図化できたのは218点あるが、確実に遺構に伴うものが少ないため個々についての詳細な検討は行わず、遺構からある程度まとめて出土しているものや特殊なものについてのみ触れることとする。

『2次SK75出土土器-IVb1-A期』

第2次調査区SB48のすぐ北側にあるSK75には土師質土器皿・小皿が大量に廃棄されていた。皿と小皿はそれぞれが規格化された製作技法で作られており、皿は手づくねで口径11.8～12.8cm、底径6.3～8.0cm、器高2.4～3.4cmである。小皿はロクロ調整で口径8.0～9.0cm、底径5.1～7.0cm、器高1.1～1.8cm、底部の切離し技法は静止糸切りである（第664・665図、註2）。

この手づくね皿とロクロ調整小皿は、形態・法量・調整技法が全く同じものが多賀城市新田遺跡第11次調査SD1200から出土しており（註3）、手づくね皿の年代は13世紀～14世紀前半とされている。また、数は少なく成作技法がやや異なるが（註4）、仙台市山口遺跡第10次調査SE3からも同様のセットが出土し、12世紀末～13世紀初頭と考えられている。

手づくねの皿は所謂「京都系かわらけ」で県内でも複数の出土例があり、中でも12世紀代のは奥州藤原氏との密接な関連性が考えられ、その分布が藤原氏の直接支配地域を示す可能性も指摘されている（註5）。平泉における手づくね皿は、導入された12世紀中葉頃は口径15～16cmであったがそれ以降は小型化が進み、1180年代の平泉終末期頃は口径12～13cm 台にまで縮小するとされている（註6）。県内の場合も12世紀代と考えられている千

づくね皿（大皿）の口径が14～16cmと大きいのに対して、これより新しい時期には大皿は認められないことから、大皿は平泉と同様に縮小化していきと考えられる。SK75や新出遺跡SD1200から出土した手づくね皿は口径が平泉終末期頃のものと同様で、なおかつ器形は平泉のものとは異なっている（註7）ことから、奥州藤原氏との密接な関連性が考えられている手づくね大皿とは違い、奥州藤原氏が滅亡した12世紀末直後に出現するタイプと予想される。一方のクロク調整の小皿も厚手であることから中世前半の特徴を示している（註8）。県内では上記の新出遺跡、山口遺跡の他に多賀城跡第43次調査SK1373から同様の器形の小皿が5型式と考えられる常滑産と共に出七している。

以上のようなことから、SK75出土の手づくね皿とクロク調整小皿は、概ね12世紀末～13世紀前半頃に位置づけられると考えられる。

なお、SK75は全体の4割程度を別の遺構によって切られており、出土した約130点の破片から復元・図化できたのは皿14点、小皿59点であるが、遺構の残存状況と周辺から同様の遺物が出土していることなどの点から、本来SK75に廃棄されていた数を皿20、小皿80と推定している（第2分冊267項）。これらの土師質土器が使用された状況は不明であるが、一括廃棄されている状況からすると「宴会儀礼」で使用されたものが廃棄された可能性が高いと考えられる（註9）。

『1次10C-SD15出土土器-IVa1期』

第1次調査10C-SD15からは他の土師質土器と異なる様相のIa-25碗（第264図19）が出土している。復元口径22.8cmと大型で、胎土は精良で灰白色を呈している。体部～底部外面には指による押さえの圧痕が密に認められるのに対して、内面には指の圧痕が認められず平滑な仕上げとなっているので、型押し成型の可能性もある。特徴から中世後半の京都系の白色系土器であると推定される。14世紀後半以降の白色系土器は大型化するとともに、器形も体部内湾から大きく外傾する皿型へ変化するとされている（註10）。Ia-25碗は15世紀後葉に皿型になる以前の段階であり、概ね15世紀前半頃の所産と考えられる。

『1次5B-SK3出土土器-IVa2期』

第1次調査5B-SK3からは体部に花、見込みに柵で囲われた樹木の墨絵が描かれた土師質土器Ia-1小皿（第103図3）が出土している。5B-SK3の時期は、4b層水田跡の上面から掘りこまれた土坑であることや、4b層水田跡と城館との関係から、概ね城館のIVa1・2期を中心としIVa3期の初期も含めた時期と推定される（註11）。

その他の土師質土器 皿・小皿以外の500点については器種の特定が困難であったが、図化できた14点について見ると、食膳具や調理具が碗3、播鉢5、鍋1（4次Ia-3、第715図2、註12）とやや多く、この他に茶器として風炉（1次Ia-90・第611図13）、照明具として燈籠（1次Ia-79・第592図16）などがある（註13）。また、用途不明であるが1次Ia-35（第417図23）のように内部に仕切壁のようなものが取り付けられた特異なものも認められる。他の2点はとりべである。

2. 瓦質土器

瓦質土器の出土総数は209点で、中世の土器類の中の比率は約1%である。図化できた55点の種別は瓦器壘1、瓦器皿3、播鉢・鉢30、内耳鍋1、火鉢15、香炉3、蓋2となっており、調理具が最も多く、暖房具がそれに次ぐ数量となっている。

瓦器壘・皿 内外面がヘラミガキ処理された土器は、他と区別するために瓦器として分類している。壘1点（1次Ib-14・第243図4）と皿3点（1次Ib-4・5・31、第114図7・8、第402図4）があり、Ib-31は口径12.4cmに復元できた。

播鉢・鉢 口縁部が図化できたものを見ると、16点のうち15点は強く外に張り出す形態で、1点のみ（1次Ib-29、第402図5）が口縁端部が方形で張り出しを持たない形態である（註14）。

内耳編 1次Ib-SD8から1点のみが出土している(1次Ib-19、第282図1)。内耳が水平方向に取り付けられ、吊り下げ用の孔が上下方向に2箇所開けられている形態である(註15)。

火鉢 16点が図化できた。遺構から出土したもののうちIva1・2期のものは1次10C-SE3から出土したIb-10(第278図1)のみで、他はすべてIva3・4期の遺構からの出土である。Ib-10は口縁部外面に2条の凸帯を巡らし、その間に3列の菱形スタンプが施されている。

箱状の器形を有するのは1次Ib-25・43・45(第418図2、第423図1、第434図5)の3点で、いずれも1次11D~11E期のIva3・4期の遺構から出土している。3点ともに口縁部外面に2条の凸帯を巡らし、その間に連続する雷文スタンプが施されているなど極めて類似した作りとなっている。

4次Ib-1(第683図2)は箱型ではないが、上記の3点と同様に2条の凸帯間に雷文スタンプを巡らせている。1次Ib-21・50(第353図18、第345図27)は雷文スタンプ2列で、Ib-50は内面に円形貼付文が施されている。1次Ib-23・44(第353図19、第435図1)は複数列の亀甲文、1次Ib-24(第416図2)は雷文と菱形文の組み合わせ、1次Ib-7・26(第341図25、第416図1)は菊花文と円形貼付文との組み合わせとなっている。なお、底部は3点確認されている(1次Ib-22・27・49、第353図20・第410図9・第100図25)。

香炉 3点図化できた。器形が判るのは1次Ib-11(第246図2)で、古瀬戸中期の袴腰形香炉を模した器形である。他の2点(1次Ib-34・4次Ib-7、第400図3・738図21)も同様の器形と推定され、Ib-34には丁寧な装飾が施されている。

3. 無釉陶器

無釉陶器の出土総数は11,761点で、中世の土器類の中の比率は51%である。内訳は常滑・渥美・東海地方産が7,779点(66%) (註16)、在地産3,973点(34%)、産地不明9点で、在地産が常滑・渥美・東海地方産の約半分の数量しかないが、表140下半部に示した重量でみると常滑・渥美・東海地方産が345,119g(59%)、在地産238,952g(41%)となる。表159は常滑・渥美・東海地方産と在地産の11,751点について器種別に表140から抜き出したもので、上段は点数、下段は重量を示している。重量を器種別に計測できなかったが、用途別の破片数では、常滑・渥美・東海地方産と在地産共に調理具の鉢は貯蔵具の壺・甕類の約1/10であり、産地による比率の違いは認められない。

図化できたのは常滑・渥美・東海地方産が約420点、在地産が155点である。このうち編年がほぼ確立している常滑産の口縁部が約180点あり、内訳はIb型式1点、2型式5点、3型式1点、4型式17点、5型式59点、6a型式59点、6b型式16点、7型式10点、8型式10点、9型式3点、10型式2点である。圧倒的に多いのが13世紀中葉を中心とする5~6a型式で、その次にはその前後の時期がやや多く、15世紀以降の9~10型式は少ない。12世紀の製品も少数だが出土している。Ib型式と考えられるのは第1次調査SD1005から出土したIc-262広口壺(第250図5)で、肩部に凸帯が巡っている。2~3型式のものは第1次調査9区SD1001のIc-23・24(第111図4・8)、9B区5a層のIc-87(第176図7)、10B区SD6のIc-205(第313図3)、11A区基本層のIc-430(第591図6)が出土しているほか、三筋壺が9A区SD1001から2点出土している(Ic-47・58、第111図35・36)。なお、出土した破片の中には、割れ口に漆による補修痕跡が認められるものも少なからず存在する。Ic-407常滑産壺(第388図7)は割れ口を漆で接合すると共に、割れ口の内外面には幅1.5cm前後の布を漆で貼り付けて補強している特殊な例である。

渥美産壺・甕は454点出土しているが、1次Ic-82(第112図11)、Ic-257(第243図2)のような袈裟模文やIc-174(第345図17)、Ic-548(第591図21)のように劃花文や籐葉状の文様がヘラ描きされる製品も少量ながら含まれている。

在地産無釉陶器は概ね13世紀後半~14世紀前半頃に位置付けられている。出土した4,000点近い破片は胎上や焼成具合によって数種類に分類することが可能であったが、産地を特定できたのは白石古窯跡群の一部と八郎窯跡群の一部のみであり、具体的な産地が不明なまま残ったものが多い。なお八郎産と推定できたものはIc-268(第238図10)、Ic-298(第438図1)の2点のみであるが、体部の破片は識別できなかったため(註17)、全体の数量は不明であ

る。

なお、在地産の甕も割れ口を漆によって補修したものが認められることから（1次1c505、第460図4など）、破損した場合でもすぐに廃棄せず、補修して長期間使用することが一般的であったと考えられる。1次11A-SF7からは在地産の片口鉢（掛鉢）と常滑産10型式の甕、1次11B-SE2からは在地産の甕と常滑産8型式・10型式の甕が出土しているが（第453・460図）、これらは13世紀後半～14世紀前半に作られた在地産の製品が15世紀後半まで使い続けられていた事例といえよう。

常滑・瀬戸・東海地方産		在地産	
片口鉢	甕・壺	片口鉢	甕・壺
651点 (5.5%)	7,127点 (60.6%)	379点 (3.2%)	3,594点 (30.6%)
345,119g (59.1%)		238,952g (40.9%)	

表159 無釉陶器の産地別点数と重量

4. 施釉陶器

中世の瀬戸・美濃製品は494点で、中世の土器類中の比率は2%である。このうち図化できた109点を時期別・器種別に示したのが表160である。

前期の出土量は少ないが、中Ⅰ～Ⅱ期になると急増し、種類も多く認められる。最も数が多いのが折縁深皿で、次に四耳壺・梅瓶・仏花瓶などの壺・瓶類、その次に卮皿などの皿類となっている。中Ⅱ期になると折縁深皿のみとなって数もやや減少し、中Ⅳ期には数量・種類ともに一時激減する。後期になると再び増加し、天目・袴形香炉・尊式花瓶など種別も多い。梅瓶は中期に続いて認められる。大塚期になると再び数量が減少し、器種の大部分が皿類となる。なお、表には載せなかったがこの傾向は登空期にも継続している。

時期	器種	
前Ⅱ	木注1	卮皿1
前Ⅱ～中Ⅱ	入子1	
前Ⅲ	瓶子か梅瓶1	
前Ⅲ～Ⅳ	小壺1	
前Ⅲ～中Ⅲ	入子1	
前Ⅳ?		
中Ⅰ	木注1	折縁深皿1 海皿1
中Ⅰ	仏花瓶1 瓶子1 合子1	掛鉢4 梅瓶4
中Ⅰ～Ⅱ	四耳壺1 梅瓶3 仏花瓶6	折縁深皿2 柄付片口1 底卮皿1 卮皿3 折縁小皿1
中Ⅱ		折縁深皿1 底卮皿1
中Ⅱ～Ⅲ	梅瓶4	
中Ⅲ		折縁深皿7
中Ⅳ		折縁深皿3
後・後?		
後Ⅰ	天目1 袴形香炉1	直縁大皿1 平碗3 卮皿1 小皿1
後Ⅰ～Ⅱ		盤類1 中皿1 卮皿1 膳類小皿1
後Ⅱ	大目1	平碗3 緑地小皿1
後Ⅱ～Ⅲ	梅瓶1 袴形香炉1	盤類1
後Ⅲ	梅瓶1 尊式花瓶1 天目1 直縁大皿1 卮皿付大皿1	平碗2 緑地小皿2
大塚	大目1	
大塚1～2		福反皿か丸皿1 丸皿1
大塚2		丸皿1
大塚2～3		丸皿2
大塚3		輪花椀皿1 丸皿1
大塚3?		端反皿1
大塚3～4	筒型香炉1	
大塚4		輪花丸皿1 折縁皿1

表160 図化できた瀬戸・美濃製品の時期別一覧

5. 中国産陶磁器

中国産輸入陶磁器は712点で、中世の土器類中の比率は3%である。表140にはスペースの関係でその内訳を掲載することができなかったで表161で示した。青磁の大部分は龍泉窯系青磁であるが、わずかながら同安窯系の可能性のあるものが確認されている（J-1・154・159、第100図17・353図3・341図19）。図化できたのは237点で、内訳は青磁148点、白磁65点、青白磁10点、青花7点、施釉陶器7点で、それぞれ出土数の約1/3となっている。

図化できた237点を器種別に集計したのが表162である。最も多いのが日常雑器である青磁や白磁の碗・皿類で、次に白磁や青白磁の壺・瓶類が多く、これに加えて少数ながらも青磁の鉢や盤類、白磁の合子、天目茶碗、緑地や

三彩の盤などが認められる。

輸入陶磁器については「威信財」としての機能を持つことが指摘されている(註18)。表162では上部にある器種がそれに相当すると考えられ、重複するが以下に示す。

	青磁	白磁	青白磁	青花	施釉陶器
1次 1~8区	20	3	2	2	0
1次 9区	62	26	10	2	1
1次 10区	119	45	12	2	8
1次 11区	171	67	12	2	5
2次	66	24	0	1	0
4次	19	7	0	4	0
5次	9	1	0	0	0
7次	4	8	1	5	0
10次	1	0	0	0	0
計	492	181	37	18	14

表161 中国産輸入陶磁器の内訳

青磁 牡丹唐草文深鉢(J-48、第348

図17)、算木文香炉(J-182、第383図7)、壺(J-77、第282図3)、盤(J-92、第410図8)。

白磁 梅瓶?(2次J-19、669図23)、四耳壺(J-23・33・67・91・120・2次J-12・4次J-12・7次J-1、第113図36・341図22・238図13・410図7・375図4・631図2・740図11・782図1)、壺(J-74・112・2次J-18、第250図12・614図35・668図15)、合子(2次J-1・20、669図21・22)、盤?(J-28・7次J-7、第113図37・763図2)。

青白磁 梅瓶(J-14・44・128、第113図34・345図26・592図34)、合子(J-81・98・170、第353図6・606図17・592図33)。

施釉陶器 天目茶碗(Ic-139・317・388、第341図20・606図18・400図2)、小壺(Ic-506、第113図38)、三彩盤(Ic-362・371、614図37・375図5)、緑釉盤(Ic-140、第341図21)。

数量の多い青磁・白磁の碗・皿類の中でも最も多いのが13世紀以降に位置づけられている青磁蓮弁文碗である。62点が図化できたが、このうち蓮弁に軸を持つものが約1/3認められる。12世紀後半頃に位置づけられる青磁劃花文碗は21点図化できたが、外面に蓮弁、内面に劃花文が施された碗も2点ある(J-99・168、第606図7・592図25)。無文あるいは小片のため文様が確認できない碗も28点ある。なお、これらの碗類の中では軸が厚くかけられた13世紀後半頃と推定される蓮弁文碗が全体の約1/3を占めている。一方、軸が薄く、疊付きの幅がやや広い14世紀以降と考えられるものもあるが数は少ない。口縁部に雷文帯をもつ14世紀中葉~15世紀と推定される青磁碗も2点(J-58・64、第270図7・250図9)のみである。白磁の碗・皿類では、碗が4点と少ないが、12世紀に比定される玉縁口縁のJ-112碗(第614図35)が1点出土している。口壳皿は18点と多いが、口壳の碗か皿か特定できないものも11点あるので、口壳皿の比率は本来はさらに高いと考えられる。

以上のように、白磁四耳壺、白磁合子、青白磁合子の中には12世紀に遡るものがある他、青磁劃花文碗も一定量出土しているなど、12世紀後半代の遺物はある程度の数量が認められる。種類・数量共に増加するのは13

青磁	白磁	青白磁	青花	施釉陶器
牡丹唐草文深鉢	1 梅瓶?	1 梅瓶	3 合子	天目茶碗
算木文香炉	1 四耳壺(※1)	6 合子	3	小壺
壺	1 壺	2		三彩盤
盤	1 水注	1		緑釉盤
鉢	2 合子	2		
瓶小鉢	2 鉢	2		
蓮弁文碗	62 劃花文鉢	1	蓮弁文碗	1 碗
劃花文碗	21 鉢	2		2 碗反皿
蓮弁・劃花文碗	2 小杯(※2)	2		4 皿(※3)
輪花碗	1 壺	3		
雷文帯碗	2 碗	4		
碗	28 碗小皿	1		
同安窯系(?)藤目文碗	2 口壳皿	18		
蓮弁文折縁皿	5 口壳碗小皿	11		
折縁皿	6 皿	5		
蓮弁文蓮反皿	3 皿?	1		
蓮弁文盤	1			
劃花文樓花皿	1			
同安窯系(?)藤目文皿	1			
皿	4			
器種不明	1 器種不明	3 器種不明	3	

表162 図化できた中国産輸入陶磁器一覧

(※1) 四耳壺? 1を含む (※2) 小杯? 1を含む (※3) 皿? 1を含む

世紀に入ってからと推定されるが、釉が厚くかけられた青磁蓮弁文碗や蓮弁文折鉢皿、白磁口壳皿など13世紀中頃に出現する器種が数量的には最も多い。一方で青磁雷文帯碗や青花皿など14世紀後半～16世紀の遺物は極めて少ないことから、中国産陶磁器は14世紀に入ると次第に減少し、14世紀後半には激減すると考えられる。なお、この中国産陶磁器が減少していく時期は、古瀬戸の出土量が急増する中Ⅰ～Ⅱ期とほぼ一致している。

6. 瓦

636点出土しているが、大部分は古代の瓦であり、中世の瓦は9A区SD1001、10C区SD1003、11B区IV層などから出土した5点のみである（F1～3・6・9、第115図8・10・9・229図7・600図14）。F-6鬼瓦は大部分が剥落しているが周縁部の連続する押印文（珠文）が、東光寺跡出土例（註19）と類似している。

7. 金属製品

鉄製品1,644点（註20）、銅製品449点、鉛製品1点が出土した。錆化のため遺存状況が悪いものが多く、図化できたのは鉄製品634点、銅製品307点、鉛製品1点である。これらを用途別に分類したのが表163で、近世の遺物については（※）で示した。なお、古代の遺物が含まれている可能性もあるが特定はできなかった。

日用品では銭貨が最も多く出土している。表164は図化できたものを近世も含めて種類別に示したものである。模範銭については、文字が不鮮明で裏面が平滑なものがその可能性があると考えられ（註21）、開元通寶、皇宋通寶、嘉祐通寶、元祐通寶、聖宋元寶、熙寧元寶の計13点を抽出したが、個々の遺存状態が違いため確定できるものは少ない。なお、第2次調査区の元祐通寶Nb-14（第676図10）と模範銭と推定されるNb-23（第676図13）については成分分析を実施している。銭貨の他には1次調査10C区から出土したNb-77擬漢式鏡（第349図19）が注目される。

鉄製品では刀子が多く出土している。完形品は1点のみで（1次Na-252、第461図3）、茎から刀身基部にかけて布が巻きつけられている。鉄鍋はすべて小片のため、全体が判るものはない。口縁部に吊耳が付くものもあるが（2次Na-1、第668図28）、基本層Ⅱ層からの出土であるので近世以降に下る可能性もある。鍋と区別して鉢に分類したのは、口縁部に水平の鈎が付く1次Na-169（第243図11）、脚が付くNa-279・4次Na-3（第610図12・739図2）である。

生産用具では紡錘具が比較的多い。大部分は軸のみの遺存で紡軸と推定したものであるが、1次Na-340（第610図20）は紡軸・紡輪ともに鉄製、L-478（第376図9）は紡軸が鉄製で紡輪が木製である。

建築用具・材料では釘が大部分を占めている。2次Na-97掛金と止金具（第655図）は錆のために不明瞭な図となっているが、X線写真（写真図版310）では2点が環状の部分で結合されているのが確認できる。柱などに打ちつけた止金具とそれに連結された扉の掛金と推定される。

武器・武具では甲冑脇板と考えられる破片（Nb-185、第396図7）、杏葉覆輪（Nb-228、第375図9）、小札（1次Na-285、2次Na-84・98～100、第409図16・677図6・655図13～15）などの甲冑の部品や兜金物（1次Nb-193、第604図3）、櫛（1次Na-432・433、第380図3・4）が出土している他、藤や短刀（註22）も比較的多く認められる。藤は1次Na-188（第251図11）は遺存状態が良好な資料で（註23）、ほぼ同じ形態のものが第4次調査でも出土している（4次Na-1、第690図20）。短刀は8点出土したが、ほぼ完形なのは5点である（1次Na-172・266・346・365・2次Na-115、第240図1・461図1～2・502図7・613図13・663図5）。1次Na-346は茎から刀身基部にかけて巻きつけた布が残存している。

仏具は火舎香炉の脚（1次Nb-38、第178図11）、花瓶あるいは飯食器の台脚部（1次Nb-80、第352図20）が確認できた。Nb-80は天井部に孔が開いているので、別作りの体部と鎮止めのような形で結合されていた可能性がある。Nb-80はⅢ層中からの出土であるので年代は確定できないが、この2点共に密教系の法具であり、鎌倉時代の東光寺が天台宗であったと伝えられていることから、鎌倉期の屋敷と東光寺との結びつきを示す事例と考えられる。なお、火舎香炉の出土地点は9B区D10グリッドの4層であり、IVb1期の堂宇と考えられる9A-SB1に近いことから、ここで使用されていた可能性がある。

目 用 品	造像具	生産用具	建築材	武 器	信 仰	その他
食器具	漆器碗 50	漆碗 2	椀 1	地蔵菩薩像 1	地蔵菩薩像 1	板材 31
	漆器鉢 6	漆鉢 1	椀 7	柱材 2	五輪塔 1	角材 13
	漆器鉢 1	漆鉢 1	椀 1	材 1	五輪塔形板塔婆 43	丸木材 2
	漆物皿 3	(※1)			三角形板塔婆 13	漆 2
	漆物鉢 1	端材 15	井戸枳材 31		板塔婆 2	杭 32
	箸 47	木屑 多量			板塔婆の枠 8	竈橋 1
	折敷 14	(※2)	椀 4		板碑形塔婆 34	用途不明 14
	しゃもじ 3	撥灰 4			笠塔婆 2	
	杓子 1	漆付管地 1			呪符木簡 1	
貯蔵・調理具	燗飯ぎ 1	漆付管地・漆布 1			こけら経 57	
	燗飯ぎ 2	地 5			舟形 1	
	燗飯ぎ 66	大足 1				
	燗飯ぎ 16					
	燗飯ぎ 1					
	燗飯ぎ 2					
測定器	漆器箱 4					
	漆器筒 1					
	漆器蓋 3					
服飾・鏡身具	烏帽子? 2					
	襦袢 1					
履物	漆向下記 21					
	漆向下記 17					
	漆草履 9					
その他	漆具の柄 7					
	木簡? 1					
	竹筒? 1					

表166 図化できた木製品一覧

(※1) 紡輪が鉄製で紡輪が木製のもの、金銀製品の項で記載した遺物と同一個体。

(※2) 木質は実測せず、写真のみの掲載。

ての資料は木材の繊維に沿った縦方向は割りつとられたままか、割った後の手斧によると考えられる加工痕が認められるのに対し、横方向は鋸によって切断されている。縦方向の鋸切痕跡が認められないことから、縦挽用の大鋸が使用されていない可能性がある(註26)。

信仰に係わる遺物は、地蔵菩薩像、五輪塔、五輪塔形板塔婆、三角形板塔婆、板塔婆の枠、板碑形塔婆、笠塔婆、呪符木簡、こけら経、舟形など多様である。これらのうち、地蔵菩薩像、五輪塔、五輪塔形板塔婆、三角形板塔婆、板塔婆の枠、板碑形塔婆、こけら経はIVa期の城館に伴うもので、地蔵菩薩像(1次L-455、第424図3)を除いた大部分が第1次調査10E-SD8から集中して出土している。なお、笠塔婆(2次L-4、第659図5)はIVb期と推定される遺構から出土しているほか、呪符木簡(4次L-44、第706図5)と舟形(4次L-42、第706図4)についてもIVb期と限定はできないが、IVa3・4期の城館の堀跡に切られた遺構から出土している。各種の遺物のうち、ここではこけら経について触れておく。

『10E-SD8出土こけら経』

第1次調査10E-SD8から出土したこけら経は破片を含めて60点あり、その内訳は「佛説大藏正教血盆経」40点、「転女身成佛功德経」あるいは「転女成佛経」7点、經典不明13点である(第297~302図)。長さは28~29cm前後、幅は1.1~2.7cmであるが2.0cm前後のものが多い。厚さは0.6~2.0mmであるが54点は1.5mm以下で、大部分は1.0mm前後である。

こけら経は、元興寺極楽坊発見例から分類と編年が試みられ(註27)、遺跡出土のものも含めた分析も試みられている(註28)。元興寺極楽坊のこけら経の研究によると10E-SD8と同様の形態(註29)のこけら経は、1450年前後する頃に両面写経から片面写経に変わると考えられている。また、この時期に製作技法の変化により(註30)厚さが均一化して薄くなっていくとされる。10E-SD8から出土したこけら経60点のうち墨書が確認できたのは52点であるが、このうち51点が片面写経で、1点が両面写経であること、厚さは0.6~2.0mmであるが、大部分は1.0mm前後であることを考慮すると、これらは両面写経から片面写経に移行していく時期に相当すると考えられる。

血盆経 佛説大藏正教血盆経(以下血盆経と記す)は10世紀以降に中国で民間仏教經典として成立したと推測されているもので、女性が出産、月経の血で地神や水神を穢すために血の池地獄に墮るとし、その救済のための信仰

大日本續藏經

元興寺極樂坊

洞ノ口遺跡

佛說大藏正教血盆經

佛說大藏正□□經

318 佛說大藏正教血盆(經) 369 佛說大藏正教血盆經

爾時目連尊者昔日往到羽泊迫縣見一血盆池

余時目連尊者昔日往到羽泊迫縣見一血盆池

362 余時目連尊者日昔往到羽(州)

地獄闊八萬四千由旬池中有一百二十件事鐵索

地獄闊八萬四千由旬□□□□□□□□□□

370 闊八萬四千由旬池中有一百二十

鐵柱鐵索見南閻浮提女人許多被頭散髮長

□□鐵柱鐵索見南閻浮提女人許多被頭散髮長

323 獄八萬四千由旬中有一百

枷杻手在地獄中受罪獄卒鬼主一日三度將血勒

枷杻手在地獄中受罪獄卒鬼主一日三度將血勒

365 有一百三十三見十件事鐵(鐵)柱

教罪人喫此時罪人不甘伏喫遂被獄主將鐵棒打

教罪人喫此時罪人不甘伏喫遂被獄主將鐵棒打

357 柱(鐵) 352 女人許多被頭散髮長被(杻)枷鎖

作叫聲日連悲哀問獄主不見南閻浮提丈夫之人

作叫聲日連悲哀問獄主不見南閻浮提丈夫之人

358 被頭髮□□百在獄中受(罪)獄(卒)□□ 377 鬼主

受此苦報只見許多女人受其苦痛獄主答師言不

□其苦報以見許多女人受其苦痛獄主答師言不

366 三度將血勒 332 教罪人喫此時

于丈夫之事只是女人產下血露汚觸地神若穢汚

于丈夫之事只是女人產下血露汚觸地神并穢汚

352 獄主不見南閻浮提 356 閻浮提丈夫大人受此苦報只見許多

衣裳將去溪河洗淨水流汚漫諸善男女取水煎茶

衣裳□□□洗水流汚漫懷諸善男女取水煎茶

377 其(苦)惱獄 320 只是女人產下血(露)觸地神并穢汚衣裳將

茶供養諸聖致令不淨天大將軍割下名字附在善

供養諸聖致令不淨天大將軍割下名字附在善惡

349 血露汚觸地神并穢汚衣(服)持云洗

惡部中候百年命終之後受此苦報日連悲哀遂問主

部中百年命發之後受此苦報日連悲哀遂問主

319 (天)溪河洗淨水流汚漫諸(善)男

將何報答產生阿娘之恩出離血盆池地獄獄主

將何報答產生阿娘之恩出離血盆池地獄獄主答

321 (不)淨天將(割)下名字(後)受此(苦) 365 簿中百年命終之後此

師言惟小心孝順男女敬重三寶更爲阿娘

師言惟小心孝順男女敬(重)三寶更爲阿娘持血盆

苦(報) 360 百年命終(之)後受此(苦) 337 終之後受此苦報是時

持血盆經二年仍結血盆勝會請僧轉讀此經一藏

齋三年仍結血盆勝會(僧)轉讀此經一藏滿口穢

日連尊者□ 368 時日連 329 此苦報日連悲哀遂問獄主

滿口穢散便有般若船載過奈河江岸看見血盆池

散便有般若(船)載過奈河江岸看見血盆池地獄中

359 教順男女敬重三寶更爲阿娘持血盆(齋)

中有五朵蓮華出現罪人歡喜心生慚愧便得超生

有五朵蓮華出現罪人歡喜(生)慚愧便得超生佛

347 重三寶更爲阿娘持血盆(經)二年依血盆 346 (三)年仍(結)血盆

佛地諸大菩薩及目連尊者啓告勸南閻浮提人信

佛地諸大菩薩及目連尊者啓告勸南閻浮提人信

佛(勝)會(請)僧(念)ア 338 一藏滿口穢散便有般若船載過奈江岸

信善男女早覺修取大辨前程莫教失手萬劫難逢

善男女早覺修取大辨前程(失)手萬劫難逢復佛爲

363 若船載過奈河江岸看見血 341 得超生佛地□說真言曰南無□

佛告說女人血盆經若有信心書寫受持令得三世

女人說血□□若有信心書寫受持令得三世母親

326 生佛□ 350 (八)菩薩及目連尊者啓 368 尊者啓告勸南閻

母親盡得生天受諸快樂衣食自然長命富貴壽時

盡□□受諸快樂衣食自然長命富貴□□□

浮提人 364 尊者□ 324 告奉勸南閻浮提人信(善)男

天龍八部人非人等皆大歡喜信奉行作禮而退

□□人非人等皆大歡喜□□□作禮□□

371 (提)人信善男女早覺修取大辨

佛說大藏正教血盆經

□□□□□血盆□

351 令得三世母親生天上受諸快樂 353 命富(貴)爾時天龍八部

佛說大藏正教血盆經

□□□□□血盆□

385 佛(說) 327 (三)教血盆(經)

を説いたものである。日本には室町時代中期までに伝来し、受容されていたと考えられている(註31)。現在国内で確認できる血盆経にはいくつかの系統があるが、その大部分は近世以降に製作されたもので、中世の所産と考えられているのは2例のみである。1例目は群馬黒白根山の湯釜から確黄採掘中に発見されたこけら経で、両面写経であることから15世紀前半と考えられている(註32)。2例目は奈良県元興寺極楽坊で発見された瓶塔形血盆経である。これは楕圓に墨で摺られたもので、室町時代中期から末期にかけて製作されたと考えられる(註33)。なお、この白根山と元興寺極楽坊の血盆経は、細部は異なるものの同系統と考えられている。

409項上段に元興寺と同系統とされる『大日本續藏経』の血盆経、中段に元興寺極楽坊の血盆経、下段に出土した血盆経の経文を示した。なお、出土資料の経題は便宜的に前後に振り分け、章録No.の記号「L」は省略してある。出土した血盆経は完形品が少なく墨痕が不明瞭なものもあるが、大日本續藏経と元興寺極楽坊の経文と比較すると、概ね両方に共通していることが判る。ただし、細部について見てみるとそれぞれ片方のみ一致する文字が認められる場合や、L-352の後半やL-358の前半のように両者ともに異なるものもあるほか、1~2文字が欠落したり別の文字に替わっているものもある。これらの経文の微妙な違いが手本経の違いであるのか写経の際の誤字脱字であるのかは断定できない。

なお、出土したこけら経は、重複する語句が認められることから複数組が存在することが明らかであるが(註34)、1行分の文字数が確認できたものは12~17文字までばらつきがあること、行頭あるいは行末が判明したものを基準としてその前後の経文をあてはめていくと合わないものが多数残ることから、複数組の血盆経はそれぞれ1行分の文字数が異なっている可能性が高く、さらに細部の内容が異なるものがあつた可能性も考えられる。複数組すべてを復元するのは困難であるが一部について試みてみた。なお、内容は出土したこけら経を優先とし、欠落する部分は上記の大日本續藏経と元興寺極楽坊の経文を基本とした。

1行あたりの文字数は同じであると仮定した場合、大日本續藏経版は経題を除くと420字であるので、これらに該当する1行の文字数と枚数の組み合わせは、①12字×35枚、②14字×30枚、③15字×28枚、④16~17字×25~26枚などがある。しかし、これらの組み合わせに出土したこけら経をあてはめても一致する例は少ないことから、実際は1枚分の文字数は同一ではなく、大体そろえられていた程度ではなかったかと考えられる。したがって復元していくとかなり多くの組み合わせが考えられることになる。例として1行12~13文字×34行と1行15~17文字×26行の2例を表167・168に示した(経題を除く)。なお、実際に確認できる経文を太字としたが、行中央のみ遺存するもの(L-357・372・332など)は該当する組み合わせが複数あるので、確定したものではない。

転女身成佛功德経・転女成佛経 血盆経以外のこけら経20点のうち、7点は「轉女身成佛功德経」あるいは「轉女成佛経」と推定される。重複するが以下に示す。

- | | |
|-------------------------------|------------------------------------|
| L-384 (第298図1) 轉女身成佛功德経 | L-348 (第298図4) 「億劫生死重罪共成道尔」佛説 |
| L-345 (第298図2) □□(衆千)二百五十人俱會利 | L-381 (第298図5) 「量徳(劫)生死重罪共成佛 |
| L-317 (第298図3) 「□敬此經受持解説礼拜」 | L-339 (第298図6) [生] 死重罪 [共成佛道尔] □佛説 |
| L-334 (第297図3) [此経] 受 [持] | |

L-384は経題であるので、「転女身成佛功德経」という經典であることは確実である。管見では「転女身成佛功德経」という經典は見当たらないが、類似する名称の「転女成佛経」という經典がある。「転女成佛経」は「法華経」に関連した経典で、女性の往生を説く教典であり、9世紀後半~13世紀初頭にかけて受容されていたと考えられている(註35)。「転女成佛経」の遺存例は少ないとされるが、東京国立博物館蔵の平安時代末期の資料にあり(註36)、経題は「佛説轉女成佛経」とある。L-345以下の6点はこの資料の内容と極めて類似することから、これら6点は「転女成佛経」であるとされる。なお、これら6点の「転女成佛経」のこけら経と経題のみの「転女身成佛功德経」のこけら経が同じ經典を写経したものかどうか確定は出来ないが、L-384・317・381の書体が類似することか

ら関連する可能性は高いと考えられる。

行数	登録No.	経文	行数	登録No.	経文
1	L-362	余時日連尊者日昔往到羽州	18		目連悲哀遠聞獄主將何報答
2		迫隔縣見一血盆池地獄闊八萬	19		產生阿娘之恩出離血盆池地
3		四千由旬池中有百三十件事	20		獄獄主答師言惟有小心孝順
4	L-357	鐵鑊鐵柱鐵枷鐵鎖見南閻浮提	21		男女敬重三寶更爲阿娘持血
5	L-352	女人許多被頭散髮長被枷鎖	22		盆齋三年仍結血盆勝會請僧
6	L-372	在地獄中受罪獄卒鬼王一日	23		轉誦此經一藏滿口懺敬便有
7	L-332	三度將血勸教罪人喫此時罪人	24	L-363	般若船載過奈河江岸看見血
8		不甘伏啞遂被獄主將鐵棒打	25		盆池中有五朵蓮華出現罪人歌
9		作叫聲目連悲哀問獄主不見南	26		宮心生慙愧便得超生佛地諸大
10		閻浮提丈夫受此苦報只見	27		菩薩及目連尊者皆告奉歡南閻
11		許多女人受其苦痛獄主答師言	28	L-371	浮提人信善男女早覺修取大辨
12		不于丈夫之事只是女人產下	29		前程奧教失子萬劫難復佛告
13		血露汚觸地神并穢汚衣妾將	30		脫女人血盆經若有信心書寫
14	319	去溪河洗滌水流汚處誦善男	31		受持令得三世母親盡得生天
15		女取水煎茶供養諸聖致令不淨	32		受請快樂衣食自然長壽當佛
16		天大將軍罰下名字附在善惡	33		爾時天龍八部人非人等皆大
17		部中百年命終之後受此苦報	34		歡喜信受奉行作禮而退

表167 血盆經復元例(1) 12~13文字×34行(最終行は10文字)

※3行目「二」はL-370・367による。10行目「丈夫之人」→「丈夫人」はL-356による。

行数	登録No.	経文	行数	登録No.	経文
1		余時日連尊者昔日往到羽州迫隔縣見一	14		報目連悲哀遠聞獄主將何報答產生阿娘
2	L-325	血盆池地獄闊八萬四千由旬池中有百	15		之恩出離血盆池地獄獄主答師言惟有
3	L-357	三十件事鐵鑊鐵柱鐵枷鐵鎖見南閻浮提	16		小心孝順男女敬重三寶更爲阿娘持血
4		女人許多被頭散髮長被枷鎖手在地獄中受	17		盆齋三年仍結血盆勝會請僧轉誦此經
5	L-372	罪獄卒鬼王一日三度將血勸教罪人喫此	18	L-338	一藏滿口懺敬便有般若船載過奈河江
6		時罪人不甘伏啞遂被獄主將鐵棒打作叫	19		看見血盆池中有五朵蓮華出現罪人歌
7		聲目連悲哀問獄主不見南閻浮提丈夫	20		宮心生慙愧便得超生佛地諸大菩薩及
8		人受此苦報只見許多女人受其苦痛獄	21		目連尊者皆告奉歡南閻浮提人信善男
9		主答師言不于丈夫之事只是女人產下	22		女早覺修取大辨前程奧教失子萬劫難
10	L-340	血露汚觸地神并穢汚衣服持去洗	23		復佛告脫女人血盆經若有信心書寫受
11		淨水流汚漫誦諸善男女取水煎茶供	24		持令得三世母親盡得生天受請快樂
12		養諸聖致令不淨天大將軍罰下名字	25		衣食自然長命當佛爾時天龍八部人
13	L-360	附在善惡部中百年命終之後受此苦	26		非人等皆大歡喜信受奉行作禮而退

表168 血盆經復元例(2) 15~17文字×26行

※3行目「三」はL-370・367による。7~8行目「丈夫之人」→「丈夫人」はL-356による。

10行目「裏」→「腹」、「得」→「持」、「去溪河洗」→「去洗」、2文字欠落で本来は16文字と推定

18行目「奈河江岸」→「奈江岸」、1文字欠落で本来は17文字と推定

10. 土製品

土製品は291点出土し、土玉、土錘、羽口、紡錘車など30点が図化できた。

(註1) 常滑・瀬美・東海・在地産の陶器11,751点のほか、表では「その他土器・陶磁器」に含めた産地不明の須惠系系陶器9点、山皿1点を含む。

(註2) 手づくね皿は第1次調査11F区でも1点出土している(1次1a-60、第615図6)。上記の形態の静止糸切小皿は第4次調査区でも出土している(1a-2・4・6、第738図18・19、第740図15)。また、第1次10C-SD22からは、この静止糸切小皿と同じ形態である回転糸切の小皿が1点出土している(1a-24、第313図5)。

(註3) 多賀城市埋蔵文化財調査センター：1990。報告中に個々の法量の記載はないが、実測図を計測した結果、手づくね皿は11径11.2~12.6cm、器高2.3~3.1cm、ロクロ小皿は口径7.7~8.6cm、底径6.0~6.4cm、器高1.5~1.9cmで、2次SK75出土のものとは一致する。

(註4) ロクロ小皿の切離しは回転糸切である。

(註5) 田中：2002によると、多賀城跡第50次調査では手づくねとロクロ調整の皿、小皿および柱状高台が認められることから奥州藤原氏と関わる贈答・儀礼が行われていたと認識されている。このことからこれらの遺物の年代は藤原氏の滅亡以降には降らない。

- (註6) 及川・杉沢：2003。なお原文では大皿であるが、本書では皿に置き換えて記述している。
- (註7) 平泉の手づくね皿は、口縁部の形態が断面三角形を呈している。
- (註8) 佐藤：2003。ロク口調整の皿・小皿は14世紀前半頃までは厚手のものが主体で、14世紀中葉以降になると薄手のものが主体となる。
- (註9) 推定した手づくね皿とロク口小皿の比率「1:4」が、宴会儀礼における一人名分のかわりけの比率を示している可能性はある。推測を重ねれば、一人名分は①手づくね皿1、ロク口小皿4、②手づくね皿3、ロク口小皿12、のように複数の組み合わせが考えられる。かわりけの推定総数100点からすると、可能性①の場合は20名分、②の場合は10名分、③の場合は6〜7名分であった可能性が考えられる。ただし、前提となる皿と小皿の数量は推定であり、宴会儀礼の内容も不明であるため、その可能性を指摘するに留めておく。
- (註10) 服部：2003
- (註11) 4層水田跡は概ね城跡IVa1~IVa2期に対応すると捉えているが、IVa3期に整備されたと推定される「外堀」SD1001の延長部分が大次8B区の4層水田跡上面で確認されていることから、城跡IVa3期の初期も含めた時期と推定している（第1分冊38項）。
- (註12) 取っ手のみの遺存であるが、北伊勢、尾張、三河、遠江などに分布する取っ手の羽釜のような形態となる可能性もある。
- (註13) 福鉢・風伊・燈籠については黒色を呈していないので土師質土器に分類しているが、「櫛」が施されていない瓦質土器と見られることも可能である。出土した風伊は土師質土器1点のみで瓦質土器はないが、福鉢約30点、燈籠1点の瓦質土器が図化できている。
- (註14) 両者ともに15世紀に出現するとされているが、一方では在地の窯業生産の衰退と瓦質福鉢への転換時期の観点から、瓦質福鉢の出現が14世紀まで遡る可能性も指摘されている（高桑：2003）。
- (註15) 広島県草戸千軒町遺跡では、同様の内耳を持つ瓦質櫛は「亀山系瓦質土器・銅刀類」とされ15世紀末〜16世紀初頭に位置づけられている（広島考古学研究会：1995）。ただし、Ib-19とは口縁部の形態が異なり関係は明らかではない。
- (註16) 表140では「その他土器・陶磁器」に含めた山皿1点を含む。
- (註17) I1縁部に特徴があるため、I1縁部は識別できる。
- (註18) 小野正敏：2003
- (註19) 仙台市教育委員会：1988、75項。
- (註20) 鉄・銅の複合品3点、鉄・木の複合品1点を含む。
- (註21) 嶋谷：2003
- (註22) 全長が概ね30cm（1尺）以下で刃幅が2.5cm前後のものを短刀とした。
- (註23) 城跡の埋跡であるSD1005の堆積上中から出土したが、粘土層によって空気が遮断されていたため腐敗の進行が抑えられたと考えられる。
- (註24) 未成品や加工の際に出る端材、木屑なども含む。木屑は量に関係なく1と計測している。
- (註25) 折衷の完形品はない。曲物のうち形態が判るものは7点である（1次L-164・395・413・416・2次L-1・2・6、第246図4・495図3・471図4・650図7・3・4）。桶は形態が判るものは2点のみである。1次L-48（第235図I）が23の遺存、第4次調査SE10の井戸底に設置してあったもの（第719〜721図）が蓋を欠損するがほぼ完形品である。
- (註26) 龍鏡川大塚は15世紀初頭に大塚から伝わったと考えられていることから、11F-SK34はそれ以前のIVb期の遺構である可能性がある。しかし、単に、工程上人脈を必要としなかった可能性があることと時期を限定できる土器類が出土しなかったことから遺構の時期の限定はせず、大きくIVb〜IVa期として捉えているのみである。
- (註27) 『日本仏教民俗基礎資料集成 第六巻 元興寺権堂VI』
- (註28) 松浦・原田：1992
- (註29) 牛形状態で下端部は方形、幅は1〜1.5cm前後と狭い。
- (註30) 台座の出現により、均一な厚さに製作することが可能となったとされる。
- (註31) 牧野・高遠：1996、加藤：2000
- (註32) 時枝：1984。発見されたのは昭和30年で、当初は大量にあったが散逸し、報告されたのは24点である。
- (註33) 『日本仏教民俗基礎資料集成 第五巻 元興寺権堂VII』
- (註34) 筆跡も明らかに複製認められるが、1巻の写経を複製人数で分担することもあるので、筆跡の違いは必ずしもこれら経が複数組存在したことを示すものではない。
- (註35) (財)元興寺文化財研究所『女人往生』19%。「転女成佛経」は平安時代末〜鎌倉中期のものは残されているがそれ以降の遺存例はないとされているので、今の出土例は極めて珍しいといえる。
- (註36) 計35の文獻13項。追善のため生前の手紙の上に金字で書写したもので、写真が掲載されている。1行に17文字ずつ然然と書かれている。

第2章 遺構

第1節 遺構の時期区分

1. 遺構の確認状況

微高地部における中世の遺構確認面はIVa層、IVb層、Va層であるが、全体的な遺構の確認状況と出土遺物からすると、本来はIVa層、IVb層が中世の遺構面であり、V層上面で確認される遺構の多くも本来はIVa、IVb層上面から掘りこまれていた可能性が高いと考えられた(註1)。したがって、中世の遺構は基本的にIVa層、IVb層の2時期に大別できるが、実際はIVa層、IVb層上面の遺構間には多くの重複関係が認められたので、各層上面の遺構にはかなりの時期差があることが予想される。

本来、遺構の時期区分に際しては、まずIVa～IVb～Va層の複数層にまたがって確認された遺構を本来掘り込まれていたIVa層とIVb層に分類し、次にIVa層、IVb層において、それぞれの層に属する遺構の新旧関係を検討する必要がある。しかしながら、確認段階でIVa層とIVb層に確実に分類できた遺構は溝跡や規模が大きな土坑・井戸跡のみで、小さな土坑やピットなどは時期を明らかにできなかった遺構の方が多い。なお、掘立柱建物跡や柱列跡で掘り込み面を確定できなかったものについては、以下に述べるように柱穴の確認状況と建物方向によって分類し、それぞれをIVa層・IVb層にあてはめる手順を取った。

2. 時期区分の方法

掘立柱建物跡は比較的小さな柱穴で構成されているので、すべての柱穴を本来掘り込まれた層で確認できない場合が多い。そこで、各柱穴がIVa層、IVb層、Va層などの複数の層に分散して確認された場合は、確認されたうちの最上の層が本来の掘り込み面に近い層であると想定した。なお、仮に柱穴がIVa層上面で1基も確認できずIVb層やVa層で初めて確認できた場合の本来の掘り込み面についても、IVa層上面から掘り込まれた可能性を否定せずに検討している。

IVa・IVb層に伴う掘立柱建物跡は、第1次調査区で215棟、第2次調査区で50棟、計265棟確認されている。柱列跡は第1次調査区で33列、第2次調査区で3列、計36列である。時期を限定できる遺物がほとんどないため、まず柱穴同士の間接の重複関係と他の遺構との重複関係を優先し、次に方向性を重視して検討した。方向性を重視したのは、建物跡には同一方向のものが多く認められ、その中には近接している例が複数認められること(註2)、また、屋敷や城郭の主軸方向(区画溝や堀跡の方向)と同じ向きの建物跡が多数認められることから、建物の方向はある一定の規制を受けている可能性が高いと考えられたためである。

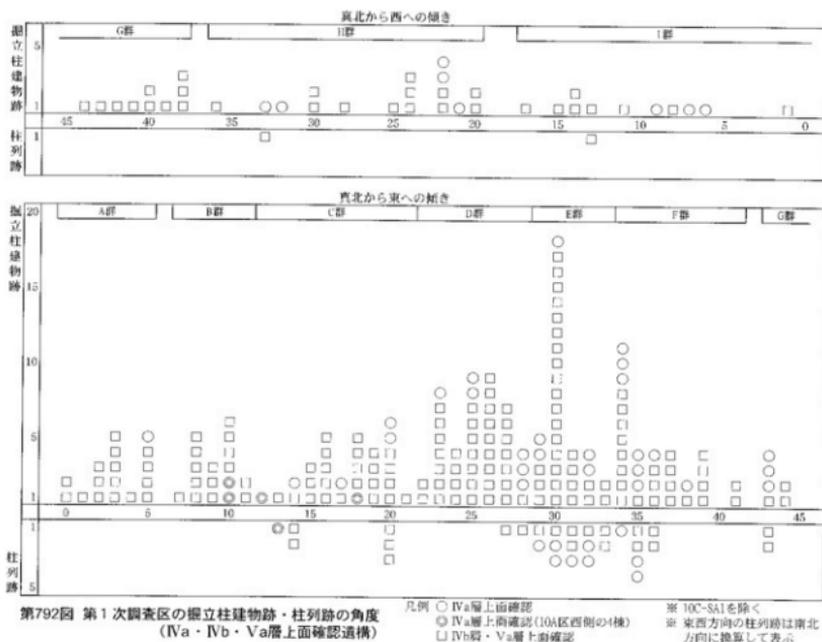
3. 第1次調査区における方向性

第1次調査で確認した掘立柱建物跡215棟と柱列跡33列のうち、屈曲するため方向が確定できない柱列跡1列(10C-SA1)を除く247例について、桁行方向、梁行方向に関係なく真北を基準とした方向によって分類したのが第792図である。図によれば方向性のある程度のみとまりが認められることから、これによって建物を表169のようにA～Iまでの9群に分類した(A～I群は第792図中にも記載した)。

4. 第1次調査区における各群の新旧関係と変遷

次に、同方向のものは同時期の建物跡である可能性が高いと仮定し、これら各群の建物跡の新旧関係について検討してみたい。なお、柱穴規模が同程度の建物跡が重複し、それぞれの建物跡の柱穴が複数の層に分散して確認された場合は、より上層の面で確認された柱穴数が多い建物の方が新しいと推定した。

10B区東部のIVa層上面では、10B-SB 5・7・10・16・24・29が重複しているが(註3)、このうちの10B-SB5(N-43°-E、G群)とSB7(N-35°-E、F群)は両者共に柱穴がIVa～Va層上面で確認されている建物跡である。10B-



名称	向き	主な遺構名	遺構数
A群	N-0~5°-E	10A-SB8~10	独立柱建物跡17
B群	N-7~11°-E	9A-SB1, 10A-SB7, 10B-SB1	独立柱建物跡17
C群	N-12~21°-E	10A-SB12~15, 10B-SB17~19	独立柱建物跡30、柱列跡6
D群	N-22~28°-E	10A-SB25, 10C-SB6	独立柱建物跡43、柱列跡2
E群	N-29~33°-E	10A-SB5, 10D-SB4	独立柱建物跡33、柱列跡13
F群	N-34~41°-E	10B-SB7, 10C-SB2~4, 10D-SB1・2	独立柱建物跡31、柱列跡7
G群	N-43°-E~ N-88°-W	10B-SB4・5, 10C-SB1	独立柱建物跡16、柱列跡2
H群	N-36~20°-W	10C-SB10, 10D-SB5~7	独立柱建物跡17、柱列跡1
I群	N-17°-W未満	10C-SB8, 10D-SB8(柱7)	独立柱建物跡11、柱列跡1

表169 第1次調査区の独立柱建物跡・柱列跡の分類

SB5は10/16基、SB7は3/12基の柱穴がIVa層上面で確認されているので(註4)、IVa層上面で確認できた柱穴の数が多いSB5のほうがSB7よりも新しいと推定される。

10C~10D区のIVa層上面では、10C-SB1~4・8・10、10D-SB1・2・5~8が重複している(註5)。このうちIVa層あるいはIVa層上の整地層上面で確認できた柱穴は、10C-SB1が8/8基、SB4が17/19、SB8が6/9基、SB10が3/4基、10D-SB2が15/16、SB5が4/5、SB6が6/7、SB7が4/5、SB8が6/6と多く、10C-SB2が2/13基、SB3が1/11基、10D-SB1が4/20基と少ない(註6)。このことから、IVa層上面で確認された柱穴の割合が少ない10C-SB2(N-34°-E、F群)・SB3(N-36°-E、F群)、10D-SB1(N-34°-E、F群)が古いと考えられる。なお、これらと同じ方向を示す10C-SB4(N-34°-E、F群)と10D-SB2(N-35°-E、F群)についても、IVa層上面で確認された柱穴の割合は多かったものの、位置関係から10C-SB2・SB3や10D-SB1と同時期と考えられることから、他の建物群(10C

-SB1はN-43°-EでG群、10C-SB10と10D-SB5-7はN-32°21'-WでH群、10C-SB8と10D-SB8はN-6°-W-N-5°-EでI群（註7）よりも古いと推定される。

すべての事例について触れることはできないが、以上のような10B区東部と10C～10D区における様相から、IVa層上面の建物跡は、真北から34°～41°東に傾くF群の建物跡と真北から43°以上東に傾く（註8）G・H・I群の建物跡とでは後者の方が新しいと推定される。

なお、第792図の中で○印で示しているのが柱穴をIVa層上面で確認できた建物跡である。元々IVa層上面で確認できた柱穴は少ないが、それでも比較的D・E・F・G・H・I群に多く認められることから、D～I群はIVa層に伴う建物跡を中心とし、A～C群はIVb層の建物跡を中心としている可能性が高い。

以上のような点を考慮すると、A～I群の建物跡は真北からの傾きが大きくなるほど新しくなる傾向が窺え、A→B→C→D→E→F→Gの順に変遷している可能性が高いと考えられる。

一方でこの変遷に当てはまらない建物跡も存在する。第1次調査10A区西部のIVa層上面で確認している10A-SB1～4とSA1（註9）で、真北から東に10°～18°傾いている。この向きの建物跡は上記の分類によればB～C群に属するIVb層の遺構であるが、10A-SB1～4はIVa層上面で確認されているので（註10）、これらはIVa層の遺構であり、IVb層の時期までは遡らないことは明らかである。この問題点は第1次調査区だけでは解決できないが、第2次調査区の状況と合わせて検討することによって明らかにできた。

5. 第2次調査区における各群の新旧関係と変遷

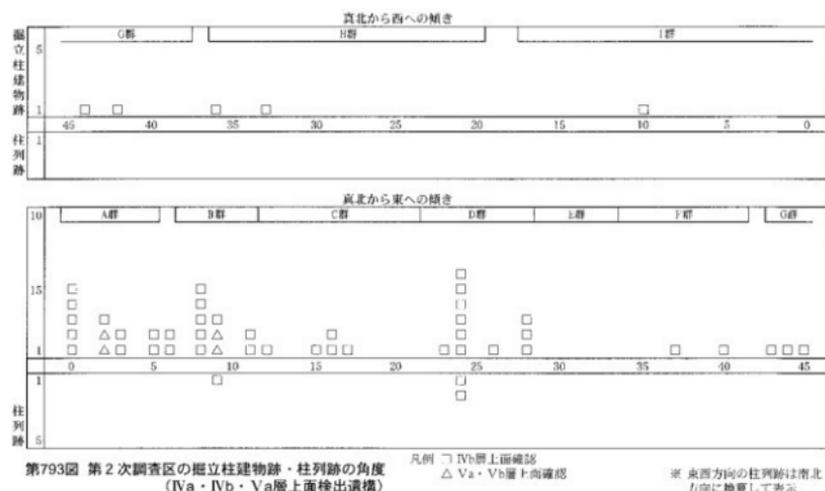
第2次調査で確認した50棟の掘立柱建物跡と3列の柱列跡についても、第1次調査の遺構と同様に方向による分類を試みた（第793図）。遺構数が少ないため第1次調査区ほど顕著ではないが、全体的にはほぼ同様な分布の傾向は認められた。しかし、真北から29°～41°東に傾くE・F群の範囲には該当する遺構がほとんどなく、空白に近い状態となっている。当初からE・F群のみが存在しなかった可能性もあるが、前述したように第1次調査10A区西部でIVa層の時期の10A-SB1～4とSA1（註11）がIVb層の時期と推定されるB・C群の方向に近く建てられていることから、第2次調査区のE・F群の建物跡も10A区の建物跡と同様に方向が変えられている可能性の方が高いと考えられた。そこで、B・C群を中心にしてA群までも含め、N-0°～21°-Eの範囲にIVa層に関わる（方向が変えられている）E・F群の建物跡が混在している可能性を検討した。

方向が変えられているE群とF群を第792・793図のA～C群の中から抽出する前に、この中でA～C群の可能性が高いものを除外しておく必要がある。2区に位置するSK75は鎌倉期と考えられる土師質土器小皿と皿類が大量に廃棄されていた土坑であるが、その位置はSB48に近接している。所定はできないが、SK75との位置関係からSB48（N-8°-E）はIVb層に伴う建物跡である可能性があり、同方向のSB44～47も同じ可能性が考えられる。

次に、第792・793図のA～C群の中でIVa層に関わる可能性がある建物跡について検討していきたい。

第2次調査区における掘立柱建物跡の柱穴の大部分はVa～Vb層上面の確認であるが、IVb層上面で確認できた柱穴もある。柱穴数ではSB12（N-9°-E）が3/9、SB13（N-9°-E）が1/14、SB25（N-2°-E）が3/5、SB26（N-2°-E）が1/7である。前述したように、本来の掘りこみ面と推定される面と調査の際の確認面が一致せず、より下層でしか確認できない場合が多いこと、そのような状況下でも上層で確認できた柱穴が多い建物跡が新しい傾向があることから、大部分の建物跡がVa～Vb層上面で確認される中で、IVb層上面で確認できた柱穴があることを考慮すると、これらSB12・13・25・26の4棟はIVa層に伴う建物跡である可能性が高い。そして、真北からの傾きは2°と9°の2種類であること、東への傾きが大きいほど新しい傾向があることからすると、方向が替えられていると考えられるE群とF群は、2°東傾するSB25・26がE群で、9°東傾するSB12・13がF群であると推定される。

以上のような点と、前述した10A-SB1～3とSA1の方位はN-10°～13°-Eであることから、F群はこれに近いN-9°



第793図 第2次調査区の掘立柱建物跡・柱列跡の角度
(IVa・IVb・Va層上面検出遺構)

～12°-Eの掘立柱建物跡6棟と柱列跡1条とし、E群は一応SB25・26の2°の前後であるN-0～6°-Eとして掘立柱建物跡14棟と推定した。ただし、結果としてA群に含まれる建物跡が皆無となっているので、逆にE群の中にA群の建物跡が混入している可能性も残る。

6. 各群の時期区分

以上のように掘立柱建物跡と柱列跡をA～Iまでの9群に分類し、基本的にA～C群までをIVb層に伴う建物群、D～I群までをIVa層に伴う建物群と推定したが、次にこれらの時期区分について触れたい。

IVb1期・IVb2期

IVb層上面の遺構の中で明らかに区画溝と考えられる遺構は9B-SD38で、他にその可能性があるのは部分的に確認されている11F-SD2のみである。9B-SD38の方向はN-79°-Wで、南北方向に換算すると(直交する方向にすると)N-11°-Eである。一方、掘立柱建物跡と柱列跡がこの傾きに相当するのがB群であるので、区画溝と同方向のB群をIVb1-3期、区画溝が設置される以前の時期に当たるA群をIVb1-A期、これらよりも新しい時期のC群をIVb2期とした。

IVa1期

IVa層上面では、規模が大きな掘跡の他に、部分的に規模が大きく基幹となる溝跡や、規模の小さな溝跡を確認している。全ての地点で堀跡や溝跡の変遷を明らかにできたわけではないが、10C～10D区では東西方向の溝跡10C-SD15がIVa層の区画溝や堀跡の中でも最も古い遺構であることが確認されている(註12)。この10C-SD15に接続する南北方向の9B-SD15は、位置関係からすると南部の11B-SD4と11F-SD14につながっていくと推定されるが、このうち11F-SD14もIVa層の区画溝が重複する中でも最も古い区画溝であることが確認されている。以上の点から、IVa層上面の区画溝や堀跡の中で最も古いと考えられる遺構は、南北方向の9B-SD15～11B-SD4～11F-SD14とそれに接続する東西方向の10C-SD15、9B-SD14、およびそれと同方向の10B-SD7・8と推定される。それぞれの方向は、11B区から11F区にかけてはやや蛇行しているため11B-SD4と11F-SD14については明確ではないが、その他は、

9B-SD15がN-23°-26°-E、9B-SD14がN-66°-W (N-24°-Eに直交)、10C-SD15がN-64°-W (N-26°-Eに直交)、10B-SD7・8がN-68°-W (N-22°-Eに直交)で、概ねN-22°-26°-Eの範囲に収まる。この方向に一致する掘立柱建物跡と柱列跡はD群であるので、上記の区画溝とD群を中心とした建物群・柱列跡をIVa1期とした。なお、C群 (IVb2期) に含まれる掘立柱建物跡のうち、確認状況から明らかにIVa層の遺構と考えられるものについては、一応時期が最も近いIVa1期の遺構として扱っている。

IVa2～IVa4期

IVa2期以降は防御性を持つ堀跡を伴う城館の時期である。埋没した堀跡は同じ場所でも掘削されている場合もあるが、場所をずらして新しく掘削され、その際に区画も変更されている場合も多い。城館の区画の変更は建物配置とも密接な関連があると推定されることから、堀跡の変遷を検討することによってIVa2期以降の時期区分を試みた。

10C区東部～10D区西部に位置するSD1004A・B・Cは、城館中央の区画の北辺を画する堀跡であるが、重複関係からSD1004A→SD1004B→SD1004Cと3期の変遷が確認されている。

またこの区画の西辺の堀跡では、11B区にはSD1003、11B-SD2・3、11F区にはSD1013、11F-SD4・11がある。11B区のSD1003は現地表面で堀跡としての痕跡が認められていた箇所であるので最も新しいことが明らかであり、11F区のSD1013は規模からしてこれと同時期と考えられる。11B-SD2・3については直接の重複関係は認められないが、11F-SD11→SD4の重複関係とそれらの位置関係から、11B-SD3と11F-SD11が古く、11B-SD2と11F-SD4が新しいと推定される。以上のように中央の区画の西辺も3期の変遷が確認されている。

中央の区画の東側の区画では、10D～10E区で確認されたSD1005A・C・D、SD1015が北辺の堀跡で、4本が平行している。このうち直接の重複関係が認められたのはSD1005D→1005Aのみであるが、この他にSD1005Cは人為的に埋め戻されている状況が10C～10D区のSD1004Aと類似する(註13)ことから4本の中では最も古いと考えられる。以上の点と他の遺構との位置関係などから、これらはSD1005C→SD1005D・SD1015→SD1005Aと3期に変遷すると推定される。

以上のように、堀跡の重複関係からすると城館は3時期にわたって変遷していることが予想され、同時にE～I群までの5群の掘立柱建物跡と柱列跡も3期に大別できると考えられる。E～I群までの遺構数をみるとE群が45、F群が42、G群が26、H群が20、I群が13であるが、これに不確定要素はあるものの城館外の西側で方向が変えられている可能性がある建物としてあげたE群の掘立柱建物跡14とF群の掘立柱建物跡10・柱列跡2を加えると、E群の遺構数が59、F群が54、G群が26、H群が20、I群が13となり、各期の遺構数にさほど差がないと想定すると、E群の59基、F群の54基、G～I群の59基に大別するのが妥当と考えられる。城館の変遷にあてはめると、IVa2期がE群、IVa3期がF群、IVa4期がG～I群を中心とした建物方向であるが、各群が完全に時期別に分類されるのではなく、同方向の建物跡でも建物配置や他の遺構との重複関係から別の時期に想定される場合もある。方向性から分類したA群～I群までの9群の建物跡・柱列跡とIVb1期～IVa1期までの6期に区分した時期区分の関係をまとめたのが第79図である。

(註1) 第1分冊6頁参照

(註2) 第1次調査区の場合、10A-SB8～11はN-2°-3°-E、10A-SB12～15と10B-SB12・17～19はN-18°-21°-E、10A-SB1～3はN-10°-12°-E、10C-SB7～4と10D-SB1・2はN-34°-36°-Eで、それぞれが近接あるいは一部重複して認められる。

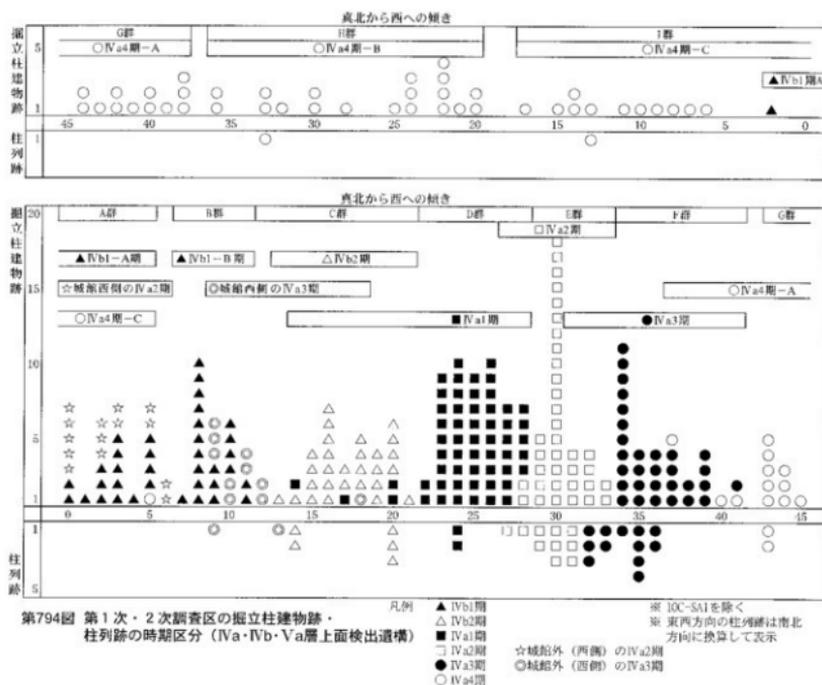
(註3) 第224図(第1分冊170項)、第259図(第1分冊207項)。

(註4) 第1分冊175・176項の表。

(註5) 第239図(第1分冊183・184項)。

(註6) 第1分冊187・189・190項の表。

(註7) 10D-SB8の向きはN-5°Eであるが、真北からの傾きがN-17°-W未満のI群がさらに東に傾いていくと再び真北から東側に向くことになる。



(注8) 真北から45°以上東に傾いていくと、表中の表記では逆に西に45°→44°→43°となり、西への傾きが45°から減っていく。例えばN-21°-Wを示す10D-SB5(第1分冊189項の表)は東への傾きで見ると69°である。

(注9) 第792図の◎印。なお、10A-SA1の確認面はVa層上面であるが、方向が10A-SB1~4と一致することと位置関係からSB1~4と同時期と考えられる。

(注10) 10A-SB1は2/5、SB2は4/6、SB3は8基全部、SB4は1/5の柱穴がIVa層上面で確認されている(第1分冊165項の表)。

(注11) この段階では10A-SB1~4とSA1がD~I群のうちのどの群に含まれるのか断定はできない。

(注12) 他の履跡はIVa層上面での確認であるのに対し、10C-SD15は溝の大部分が埋没した後にIVa層が流入していたため、この流れ込んだIVa層を除去した後にプランを確認している。

(注13) SD1004A・B・Cは城跡中央の区画の北辺を画する場跡であるが、最も古いSD1004Aは埋没途中で埋め戻され、同時に周辺の整地がなされている。なお、SD1004Aの埋め戻しと周辺整地に使用された土砂はIVa層以下の基本層のブロックであることから、SD1004Bを掘削した際の排土である可能性が高い。

第2節 遺構の変遷と年代

調査した各種の遺構のうち区画の溝跡や堀跡、掘立柱建物跡、柱列跡などは概ね時期を確定できたが、井戸跡、土坑、ピットについては一部を除いて時期を限定することはできず、多くがIVb期・IVa期のように複数期にまたがる時期を想定するに留まっている。このため、以下では区画の溝跡や堀跡、掘立柱建物跡、柱列跡などを中心に記述することとし、その他の遺構については特徴的なものについてのみ触れることとする。また、各期における代表的な遺物についても適宜述べていきたい。

1. IVb1期以前

遺物の項で述べたように中国産白磁四耳壺・合子、瀬美産壺・甕、常滑産三筋壺やIb～3型式の甕など12世紀代と考えられる遺物が出土している。平安時代後半にVa層堆積が営まれた以降、IVb1期に屋敷が造られるまでこれらの遺物が伴うような遺構は確認されていない。12世紀の当遺跡周辺は平泉藤原氏の直接支配地域に含まれると推定されている(註1)ことから、藤原氏関連の未発見の遺構が存在する可能性もあるが、IVb1期の屋敷が造られた際に持ち込まれた伝製品である可能性も考えられ、断定はできない。

2. IVb1期(第795区)

IVb期の遺構はIVb層上面に伴うもので、IVb1期とIVb2期に大別される。自然堤防部分にあたる第1次調査9～11区と第2次調査区では、IVb1期の掘立柱建物跡37棟と溝跡などが確認されている。部分的に区画溝らしい溝跡が確認されているが、区画が全体に及ぶものであるかどうかは不明瞭である。屋敷跡は東西300m、南北170mに及んでいるが、第1次調査11区や第2次調査区よりもさらに西側に広がっており、全体の規模は不明である。後背湿地にあたる第1次調査1～8区、遺跡東部の第4次調査1区、第10次調査区などにはこの段階に相当する5b層水田跡が広がっている。

溝跡のうち区画溝の可能性があるのは9B-SD38と11F-SD2の2本である。9B-SD38の方向はN-79°-Wで東西方向の溝であるが、直交する方向はN-11°-Eであり、B群(IVb1-B期・後述する)の掘立柱建物跡の方向と一致している。9B区で確認した長さは30m以上あり、9A区と10A・10B区との間を東西方向に延びると推定されるが、さらに西側の第2次調査区では確認できなかった。11F-SD2は部分的な確認のため方向は確定できないが、9B-SD38に平行する可能性があり、9B-SD38との間隔は約125mである。

掘立柱建物跡は9A～10C～11D区よりも西側に分布しており、中でも第2次調査区と第1次調査9A・10A・10B・11A区など調査区の西部に集中している。建物跡の方向はN-2°-W～N-11°-Eで、真北を中心としてやや東に振れた範囲であるが、これらはさらにN-2°-W～N-5°-EのA群(IVb1-A期)とN-7°～11°-EのB群(IVb1-B期)に細分できる。IVb1-A期の建物跡は第1次調査区10A～10C区と11区に17棟認められるが、その中で10A～10B区に集中している。IVb1-B期の建物跡は20棟で、第1次調査11D区に1棟あるが比較的西に偏して認められ、特に第1次調査区11A区西部～第2次調査区に集中している。

掘立柱建物跡と柱列跡のうち他に異なる構造を持つのは、第1次調査区の9A-SB1・SA1で、規模が大きなものは10A-SB9、2次-SB48の2棟である。

9A-SB1は南北4間、東西4間の総柱の建物跡であるが、中心から1本北側の柱穴がなく、ここに2間2間の空間が設けられている。このことから、この柱穴の無い空間を中心とした2間4間が内陣、南側の2間4間が外陣に分かれる堂宇の可能性が考えられる(註2)。北側には特異な形態の9A-SA1を伴っている(註3)。9B-SD38の北側に位置することから、この周辺は信仰の場として、南側の10A～10B区や第2次調査区の居住空間と切り離されている可能性がある。遺物の項で述べたが、第1次調査9B区や10D区から火舎香炉や花瓶または飯食器と考えられる密教法具が出土している。断定はできないがこの9A-SB1に関係する可能性がある。

10A-SB9は桁行9.5m以上×梁行5.5mの東西棟、2次SB48は桁行15.3m、梁行6.2mの南北棟で、面積が判明した2次-SB48は約95㎡、10A-SB9も50㎡以上ある。他の建物が概ね20～30㎡であることから、この2棟は主屋的な建物と推定される。SB9の南側に東西方向に並ぶSB10・11は覆の可能性があり(註4)、2次-SB48も西側に既の可能性のある建物SB47(註5)を作っている。

屋敷全体の構造は不明瞭であるが、東西300m、南北170m以上の広い範囲において建物方向がそろえられていることから、大規模な地割りによって計画的に造られた可能性が高く、主屋と賑わしい建物が整然と配置されていることから武士階級の屋敷跡であると考えられる。かわらけの集中廃棄遺構の存在から宴会儀礼が行われていたと推定されること、中国産の輸入陶磁器が多く出土し、その中には「威信材」としての機能をもつものも含まれていることなどから、領主クラスの屋敷であると類推される。屋敷の主は、文治5年の奥州合戦の後に陸奥国留守職に任ぜられた伊沢氏(留守氏)が岩切地区を含む「高用名」の地頭であることからすると、留守氏あるいは留守氏に關係する人物であった可能性が高い。ただ、留守職である留守氏は国府に近接した場所に屋敷を有していたと考えられるが、この時期の国府の所在地が不明であるので、IVb1期の屋敷が留守本家に関連するかどうか明らかではない。あるいは、いくつか所有していた屋敷のうちの一つである可能性も考えられる。

なお、屋敷の中心は調査区の西側に寄っているが、これは西側の丘陵の下を通る奥大道に近接した場所に屋敷が造られたためと考えられる(註6)。南側には七北田川北岸の自然堤防上を多賀城から塩竈津へ至る交通路もあるので、南北、東西の両方の陸上交通路を掌握する機能があったと考えられる。

IVb1-A期の屋敷が作られた時期は、伊沢家景が陸奥国留守職に任じられた建久元(1190)年以降と考えられるが、具体的な年代は明らかではない。一方、下隈については、かわらけの集中廃棄遺構2次SK75の時期に係わってくる可能性がある。2次SK75はSB48のすぐ北側にある「土坑」で、SB48で使用された「かわらけ」が一括廃棄された土坑である可能性がある。これらの「かわらけ」は12世紀末～13世紀前半頃の所産と推定しているが、SB48の方向はN-8°-Eであり、IVb1期の中では後半のIVb1-B期と推定される。SK75とSB48が関連するとは断定はできないが、これらの遺構が同時期と仮定した場合、前記の「かわらけ」の年代観からするとIVb1-B期の上限は13世紀前半にまで遡らないと矛盾が生じることとなる。したがって、IVb1-A期の下限=IVb1-B期の上限は13世紀前半の内に収まる可能性が高い。

なお、IVb2期も含めた建物数は、IVb1-A期が17棟、IVb1-B期が20棟、IVb2期が28棟で、IVb2期がやや多い。IVb1期～IVb2期を通じて屋敷内の構成に大きな変化は認められないことから、建物数の違いは各期の期間の違いに起因する可能性がある。IVb2期の終末については後述するが、IVb1-A期～IVb2期までを約150年とし、各期の長さには建物数の違いによるわずかな差異を考慮すると、IVb1-A・B期の長さは、それぞれ概ね50年をやや下まわり、IVb2期が50年をやや上まわる程度ではないかと予想される。したがってIVb1-B期の下限は13世紀末頃と推定される。

3. IVb2期(第796図)

自然堤防部分にあたる第1次調査区10～11区と第2次調査区では、掘立柱建物跡28棟、柱列跡5列、溝跡などが確認されている。屋敷跡の範囲は東西250m、南北130m以上の範囲にわたっており、概ねIVb1期の屋敷跡と同じ範囲と推定されるが、11A区や第2次調査区よりもさらに西側に広がっており、規模は不明である。後背湿地にあたる第1次調査1～8区、9A区東部～9C区、遺跡東部の第4次調査1区、第10次調査区などにはこの段階に相当する5m幅水田跡が広がっている。

溝跡は9A-SD10・13と11F-SD2が直線的であるが、9A-SD10・13は東側の水田部分との境界に掘られたものと推定され、屋敷全体に及ぶものではないと考えられる。また、11F-SD2は部分的でありこの時期に伴うかどうか確実ではない。

建物跡は真北から13～21°東傾するC群で、第1次調査10A区西部～10B区と11F区に比較的集中しているが、建物間

+A

+B

+C

+D

+E

+A5

+A5

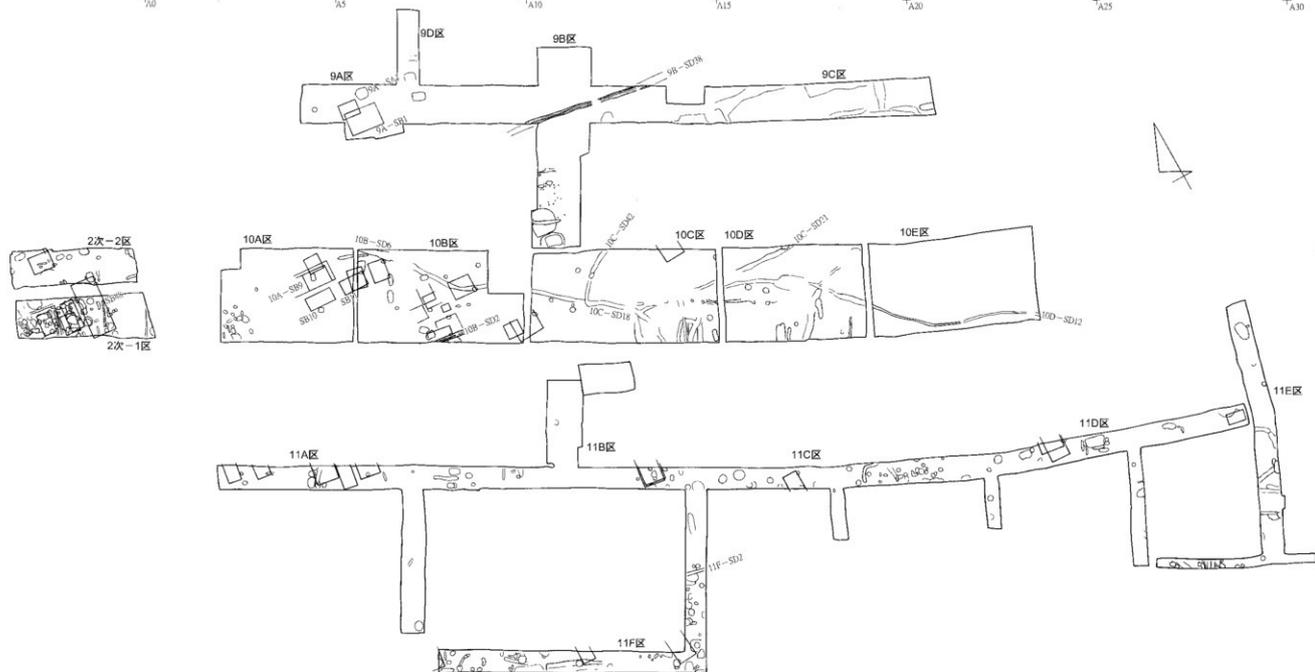
+A10

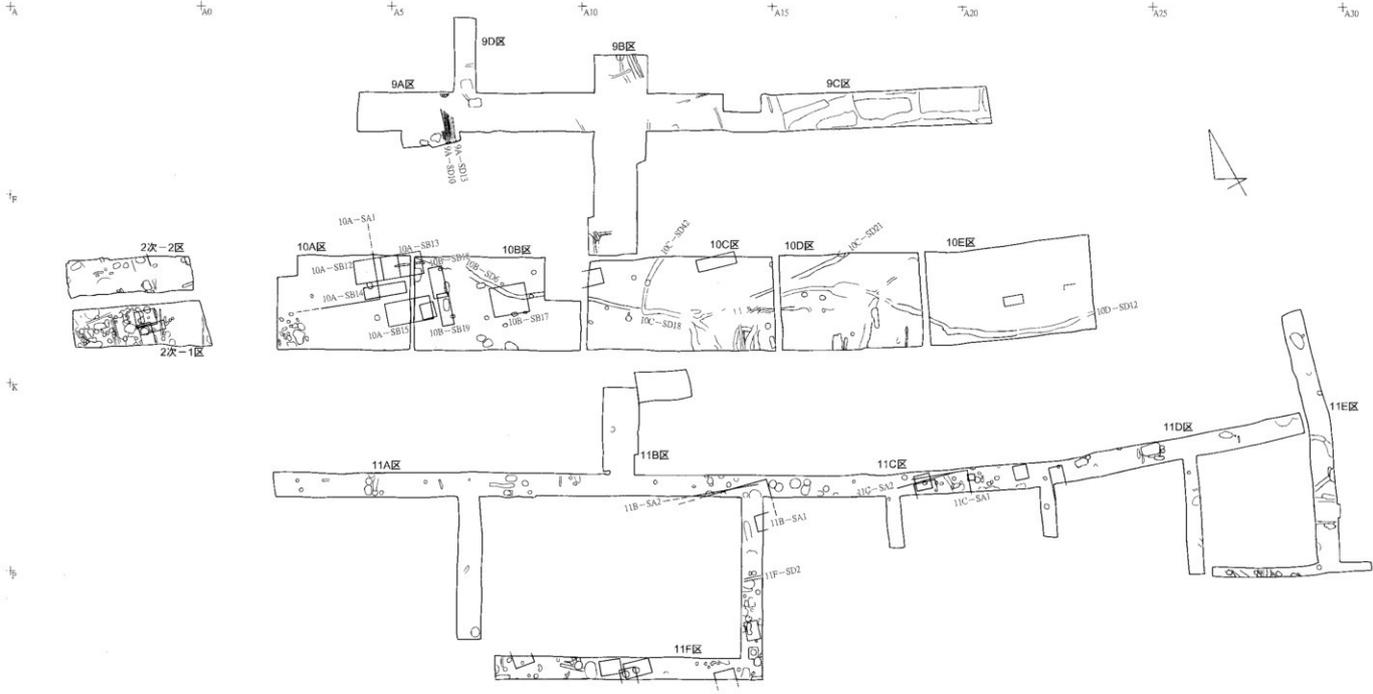
+A15

+A20

+A25

+A30





第796図 IVb2期全体図 (1/1000)

に重複関係があるので少なくとも1度は建て替えられている。10A区東部～10B区には規模が大きい建物跡が並んでいるが、この付近はIVb1-A期も建物が集中していた場所で、その後IVb1-B期に11A区西部～第2次調査区の方に建物が移ったため、一時期空間地に近い状態となっていた場所である。また、11F区の建物跡は11B～11C区に位置する柱列跡11B-SAI・2によって区画されているようにも見て取れるほか、11C区や10A区北西側にも柱列で区画された区域が認められる。

10A区東部～10B区の建物跡のうち規模が大きいのは、二面廂の10A-SB12 (73m)、10B-SB17 (72m)、三面廂の10A-SB13 (66m)、四面廂の10A-SB15 (74m) である。三面廂の10A-SB13と四面廂の10A-SB15は東側の奥行きが概ねそろえられていることから同時期の可能性があり、四面廂のSB15のほうが主扉、三面廂のSB13が副扉と推定される。なお、既と推定される10B-SB18・19も位置関係からすると10A-SB13・15と同時期に存在した可能性が高いが、10B-SB18・19は重複関係にあり、細かな新旧関係は明らかではない。また、二面廂の10A-SB12と10B-SB17、既と考えられる10A-SB14、堀と推定される柱列跡10A-SAIなども含めると複数の変遷案が想定されるが、判断材料に欠けるために確定することはできなかった。しかし、このように規模の大きな建物跡が建て替えられている10A区東部～10B区は屋敷の中心の一部である可能性があり、南側の11F区に認められるような小規模な建物跡が散在する区画とは異なった機能を有していたと考えられる。

屋敷全体の構成は明らかではないが、土屋や厩のような建物が認められることや、建物の建て替えの経路も前段階のIVb1期から連続している様子が見て取れることなど、この時期もIVb1期の屋敷から継続する領主階級の屋敷として理解することができる。なお、遺構には伴わないが東光寺跡と類似した形態の鬼瓦 (F-6・第29図7) や巴文軒丸瓦 (F-3・第115図9) など中世の瓦が数点出土している。持ち込まれた経緯は不明であるが、14世紀の中世寺院「東光寺」との密接な関連が考えられ、東光寺は留守氏の庇護下にあった(註7)とされる寺院であることから、IVb1～2期の屋敷が留守氏あるいは留守氏関連の屋敷であった傍証となる。留守氏の分家である余目留守氏の所領には「岩切分荒野七町」、「岩切村」など遺跡に近接する場所が含まれているので(註8)、あるいは余目留守氏に関連する屋敷であった可能性も考えられる。

IVb2期の屋敷の年代は、遺構に伴って時期を確定できる遺物がないため確定ではないが、上限はIVb1期の項で述べたように13世紀末頃と推定される。下限については、留守氏が観応二(1351)年の岩切城合戦で奥州管領島山氏に味方して敗れたため一時没落し、所領も奪われることを考慮すると、岩切城合戦以降も屋敷がそのままの形で継続していたとは考えにくいので、概ね岩切城合戦直後をもってIVb1期からIVb2期まで継続した屋敷の下限の時期と考えたい。古瀬戸が中IV期になると数量・種類ともに激減することも、この頃に屋敷が一時衰退することを示していると考えられる。

4. IVa1期 (第79図)

IVb1期～IVb2期まで続いた屋敷が一時期衰退したと考えられる14世紀後半頃、IVb層上にはIVa層が堆積し、IVb層を完全に覆う状態となったと考えられる。IVa1～4期の遺構群はこのIVa層上面に伴うものである。

IVa1期の屋敷はIVb期の屋敷とは異なる方向の地割によって造られた屋敷であり、自然堤防部分に相当する第1次調査9B区南部～11区と第2次調査区では、掘立柱建物跡56棟、柱列跡2列、溝跡などが確認されている。屋敷の一部は溝で区画されているが、屋敷全体に及ぶものではない。

屋敷跡は第1次調査区では9B区南部よりも南側に広がっていて、南北方向の広がりには130m以上ある。9B-SD14が屋敷北側の境界である可能性があるが、第2次調査区付近では北側に広がる可能性もある。東西方向の広がりには第2次調査区から第1次11E区まで約350mにわたっており、さらに調査区外に広がっているため全体の規模は明らかではない。後背溜池にあたる第1次調査1～8区、9A区～9C区、遺跡東部の第4次調査1区、第10次調査区などにはこの段階に相当する4層水田跡が広がっている。

区画の溝跡は東西方向が9B-SD14、10B-SD7・8、10C-SD15、11B-SD5、南北方向が9B-SD15～11B-SD4～11F-SD14と続くものと、11C-SD1がある。溝跡の規模は10C～10D区の部分が最も大きく、10C-SD15の広い部分で幅2.5～3.8m、深さ1.6m、9B-SD15（10C区部分）が幅1.7～3.0m、深さ約40cmであるが（註9）、その他の地区では後のIVa2～IV期の城館の堀跡のように大きくはなく、幅1m以下で深さが数人60～70cm程度である。10C-SD15や9B-SD15の10C区部分と11B区拡張区のみが幅広であることからこれらの溝跡が基幹となっている可能性がある。全体的にIVb期の屋敷よりは区画が明瞭である。

溝跡の間隔は、東西方向の9B-SD14と10B-SD7・8が約20m、9B-SD14と10C-SD15が約27m、10C-SD15と11B-SD5が約53mである。また、南北方向の11B-SD4と11C-SD1の間隔は約93mである。これらの数値と、10C-SD15の長さが約54mであることから類推すると、屋敷の区割りは半町（54m）を基本とし、部分的にそれを2分割あるいは3分割している可能性がある。

建物跡は真北から22～28°東傾するD群を主とするが、一部にC群も含んでいると推定される。西側の第2次調査区と第1次調査11B区東部～11F区東部に比較的集中しているように見えるが、建物間に重複関係があるので1～2度建て替えられていると考えられ、従ってこれらは同時期ではあるが時間差のある建物群である。屋敷跡全体を概観すると、特別に規模の大きな建物跡は認められず、中小規模の建物跡が散在する状況となっているが、第2次調査区には塀（柱列跡）で仕切られた区画があり、屋敷内部における機能の違いを示している可能性がある。なお、東西350m以上の広い範囲で建物方向がそろえられている（規制されている）ことを考慮すると、大規模な地割を基に計画的に造られた屋敷と考えられる。

なお、第1次調査10E区は比較的建物が希薄な地区であるが、ここに位置する10E-SD8からは各種の塔婆やこけら経など信仰に係わる遺物が多数出土している。10E-SD8は概ねIVa2期と推定される遺構であるが、その北辺の方向とIVa1期の建物跡の方向がほぼ一致すること、西辺がIVa1期の可能性のある11C-SD1の延長線上に位置する点などから、このIVa1期から機能していた可能性はある。

IVa1期の屋敷の年代は、前述した区画溝10C-SD15から概ね15世紀前半頃の所産と推定される大型の土師質土器Ia-25号（京都系の白かわらけ）が出土していることからすると、この頃には屋敷として機能していたと考えられる。この15世紀前半という時期は観応二年の岩切城合戦で敗れたため一時没落していた留守氏が復興し、岩切城の実権を掌握していく過程の時期にあたることからすると（註10）、IVa1期の屋敷はかつて鎌倉期に屋敷があったその場所に、再び留守氏によって造られた屋敷である可能性が高い。岩切城との位置関係からすると、岩切城の根小屋としての性格を有していたと予想される（註11）。

なお、留守氏が勢力を盛り返す契機となったのは、岩切城合戦後の府中争奪戦に斯波氏が勝ち残ったためであるが、斯波氏と争った石塔、畠山、青良、石橋氏のうち、最後まで府中で活動した石橋氏の最終的な年代は1386年前後とされている（人間田：2000）ので、留守氏が岩切城の実権を掌握し始める時期は、この石橋氏の府中における最終的活動時期以降と考えられる。

IVa1期の屋敷の上限については、古瀬戸が中IV期に激減した後再び後期に増加する現象が、IVb2期の屋敷の衰退とIVa1期の屋敷の造営と連動していると予想し、14世紀末～15世紀初頭の可能性を考えたい。なお、上記の社会情勢からして留守氏が岩切城下で屋敷を造るだけの勢力を有するのは14世紀末以降と考えられ（註12）、概ね遺物から予想される年代と一致する。

下限については、前述した10E-SD8から出土したこけら経の年代が15世紀中葉と考えられることから、10E-SD8がIVa1・2期のどちらの時期に属するかによる。10E-SD8は他の遺構との位置関係からは両方の時期の可能性が考えられるため、一応10E-SD8のこけら経の年代を含む15世紀中葉頃としておきたい。

5. IVa2期 (第798区)

IVa2期はIVa1期までの屋敷とは全く異なり、防壁性を有する堀で囲われた「城館」として造られている。自然堤防部分に相当する第1次調査9～11区と第2次調査区では、掘立柱建物跡49棟、柱列跡10列、堀跡や溝跡など13条が確認されている。堀跡や建物跡からみた城館の主軸方向は、真北から約30°東傾している。

城館の北辺は9B～SD12 (A・B) で、確認できる南北方向の広がりには135mであるが、遺構は11F区よりも南側に広がっているため南辺は不明である。西辺は第1次調査10A区西部と第2次調査区との間と推定され、第2次調査区で確認した区画は城館とは方向が異なるので、城館の外側に設けられた別な区画と考えられる。東辺は不明確であるが、掘立柱建物跡が分布する第1次11D区までの東西方向の広がりには230m前後である。後背湿地にあたる第1次調査1～8区、9A区～9C区、遺跡東部の第4次調査1区、第10次調査区などにはこの段階に相当する4層水田跡が広がっている。

城館の堀跡は東西方向が9B～SD12、SD1004A、SD1005C、南北方向がSD1002、SD1003、11B～SD3～11F～SD11、SD1007、11C～SD1がある。詳細は既に述べたので繰り返さないが、幅2.5～4.5m、深さ1.3～1.9mで、IVa1期の溝跡に比べて規模が大きい。SD1002についてはこの時期の遺構と断定はできないが、10B区ではSD1002の東側と西側とで建物跡の分布状況が異なることから可能性はある。なお、IVa2～4期の堀跡には堀を分断するように障壁状の高まりが認められるが、これは城館が立地する七北田川の自然堤防が川下の東側に向けて傾斜しているため(註13)、堀の水位を保つための施設と考えられる。

堀で仕切られた区画は1～9まで9区画認められたが、未調査部分(1次調査10区と11区の間など)に東西方向の堀が存在すれば大きく様相が異なってくることや、前述したようなSD1002の問題など不確定要素が多い。

建物跡の方向は、第1次調査10A区よりも東側の区画1～7と第2次調査区の区画8・9とは全く異なっている。区画1～7の建物跡の方向は、真北から29～33°東傾するE群を主として一部にD群も含んでおり、前段階のIVa1期に比べてやや東に振れている。これに対して第2次調査区の区画8・9では前段階のIVa1期よりも大幅に西に振れて、真北～6°東傾する角度になると考えられる。第1次調査区における掘立柱建物跡A～I群は時期が新しくなるにつれて徐々に東に振れていくことは前述したとおりであるが、IVb2期の屋敷とIVa1期の屋敷との間に断絶があると考えられることから、第1次調査区において建物跡の角度の振れがIVb2期のC群からIVa1期のC・D群へ連続しているように見えるのは見かけ上の現象である可能性が高く、その後IVa2期に城館として整備するにあたり、全く新しい地割によって堀や建物の位置を設定していると考えられる。城館の主軸方向は真北から約30°東傾しているが、これを東西方向でみると七北田川北岸の自然堤防の方向と一致し、自然堤防上を南宮～多賀城へと向かう道路の方向でもある。『余目文書』によると15世紀前半には「上まち、とうのくち、下まち」などの町が存在したことが知られている。これらの町の場所の特定はできていないが、第1次調査区南部には七北田川北岸の自然堤防上の道路に面して町並みが形成されていたと考えられており(註14)、城館と方向が一致している。

一方、2次～SD18Bや区画8・9の建物跡の方向は真北からやや東傾しており、城館とは異なる基準で造られている。西側を通る奥大道に関係する地割が存在したと推定され、第2次調査区の西側にも奥大道に面して別な町が存在していたと考えられる。なお、第1次調査区11A区と第2次調査区の間を南北方向に走る道路(第800岡の道路B)と付近の地割はSD18Bの方向と概ね一致することから「別な町」の地割を踏襲している可能性はある。

10D～SD8が前段階のIVa1期から機能していた可能性については前項で述べたが、この時期には城館の中の通常の居住域とは違う特別な信仰の「場」として意識されていたであろうと推測される。SD8に囲まれた内部に位置する極めて小規模な建物跡、10E～SB5は納骨堂の可能性もあり、各種の塔婆や板塔婆が立ち並んでいたと考えられる。なお、SD8の位置はIVa1期の屋敷、IVa2期の城館においても北東側であり、鬼門の方向を意識して設置されている可能性もある。

「血盆庭」については、管見では発掘調査での初めての出土例であり、中世後半における女性蔑視の思想および、

女人教済信仰の形態を明らかにするための貴重な資料と言えよう。なお、群馬県白根山湯釜の血盆経は僧侶などの宗教者によって授けられたと考えられているが(註15)、当遺跡のこけら経が投入儀礼に伴うものかどうか具体的な経緯は明らかにできなかった。

「転女身成佛功德経」あるいは「転女成佛経」は、血盆経と内容は異なるものの基本的に同様の女性蔑視思想に基づくものであるが、血盆経よりも前に流布した経典であり、これまで平安時代末～鎌倉中期のものは残されているがそれ以降の遺存例はないとされていた(註16)。今回の出土例はそれが15世紀まで残り、しかも血盆経と共に出土している点が極めて特殊であるが、出土点数が少ないため詳細については明らかではない。

IVa2期の城館の上限は、IVa1期の項で述べたように10E-SD8の帰属によるが、ここでは一応10E-SD8のこけら経の年代を含む15世紀中葉頃としておきたい。これ以降は留守持家が岩切城における実権をほぼ掌握していたと考えられているので、この頃に岩切城下の根古屋としての屋敷を発展させ、さらに強固な城館として整備するに至ったのではないかと考えられる。

なお、IVa2～4期の城館の具体的な年代は、指標となる遺構や遺物に欠けるため明確ではないが、元亀元(1570)年に留守氏の本拠地が岩切城(高森城)から利府城に移されているので、IVa4期の城館がその後も同じ形態で営まれていることは考え難い。したがってIVa4期の遺構の大部分は1570年直後には廃絶していると推定される。なお、IVa2期の上限を15世紀中葉と推定したので、IVa2～4期の長さは120年前後と考えられ、この期間を便宜的に3分割すると各期はそれぞれ40年前後となる。このことから、IVa2期の下限は15世紀末頃と推定される。

6. IVa3期(第799図)

IVa3期は、前段階IVa2期に造られた城館が発展・整備された時期に当たる。IVa2期との大きな違いは外堀が掘削されたこと、一部であるが土塁が設置されたこと、内部の区画も複雑化している点などがあげられる。

自然堤防部分に相当する第1次調査9～11区と第2次調査区では、孤立柱建物跡40棟、柱列跡14列、堀跡や溝跡など約20条、土塁などが確認されている。城館の主軸方向は、IVa2期と同じく真北から約30°東傾している。

城館の北辺は、新たに掘削された外堀跡である9区のSD1001で、2時期認められたうちの古期にあたるSD1001Bがこの時期に相当する。なお、SD1001はさらに東方の第1次調査8区に延びていくが(第51・52図)、8区には建物跡は認められず周辺は水田域となっているので、この付近では外堀としての機能はなくなっていると考えられる。さらに東側では8区拡張区(第3図)で確認しているが、その東側は不明である。南辺は、遺構が11F区よりも南側に広がっているため不明であるが、9B区のSD1001から11F区南端までは約150mで、調査区南側を東西に走る道路(註17)までは約200mである。なお、この道路とSD1009との間隔は約60mで、曲輪(1)、(2)、(8)などの南北長とほぼ一致することから、この道路が曲輪(9)、(10)の南辺(城館の南端)に対応している可能性はある。西辺は10A～11A区のSD1001で、これは10A区の北側で東に屈曲して9区のSD1001に接続する。東辺は不明確であるが、10E区の東側に位置する8C区(E28グリッド付近)は平安時代以降近世まで水田域であったことが確認されているので、城館北部では10E区の東側付近が東辺と考えられる。南部では11D～11F区でも遺構が確認されており、さらに東部の第4次調査区SD3との対応関係は不明であるが、第4次調査区には中世後半の水田耕作土4a層が分布していることからすると、第4次調査区から東には城館に係わる遺構は分布しないと考えられる(註18)。仮に4次-SD3を東辺とした場合の東西長は310～330mに及ぶ。また、第2次調査区にはIVa2期に続いて城館とは方向が異なる16区が設けられているが、西側への遺構の広がりとは不明である。

城館の北～東側の後背湿地にあたる第1次調査1～8区、9C区、遺跡東部の第4次調査11区、第10次調査区などにはこの段階に相当する4b層～4a層水田跡が広がっている。

城館の堀跡は先に述べた外堀SD1001が西側～北側を巡っている。南北方向のSD1002、SD1003、SD1007はIVa2期から踏襲されていると考えられるが、同じく南北方向の11B-SD2と東西方向のSD1008、SD1006、SD1004B、SD1005D、

SD1015、SD1009、「コ」字状に廻るSD1011、11E-SD1・SD7はこの時期に新たに掘削された堀である。詳細は前編までで述べたとおりであるが、規模が大きいの外堀SD1001とSD1009で、両者とも幅9.0～11.5m、深さ1.8mである。

土堀SL1001は9B区～9C区西端部のSD1001Bの南側で確認している。上部を削平されているため残存高は約60cmであるが、基底部幅は約10mある。東側の延長は不明であるが、西側は曲輪(4)の西部で認められないので、曲輪(5)の北辺のみか、曲輪(4)、(5)の北辺のみに設置されていた可能性が高い。

堀で仕切られ、一部に土塁が造られた区画は、防衛性が前段階よりも強まったことで「城館」としての意味合いが強くなったと捉え、ここでは城館内部の区画の名称を「曲輪」とした。西側の城館外部は「区画」である。番号は(1)、(2)などとしてIVa4期の①、②などと区別している。城館内部の「曲輪」は(1)～(11)、城館外部の区画は(12)・(13)がある。主郭と考えられるのは中央に位置する曲輪(1)で、この東西両側に並列して(2)・(3)・(8)、北側に(4)～(7)、南側には(10)・(11)が並び、東側にやや離れて(9)が位置している。

主郭と考えられる曲輪(1)は南北60m、東西53～57mで、ほぼ半町四方の規模である。北辺はSD1004Bで、IVa2期のSD1004Aが埋没する途中の窪みを埋めながら南側に新しく掘削したものである。なお、東隣の曲輪(8)の北辺の堀跡SD1015や曲輪(7)の南辺であるSD1005Dも、IVa2期のSD1005Cが半分以上埋没して残った窪みを埋め戻しながら場所をずらして掘削したものである。これらの事例や外堀の掘削などは、この時期の城館としての再整備が本格的であったことを示している。SD1004Bの西端部は南に屈曲して虎口を形成するが、11B区拡張区では確認できなかったので南端部は10C区の南側に出た後は屈曲せずに止まると推定した。ただし、さらに南に延びる可能性も考えられるなど、このSD1004Bの南端部については明確ではない。西辺は11B-SD2で、11B区拡張区でも確認したが10B～10C区にかけて位置するSD1006との接続は推定である(註19)。なお、北側から虎口に向かって延びてくるSD1003は11B区拡張区では確認できなかったので、10C区南壁と11B区拡張区との間で止まると考えられる。

他の曲輪は(2)・(5)・(6)のように台形を呈するものや、(3)のように東西20～25m、南北推定55m程度の長方形のもの、(4)のように東西25m、南北30mの小規模のものなど一様ではない。また、(10)・(11)については一部を検出したのみであり、(7)は曲輪を形成するかどうか確実ではない。このようにすべての曲輪について具体的な相違点を抽出できたわけではないが、曲輪によっては異なる性格を有しているものもあると考えられる。中心の曲輪(1)の北西に位置する曲輪(5)は、曲輪内部では建物跡が全く確認できず、隣接する曲輪とは異なった状況となっている。未調査部分に建物が存在する可能性があるため断定はできないが、馬場として使われた空間地か、曲輪の北辺のSD1001には出入り口の可能性がある箇所が確認されていることから「馬出」的な機能を持った曲輪であった可能性がある(註20)。

曲輪(8)の北東側には信仰に係わる場所として10E-SD8がある。10E-SD8がIVa1期から機能していた可能性があることは既に述べたが、IVa3期になるとこの10E-SD8を分断するように柱列(10E-SA3)が設置されている。この10E-SA3を南側に延長した11D区では柱列を確認することはできなかったが、SA3の延長線を挟んだ西側には建物が密集するのに対して東側には建物が全く見られないことから、10E-SA3は曲輪(8)の中をさらに区画する施設であると推定される。信仰の場を分断する柱列の存在は、10E-SD8がこの時期には信仰の場としての機能を大部分終えていたことを示唆するものであるが、堀を掘削するなどして完全に破壊することはせずに柱列に置き換えていることからすると、10E-SD8はその機能の大部分は失われてはいるものの、「かつての信仰の場」としては意識されていた可能性がある。

曲輪(9)は前述した10E-SA3の東側に位置しているが、この周辺には建物跡が認められず他の曲輪とは全く異なった様相を呈している。曲輪の内部から建物跡やその他の施設が認められなかったため詳細は不明であるが、曲輪の南辺である11E-SD7から木製の地蔵菩薩像が出土していること、曲輪(9)の周辺が「さんこうじ」と伝えられる場所の一つであることから(註21)、この曲輪が「三光寺」に係わっている可能性はある。遺構から寺院の存

在を確定することはできないが、前述したように城館以前の段階から信仰の場であった10E-SD8付近は、この時期にはその機能を大部分失っていたと考えられるので、SD8に代わる信仰の場所として新たに寺院が造られた可能性は十分予想される。なお、この場合は曲輪(9)に係わる堀跡から10E-SD8のような塔婆類はほとんど出土していないので(註22)、信仰の形態は前段階とは別なものに変容している可能性がある。

城館内部の建物跡や柱列跡の方向はN-31°~41°-Eで、IVa2期よりもやや東に振れているが、城館の主軸方向から大きく外れるものではない。城館外側の第2次調査区では、区画溝である2次-SD19・21などや建物跡も前段階と同じく城館内部とは方向を異にしているが、方向は前段階よりもやや東に振れている。なお、城館の外堀SD1001のすぐ西側(1次調査10A区西部)に位置する建物跡も第2次調査区と同じ方向を示していることから同じ区画(12)として捉えている。

IVa3期の城館の年代はIVa2期の項で示した根拠によっている。上限は概ね15世紀末頃、下限は16世紀前半頃であるが中葉までは下らないと考えられる。『仙台市史』によると伊達家から入った景宗が留守家16代を継いだのが15世紀末~16世紀初頭で、亡くなったのが天文23(1554)年とされているので、このIVa3期は概ね留守景宗の時代に重なっている。この時期の留守氏は伊達氏の影響下にあったが、宮城郡西部に勢力を持つ国分氏とは常に緊張関係にあったとされている。IVa3期になって外堀が掘削され、一部であるが土塁が設置されたことや、内部の区画も新しく整備された点などはこのような社会情勢と連動した変化であると考えられる。

7. IVa4期(第800図)

IVa4期は城館の最終の時期であり、概ねこの形態が現地表面に痕跡として残ったものである。形態は城館として整備された前段階を踏襲しているが、主郭の虎口が枳形に改変された点、西側の堀が外堀に匹敵する幅のものに替えられた点など、前段階よりも防御性が高められている。

自然堤防部分に相当する第1次調査9~11区と第2次調査区では、掘立柱建物跡55棟、柱列跡4列、堀跡や溝跡など約20条、土塁などが確認されている。城館の主軸方向は、前段階と同じく真北から約30°東傾している。

城館の北辺、南辺、西辺、東辺は、北辺の外堀が新旧2期間のうちの新时期にあたるSD1001Aに代わったのみで、基本的にはIVa3期と同じである。規模もIVa3期と同じく南北200m、東西310~330m程度と考えられる。また、第2次調査区付近にはIVa3期に続いて城館とは方向が異なる区画が設けられているが、周辺への遺構の広がりには不明である。

城館の北~東側の後背湿地にあたる第1次調査1~8区、9C区、遺跡東部の第4次調査1区、第10次調査区などにはこの段階に相当する4a層~3b層水田跡が広がっている。

堀跡は概ねIVa3期と同じであるが、ほぼ同じ場所で改修されたと推定されるものと、場所をずらして掘りなおされたものがある。前者には南北方向のSD1002・SD1007と東西方向のSD1006・SD1008・SD1009があり、後者には外堀SD1001、南北方向のSD1003・SD1013、東西方向のSD1004C・SD1005A・SD1012、「コ」字状に巡るSD1014・SD1010、11E-SD21がある。詳細は前編までで述べたとおりであるが、規模が大きいのはSD1001とSD1009、11B区のSD1003で、幅9.0~11.5m、深さ1.6~1.8mである。

堀で仕切られた区画は、前段階と同様に「曲輪」、西側の城館外部は「区画」とした。城館内部の「曲輪」は①~⑩、城館外部は区画⑪がある。曲輪は基本的に前段階を踏襲しているので全体的にはそれほど変化はないが、主郭と考えられる曲輪①を含む数箇所跡の堀の改変が行われている。

曲輪①の北辺はSD1004Cで、これは大部分が埋没したIVa3期段階のSD1004Bを再掘削したものである。IVa2期段階のSD1004AからIVa3期段階のSD1004Bへの改変は、新しくSD1004Bを掘削すると共に、埋没途中のSD1004Aを埋め戻す大掛かりなものであったが、今回は古いSD1004Bと場所を半分ほどずらしてSD1004Cを掘削し直すに留まっている。SD1004Cは10C区で調査区外に出るが、11B区拡張区でその延長部分と推定される部分を確認しているため、10C区の部分を含めると3回屈曲してSD1003と共に枳形を形成していると推定される。枳形の通路部分の幅は2.5~3.0m程度

である。西辺はIVa3期の11B-SD2よりも10mほど西に幅広のSD1003を新しく掘削している。なお、10C区のSD1003との接続部分は推定である。

この他に変更されたのは、曲輪⑦・⑧の境のSD1005A、曲輪⑧・⑨の境のSD1013、曲輪⑨の周囲の11E-SD21～SD1010～SD1014で、いずれも前段階の堀跡とは場所をずらして掘削されている。

このほか、各曲輪内部の状況に前段階と大きな変化は認められないことから、曲輪の機能も基本的に変化がなかったと考えられる。なお、曲輪⑦については人部分が調査区外のため、曲輪を形成するかどうか確定できないが、9C区の南側に曲輪の北辺が巡る可能性も考えて、想定している。曲輪⑧の北東部には前段階に続いて10E-SD8を図示してあるが、前述したようにIVa3期には信仰の場としての機能を大部分終えていたと考えられるので、この時期に機能していたわけではない。ただし、この10E-SD8に囲まれた内部と周辺には後に近世前半の墓が集中することを考えると、信仰の場としての機能は失ってもIVa3期同様に「場」としての意識はされていた可能性がある。

城館の東辺についてはIVa3期同様に不明瞭であるが、前述した曲輪⑦が存在するとすればその東側にある現水路が曲輪⑦・⑧の東～北東を画する堀跡の位置を反映している可能性はある。

城館内部の建物跡や柱列跡の方向は、城館の主軸方向から大きく外れるものが多い。掘立柱建物跡G群はそれほどではないが、H群・I群では主軸からの傾きが顕著であり、堀跡の方向とは全く一致しない。城館外側の区画⑨における状況も同様である。

IVa4期の城館の上限は、16世紀前半頃であるが中葉までは下らない時期、下限は前述したように、元亀元(1570)年に留守氏の本拠地が岩切城(高森城)から利府城に移された直後頃と考えられる。16代留守景宗が亡くなったのが天文23(1554)年、その跡を継いだ17代顕宗が隠居して伊達政景が18代を継いだのが永禄10(1567)年とされているので、このIVa4期は16代留守景宗の晩年から17代顕宗、18代政景の時代にあたる。

景宗の時代の天文11(1542)年に始まった天文の乱では現泉区の松森で国分家の当主国分宗政の兵と交戦するなど、この頃の国分氏は留守氏に対する明確な対抗勢力であった。IVa4期になって主郭の虎口が楕円形に改変され、西側の堀も外堀に匹敵する幅のSD1003が新たに掘削されるなど、前段階よりも防衛性が高められていることは、国分氏に備えるための改修と考えて矛盾はないと思われる。天文の乱が勃発した頃はIVa4期城館の初期と考えられるものの城館の実年代が明確ではないので、この改築が天文の乱を契機としているとは断定はできないが、少なくとも国分氏との関係が前段階よりも悪化したことを反映した結果であると考えられる。

(註1) 田中：2002

(註2) 9A-SB11は4間4間であるので、正面が5間、7間などの奇数となっている中世の仏堂とは違いがあるが、滋賀県の西明寺本堂に外陣(礼堂)の柱を省略せず、狭い空間のままとしている同様の例がある(山岸：1990)。

(註3) 9A-SA1は中心の方形のピットの隅りを八角形に懸る柱列跡である。柱間が一定ではないので八角堂のような建物跡ではなく、柱列跡と考えている。

(註4) 10A-SB10・11は、桁行3～4間(柱間1.7～2.5m)、梁行2軒(総長3.7m)であるので「立場」は1.7～2.5×3.7mとなり、廬としてはほぼ妥当な大きさと考えられる。なお、廬の大きさについては山本：1994に詳しい。

(註5) 2次-SB47は桁行4間以上(柱間2.0m)、梁行2間(総長3.5m)であるので、「立場」は2.0×3.7mとなり、10A-SB10・11とはほぼ同じとなる。

(註6) 現代の道路(第2図の化粧坂遺跡の西に接して北上する道路)が中世奥大道を踏襲しているとするれば、奥大道は2次調査区の西方向わずか100m離れた地点を南西から北東方向に向かって通っていたことになる。

(註7) 山台市教育委員会：1988、105項。

(註8) 伊藤：2000、「岩切分荒野七町」の具体的な場所は特定できないが、岩切と雨宮との中間の低湿地と考えられている(入間田：1992)。第1次調査区1～8区よりも東に位置する第3次調査区は泥炭層が発達しており、東に向かってさらに湿地化傾向が強くなっていくので、第3次調査区の東側は「岩切分荒野七町絵図」に描かれた沼地が存在するような地形と合致している。

- (註9) 確認面であるV層上面からの深さ。本来はIV層上面から掘り込まれていると考えられるので、さらに深いと推定される。
- (註10) 留守氏が岩切城の実質的城主として安定した勢力を得ていく過程については、11代家明が奥州探題人崎持詮の弟直兼を高森城に迎え、その後大崎直兼が追放されて13代持家が当主となるまでの出来事が『余目家文書』に記されている。仙台市史（入間田：2000）では「高森殿（大崎直兼）の追放から持家の確立までの画期的な出来事が継起したのは室町時代前期、永享・嘉吉・文安年間（1429～1449年）であったと考えられる。」としている。
- (註11) 岩切城の主郭は、岩切城のすぐ東に隣接する丘陵（羽黒前遺跡が位置する）のため、丘陵に近づきすぎると見えにくい。洞ノ口遺跡の西部からも見えにくい。1次調査10C区や11B区西部からは目視することができる。根小屋の立地条件として主郭を目視できる位置は重要であると考えられ、その条件を満たしつつも岩切城に最も近い場所としてIVa期の屋敷地が推定された可能性はある。IVa～4期の城館の中心の曲輪はその条件を満たす位置にあり、IVb期の屋敷の中心が奥大道に近い西部寄りであったのに比べると違いが見取れる。
- (註12) 本堂：2003によれば、明徳3（1392）年には岩切城が留守氏に移管され、木城として整備された可能性が指摘されている（114頁）。
- (註13) IVa層上面の標高は第1次調査10A区西部で7.7m、10D区東部で7.3mであり、傾きは約30cm/100mである。
- (註14) 青藤：1992では、鎌倉時代の「冠屋市場」を第1次調査区11区の南側に2本平行する道路（第3区と第808区参照）付近と推定し、15世紀前半に「余目家文書」に登場する「とうのくち」を冠屋市場の後身としている。仙台市史（岡田：2000）でも「とうのくち」を同じく洞ノ口遺跡南側と想定しているが、「冠屋市場」については多賀城市新田南安楽寺付近（第2区参照）と推定している。
- (註15) 時枝：1984。状況的な証拠ながら、本山派修験がその担い手と考えられている。
- (註16) (財)元興寺文化財研究所『女人往生』1994
- (註17) 第3区と第808区参照。北西から南東方向に並行する2本の道路のうちの北側の細い道路。第808区には道路Aと表示した。
- (註18) 第4次調査区付近は自然堤防の縁辺部に相当するため、上面に城館が造られたIVa層はこれより西～南方に分布し、北～東側には水田耕作土が広がっている。第4次調査区から東側は低湿地であり、居住には適さない。
- (註19) 第799区でSD1006の東端が止まっている地点は、障壁状の高まりが認められる箇所である。出入口であった可能性も考えられたため、ここで止まるように図化した。
- (註20) この曲輪の北辺は第1次調査9A～9B区であるが、この付近でのみ土塁が認められることは出入口の防壁のほかには曲輪内部を外部から遮蔽する意図もあつた可能性がある。
- (註21) 田中：1992「仙台市岩切洞ノ口遺跡（その二）」では、洞ノ口周辺に「三光寺」の名称を持つ寺院が存在したが、寛永年間にはすでに廃絶していると想定している。『仙台市史資料編1 古代中世』395頁には三光寺の記事が記載されている。
- (註22) 図化したのは、IVa期に属する11D～SD1010から出土した板碑形塔婆1点（L-445）である。

引用・参考文献

- 飯村 均「中世食器の地域性」[2] 東北南部『国立歴史民俗博物館研究報告 第71集』国立歴史民俗博物館 1997
- 池田 光雄「堀内御陣塚の一形態について—後北条氏領下のいわゆる陣子墓・飯塚を中心に—」『中世城郭研究第2号』1988
- 池田 光雄「堀内御陣塚の一形態について—全国の類型を考える—」『中世城郭研究第3号』1989
- 伊藤 一義「鎌倉の御家人たち」『仙台市史 通史編2 古代中世』仙台市 2000
- 石村 真一「中世の絵巻資料における木製容器的変遷」『国立歴史民俗博物館研究報告 第90集』国立歴史民俗博物館 2001
- 入間田 宣夫「室町・戦国の留守領」『よみがえる中世 7』入間田宣夫・大石直正編 平凡社 1992
- 入間田 宣夫「中世水田の開発」『よみがえる中世 7』入間田宣夫・大石直正編 平凡社 1992
- 入間田 宣夫「岩切城合戦の時代」『仙台市史 通史編2 古代中世』仙台市 2000
- 入間田 宣夫「探題と国人」『仙台市史 通史編2 古代中世』仙台市 2000
- 五十川 伸夫「古代・中世の鋳鉄物」『国立歴史民俗博物館研究報告 第46集』国立歴史民俗博物館 1992
- 及川 可・杉沢 昭太郎「陸奥のかわらけ」(3) 陸奥北部1—岩手県—『中世奥羽の上器・陶磁器』東北中世考古学公論 高志書院 2003
- 大石 直正「みちのくの都の中世」『よみがえる中世 7』入間田宣夫・大石直正編 平凡社 1992
- 大石 直正「くらしを支える市場」『よみがえる中世 7』入間田宣夫・大石直正編 平凡社 1992
- 大石 直正「深まる戦乱」『仙台市史 通史編2 古代中世』仙台市 2000
- 大戸久黨跡検討会「東日本における古代・中世農業の諸問題」1992
- 岡田 浩一「村と市と在家」『仙台市史 通史編2 古代中世』仙台市 2000
- 小野 正敏「威信財としての貿易陶磁と堀」『戦国時代の考古学』小野正敏・萩原三雄編 高志書院 2003

- 片山 寛明「和式構の展開」『日本馬具大観 第三卷中世』日本馬具大観編集委員会編 日本中央競馬会 1990
- 加藤美恵子「血盆経」『日本歴史人辞典1』小学館
- 川村 邦光「女の地獄と救い」『女と男の時空 日本女性史再考』女と男の乱-中世- 岡野浩子編 藤原書店 1996
- 元興寺、(財)元興寺文化財研究所『中世庶民信仰資料』1994
- 菅野 崇之「陸奥南部の方形館」『鎌倉・室町時代の奥州』橋原敏明・飯村仁編 高志書店 2002
- 久保 智康「日本の美術 第394号 中世・近世の鏡」全文堂 1999
- 齋木 秀雄「庶民の建物」『よみがえる中世 3』石井進・大三輪龍彦編 平凡社 1989
- 斎藤 利男「多賀国府の都市プラン」『よみがえる中世 7』入間田宣夫・大石直正編 平凡社 1992
- 磐石手黒文化振興事業団埋蔵文化財センター『柳之御所跡 一関遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査報告』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集 1995
- 磐前岡里埋蔵文化財調査研究所『磐前岡里埋蔵文化財調査研究所 年報18』2002
- 磐前岡里埋蔵文化財調査研究所『磐前岡里埋蔵文化財調査研究所 年報19』2003
- 神元興寺文化財研究所『女人往生』1994
- 神瀬戸市埋蔵文化財センター『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界』1996
- 佐藤 洋「陸奥のかわらけ(2) 陸奥南部2 一宮城隈一」『中世奥羽の土器・陶磁器』東北中世考古学会編 高志書院 2003
- 神保 博行「香道の歴史事典」柏書房 2003
- 鎌村 俊夫「中世食器の地域性 [6] 畿内周辺」『国立歴史民俗博物館研究報告 第71集』国立歴史民俗博物館 1997
- 鈴木 公雄『出土銭貨の研究』東京大学出版会 1999
- 仙台市『仙台市史 特別編1 自然』仙台市史編さん委員会編 1994
- 仙台市『仙台市史 特別編2 考古資料』仙台市史編さん委員会編 1995
- 仙台市『仙台市史 資料編1 古代中世』仙台市史編さん委員会編 1995
- 仙台市『仙台市史 特別編5 板碑』仙台市史編さん委員会編 1998
- 仙台市教育委員会『東光寺遺跡-第1・2次発掘調査報告書-』仙台市文化財調査報告書第112集 1988
- 仙台市教育委員会『南小泉遺跡 第16~18次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第140集 1990
- 仙台市教育委員会『山口遺跡 第9次・第10次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第151集 1991
- 仙台市教育委員会『四郎丸船跡-第2次発掘調査報告書-』仙台市文化財調査報告書第218集 1997
- 仙台市教育委員会『工ノ塩遺跡-都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡-発掘調査報告書-』仙台市文化財調査報告書第249集 2000
- 仙台市教育委員会『洞ノ口遺跡第3次調査』『八木山録町遺跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第253集 2001
- 仙台市教育委員会『洞ノ口遺跡第6次調査』『八木山録町遺跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第253集 2001
- 仙台市教育委員会『今市遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第260集 2002
- 仙台市教育委員会『洞ノ口遺跡第8次調査』『小鶴城ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第261集 2002
- 仙台市教育委員会『澗ノ奥遺跡 第7次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第280集 2004
- 大正新脩大藏経刊行会『大正新脩大藏経 第14巻 経集部一』1988
- 高桑 弘夫「瓦質土器」『中世奥羽の土器・陶磁器』東北中世考古学会編 高志書院 2003
- 多賀城市埋蔵文化財調査センター『新田遺跡(第4・11次調査報告)』多賀城市文化財調査報告書第23集 1990
- 高野 芳宏「宮城県における9~13世紀の土器」『土器からみた中世社会の成立』シンポジウム実行委員会 1990
- 田中 則和「丘の上の世界」『よみがえる中世 7』入間田宣夫・大石直正編 平凡社 1992
- 田中 則和「川沿いの集落群」『よみがえる中世 7』入間田宣夫・大石直正編 平凡社 1992
- 田中 則和「仙台市岩切洞ノ口遺跡(その一)」『仙臺郷土研究 復刻第17巻第1号』仙台郷土研究会 1992
- 田中 則和「仙台市岩切洞ノ口遺跡(その二)」『仙臺郷土研究 復刻第17巻第2号』仙台郷土研究会 1992
- 田中 則和「仙台市洞の口船跡の地表頭在遺構」『六軒丁中世史研究 第1号』東北大学大学院中世史研究会 1993
- 田中 明和「船と集落跡から探る中世」『仙台市史 通史編2 古代中世』仙台市 2000
- 田中 明和「陸奥国「国府城」の考古学的様相」『鎌倉・室町時代の奥州』橋原敏明・飯村仁編 高志書店 2002
- 千葉 孝弥「武士の屋敷の発見」『よみがえる中世 7』入間田宣夫・大石直正編 平凡社 1992
- 千葉 孝弥「屋敷のくらし」『よみがえる中世 7』入間田宣夫・大石直正編 平凡社 1992
- 東北中世考古学会『中世の出土陶磁器-東北中世考古学会第6回研究大会資料集-』2000

東北歴史資料館『東北の中世陶器』1983

時枝 浩「中世東国における血盆疑信の極相」『信濃』第36巻第8号、1984

中田 晝夫「中世奥羽におけるかわらけの意味」『中世奥羽の土器・陶磁器』東北中世考古学会編 高志書店 2003

中山 雅弘「陸奥国南部における中世土器の生産と流通」『鎌倉・室町時代の奥州』柳原敏明・飯村仁編 高志書店 2002

奈良国立文化財研究所『木器集成図録 近畿古代編』奈良国立文化財研究所史料第27冊 1985

日本貨幣商協同組合『日本貨幣図録 2000年版』1999

日本福祉大学知多半島総合研究所『「中世常備巻」をめぐって』資料集 1994

野崎 準「中世宮城郡内の若干の考古資料」『東北文化研究所紀要 第10号』東北文化研究所 1979

羽柴 直人「平泉におけるかわらけの用途と機能」『中世奥羽の土器・陶磁器』東北中世考古学会編 高志書店 2003

長谷部来照・今井效編『日本出土の中国陶磁』平凡社 1995

服部 実喜「都市鎌倉と周辺の陶磁器」『貿易陶磁研究 第15号』日本貿易陶磁研究会 1995

服部 実喜「かわらけ」『戦国時代の考古学』小野正敏・萩原三雄編 高志書店 2003

東日本の水田跡を考える会『第3回東日本の水田跡を考える会 資料集』1990

平田 道文「陸奥のかわらけ(1) 陸奥南部」一福島県一『中世奥羽の土器・陶磁器』東北中世考古学会編 高志書店 2003

広島県立歴史博物館『広島県立歴史博物館展示案内』1989

広島考古学研究会「草戸千軒町遺跡発掘調査報告書Ⅰ」広島県草戸千軒町遺跡発掘調査研究所編 1993

広島考古学研究会「草戸千軒町遺跡発掘調査報告書Ⅳ」広島県草戸千軒町遺跡発掘調査研究所編 1995

福島県考古学会『かわらけ編の再検討—11世紀から12世紀—(2)』福島県考古学会中世部会編 1996

本堂 寿「宮城県旧守城における中世城館発達史—岩切城とその周辺城館—」『北上市立博物館研究報告 第14号』

北上市立博物館 2003

前川 要「日本中世集落における垣形地割の考古学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告 第78集』国立歴史民俗博物館 1999

牧野和夫・高津奈緒美「血盆疑の受容と展開」『女と男の時空 日本女性史再考Ⅱ 女と男の乱—中世—』岡野治子編 藤原書店 1996

松浦五輪美・原田恵二郎「梅子の考察—分類と編年について—」『奈良市埋蔵文化財調査センター紀要』1992

松本 秀男「山王遺跡周辺の地形環境」『山王遺跡Ⅱ—多賀地区遺構編—』宮城県文化財調査報告書第167集 宮城県教育委員会 1995

水口 由紀子「関東地方における中世成立期の様相」『土器からみた中世社会の成立』シンポジウム実行委員会 1980

宮城県教育委員会「一本杉梁跡群」宮城県文化財調査報告書第172集 1996

宮城県教育委員会「海蔵庵板碑群」宮城県文化財調査報告書第180集 1999

宮城県教育委員会「下草古城本丸跡」『名生館遺跡 下草古城本丸跡ほか』宮城県文化財調査報告書第181集 1999

宮城県多賀城跡調査研究所「第43次調査」『多賀城跡 宮城県多賀城跡調査研究所年報1983』1984

宮城県多賀城跡調査研究所「第50次調査」『多賀城跡 宮城県多賀城跡調査研究所年報1987』1988

八重樫 忠郎「平泉藤原氏の支配領域」『平泉の世界』奥羽史研究叢書3 高志書店 2002

山岸常人『中世寺院社会と仏堂』筑書房 1990

山岸素夫・宮崎眞澄『日本甲冑の基礎知識 第2版』雄山閣 1997

山本 直人「絵巻物による雑物の一考察」『名古屋大学文学部研究論集』191 1994

柳川町教育委員会「八郎宮跡群—梁川町における中世集の調査—」梁川町文化財調査報告書第12集 1987

吉井 宏「留守氏の家臣団」『仙台市史 通史編2 古代中世』仙台市 2000

『世界陶磁全集3 日本中世』小学館 1977

『日本城郭体系 第3巻』新人物往来社 1981

『日本の絵巻20 一画上人絵伝』中央公論社 1988

『続日本の絵巻13 春日権現験記絵 上』中央公論社 1991

『日本仏教民俗基礎資料集 第二巻 元興寺極楽坊Ⅲ』中央公論美術出版 1979

『日本仏教民俗基礎資料集 第五巻 元興寺極楽坊Ⅴ』中央公論美術出版 1974

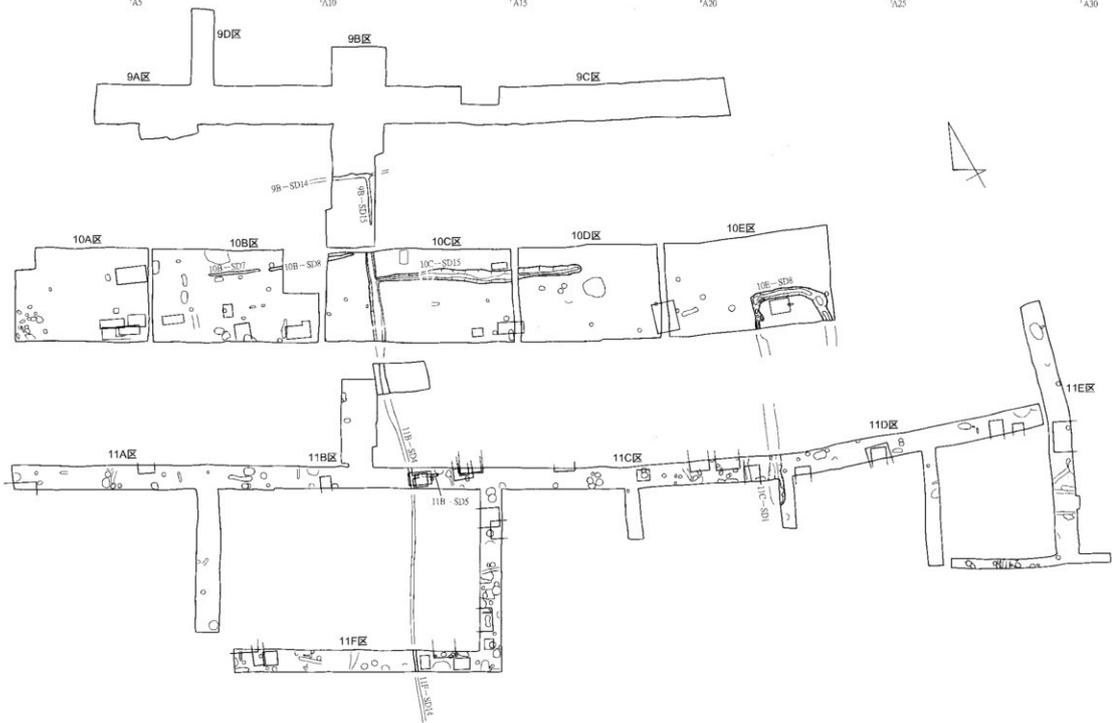
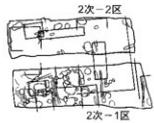
『日本仏教民俗基礎資料集 第六巻 元興寺極楽坊Ⅵ』中央公論美術出版 1975

『仏具大事典』鎌倉新書 1982

『密教法具』講談社 1965

上
下
北
中
+

↑A5 ↑A10 ↑A15 ↑A20 ↑A25 ↑A30



第797図 1A1期全体図 (1/1000)

±A

±B

±C

±D

±E

±A0

±A5

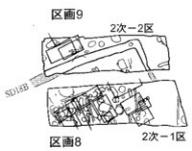
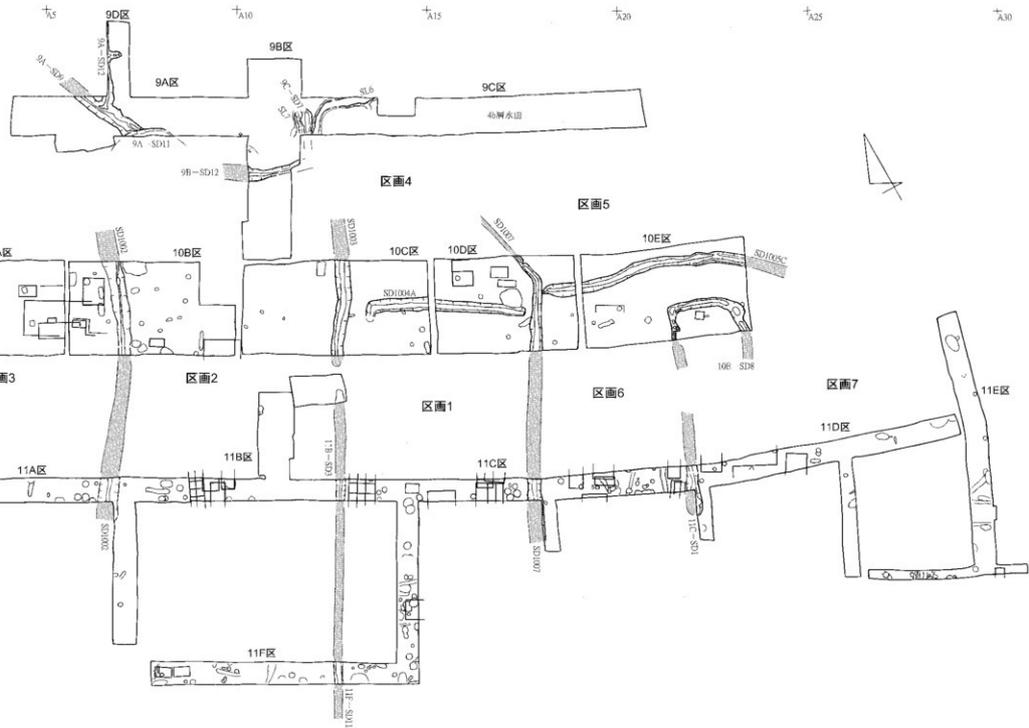
±A10

±A15

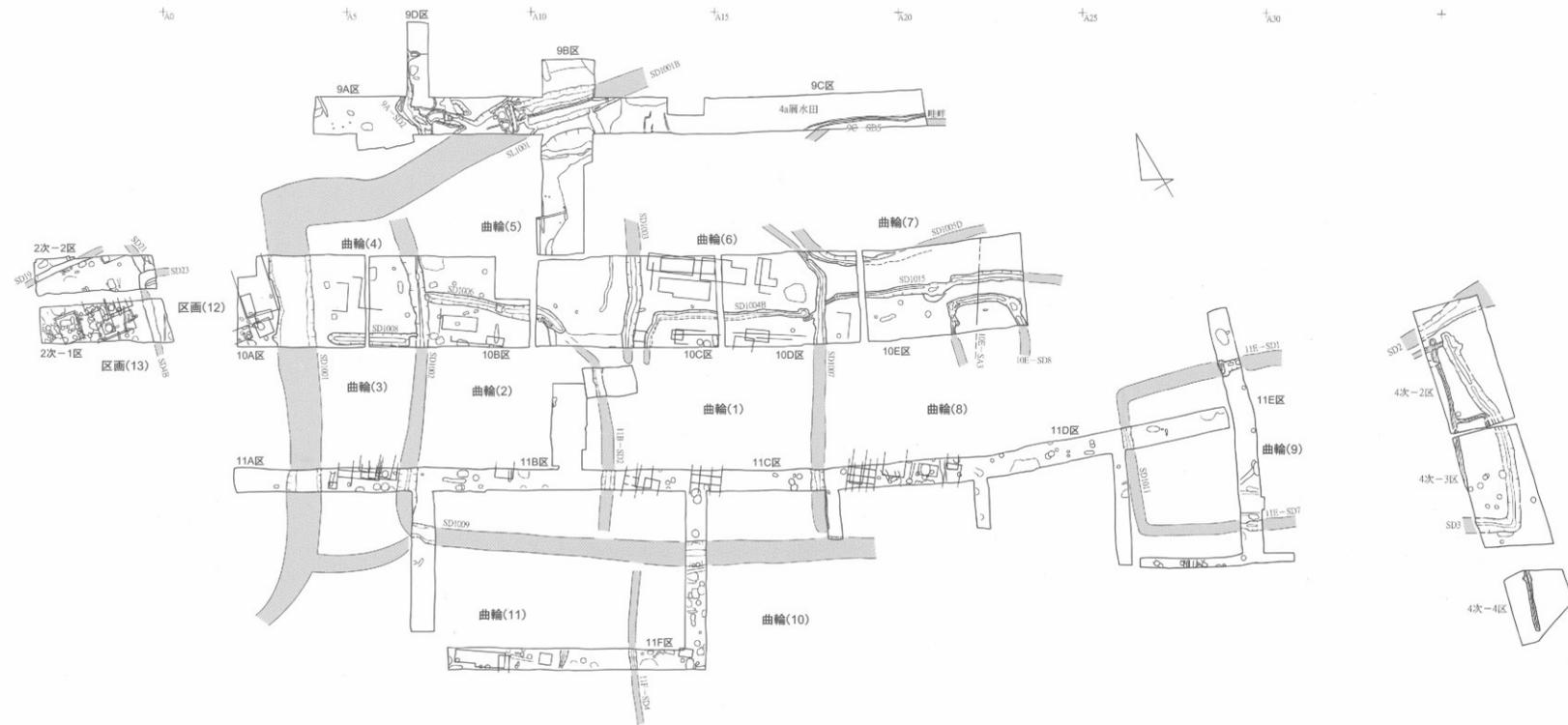
±A20

±A25

±A30



第798图 IVa2期全体图 (1/1000)





報告書抄録

ふりがな	どうのくちいせき							
書名	洞ノ口遺跡							
副書名	第1次・2次・4次・5次・7次・10次発掘調査報告書							
巻次	-							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第281集							
編著者名	平間 亮輔							
編集機関	仙台市教育委員会（文化財課）							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7-1 TEL 022-214-8894							
発行年月日	平成17年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	〇'〇"	〇'〇"			
洞ノ口遺跡	仙台市 宮城野区 岩切字 どうのくちいせき 洞ノ口外	04100	01372	38° 18' 00"	140° 57' 30"	1992.06.29 ～ 2003.10.17	18,667㎡	土地区画整理に伴う事前調査 道路建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
洞ノ口遺跡	城廻跡	平安時代	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・畦畔 小溝状遺構群	土師器・須恵器・瓦・鉄製品	平安時代の集落が廃絶した後、畑として利用された。			
	集落跡	中世 (鎌倉時代)	溝跡・掘立柱建物跡・柱列跡・井戸跡・土坑 畦畔	土師質土器・瓦質土器・国産施釉陶器・国産無釉陶器・中国産陶磁器・瓦・鉄製品・銅製品・木製品・石製品・土製品・鹿角製品・鉄滓・人骨・動物遺存体	掘立柱建物跡と柱列跡によって構成される屋敷跡が造られ、大別して2期に変遷する。留守氏関連と推定。			
	水田跡		溝跡・掘立柱建物跡・柱列跡・井戸跡・土坑 畦畔・火葬遺構		溝跡によって区画される屋敷が造られた後、堀によって区画される城館に造りかえられる。その後、外堀の追加、楕形の設置などの改修が行われる。4期に変遷し、留守本家関連と推定。			
	畑跡	中世 (室町～戦国時代)	溝跡・掘立柱建物跡・柱列跡・井戸跡・土坑 畦畔・火葬遺構	国産陶磁器・鉄製品・銅製品・木製品・石製品・土製品・人骨	町家の跡と墓域を検出した。			
近世	溝跡・掘立柱建物跡・柱列跡・井戸跡・土坑 墓跡・畦畔							

仙台市文化財調査報告書第281集

洞ノ口遺跡

—第1次・2次・4次・5次・7次・10次発掘調査報告書—

第2分冊 本文編(2)

2005年3月

発行 **仙台市教育委員会**

仙台市青葉区国分町三丁目7-1

文化財課 022(214)8893~4

印刷 **株式会社 建設プレス**

仙台市青葉区折立三丁目2-10

TEL. 022(302)0177
